

# 京都府遺跡調査報告集

## 第164冊

由良川下流部緊急水防災対策事業に伴う平成24～26年度  
大川遺跡発掘調査報告

2016

公益財団法人 京都府埋蔵文化財調査研究センター



調査対象地全景(北東から)



調査区全景(南西から)



(1) A 1 地区第 2 面掘立柱建物検出状況(南西から)



(2) A 1 地区丸木舟転用井戸 S E 412 検出状況(南から)



(1) A 3 地区第 3 面遺物集中か所 S X 677 遺物出土状況(西から)



(2) B 2 地区第 3 面竪穴建物 S H 891 完掘状況(南西から)



(1) B 2 地区第 3 面方形周溝墓 1 周溝 S D1033 遺物出土状況(南から)



(2) B 3 地区第 4 面全景(北東から)



(1) B 3 地区第 4 面竪穴建物 S H1901内遺物出土状況(南から)



(2) C 2 地区第 4 面竪穴建物 S H1401内遺物出土状況(南から)

## 序

公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センターは昭和56年4月に設立され、今年度設立35周年を迎えました。この間、当調査研究センターでは、公共事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査を府内各所で1,250件行ってまいりました。調査の実施にあたりましては、皆様方のご理解とご協力を賜りましたこと、厚くお礼申し上げます。

本書は、平成24年から国土交通省近畿地方整備局の依頼を受けて実施した由良川下流部緊急水防災対策事業に伴う大川遺跡の発掘調査報告を収録したものです。本書が学術研究の資料として、また、地域の埋蔵文化財への関心と理解を深めるうえで、ご活用いただければ幸いです。

発掘調査を依頼された各機関をはじめ、京都府教育委員会、舞鶴市教育委員会、舞鶴市市民環境部加佐分室、舞鶴市建設部国・府事業推進課、などの各関係機関、ならびに調査にご参加、ご協力いただきました多くの方々に厚くお礼申し上げます。

平成28年3月

公益財団法人 京都府埋蔵文化財調査研究センター  
理 事 長 上 田 正 昭



## 例 言

1. 本書に収めた概要は下表のとおりである。
2. 遺跡の所在地、調査期間、経費負担者および報告の執筆者は下表のとおりである。

	遺 跡 名	所 在 地	調 査 期 間	経 費 負 担 者	執 筆 者
1.	大川遺跡第3～5次	舞鶴市大川麻町・シボウ・渡シガ上・横町・路・家ノ上・八戸地・八田	平成24年10月30日～12月21日、平成25年4月25日～平成26年3月5日、平成26年4月10日～平成27年2月2日	国土交通省近畿地方整備局福知山河川国道事務所	伊野近富・竹原一彦・綾部侑真・竹村亮仁

3. 上記1事業1遺跡とも本部事務所(向日市寺戸町)で整理・報告作業を実施した。作業については、調査担当者の指示のもと調査課企画調整係が協力して実施した。
4. 本書で使用している座標は、原則として世界測地系国土座標第Ⅵ座標系によっており、方位は座標の北をさす。なお、現地調査及び過去の調査との整合性のため日本測地系を使用している場合もある。また、国土地理院発行地形図の方位は経度の北をさす。
5. 土層断面等の土色や出土遺物の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修の『新版標準土色帖』を使用した。
6. 本書の編集は、調査課担当者の編集原案をもとに、調査課企画調整係が行った。
7. 現場写真は主として調査担当者が撮影し、遺物撮影は、調査課企画調整係主査田中彰が行った。

# 本文目次

由良川下流部緊急水防災対策事業に伴う平成24～26年度 大川遺跡発掘調査報告

## 大川遺跡第3～5次

1. はじめに	1
2. A地区の調査	13
3. B地区の調査	52
4. C地区の調査	111
5. 出土遺物	156
6. まとめ	239

# 挿図目次

第1図	調査地および周辺主要遺跡分布図	4
第2図	第1次調査トレンチ配置図	6
第3図	第2～5次調査区配置図	7
第4図	大川遺跡第3次 調査トレンチ配置図	11
第5図	A地区 調査地区割	13
第6図	A地区 土層柱状図	15
第7図	A地区 第1面検出遺構平面図	16
第8図	A1地区 第1面検出遺構平面図	17
第9図	A1地区 第1面集石遺構SX01実測図	18
第10図	A2・3地区 第1面検出遺構平面図	18
第11図	A3地区 第1面掘立柱建物SB01実測図	19
第12図	A地区 第2面検出遺構平面図	20
第13図	A1地区 第2面検出遺構平面図	21
第14図	A1地区 第2面掘立柱建物SB415・416実測図	22
第15図	A1地区 第2面掘立柱建物SB351～354実測図	23
第16図	A1地区 第2面掘立柱建物SB351・352実測図	24
第17図	A1地区 第2面掘立柱建物SB353実測図	25
第18図	A1地区 第2面掘立柱建物SB354実測図	27

第19図	A 1 地区	第 2 面南部検出遺構平面図	-----28
第20図	A 1 地区	第 2 面土坑 S K105実測図	-----29
第21図	A 1 地区	第 2 面土坑 S K63・214・272・364、炉 S X03・67実測図	-----30
第22図	A 1 地区	第 2 面井戸 S E412実測図	-----32
第23図	A 1 地区	第 2 面柱穴 S P42・249・252・319・322・330実測図	-----34
第24図	A 1 地区	第 2 面土器溜り S X02実測図	-----35
第25図	A 2・3 地区	第 2 面検出遺構平面図	-----37
第26図	A 2 地区	第 2 面掘立柱建物 S B01～03平面図	-----38
第27図	A 2 地区	第 2 面掘立柱建物 S B01・02実測図	-----39
第28図	A 2 地区	第 2 面掘立柱建物 S B03実測図	-----40
第29図	A 2 地区	第 2 面土坑 S K544・596、遺物集中か所 S X675実測図	-----40
第30図	A 2 地区	第 2 面土坑 S X544・597実測図	-----41
第31図	A 3 地区	第 2 面掘立柱建物 S B02～04平面図	-----42
第32図	A 3 地区	第 2 面掘立柱建物 S B02・03実測図	-----43
第33図	A 3 地区	第 2 面掘立柱建物 S B04実測図	-----44
第34図	A 3 地区	第 2 面土坑 S K125実測図	-----45
第35図	A 3 地区	第 2 面柱穴 S P232・144・211・148・238・113実測図	-----46
第36図	A 地区	第 3 面検出遺構平面図およびサブトレンチ配置図	-----48
第37図	A 3 地区	第 3 面遺物集中か所 S X677平面図	-----49
第38図	A 1 地区	第 3 面サブトレンチ内土層実測図	-----50
第39図	A 2・3 地区	第 3 面サブトレンチ内土層実測図	-----51
第40図	B 地区	調査地区割	-----52
第41図	B 1 地区	東壁土層実測図	-----53
第42図	B 1 地区	サブトレンチ内土層実測図	-----54
第43図	B 2 地区	東壁土層実測図	-----55
第44図	B 2 地区	サブトレンチ内土層実測図	-----55
第45図	B 3 地区	東壁土層実測図	-----56
第46図	B 地区	第 1 面検出遺構平面図	-----57
第47図	B 1 地区	第 1 面検出遺構平面図	-----58
第48図	B 1 地区	第 1 面集石遺構 S X59実測図	-----58
第49図	B 2 地区	第 1 面検出遺構平面図	-----59
第50図	B 3 地区	第 1 面検出遺構平面図	-----60
第51図	B 3 地区	第 1 面掘立柱建物 S B1641実測図	-----61
第52図	B 3 地区	第 1 面井戸 S E1548、柱穴 S P1487実測図	-----62
第53図	B 地区	第 2 面検出遺構平面図	-----63

第54図	B 1 地区	第 2 面検出遺構平面図	-----64
第55図	B 1 地区	第 2 面検出遺構平面図(北半部)	-----65
第56図	B 1 地区	第 2 面掘立柱建物 S B 01 実測図	-----66
第57図	B 1 地区	第 2 面柵列 S A 01・02 実測図	-----67
第58図	B 1 地区	第 2 面南半部検出遺構平面図	-----68
第59図	B 1 地区	第 2 面掘立柱建物 S B 02・03、柵列 S A 03 実測図	-----69
第60図	B 1 地区	第 2 面土坑 S K 169、柱穴 S P 170 実測図	-----70
第61図	B 2 地区	第 2 面検出遺構平面図	-----70
第62図	B 2 地区	第 2 面検出遺構平面図(南半部)	-----71
第63図	B 2 地区	第 2 面掘立柱建物 S B 01 実測図	-----72
第64図	B 2 地区	第 2 面井戸 S E 230・231 実測図	-----73
第65図	B 2 地区	第 2 面井戸 S E 280・352 実測図	-----74
第66図	B 2 地区	第 2 面検出遺構平面図(北半部)	-----75
第67図	B 3 地区	第 2 面検出遺構平面図	-----76
第68図	B 3 地区	第 2 面掘立柱建物 S B 1768、土坑 S K 1701 実測図	-----77
第69図	B 地区	第 3 面検出遺構平面図	-----78
第70図	B 1 地区	第 3 面検出遺構平面図	-----79
第71図	B 1 地区	第 3 面竪穴建物 S H 300 実測図	-----80
第72図	B 1 地区	第 3 面竪穴建物 S H 300 内炉 S X 394 実測図	-----81
第73図	B 1 地区	第 3 面溝 S D 304 遺物出土実測図	-----81
第74図	B 1 地区	第 3 面検出遺構平面図(中央部)	-----82
第75図	B 1 地区	第 3 面検出遺構平面図(北東部)	-----83
第76図	B 2 地区	第 3 面検出遺構平面図	-----84
第77図	B 2 地区	第 3 面掘立柱建物 S B 890・1221 実測図	-----86
第78図	B 2 地区	第 3 面掘立柱建物 S B 1224 実測図	-----87
第79図	B 2 地区	第 3 面竪穴建物 S H 787・793 実測図	-----88
第80図	B 2 地区	第 3 面竪穴建物 S H 898 実測図	-----89
第81図	B 2 地区	第 3 面竪穴建物 S H 840、土坑 S K 571 実測図	-----90
第82図	B 2 地区	第 3 面竪穴建物 S H 841 実測図	-----91
第83図	B 2 地区	第 3 面竪穴建物 S H 842・844・1211 実測図	-----92
第84図	B 2 地区	第 3 面竪穴建物 S H 889、土坑 S K 1204 実測図	-----93
第85図	B 2 地区	第 3 面竪穴建物 S H 891・1027 実測図	-----94
第86図	B 2 地区	第 3 面竪穴建物 S H 999 実測図	-----95
第87図	B 2 地区	第 3 面方形周溝墓 1 実測図	-----96
第88図	B 2 地区	第 3 面方形周溝墓 1 周溝 S D 1033・1213 遺物出土実測図	-----97

第89図	B 2 地区	第 3 面方形周溝墓 1 土壙 S X1123実測図	-----98
第90図	B 2 地区	第 3 面弥生溝 S D1030・1033実測図	-----99
第91図	B 2 地区	第 3 面土坑 S X938実測図	-----100
第92図	B 2 地区	第 3 面土坑 S K504・667、柱穴 S P985・1203・1079実測図	-----101
第93図	B 3 地区	第 3 面検出遺構平面図	-----102
第94図	B 3 地区	第 3 面土坑 S K1802実測図	-----102
第95図	B 3 地区	第 4 面検出遺構平面図	-----103
第96図	B 3 地区	第 4 面掘立柱建物 S B2174実測図	-----104
第97図	B 3 地区	第 4 面竪穴建物 S H1901、土坑 S K2052実測図	-----105
第98図	B 3 地区	第 4 面竪穴建物 S H1910・1980・1929・2005実測図	-----106
第99図	B 3 地区	第 4 面方形周溝墓 2、土壙 S X1902実測図	-----108
第100図	B 3 地区	第 4 面土坑 S K2012・2014・2015・2073実測図	-----109
第101図	C 地区	調査地区割	-----111
第102図	C 1 地区	東壁・北壁土層実測図	-----113
第103図	C 2 地区	東壁土層実測図	-----114
第104図	C 3 地区	東壁土層実測図	-----115
第105図	C 地区	第 1 面検出遺構平面図	-----116
第106図	C 1 地区	第 1 面検出遺構平面図	-----117
第107図	C 2 地区	第 1 面検出遺構平面図	-----118
第108図	C 2 地区	第 1 面土坑 S K392・581実測図	-----119
第109図	C 2 地区	第 1 面柱穴 S P14・30・181・436・437・460・488・642実測図	-----120
第110図	C 3 地区	第 1 面検出遺構平面図	-----121
第111図	C 3 地区	第 1 面掘立柱建物 S B374、道路状遺構 S F375実測図	-----122
第112図	C 地区	第 2 面検出遺構平面図	-----124
第113図	C 1 地区	第 2-1面検出遺構平面図	-----125
第114図	C 1 地区	第 2-1面柵列 S A01・02実測図	-----126
第115図	C 1 地区	第 2-2面検出遺構平面図	-----127
第116図	C 1 地区	第 2-2面柱穴 S P62・64・76実測図	-----127
第117図	C 2 地区	第 2 面検出遺構平面図	-----128
第118図	C 2 地区	第 2 面土坑 S K701、柱穴 S P890・1012・700実測図	-----129
第119図	C 2 地区	第 2 面炉 S X701B・1199実測図	-----130
第120図	C 3 地区	第 2 面検出遺構平面図	-----131
第121図	C 3 地区	第 2 面掘立柱建物 S B734・737実測図	-----132
第122図	C 3 地区	第 2 面掘立柱建物 S B735・736実測図	-----133
第123図	C 3 地区	第 2 面井戸 S E401・402・801実測図	-----134

第124図	C 3 地区 第 2 面土坑 S K 712、柱穴 S P 470・491実測図	135
第125図	C 地区 第 3 面検出遺構平面図	137
第126図	C 1 地区 第 3 面検出遺構平面図	138
第127図	C 1 地区 第 3 面柵列 S A 03、土坑 S K 102、柱穴 S P 115・131・138実測図	139
第128図	C 2 地区 第 3 面検出遺構平面図	140
第129図	C 2 地区 第 3 面柵列 S A 01~03実測図	141
第130図	C 3 地区 第 3 面検出遺構平面図	142
第131図	C 3 地区 第 3 面掘立柱建物 S B 872・873、土坑 S K 802~804実測図	143
第132図	C 地区 第 4 面検出遺構平面図	145
第133図	C 2 地区 第 4 面検出遺構平面図	146
第134図	C 2 地区 第 4 面竪穴建物 S H 1400・1401・1460実測図	147
第135図	C 2 地区 第 4 面竪穴建物 S H 1600・1601実測図	148
第136図	C 3 地区 第 4 面検出遺構平面図	149
第137図	C 3 地区 第 4 面柵列 S A 1019、掘立柱建物 S B 1023実測図	150
第138図	C 3 地区 第 4 面掘立柱建物 S B 1020・1021、柵列 S A 1022実測図	151
第139図	C 3 地区 第 4 面竪穴建物 S H 920・930・971実測図	152
第140図	C 3 地区 第 4 面竪穴建物 S H 975・980・1018実測図	153
第141図	C 3 地区 第 4 面土坑 S K 905・942実測図	154
第142図	出土遺物実測図 1	158
第143図	出土遺物実測図 2	159
第144図	出土遺物実測図 3	160
第145図	出土遺物実測図 4	162
第146図	出土遺物実測図 5	163
第147図	出土遺物実測図 6	164
第148図	出土遺物実測図 7	166
第149図	出土遺物実測図 8	167
第150図	出土遺物実測図 9	168
第151図	出土遺物実測図 10	169
第152図	出土遺物実測図 11	170
第153図	出土遺物実測図 12	171
第154図	出土遺物実測図 13	172
第155図	出土遺物実測図 14	173
第156図	出土遺物実測図 15	174
第157図	出土遺物実測図 16	175
第158図	出土遺物実測図 17	176

第159図	出土遺物実測図18	177
第160図	出土遺物実測図19	178
第161図	出土遺物実測図20	179
第162図	出土遺物実測図21	180
第163図	出土遺物実測図22	181
第164図	出土遺物実測図23	183
第165図	出土遺物実測図24	184
第166図	出土遺物実測図25	185
第167図	出土遺物実測図26	186
第168図	出土遺物実測図27	187
第169図	出土遺物実測図28	188
第170図	出土遺物実測図29	190
第171図	出土遺物実測図30	191
第172図	出土遺物実測図31	192
第173図	出土遺物実測図32	194
第174図	出土遺物実測図33	196
第175図	出土遺物実測図34	197
第176図	出土遺物実測図35	198
第177図	出土遺物実測図36	199
第178図	出土遺物実測図37	200
第179図	出土遺物実測図38	201
第180図	出土遺物実測図39	202
第181図	出土遺物実測図40	203
第182図	出土遺物実測図41	204
第183図	出土遺物実測図42	205
第184図	出土遺物実測図43	206
第185図	出土遺物実測図44	208
第186図	出土遺物実測図45	209
第187図	出土遺物実測図46	210
第188図	出土遺物実測図47	211
第189図	出土遺物実測図48	212
第190図	出土遺物実測図49	213
第191図	出土遺物実測図50	215
第192図	出土遺物実測図51	216
第193図	出土遺物実測図52	218

第194図	出土遺物実測図53	219
第195図	出土遺物実測図54	220
第196図	出土遺物実測図55	221
第197図	出土遺物実測図56	223
第198図	出土遺物実測図57	224
第199図	出土遺物実測図58	225
第200図	出土遺物実測図59	226
第201図	出土遺物実測図60	228
第202図	出土遺物実測図61	229
第203図	出土遺物実測図62	230
第204図	出土遺物実測図63	231
第205図	出土遺物実測図64	232
第206図	出土遺物実測図65	233
第207図	出土遺物実測図66	234
第208図	出土遺物実測図67	235
第209図	大川遺跡出土銭貨グラフ	237
第210図	大川遺跡 時期別遺構変遷図	240

## 付 表 目 次

付表 1	各地区の調査面積	3
付表 2	大川遺跡の調査回数一覧	5
付表 3	大川遺跡器種別破片点数	236
付表 4	大川遺跡輸入陶磁器種別破片点数	237
付表 5	大川遺跡第3次調査 土器一覧	243
付表 6	大川遺跡第4・5次調査 土器一覧	244
付表 7	大川遺跡 木製品一覧	286
付表 8	大川遺跡 石器・石製品一覧	287
付表 9	大川遺跡 金属製品一覧	289
付表10	大川遺跡 銭貨一覧	290



# 図版目次

- 巻頭図版 1 調査対象地全景(北東から)
- 巻頭図版 2 調査区全景(南西から)
- 巻頭図版 3 (1) A 1 地区第 2 面掘立柱建物検出状況(南西から)  
(2) A 1 地区丸木舟転用井戸 S E 412 検出状況(南から)
- 巻頭図版 4 (1) A 3 地区第 3 面遺物集中場所 S X 677 遺物出土状況(西から)  
(2) B 2 地区第 3 面竪穴建物 S H 891 完掘状況(南西から)
- 巻頭図版 5 (1) B 2 地区第 3 面方形周溝墓 1 周溝 S D 1033 遺物出土状況(南から)  
(2) B 3 地区第 4 面全景(北東から)
- 巻頭図版 6 (1) B 3 地区第 4 面竪穴建物 S H 1901 内遺物出土状況(南から)  
(2) C 2 地区第 4 面竪穴建物 S H 1401 内遺物出土状況(南から)
- 
- 図版第 1 (1) A 1 地区第 1 面全景(北東から)  
(2) A 1 地区第 1 面集石遺構 S X 01 検出状況(南東から)  
(3) A 1 地区第 2 面土器溜り S X 02 検出状況(北西から)
- 図版第 2 (1) A 1 地区第 2 面全景(北東から)  
(2) A 1 地区第 2 面南部遺構群全景(北東から)
- 図版第 3 (1) A 1 地区第 2 面北部遺構群全景(北西から)  
(2) A 1 地区第 2 面土坑 S K 105 遺物出土状況(東から)
- 図版第 4 (1) A 1 地区第 2 面柱穴 S P 42 半截状況(北西から)  
(2) A 1 地区第 2 面柱穴 S P 42 遺物出土状況(北西から)  
(3) A 1 地区第 2 面柱穴 S P 252 遺物出土状況(北東から)
- 図版第 5 (1) A 1 地区第 2 面 S X 03 検出状況(南東から)  
(2) A 1 地区第 2 面 S X 03 断ち割り状況(南東から)  
(3) A 1 地区第 2 面 S X 03 下面焼土検出状況(南東から)
- 図版第 6 (1) A 1 地区第 2 面井戸 S E 412 遺物出土状況(南西から)  
(2) A 1 地区第 2 面井戸 S E 412 半截状況 1 (南東から)  
(3) A 1 地区第 2 面井戸 S E 412 半截状況 2 (南東から)
- 図版第 7 (1) A 1 地区第 3 面サブトレンチ設置状況全景(北東から)  
(2) A 1 地区第 3 面南部全景(北西から)
- 図版第 8 (1) A 1 地区第 3 面第 2 トレンチ断面(北から)  
(2) A 1 地区第 3 面第 3 トレンチ(西から)  
(3) A 1 地区第 3 面第 4 トレンチ(西から)

- 図版第9 (1) A 2・3地区第1面全景(北東から)  
 (2) A 3地区第1面掘立柱建物S B01検出状況(北東から)
- 図版第10 (1) A 2地区第2面全景(南西から)  
 (2) A 2地区第2面全景(北西から)
- 図版第11 (1) A 2地区第2面掘立柱建物S B01検出状況(北東から)  
 (2) A 2地区第2面掘立柱建物S B02・03検出状況(南西から)  
 (3) A 2地区第2面方形土坑S X597完掘状況(北西から)
- 図版第12 (1) A 2地区第2面土坑S K505・520検出状況(北西から)  
 (2) A 2地区第2面土坑S K505・520完掘状況(北西から)
- 図版第13 (1) A 2地区第2面土坑S K572・574・575検出状況(東から)  
 (2) A 2地区第2面土坑S K544遺物出土状況(東から)  
 (3) A 2地区第2面掘立柱建物S B03柱穴S P565、炉跡S X566検出状況(南東から)
- 図版第14 (1) A 3地区第2面全景(南西から)  
 (2) A 3地区第2面掘立柱建物S B02～04検出状況(北西から)
- 図版第15 (1) A 3地区第2面柱穴S P19遺物出土状況(北から)  
 (2) A 3地区第2面掘立柱建物S B02柱穴S P148遺物出土状況(東から)  
 (3) A 3地区第2面掘立柱建物S B02柱穴S P238遺物出土状況(北西から)
- 図版第16 (1) A 3地区第2面柱穴S P149遺物出土状況(南から)  
 (2) A 3地区第2面柱穴S P144遺物出土状況(北から)  
 (3) A 3地区第2面柱穴S P232遺物出土状況(西から)
- 図版第17 (1) A 3地区第2面柱穴S P202遺物出土状況(北東から)  
 (2) A 3地区第2面柱穴S P120検出状況(西から)  
 (3) A 3地区第2面柱穴S P114検出状況(西から)
- 図版第18 (1) A 2・3地区第3面全景(南西から)  
 (2) A 3地区第3面遺物集中か所S X677遺物出土状況(北西から)
- 図版第19 (1) A 3地区第3面遺物集中か所S X677北部遺物出土状況(西から)  
 (2) A 3地区第3面遺物集中か所S X677中央遺物出土状況(南西から)  
 (3) A 3地区第3面遺物集中か所S X677南部遺物出土状況(南西から)
- 図版第20 (1) A 3地区第3面提瓶出土状況(北西から)  
 (2) A 3地区第3面第1トレンチ全景(北西から)  
 (3) A 3地区第3面第2トレンチ全景(北西から)
- 図版第21 (1) B 1地区第1面全景(南西から)  
 (2) B 1地区第1面北部遺構群(北から)
- 図版第22 (1) B 1地区第1面中央部土坑S K03・04・06(北東から)  
 (2) B 1地区第1面集石遺構S X59検出状況(南東から)

- (3) B 1 地区第 1 面集石遺構 S X59 断ち割り状況(北東から)
- 図版第23 (1) B 1 地区第 2 面全景(南西から)  
 (2) B 1 地区第 2 面掘立柱建物 S B01、柵列 S A01 検出状況(西から)
- 図版第24 (1) B 1 地区第 2 面南半遺構群(南東から)  
 (2) B 1 地区第 2 面南半遺構群(南西から)
- 図版第25 (1) B 1 地区第 2 面柱穴 S P 129 半截状況(南東から)  
 (2) B 1 地区第 2 面柱穴 S P 141 半截状況(北西から)  
 (3) B 1 地区第 2 面柱穴 S P 150 半截状況(東から)  
 (4) B 1 地区第 2 面柱穴 S P 134 半截状況(南東から)  
 (5) B 1 地区第 2 面柱穴 S P 130 半截状況(南東から)  
 (6) B 1 地区第 2 面柱穴 S P 135 半截状況(南東から)  
 (7) B 1 地区第 2 面柱穴 S P 151 半截状況(南東から)  
 (8) B 1 地区第 2 面柱穴 S P 139 半截状況(南東から)
- 図版第26 (1) B 1 地区第 2 面柱穴 S P 142 半截状況(東から)  
 (2) B 1 地区第 2 面柱穴 S P 136 半截状況(南東から)  
 (3) B 1 地区第 2 面柱穴 S P 103 半截状況(南東から)  
 (4) B 1 地区第 2 面柱穴 S P 61 半截状況(南東から)  
 (5) B 1 地区第 2 面柱穴 S P 225 半截状況(東から)  
 (6) B 1 地区第 2 面柱穴 S P 170 半截状況(南東から)  
 (7) B 1 地区第 2 面柱穴 S P 169 半截状況(南西から)  
 (8) B 1 地区第 2 面柱穴 S P 169 遺物出土状況(南西から)
- 図版第27 (1) B 2 地区第 3 面全景(北東から)  
 (2) B 1 地区第 3 面南半部全景(南西から)
- 図版第28 (1) B 1 地区第 3 面竪穴建物 S H300 完掘状況(南東から)  
 (2) B 1 地区第 3 面竪穴建物 S H300 内竈完掘状況(南東から)  
 (3) B 1 地区第 3 面竪穴建物 S H300 内炉 S X394 (南から)
- 図版第29 (1) B 1 地区第 3 面竪穴建物 S H302 完掘状況(南東から)  
 (2) B 1 地区第 3 面溝 S D304・305 遺物出土状況(南東から)  
 (3) B 1 地区第 3 面溝 S D304・305 断面(東から)
- 図版第30 (1) B 1 地区第 3 面溝 S D304・305 遺物出土状況(北東から)  
 (2) B 1 地区サブトレンチ土層断面(南から)  
 (3) B 1 地区東壁土層断面(南西から)
- 図版第31 (1) B 2 地区第 1 面南半部全景(北東から)  
 (2) B 2 地区第 1 面柵列 S A04 完掘状況(北西から)
- 図版第32 (1) B 2 地区第 2 面北半部全景(北東から)

- (2) B 2 地区第 2 面南部掘立柱建物 S B 01 検出状況(北から)
- 図版第33 (1) B 2 地区第 2 面井戸 S E 231 遺物出土状況(北東から)  
 (2) B 2 地区第 2 面井戸 S E 231 下駄出土状況(北東から)  
 (3) B 2 地区第 2 面井戸 S E 231 井戸枠内部(南西から)
- 図版第34 (1) B 2 地区第 2 面井戸 S E 230 半截状況(南西から)  
 (2) B 2 地区第 2 面井戸 S E 230 井戸枠検出状況(南西から)  
 (3) B 2 地区第 2 面井戸 S E 230 横棧・隅柱接合状況(北西から)
- 図版第35 (1) B 2 地区第 2 面井戸 S E 280 検出状況(南東から)  
 (2) B 2 地区第 2 面井戸 S E 280 井戸枠内部(南東から)  
 (3) B 2 地区第 2 面井戸 S E 352 内敷石検出状況(南東から)
- 図版第36 (1) B 1・2 地区第 3 面全景(北東から)  
 (2) B 1・2 地区第 3 面全景(南西から)
- 図版第37 (1) B 2 地区第 3 面土坑 S K 938 遺物出土状況 1 (北西から)  
 (2) B 2 地区第 3 面土坑 S K 938 遺物出土状況 2 (南東から)  
 (3) B 2 地区第 3 面土坑 S K 938 勾玉出土状況(北東から)
- 図版第38 (1) B 2 地区第 3 面竪穴建物 S H 841 完掘状況(北東から)  
 (2) B 2 地区第 3 面竪穴建物 S H 891 完掘状況(北西から)  
 (3) B 2 地区第 3 面竪穴建物 S H 891 内中央土坑 S X 836 完掘状況(北西から)
- 図版第39 (1) B 2 地区第 3 面竪穴建物 S H 840・841 完掘状況(北西から)  
 (2) B 2 地区第 3 面竪穴建物 S H 842 完掘状況(北西から)  
 (3) B 2 地区第 3 面竪穴建物 S H 889、方形周溝墓 1 検出状況(南西から)
- 図版第40 (1) B 2 地区第 3 面竪穴建物 S H 889 遺物出土状況(南西から)  
 (2) B 2 地区第 3 面竪穴建物 S H 1027 完掘状況(南東から)  
 (3) B 2 地区第 3 面竪穴建物 S H 1211 完掘状況(南東から)
- 図版第41 (1) B 2 地区第 3 面竪穴建物 S H 844 完掘状況(北西から)  
 (2) B 2 地区第 3 面竪穴建物 S H 840 完掘状況(南東から)  
 (3) B 2 地区第 3 面竪穴建物 S H 840 内支柱穴 S P 792 半截状況(南西から)
- 図版第42 (1) B 2 地区第 3 面竪穴建物 S H 898 完掘状況(北西から)  
 (2) B 2 地区第 3 面竪穴建物 S H 999 完掘状況(北西から)  
 (3) B 2 地区第 3 面竪穴建物 S H 787・793 完掘状況(北西から)
- 図版第43 (1) B 2 地区第 3 面方形周溝墓 1 周溝 S D 1033、溝 S D 1030 検出状況(南西から)  
 (2) B 2 地区第 3 面方形周溝墓 1 全景(南西から)  
 (3) B 2 地区第 3 面溝 S D 1033 土層断面(西から)
- 図版第44 (1) B 2 地区第 3 面方形周溝墓 1 全景(南東から)  
 (2) B 2 地区第 3 面方形周溝墓 1、土壌 S X 1123 検出状況(北西から)

- (3) B 2 地区第 3 面土壙 S X1123完掘状況(南東から)
- 図版第45 (1) B 2 地区第 3 面柱穴 S P 1079遺物出土状況(南から)  
 (2) B 2 地区第 3 面土坑 S K 504遺物出土状況(北西から)  
 (3) B 2 地区第 3 面土坑 S K 504遺物出土状況近景(東から)
- 図版第46 (1) B 3 地区第 1 面全景(南西から)  
 (2) B 3 地区第 1 面掘立柱建物 S B 1641検出状況(南西から)
- 図版第47 (1) B 3 地区第 2 面全景(南西から)  
 (2) B 3 地区第 2 面土坑 S K 1701完掘状況(南東から)  
 (3) B 3 地区第 2 面掘立柱建物 S B 1786検出状況(北西から)
- 図版第48 (1) B 3 地区第 3 面全景(北東から)  
 (2) B 3 地区第 4 面全景(北東から)
- 図版第49 (1) B 3 地区第 4 面竪穴建物 S H 1901完掘状況(南東から)  
 (2) B 3 地区第 4 面竪穴建物 S H 1901遺物出土状況(南から)  
 (3) B 3 地区第 4 面竪穴建物 S H 1901内土坑 S K 2052遺物出土状況(南東から)
- 図版第50 (1) B 3 地区第 4 面竪穴建物 S H 1910完掘状況(南東から)  
 (2) B 3 地区第 4 面竪穴建物 S H 1910・1901完掘状況(南東から)  
 (3) B 3 地区第 4 面竪穴建物 S H 2005完掘状況(南東から)
- 図版第51 (1) B 3 地区第 4 面竪穴建物 S H 1980完掘状況(南西から)  
 (2) B 3 地区第 4 面竪穴建物 S H 1929完掘状況(南東から)  
 (3) B 3 地区第 4 面土壙 S X 1902検出状況(南東から)
- 図版第52 (1) B 3 地区第 4 面方形周溝墓 2 全景(南西から)  
 (2) B 3 地区第 4 面方形周溝墓 2 周溝 S D 2000検出状況(南西から)  
 (3) B 3 地区第 4 面方形周溝墓 2 土壙 S X 1902完掘状況(南東から)
- 図版第53 (1) C 1 地区第 2-1面全景(南西から)  
 (2) C 1 地区第 2-1面全景(北東から)
- 図版第54 (1) C 1 地区第 2-2面全景(南西から)  
 (2) C 1 地区第 3 面全景(北東から)
- 図版第55 (1) C 1 地区第 2-1面焼土 S X 60検出状況(北東から)  
 (2) C 1 地区第 2-1面銭貨出土状況(南から)  
 (3) C 1 地区第 2-1面柱穴 S P 20検出状況(南西から)  
 (4) C 1 地区第 2-1面柱穴 S P 22検出状況(南西から)
- 図版第56 (1) C 1 地区第 2-1面柵列検出状況(北西から)  
 (2) C 1 地区第 3 面柱穴 S P 115柱出土状況(南から)  
 (3) C 1 地区第 3 面土坑 S P 138遺物出土状況(北東から)
- 図版第57 (1) C 1 地区第 3 面土坑 S K 102遺物出土状況(南西から)

- (2) C 1 地区第 3 面柱穴 S P 131 半截状況(南西から)
- (3) C 1 地区北壁土層断面(南西から)
- 図版第58 (1) C 2 地区第 1 面全景(北東から)
- (2) C 2 地区第 1 面南部遺構群(北西から)
- 図版第59 (1) C 2 地区南部遺構群(北東から)
- (2) C 2 地区第 1 面土坑 S K 581 遺物出土状況(西から)
- (3) C 2 地区第 1 面土坑 S K 392 遺物出土状況(北東から)
- 図版第60 (1) C 2 地区第 2 面全景(北東から)
- (2) C 2 地区第 2 面南部全景(南西から)
- 図版第61 (1) C 2 地区第 2 面柱穴 S P 642 検出状況(西から)
- (2) C 2 地区第 2 面柱穴 S P 588 検出状況(西から)
- (3) C 2 地区第 2 面土坑 S K 701 遺物出土状況(南東から)
- 図版第62 (1) C 2 地区第 2 面土坑 S K 701 遺物出土状況(南東から)
- (2) C 2 地区第 2 面炉跡 S X 1199 検出状況(南東から)
- (3) C 2 地区第 2 面炉跡 S X 1199 竈検出状況(南東から)
- 図版第63 (1) C 2 地区第 3 面全景(南西から)
- (2) C 2 地区第 3 面柵列 S A 01~03 検出状況(南から)
- 図版第64 (1) C 2 地区第 4 面全景(南西から)
- (2) C 2 地区第 4 面竪穴建物 S H 1401 検出状況(北西から)
- 図版第65 (1) C 2 地区第 4 面竪穴建物 S H 1401 遺物・炭化材出土状況(南西から)
- (2) C 2 地区第 4 面竪穴建物 S H 1401 遺物・炭化材出土状況(西から)
- (3) C 2 地区第 4 面竪穴建物 S H 1401 完掘状況(東から)
- 図版第66 (1) C 2 地区第 4 面竪穴建物 S H 1460 検出状況(南から)
- (2) C 2 地区第 4 面竪穴建物 S H 1460 土層断面(南から)
- (3) C 2 地区第 4 面竪穴建物 S H 1400 完掘状況(南東から)
- 図版第67 (1) C 3 地区第 1 面全景(北東から)
- (2) C 3 地区第 1 面中央部遺構群(東から)
- 図版第68 (1) C 3 地区第 2 面全景(北東から)
- (2) C 3 地区第 2 面全景(南西から)
- 図版第69 (1) C 3 地区第 2 面井戸 S E 401 検出状況(西から)
- (2) C 3 地区第 2 面井戸 S E 402 検出状況(南から)
- (3) C 3 地区第 2 面井戸 S E 402 下部井戸枠検出状況(南から)
- 図版第70 (1) C 3 地区第 3 面全景(北東から)
- (2) C 3 地区第 3 面掘立柱建物 S B 873 検出状況(北西から)
- 図版第71 (1) C 3 地区第 4 面全景(南西から)

- (2) C 3 地区第 4 面掘立柱建物 S B 1020・1021、柵列 S A 1022 検出状況(東から)
- 図版第72 (1) C 3 地区第 4 面竪穴建物 S H 920・930 検出状況(東から)  
(2) C 3 地区第 4 面土坑 S K 905 検出状況(南東から)  
(3) C 3 地区第 4 面土坑 S K 942 遺物出土状況(南東から)
- 図版第73 出土遺物 1
- 図版第74 出土遺物 2
- 図版第75 出土遺物 3
- 図版第76 出土遺物 4
- 図版第77 出土遺物 5
- 図版第78 出土遺物 6
- 図版第79 出土遺物 7
- 図版第80 出土遺物 8
- 図版第81 出土遺物 9
- 図版第82 出土遺物 10
- 図版第83 出土遺物 11
- 図版第84 出土遺物 12
- 図版第85 出土遺物 13
- 図版第86 出土遺物 14
- 図版第87 出土遺物 15
- 図版第88 出土遺物 16
- 図版第89 出土遺物 17
- 図版第90 出土遺物 18
- 図版第91 (1) 出土遺物 19  
(2) 出土遺物 20
- 図版第92 出土遺物 21
- 図版第93 出土遺物 22
- 図版第94 (1) 出土遺物 23  
(2) 出土遺物 24
- 図版第95 (1) 出土遺物 25  
(2) 出土遺物 26
- 図版第96 (1) 出土遺物 27  
(2) 出土遺物 28

# 由良川下流部緊急水防災対策事業に伴う 平成24～26年度 大川遺跡発掘調査報告

## 1. はじめに

### 1)調査にいたる経緯

大川遺跡は舞鶴市の西部を南北に流れる由良川沿いに分布している。国土交通省近畿地方整備局により、大川遺跡の範囲内に由良川下流部緊急水防災対策事業としてスーパー堤防の建設が計画され、今回の調査は平成24～26年度にかけてそれに先立つ埋蔵文化財発掘調査として実施した。現地調査および整理等作業については、国土交通省近畿地方整備局福知山河川国道事務所の依頼を受けて実施した。

平成24年度は大川遺跡全体の状況を明らかにして、面的な調査を行う範囲を判断するための資料を得ることを目的に、遺跡範囲内に13か所の小規模調査を実施した(第3次調査)。

平成25年度はA1、B1、C1地区の調査を実施し、年度途中より、A2、B2、C2地区の調査に取り掛かった。

平成26年度には、平成25年度から調査を実施しているA2、B2、C2地区の調査を引き続き行い、A3、B3、C3地区の調査を新たに取り掛かり、当初計画通りに調査を終えた。3年度にわたる3次の調査における総調査面積は10,460㎡である。

各年度の調査体制等は下記のとおりである。

### 〔調査体制等〕

#### 平成24年度(第3次調査)

現地調査責任者	調査第2課長	水谷 壽克
調査担当者	調査第2課第2係長	岩松 保
	次席総括調査員	伊野 近富
	専門調査員	石尾 政信
調査場所	京都府舞鶴市大川・八戸地・八田	
現地調査期間	平成24年10月30日～12月21日	
調査面積	900㎡	

#### 平成25年度(第4次調査)



現地調査責任者	調査課長	水谷 壽克
調査担当者	調査課第2係長	岩松 保
	同次席総括調査員	伊野 近富
	主任調査員	竹原 一彦
	専門調査員	黒坪 一樹
	調査員	綾部 侑真
	主任調査員	引原 茂治
	調査員	大高 義寛
調査場所	京都府舞鶴市大川	
現地調査期間	平成25年4月25日～平成26年3月5日	
調査面積	8,255㎡	

平成26年度(第5次調査)

現地調査責任者	調査課長	石井 清司
調査担当者	調査課課長補佐兼第2係長	岩松 保
	総括調査員	伊野 近富
	主査	竹原 一彦
	主査	黒坪 一樹
	調査員	綾部 侑真
	調査	竹村 亮仁
	調査場所	京都府舞鶴市大川
現地調査期間	平成26年4月10日～平成27年2月2日	
調査面積	6,510㎡	

平成27年度(整理等)

現地調査責任者	調査課長	有井 広幸
担当者	調査課課長補佐兼第3係長	岩松 保
	主査	竹原 一彦
	副主査	伊野 近富
	調査員	綾部 侑真
	調査員	竹村 亮仁
整理期間	平成27年4月1日～平成28年3月31日	

現地調査にあたっては、京都府教育委員会、舞鶴市教育委員会、舞鶴市市民環境部加佐分室、舞鶴市建設部国・府事業推進課をはじめ、各関係機関のご指導、ご助言を賜った。また地元自治

付表1 各地区の調査面積(単位：㎡)

地区名		第3次 ※	第4次	第5次	調査面積	備考
A地区	1	200	2,700	—	2,700	
	2	310	2,345	←	2,345	
	3	—	—	800	800	
B地区	1	30	740	—	740	
	2	—	1,490	←	1,490	
	3	—	—	435	435	
C地区	1	10	210	—	210	
	2	50	770	←	770	
	3	—	—	670	670	
地区外		300	—	—	300	10・11 トレンチ
調査面積 (㎡)		900	8,255	6,510	10,460	

※ 1～9 トレンチは25・26年度に面的調査の中に含まれる  
10～11 トレンチのみ24年度調査で計上

会や近隣住民の方々には、作業員として現地作業に参加していただくほか、多くのご協力をいただいた。記して感謝いたします。

なお、調査に係る経費は、全額国土交通省近畿地方整備局が負担した。

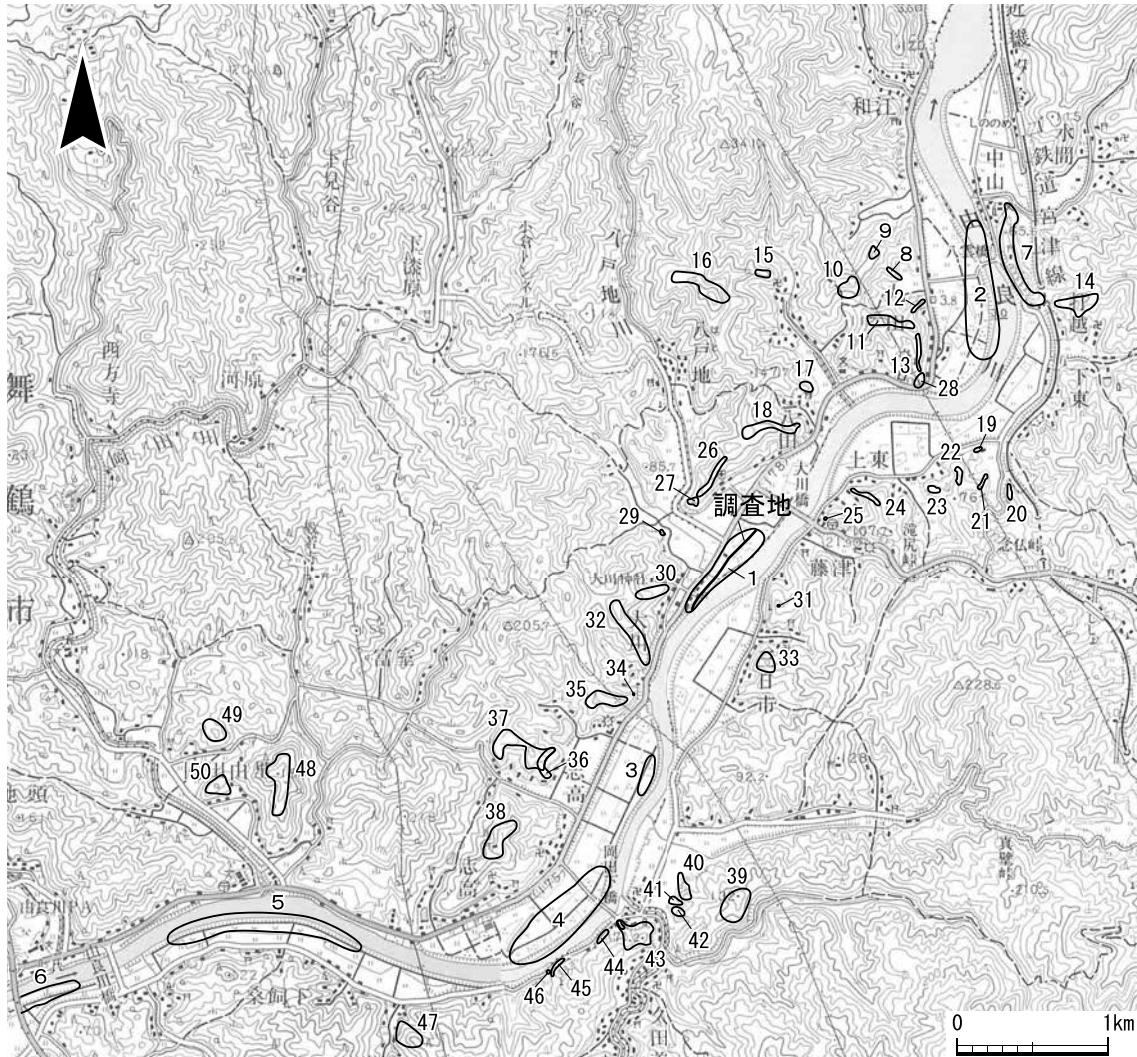
(伊野近富)

## 2) 遺跡の位置と環境(第1図)

舞鶴市は京都府東北部に位置し、北側は日本海に面している。舞鶴市域は、標高301mの五老岳を境にして大きく東西2地区に分かれ、西舞鶴と東舞鶴に分かれている。西舞鶴は東側の舞鶴湾に面した地域と西側の由良川流域とに分かれる。西舞鶴の東側(狭義の西舞鶴)には戦国時代末期には田辺城が置かれ、江戸時代には細川氏の居城となり、その後、京極氏が知行した。

西側を流れる由良川は京都府北部最大の河川であり、この流域は加佐地区と呼ばれている。由良川を遡ると福知山市や綾部市に至る。さらに、福知山市から兵庫県丹波市へ越えれば、瀬戸内海に注ぐ加古川に至るルートとなる。このルートは、日本海側と瀬戸内海側を標高100mに満たない低い峠を越えるだけで繋ぐもので、弥生時代以降の交易のルートとしてで重要なものと認識されている。大川遺跡はまさにこのルート上にあり、由良川の下流部の左岸に位置している。

大川遺跡周辺の主要な遺構を第1図に示した。周辺でもっとも古い遺跡は、上流約2kmに位置する志高遺跡で、縄文時代早期から前期の土器が出土している。この遺跡では土器の出土が認められただけであるが、縄文時代の顕著な遺構が確認された遺跡としては、志高遺跡からさらに1km遡った位置にある桑飼下遺跡がある。ここでは、縄文時代後期の炉跡48基が検出され、こ



- |             |             |            |                   |
|-------------|-------------|------------|-------------------|
| 1. 大川遺跡     | 14. 打越城跡    | 27. 八田支城跡  | 40. 土穴城跡          |
| 2. 八雲遺跡     | 15. 丸田安ノ奥城跡 | 28. 丸田東城跡  | 41. 久田美遺跡         |
| 3. 花ノ木遺跡    | 16. 八田コヨリ城跡 | 29. 宮ノ鼻古墳  | 42. 池田日向城跡        |
| 4. 志高遺跡     | 17. 丸田山田城跡  | 30. 徹光山古墳群 | 43. 久田美城跡         |
| 5. 桑飼下遺跡    | 18. 八田城跡    | 31. 由里下古墳  | 44. 川向古墳群         |
| 6. 桑飼上遺跡    | 19. 臼井古墳    | 32. 大川城跡   | 45. シゲツ古墳群        |
| 7. 中山城跡     | 20. 大船古墳群   | 33. 三日市城跡  | 46. シゲツ窠跡         |
| 8. 奥谷古墳群    | 21. 一ノ木古墳群  | 34. 小津田経塚  | 47. 原城跡           |
| 9. 丸田齋宮城跡   | 22. 上東古墳群   | 35. 志高碓山城跡 | 48. 荒張城跡          |
| 10. 祇園寺跡    | 23. 臼井城跡    | 36. 見取古墳群  | 49. 岡田由里城跡        |
| 11. 丸田宮ノ谷城跡 | 24. 和田古墳群   | 37. 見取城跡   | 50. 荒張支城跡(岡田由里別城) |
| 12. 門戸古墳群   | 25. 峠古墳     | 38. 志高城跡   |                   |
| 13. 朝宮古墳群   | 26. 八田古墳群   | 39. 池田谷城跡  |                   |

第1図 調査地および周辺主要遺跡分布図

れらは竪穴建物に伴うものと考えられている。また、土地を開墾するためと考えられる打製石斧が900点以上出土した。

弥生時代前期の土器は大川遺跡の約2km下流にある八雲遺跡で確認されている。弥生時代中期から後期になると、由良川の自然堤防上にある志高遺跡では竪穴建物14基と方形周溝墓が確認された。さらに、丹後～山陰地域に特徴的な墓である貼石墓が検出されている。

古墳時代の加佐地域ではあまり古墳の調査は行われていない。大川神社がある山に徹光山古墳群があり、表面採集された須恵器は6世紀のものである。八雲遺跡の北西の谷には、横穴式石室を内部主体にもつ6世紀末頃のニイザ古墳がある。

奈良時代ではさらに下流で国分寺跡の伝承が残る和江地域がある。上流では桑飼上遺跡での掘立柱建物が確認された。

平安時代には『延喜式』式内社である大川神社が調査地の直近にある。古文書が残っていないので詳細は不明である。中世になると尾根それぞれに城館が築かれる。下流の中山城では戦国時代の建物の遺構や曲輪が確認された。

大川の地がどの荘園に属していたのかは不明であるが、現在、岡田地域に属しているため岡田荘内であったと考えられる。岡田荘は室町時代の『丹後国田数帳』にみえる。

室町時代の発掘事例はあまりなく、下流の中山で造成された中山城跡の成果がほぼすべてである。これによれば、戦国時代に造成された山城で、主郭の両端に複数の堀切をもつ、連郭式の城である。一色氏の居城と考えられている。

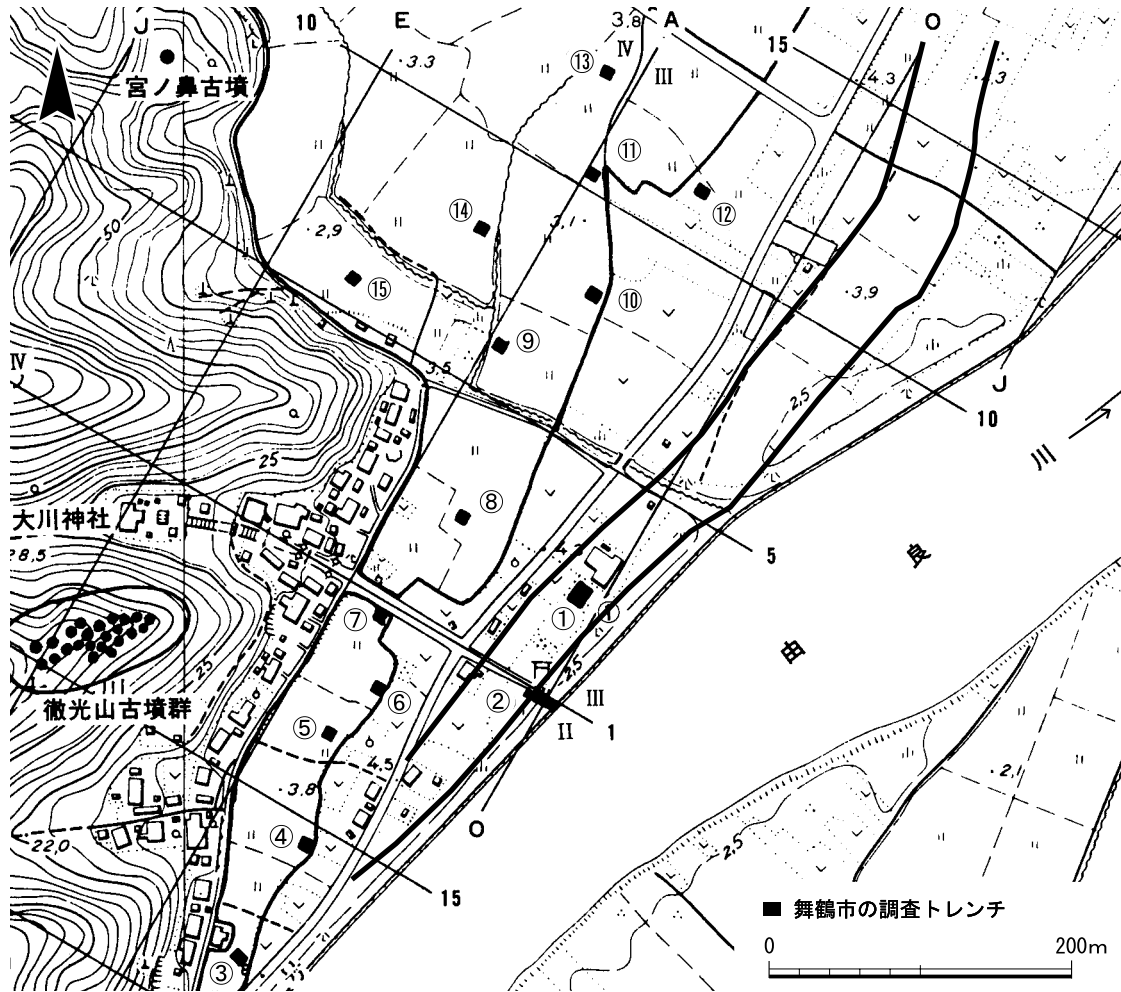
### 3) 既往の調査と各年度の調査

大川遺跡はもともと由良川の土砂採取にともなって遺物が採取され、周知の遺跡に登録されたものである。大川遺跡では、当調査研究センターが平成24年度から発掘調査を実施するまでに2回の調査がおこなわれている(付表2)。

第1次(第2図) 昭和61(1986)年に舞鶴市教育委員会によって実施された。大川地域に圃場整

付表2 大川遺跡の調査回数一覧

回数	調査年度	調査主体	調査概要
第1次	昭和61年度	舞鶴市教育委員会	2か所のトレンチと13か所のグリットを調査。弥生時代から江戸時代までの遺構や遺物包含層が検出
第2次	平成24年度	京都府教育委員会	4か所のグリッドで調査。黄褐色系の砂層が厚く堆積しており、土師器・須恵器・弥生土器片を検出しただけで、顕著な遺構なし。
第3次	平成24年度	京都府埋文センター	大川遺跡全体を明らかにするために、遺跡範囲内に12か所の小規模調査を実施
第4次	平成25年度	京都府埋文センター	A1・B1・C1地区を調査。弥生時代から中世の遺構・遺物を確認
第5次	平成26年度	京都府埋文センター	A2・3、B2・3、C2・3区を調査。弥生時代から中世の遺構・遺物を確認

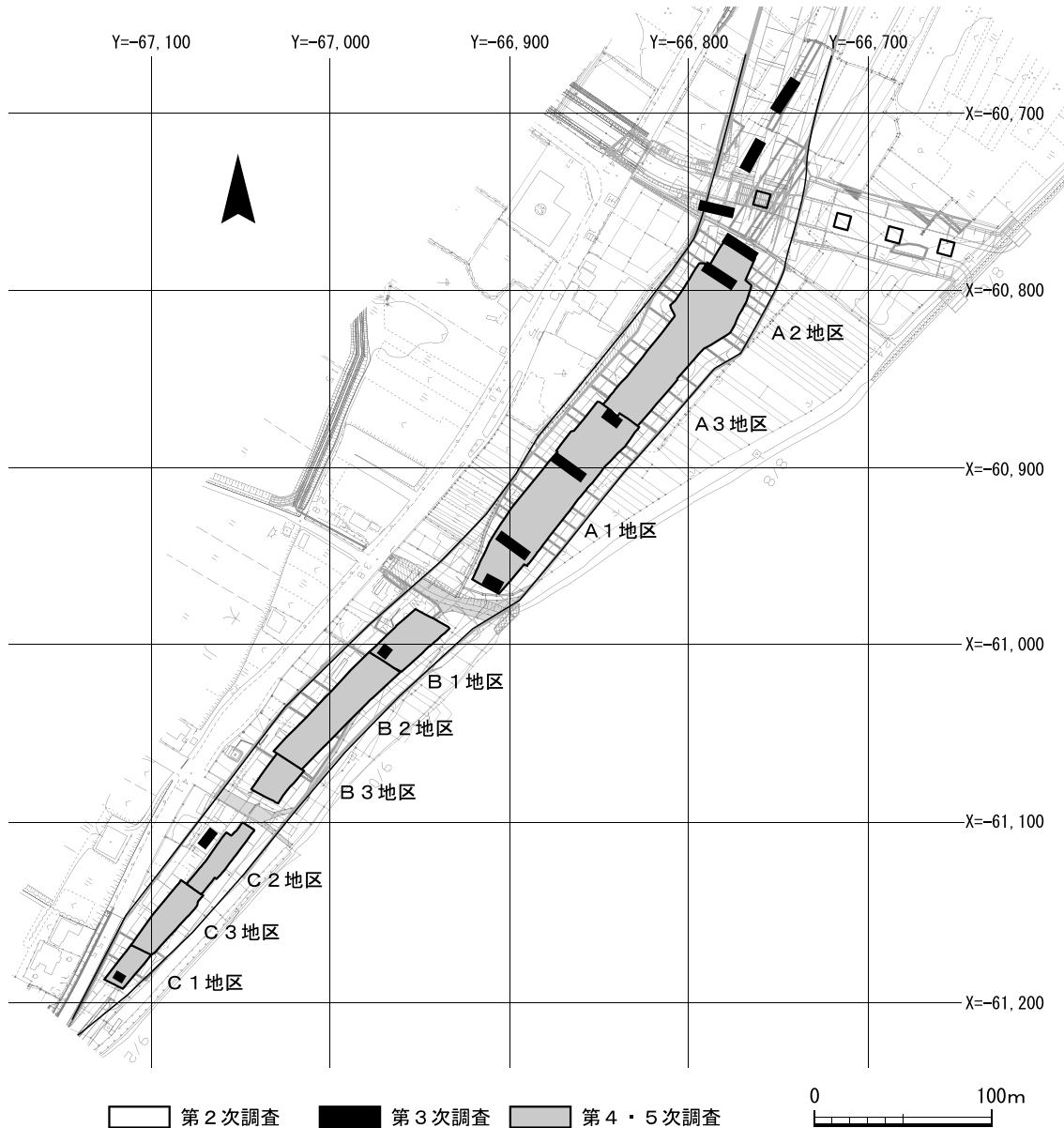


第2図 第1次調査トレンチ配置図(舞鶴市教育委員会の調査)

備が行われることとなり、由良川の自然堤防上に2か所のトレンチ、後背湿地である水田地帯に13か所のグリットが設定された。

その結果、第1トレンチでは、弥生時代から江戸時代までの遺構や遺物包含層が検出された。第10層は弥生時代に相当し、遺物は出土したものの、トレンチが狭所であるため平面精査は行われていない。第9層は古墳時代後期に相当する。カマドをもつ竪穴建物1棟が確認された。第8層は古墳時代後期末から奈良時代に相当する。溝が検出された。第6層は平安時代後期～鎌倉時代に相当する。掘立柱建物跡1棟と土壇墓2基が確認された。直径は約1m、深さ0.8m、底形約0.5mを測り、形状はバケツ型で、底には木櫃を置いた形跡があった。第5層は南北朝時代～室町時代に相当する。礎石建物跡と通路状の遺構が確認された。この場所は第4次調査のB2地区の一面に相当する。

第2次(第3図) 樋門建設事業に先行して、京都府教育委員会によって平成24年7月に実施された。国道175号近辺から由良川までの間に4か所のトレンチが設定された。調査の結果、顕著な遺構は検出されなかった。由良川に近い第1～第3トレンチは河道に近い水際と判断された。もっとも国道に近い第4トレンチは第3次調査の第10トレンチの近くである。



第3図 第2～5次調査区配置図

第3次(第3図) 平成24年10月から12月にかけて当調査研究センターが実施した。大川遺跡の実態を明らかにするために、大川遺跡の範囲、由良川と並行した長さ600mの中に12か所の調査区を設定した。由良川上流部から下流部にむけて、第1トレンチから第12トレンチとした。基本的な層序は表土、地表下0.6mが室町時代の、同0.9mが鎌倉時代の、同1.3mが平安時代後期の遺物包含層である。それより、下層は青灰色粘土や褐色砂質土であった。遺構は土坑や杭跡を検出し、遺物は中世の土師器皿が中心で、このほか須恵器鉢、瓦器椀、陶器甕などが出土した。

第4次(第3図) 平成25年度に当調査研究センターで実施した。第3次調査の結果より、第9トレンチより南側の総長500mにわたって中世～弥生時代の遺構・遺物が分布しているものと推定された。この範囲を面的に調査を実施したが、広域にわたるため、現状の道路や河川の分布に基づいてA～C地区の3地区に区分した。各大地区内は、堤防設置のための土地が取得された範

囲から適宜実施した。その地区内で調査に取り掛かった順に、枝番号を付して調査区の呼称とした。第4次調査では、A1・2地区、B1・2地区、C1・2地区で発掘調査を行った。ただし、A2地区とC2地区は室町時代面直上までの重機掘削を行い、一部精査を実施した。

A1地区では3面を調査した。第1面は室町時代で、石壇状の集石遺構を確認しただけである。第1面と第2面との間で銅製の竿秤が出土した。第2面は平安時代後期から鎌倉時代前期である。北部で掘立柱建物や井戸、中央部で炉や掘立柱建物、祭祀土坑など鍛冶関連遺構が確認された。第3面は顕著な遺構はなかった。

B1地区では3面を調査した。第1面は室町時代で、石壇状の集石遺構を確認した。第2面は平安時代後期から鎌倉時代前期である。総柱建物や土坑等を確認した。また、調査地の南部では平行する2条の溝を確認した。道路側溝である可能性が高い。第3面は弥生時代から古墳時代である。カマドをもつ方形の竪穴建物や溝を確認した。なお、確実に弥生時代と確認された遺構はない。

B2地区では3面を調査した。第1面は室町時代で、池状遺構や柵列等を検出した。第2面は平安時代後期から鎌倉時代前期である。調査区の北部で平行する2条の溝を確認した。これはB1地区から連続しており、道路側溝である可能性が高い。南部では掘立柱建物や井戸を確認した。第3面は弥生時代から古墳時代である。掘立柱建物や竪穴建物を多数確認した。

C地区はB地区の南に設定した。大川神社と御旅所である野々宮神社との間の参道の南側である。C1地区は調査対象地の最南端に設けた調査区である。4面を調査した。第1・2面は室町時代である。いずれも杭跡を確認した。第2面下面の遺物包含層で象嵌青磁と宋銭33枚が出土した。第3面は鎌倉時代である。多数の柱穴を検出したが、建物としては復原できない。第4面は平安時代後期から鎌倉時代である。多数の柱穴を検出したが、建物としては復原できない。

**第5次(第3図)** A2・3地区、B2・3地区、C2・3地区の調査を行った。A2地区は調査対象地の最北端に設けた調査区である。第1面は室町時代である。少数のピットを確認した。第2面は平安時代後期で焼土や掘立柱建物や土坑等が確認された。土師器をはじめ多種類の遺物に混じって、石帯が出土した。第3面は顕著な遺構はなかったが、単独で須恵器特殊扁壺・壺や完形の須恵器提瓶が出土した。

B2地区は第3面の調査を実施した。弥生時代から古墳時代にかけての竪穴建物と土坑を確認した。また、方形周溝墓1基も確認した。

B3地区は4面を調査した。第1面は室町時代で、多数のピットを検出した。第2面は平安時代後期から鎌倉時代前期である。掘立柱建物や柵列、土坑等が確認された。第3面は飛鳥時代から奈良時代で、少数のピットを確認した。第4面は弥生時代から古墳時代にかけての竪穴建物と土坑を確認した。また、方形周溝墓1基も確認した。建物が廃棄された後にも多量の土器が埋没していた。

C2地区は大川神社の御旅所でもある野々宮神社参道の南側にある。第1面は室町時代で、多数のピットを検出した。第2面は平安時代後期から鎌倉時代前期である。宋銭が20枚以上出土し

た。第3面は飛鳥時代から奈良時代で、少数のピットを確認した。第4面は弥生時代から古墳時代で、焼失した竪穴建物を確認した。

C3地区はC2地区の南部から連続する地区である。第1面は室町時代で、根石をもつ柵列を検出した。第2面は平安時代後期から鎌倉時代前期である。井戸を確認した。第3面は奈良時代である。掘立柱建物や土坑等を確認した。第4面は古墳時代から飛鳥時代である。古墳時代の方形竪穴建物を確認した。

#### 4)調査の方法

##### (1)地区割りの設定について

調査対象範囲に100m方格で9つのブロックを設定した。北西からローマ数字でI、IIとつけ、その中を5m方格に細分した。西から東にアラビア数字1、2・・・とつけ、北から南にアルファベットでa、bとつけた。

##### (2)遺構番号について

各トレンチあるいは小調査区単位に1番から順番につけた。したがって、A1地区1やA2地区1などとなる。番号の前には奈良文化財研究所による遺構の略称に従い、たとえば掘立柱建物ならばSB1などと呼称した。掘立柱建物は各ピットで構成されているので、混乱がないように、当該地区以外での文章中では、A1掘立柱建物SB1などと表記した。また、竪穴建物もB1竪穴建物SH1と表記し、遺物取り上げ番号と照合できるように、たとえばB1竪穴建物SH1(SH253)と表記することとした。

##### (3)出土遺物の整理作業ならびに報告書作成作業について

整理作業は現地調査時から行なっていたが、平成27年度に集中して行い、土器洗浄、接合、ネーミング、遺物の石膏による復元、図面調整、製図、遺物写真の撮影を逐次行った。

#### 5)大川遺跡第3次調査

##### (1)トレンチ調査の概要(第4図)

由良川上流部から下流部にむけて、第1トレンチから第12トレンチまで設定した。基本的層序は表土、地表下0.6mが室町時代の、0.9mが鎌倉時代の、1.3mが平安時代後期の遺物包含層である。それより下層は青灰色粘土や褐色砂質土であった。遺構は土坑や杭跡で、遺物は中世の土師器皿が中心で、このほか須恵器鉢、瓦器椀、陶器甕などが出土した。なお、第1～9トレンチまでは字大川で、第10トレンチは字大川と字八戸地の飛び地と字八田とに隣接する。第11～12トレンチは字八田に相当する。

##### (2)各トレンチの調査(第4図)

第1トレンチ もっとも由良川上流部に設定した東西2.4m、南北5mの長方形のトレンチである。地表下3.4mまで重機で掘削した。地表下2m以下で旧表土および鎌倉時代と戦国時代から江戸時代初期の遺物包含層を確認した。それより上層は近代から現代の置き土である。遺物包



含層中から鎌倉時代から室町時代にかけての瓦質鍋などが出土した。また、江戸時代ごろの木枠の井戸を確認した。

**第2トレンチ** 東西5.0m、南北10.0mの長方形のトレンチである。地表下2mまで重機で掘削した。その後、人力による精査をしたところ、下層で室町時代から江戸時代初期の唐津焼や石臼を含む遺物包含層を確認した。また、最下層で、石組みの溝を検出した。建物などの施設があったようである。なお、包含層からは古墳時代の須恵器が出土した。

**第3トレンチ** 東西5.0m、南北6.0mの長方形のトレンチである。地表下0.9mまで順次精査をおこなった。地表下0.5mで室町時代の杭跡を確認した。最下部では、炭混じりの土層を確認し、鎌倉時代の遺物が出土した。

**第4トレンチ** 東西10.0m、南北6.0mの長方形のトレンチである。地表下1.0mで室町時代の面を確認した。この面で、多数の杭跡を検出した。遺物は中世の中国製青磁、東播磨系須恵器鉢、紡錘車などが出土した。地表下3.4mまで重機で掘削した結果、地表下1.4mで、炭が含まれる灰褐色土を確認した。さらに地表下3.0m以下は青灰色粘土で、昭和61年当時、舞鶴市教育委員会による調査で確認された弥生時代の遺物は出土しなかった。

**第5トレンチ** 東西10.0m、南北6.0mの長方形のトレンチである。地表下0.6mで室町時代の面で土坑を検出し、地表下0.9mで平安時代後期の面を確認した。遺構としては焼土や石を含む柱穴を確認した。室町時代の面の下層では鎌倉時代の遺物包含層を確認し、出土遺物は鎌倉時代の中国製白磁・青磁、東播磨系須恵器鉢・甕、越前焼き甕、陶器甕、鍛冶滓、平安時代後期の面の出土遺物には中国製白磁、内黒の黒色土器、および古墳時代の須恵器などがある。

**第6トレンチ** 東西20.0m、南北5.0mの長方形のトレンチである。地表下0.9mで鎌倉時代～室町時代と判断される遺構面を確認し、方形に組まれた石壇状の集石遺構を検出した。信仰の対象である石塔などの台座部分と考えられる。出土遺物は中世の土師器鍋、瓦器鍋、陶器甕のほか、奈良時代の須恵器杯がある。

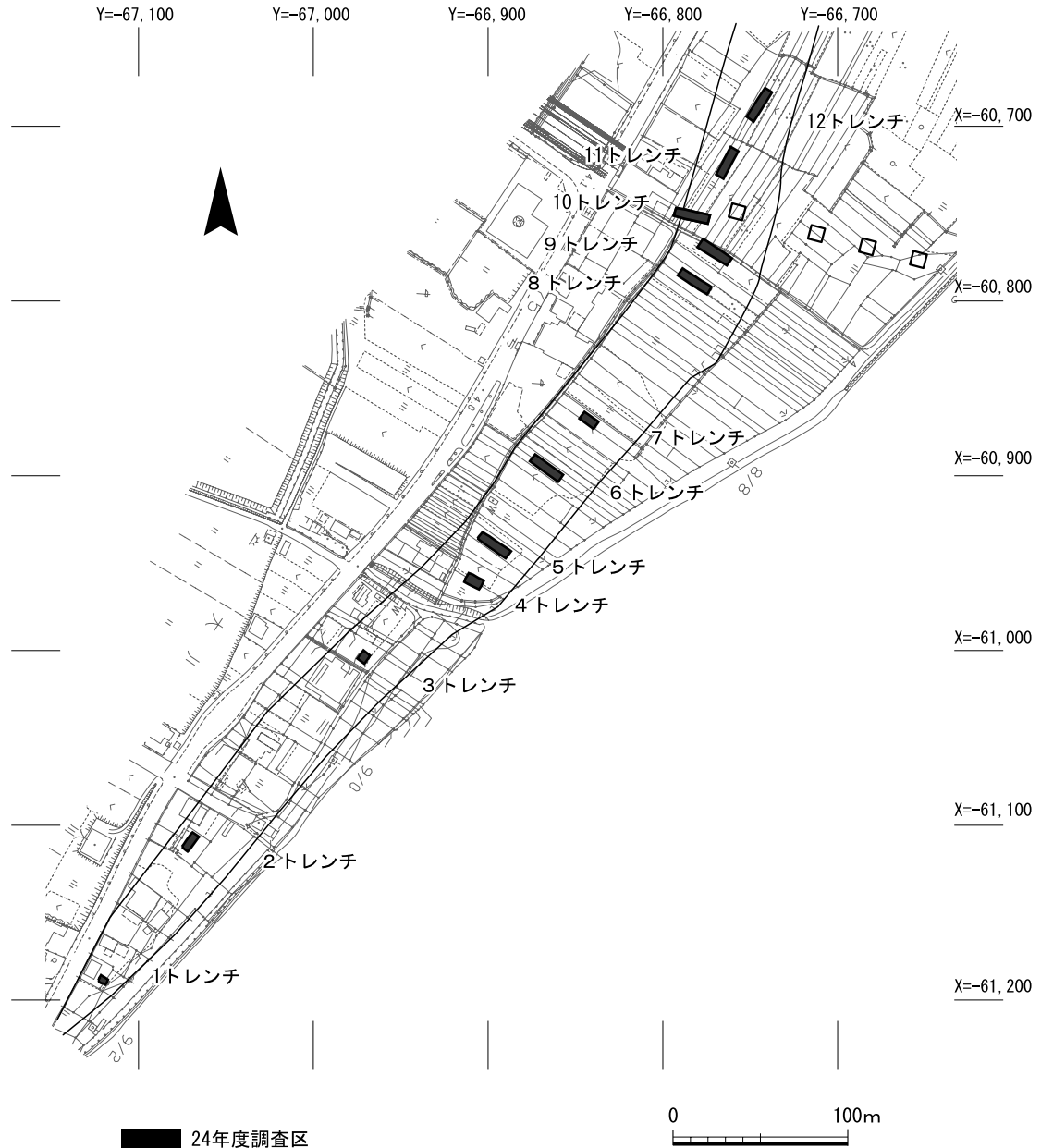
**第7トレンチ** 東西10.0m、南北5.0mの長方形のトレンチである。地表下0.8mで精査を実施した。遺構としては焼け土や石を含む土坑、平らな石を据えた柱穴を検出した。建物に伴う礎石あるいは根石と考えられる。出土遺物は鎌倉時代の瓦器椀・鍋などである。

**第8トレンチ** 東西20.3m、南北5.4mの長方形のトレンチである。地表下1.3mで炭と焼土を含む平安時代後期の遺物包含層を確認した。出土遺物は瓦器、砥石、鉄釘、越前焼き鉢、中国製青磁などである。

**第9トレンチ(第15図)** 東西20.3m、南北5.8mの長方形のトレンチである。地表下0.9mで鎌倉時代～室町時代の遺物包含層を確認した。出土遺物は瓦器椀、東播磨系須恵器鉢、中国製青磁などである。

**第10トレンチ** 東西19.6m、南北5.2mの長方形のトレンチである。地表下3mまで重機で掘削したが、砂層があるのみで、顕著な遺構・遺物はなかった。

**第11トレンチ** 東西5.3m、南北18.5mの長方形のトレンチである。地表下3mまで重機で掘



第4図 大川遺跡第3次 調査トレンチ配置図

削したが、砂層があるのみで、顕著な遺構・遺物はなかった。

第12トレンチ(第18図) 東西5.3m、南北18.5mの長方形のトレンチである。もっとも由良川下流部に設定したトレンチである。地表下3mまで重機で掘削したが、砂層があるのみで、顕著な遺構・遺物はなかった。

### (3) トレンチ調査の成果

第1～9トレンチの範囲で遺構や遺物を確認した。第4トレンチでは多数の杭跡を検出し、第6トレンチでは石塔の台座と推定される集石遺構を検出した。また、中世の遺物が多数出土したことから、中世の集落の一部を確認したと考えられる。

中世遺跡構面より下層の調査を小規模に実施したが、掘削深度がならず、遺構面は確認できな

かった。しかし、奈良・古墳時代の遺物が出土しており、各時代の遺構面が分布している可能性が高いことが判明した。

なお、第10～12トレンチでは、砂層があるのみで、顕著な遺構・遺物はなかった。西側にある谷から流れ出た土砂の堆積で形成されていることで、遺跡はこの周辺にまで広がっていないものと判断された。

#### (4)調査区の設定

第3次調査の成果により、第1トレンチから第9トレンチまでの間を面的調査することが決定された。調査対象範囲は長く、延長約500mが対象となったため、調査区を設定した。まず、最も北部(第9トレンチ周辺)から八田川までをA地区とし、1～3地区に細分した。調査ができるか所から名付けたので、最も北部がA1地区、次がA2地区、A3地区とした。八田川から大川神社参道までをB地区とした。最も北部がB1地区、ついでB2地区、最も南部がB3地区である。参道から南側をC地区とした。調査ができるか所から名付けたので、北部から、C2地区、C3地区とし、C1地区が最も南部とした。

## 2. A地区の調査

### 1) 調査の概要

A地区は大川遺跡の中でも最も川下側に位置する地区で、大字大川小字麻町・シボウにあたる。A地区の北側には、京都府教育委員会が実施した2次調査地があり、ここでは由良川に西側から注ぐ河川堆積を確認したため、遺跡の範囲外である。3次調査の第9トレンチでは鎌倉時代～室町時代の遺物包含層を確認しており、これより南西側260m、大川遺跡を北西-南東に横断する小河川を挟んでB地区となる。

調査着手直前は荒地であったが、もとは畑地として利用されていた。調査対象地の西側は農道で限られており、東側は由良川が近接している。

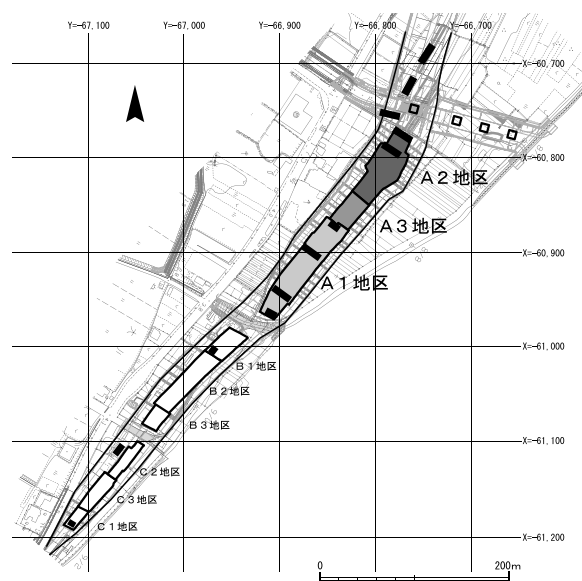
平成25年度には川上側のA1地区の調査を実施した。さらに用地買収の関係より、最も川下側をA2地区として、室町時代の遺構面までの重機掘削と部分的な遺構検出に努めた。平成26年度にはA2地区を引き続き調査し、A1地区とA2地区の間をA3地区として、調査を実施した(第5図)。

#### (1) A1地区

調査区は東西17.5～27.5m、南北121～124mの長方形のトレンチである。第3次調査の第4～7トレンチがA1地区に当たる。調査着手前の現況を見ると、調査区の中央東は窪んでおり、由良川の強い流れによって抉られたものと推測された。南側は八田川で限られ、小字は南部が麻町、北部がシボウである。

3面の調査を実施した。上から下に第1～3面とした。第1面は室町時代の遺構面で、海拔は北部が2.6m、南部が3.2mである。北部で集石遺構を検出した。調査区南部では由良川に近い東部付近を中心に多数の杭跡を検出するとともに、土師器、陶磁器が出土した。

第2面では平安時代後期～鎌倉時代の遺構を検出した。北部と南部の2か所に微高地が存在し、北部微高地の海拔が2.3m、南部微高地の海拔3.0m、南・北の微高地の間の窪地部分は比高約0.3mを測る。微高地を中心に遺構が分布していた。北部の微高地では掘立柱建物1棟、井戸1基、柱穴多数を検出した。南部の微高地では掘立柱建物3棟、柱穴、土坑、鍛冶炉6か所を検出した。南北の微高地の間の窪地部分では、東端付近で掘立柱建物1棟を検出した。出土遺物は、微高地を中心に、土師器、須恵器、黒色土器、瓦器、瓦質土器、中国製白磁・青磁、鉄器、金属製錘(棹秤)、



第5図 A地区 調査地区割

土錘などが出土した。

第3面は、調査区北部の海拔1.6m付近から古墳時代の土器が出土したことから、平安時代以前の遺構面の存在が想定された。この高さを中心に面的に精査を行ったが、安定地盤が存在せず、遺構は検出できなかった。

さらに下層の遺構面の有無を確認することを目的に4か所で海拔0.5m付近までのサブトレンチを設定し掘削を行ったが、海拔1.0～1.3mで古墳時代の遺物を含む土層を認めたと、遺構は確認できなかった。

## (2) A2地区

A2地区はA地区の中で最も北側にあり、由良川の最下流部に位置する。第3次調査の第8・9トレンチがA2地区の範囲に入る。調査区は東西24m、南北77.5～80mの長方形で、中央部が東西34mに広がっている。小字はシボウに近く、北端に隣接する農道は字八戸地の野である。

第1面は室町時代の遺構面で、わずかなピットを検出しただけである。第2面は平安時代後期の遺構面で、焼土3か所と掘立柱建物3棟、多数の土坑、柱穴を検出した。焼土のうち、南側の掘立柱建物の中央部で検出した焼土は、直径40cmの円形で、鍛冶炉として使用されたと考えられる。出土遺物は土師器皿、黒色土器椀、鉄製品をはじめ、中国製白磁椀・皿、青磁椀・皿、青白磁花形杯、石帯が出土した。第3面は、調査面および包含層中より古墳時代後期の須恵器特殊扁壺や壺、完形の須恵器提瓶がそれぞれ単独で出土した。古墳時代の遺構面と判断されるが、明確な遺構は確認できなかった。

## (3) A3地区

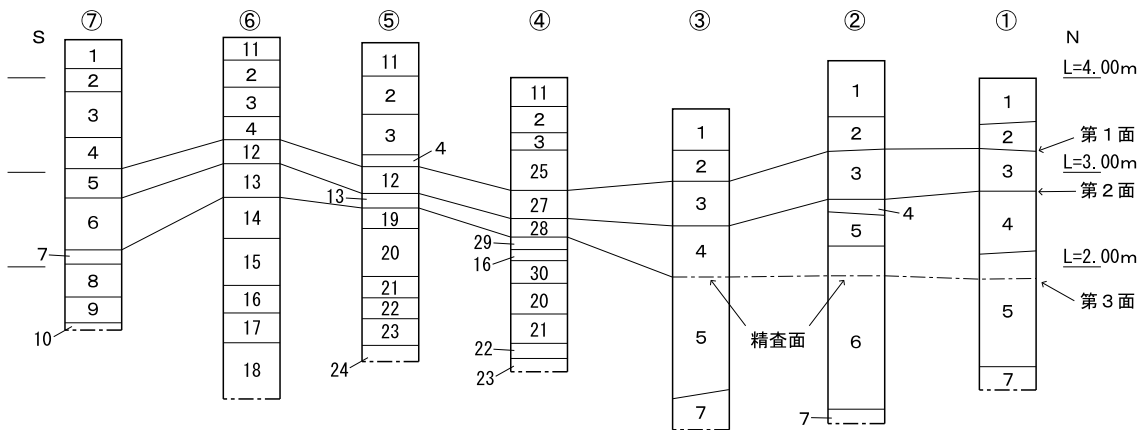
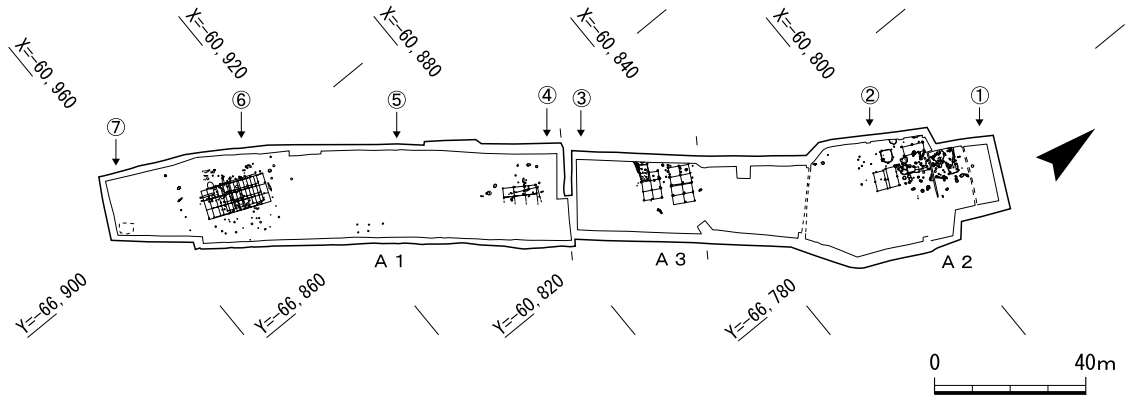
A1地区とA2地区との間に位置する調査区で、東西24m、南北34～36mの長方形の調査区である。

第1面は室町時代の遺構面で、南部で掘立柱建物1棟、柱穴を検出した。第2面は平安時代後期の遺構面で、掘立柱建物2棟、土坑、柱穴を多数検出した。柱穴の中には土師器皿、黒色土器椀のほか、中国製白磁椀と青磁椀などが出土した。第3面は古墳時代から奈良時代にかけての遺構面である。北西から南東方向にかけて幅約2m、長さ約10mの範囲に土師器壺のほか、30点以上の土師器甕が集中して出土した。

## 2) 土層の堆積状況(第6図)

調査前は荒地であったが、かつては耕作地であった。標高はA地区北端が4.2m、南端が4.6mである。

A地区の土層は調査区が南北に長いこともあって、一様ではない。もともと北側である柱状図①での土層は、1層がにぶい黄褐色(10YR7/3)表土、2層は灰黄褐色(10YR5/2)粘質、3層はにぶい黄褐色(10YR6/4)粘質、4層はにぶい黄褐色(10YR7/4)粘質、5層は明黄褐色(10YR6/6)砂質、6層がにぶい黄褐色(10YR7/4)、7層は灰色(5G)シルトである。このうち3層上面が第1面精査面(標高3.2m)、4層上面が第2面精査面(標高2.8m)、5層上位が第3面精査面(標高1.85m)



**A1地区 ④～⑦**

1. 腐植土（竹ヤブ地下茎）
2. 褐色（5YR5/1）細砂
3. 灰褐色（5YR5/2）極細砂
4. 灰褐色（5YR4/2）極細砂
5. 灰黄褐色（10YR4/2）極細砂
6. 褐色（10YR4/4）細砂
7. 褐灰色（10YR5/1）シルト質細砂
8. 灰色（N5/0）シルト
9. 灰色（N4/0）シルト
10. 灰色（N4/0）シルト質極細砂
11. 褐色（5YR4/1）砂質土（耕作土）
12. 黒褐色（5YR3/1）シルト質粗砂
13. 明赤褐色（5YR3/3）シルト質細砂
14. にぶい黄褐色（10YR5/3）極細砂
15. にぶい黄褐色（10YR5/4）細砂

16. 黄褐色（10YR5/6）細砂
17. 褐灰色（10YR5/1）極細砂
18. 黄褐色（2.5YR5/6）極細砂
19. にぶい黄褐色（10YR6/3）シルト質極細砂
20. オリーブ灰色（5GY6/1）シルト
21. 緑灰色（7.5GY5/1）シルト
22. オリーブ灰色（5GY4/2）シルト（少量の炭化物含む）
23. 緑灰色（10GY5/1）シルト
24. 暗緑灰色（10GY4/1）シルト
25. 褐色（7.5YR4/4）細砂
26. にぶい黄色（2.5Y6/4）粗砂（涌水多し）
27. 黄褐色（10YR5/6）細砂
28. 暗黄褐色（10YR6/6）粘質細砂
29. 褐色（10YR4/4）シルト質細砂
30. 褐色（10YR4/6）シルト質細砂

**A2・3地区 ①～③**

1. にぶい黄褐色（10YR7/3）表土
2. 灰黄褐色（10YR5/2）粘質細砂
3. にぶい黄褐色（10YR6/4）細砂
4. にぶい黄褐色（10YR7/4）細砂
5. 明黄褐色（10YR6/6）細砂
6. にぶい黄褐色（10YR7/4）
7. 緑灰色（5G）シルト



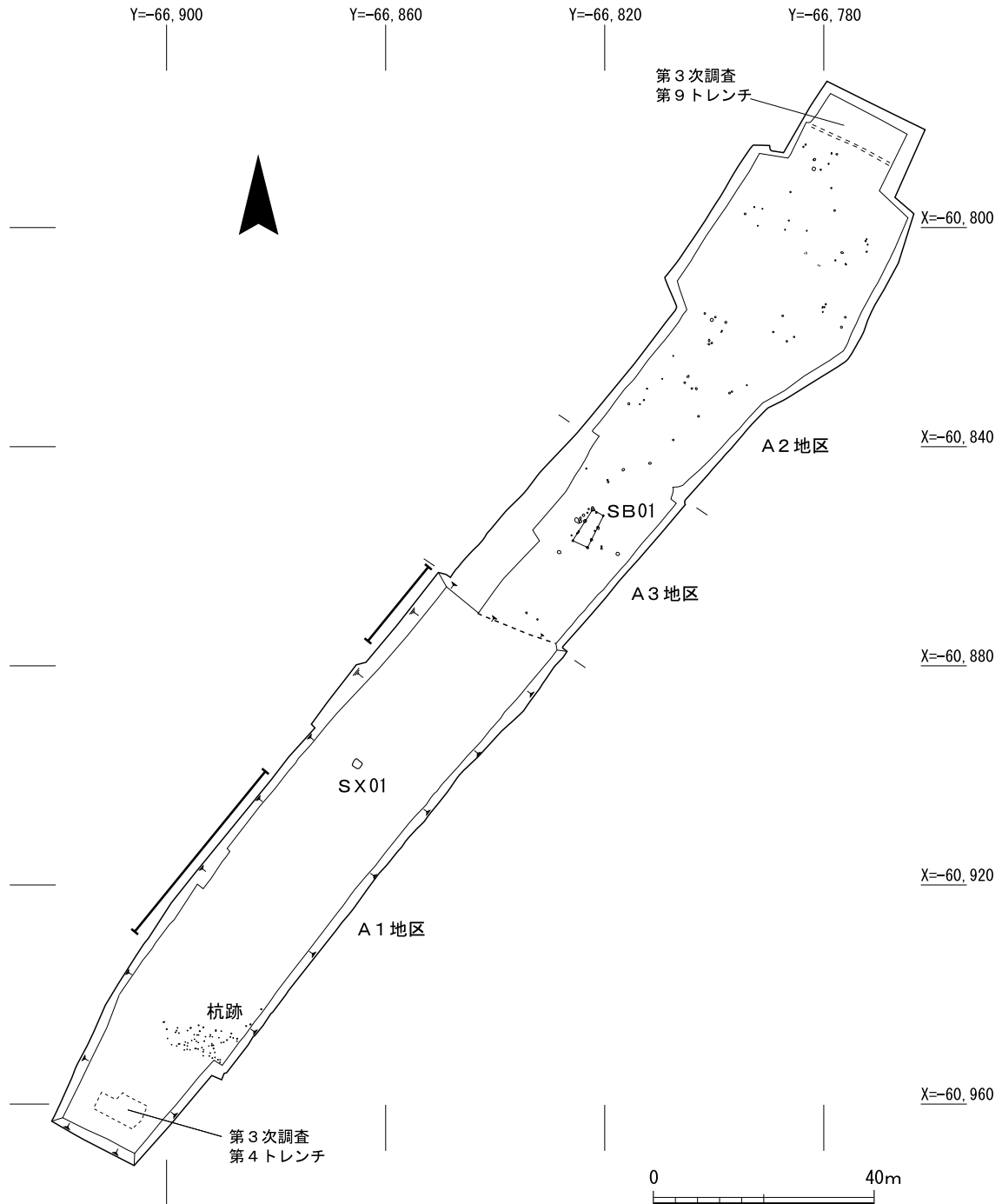
第6図 A地区 土層柱状図

である。柱状図②はほぼ同様であるが、柱状図③では第1面精査面（標高2.9m）、第2面精査面（標高2.4m）とやや低くなる。柱状図④は柱状図③とほぼ同様であるが、柱状図⑤になると第1面精査面（標高3.1m）、第2面精査面（標高2.8m）とやや高くなる。なお、柱状図⑤では、各土層に相当する土色に変化する。第1面精査面を構成する12層は黒褐色（5YR3/1）シルト質粗砂、第2面を構成する13層は明赤褐色（5YR3/3）シルト質細砂、第3面を構成する19層は、にぶい黄褐色（10YR6/3）シルト質極細砂である。柱状図⑥では第1面精査面（標高3.35m）、第2面精査面（標高3.1m）とやや高くなる。柱状図⑦は第1面精査面（3.05m）、第2面精査面（2.75m）とやや低くなる。

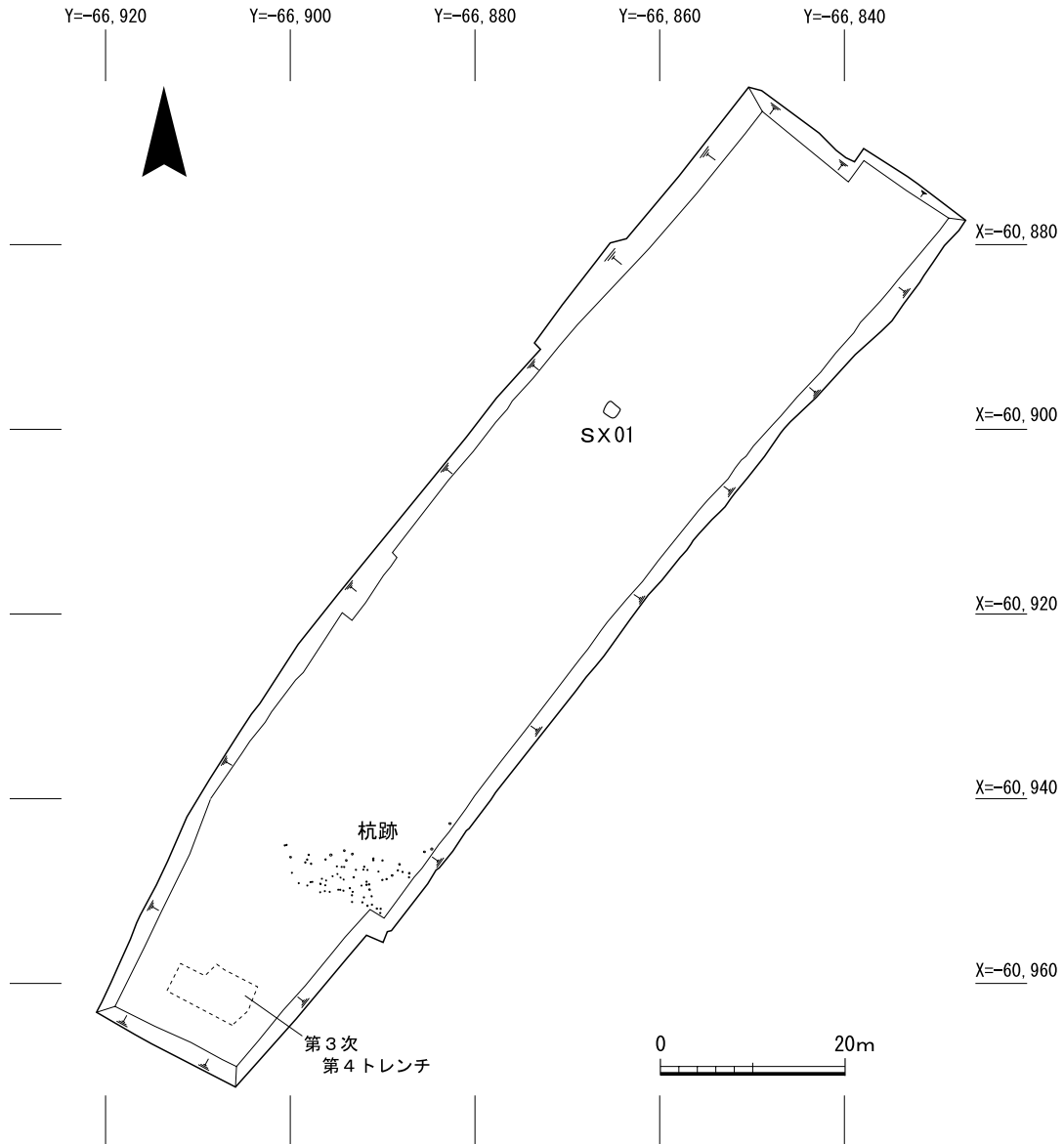
したがって、柱状図①・②と柱状図⑥のか所の遺構面が高い。遺構が集中するか所とほぼ一致している。

### 3) 第1面の調査(第7図)

第1面は室町時代の遺構面で、A1地区北部で集石遺構SX01、南部で多数の杭跡、A3地区で掘立柱建物SB01を検出した。



第7図 A地区 第1面検出遺構平面図



第8図 A1地区 第1面検出遺構平面図

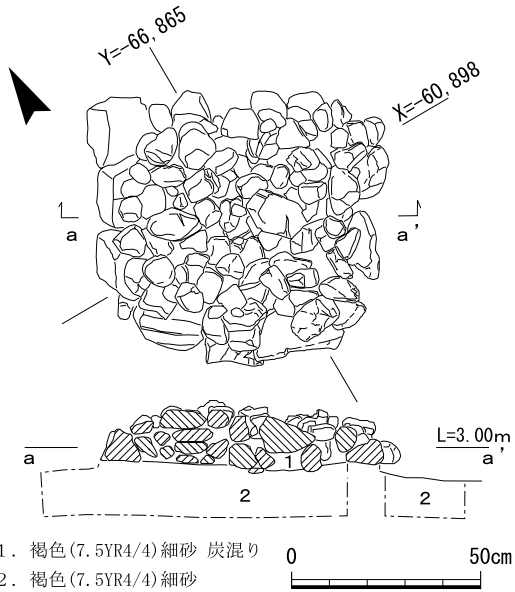
## (1) A1地区(第8図)

海拔は北部が2.6m、南部が3.2mで、黒褐色粘質土層下面で検出した。南東部で多数の杭跡を確認した。北部では集石遺構SX01を検出したのみである。

**集石遺構SX01**(第9図) 調査地の北部で検出した。方形に石を積んだ遺構である。東西0.75m、南北0.7m、高さ0.2mである。外周は1段で、内部は2段遺存している箇所もある。外周には20~25cm、厚さ10cmの角張った石を配置している。内部には7~10cm、厚さ5cmの丸まった河原石を配置している。出土した遺物は少量で、時期を特定することは難しいが、出土した中国製龍泉窯青磁椀片の年代観から、14世紀には存在していたと考えられる。

**杭跡** 調査区の南東部で100か所以上検出した。調査区の全面に分布しているのではなく、南東部だけに集中している。直径は10~15cmで、深さは10~20cm程度であるが、遺構の径が小さいため、杭跡の底面を確認できていないものもあり、さらに深くまで打ち込まれているものもあ





第9図 A1地区 第1面  
集石遺構 S X01実測図

る。柵としてのまとまりは認められない。杭跡は、乱雑に打ち込まれて整然と並ばないことから、屋敷地や田畑などを限る施設とは考えにくい。出土遺物には土師器小片がある。

(伊野近富)

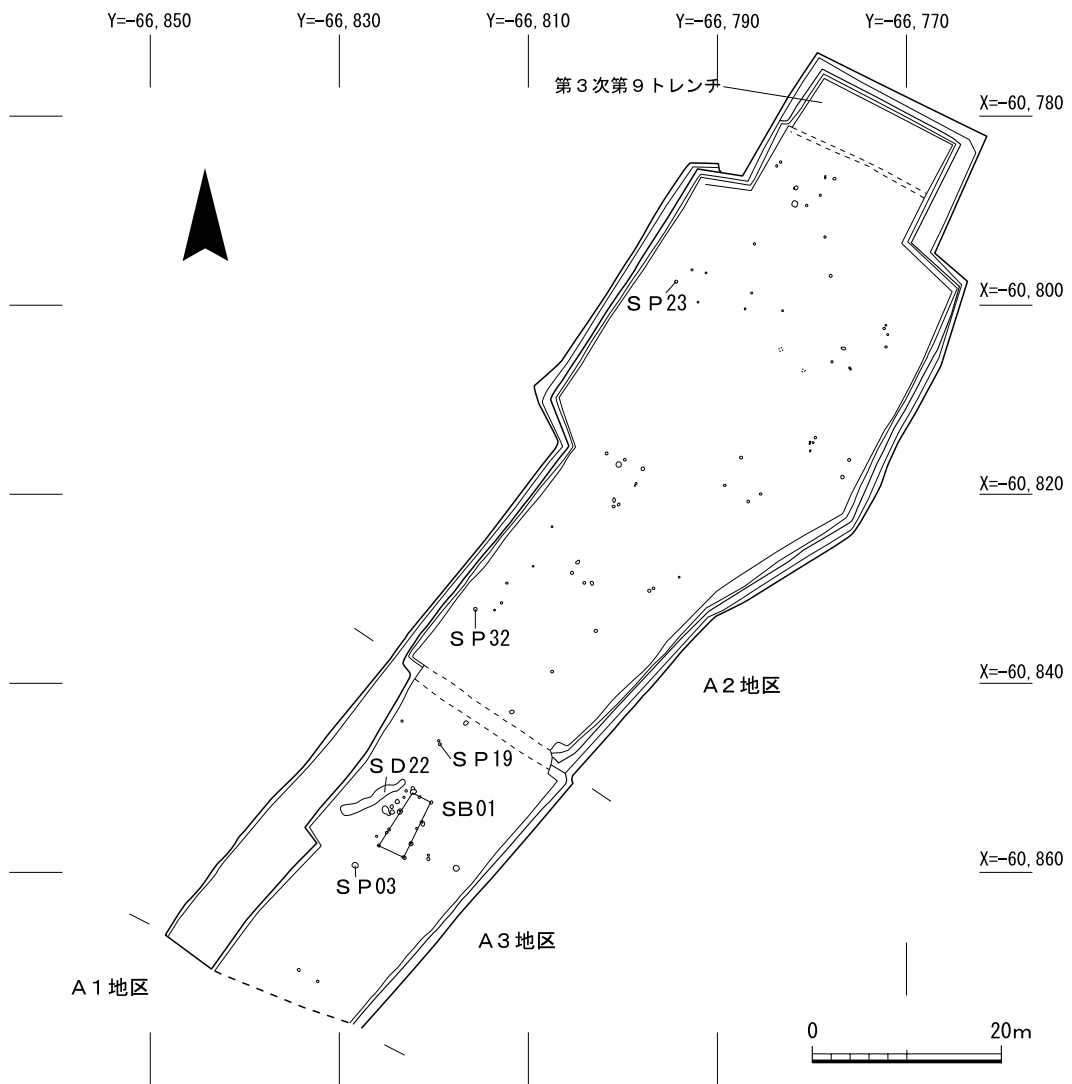
(2) A2地区(第10図)

調査区の全面で少数のピットを検出した。平面形は円形で、直径は5~10cm、深さは10~20cmである。掘立柱建物や柵としてのまとまりは認められない。

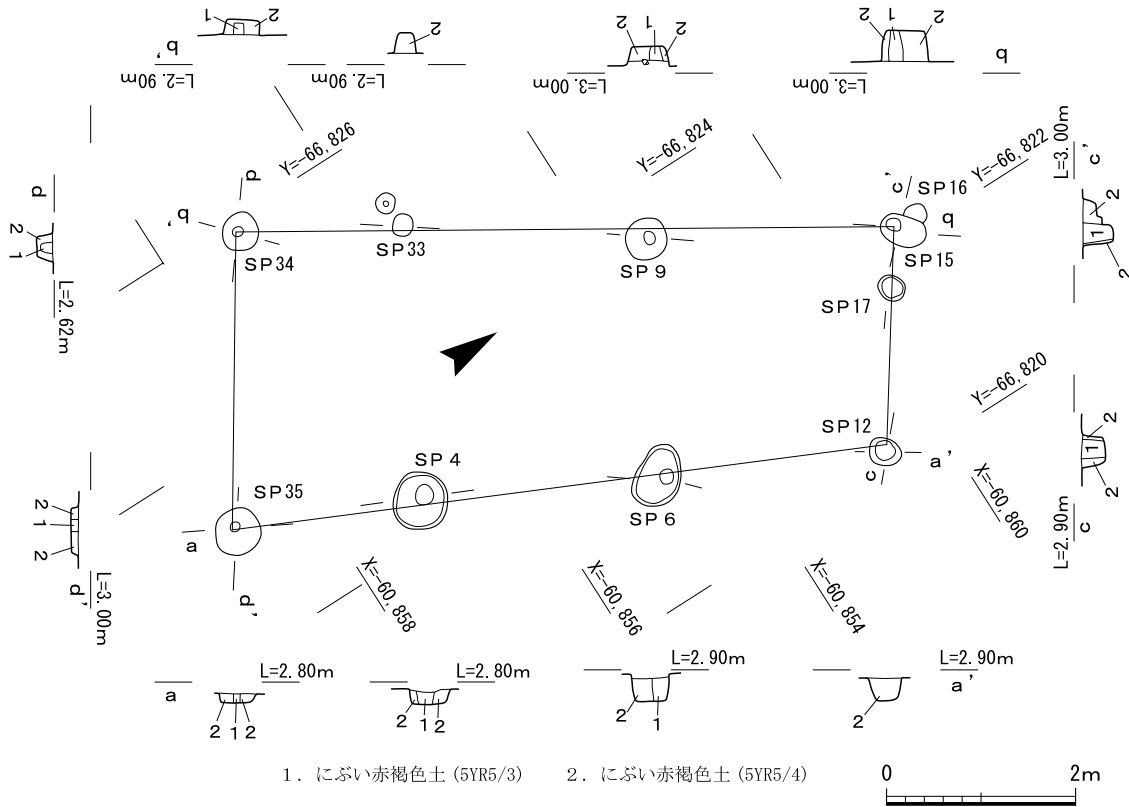
出土遺物には土師器小片がある。

(3) A3地区

調査区の中央やや北部で掘立柱建物を検出し



第10図 A2・3地区 第1面検出遺構平面図



第11図 A3地区 第1面掘立柱建物SB01実測図

た。調査面は灰黄褐色粘質土層の上面である。

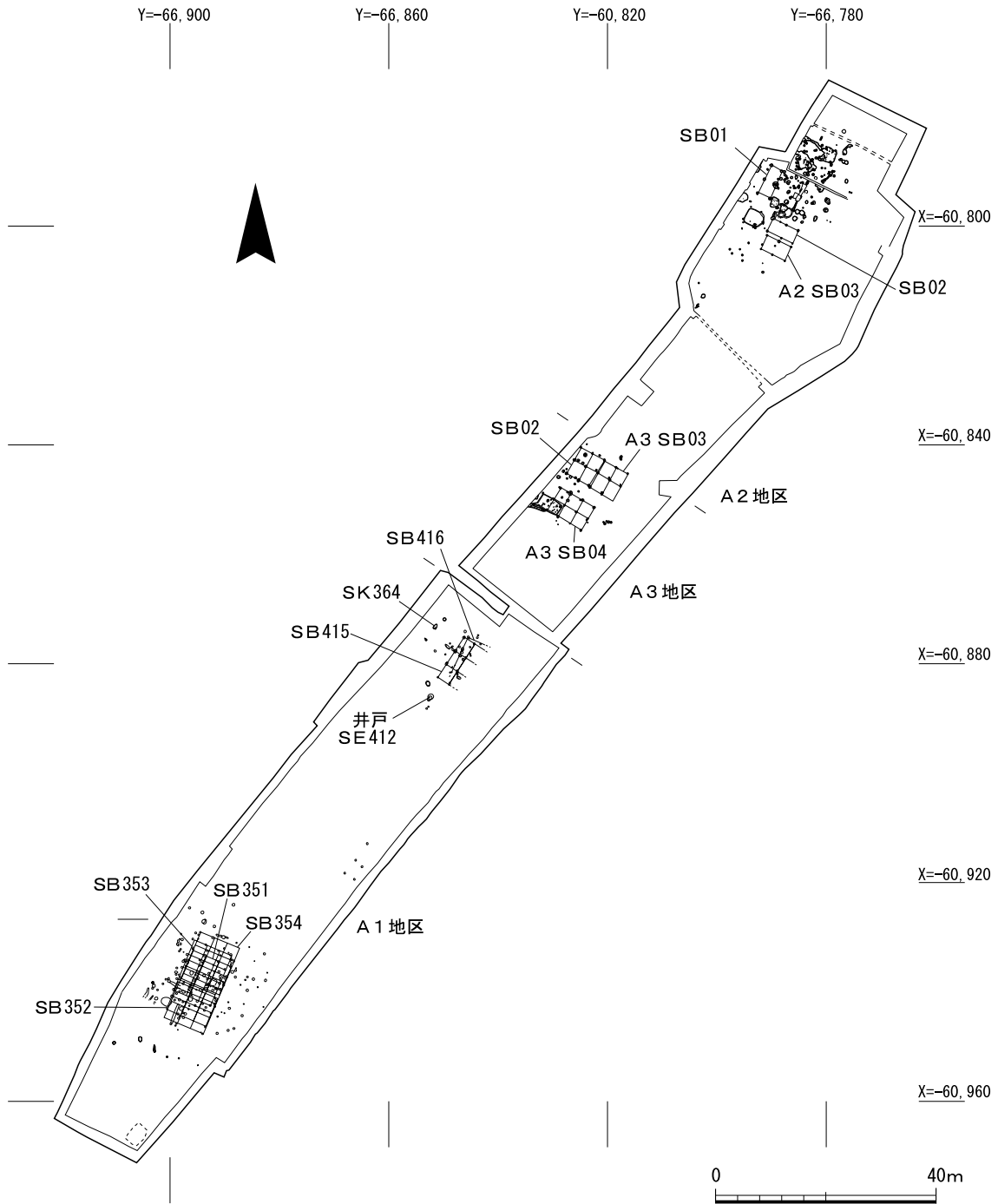
掘立柱建物SB01(第11図) 調査区の北西部で検出した。平面形はやや歪で、北側にやや狭まる台形を呈している。東西1間(1.2~1.6m)、南北3間(3.5m)である。北西隅の柱穴は隅丸方形で、東西0.48m、南北0.4m、深さ0.32mである。北に対して東に30°程度振れており、由良川の河道にほぼ平行する。柱を抜き取った形跡はない。

(伊野近富)

#### 4) 第2面の調査(第12図)

##### (1) A1地区(第13図)

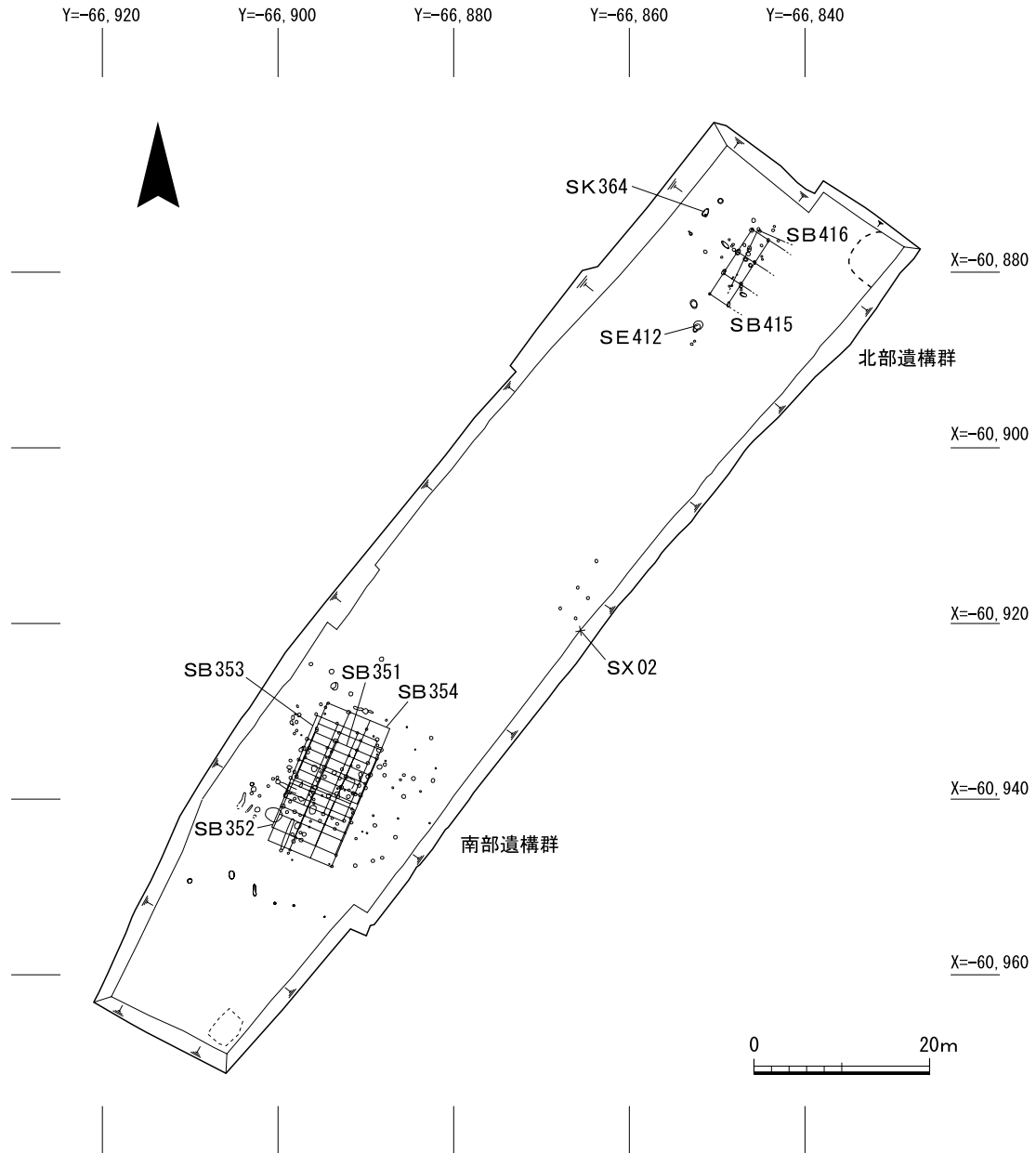
平安時代後期から鎌倉時代の遺構面である。遺構を検出した基盤層は明赤褐色シルト質細砂(第6図⑥13層)である。遺構面は西から東方向に緩やかに下る地形であるが、調査地南部には北西から南東方向に舌状に延びる微高地が存在する。また、A1地区の北側にもA3地区に続く微高地が存在し、A3地区の遺構群と一連のものと判断される。南北2か所の微高地の間の窪地は遺構面が約0.3m低くなる。南部の微高地の最高地点は海拔3.1mを測り、北部の微高地は海拔2.6mである。南部の微高地は由良川に近い東方向にも緩やかに下り、東壁付近で遺構を検出した海拔は2.4mである。北部微高地と南部微高地の遺構群は約70m離れており、その間にはほとんど遺構は存在しない。遺構群はこの南北2か所の微高地上に広がる。調査地中央部と南端部は、標高が高いところまでグライ化したシルトが堆積しており、そのシルト内にも由良川由来の砂が堆積していることから、地下水位が高くしかも由良川の影響を受けやすい環境にあり、容易に宅地化



第12図 A地区 第2面検出遺構平面図

できない軟弱地盤であったことが窺われる。

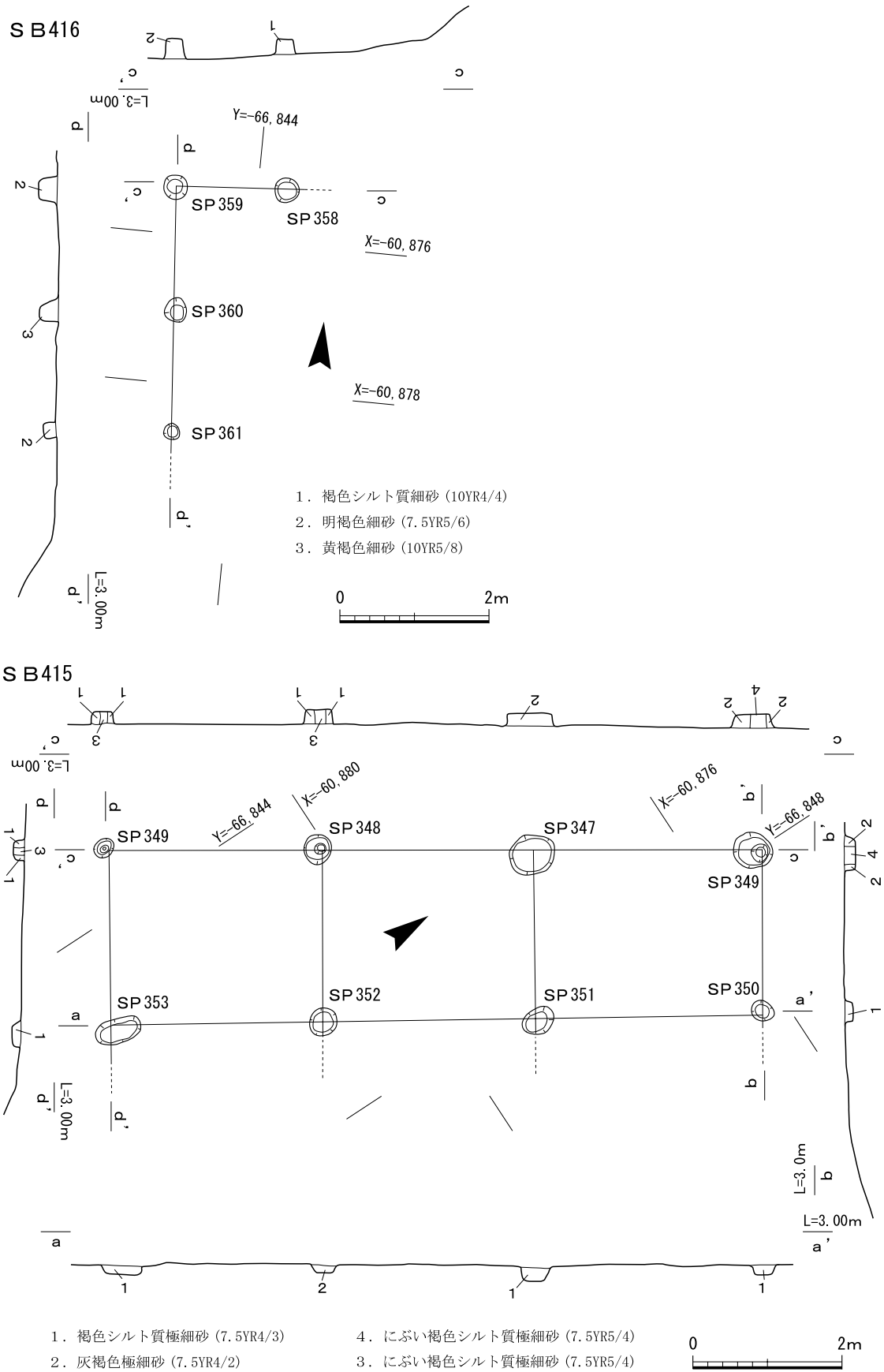
北部と南部の微高地上を中心に、掘立柱建物や井戸、鍛冶炉などを検出した。遺物は土師器皿や黒色土器、瓦器、須恵器が主体で、中国製白磁や青磁が多数出土した。特に南部では、掘立柱建物4棟と鍛冶炉、土坑等の遺構を検出したが、これらの建物は鍛冶工房関連の建物とみられる。複数の建物が重複して検出したことから、建物は長期間にわたってほぼ同一地点で建て替えられたものと判断される。この面の直上の遺物包含層(第6図⑤第12層)から鉄製の竿秤の錘が1点出土した(第202図1744)。



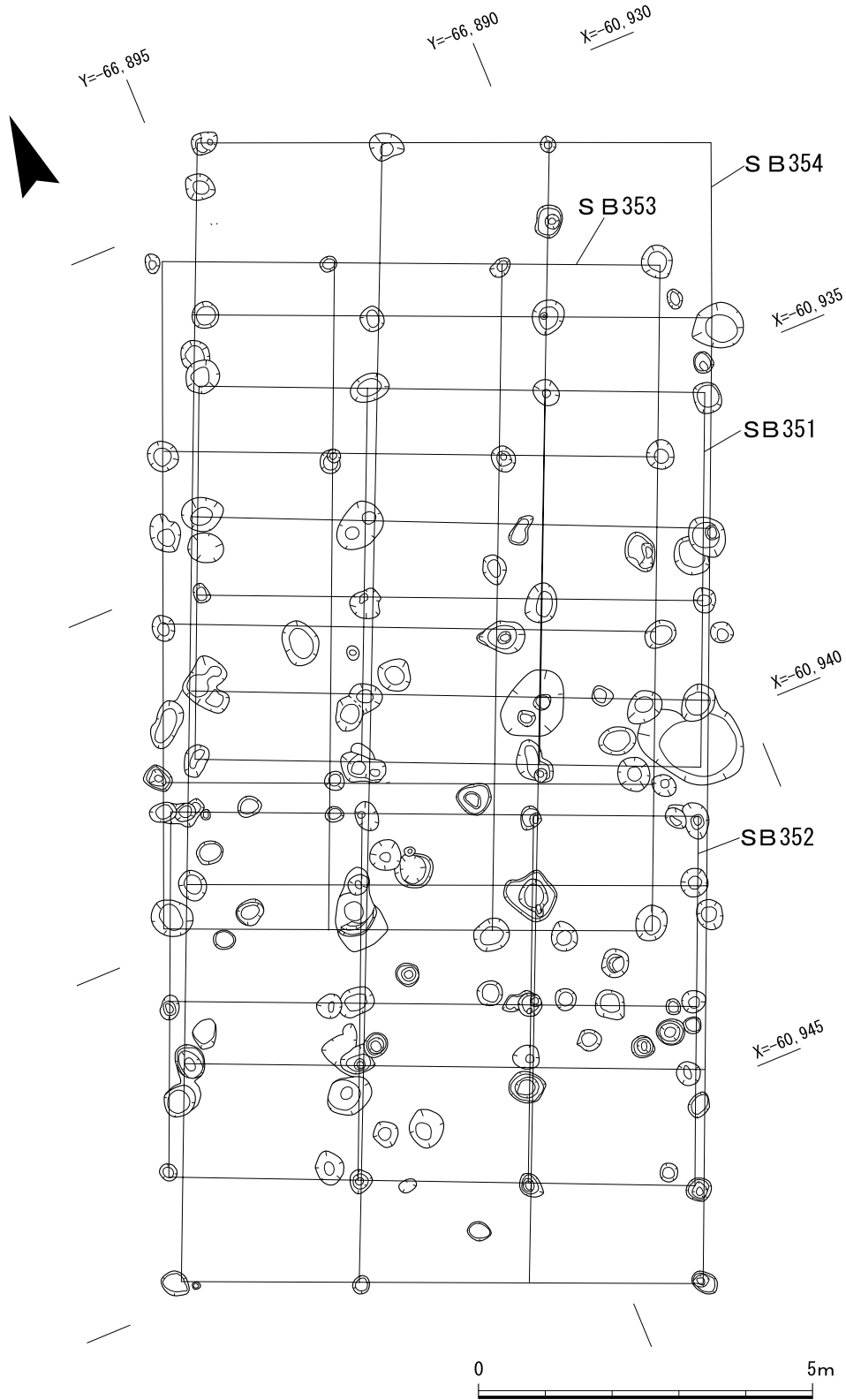
第13図 A1地区 第2面検出遺構平面図

掘立柱建物SB415(第14図) 東西1間以上(2.36m以上)、南北3間(8.8m)の規模を測る総柱の建物である。建物は、西から東方向に緩やかに下がる傾斜面上で検出した。建物の西側柱列は標高2.6mに位置する。建物の主軸は北に対して33°東に振る。建物の東部は、後世の段階で大きく削られ失われている。円形の柱穴掘形は直径が0.3~0.5mを測り、深さは0.2m前後と浅い。建物の西側柱列の柱穴では、埋土の観察から4基中3基で柱痕を確認できた、柱痕跡の直径は0.18m前後である。

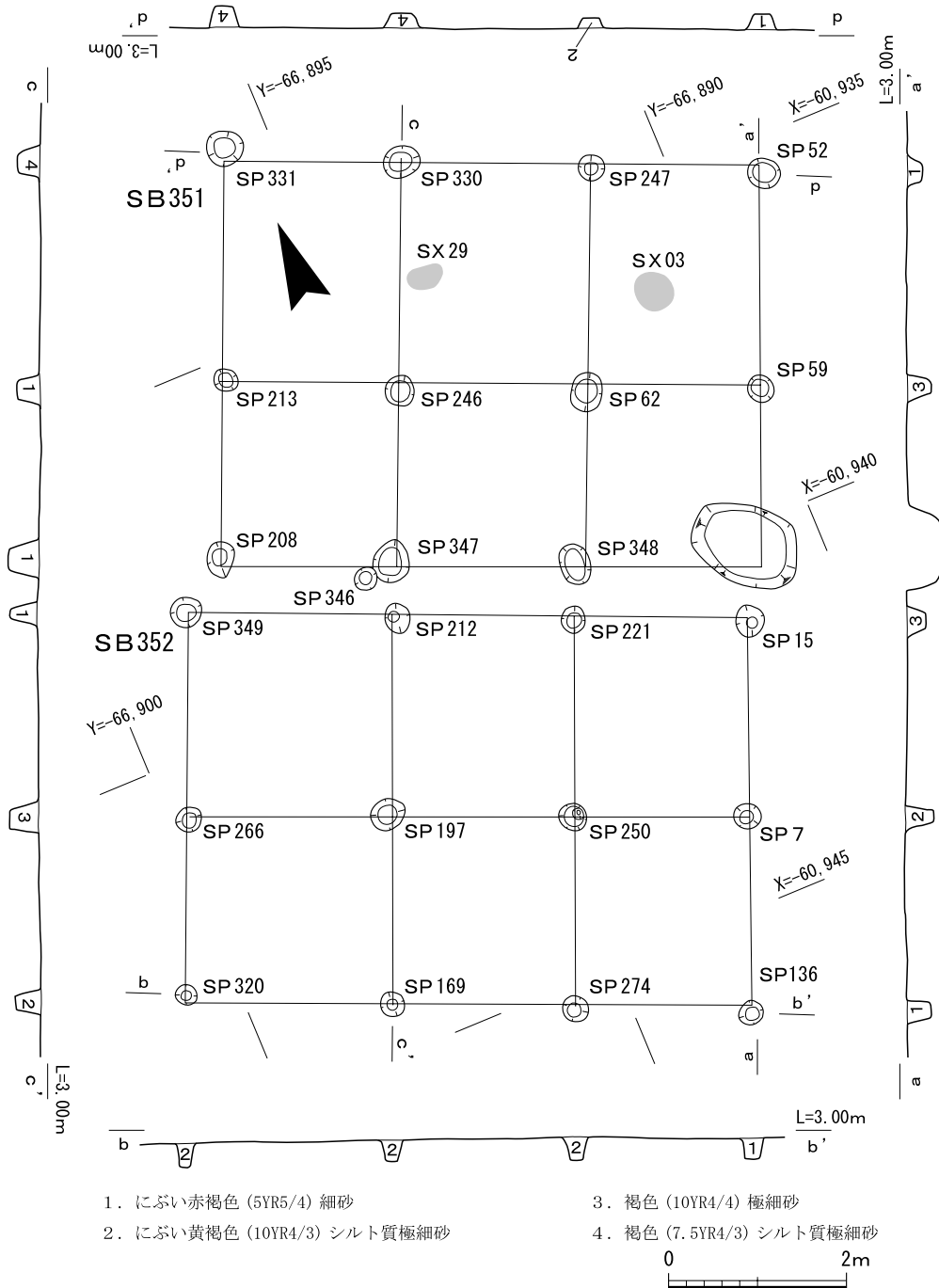
掘立柱建物SB416(第14図) SB415と重複して検出したが、柱穴の切り合い関係にはない。東西1間(1.5m)、南北2間(3.3m)分を検出した。建物の主軸は北に対して5°東に振る。南北方向の柱穴心々間距離が東西間より長いことから、南北主軸の建物の可能性が高い。円形の柱穴掘



第14図 A1地区 第2面掘立柱建物SB415・416実測図



第15図 A1地区 第2面掘立柱建物SB351~354実測図



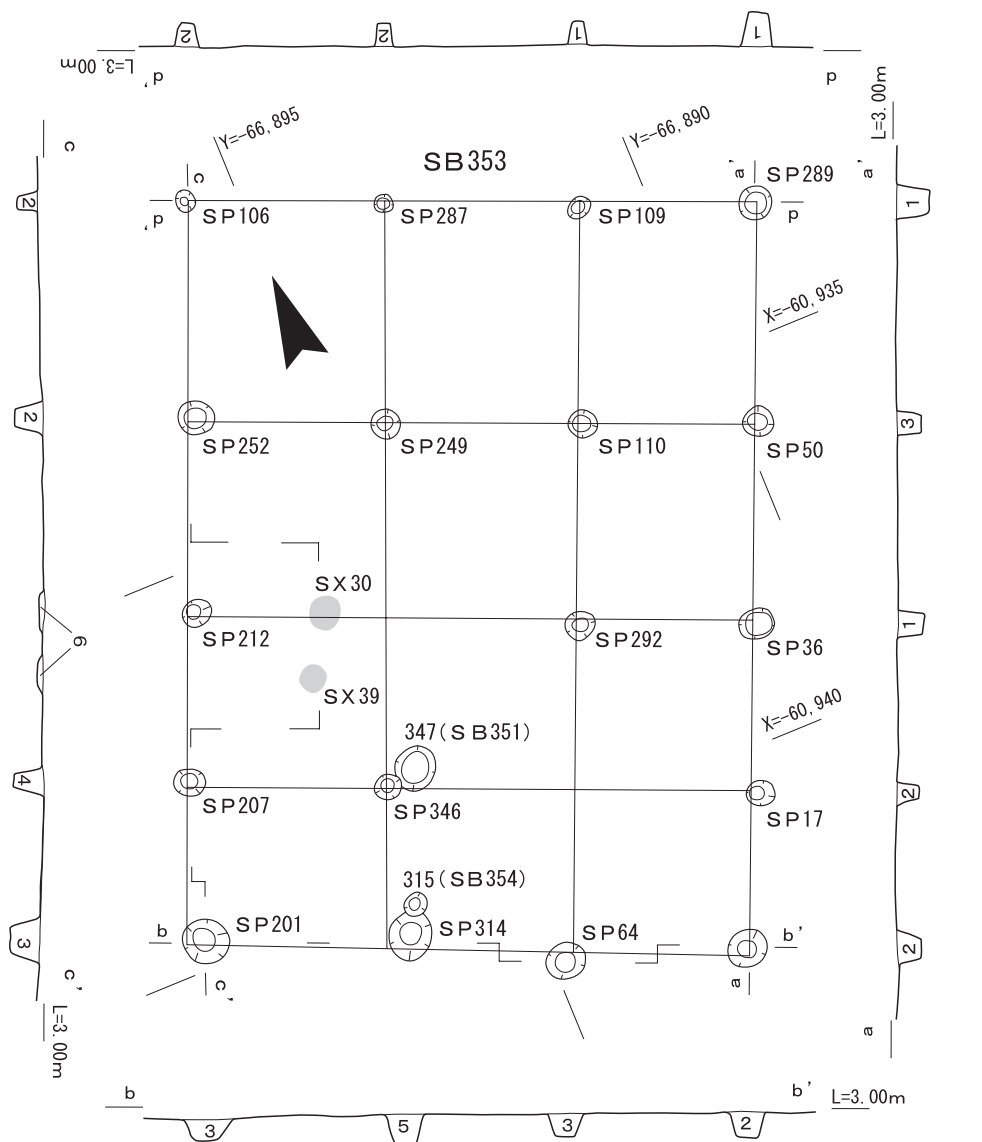
第16図 A1地区 第2面掘立柱建物S B351・352実測図

形は直径0.4m、深さ0.3mを測る。

掘立柱建物S B351(第15・16図) 南部で検出した。東西3間(6.2m)、南北2間(4.6m)の規模を測る総柱の掘立柱建物である。主軸方位は北に対して23°東に振る。円形の柱穴掘形は直径0.2~0.4m、深さは0.2~0.3mを測る。建物南西部の柱穴S P347は、S B353の柱穴S P346と切り合い関係にあり、S P346に切り負ける。建物北部域の床面から焼土2か所(S X03・29)を検出した。S X03とS X29は東西に2.2mの間隔を置いて存在し、建物の北側梁間1間のほぼ中間に位置する。付近の床面で土を採取し水洗を行った結果、鍛造剥片が多数出土した。この成果に

より、炉 S X03と炉 S X29は鍛冶炉であったことが明らかとなった。柱穴 S P213の埋土中から土師製回転台柱状底部(第148図201)の出土をみた。S P330では東播系須恵器鉢(第149図240)、S P331では回転台土師器の底部(第153図237)が出土した。

**炉 S X03 (第21図)** 掘立柱建物 S B351内の北東部で検出した鍛冶炉と判断する遺構である。平面が0.38m×0.43m、深さ0.2mの規模を測り、炉内を碗状に掘り下げている。炉内の表面(第6層上面)は特に高温で焼けて、一部がガラス化して硬化する。なお、この硬化面は被熱の影響で凹凸や亀裂を生じている。硬化した範囲のうち、北西側は幅0.1m、長さ0.35mにわたって溝状に途切れている。この範囲の底面は、西側から東側に、上方から炉の中心部に向かって15°の傾斜角で下がる状況から、この位置に轆が設置されたと判断する。ただし、轆自体は残っていない。



- |                            |                             |
|----------------------------|-----------------------------|
| 1. にぶい赤褐色 (5YR4/2) シルト質極細砂 | 4. 褐色 (10YR4/4) 細砂          |
| 2. 灰褐色 (7.5YR4/2) 細砂       | 5. にぶい黄褐色 (10YR5/3) シルト質極細砂 |
| 3. にぶい黄褐色 (10YR4/3) 細砂     | 6. 焼土                       |



第17図 A1地区 第2面掘立柱建物 S B353実測図



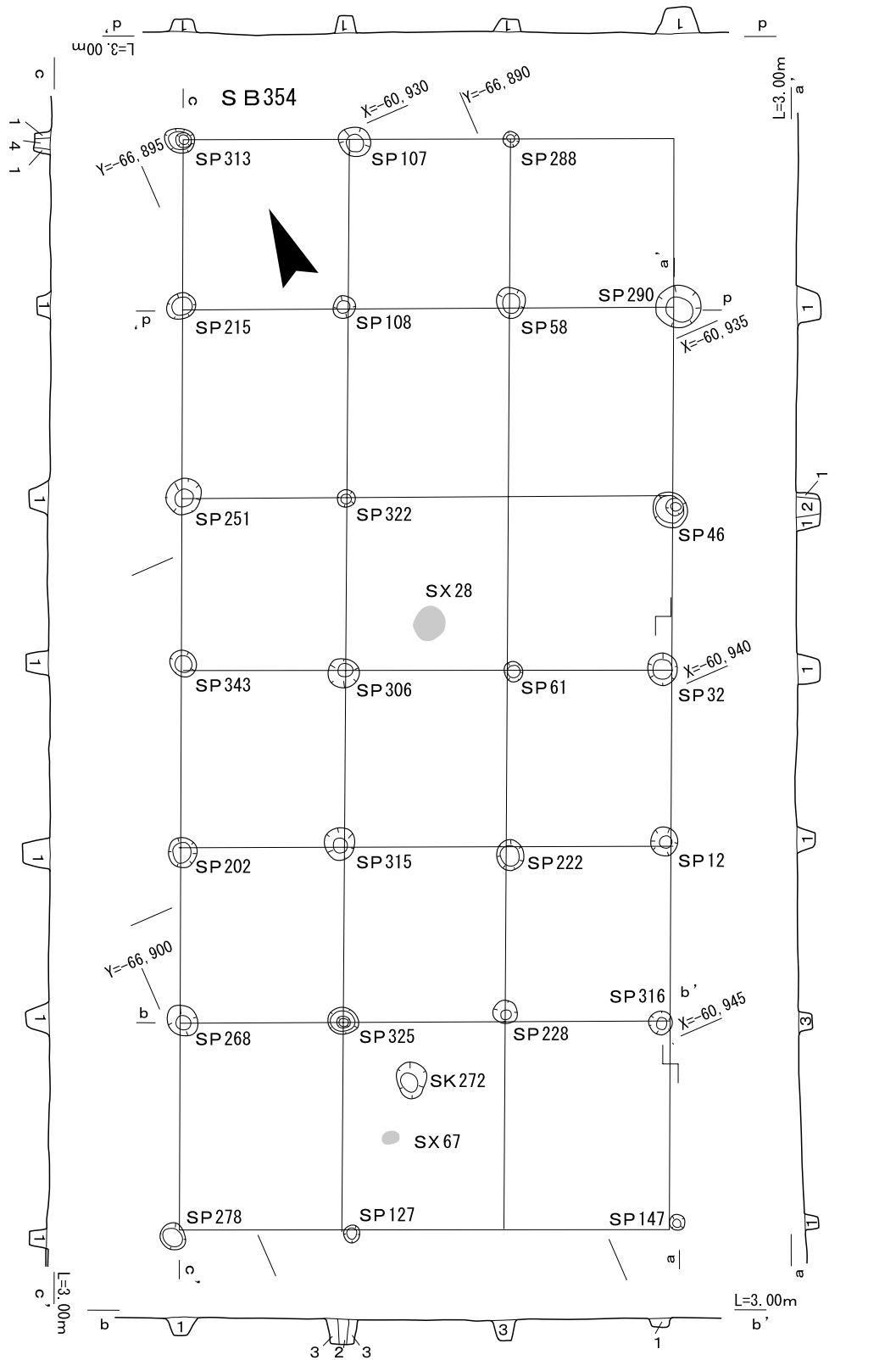
炉底部を確認するためにサブトレンチを設定し、断ち割りを行ったところ、炉底のさらに下で古い時期の炉と判断する焼土(第8層)を検出した。この第8層の上面は黒灰色を呈し硬化している。この硬化面は中央が窪んで凹形を呈しているが、この硬化面は平滑であった。新しい段階の炉内表面と判断する第6層面にみられた炭やガラス化物質の塊は認められず、対照をなす。また、この段階の轆を設置した痕跡も確認できなかった。以上のことから、新たに鍛冶炉を構築する際に、古い段階の炉の上部を壊して底部を削り整え、その上に粘土を貼り付けて新たな炉を作ったと判断される。

**炉 S X 29** 掘立柱建物 S B 351内の中央部北端付近で検出した焼土である。平面形は0.3~0.4mの規模で円形に近い。炉 S X 03とは異なり、地面が高温で固く焼けた状況ではない。炉上部はすでに削平を受け、被熱により赤化した、炉底部の焼土部分を検出したものとする。

**掘立柱建物 S B 352** (第15・16図) S B 351の南側で近接して検出した総柱の掘立柱建物である。東西3間(6.2m)、南北2間(4.6m)を測り、建物の主軸は北に対して23°東に振る。円形の柱穴掘形は直径が0.2~0.4m、深さは0.2~0.3mを測る。S B 351と S B 352は柱筋が南北方向で揃うことから、同時期の建物である可能性が高い。建物の間隔は柱穴心々間の距離で0.3mしか空かないことから、建物の軒先は接していたと判断される。S B 352の床面では炉が検出されない状況から、この建物では、鍛冶が行われていないと推測される。柱穴 S P 15から回転台土師器皿、土師器鍋が出土した。S P 212からは、瓦器皿(第148図198)、青磁皿(第148図200)が出土した。

**掘立柱建物 S B 353** (第15・17図) S B 351・354と重複して検出した総柱の掘立柱建物である。東西3間(5.9m)、南北4間(7.9m)を測り、総建物の主軸は北に対して22°東に振る。円形の柱穴掘形は直径が0.2~0.4m、深さは0.3m前後を測る。S B 353の柱穴 S P 346が S B 351の S P 347に切り勝つ関係から、S B 353は S B 351より新しい建物であることがわかる。建物の柱穴列のうち、西から第2列目の南北方向の柱列のうち、中央に位置する柱は繰り返し精査を実施したが、検出できなかった。この建物を構成する他の柱穴は、掘形がある程度の深さであることから、この柱穴だけが削平を受けて消失したとは考えにくい。このことから、建物の中央部西側に、3.2×3.6mの空地が存在したと復原できる。また、同範囲の床面上では、炉と判断される焼土を2か所で検出した(S X 30・39)。2か所の炉は間隔が0.4mと狭いことから、同時に併存したとは考えにくい。新旧2時期の炉床と判断するが、先後関係は不明である。柱穴 S P 50からは土師器高台の底部(第144図76)、S P 106からは回転台土師器の皿と杯(第148図194・193)、S P 201から鉄製釘(第202図1720)、S P 249からは回転台土師器皿(第144図88)、S P 252から土師器皿(第148図187)、S P 314から黒色土器椀、白磁椀(第149図230)が出土した。

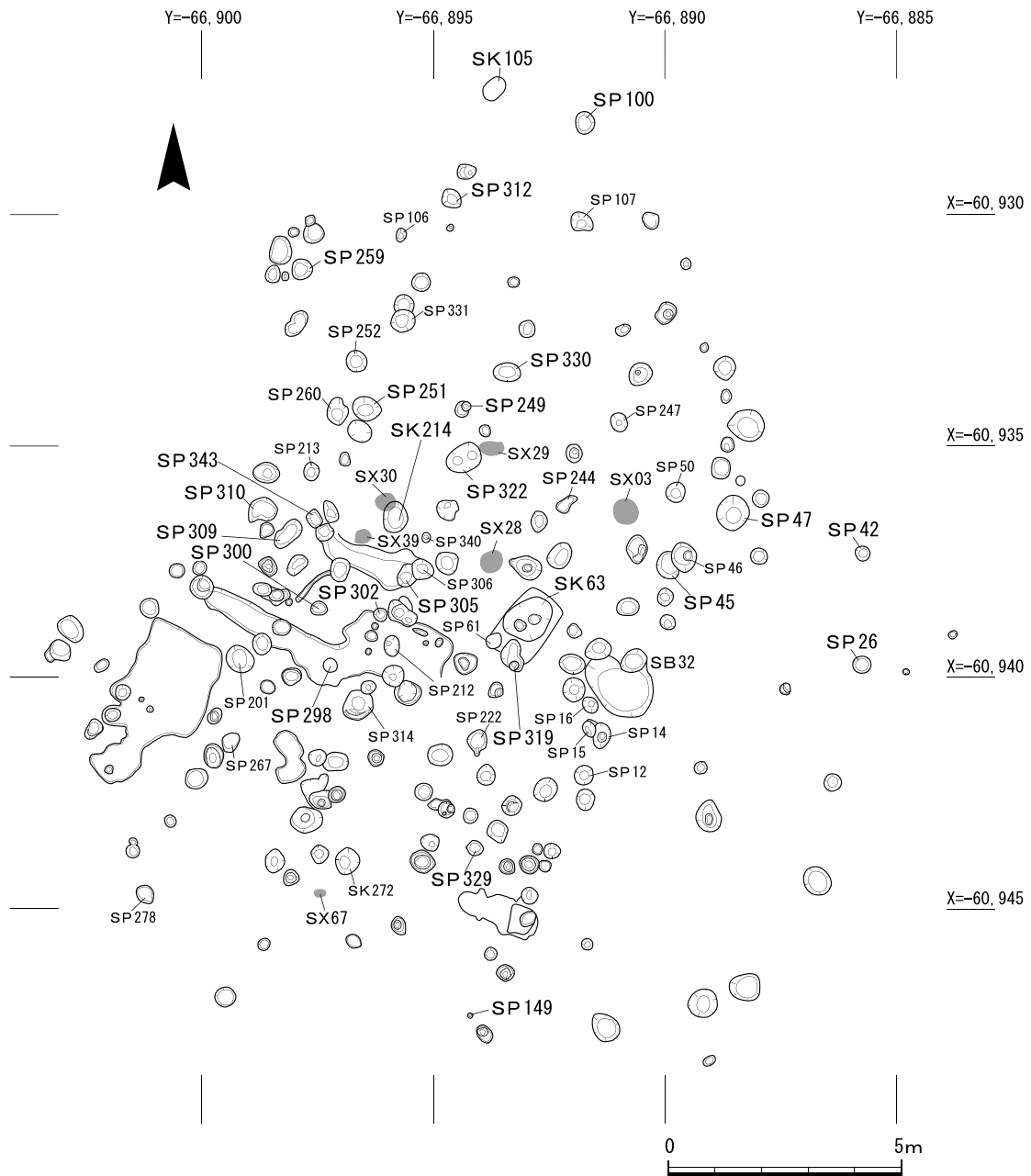
**掘立柱建物 S B 354** (第15・18図) 東西3間(7.7m)、南北6間(17.0m)の規模を測る、総柱の掘立柱建物である。建物の主軸は北に対して24°東に振る。円形の柱穴掘形は直径が0.2~0.4m、深さは0.2~0.4mと規模にばらつきが認められる。柱穴の切り合い関係がないことから、S B 351~353との新旧関係は不明である。桁行の柱間はほぼ2.7mの等間隔であるが、南端の1間分だけ3.2mと他の桁行と比べ長い。この南端の桁行部分では、梁間中央部で炉 S X 67(第21図)と土坑



- |                         |                          |
|-------------------------|--------------------------|
| 1. 褐色 (10YR4/4) 極細砂     | 3. にぶい黄褐色 (10YR5/4) 細砂   |
| 2. 褐色 (7.5YR4/4) シルト質細砂 | 4. 褐色 (7.5YR4/3) シルト質極細砂 |



第18図 A1地区 第2面掘立柱建物SB354実測図



第19図 A1地区 第2面南部検出遺構平面図

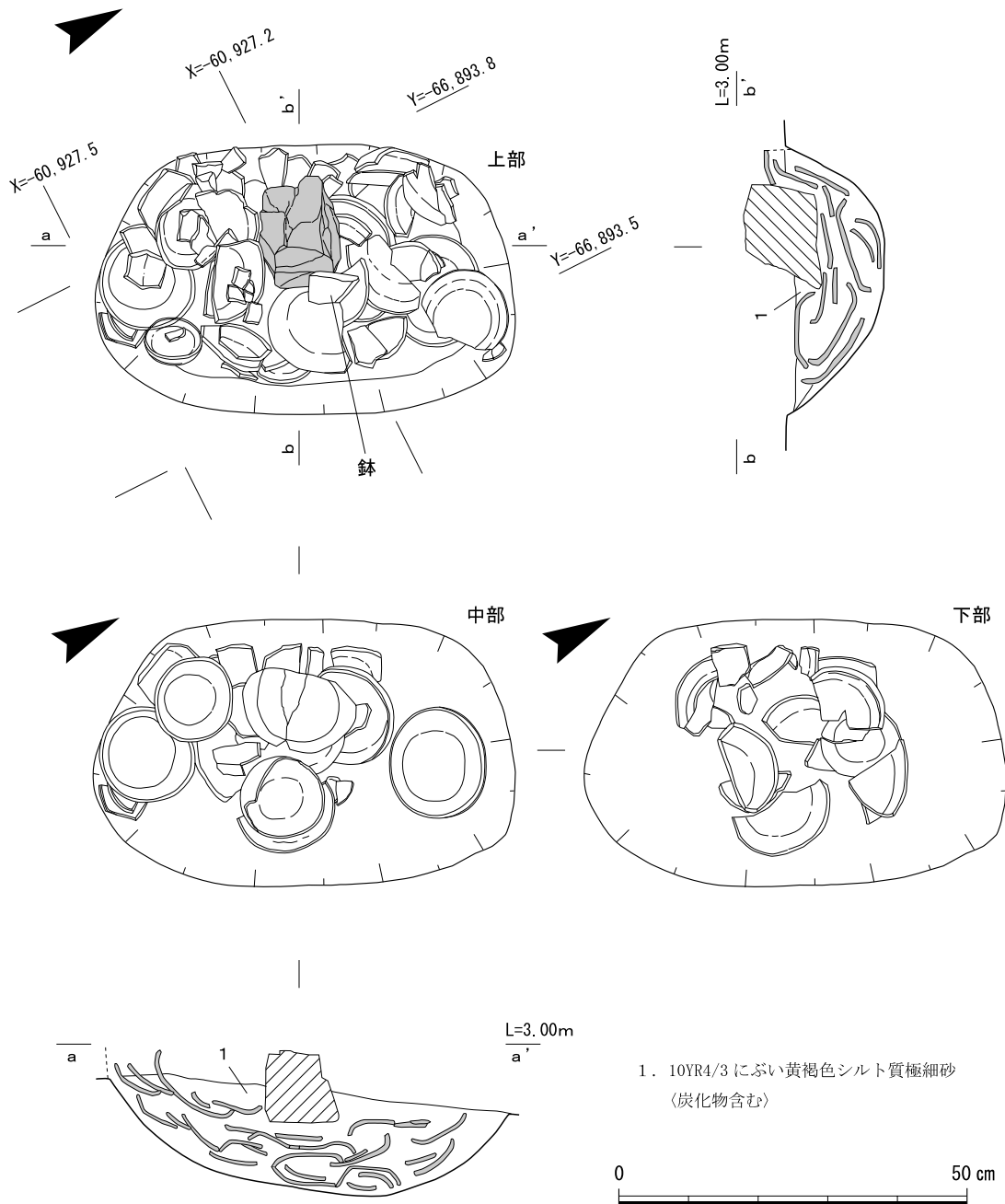
S K272(第21図)を検出した。また、建物中央部でも炉の残欠と判断される焼土(S X28)1基を検出した。柱穴S P12は円形掘形で直径0.6m、深さ0.4mを測る。埋土は褐色極細砂で、土師器燈明皿(第144図66)が出土した。S P107は直径0.4m、深さ0.3mを測り、埋土は褐色極細砂である。埋土中から回転台土師器の皿と杯(第148図195・196)が出土した。S P46から回転台土師器皿(第144図74)、S P61から回転台土師器皿、黒色土器椀、砥石(第144図77・82・85・87)、S P222から黒色土器椀(第148図204)、S P251からは土師器皿(第148図211)、S P278から瓦器椀(第148図214)、S P306から回転台土師器皿・杯、黒色土器椀(第148図226・227)が出土した。

炉S X67・土坑S K272(第21図) S B354床面南端付近で検出した。地面が特に硬く焼け締まり、周辺土壌から鍛造剥片が出土した。S K272は、S X67の北東0.7mの位置で検出した。土

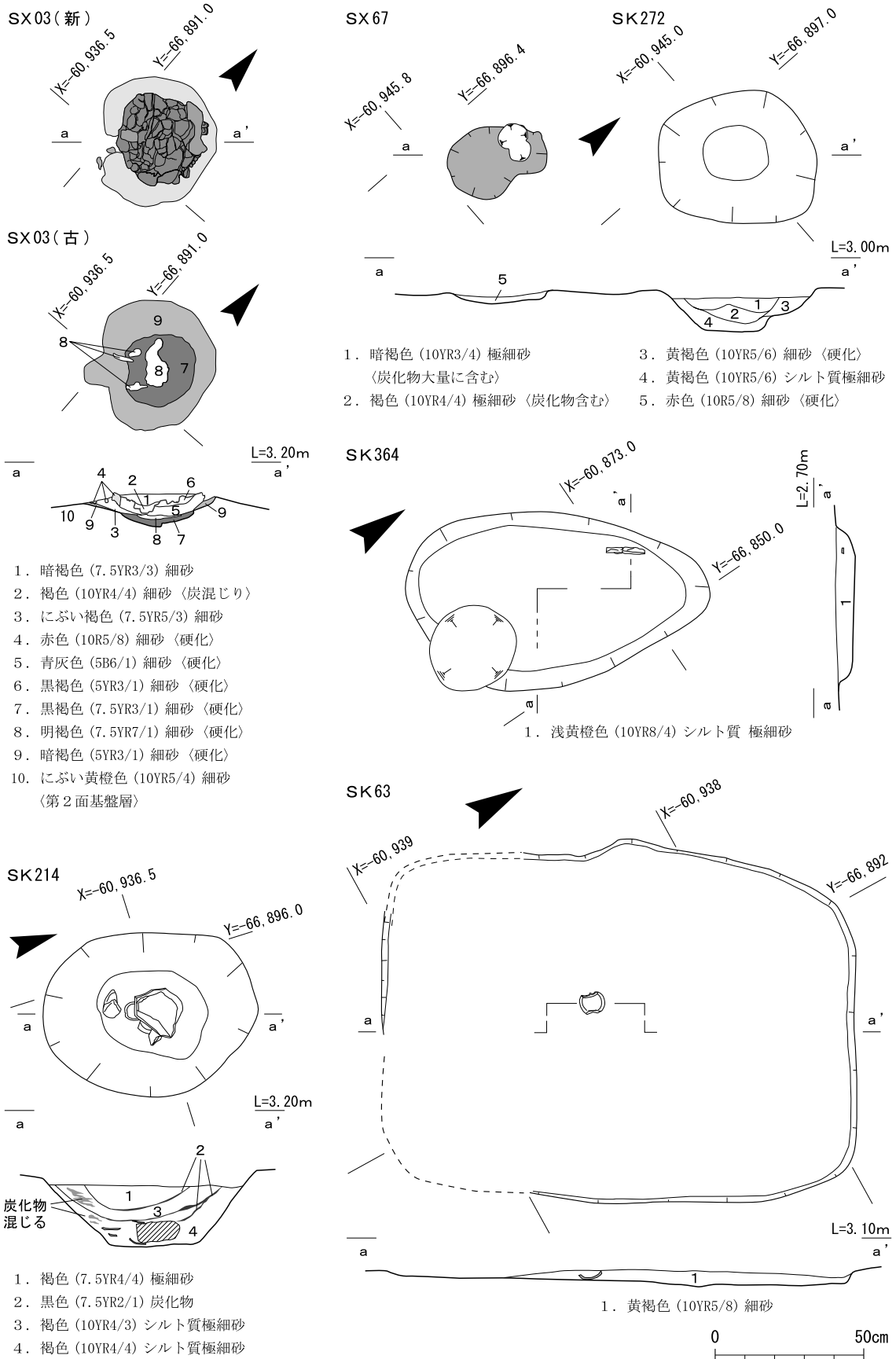
坑は0.45×0.53m、深さ0.15mの規模を測る。内部に炭化物を含むことや埋土の一部が火を受けて硬化したものが含まれていることから、鍛冶関係の作業の中で炭・灰、焼土を処分したと判断される。

炉S X28 S B354の中央付近で検出した焼土である。直径0.4mの円形範囲で地面が赤く焼けている。焼土だけの検出であるが、S X03・29の状況より、削平を受けた炉の痕跡であると判断される。

土坑S K105 (第20図) 南部検出遺構群の北端付近、S B354北端の北西で検出した土器を埋納した坑である。掘形の平面形は隅丸長方形で、長さ0.6m、幅0.4m、深さ0.15mを測る。掘形



第20図 A1地区 第2面土坑S K105実測図



第21図 A1地区 第2面土坑SK63・214・272・364、炉SX03・67実測図

の断面形は丸く中央部が下がる。土坑内部から完形品を含む土師器皿37枚(第147図146～182)が出土したほか、須恵質鉢の破片1点が皿群の上面から出土した。37枚の皿の多くは、底を下にした正位置に置かれて出土した。これらの土器の中央最上部には、方形の石が据えられていた。石は角礫であり、一辺10cm四方の大きさで、火を受けて赤化していた。これらのことと、埋土中に炭化物が混じること、鍛冶炉に近接していることから、土師器皿を多量に使った鍛冶関係の儀礼に関する遺構と考えられる。

**土坑 S K 364** (第21図) 調査区の北西隅、S B 415・416の北西付近で検出した土坑である。平面形は卵形を呈し、長さ1.0m、最大幅0.6m、深さ0.08mを測る。底面は平坦である。土坑の北西部から鉄釘1点が出土した。

**土坑 S K 63** (第21図) 南部遺構群の中央よりやや南東部、S B 351の南東付近で検出した隅丸方形の土坑である。長さ1.6m、幅1.15m、深さ0.25mを測る。底面は平坦で、中央部から土師器皿の高台1点が出土した(第144図78)。

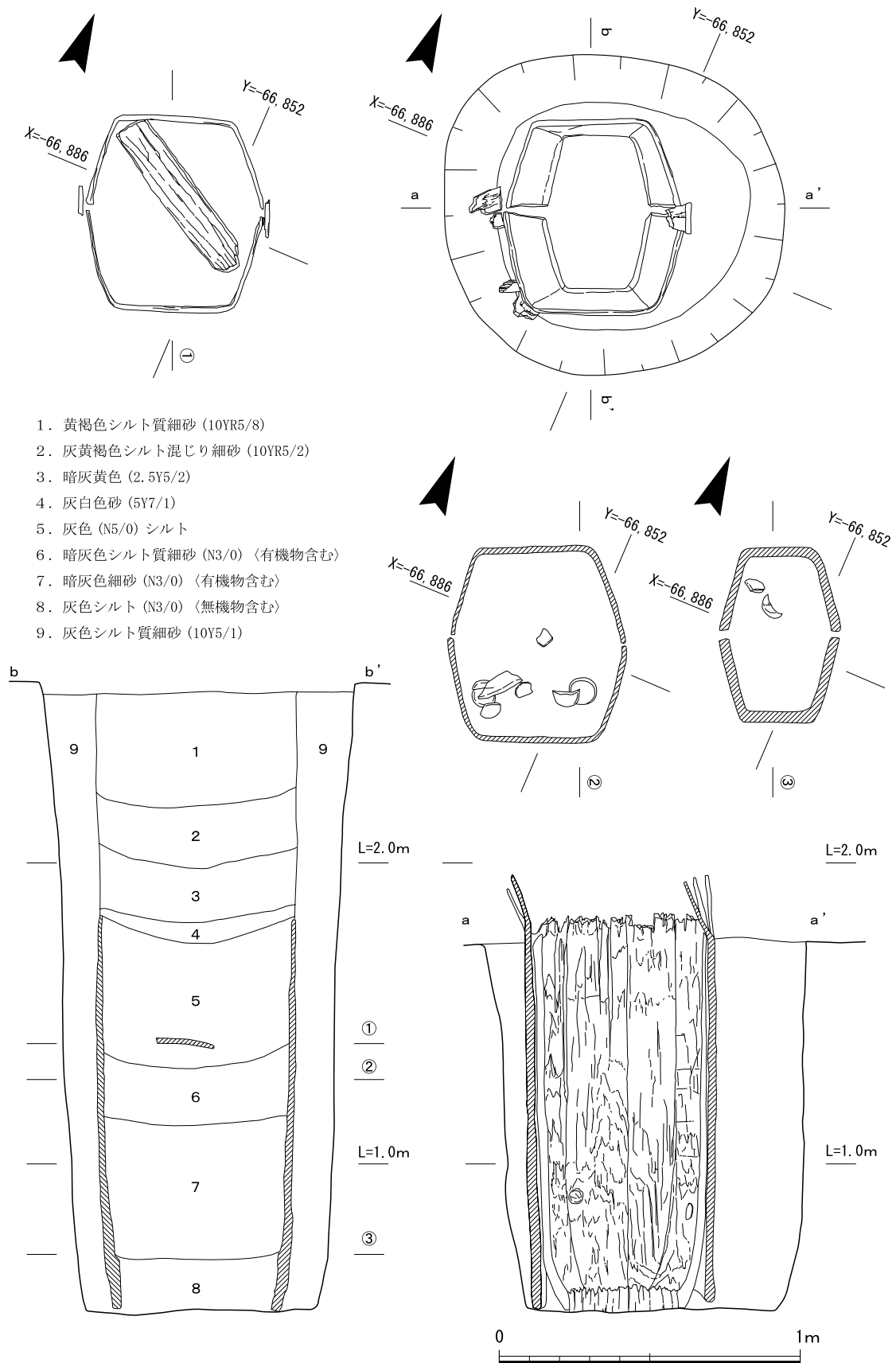
**土坑 S K 214** (第21図) 南部遺構群の中央よりやや西部、S B 353の炉 S X 30と重複して検出した円形の土坑である。炉 S X 30に先行する。長さ0.72m、最大幅0.54m、深さ0.08mを測る。底面は平坦で、壁面は外上方に直線的に立ち上がる。底面中央に1辺15cm、高さ10cmの角礫が1個存在し、石の下および周辺から土師器皿、黒色土器碗(第148図189・192・202)の破片が出土した。土坑の埋土の中間層である第3層には第2層の炭化物が薄く筋状に3条堆積しているのが認められ、幾度かにわたって埋め戻しがなされたものと判断される。

**柱穴 S P 252** (第23図) 南部遺構群の中央よりやや北西側、S B 353の西辺の北から2番目の柱穴である。平面形は円形で、長さ0.4m、幅0.45m、深さ0.1mを測る。底面は平坦で完形品の土師器皿を含む皿破片が多数出土した。埋土の断面観察では柱の存在を示す土色・土質の変化は確認できない。

A 1 地区では北部の遺構群に伴って、一基の井戸が存在した。

**井戸 S E 412** (第22図) 調査区の北端、S B 415の南側、約4m離れた地点で検出した井戸である。掘形の平面形は円形で、検出面での直径は1.2m、深さは2.2mを測る。井戸底面の標高は海拔0.5mである。井戸掘形内部では、底から標高1.6～1.9mにかけて木製井戸枠を検出した。井戸枠は丸木舟を転用したもので、一艘を前後に切り離し、舷側部分を合わせて筒状にして設置している。また、井戸枠として不要な舳と艫部は切り取り、胴部のみを井戸枠として使用している。井戸枠の平面形は六角形を呈している。内法の規模は、検出面では縦0.62m、横0.56m、下端部では縦0.52m、横0.37mを測る。井戸枠の上端部は腐朽が進行し、尖り気味に厚さを減じている。井戸枠の合わせ部分は釘等で固定されておらず、外側に幅0.2m、長さ1.3m、厚さ0.03mの長方形をした板を立てて、隙間から内部に土砂が入るのを防いでいる。

井戸枠内は8層に分かれるシルト質砂やシルトの堆積がみられ、下層ほどシルトの比率が高い。井戸底に近い第7層下面で土師器の杯・皿(第151図290～297)、第6層から土師器皿(第151図291)が出土した。これら遺物は完形もしくは部分的に破損したものであり、同一面出土した状



第22図 A1地区 第2面井戸SE412実測図

況から、意図的に置かれたものと判断され、何らかの祭祀に関連した遺物の可能性が高い。第5層では木製の板と数10点の桃核が出土した。第7層からも10点以上の桃核が集中して出土している。

復原した建物以外にも多数の柱穴を検出したが、ここでは主要な遺物の出土を見た柱穴を主として報告する。

**柱穴 S P 42** (第23図) 南部遺構群の中央東端で検出した円形掘形の柱穴である。直径0.4m、深さ0.2mを測る。断面土層の観察で柱抜き取り痕を確認した。抜き取り穴は掘形埋土を崩していないことから、柱は垂直に抜き取られたとみられる。抜き取り穴の底面上には完形の黒色土器椀(第144図73)と白磁椀(第144図75)の破片が納められ、その上に10cm×15cmの角礫が置かれていた。また、黒色土器椀を取り除いた底面には、柱位置を示す、円形にグライ化した土色変化が認められた。

**柱穴 S P 319** (第23図) 南部遺構群の中央部やや南側で検出した。直径0.35m、深さ0.25mを測る、円形掘形の柱穴である。掘形の中央部に直径0.18mの柱痕を確認した。底面は掘形底面より0.03m下がっており、柱の沈下を示している。

**柱穴 S P 249** (第23図) 南部遺構群の中央部やや北側で検出した。一辺0.3～0.5m、深さ0.37mで、やや方形の掘形をもつ柱穴である。掘形の北端に直径0.15mの柱痕跡が確認された。S P 42と同じく柱抜き取り穴の底付近から、口縁を下に向けた状態で完形品の回転台土師器皿(第144図88)が出土した。

**柱穴 S P 322** (第23図) 南部遺構群の北部で検出した。平面形が楕円形を呈する掘形は、長さ0.7m、幅0.5m、深さ0.3mを測る。掘形の西に偏って直径0.2mの柱痕を確認した。遺物は完形の土師器皿が出土した。

**柱穴 S P 330** (第23図) 南部遺構群のやや北側で検出した。平面形が円形を呈する掘形は、直径0.45～0.55m、深さ0.3mを測る。掘形の北に偏って直径0.12mの柱痕跡を確認した。

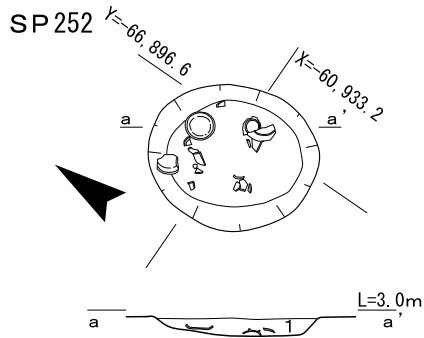
**柱穴 S P 26** 南部遺構群の中央部東端付近で検出した柱穴である。掘形は円形で直径0.5m、深さ0.2mを測り、埋土はにぶい黄褐色シルト質細砂である。遺物は、黒色土器椀(第144図70)が出土した。

**柱穴 S P 45** 南部遺構群の中央部東側で検出した。S B 354の柱穴 S P 46に切られる柱穴である。掘形は円形で、直径0.6m、深さ0.4mを測り、埋土は褐色シルト質極細砂である。遺物は、回転台土師器皿が出土した。

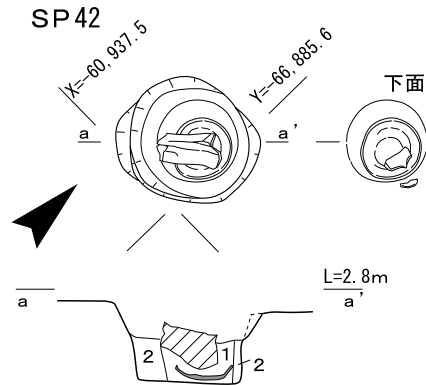
**柱穴 S P 47** 南部遺構群の中央部東端付近で検出した。S B 351の東側で検出した円形掘形の柱穴である。柱穴掘形は直径0.7m、深さ0.65mを測り、埋土はにぶい黄褐色シルト質細砂である。遺物は、黒色土器椀(第148図190・191)が出土した。

**柱穴 S P 100** 南部遺構群の北端付近、S B 354の北側で検出した円形掘形の柱穴である。柱穴掘形は直径0.5m、深さ0.22mを測り、埋土は灰褐色シルト質細砂である。遺物は、瓦器椀(第144図84)が出土した。

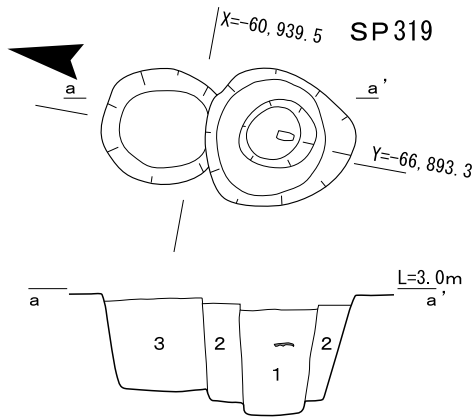




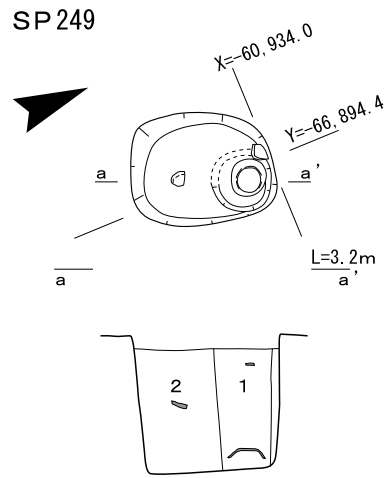
1. 灰褐色 (7.5YR4/2) 細砂



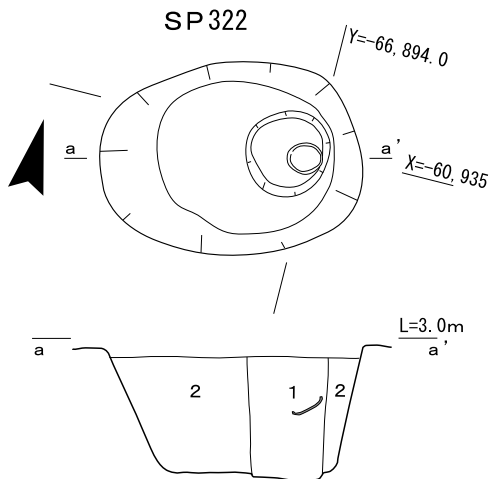
1. 褐色 (7.5YR4/3) シルト質極細砂  
2. にぶい褐色 (7.5YR5/3) 細砂



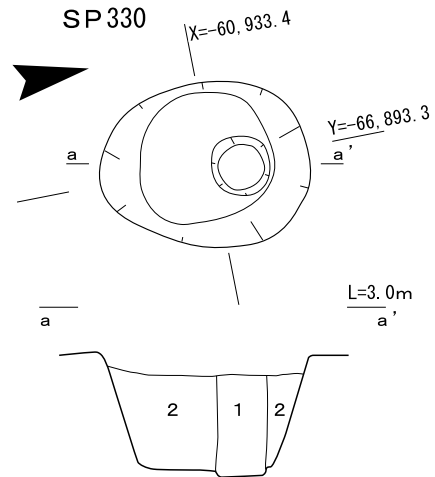
1. にぶい黄褐色 (10YR4/3) 極細砂  
2. にぶい黄褐色 (10YR5/3) 細砂  
3. 灰黄褐色 (10YR4/2) 極細砂



1. 褐色 (7.5YR4/3) シルト質極細砂  
2. にぶい褐色 (7.5YR5/3) 細砂



1. 褐色 (10YR4/4) シルト質極細砂  
2. 褐色 (10YR4/5) シルト質極細砂



1. 褐色 (10YR4/4) シルト質極細砂  
2. 褐色 (10YR4/6) シルト質極細砂



第23図 A1地区 第2面柱穴SP42・249・252・319・322・330実測図

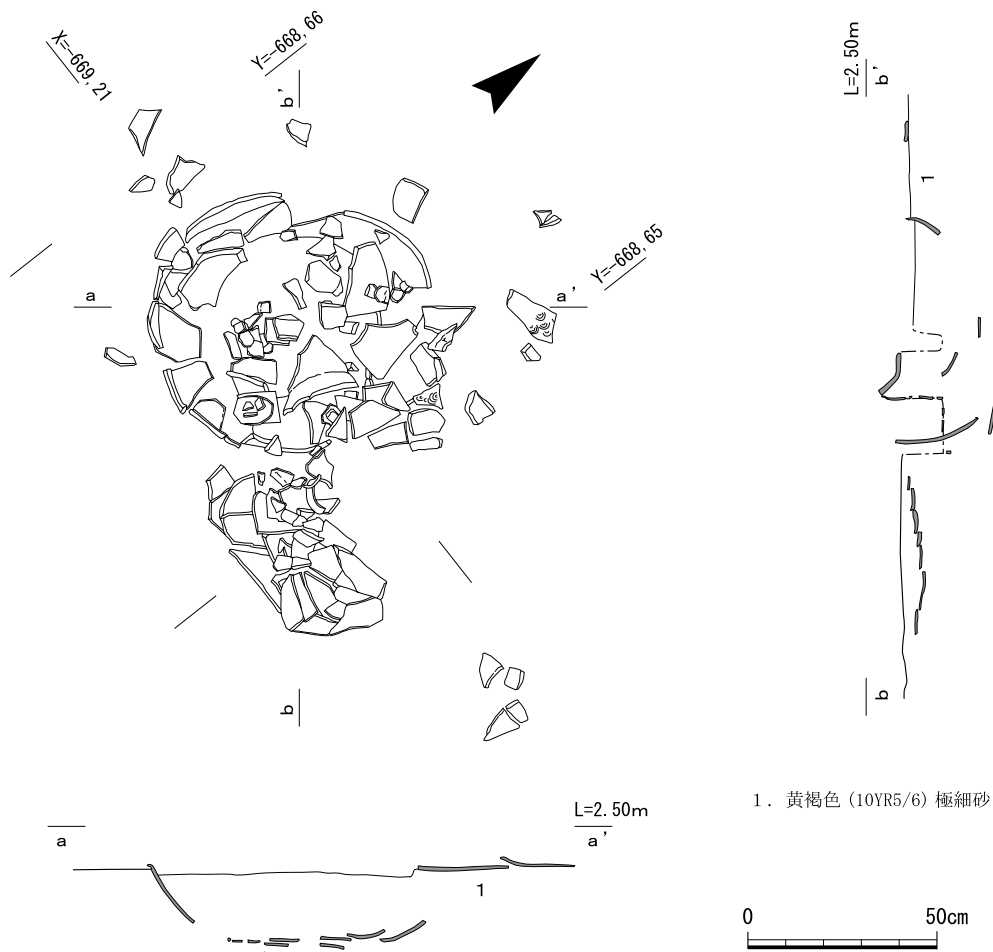
柱穴 S P 149 南部遺構群の中央部南端、S B 354の柱穴 S P 147の北側で検出した柱穴である。柱穴掘形は円形で、直径0.12m、深さ0.1mを測り、埋土は褐色シルト質極細砂である。遺物は、回転台土師器皿(第144図89・90)が出土した。

柱穴 S P 244 南部遺構群の中央部やや北東側、S B 354の炉 S X 03の西側で検出した柱穴である。掘形は楕円形で、長さ0.5m、最大幅0.3m、深さ0.2mを測り、埋土はにぶい褐色シルト質極細砂である。遺物は土師器皿(第148図205・207)が出土した。

柱穴 S P 259 南部遺構群の北西端、S B 353の柱穴 S P 106の西側で検出した柱穴である。掘形は円形で、直径0.45m、深さ0.3mを測り、埋土は褐色シルト質極細砂である。遺物は、回転台土師器皿・土師器鍋(第148図209・210)が出土した。

柱穴 S P 260 南部遺構群の中央部の北西側、S B 354の柱穴 S P 251の西側で検出した柱穴である。掘形は歪な円形で、直径0.5m、深さ0.3mを測り、埋土は褐色シルト質極細砂である。遺物は、回転台土師器皿(第144図91・92)が出土した。

柱穴 S P 267 南部遺構群の南西部で検出した。掘形は円形で、直径0.3m、深さ0.4mを測り、埋土は褐色シルト質極細砂である。遺物は、土師器皿(第148図212)が出土した。



第24図 A 1 地区 第 2 面土器溜り S X 02実測図

**柱穴 S P 298** 南部遺構群の中央部の南西側、S B 353の柱穴 S P 201の東側で検出した柱穴である。掘形は円形で、直径0.3m、深さ0.2mを測り、埋土はにぶい黄褐色シルト質極細砂である。遺物は、黒色土器椀(第148図215)が出土した。

**柱穴 S P 300** 南部遺構群の中央部の南西側、S B 352の柱穴 S P 212の西側で検出した柱穴である。掘形は円形で、直径0.3m、深さ0.2mを測り、埋土は灰褐色シルト質細砂である。遺物は、黒色土器椀(第148図217・218)が出土した。

**柱穴 S P 302** 南部遺構群の中央部の南西側、柱穴 S P 300の北東側で検出した柱穴である。掘形は円形で、直径0.3m、深さ0.2mを測り、埋土は褐色細砂である。遺物は、青磁椀(第148図219)が出土した。

**柱穴 S P 305** 南部遺構群の中央部のやや西側、S B 354の中央部にある柱穴 S P 306切られた柱穴である。掘形は円形で、直径0.4m、深さ0.2mを測り、埋土は褐色シルト質細砂である。遺物は、回転台土師器の皿・杯と黒色土器椀(第148図220・221・224)が出土した。

**柱穴 S P 309** 南部遺構群の中央部のやや西側、S B 351の柱穴 S P 208の北東側で検出した柱穴である。掘形は円形で、直径0.3m、深さ0.2mを測り、埋土は褐色シルト質極細砂である。遺物は、回転台土師器の底部と鉄塊(第202図1741)が出土した。

**柱穴 S P 310** 南部遺構群の中央部やや南側、S B 351の柱穴 S P 208の北側で検出した柱穴である。掘形は歪んだ円形で、長さ0.6m、幅0.5m、深さ0.2mを測り、埋土は炭化物混じる灰黄褐色シルト質極細砂である。遺物は、回転台土師器杯、東播系鉢、鉄釘(第149図228、第202図1728)が出土した。

**柱穴 S P 312** 南部遺構群の中央部の北端近く、S B 354の柱穴 S P 313の南西側から検出した柱穴である。掘形は円形で、直径0.5m、深さ0.3mを測り、埋土はにぶい褐色シルト質極細砂である。遺物は、土師製土錘(第144図86)が出土した。

**柱穴 S P 319** S B 351の柱穴 S P 348を切る柱穴である。掘形は円形で、直径0.3m、深さ0.3mを測り、埋土は褐色シルト質極細砂である。遺物は、須恵器皿、黒色土器椀(第149図231・232)が出土した。

**柱穴 S P 329** 南部遺構群の中央部の南側、S B 354の柱穴 S P 228の西側から検出した柱穴である。掘形は円形で、直径0.3m、深さ0.3mを測り、埋土は褐色シルト質細砂である。遺物は、土師器皿(第149図233・235)が出土した。

**柱穴 S P 340** 南部遺構群中央部から検出した柱穴である。掘形は円形で直径0.25m、深さ0.15mを測り、埋土はにぶい黄褐色シルト質細砂である。遺物は、土師器皿(第149図234)が出土した。

**柱穴 S P 343** 南部遺構群の中央部の西側、S B 354の柱穴 S P 218の東隣側で検出した柱穴である。掘形は円形で、直径0.4m、深さ0.3mを測り、埋土は褐色シルト質細砂である。遺物は、白磁皿の底部と鉄滓(第149図236・第202図1738)が出土した。

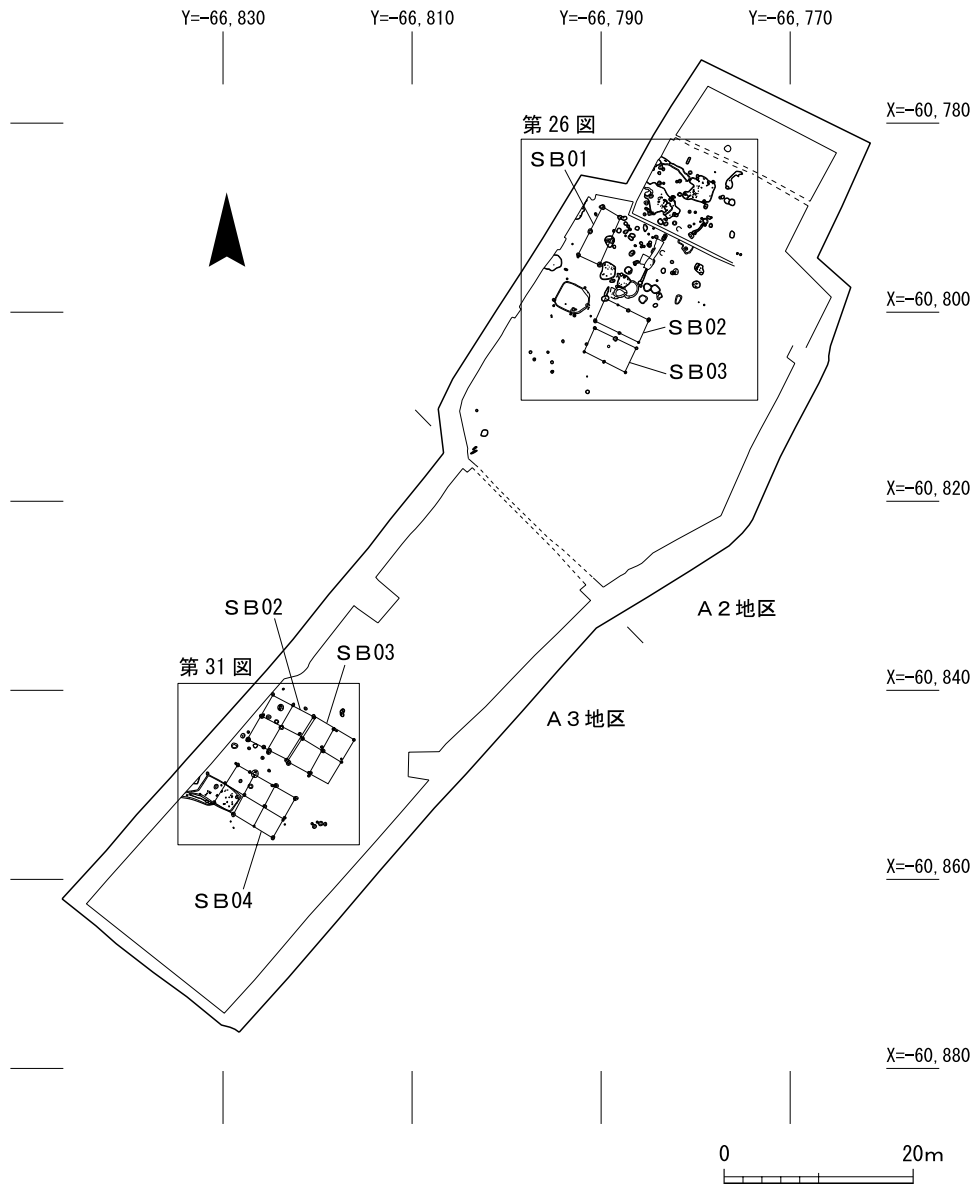
遺構に伴わないが、銅製の竿秤の錘以外にも包含層中から遺物の出土(土器溜り S X 02)をみた。

土器溜り S X 02 (第24図) 調査地中央部の東壁に接して検出したもので、須恵器甕 (第144図 94) と土師器甕 (第146図144・145) が破片となりながらもほぼ完存した状態で集中して出土した。土器の周辺で精査とサブトレンチを設定して土層の観察を行ったが、土坑等の掘形の存在は確認できない。土器の周囲には均質な黄褐色極細砂が広範囲に広がることから、土器は投棄されたもの、もしくは完形に近い土器が二次堆積して破片となったものと判断される。土器破片は海拔 2.2~2.4m にあって、約 1 m、約 2 m の範囲に分布する。須恵器甕は口縁部が北東方向に倒れる状況で破片化している。土師器甕も破片化しており、須恵器甕の最下面で出土した。土師器甕が須恵器甕の内側にあったのか、別個に埋まったものであるのかは不明である。

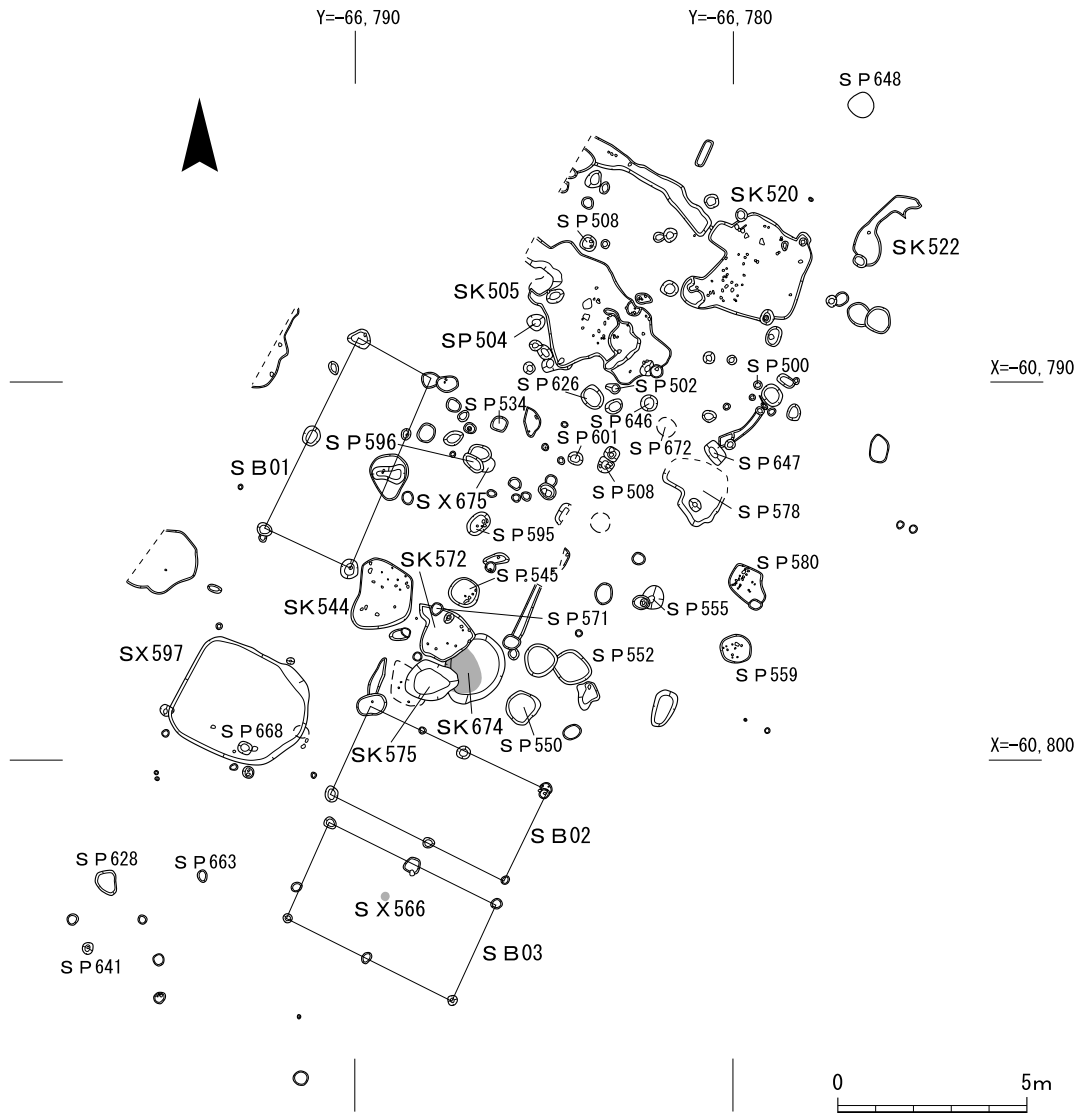
(竹原一彦)

(2) A 2 地区 (第25図)

第 2 面はにぶい黄褐色粘質土層上面で検出した遺構で、平安時代後期の焼土 3 か所と掘立柱建



第25図 A 2・3 地区 第 2 面検出遺構平面図



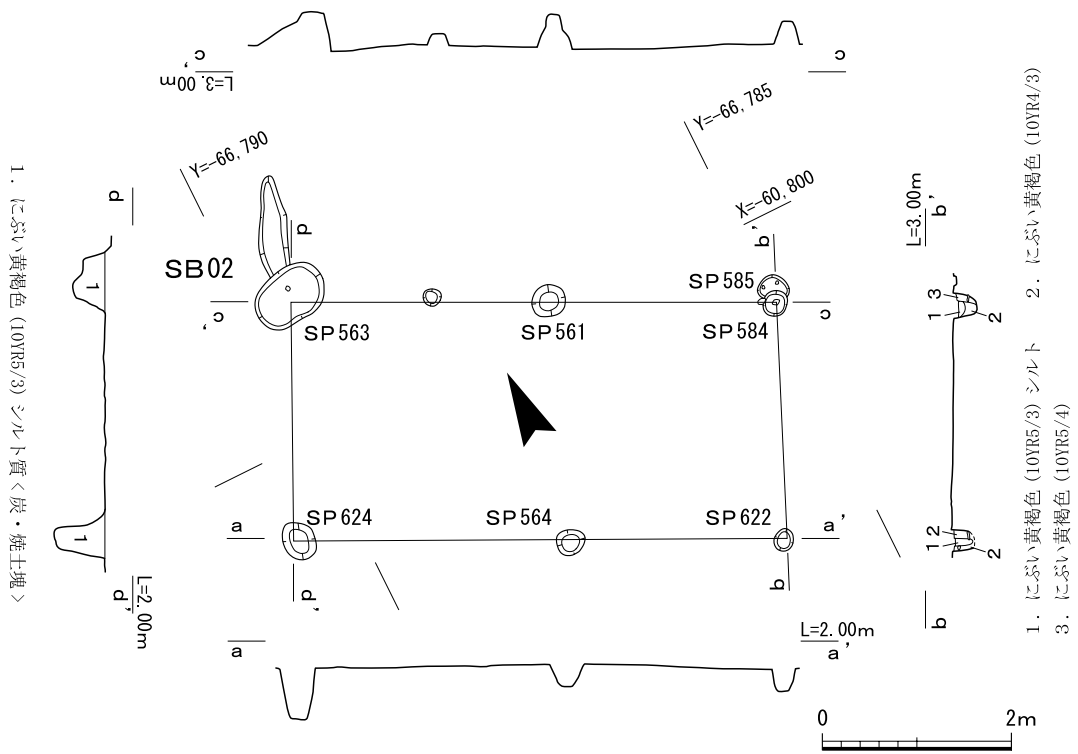
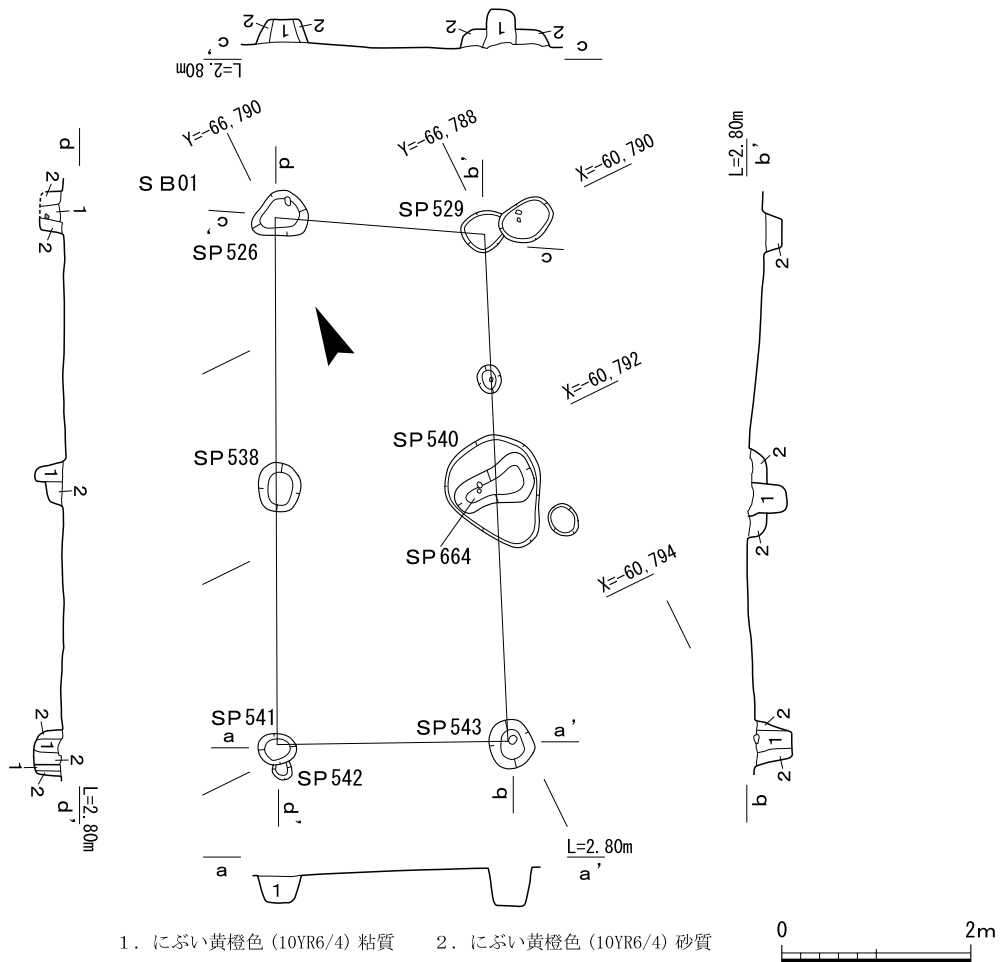
第26図 A2地区 第2面掘立柱建物SB01～03平面図

物3棟、土坑、柱穴を多数検出した。このうち、南側の建物の中央部にある焼土は、直径40cmの円形で、鍛冶炉として使用されたと考えられる。出土遺物には、土師器、黒色土器、須恵器、中国製白磁・青磁、鉄製品、および石帯がある(第38図)。

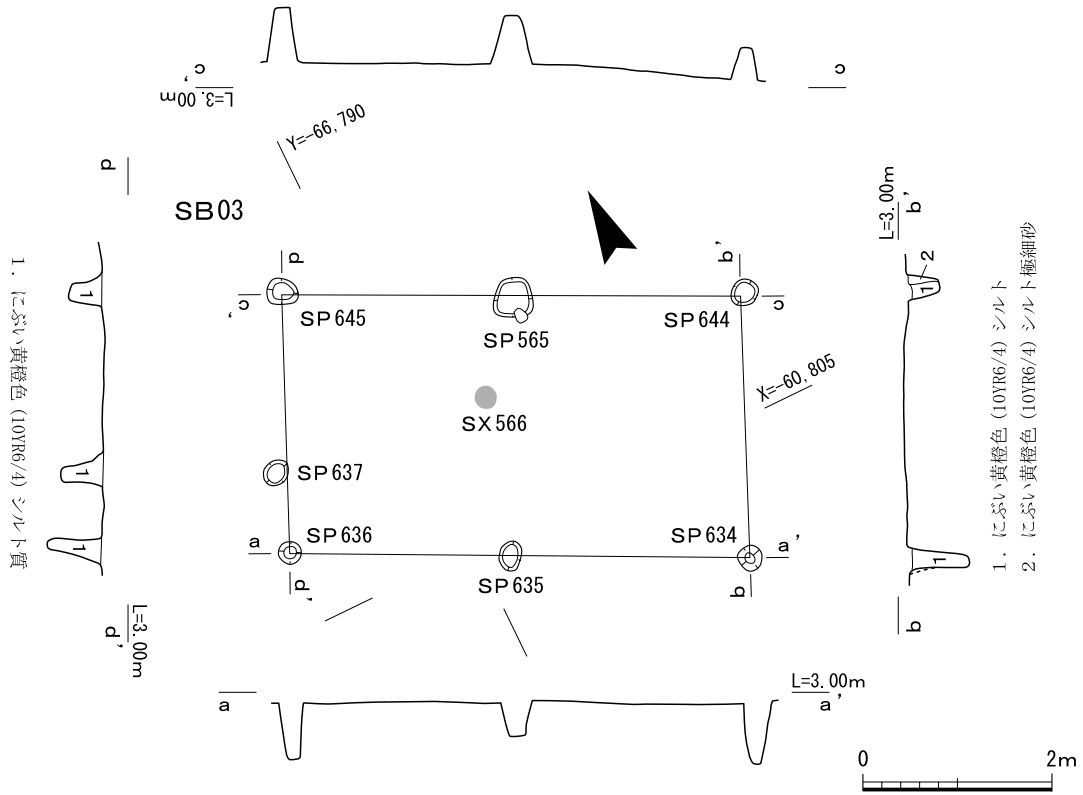
**炉SX566(第28図)** 掘立柱建物SB03内にある炉である。東西0.3m、南北0.3m、高さ0.1mの円形で、断面形はかまぼこ形である。焼土がほとんどであったが、中央部は灰色に還元していた。層位・位置関係から掘立柱建物SB03にともなう炉と考える。

**掘立柱建物SB01(第27図)** 調査地の北西部で検出した。東西1間(2.4m)、南北2間(5.6m)である。南北方向の建物で、主軸は北に対して27°東に振る。北西隅の柱穴は隅丸方形で、東西0.6m、南北0.55m、深さ0.22mである。柱を抜き取った形跡はない。

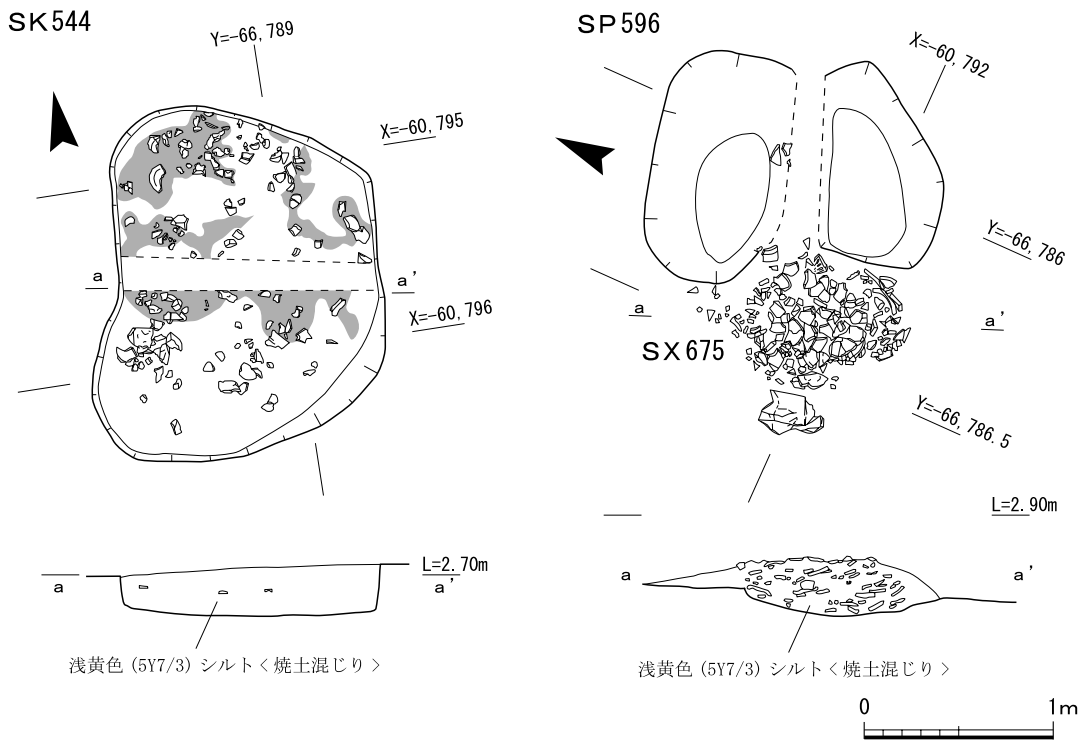
**掘立柱建物SB02(第27図)** 調査地の中央部で検出した2棟の内、北側の建物である。東西2間(5.2m)、南北1間(2.5m)である。東西棟で、主軸は北に対して25°東へ振る。北西隅の柱穴は不定形で、東西0.8m、南北0.48m、深さ0.36mである。柱を抜き取った形跡はない。



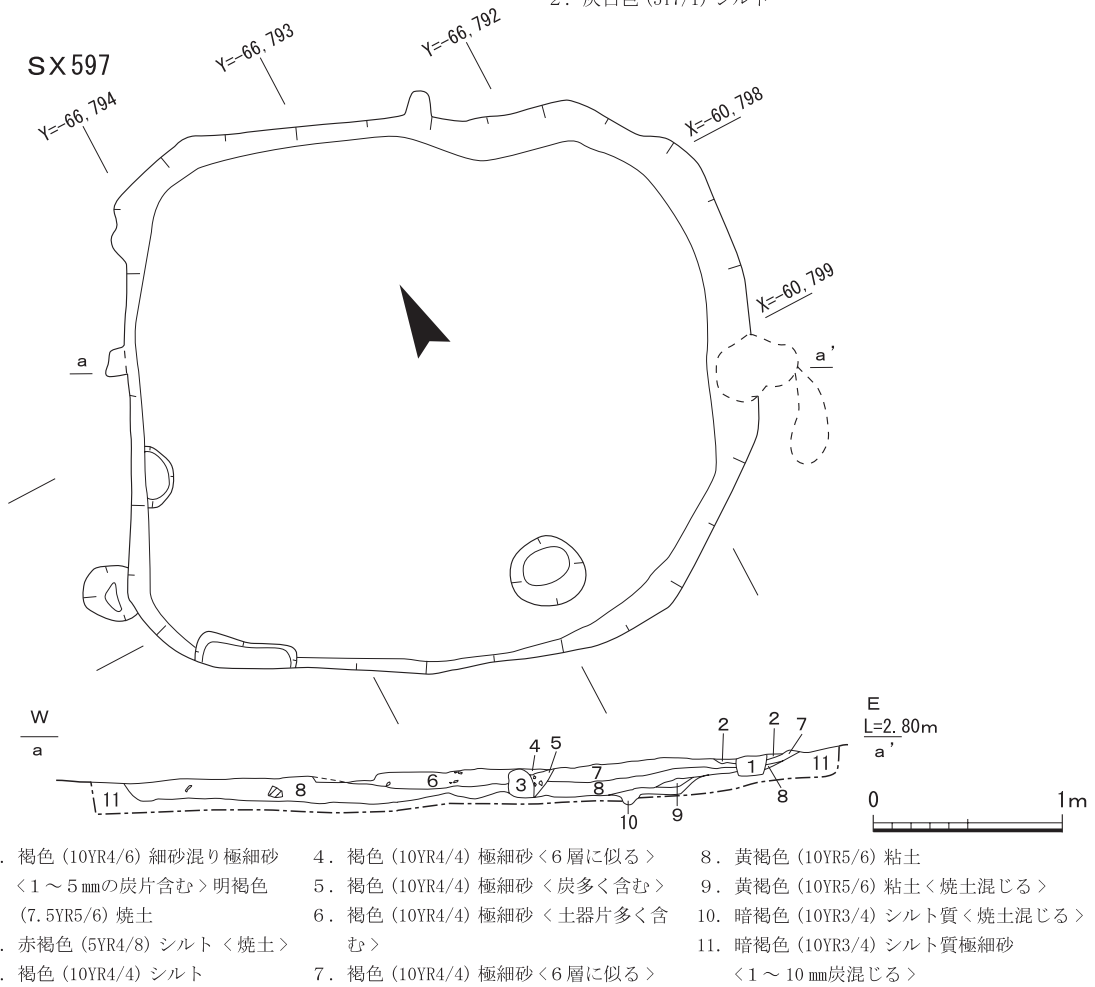
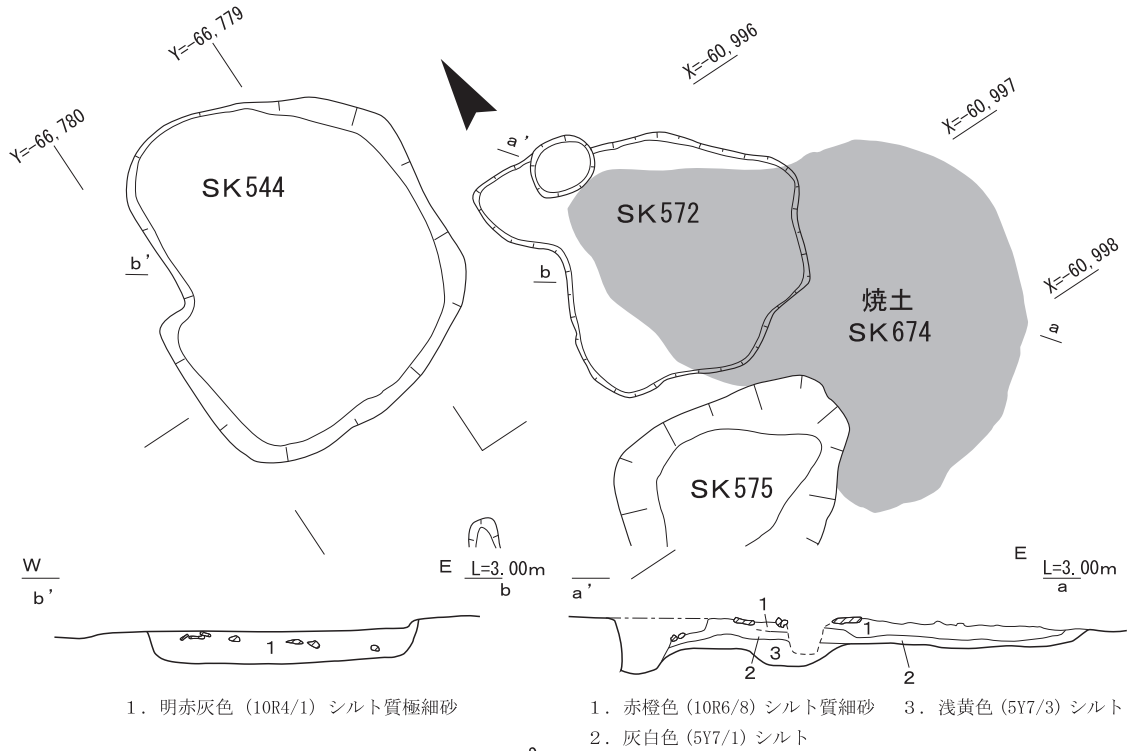
第27図 A2地区 第2面掘立柱建物SB01・02実測図



第28図 A2地区 第2面掘立柱建物SB03実測図



第29図 A2地区 第2面土坑SK544・596、遺物集中か所SX675実測図



第30図 A2地区 第2面土坑S X544・597実測図



掘立柱建物 S B03 (第28図) 調査地の中央部で検出した2棟の内、南側の建物である。東西2間(4.8m)、南北1間(2.7m)である。東西棟で、主軸は北に対して26°東へ振る。北西隅の柱穴は不定形で、東西0.3m、南北0.3m、深さ0.4mである。柱を抜き取った形跡は認められない。

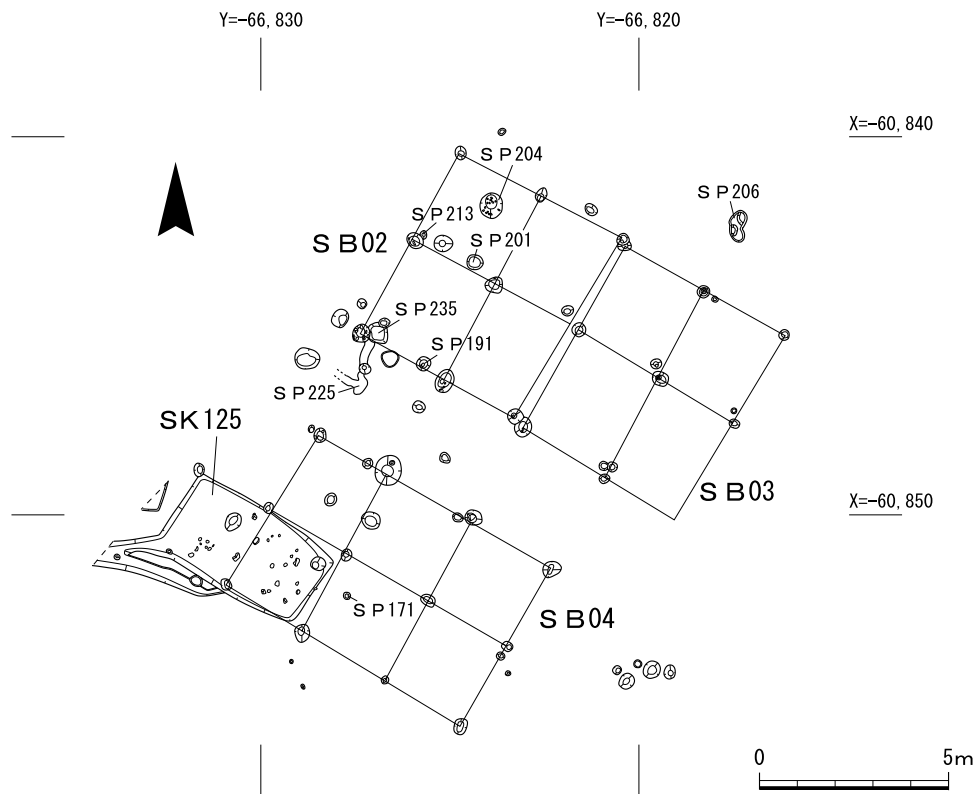
土坑 S K544 (第29図) 掘立柱建物 S B01の南東隅付近で検出した土坑である。不定形で、東西1.4m、南北0.3m、深さ0.2mである。埋土は浅黄色のシルト質で、焼土混じりである。平安時代後期の回転台土師器皿(第154図)が出土した。

土坑 S K572 (第30図) 掘立柱建物 S B01の南東方向、掘立柱建物 S B02の北側で検出した土坑である。平面形は方～円形を呈した不定形な形状で、東西1.4m、南北1.3m、深さ0.26mである。埋土は上層が赤褐色、中層が灰白色のシルト質、下層が浅黄色のシルト質で、焼土混じりである。

土坑 S K674 (第30図) 掘立柱建物 S B02の北側で、土坑 S K572と重複した土坑である。不定形で、東西1.6m、南北1.8m、深さ0.16mである。埋土は土坑 S K572の上層と中層が同質であるので、土坑 S K572より新しい。

遺物集中か所 S X675 (第29図) S B01の東側で検出した。多量の土師器皿、及び回転台土師器皿の破片が方形の範囲に集中している遺構である。範囲は東西0.9m、南北0.65m、高さ0.35mである。ただし、ベース面を掘り込んではいない。東部は S P596と重複しており、S X675が新しい。

方形土坑 S X597 (第30図) 掘立柱建物 S B02の西側で検出した方形土坑である。東西3.25m、南北3.15m、深さ0.2mである。竪穴建物の様ではあるが、主柱穴はなく、竈も認められない。

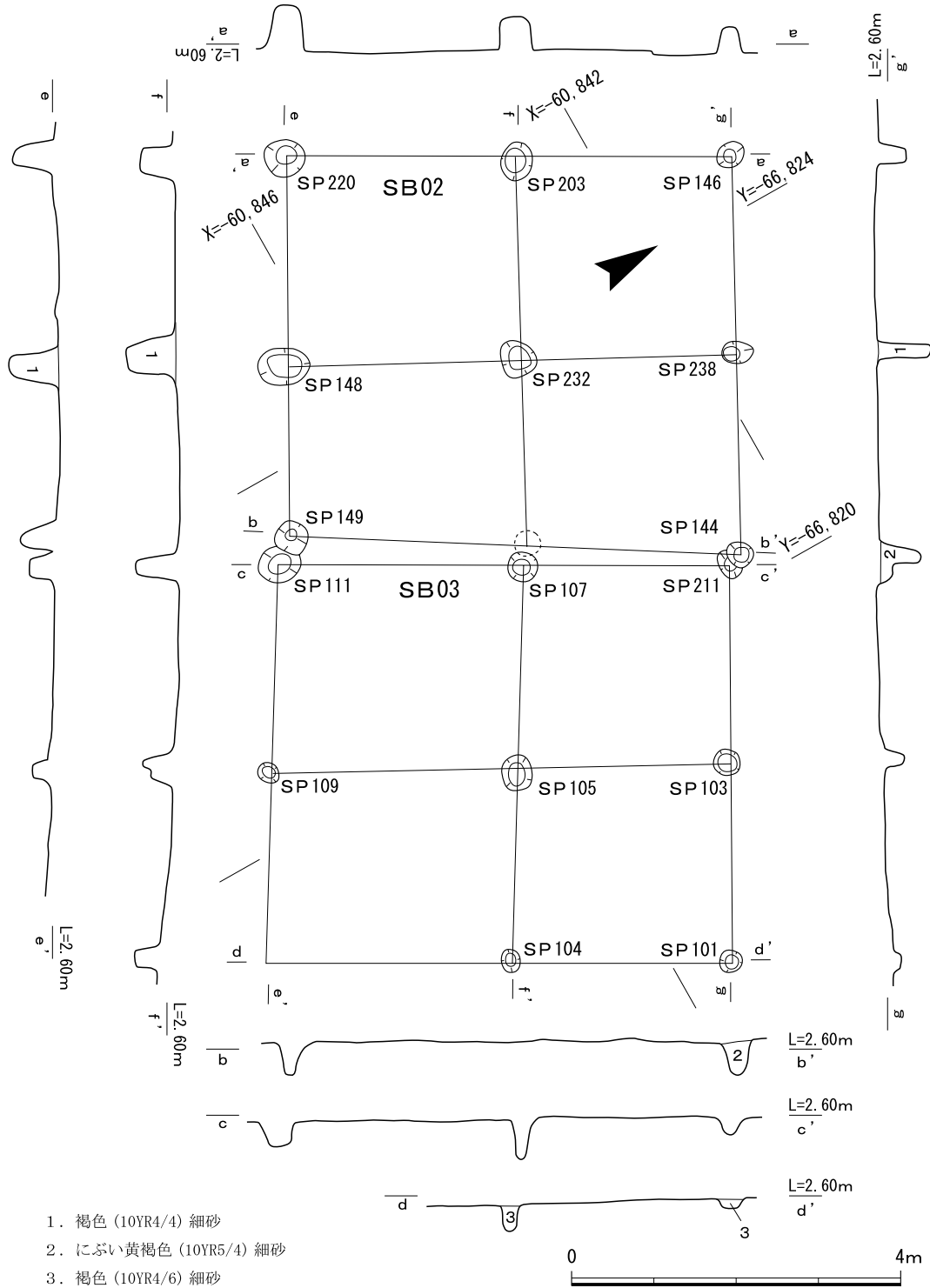


第31図 A3地区 第2面掘立柱建物 S B02~04平面図

(伊野近富)

(3) A 3 地区 (第25図)

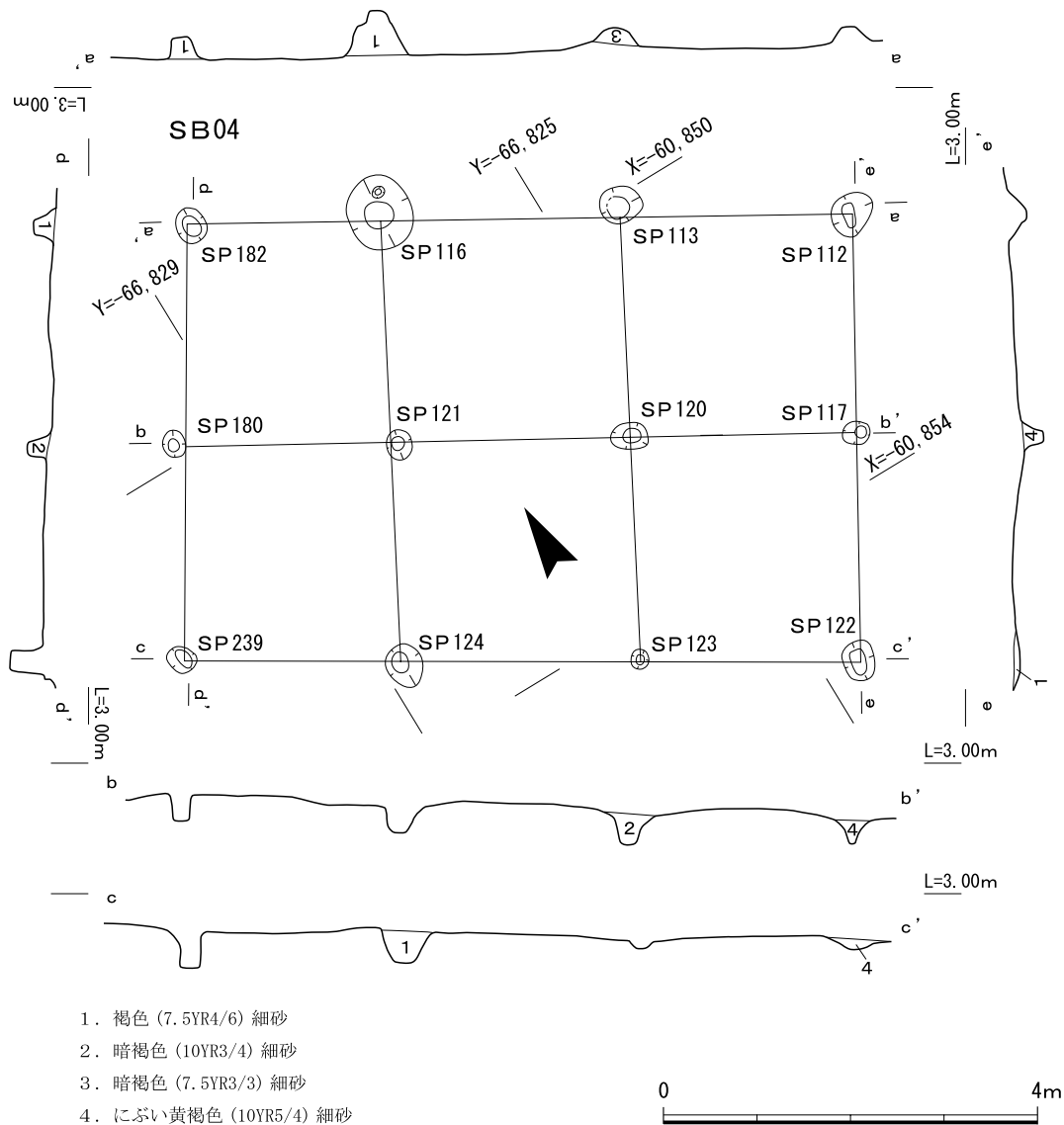
3棟の掘立柱建物、土坑、柱穴を多数検出した。北東部の2棟は、建物を構成する柱穴が2基1組のような形で検出していることから、建て替えをしている可能性がある。隣接する2棟の柱穴から切りあい関係があることが確認でき、このことから掘立柱建物1が新しく、掘立柱建物2



第32図 A 3 地区 第2面掘立柱建物 S B 02・03実測図

がそれよりも古いと考えられる。さらに、柱穴に土師器皿、陶磁器が認められる例が多いことから、地鎮祭祀が行われていたと考えられる。掘立柱建物3は、先述の2棟のような建て替え、地鎮祭祀の痕跡は確認できなかった。

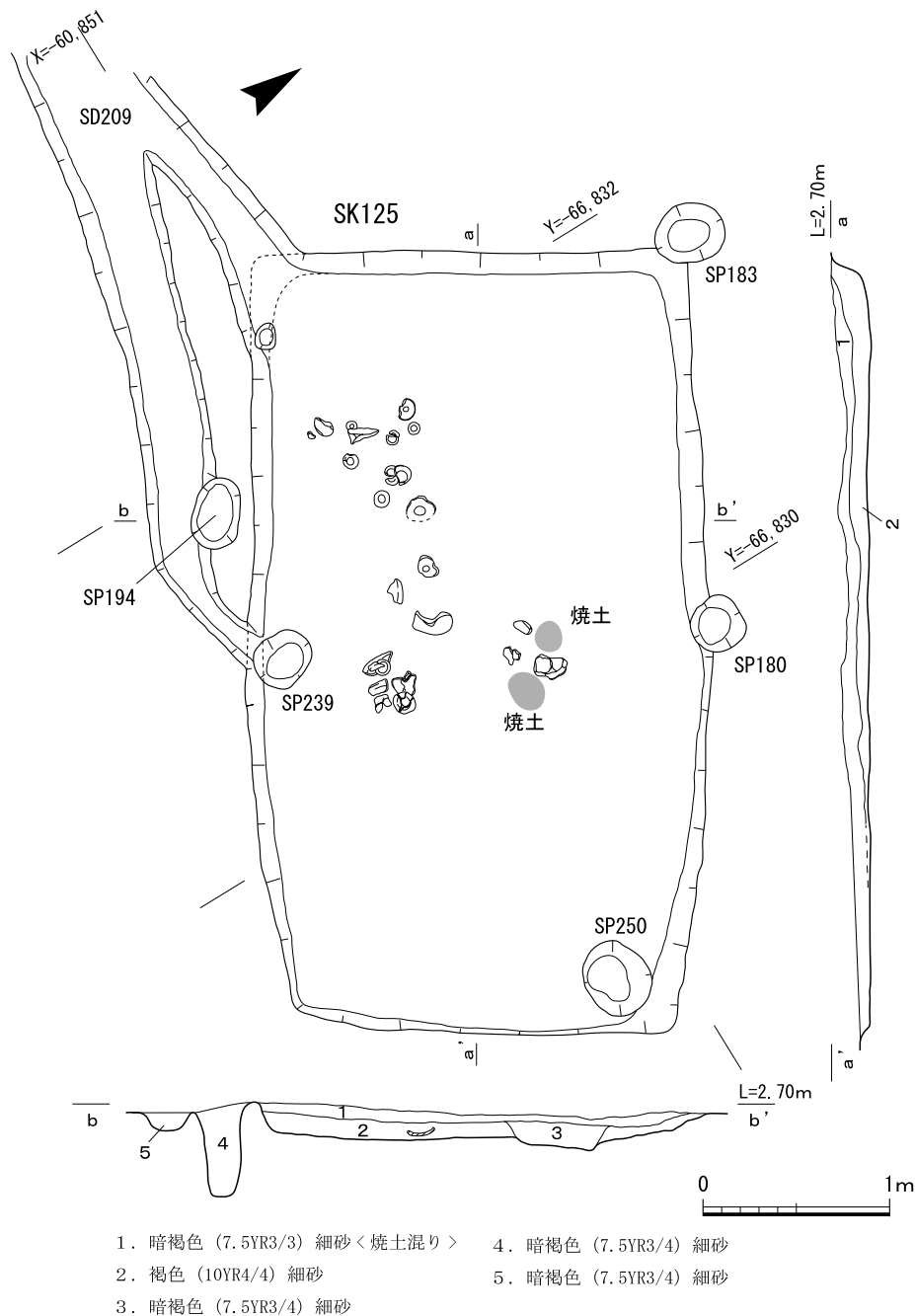
**掘立柱建物 S B02 (第32・35図)** トレンチ北西部で検出した建物である。南北2間(5m)、東西2間(5m)東西方向の掘立柱建物である。建物の主軸は北に対して30°東へ振る。柱穴は円形で直径0.4~0.6m、深さ0.4~0.6mを測る。遺物は、平安時代後期の土師器皿、白磁碗、青磁碗などが出土した。S B02の北東角の柱穴 S P144は S B03の北西部の柱穴 S P211と切り合いをもち、S P144が切り勝つ。このことから、S B02は S B03に後出することがわかる。S P144は直径は0.5m、深さ0.2mを測る。遺物は土師器皿が出土した(第162図634~643)。柱穴 S P148の柱穴掘形は直径0.8m、深さ0.8mを測る。遺物は土師器皿、青磁碗や刀子が出土した(第162図687~648~656・659・663・1733)。柱穴 S P232の柱穴掘形は直径0.7m、深さ0.25mを測る。遺物は土



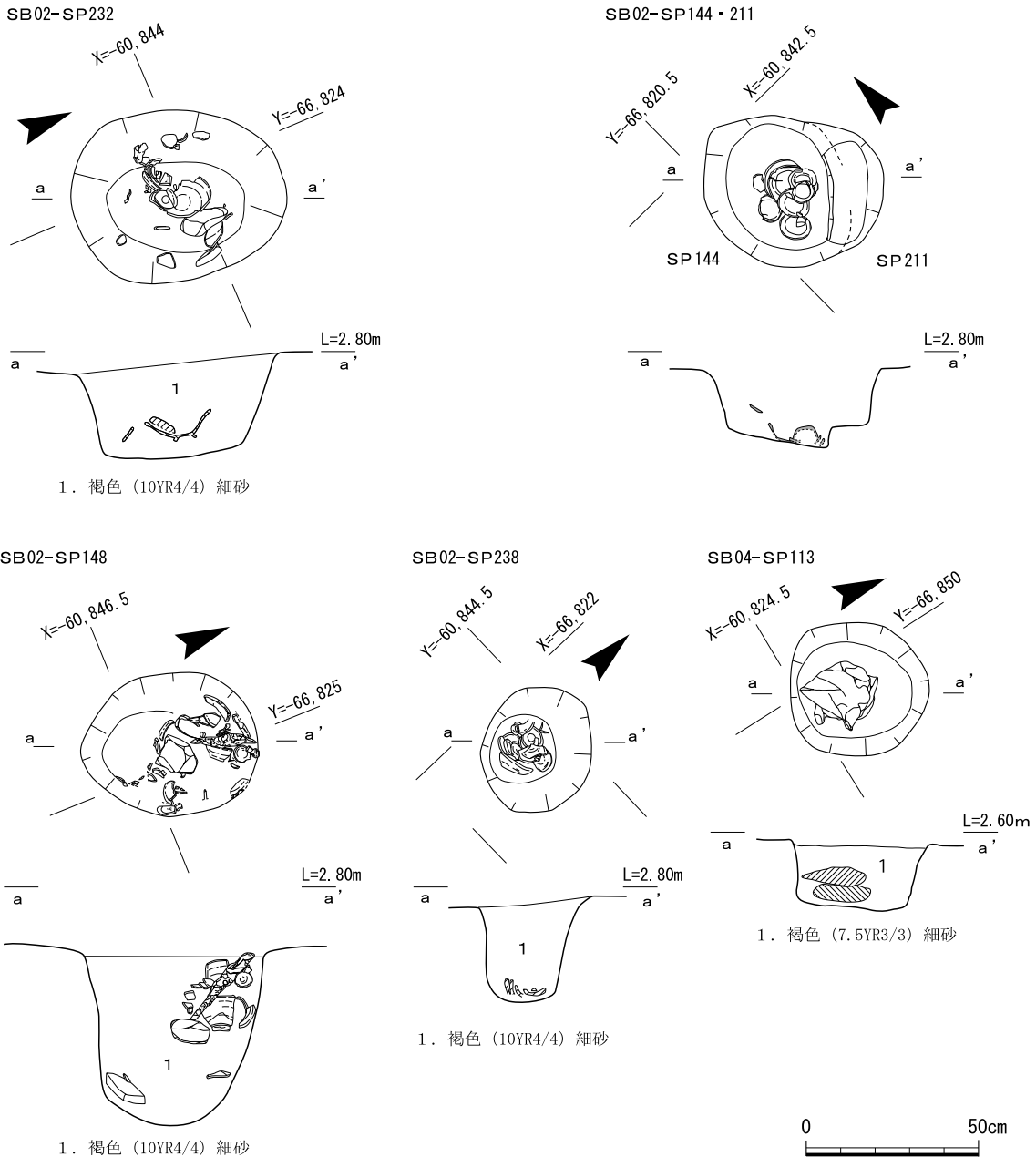
第33図 A3地区 第2面掘立柱建物 S B04実測図

師器皿、白磁椀、砥石などが出土した(第162図687~691・721~728)。柱穴S P 238の柱穴堀形は直径0.36m、深さ0.4mを測る。柱当たりと判断される直径0.2mの中から土師器皿が出土した。柱穴S P 203の柱穴堀形は、直径0.4m、深さ0.4mを測る。遺物は土師器皿が出土した(第162図673)。

掘立柱建物S B 03(第32図) 掘立柱建物S B 02の南東側で検出した掘立柱建物である。南北2間(5m)、東西2間(5m)の東西方向の掘立柱建物である。建物の主軸は北に対して15°東へ振る。柱穴堀形は円形で直径0.2~0.6m、深さ0.2~0.6mを測る。平安時代後期の土師器皿が出土した。中央の柱穴S P 105は、直径0.4m、深さ0.6mを測る。検出時に須恵質の壺が出土した(第



第34図 A 3 地区 第 2 面土坑 S K 125実測図



第35図 A3地区 第2面柱穴SP232・144・211・148・238・113実測図

162図658)。その他、土師器皿が出土した(第162図632)。

掘立柱建物SB04(第33・35図) 掘立柱建物SB02・03の南側で検出した。南北2間(5m)、東西3間(7m)の東西方向の掘立柱建物である。建物の主軸は北に対して20°東へ振る。柱穴掘形は円形で直径0.2~0.8m、深さ0.2~0.4mを測る。掘立柱建物SB302・03のように柱穴内に遺物が集中するものはなかった。東柱列の柱穴SP113は、直径0.5m、深さ0.3mを測る。柱穴内に2つの石を確認した。根石の可能性が考えられるが、平坦面が上を向いていないことから積極的な判断はできない。

土坑SK125(第34図) 掘立柱建物SB04の南西部に重複して検出した方形土坑である。土坑

がS B04に先行するものである。長辺5.2m、短辺3.1mを測る。北西部に溝S D209が重複しており、一部掘形が検出できなかった。掘形底面で焼土を確認したが、硬く締まった状態ではなく、炉とは考えにくい。土坑の周囲で柱穴を複数個検出したが、S B04に伴うものと考えられ、S K125に関連する建物は確認できない。遺物は、東播磨系須恵器鉢の口縁部や土師器皿が出土した(第160図537～584・第161図585～589・714～720)。

(竹村亮仁)

## 5) 第3面の調査(第36図)

### (1) A1地区

A1地区第2面の周囲に設けていた雨水や湧水の排水溝や集水桝の土層観察で確認した、黄褐色シルト質細砂(第6図7・14・19・29層)の上面を第3面として調査を行った。特に第2面と第3面間は、由良川に向かう西から東方向に緩やかに下がる傾斜をもち、0.5～0.8mの厚さを測る。この堆積層の大部分は重機掘削で除去した後、人力で精査を行った。精査の結果、古墳時代の須恵器、土師器が僅かに出土するが、遺構は検出できなかった。このような調査結果から、第3面としての遺構面が存在する可能性は低いとみられた。志高遺跡、桑飼下遺跡など周辺遺跡では遺跡最下部で縄文時代の遺構面が存在する。大川遺跡も同時期の遺構・遺物が存在する可能性があることから、第3調査面のさらなる下層の状況確認を目的に、A1地区内の4か所にトレンチ(A1-1～A1-4トレンチ)を設定し、調査を行った。

A1-1トレンチは、海拔1.5m付近の灰色シルト層(第38図第3層)中から、奈良時代とみられる須恵器破片が1点出土した。A1-2、A1-3トレンチでは、海拔0.8～1.0mまで掘り下げたが、無遺物であった。A1-4トレンチでは、西から東にかけて下がる厚さ0.2～0.3mの褐色シルト層(第38図第5層)を検出した。このシルト層中には古墳時代前期の土器が含まれ、その広がりには南側で設けたS E412掘形断ち割り地点にまで及ぶが、A1-3トレンチまでは及ばない。

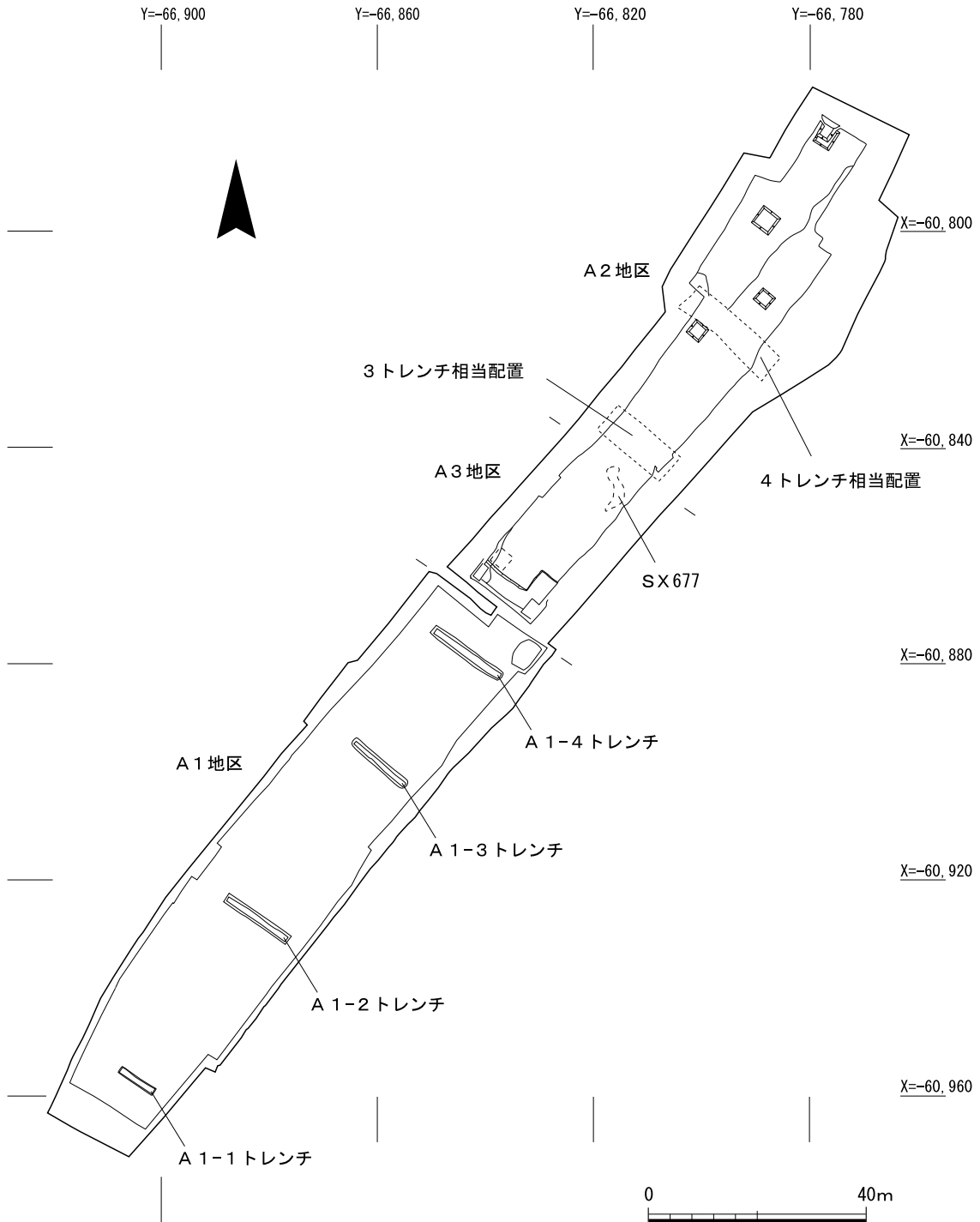
各トレンチで海拔0.6～1.0m付近までの調査を実施したが、古墳時代の遺物を包含する自然堆積を確認したが、それ以前の縄文時代の遺構・遺物の存在を確認できなかった。

(竹原一彦)

### (2) A2地区

A2地区では、下層確認の為、2か所のトレンチを設定し、調査を行った。3トレンチでは標高1.7m付近まで重機掘削を行い、精査を行った(第36図)。その結果、標高1.7mで須恵器特殊扁壺、提瓶が出土した(第167図760・761)。出土位置周辺の精査を繰り返したが、遺構は認められない。4トレンチでは、北東隅より、古墳時代の甕が標高2.4m付近で出土した(第158図506)。3トレンチ同様に周辺の精査を行ったが、遺構は確認できなかった。トレンチ南東部では、重機掘削時より細砂層で、常に水が湧く状態であった。

3トレンチ、4トレンチで遺物を検出したことから、標高1.7mを第3面として、調査を行っ

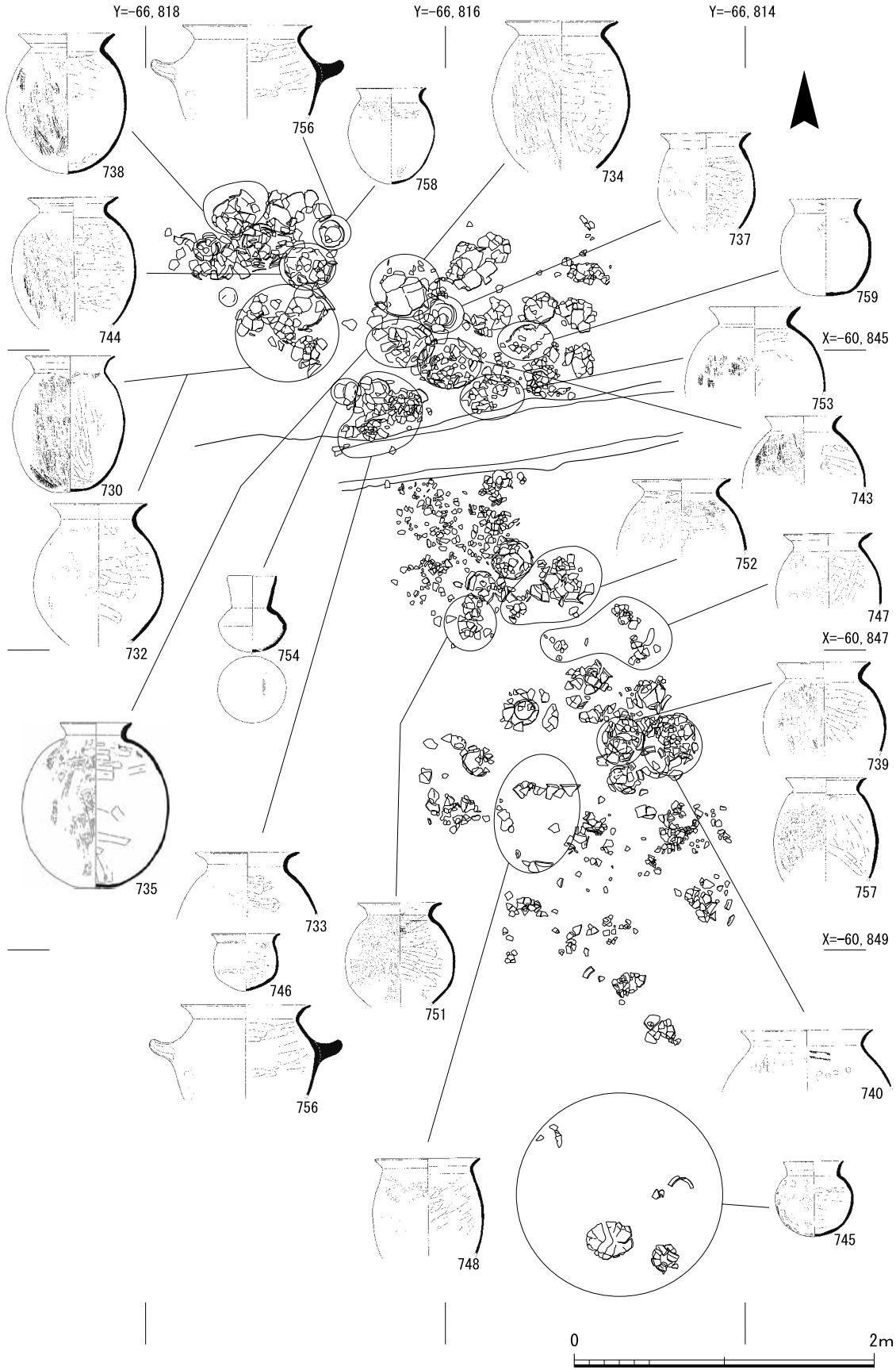


第36図 A地区 第3面検出遺構平面図およびサブトレンチ配置図

たが、遺構・遺物は検出できなかった。さらに標高0.9mまで緑灰色のシルトを確認したことから、水によって徐々に土が堆積したものと考えられる。特殊扁壺、提瓶については、旧表土に投棄されたものもしくは遺物が自然の営力によって動かされ、出土したものと考えられる。

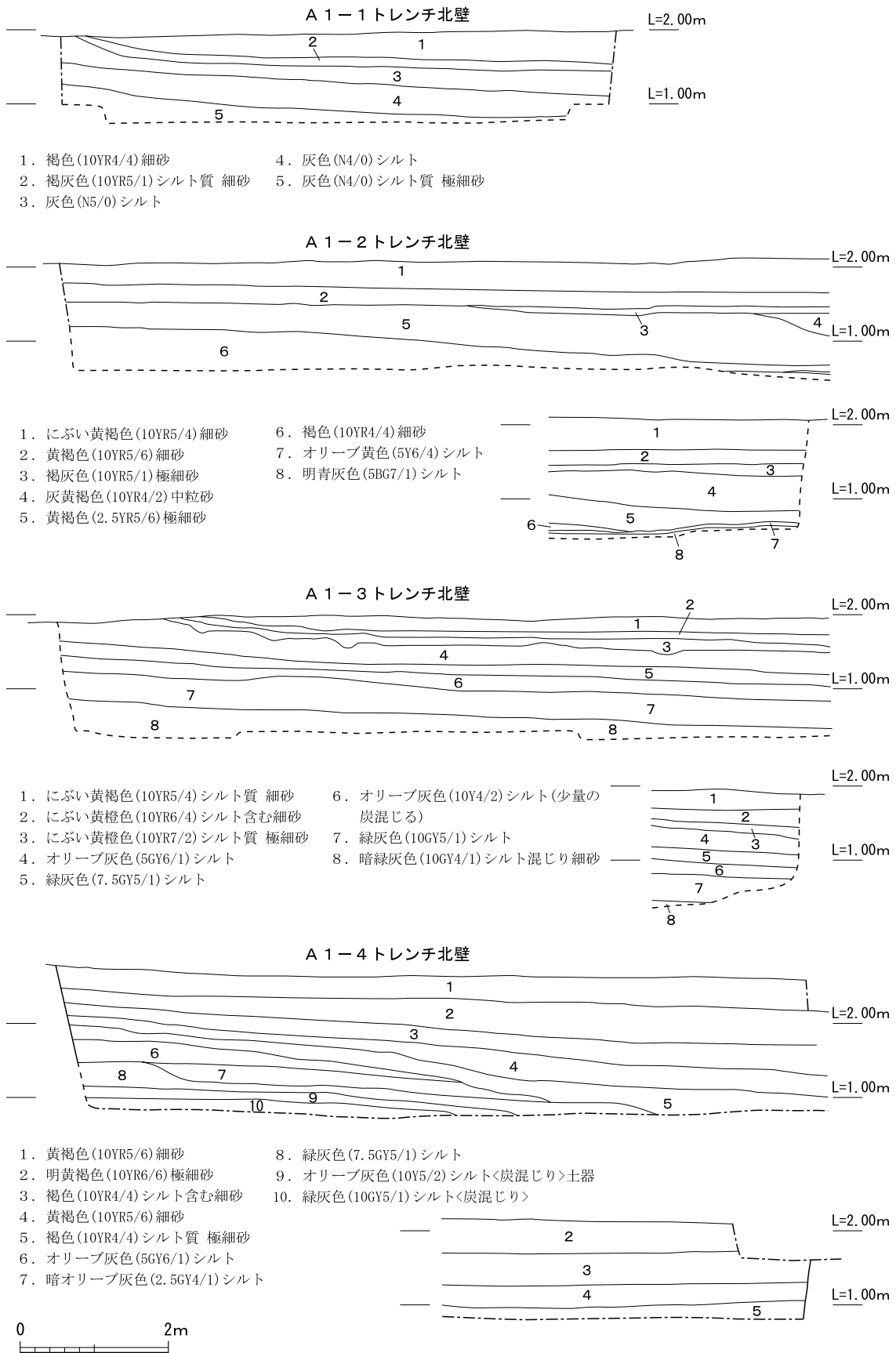
(3) A3地区

A3地区は下層確認の為、2か所のトレンチを設定し、調査を行った。標高1.9mまで掘削を行い、精査を行った。遺構、遺物は確認できなかった。



第37図 A3地区 第3面遺物集中か所S X677平面図(遺物実測図は1/12)





第38図 A 1 地区 第 3 面サブトレンチ内土層実測図

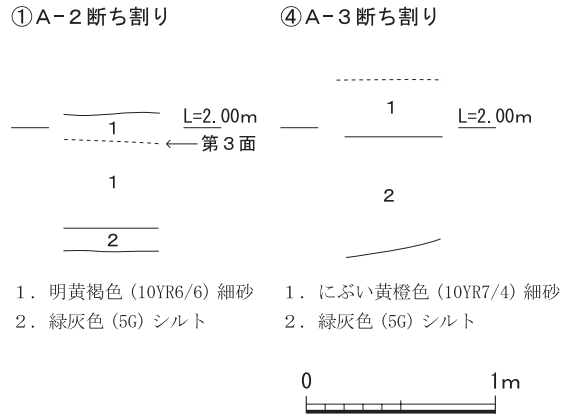
3トレンチにおいて須恵器特殊扁壺・提瓶が出土したことにより、A-2地区同様に標高1.7m~1.8m付近を第3面として調査を行った。その結果、遺物集中か所SX677を確認した。

遺物集中か所S X677(第37図) 標高1.7~1.8mで、検出した遺物集中か所である。断ち割りをを行ったが、掘形は検出されなかったため、自然堆積層の中に埋没していたと考える。出土状況はほぼ1個体分の土器が破片となって埋没していたが、756の把手付土師器甕のみ、1.4m離れた2箇所に分かれて埋没していた。

29点実測したが、現地で取り上げる際は37グループとした。実際の個体数は40点以上あったと推定する。遺物の年代は土師器甕や754・755の土師器長頸壺の形態から古墳時代後期である。

A3地区の断ち割りでは、標高1.9m付近で緑灰色のシルトになることから、A2地区同様に水によって、徐々に土が堆積したものと考えられる。

A2・3地区の範囲では、かつては水の押し寄せる高さがA2地区が高かったが、後世に削平されることにより、現在の堆積となったと考えられる。緑灰色シルトまで掘削を行うと、湧水が認められ、掘削はこの高さまでとした。



第39図 A2・3地区  
第3面サブトレンチ内土層実測図

### 3. B地区の調査

#### 1) 調査の概要

##### (1) B1地区

B1地区の調査前は荒地であったが、もとは川側が畑地で、国道側は50年以上前は宅地であった。調査区は東西21.5m、南北36mの長方形のトレンチである。第3次調査の第3トレンチが範囲に入る。地区の中央には農道が通る。北側は八田川で限られる。小字は西部が麻町、東部が渡シガ上である。

第1面は室町時代の遺構面で、多数の杭跡とともに、石造物の基礎と判断される集石遺構を1か所確認した。第2面は平安時代後期から鎌倉時代の遺構面で、総柱の掘立柱建物や溝などを検出した。遺物は土師器皿や黒色土器、瓦器、須恵器が主体で、中国製白磁や青磁が多数出土した。第3面は弥生時代中期から飛鳥時代で、方形の竪穴建物や多数の土坑を検出した。

##### (2) B2地区

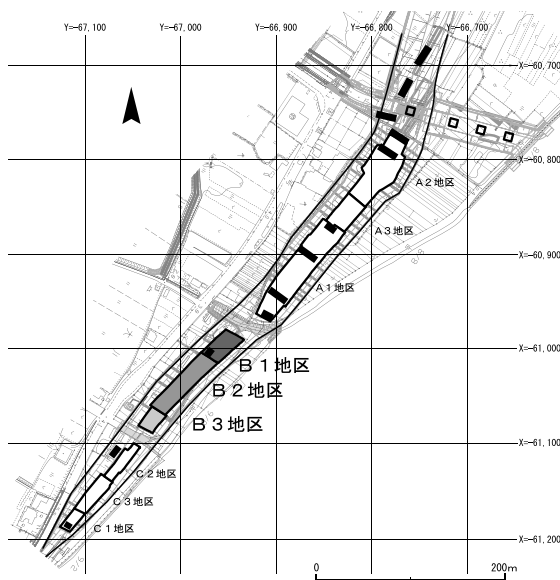
由良川側が畑地で、国道側は50年以上前は宅地であった。調査区は東西19m、南北78mの長方形のトレンチである。第1次調査の第1トレンチが範囲に入る。地区の中には農道が斜めに通る。小字は南部が横町、北部が渡シガ上である。

第1面は室町時代で、池状遺構、柵列等を検出した。第2面は平安時代後期から鎌倉時代で、総柱の掘立柱建物や井戸、溝などを検出した。溝は2条並行しており、B1地区から続く道路側溝と考えられる。遺物は土師器皿や黒色土器、瓦器、須恵器が主体で、中国製白磁や青磁が多数出土した。また、高麗青磁も出土した。なお、井戸からは木製の下駄、曲げ物底板が出土した。第3面は弥生時代中期から飛鳥時代で、方形の竪穴建物や多数の土坑を検出した。弥生時代の遺構は、平面形が隅丸方形の竪穴建物1棟と円形の竪穴建物6棟、方形周溝墓1基を検出した。古墳時代の遺構は、多数の土器とともに勾玉1

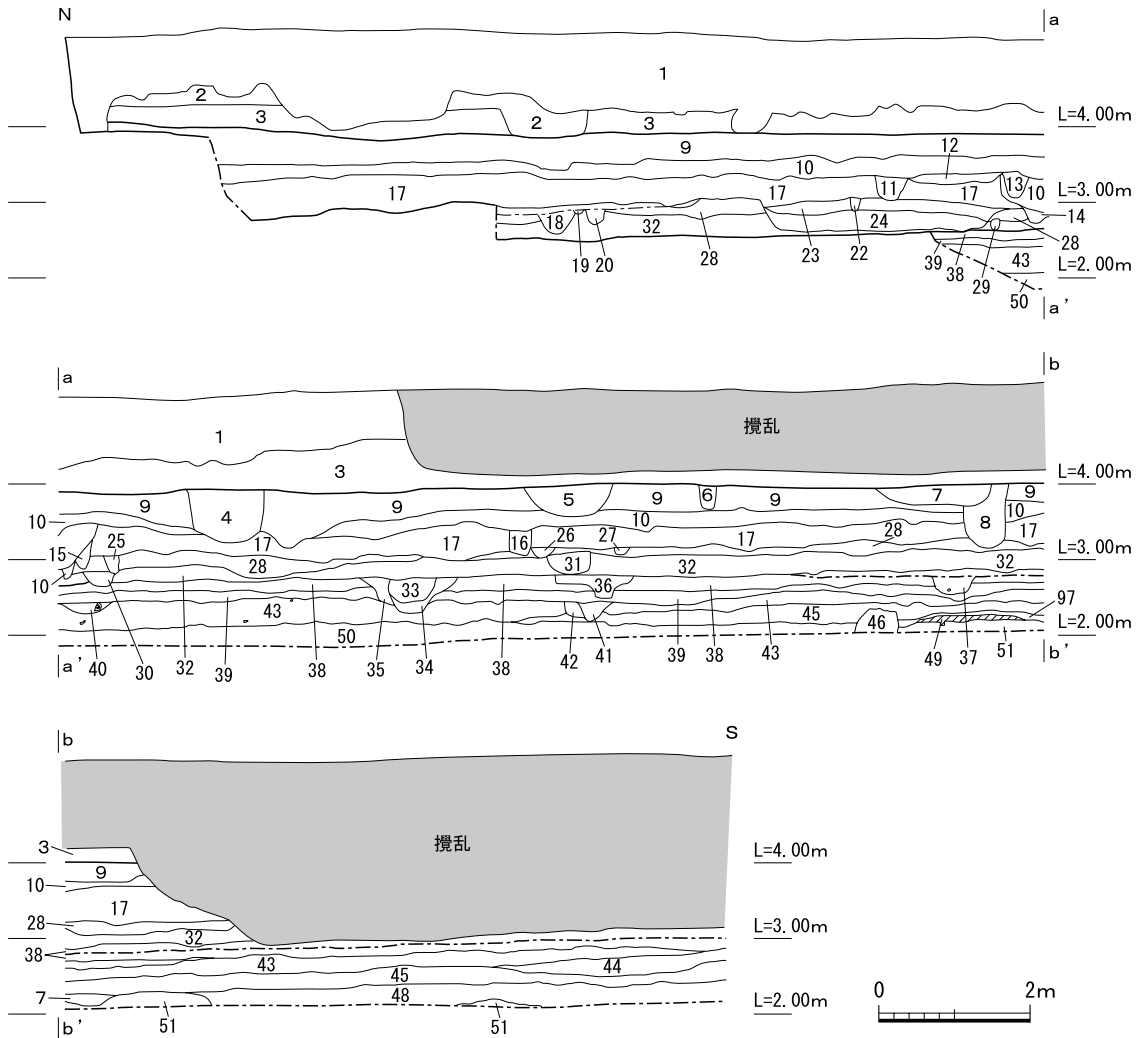
点が出土した前期の土坑や後期の竪穴建物5棟を検出した。遺構面は海拔2.4m付近にあり、掘立柱建物3棟、竪穴建物12基、方形周溝墓1基、溝、土坑、ピットや柱穴を多数検出した。調査地の幅が狭いため、建物の大多数はその部分を検出しただけで、全貌を把握できる建物は掘立柱建物S B890と竪穴建物S H897の2基のみである。

##### (3) B3地区

B2地区の南西隣に位置する。トレンチ規模は全長約29m、幅約18mを測る。ここでは、4面の遺構面を検出し、調査を行った。調査

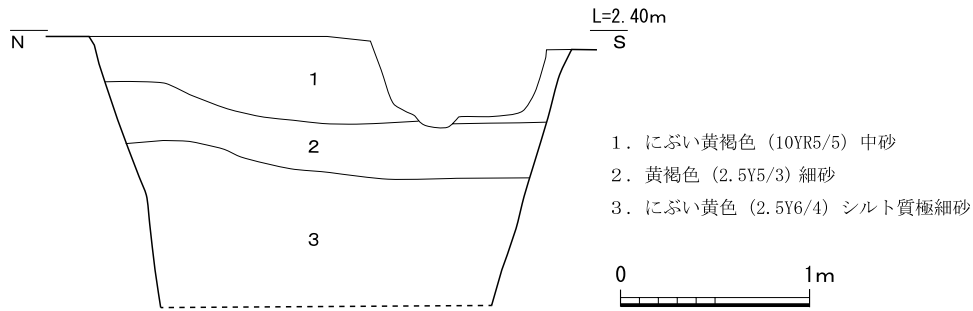


第40図 B地区 調査地区割



- |                                 |                               |                           |
|---------------------------------|-------------------------------|---------------------------|
| 1. 客土                           | 18. 褐色(10YR4/4)細砂～極細砂         | 37. 褐色(10YR4/4)極細砂        |
| 2. オリーブ褐色(2.5Y4/4)細砂            | 19. 黄褐色(2.5Y5/3)細砂            | 38. 褐色(10YR4/6)極細砂        |
| 3. にぶい黄褐色(10YR4/3)細砂            | 20. にぶい黄褐色(10YR4/3)礫混じる細砂     | 39. 褐色(10YR4/4)極細砂        |
| 4. 褐色(10YR4/4)極細砂               | 21. にぶい黄褐色(10YR5/4)細砂         | 40. 暗褐色(10YR3/4)シルト質極細砂   |
| 5. にぶい黄褐色(10YR5/4)極細砂           | 22. にぶい黄褐色(10YR4/3)細砂         | 41. にぶい黄褐色(10YR4/3)細砂     |
| 6. にぶい黄褐色(10YR4/3)中砂            | 23. 黄褐色(2.5Y5/3)極細砂           | 42. にぶい黄褐色(10YR4/3)中砂～細砂  |
| 7. 暗褐色(10YR3/4)細礫混じる中砂(炭化物多く含む) | 24. オリーブ褐色(2.5Y4/4)細砂～極細砂     | 43. 褐色(10YR4/4)極細砂        |
| 8. にぶい黄褐色(10YR4/3)細砂(炭化物多く含む)   | 25. 褐色(10YR4/4)細砂             | 44. 褐色(7.5YR4/3)シルト含む極細砂  |
| 9. 褐色(10YR4/4)礫混じる細砂            | 26. 褐色(10YR4/4)細砂             | 45. 暗褐色(10YR3/4)細砂～極細砂    |
| 10. 暗褐色(10YR3/4)礫含む細砂           | 27. 暗灰黄色(2.5Y4/2)極細砂          | 46. 褐色(10YR4/4)シルト        |
| 11. にぶい黄褐色(10YR3/4)細砂           | 28. 褐色(10YR4/4)細砂～極細砂(炭片多く含む) | 47. 暗褐色(7.5YR3/4)中砂       |
| 12. 褐色(10YR4/3)細礫混じる細砂～極細砂      | 29. にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト含む極細砂   | 48. 暗褐色(10YR3/3)中砂        |
| 13. 暗褐色(10YR3/4)細砂(炭片多く含む)      | 30. 褐色(10YR4/4)極細砂            | 49. 明黄褐色(10YR6/6)粘土       |
| 14. オリーブ褐色(2.5Y4/4)中砂           | 31. 褐色(10YR4/4)中砂～細砂          | 50. 褐色(10YR4/6)細砂         |
| 15. にぶい黄褐色(10YR4/3)細砂           | 32. 褐色(10YR4/4)中砂～細砂          | 51. にぶい黄褐色(10YR4/3)中砂～極細砂 |
| 16. にぶい黄褐色(10YR4/3)中砂           | 33. 灰オリーブ色(5Y4/2)シルト質極細砂      |                           |
| 17. にぶい黄褐色(10YR5/4)中砂～細砂        | 34. 褐色(7.5YR4/4)細砂～極細砂        |                           |
|                                 | 35. にぶい黄褐色(10YR5/4)極細砂        |                           |
|                                 | 36. 黄褐色(10YR5/6)シルト含む極細砂      |                           |

第41図 B1地区 東壁土層実測図



第42図 B1地区 サブトレンチ内土層実測図

前は畑地であった。調査区は東西17m、南北26.5mの長方形のトレンチである。地区の東端には農道が通る。南側は市道神社線で限られる。南東隅は大川神社の御旅所である野々宮神社が隣接する。小字は北部が横町、南部が町路に隣接する。

第1遺構面は海拔3.9m付近で検出した遺構面である。褐灰色細砂層(第45図第7層)が遺構の基盤層である。掘立柱建物1棟、土坑、井戸を検出したほか、鎌倉時代を中心とした多数の柱穴を検出した。また、近世以降の井戸、土坑も攪乱として遺構面に多くの影響を与えている。検出した多数の柱穴は、建物や柵列に伴う遺構と判断するが、柱穴の密集状況から建物等の復原は難しい。第2遺構面は海拔3.1m付近で検出した。褐色極細砂層(第45図第9層)が遺構の基盤層である。ここでは、掘立柱建物1棟、土坑1基、柱穴を検出した。第3遺構面は海拔2.8m付近で検出した遺構面である。にぶい黄褐色極細砂層(第45図第10層)が遺構の基盤層である。ここでは僅かではあるが、土坑と柱穴を検出した。第4面は海拔2.2m付近で検出した遺構面である。弥生時代～古墳時代の竪穴建物5基、掘立柱建物1棟、方形周溝墓1基、土坑、柱穴を検出した。

## 2) 土層の堆積状況

### (1) B1地区

B1地区の東壁面で土層を確認するとともにその土層断面図を作成した(第41図)。

土層は調査地全体で水平堆積を基本とする。現地表面は標高約5.1mを測る。第1層は竹林に伴う客土で、全体に竹根が確認できる。第2層から第9層は近世から現代の堆積土である。第10層は礫を含む暗褐色細砂で、室町時代の包含層である。第17層はにぶい黄褐色中砂から細砂で、調査地中央付近でやや薄くなりながら厚さ20~40cmで堆積する。第28層は炭片を多く含む褐色細砂から極細砂で第17層下に堆積し、厚さ5~20cmとなる。第17・28層は、出土遺物より平安時代後期から鎌倉時代の堆積と判断される。以下、褐色極細砂(第38・39・43層)、褐色シルト含む極細砂(第44層)、暗褐色細砂から極細砂(第45層)が堆積する。これらの土層は、出土遺物から弥生時代中期から奈良時代の堆積と判断される。

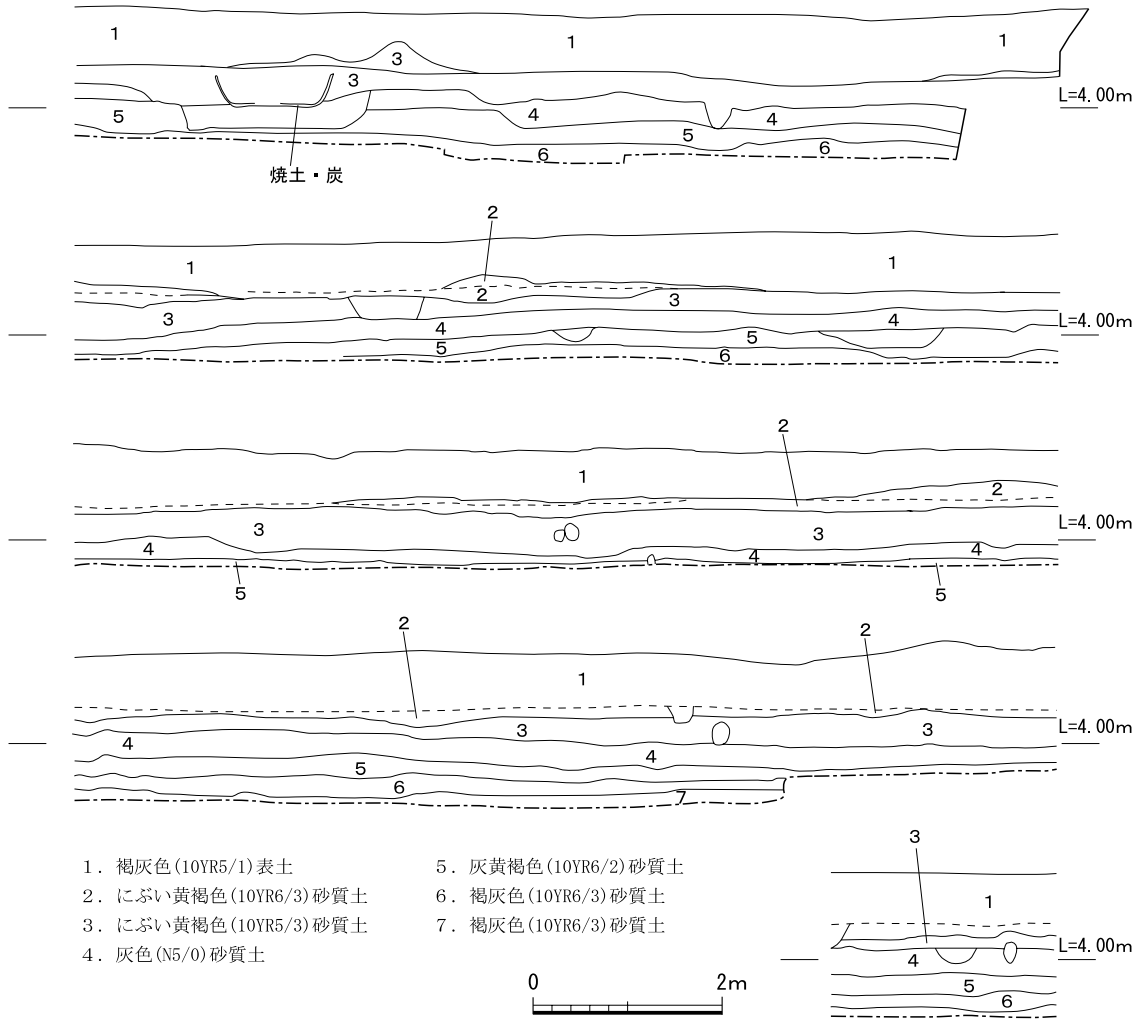
調査では、第10層下面を第1面、第28層下面を第2面、第45層下面を第3面として、各面で遺構の検出に努めた。

第3面調査終了後、調査地南隅に人力掘削によるサブトレンチを入れ下層確認を行なった(第

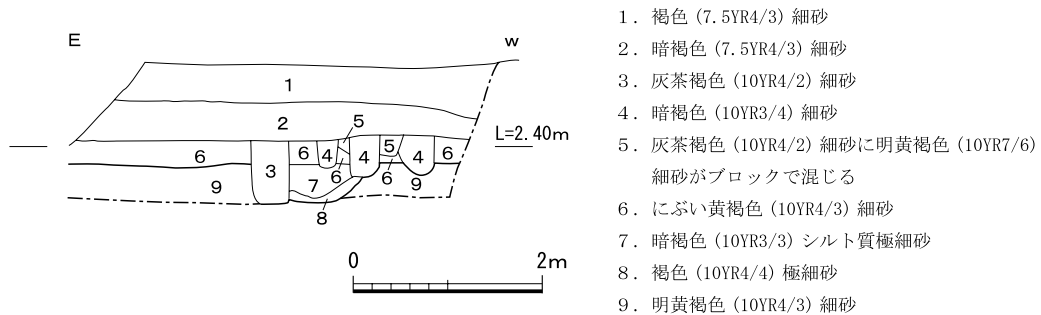
42図)。第1・2層は自然堆積層で、にぶい黄褐色中砂、黄褐色細砂で、掘削面より厚さ50~80cmに堆積する。第3層はにぶい黄色シルト質極細砂で、標高1.0m付近まで続くため地山と判断した。これらの層からは遺物は出土せず、遺構面は確認されなかった。

(2) B2地区

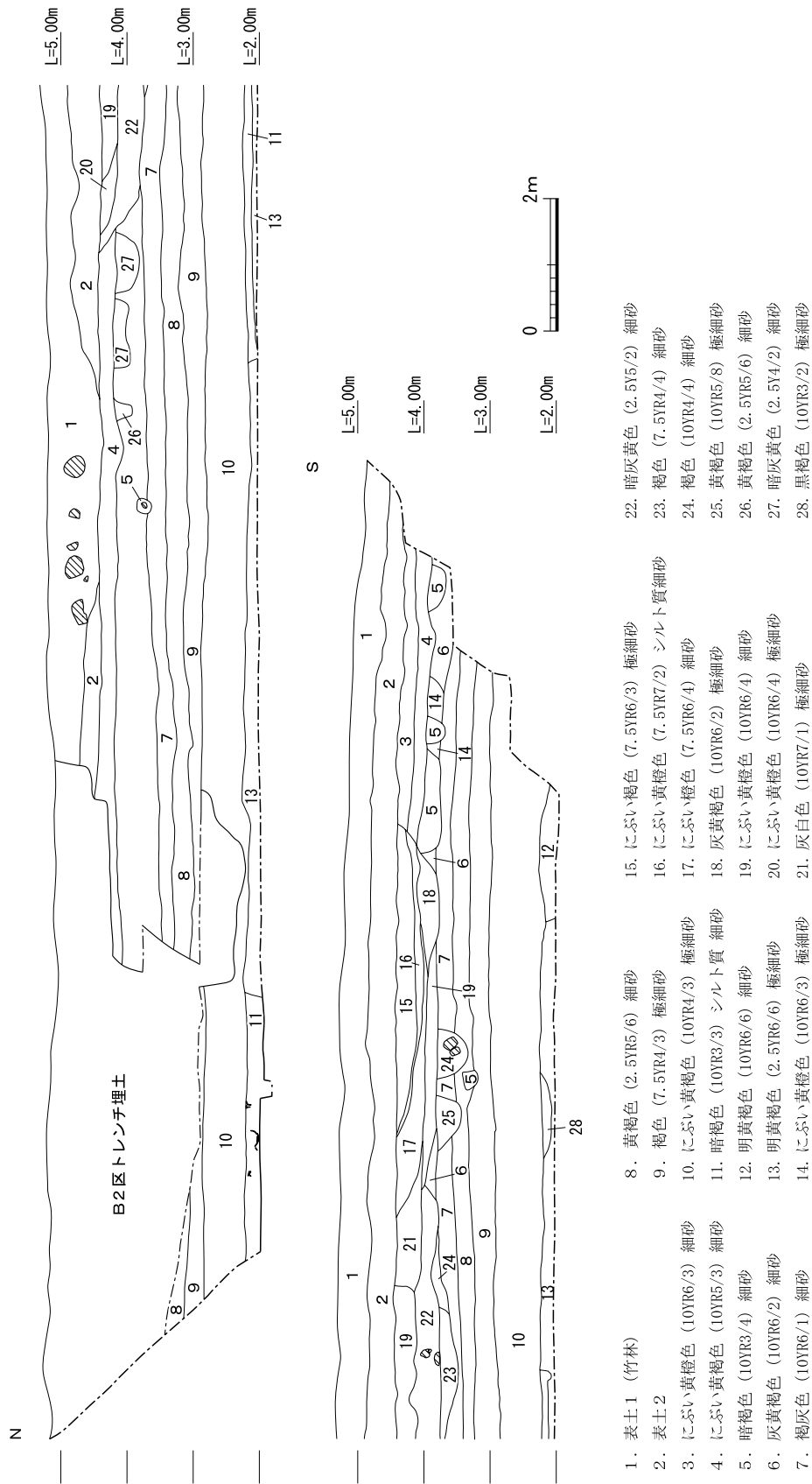
B2地区の東壁面と南西壁面で土層を確認し、その土層図を作成した(第43・44図)。堆積土は



第43図 B2地区 東壁土層実測図



第44図 B2地区 サブトレンチ内土層実測図



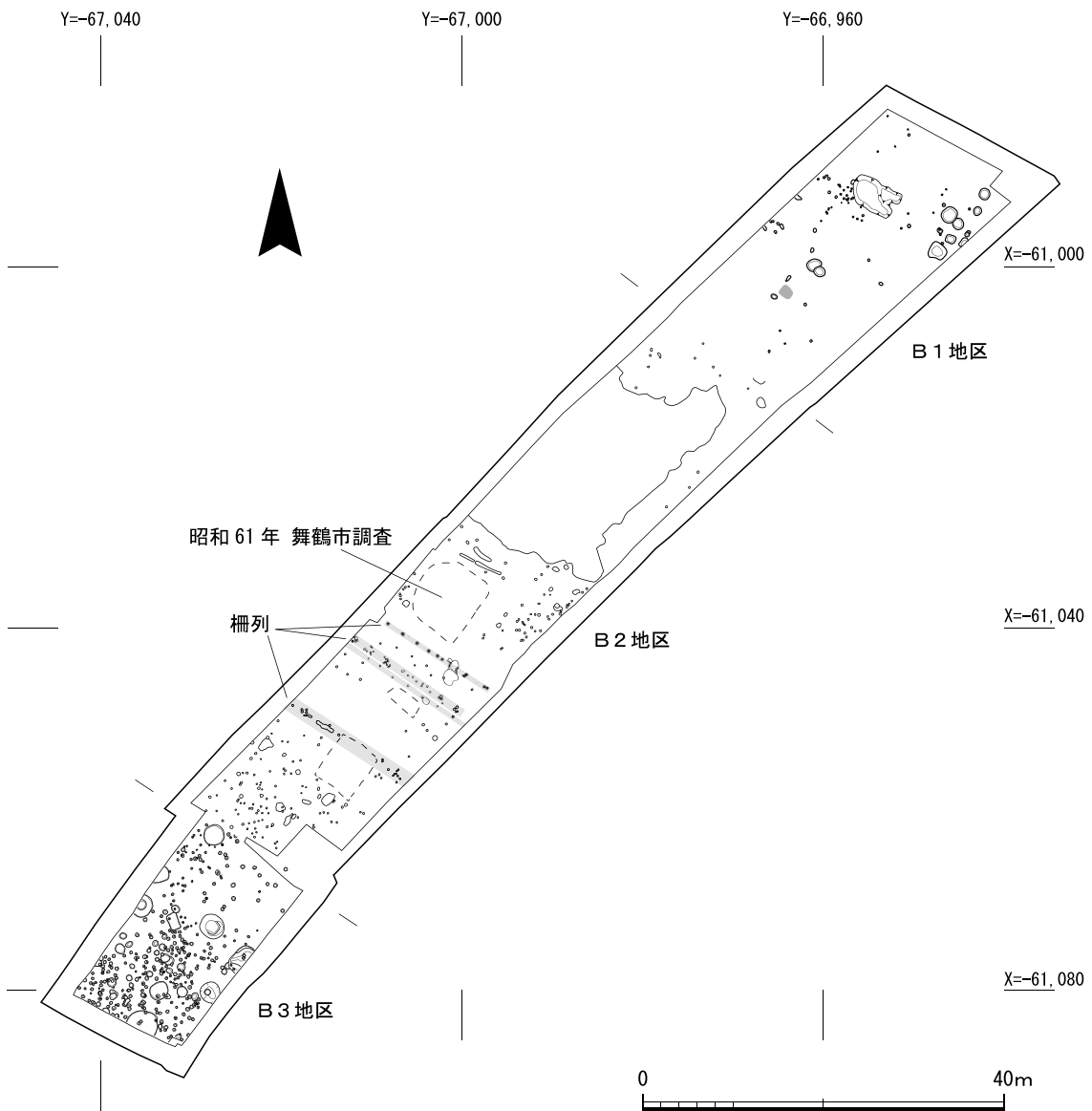
第45図 B3地区 東壁土層実測図

ほぼ水平堆積に近い状況にある。第43図第1・2層は竹林の客土である。また、第3・4層は近世から現代の堆積土である。第5層の上面の精査で、江戸時代後期の池状遺構・柵列・土坑を検出した。第6・7層は褐灰色砂質土で、平安時代後期から鎌倉時代の遺物を含む。第6層上面で掘立柱建物跡を検出した。また、精査を繰り返した結果、第7層上面付近から井戸・柱穴等の遺構を検出した。

調査地南西壁面の第1層(第44図)は、東壁面(第43図)の第7層に対応する。第2層は弥生時代から奈良時代の遺物を含む。また、第6層のにおい黄褐色細砂層には弥生時代中期から古墳時代遺物を含む。第9層は明黄褐色細砂で無遺物層となる。第4面検出の竪穴建物跡、方形周溝墓は第9層を掘り込む。

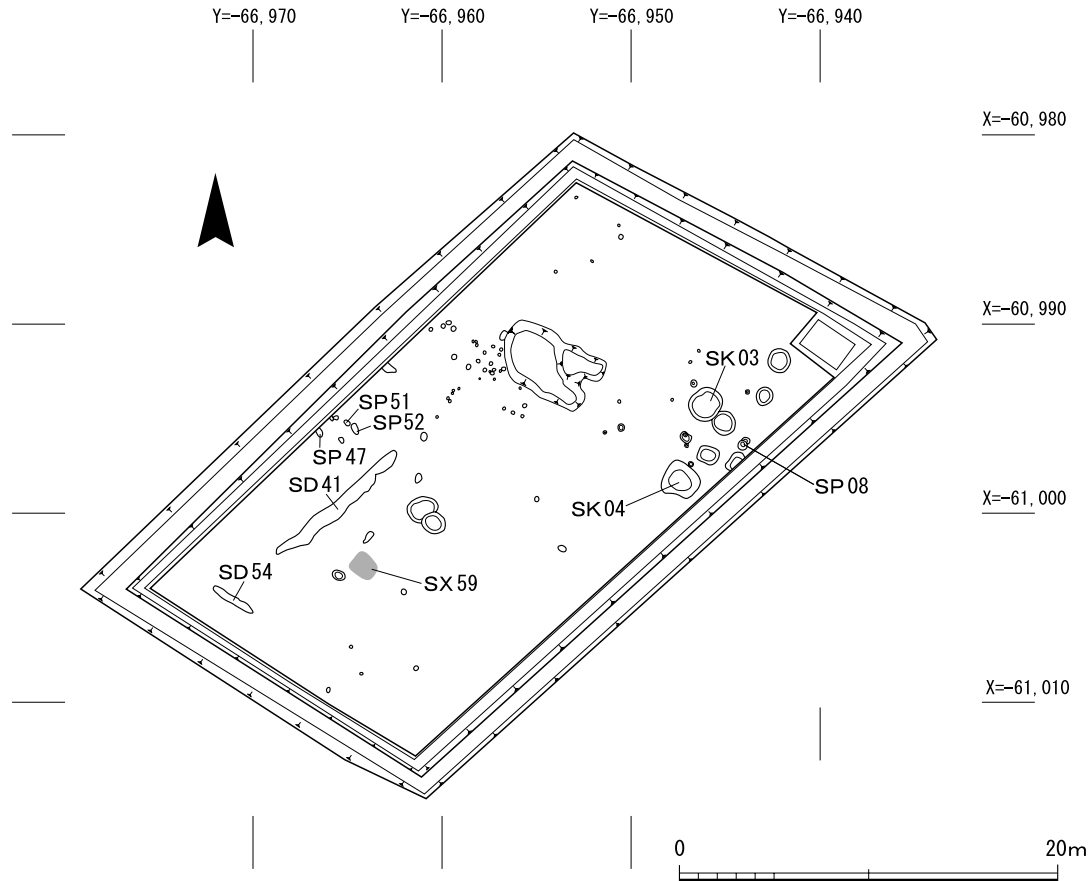
(3) B3地区

B2地区の東壁面で土層を確認し、その土層図(第45図)を作成した。堆積土はほぼ水平堆積に



第46図 B地区 第1面検出遺構平面図



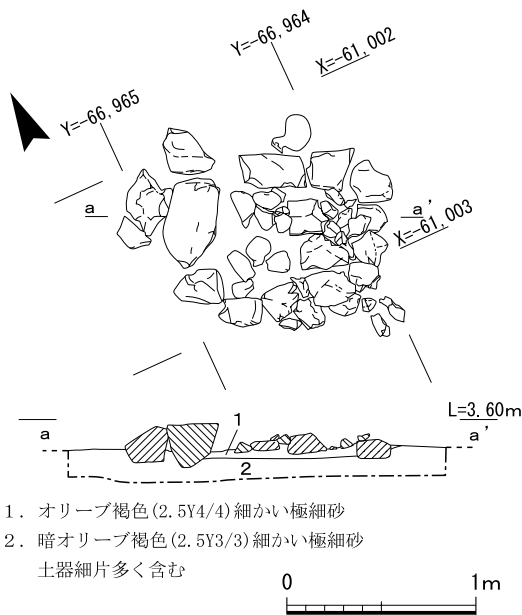


第47図 B1地区 第1面検出遺構平面図

近い状況にある。B3地区はB2地区の南隣に位置することから、土層も連続する。B3地区第1・2層はB2地区第1層(第44図)に該当する。以下同様(地区省略)に、第3層が第2層、第4層が第3層に該当する。第6層は単純層と判断していたが、第4・5層に該当する。第7層以下は、第44図に対応する。以下第7層は第1層に、第9層が第2層、第10層が第6層、第11層が第7層、第13層が第9層に該当する。

### 3) 第1面の調査

第1面は室町時代の遺構面である。B1地区では、多数の杭跡とともに、集石遺構を検出した。B2地区では池状遺構、柵列等を検出した。B3地区では、掘立柱建物、土坑、井戸と鎌倉時代を中心とした多数の柱穴を検出した。これらの柱穴は、建物や柵列に復原できないが、土層断面で柱痕を観察できるものもあり、掘立柱建物や柵列に伴う柱穴と判断される。



1. オリーブ褐色(2.5Y4/4)細かい極細砂
2. 暗オリーブ褐色(2.5Y3/3)細かい極細砂  
土器細片多く含む

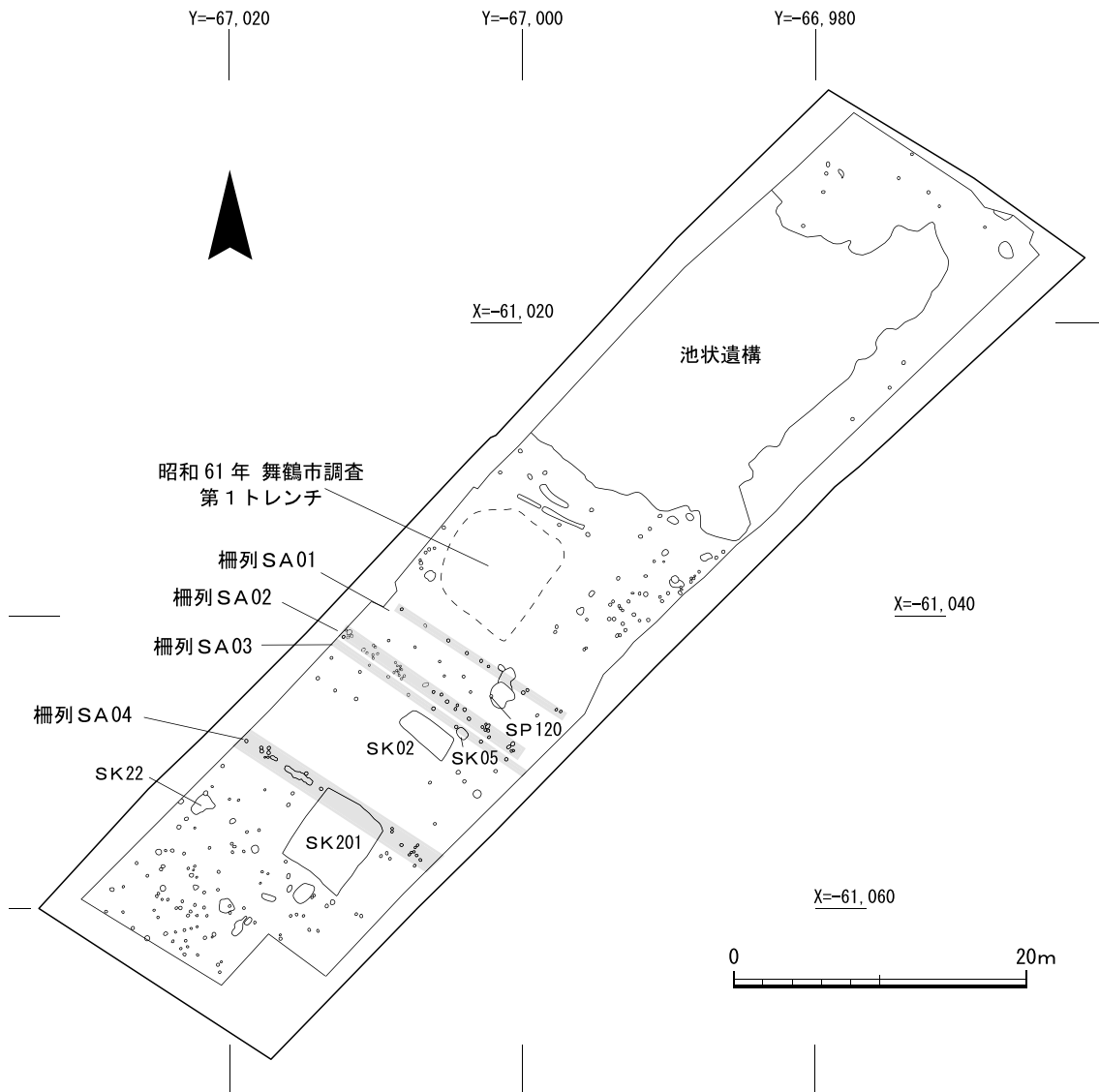
第48図 B1地区 第1面集石遺構S X59実測図

## (1) B1地区(第47図)

調査地の北西で集石遺構、溝2条、北東部を中心に土坑、柱穴を検出した。そのほか、中央付近で杭跡を検出した。

**集石遺構 S X59** (第48図) 調査地の中央部のやや南西寄りで検出した、方形に石を配した遺構である。平面形はややいびつな長方形を呈し、長辺1.4m、短辺1.1m、高さ0.2mである。外周に0.3~0.5mの角張った石を配している。内側には一辺0.1~0.2mと外側より一回り小さな石を置く。内外面とも石の配置は一段だけで、下部構造はなかった。埋土はオリーブ褐色極細砂である。A1地区の第1面で検出した集石遺構 S X01と比べて残存状態はよくないが、S X01と同様の性格をもつものと考えられる。

**柱穴 S P08** 調査地北東付近で検出した。柱穴掘形は直径0.5mの円形を呈する。深さは0.25mを測る。掘形埋土はにぶい黄褐色細砂である。掘形の東側で直径0.2mの柱痕を確認した。柱痕埋土はにぶい黄褐色細砂で、掘形埋土に比べ炭化物を多く含む。



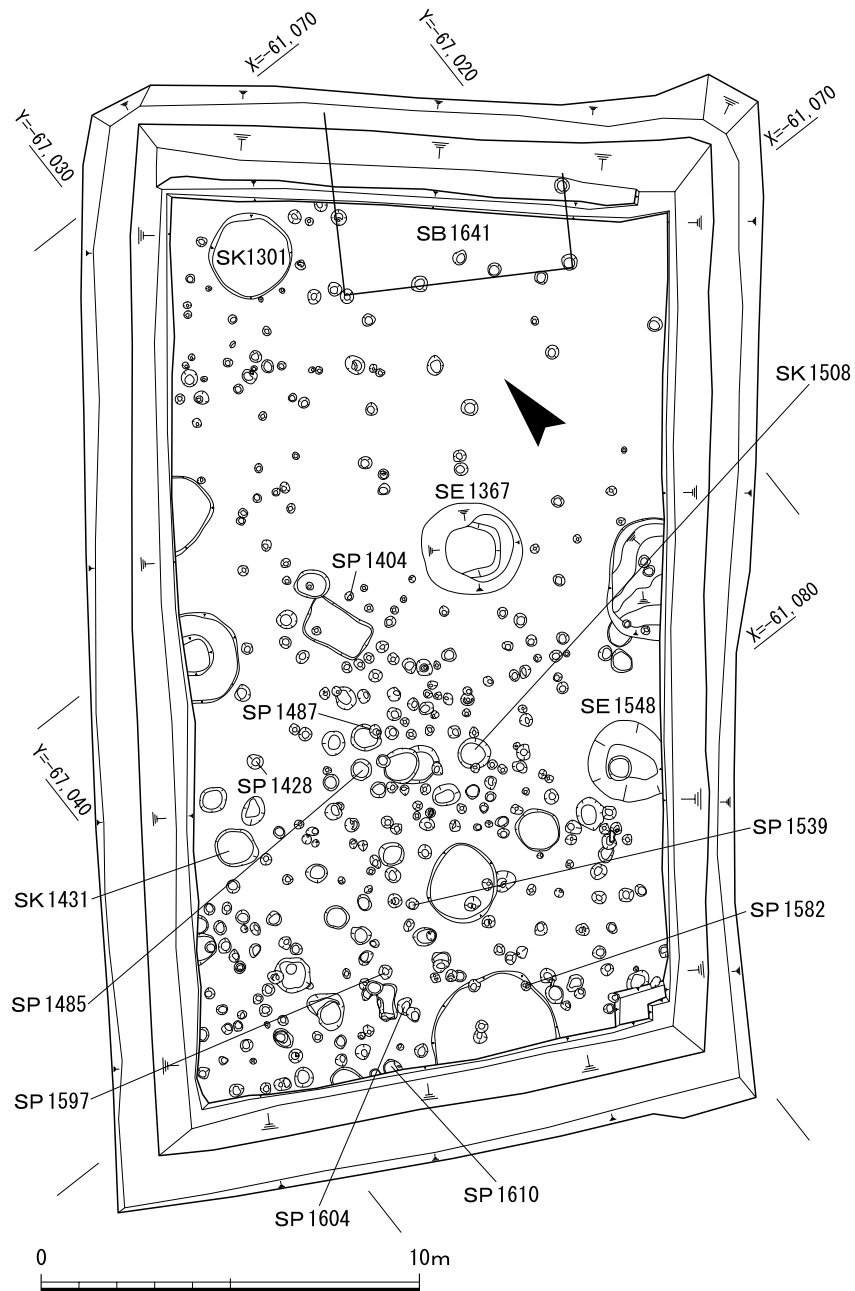
第49図 B2地区 第1面検出遺構平面図

**土坑 S K03・04** 調査地の北東で検出した。土坑掘形は直径約2mのゆがんだ円形を呈する。深さは0.2~0.3mを測る。埋土はオリブ褐色細砂である。遺物は土師器の細片がわずかに出土したにすぎず、窪地の可能性も考えられる。

**杭跡** 調査地中央より北東寄りを中心に検出した。直径は0.1~0.15mで、円形を呈する。深さは0.1~0.2mのものが多く、底部に杭が腐敗したとみられる有機質が残るものもあった。

(2) B2地区(第49図)

北部で池状遺構、南部で4条の柵列等を検出した。中央部では昭和61年に舞鶴市が実施した大川遺跡第1次調査の第1トレンチを確認した。



第50図 B3地区 第1面検出遺構平面図

**池状遺構** 調査地の北部で、南北25m、東西12m、深さ0.15mの池状遺構を検出した。埋土は泥状の粘質土であることから、池状遺構と判断した。上層からの掘り込みであり、存続時期は出土した遺物から江戸時代後期以降である。

**柵列 S A 01～04** 調査地の南半では柵列を4条確認した。S A 01以外のS A 02～04はいずれも一列に杭跡が並ぶものではなく、幅1～2mの範囲に杭跡が集中して並ぶものである。何時期かの柵列がほぼ同一地点で造り替えられたものと判断される。杭列の方向は北西から南東に向き、由良川とは直交する。S A 01の検出長は15mである。杭の間隔は1.5m程度である。S A 01とS A 02との間は3.5m、S A 02とS A 03との間は1m、S A 03とS A 04との間は9mである。土地の境界を示すものとする。

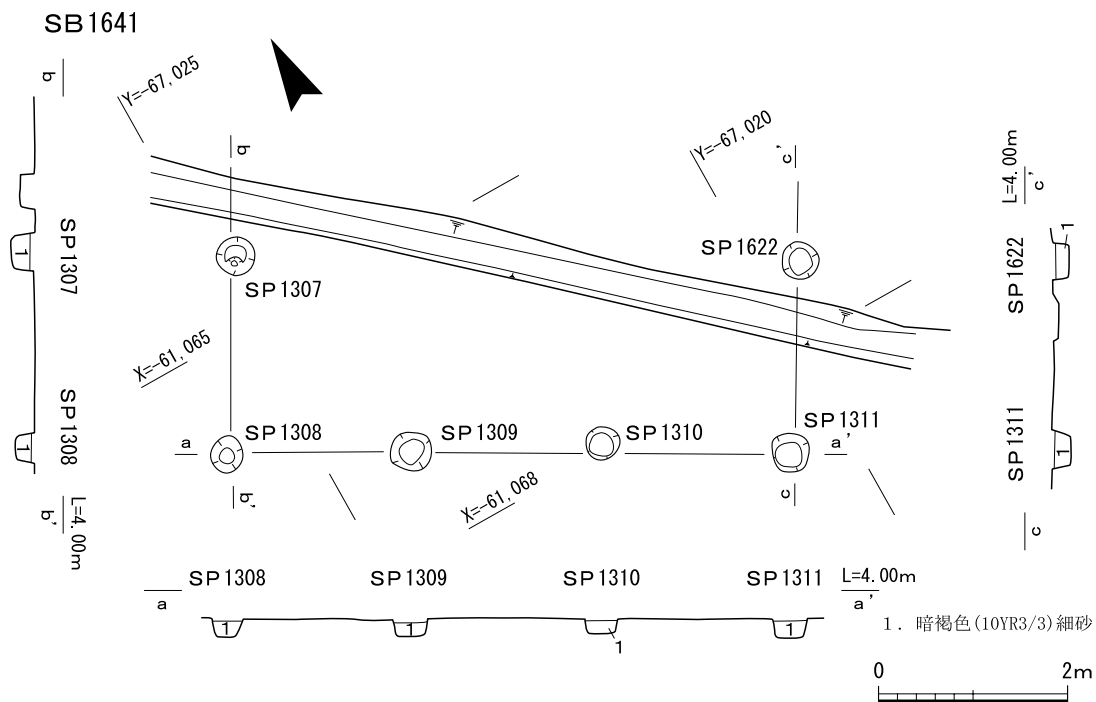
**土坑 S K 02** 柵列 S A 03の南側で長方形の土坑を検出した。東西4m、南北2m、深さ0.25mで出土遺物の年代から江戸時代後期以降である。

柵列 S A 04の南側では方形の土坑 S K 201を検出した。南北6m、東西5m、深さ0.2mである。出土遺物の年代から江戸時代後期以降である。

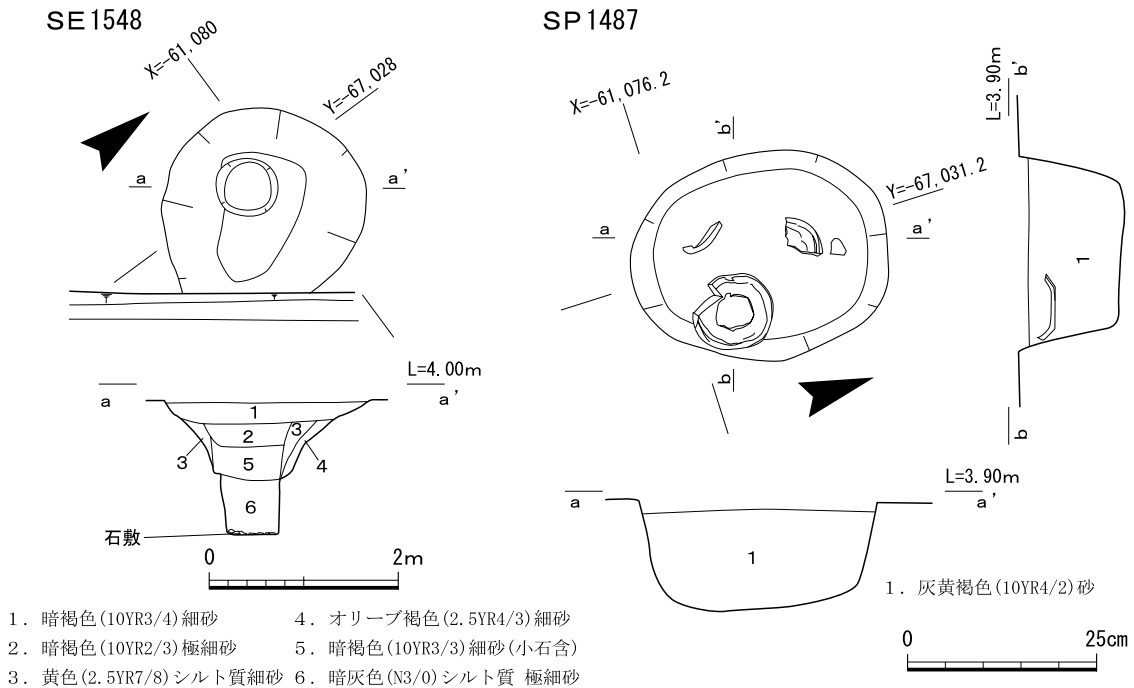
(3) B 3 地区 (第50図)

**掘立柱建物 S B 1641 (第51図)** 調査地北端で検出した東西棟の掘立柱建物である。北半部は調査地外に延びる。建物の規模は、東西3間(5.8m)、南北1間以上(2.0m以上)を測る。建物の主軸は北に対して60°西に振る。柱穴掘形は円形で、直径0.4m、深さ0.18m前後である。柱穴の埋土は暗褐色細砂である。

**井戸 S E 1367** 調査地中央で検出した井戸である。近世の攪乱土を除去する過程で、攪乱の底面の下で井戸掘形の一部を検出した。掘形は円形で、残存部では直径1.4m、深さ0.3mを測る。



第51図 B 3 地区 第 1 面掘立柱建物 S B 1641実測図



第52図 B3地区 第1面井戸S E1548、柱穴S P1487実測図

埋土中には20~30cm大の河原石が数個存在した。井戸内埋土の灰色シルト質細砂から古瀬戸皿と瓦質鍋(第184図1126・1145)が出土した。

**井戸S E1548**(第52図) 調査地中央のやや南、東側トレンチ壁に接した位置で検出した。平面円形を呈する井戸掘形は、直径2.2m、深さ1.4mを測る。井戸底面は海拔2.4mに位置する。掘形の横断面は漏斗状を呈している。井戸下部は直径0.65m、深さ0.6m規模で円筒形に掘り下げられ、底面には小石が敷き詰められている。集水桝として曲物が設置されていた可能性がある。井戸内埋土には小石が混じるのに対して、掘形埋土は細砂となる。井戸内と掘形の堆積土に違いが認められるのは、井戸内に木製の井戸枠が存在したことを示すものとする。

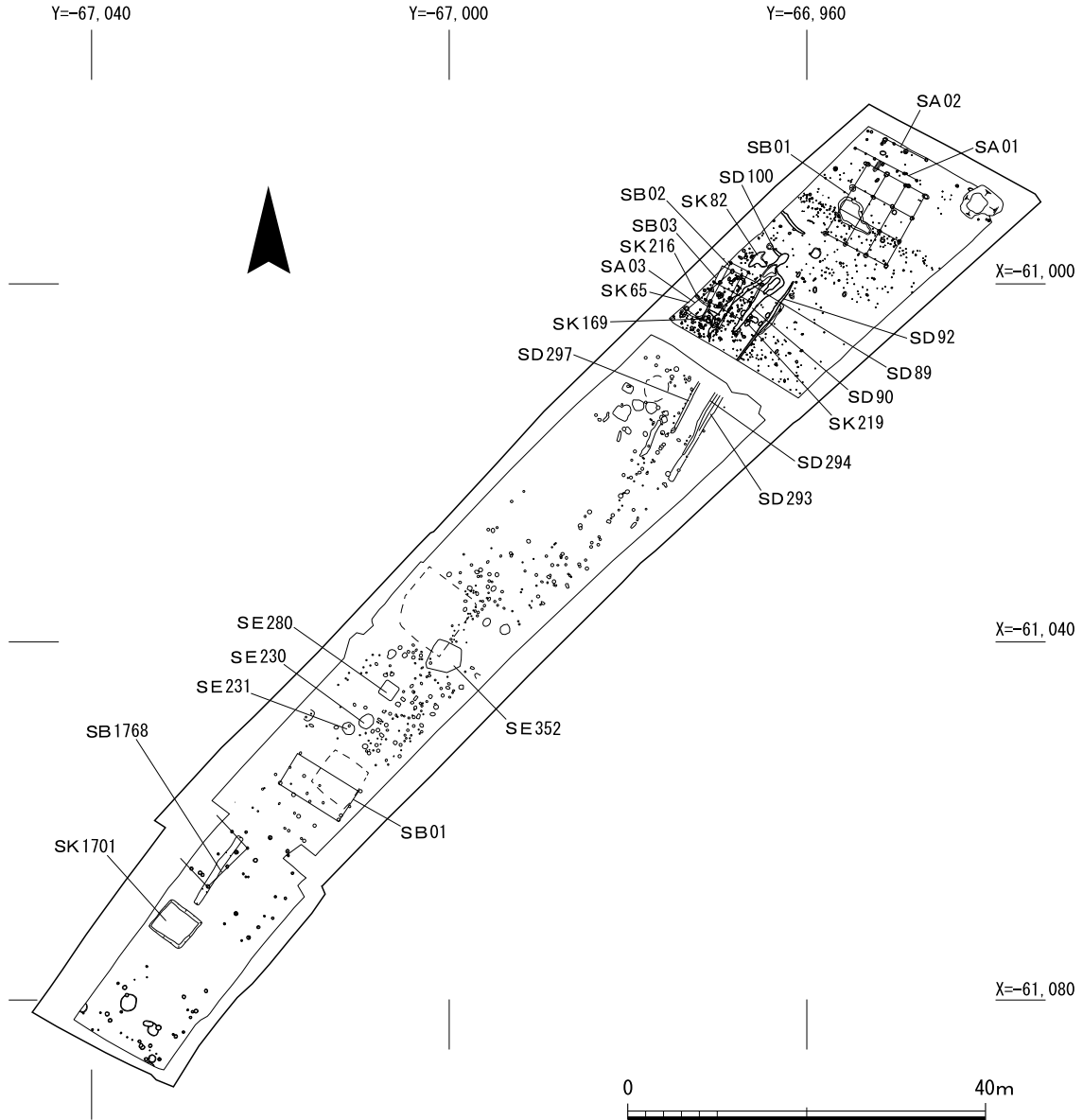
**土坑S K1301** 調査地北端部で検出した円形掘形の土坑である。直径2.2m、深さ0.3mを測る。底面は緩やかに中央部が低まる。埋土の灰黄褐色細砂中から瓦質鍋(第184図1144)が出土した。

**土坑S K1431** 調査地中央西側付近で検出した円形掘形の土坑である。直径1.1m、深さ0.5mを測る。土坑底面はすり鉢状に中央部が下がる。埋土は暗灰色シルト質細砂で、埋土中から土師器皿、土師質土錘(第184図1128・1130)が出土した。

**土坑S K1508** 調査地中央で検出した円形掘形の土坑である。直径0.7m、深さ0.2mの規模を測る。埋土中から須恵質片口鉢、土師器皿(第184図1156・1151)が出土した。

**柱穴S P1487**(第52図) 調査地中央付近から検出した柱穴である。円形の掘形は、直径0.28、0.35m、深さ0.14mを測る。埋土は灰黄褐色砂であり、検出面近くから土師皿(第184図1133~1134)が出土した。

このほか、柱穴S P1404・1428・1582からは中国製青磁(第184図1136・1137・1153)が出土した。また、柱穴S P1604・1610から土師器皿(第184図1155・1154)、S P1539から須恵器器台(第184



第53図 B地区 第2面検出遺構平面図

図1152)、S P 1597から須恵器片口鉢が出土した。

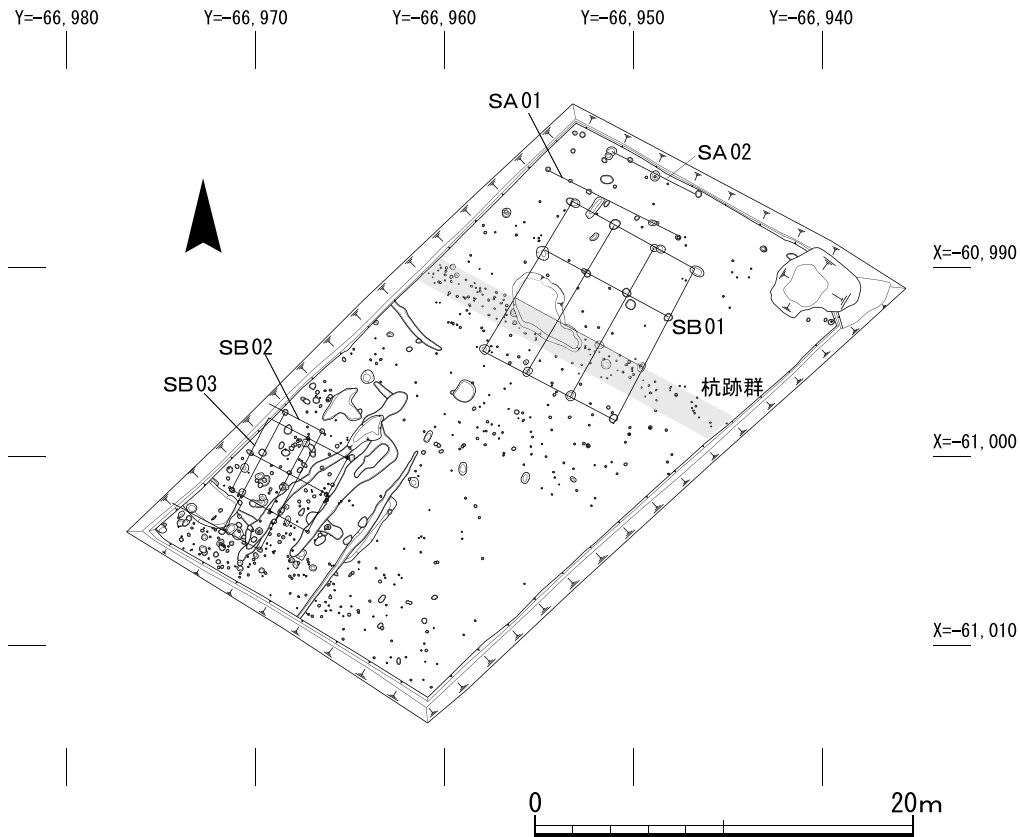
#### 4) 第2面の調査(第53図)

第2面は平安時代後期から鎌倉時代の遺構を検出した。B 1 地区では、総柱の掘立柱建物や溝などを検出した。B 2 地区では、総柱の掘立柱建物や井戸、溝などを検出した。B 3 地区では掘立柱建物1棟、土坑1基、柱穴を検出した。

##### (1) B 1 地区(第54図)

掘立柱建物3棟、柵列2条、溝、柱穴などを検出した。溝は2条が平行しており、道路側溝と考えられる。遺物は、土師器皿や黒色土器、瓦器、須恵器が主体で、中国製青磁や白磁が多数出土した。

掘立柱建物 S B 01 (第56図) 調査地の北部で検出した。南北3間(9.1m)、東西3間(7.5m)の



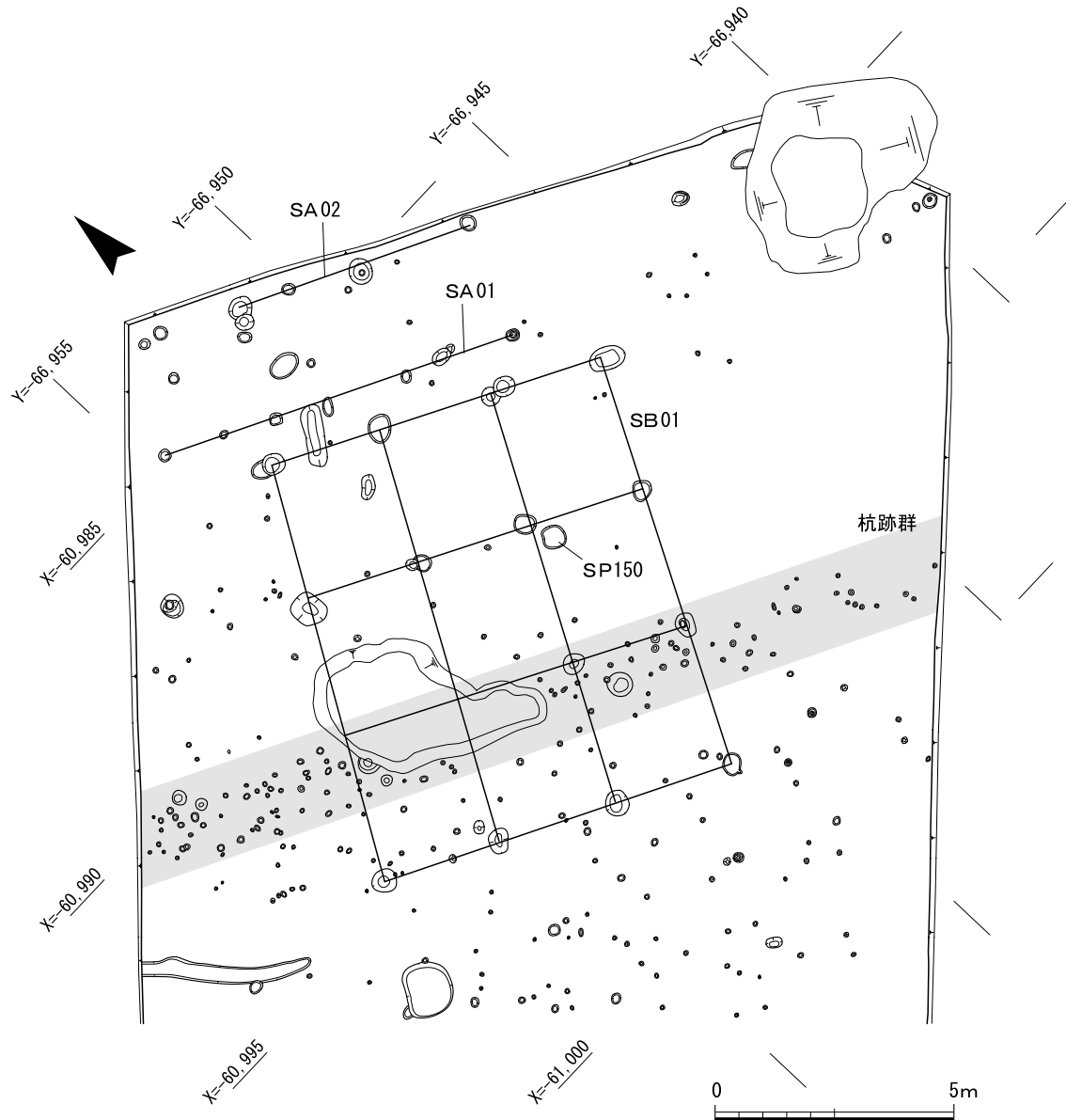
第54図 B1地区 第2面検出遺構平面図

総柱の建物である。柱間は、南北方向2.9～3.0m、東西方向2.1～2.5mである。柱穴掘形は直径0.5～0.7mを測り、平面形は円形ないし楕円形を呈する。掘形埋土は、にぶい黄褐色極細砂などである。また、S P 129～132・134～136・141・142で直径0.1～0.2mの柱痕を確認した。柱痕埋土はにぶい黄褐色極細砂などである。建物の主軸は北に対して30°東に振る。遺物は、土師器皿・鍋、黒色土器碗などが出土している(第169図800～803)。

**柵列S A 01**(第57図) 掘立柱建物S B 01の北東側で検出した。4基以上の柱穴が北西から南東へ並ぶ柵列で、検出長7.2m、柱間は2.5～2.8mである。柱穴掘形は一辺0.2～0.25mの隅丸方形を呈する。掘形埋土は褐色極細砂、オリーブ褐色極細砂質シルトなどである。S P 144・146・148では、直径0.1～0.15mの柱痕を確認した。柱痕埋土はオリーブ褐色極細砂、褐色極細砂、灰褐色シルト質極細砂である。塀の主軸は北に対して28°東に振る。S P 144から黒色土器碗が出土している(第169図806)。

**柵列S A 02**(第57図) 調査区の北辺に沿って、S A 01の北東で検出した。検出長5.2mで、柱間はS P 123・124間が2.5m、S P 124・125間が2.7mである。柱穴掘形は直径0.3～0.5mのややいびつな円形を呈する。掘形埋土は、にぶい黄褐色極細砂質シルト、褐色極細砂、褐色シルト質極細砂である。S P 123で直径0.2m、S P 124で直径0.2mの柱痕を確認した。埋土は褐色シルト質極細砂、褐色極細砂である。柵列の主軸は北に対して27°東に振る。

**杭跡群** 掘立柱建物S B 01の南西部と重複して100か所以上の杭跡を検出した。直径は0.1～0.2mで、深さは0.1～0.3mである。同様の杭跡は調査地全域で検出したが、この地区では北西から

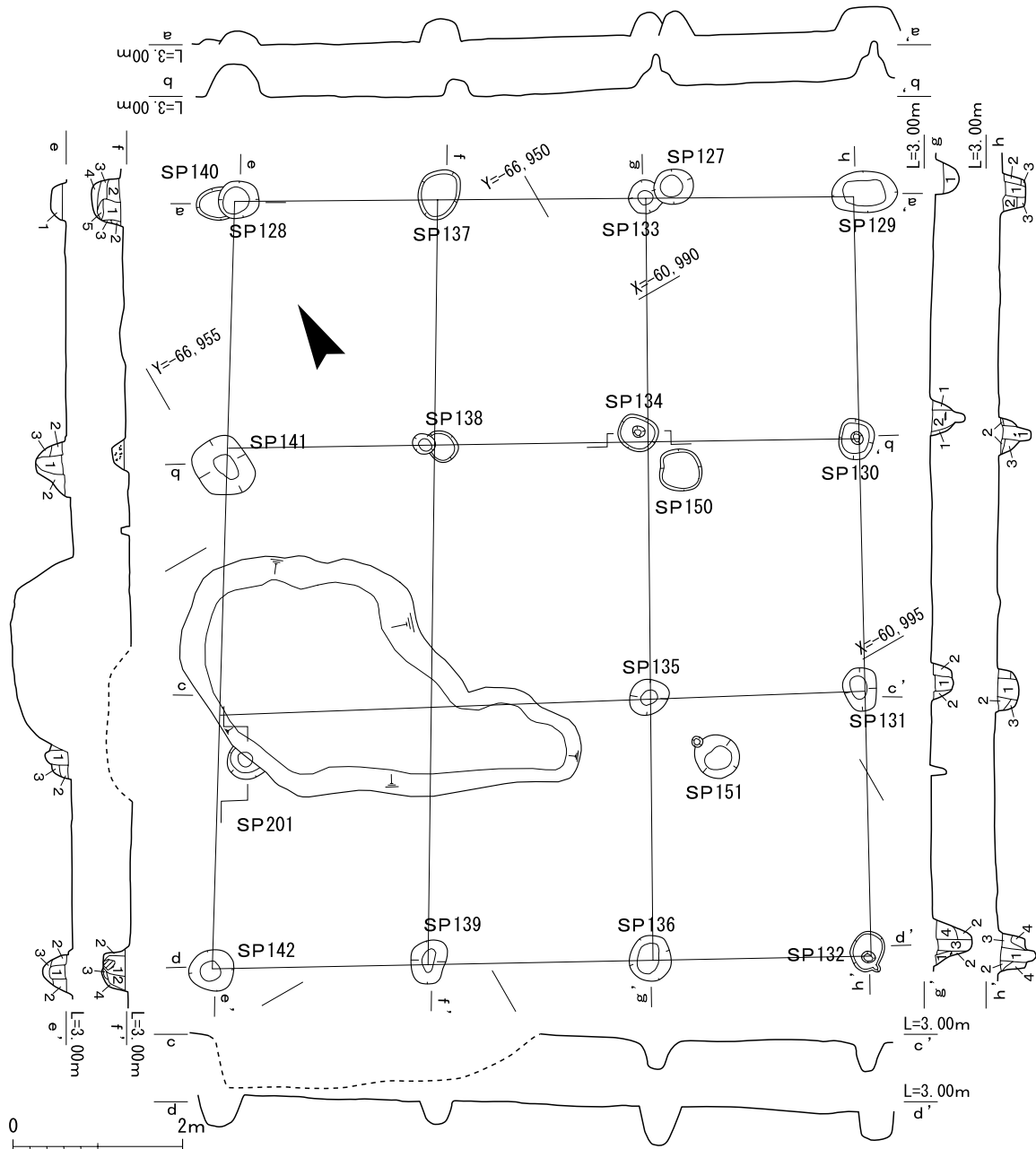


第55図 B1地区 第2面検出遺構平面図(北半部)

南東へ幅1.5mの範囲にまとまりが認められた。敷地を区画する柵列がこの位置に造り替えられたものと推定される。遺物が出土していないため明確な時期は分からないが、第1面でも同じ場所で杭跡が集中して検出したことから、室町時代のものである可能性がある。

**掘立柱建物SB02(第59図)** 調査地南西隅で検出した、桁行3間(7.2m)、梁行1間以上(2.2m以上)の南北棟の建物である。桁行の柱間は2.4mを測る。柱穴掘形は、SP78・72は長辺0.42m、短辺0.2mの長方形、そのほかは直径0.26~0.4mの円形を呈する。掘形埋土は暗オリーブ褐色シルト含む極細砂、暗褐色シルト含む極細砂、褐色シルト含む極細砂などである。SP156では直径0.2mの柱痕を検出した。柱痕埋土は灰褐色細砂である。建物の西側は調査地外に延びると推測される。建物の主軸は北に対して28°東に振る。SP63から土師器皿が出土している(第169図774~776)。





f - f'

SP128

1. にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト質極細砂

SP141

1. にぶい黄褐色(10YR4/3)極細砂
2. にぶい黄褐色(10YR5/4)極細砂
3. にぶい黄褐色(10YR5/3)シルト質極細砂

SP201

1. 褐色(10YR4/6)シルト質極細砂
2. にぶい黄褐色(10YR5/4)極細砂

g - g'

SP137

1. 褐色(10YR4/4)シルト質極細砂
2. にぶい黄褐色(10YR4/2)シルト質極細砂
3. にぶい黄褐色(10YR5/3)極細砂
4. にぶい黄褐色(10YR4/3)極細砂
5. 灰黄褐色(10YR5/2)シルト

SP138

1. にぶい黄褐色(10YR4/3)極細砂

SP204

1. にぶい黄褐色(10YR4/3)極細砂
2. にぶい黄褐色(10YR5/3)極細砂
3. オリーブ褐色(2.5Y4/4)シルト質極細砂
4. 褐色(10YR4/4)シルト

h - h'

SP133

1. 灰黄褐色(10YR4/2)シルト質極細砂<炭化物多く含む>

SP134

1. 灰黄褐色(10YR4/2)シルト含極細砂
2. オリーブ褐色(2.5Y4/4)

SP135

1. 灰黄褐色(10YR4/2)極細砂<炭化物多く含む>

SP136

1. にぶい黄褐色(10YR4/3)極細砂
2. にぶい黄褐色(10YR5/3)極細砂
3. 暗灰黄色(2.5Y4/2)極細砂
4. 褐色(10YR4/4)極細砂

i - i'

SP129

1. 暗褐色(10YR3/4)シルト質極細砂
2. 褐色(10YR4/6)極細砂
3. 褐色(10YR4/4)極細砂

SP132

1. 灰黄褐色(10YR4/2)シルト含む極細砂
2. にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト含む極細砂
3. 褐色(10YR4/4)シルト含む極細砂
4. 褐色(10YR4/4)極細砂

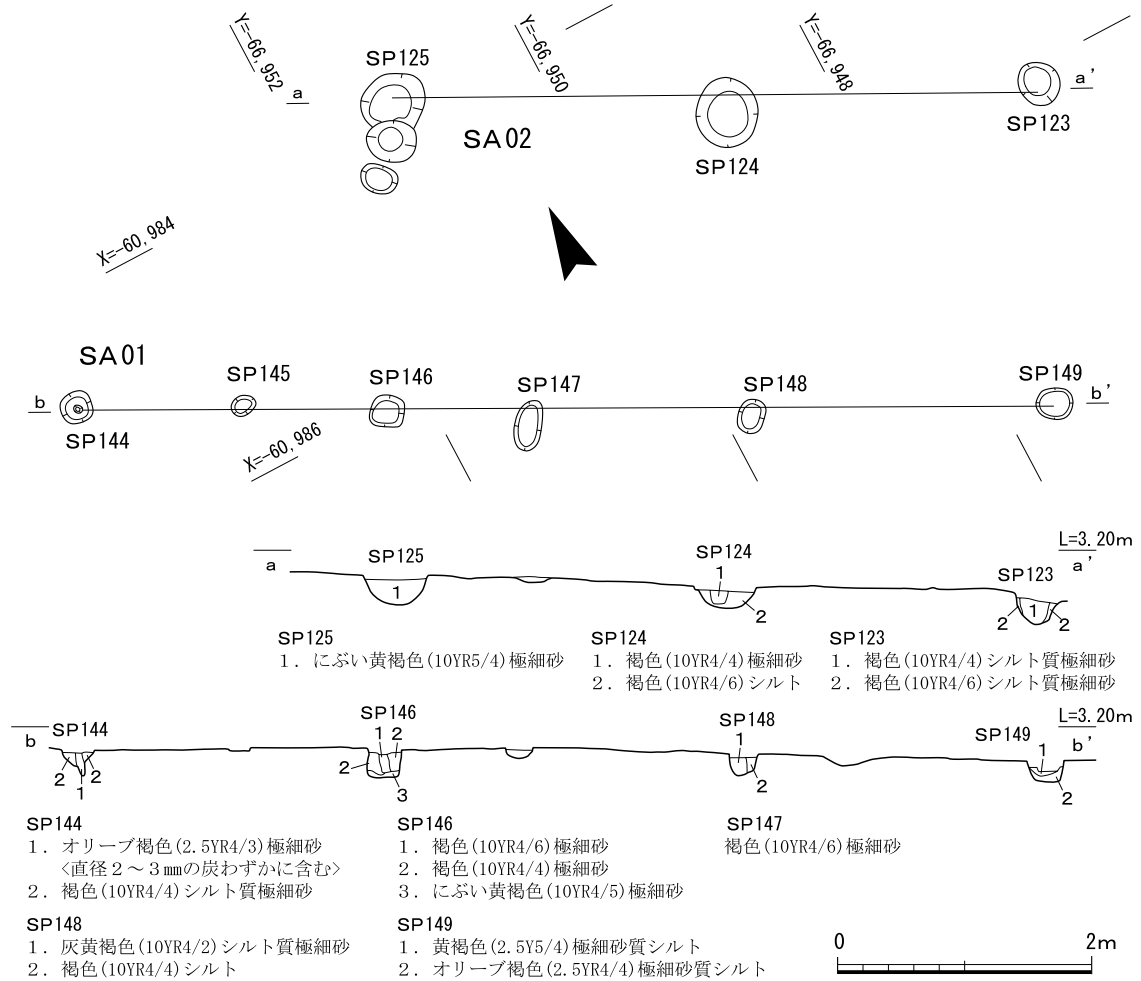
SP130

1. 褐色(10YR4/4)シルト質極細砂
2. 褐色(10YR4/4)極細砂
3. 褐色(10YR4/4)極細砂<炭化物含む>

SP131

1. 灰黄褐色(10YR4/2)シルト含む極細砂
2. にぶい黄褐色(10YR4/3)極細砂
3. 褐色(10YR4/4)極細砂

第56図 B1地区 第2面掘立柱建物S B01実測図

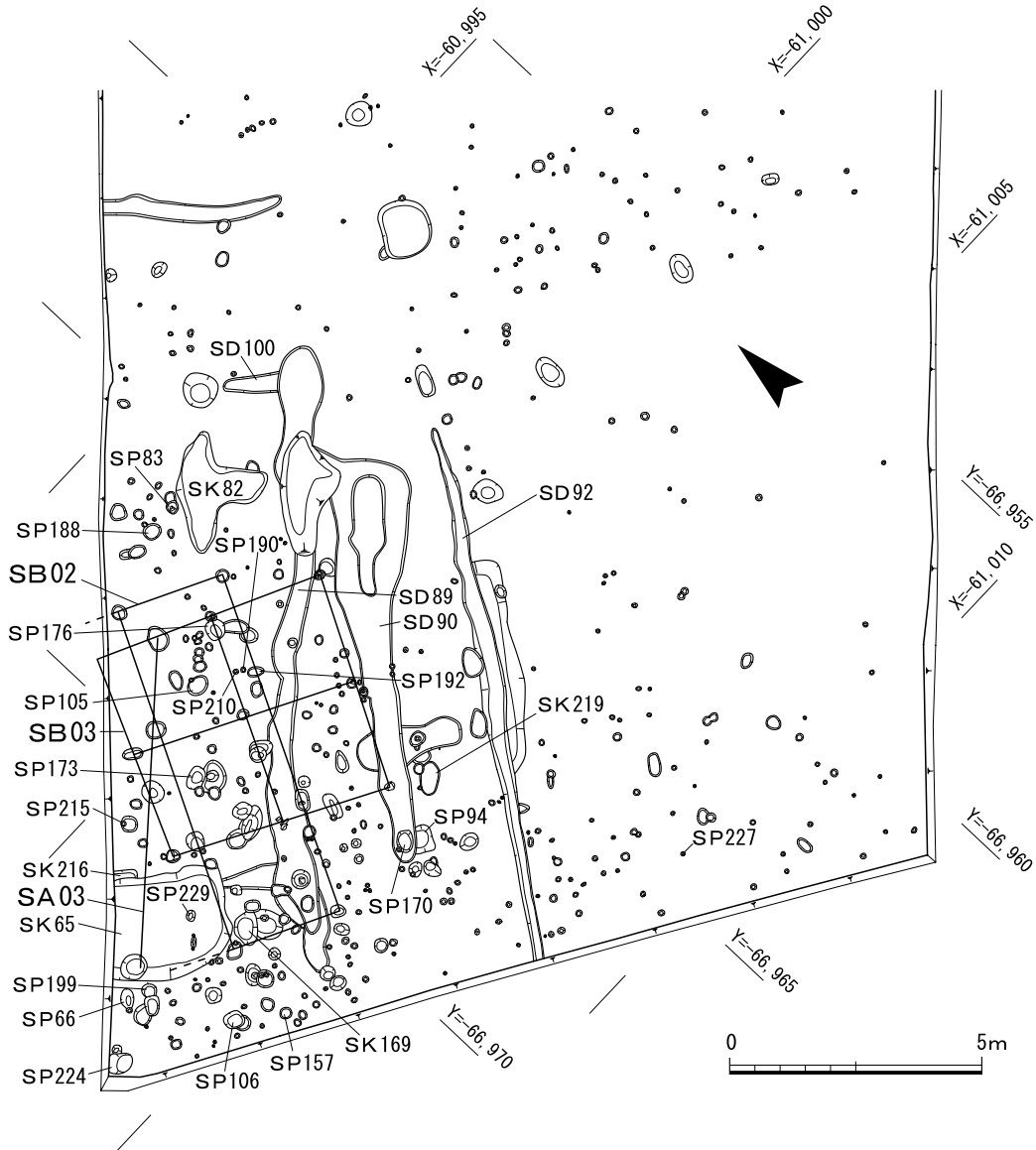


第57図 B1地区 第2面柵列SA01・02実測図

掘立柱建物SB03(第59図) 掘立柱建物SB02と重複して検出した。南北2間(4.4m)、東西2間以上(4.5m以上)の総柱の建物である。柱穴掘形はSP500は長辺0.41m、短辺0.22mの楕円形で、そのほかはおおむね直径0.2mの円形を呈する。柱穴の多くに1個ないし2個の石が置かれており根石と考えられる。南面東側の2か所は根石のみを検出した。北隅の柱穴は調査地外に延び確認できなかった。建物の主軸は北に対して28°東に振る。

柵列SA03(第59図) 掘立柱建物SB03と重複して検出した。3基の柱穴が北東から南西へ並ぶ柵列である。検出長6.6mで、柱間はSP103・61間が3m、SP61・225間が3.6mである。柱穴掘形は直径0.44~0.54mの円形を呈する。掘形埋土は褐色極細砂シルト、暗褐色極細砂、褐色極細砂質シルトである。すべての柱穴で柱痕を確認した。柱痕は直径0.16~0.2mで、柱痕埋土は、SP61・103が暗褐色極細砂、SP225が褐色極細砂である。柱列の主軸は北に対して50°東に振る。1列しか確認できなかったが、南西側調査地外へ広がる掘立柱建物と考えられる。遺物は、SP225から黒色土器椀、中国製白磁器椀(第170図830)、SP61から土師器皿、中国製青磁椀が出土した(第169図772)。

土坑SK169(第60図) 掘立柱建物SB03の南西で検出した。平面は楕円形を呈する。長軸1.4m、短軸0.92m、深さ0.34mで、底部は平坦である。埋土は暗オリーブ褐色シルト混じり極細



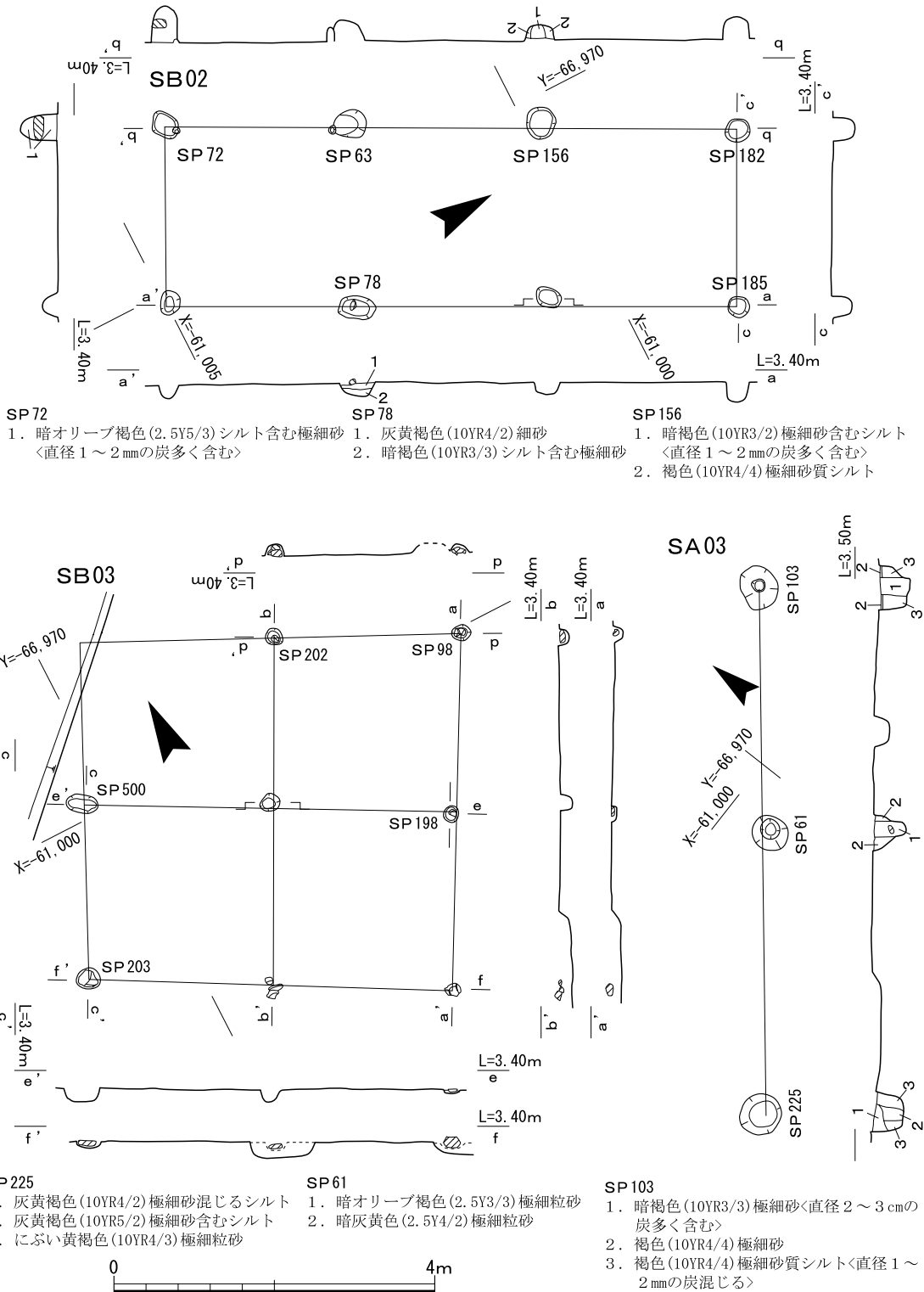
第58図 B1地区 第2面南半部検出遺構平面図

砂でオリーブ褐色がまだらに混じる。遺物は、土師器皿の他、黒色土器碗、東播系須恵器片口鉢が出土した(第169図)。

柱穴SP170(第60図) 掘立柱建物SB03の南西で検出した。柱穴掘形は0.6mの円形を呈する。深さは0.56mである。掘形埋土は暗オリーブ褐色シルト質極細砂、暗オリーブ褐色極細砂質シルトである。底部から土師器鍋が出土した(第170図812)。

溝SD92(第58図) 掘立柱建物SB02の東側で検出した。検出長10.8m、幅0.1~0.5m、深さ0.1m前後で、北東から南西に向かって延びる。埋土はオリーブ褐色極細砂である。B2地区の溝SD293・294と同一のものと考えられる。

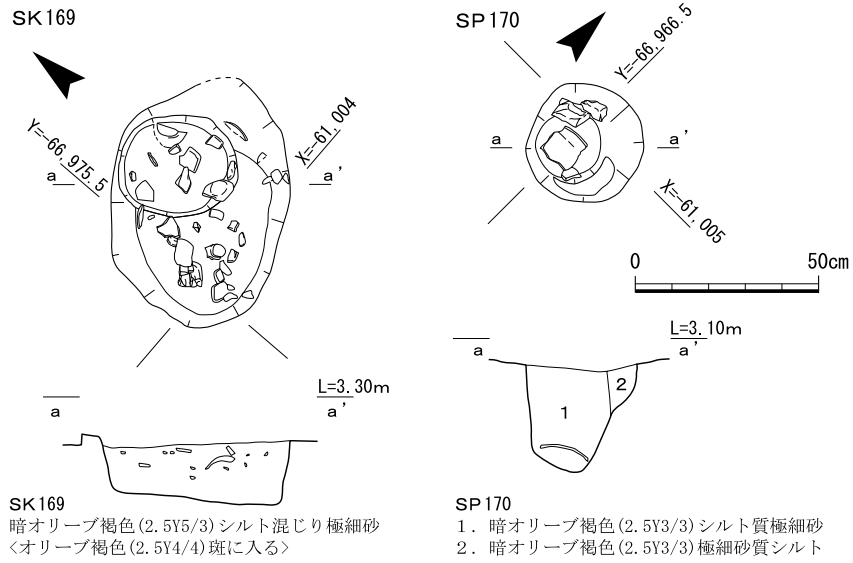
溝SD89(第58図) 掘立柱建物SB03と重複して検出した。近世の攪乱の影響により不定形になっているが、検出長12.5m、幅0.4~0.6m、深さ0.15mで、北東から南西に向かって延びる。



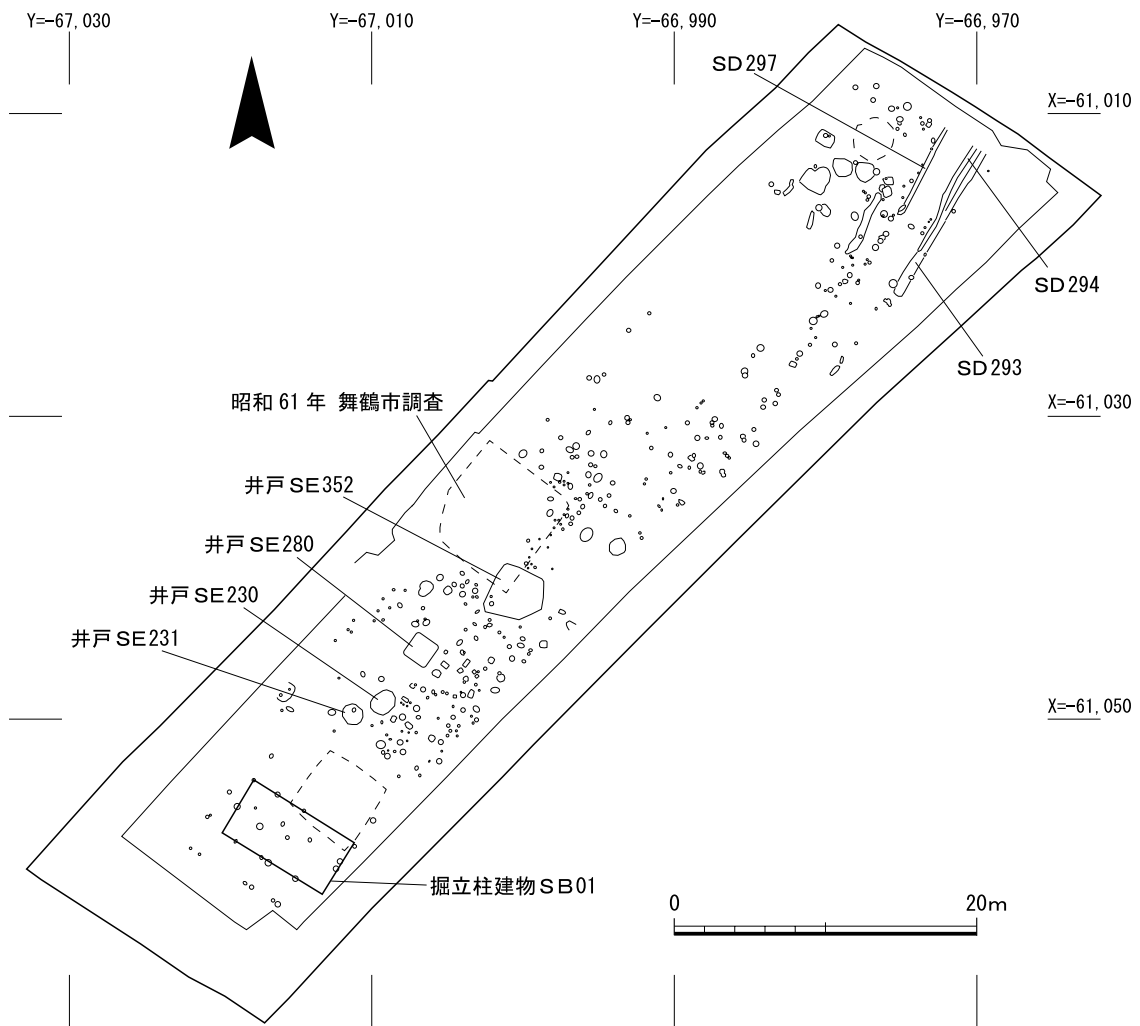
第59図 B1地区 第2面掘立柱建物S B02・03、柵列S A03実測図

埋土は褐色極細砂である。

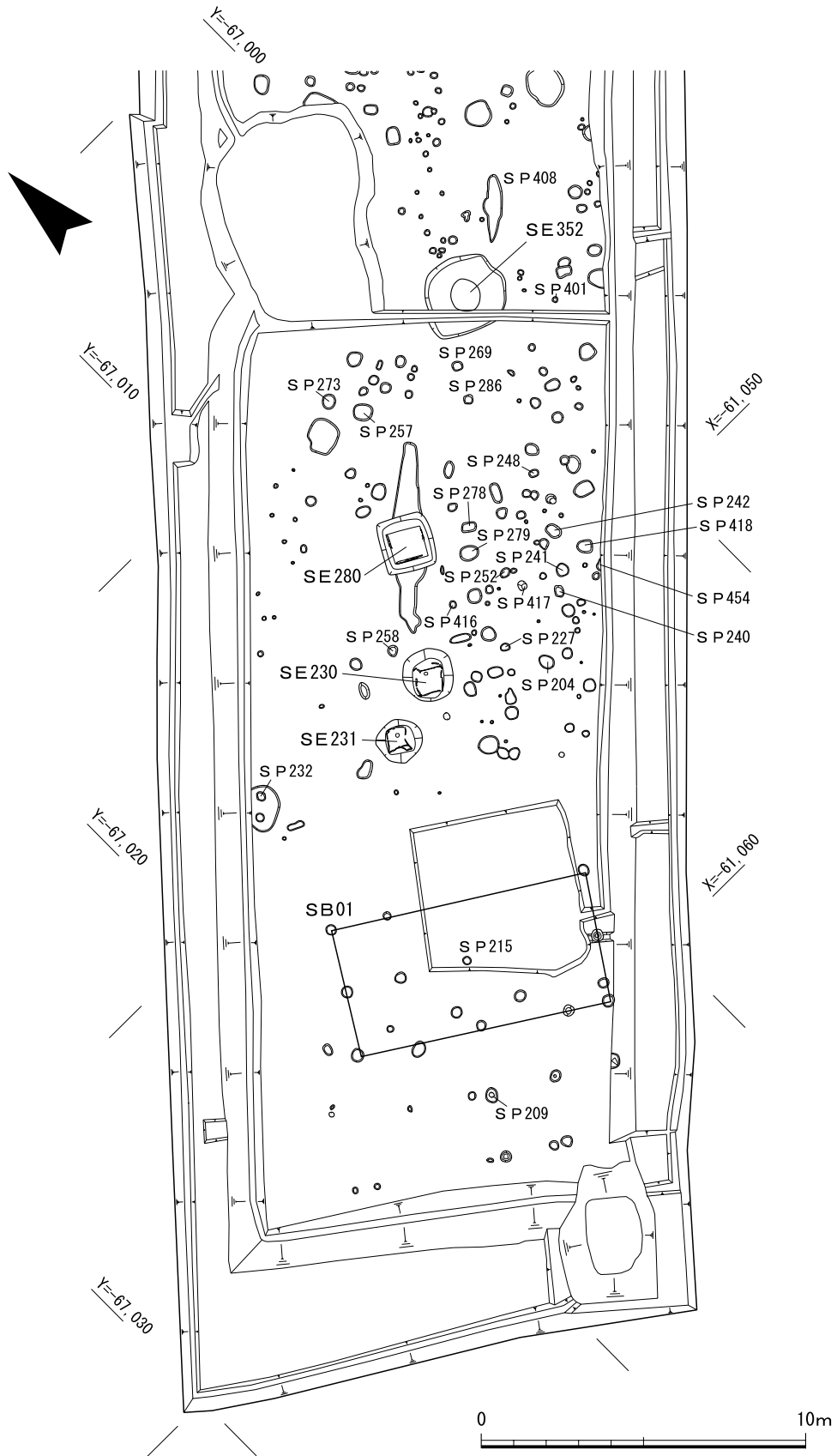
溝S D90(第58図) 溝S D89・92の間で検出した。検出長8m、幅0.2~0.7m、深さ0.1mを測る。中央付近で一度二股に分かれた後、北東端で再び合流する。埋土は褐色極細砂である。溝S D89・90の南西端は、B1地区内で収束するが、B2地区の溝S D297(第66図)へ延びていたも



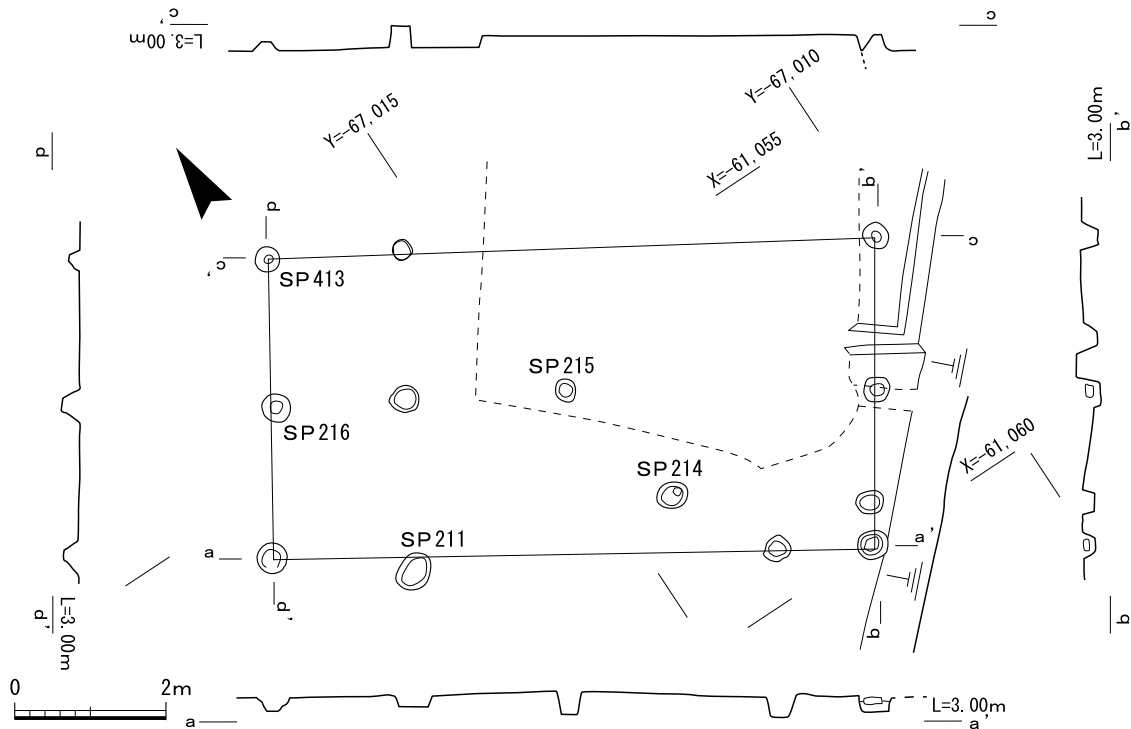
第60図 B1地区 第2面土坑SK169、柱穴SP170実測図



第61図 B2地区 第2面検出遺構平面図



第62図 B2地区 第2面検出遺構平面図(南半部)



第63図 B2地区 第2面掘立柱建物S B01実測図

のと判断される。これらの溝 S D89・90・92は道路側溝の可能性が考えられる。

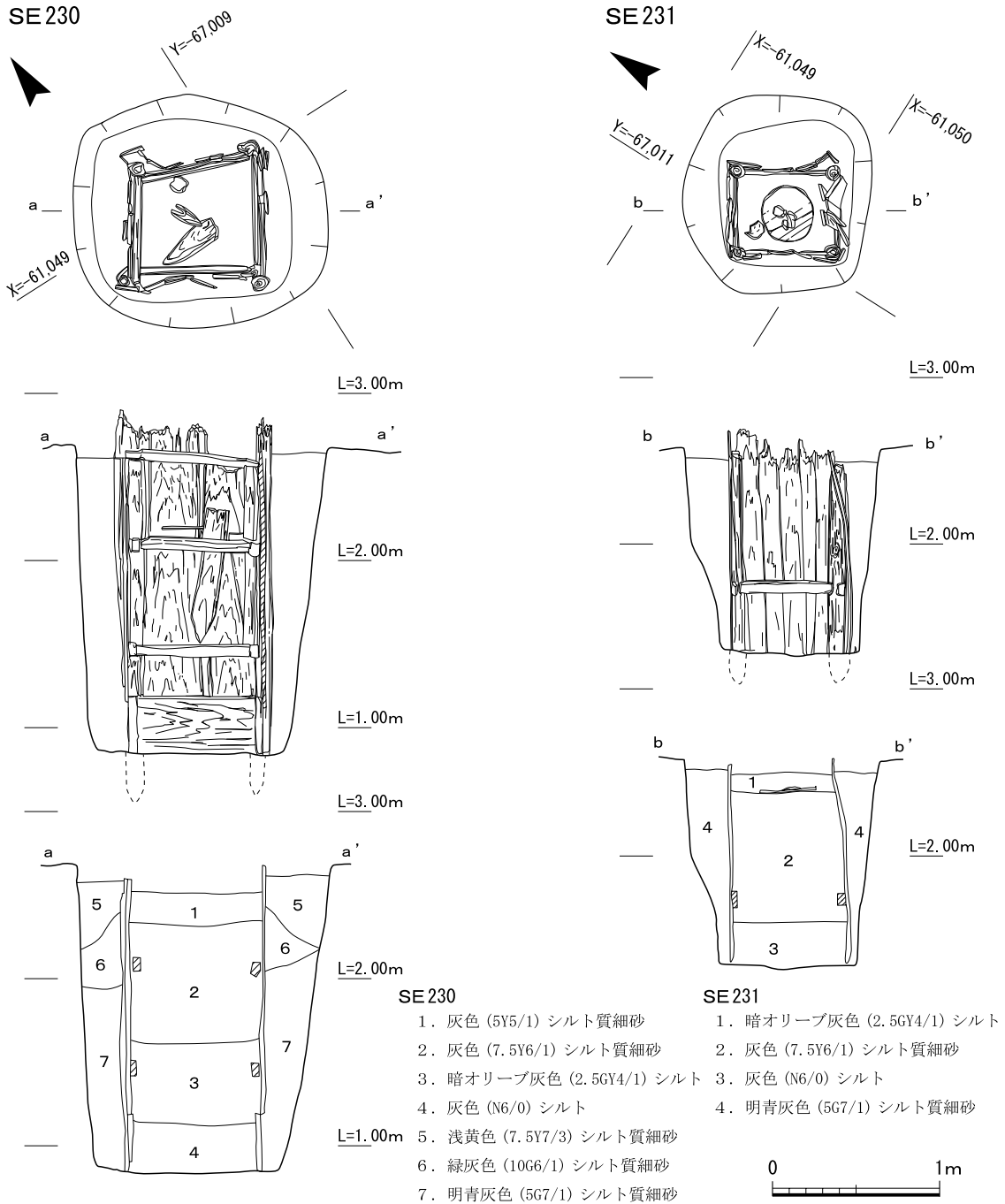
(2) B2地区(第61図)

第2面では、総柱の掘立柱建物や井戸、溝などを検出した。昭和61年度に舞鶴市教育委員会が調査を実施した2トレンチの位置にあたる。北辺ではB1地区に向かって並行する2条の溝を検出し、B1地区から続く道路面とその側溝と判断する。

**掘立柱建物S B01(第63図)** 調査区の南端で検出した。北で西に30°振れている。近世の土坑により北部が削平を受けている。桁行推定5間(7.6m)、梁間2間(3.9m)である。柱間はそれぞれ1.6~1.8m、1.9mを測る。柱穴の規模は直径0.25~0.4m、深さ0.2mで、S P413には平石が据えられていた。中国製青磁椀(第174図966)が出土した。

**井戸S E230(第64図)** 調査地の南西部から検出した、隅柱縦板横棧止めの方形木枠を有する井戸である。井戸枠面にみる方位は北に対して34°東に振る。掘形の平面形は円形で、直径1.4~1.5m、深さは1.8mを測る。井戸底の海拔は0.9mである。方形井戸枠は依存状態の良好な最下部で、一辺0.66mである。四隅の柱は直径0.2mの桜材を使用し、横棧をはめ込む穴を0.5~0.6m間隔で設け、底から3段分が残っていた。井戸枠最下部は長さ80cm、幅32cm、厚さ5cmの横板を四方に置き、その外側に幅30cm、厚さ1cmの縦板を設置する。縦板と横棧の隙間を埋めるように、一部で短い矢板材も使用されていた。井戸は使用停止後時間をかけて埋没したようで、内部にはシルト及びシルト質細砂が数層堆積している。井戸内から土師器(第173図905~911)が出土した。

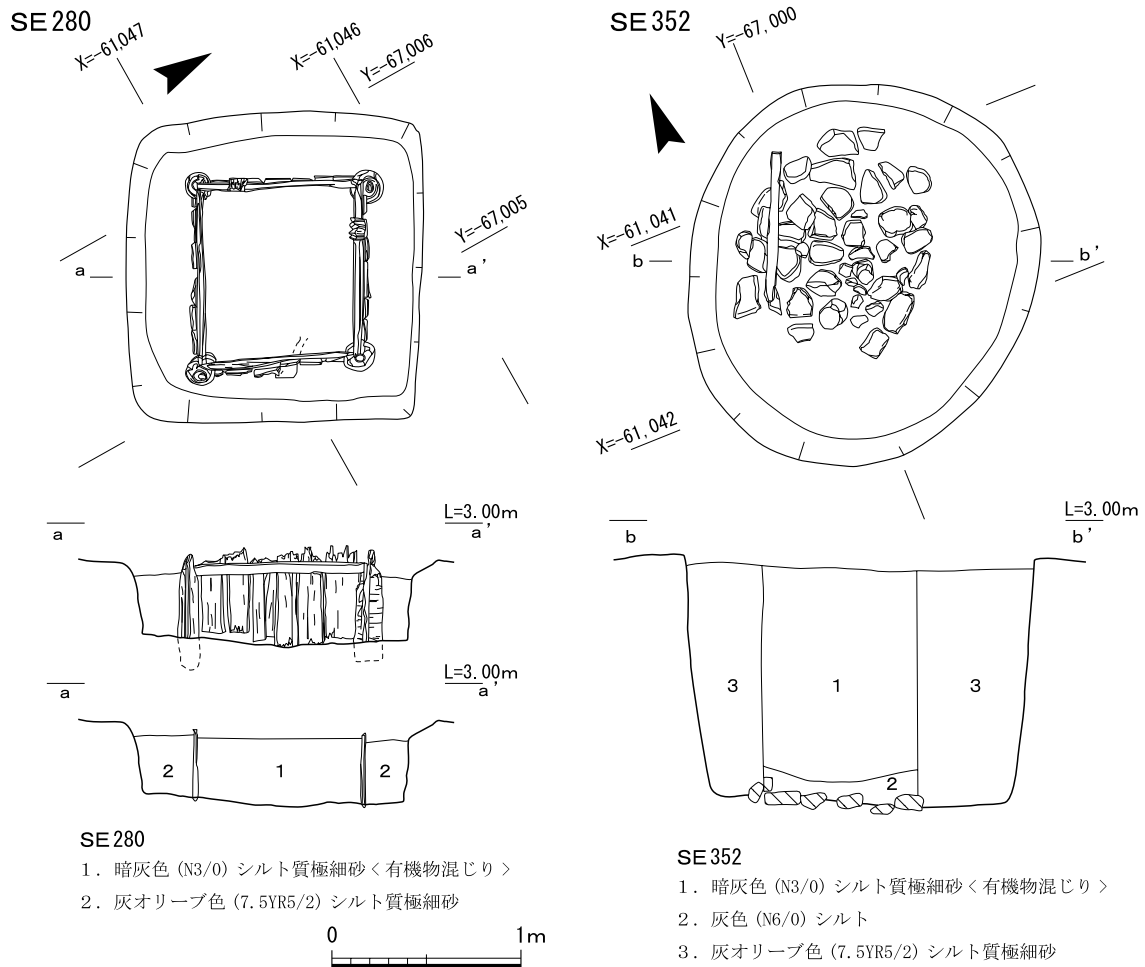
**井戸S E231(第64図)** S E230の南西に4.0m離れた位置で検出した、隅柱縦板横棧止めの方形木枠を有する井戸である。井戸枠面にみる方位は北に対して57°東に振る。掘形の平面形は隅



第64図 B2地区 第2面井戸SE 230・231実測図

丸方形に近く、一辺1.1m、深さは1.2mである。井戸底の海拔は1.3mである。方形井戸枠は依存状態の良好な最下部で、一辺0.7mの規模を測る。四隅の柱は直径0.1mの桜材を使用し、横棧をはめ込む穴を井戸底面から上方に0.4mの位置に設けるが、さらに上には検出した0.8mの間に穴が設けられていない。井戸枠の縦板は幅10~12cm、厚さ1cmとサイズがほぼ揃う。井戸は使用停止後時間をかけて埋没したようで、内部にはシルト及びシルト質細砂が数層堆積している。井戸内底面から1.0m堆積が進んだ段階の暗オリーブ灰色シルト下面で、曲物底板状の木製品と完形の土師器皿が出土した。



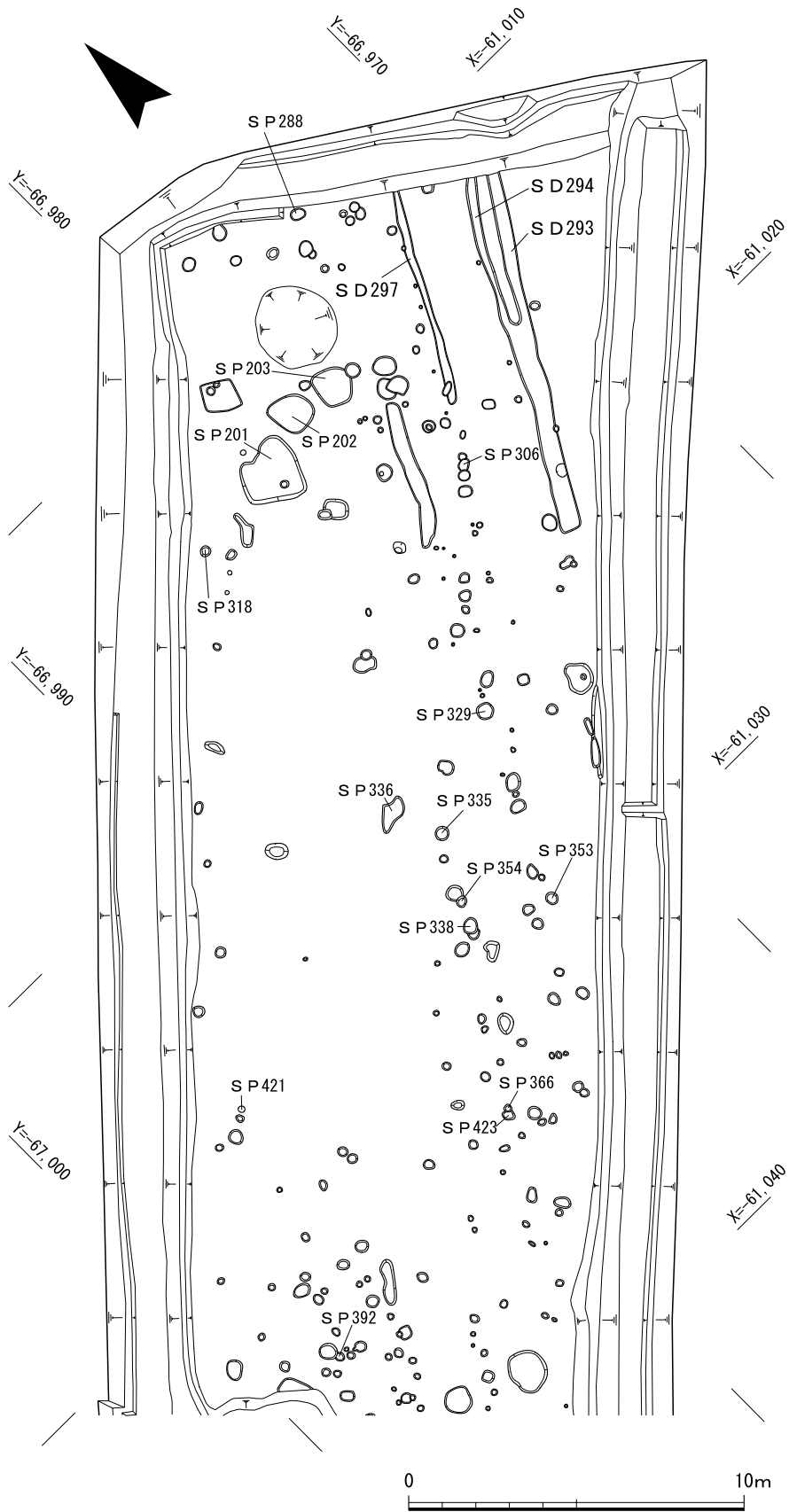


第65図 B2地区 第2面井戸 S E 280・352実測図

**井戸 S E 280 (第65図)** S E 231の南西に1.5m離れた位置で検出した、隅柱縦板横棧止めの方形木枠を有する井戸である。井戸枠面にみる方位は北に対して28°東に振る。掘形の平面形は方形で、一辺1.5m、深さは検出面から0.4mを測る。井戸底の海拔は2.4mである。方形井戸枠は遺存状態の良好な最下部で、一辺0.7mである。四隅の柱は直径0.2mの桜材を使用し、横棧をはめ込む穴を井戸底面から上方に0.4mの位置に設ける。井戸枠の縦板は幅8~20cm、厚さ1cmを測り、幅の異なる板が使用されている。井戸内部には暗灰色シルト質極細砂が堆積している。

**井戸 S E 352 (第65図)** S E 280の北東に7.0m離れた位置で検出した井戸である。掘形の平面形は方形で、一辺1.8~2.0m、深さは検出面から1.2mを測る。井戸底の海拔は1.5mである。井戸底では、北にやや偏って石敷きが確認された。0.1~0.2m大の川原石が方形に近い状態で1.0~1.2mの範囲に敷き並べられていた。また、敷石の南東部では5cm角で長さ80cmの角材が1本出土した。角材は一方の先端が加工で尖る状況から井戸枠横棧とみられる。井戸底面の石敷きと横棧の出土と断面土層の観察から、このS E 352もS E 230・231・280と同様に、方形の井戸枠が伴っていたとみられる。

**溝 S D 293 (第66図)** 調査区の北部で検出した検出長11mの溝である。北側の幅0.3m、南側



第66図 B2地区 第2面検出遺構平面図(北半部)

の幅0.5m、深さ0.05mである。S D294と2つに分かれている。

溝S D294(第66図) 調査区北部で検出した検出長4.6mの溝である。幅0.25m、深さ0.05mである。溝S D293共々B 1地区のS D92とつながる可能性がある。

溝S D297(第66図) 調査区北部で検出した検出長6.5mの溝である。幅0.2m、深さ0.05mである。B 1地区のS D90とつながる可能性がある。溝S D293・294と溝S D297とは道路の両側溝と考えられる。

(竹原一彦)

(3) B 3地区(第67図)

掘立柱建物1棟、土坑1基、柱穴を検出した。

掘立柱建物S B 1768(第68図) 調査地北端で検出した東西棟とみられる掘立柱建物である。

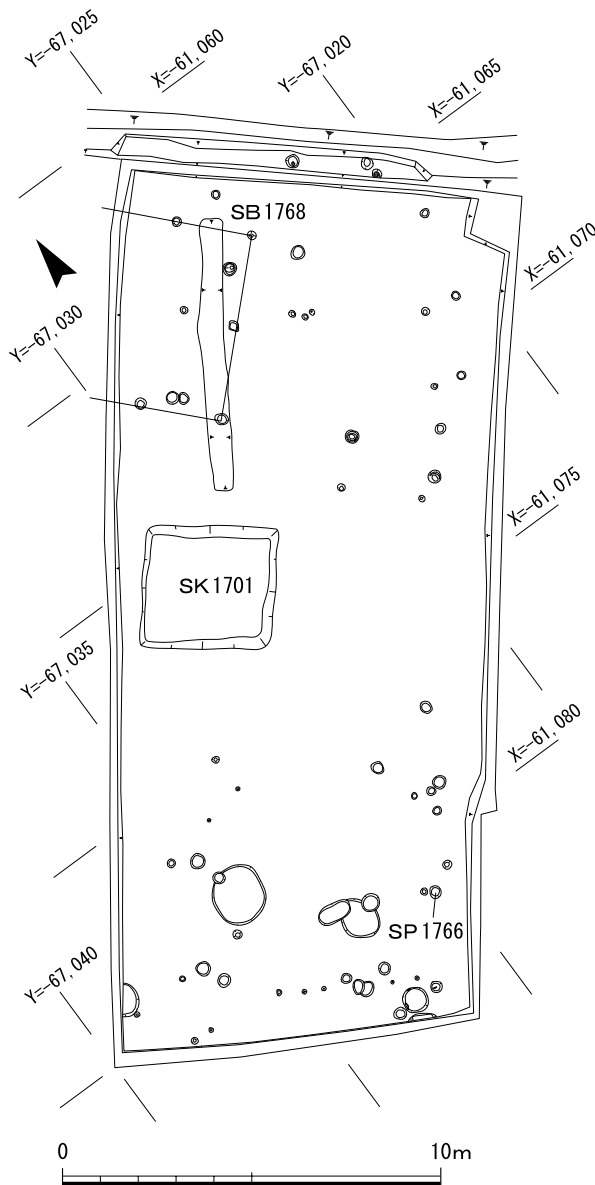
建物の規模は、東西1間以上(2.2m以上)、南北2間(4.9m)である。建物南西角の柱穴S P 1720は、掘削重機の轍が攪乱状となり、地盤が下方に圧迫されて窪んだ中で検出した。建物の主軸は北に対して45°西に振れる。柱穴掘形は円形で、直径0.3m、深さ0.2~0.3mである。

土坑S K 1701(第68図) 調査地中央付近で検出した方形土坑である。一辺3.2m、3.6m、深さ0.6mを測る。底面は平坦である。埋土は暗緑灰色シルト質極細砂である。土師器細片が出土したが、土坑の時期は不明である。

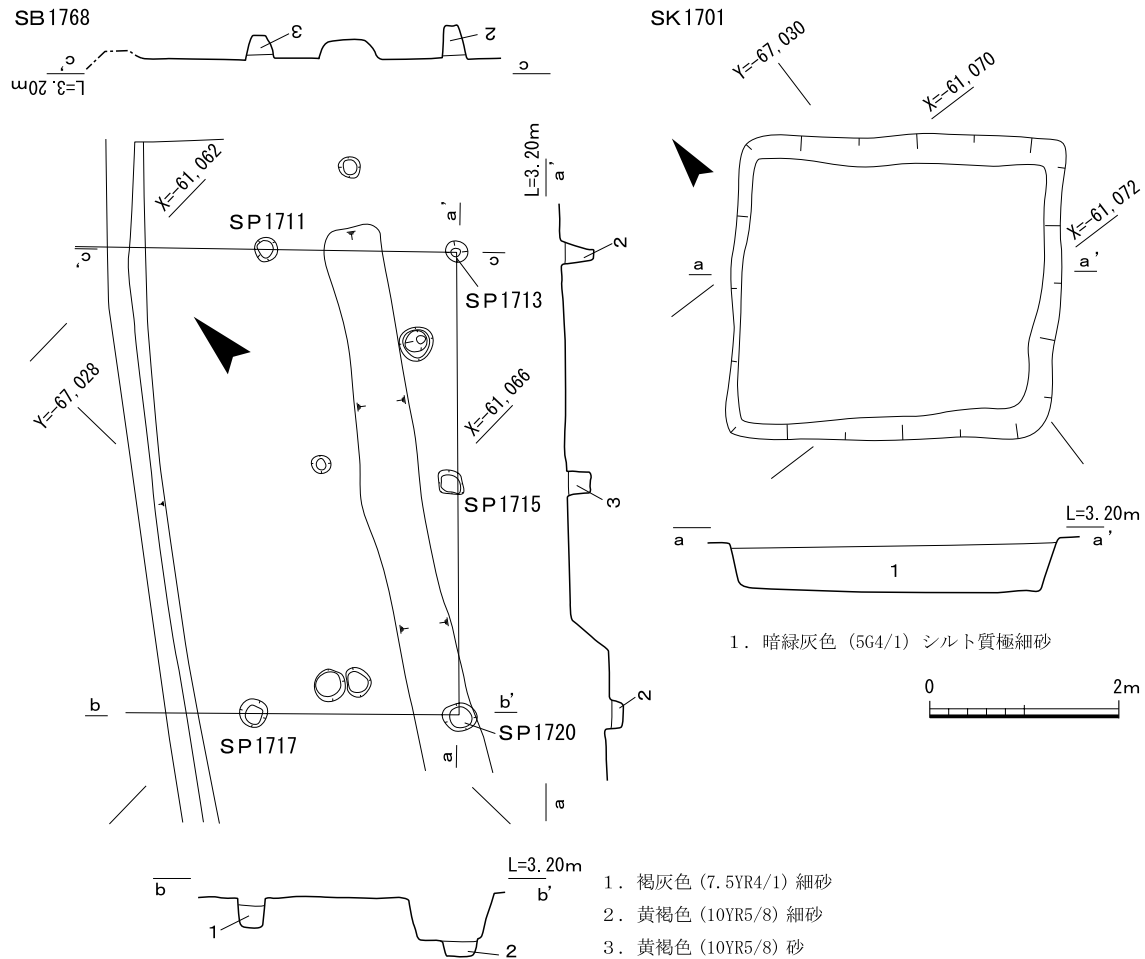
柱穴S P 1766 調査地南部で検出した。掘形は円形で、直径0.3m、深さ0.2mを測る。埋土は褐灰色細砂で、回転台土師器皿(第184図1149)が出土した。

5) 第3面の調査

第3面は弥生時代中期から飛鳥時代の遺構面である。B 1・2地区では遺構を3時期の遺構面で検出したが、B地区の南端部のB 3地区では、4時期の遺構面を確認した。第1・2面はB 1・2地区と同じ時期の遺構面であるが、第3面が奈良時代で、



第67図 B 3地区 第2面検出遺構平面図



第68図 B3地区 第2面掘立柱建物S B1768、土坑S K1701実測図

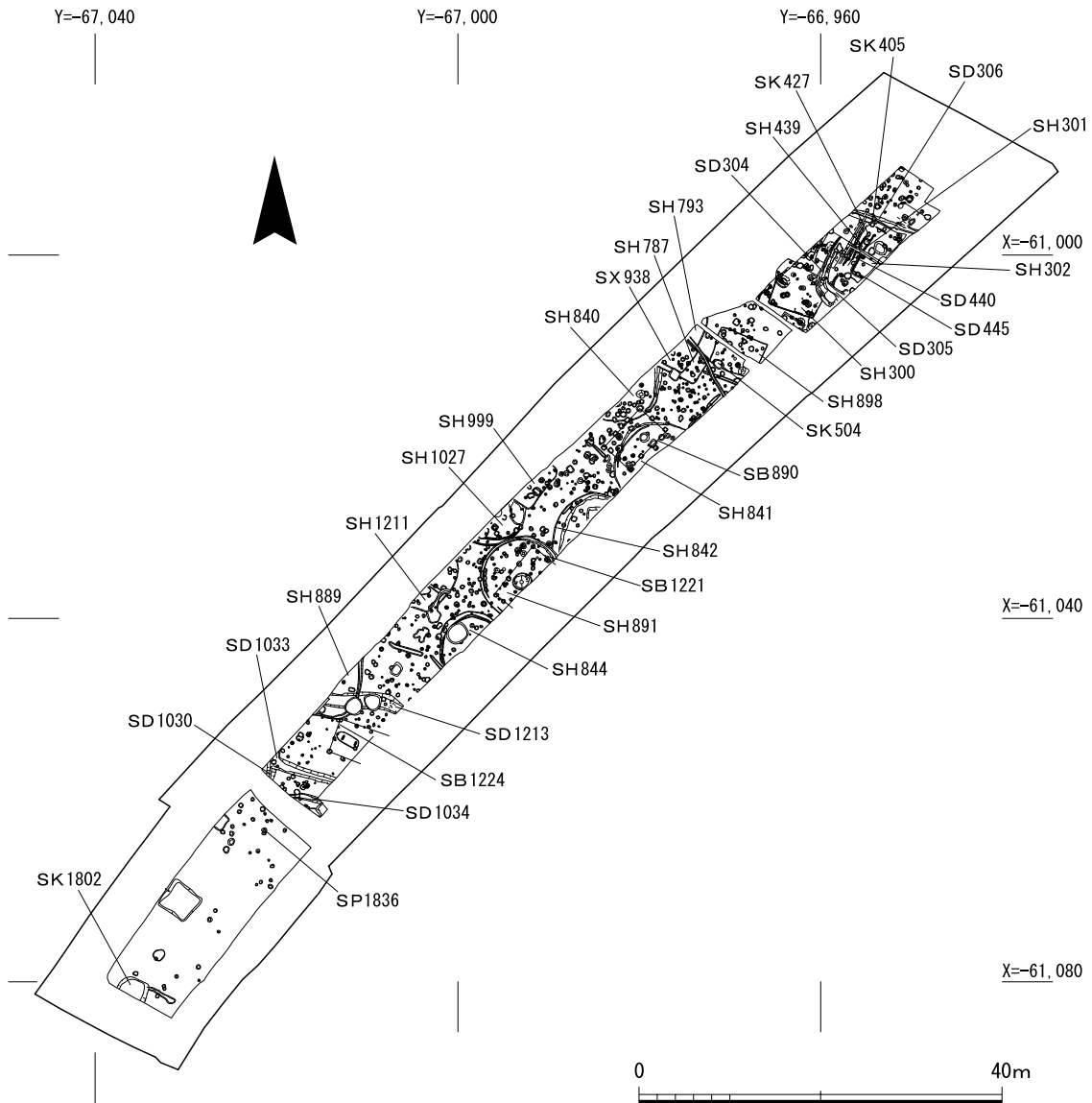
第4面が弥生時代中期～古墳時代のものである。

B1地区では、方形の竪穴建物や多数の土坑を検出した。遺構は確認できなかったが、包含層から弥生時代中期の土器が出土した。B2地区では、掘立柱建物3棟、竪穴建物12基、方形周溝墓1基、溝、土坑、柱穴やピットを多数検出した。B3地区では、第3面は海拔2.8m付近で検出した遺構面で、奈良時代の土坑と柱穴を検出した。第4面は海拔2.2m付近で検出し、古墳時代の竪穴建物5基、掘立柱建物1棟、方形周溝墓1基、土坑、柱穴を検出した。

#### (1) B1地区

方形の竪穴建物4棟、溝3条、多数の土坑・柱穴を検出した。

**竪穴建物SH300**(第71図) 調査地の南西で検出した平面方形を呈する竪穴建物である。北東隅は溝SD304に削平され明確でない。南辺は4.6mを測る。壁高は0.06mである。南壁に沿って長さ0.4m、幅0.08m、深さ0.04m、程度の溝状のくぼみを検出した。周壁溝の残欠の可能性ある。西辺中央に作り付け竈を持つ。竈は後世の削平を受けているものの、馬蹄形を呈する壁体が遺存していた。規模は、全長1.3m、幅1.2mで、壁体の高さは0.08mである。中央部には火床がみられる。火床は長軸0.5m、短軸0.3mの北側が膨らむ楕円形で、被熱し赤褐色に硬く焼き締まった土がひろがる。床面中央では炉とみられるSX394を検出した(第72図)。直径0.3m、深さは0.1m

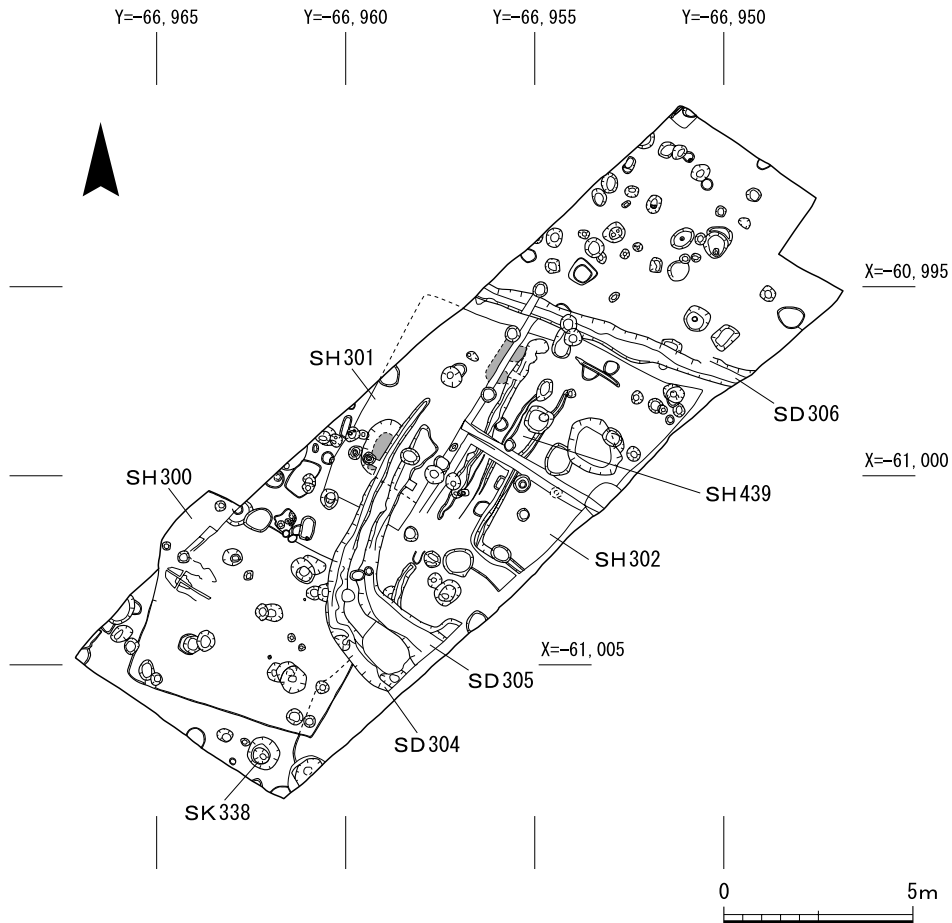


第69図 B地区 第3面検出遺構平面図

の円形で、底部は被熱し硬く焼き締まる。このほか、床面では複数の柱穴を検出した（S P 382・388・398・401・402・447・448・449）。それぞれの柱穴掘形は直径0.4~0.5mの円形ないし楕円形を呈し、深さは0.2~0.3mを測る。S P 382は一回り大きく、長軸0.7m、短軸0.5mの楕円形を呈し、深さは0.4mを測る。そのうち、S P 382・401・402で直径0.2m前後の柱痕を確認した。どの柱穴が竪穴建物に伴うかは明確でないが、竪穴建物S H 300は4か所の支柱穴をもつものとみられる。建物の主軸は北に対して62°東に振る。遺物は床面直上で土師器壺・甕の細片が数点出土。

**土坑S K 339**（第71図） S H 300の床面で検出した。柱穴S P 398・340を切り込む形で検出した。掘形は直径0.6mの円形を呈する。深さは0.25mを測る。掘形埋土は3層確認した。上層はにぶい黄褐色シルトが堆積し、下層はにぶい黄褐色極細砂シルトが堆積する。

**竪穴建物S H 301**（第74図） 調査地の中央よりやや北東よりで検出した、平面方形と推定される竪穴建物である。南東を竪穴建物S H 302によって削平され、北側は調査地外へとびる。建



第70図 B1地区 第3面検出遺構平面図

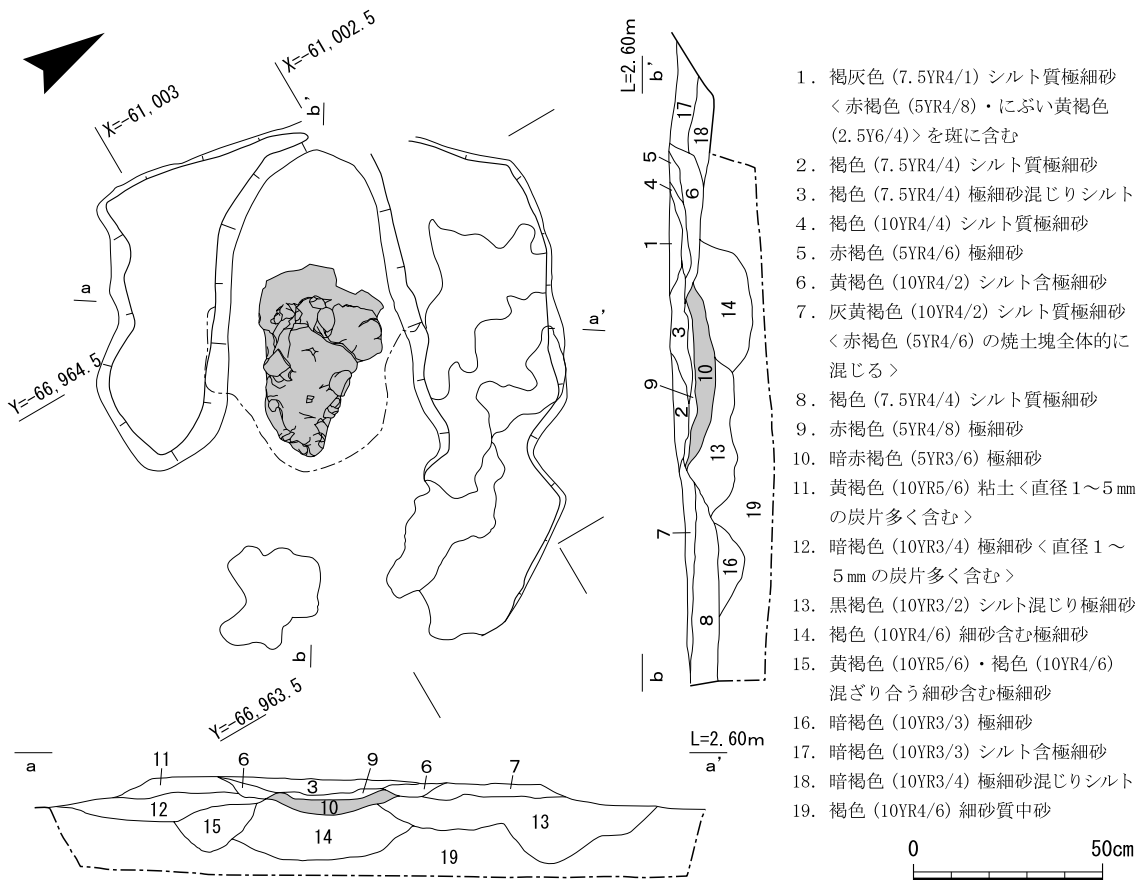
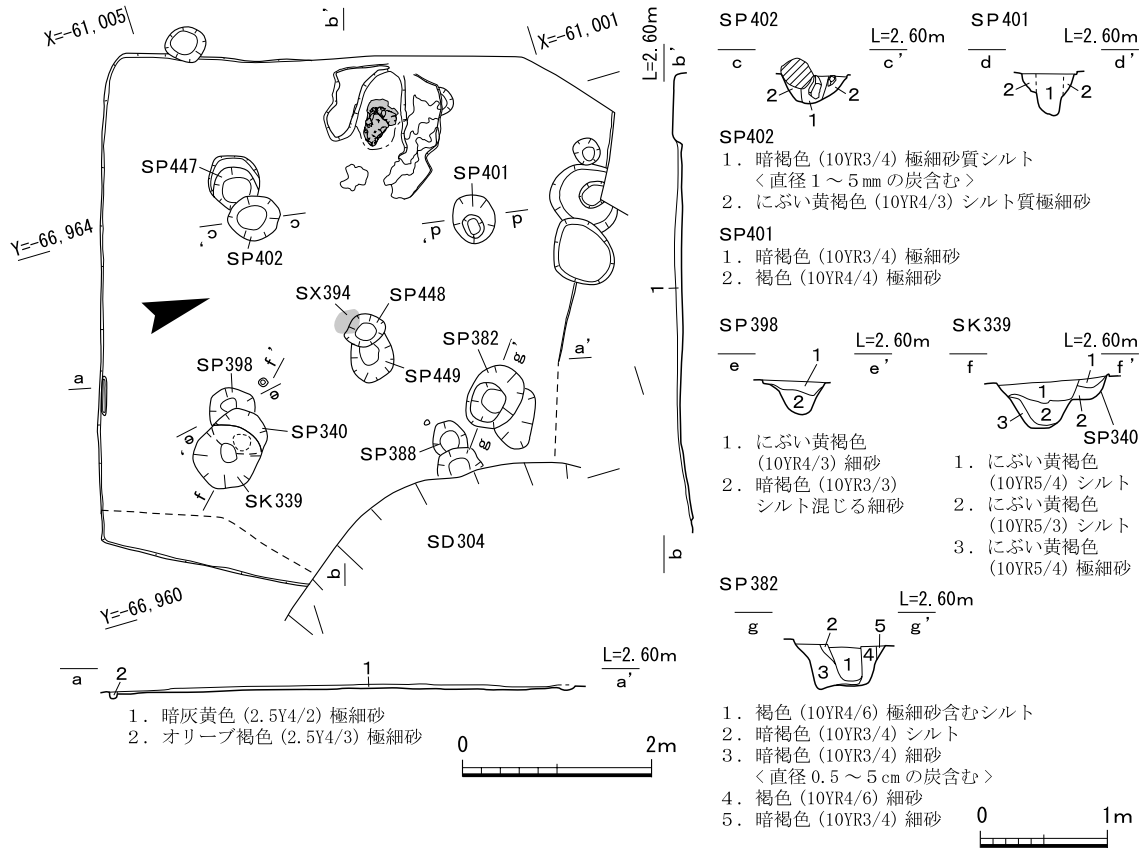
物規模は南北約6m、東西4m以上を測る。壁高は0.04mで、周壁溝・主柱穴は確認できなかった。建物の主軸は北に対して26°東に振る。

**竪穴建物SH302(第74図)** 竪穴建物SH301の南東で検出した。周壁溝SD445を検出した。周壁溝SD445から建物規模は1辺5m以上の方形を呈すると推測される。また、断面から0.06mの壁高が確認できた。

**竪穴建物SH439(第74図)** 調査地中央付近で検出した。切り合い関係を持つ竪穴建物SH301・302によって大半が削平され、床面付近で周壁溝とみられるSD440の一部のみを検出した。周壁溝SD440が北東から南西へ向けて直線的に伸びることから、1辺3m以上の方形を呈すると考えられる。

**柱穴SP384(第74図)** 竪穴建物SH301の北東辺で掘形の3分の2程度を検出した。柱穴掘形は直径0.6mの円形を呈するとみられる。掘形埋土は3層確認した。上層から、暗褐色細砂から中砂、褐色シルト含む極細砂、暗褐色細砂である。柱痕は確認できなかった。時期を特定できる遺物が出土していないが、検出高から竪穴建物SH301より新しいとみられる。

**柱穴SP410(第74図)** 柱穴SP384の東側で検出した。柱穴掘形は直径0.6mの円形を呈する。深さは0.5mを測る。掘形埋土は炭化物を多く含む暗褐色極細砂である。直径0.1m前後の柱痕を確認した。柱痕埋土はにぶい黄褐色シルト混じる細砂である。



第71図 B1地区 第3面竪穴建物S H300実測図

溝 S D 304 (第73・74図) 調査地の中央よりやや南よりで検出した。竪穴建物 S H 300・301を切り勝つ。検出長8.5m、幅0.2~0.7mで深さ0.3mを測る。調査地中央付近から南へ延び、竪穴建物 S H 300付近で東へ折れ調査地外へ延びる。埋土は褐色シルト混じる細砂である。遺物は土師器甕、甑、須恵器甗などが出土している(第171図)。そのほか、南側の遺構肩から弥生時代中期とみられる水差し形土器が出土した(第73図)が、それに伴う遺構は確認できなかった。

溝 S D 305 (第74図) 溝 S D 304と並行して検出した。検出長7mで、深さ0.3mを測る。幅は、北隅から中央までが0.4m前後で、中央から東は0.6~0.8mとなる。埋土は褐色シルト混じる細砂である。溝 S D 304との切り合い関係は明確でない。遺物は土師器甕が出土しており(第171図)、溝 S D 304と同時期とみられる。

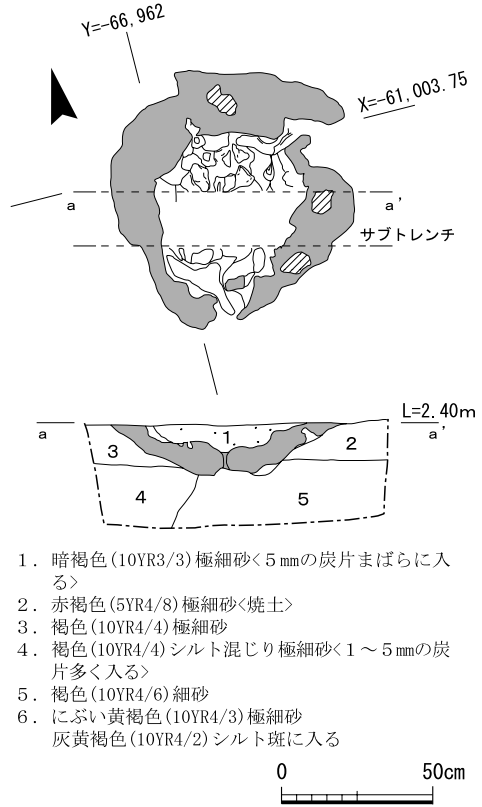
溝 S D 306 (第74図) 竪穴建物 S H 301の北東で検出した。検出長7.2m、幅0.2~0.6m、深さ0.3mで、調査地を北西から南東へ横断する。埋土は、上層からにぶい黄褐色中砂、暗褐色細砂含む極細砂、にぶい黄褐色中砂、暗褐色細砂である。遺物は白玉が出土している。

柱穴 S P 333 (第74図) 調査地中央よりやや南側で検出した。柱穴掘形は直径0.4mの円形を呈する。深さは0.15mを測る。掘形埋土は暗褐色中砂、褐色シルト含む中砂である。直径0.2mの柱痕を確認した。柱痕埋土は褐色シルトである。

柱穴 S P 334 (第74図) 柱穴 S P 333の北側で検出した。柱穴掘形は直径0.5mの円形を呈する。深さは0.2mを測る。掘形埋土は褐色シルト含む細砂である。直径0.2mの柱痕を確認した。柱痕埋土は褐色シルトである。

柱穴 S P 335 (第74図) 柱穴 S P 334の北側で検出した。柱穴掘形は一辺0.6mのやや歪んだ隅丸方形を呈する。深さは0.4mを測る。掘形埋土はにぶい黄褐色極細砂混じるシルト、オリーブ褐色シルト混じる細砂、暗褐色シルト含む細砂である。直径0.2mの柱痕を確認した。柱痕埋土は褐色極細砂混じるシルトである。遺物は、須恵器杯蓋が出土した(第171図855)。

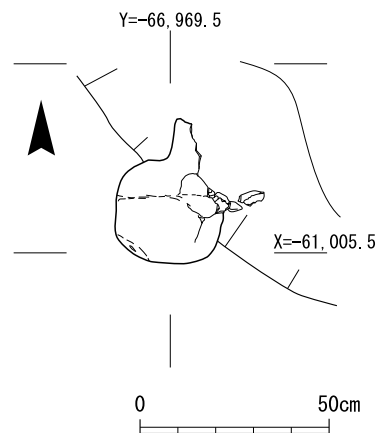
柱穴 S P 405 (第74図) 溝 S D 306の中央よりやや西で、溝 S D 306を切り込む形で検出した。柱穴掘形は長軸0.4m以上、短軸0.2mの楕円形を呈する。遺物は土師器甕が出土した(第171図



1. 暗褐色(10YR3/3)極細砂<5mmの炭片まばらに入る>
2. 赤褐色(5YR4/8)極細砂<焼土>
3. 褐色(10YR4/4)極細砂
4. 褐色(10YR4/4)シルト混じり極細砂<1~5mmの炭片多く入る>
5. 褐色(10YR4/6)細砂
6. にぶい黄褐色(10YR4/3)極細砂  
灰黄褐色(10YR4/2)シルト斑に入る

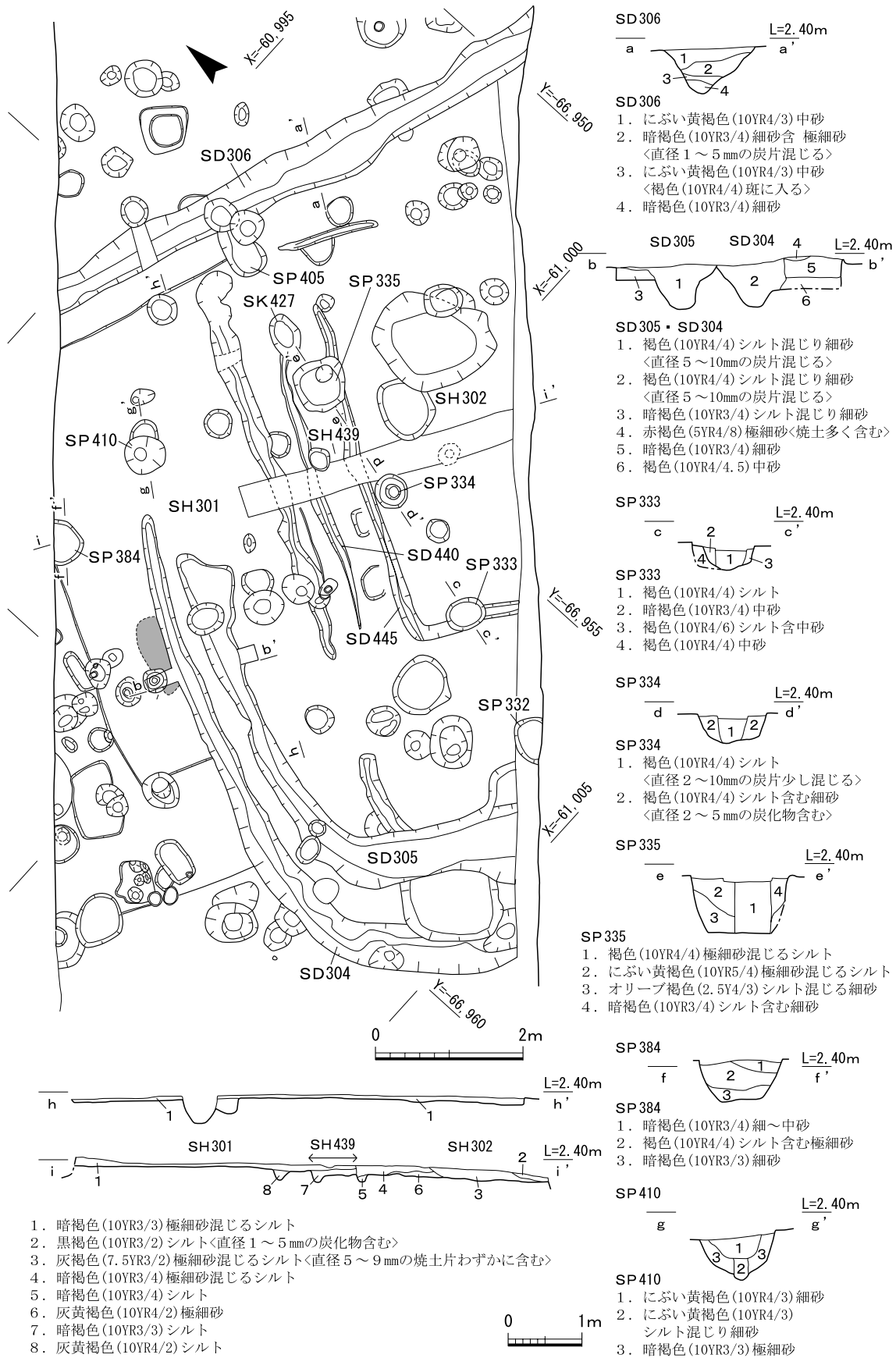


第72図 B 1 地区 第 3 面竪穴建物 S H 300内炉 S X 394実測図



第73図 B 1 地区 第 3 面 溝 S D 304遺物出土実測図





第74図 B1地区 第3面検出遺構平面図(中央部)

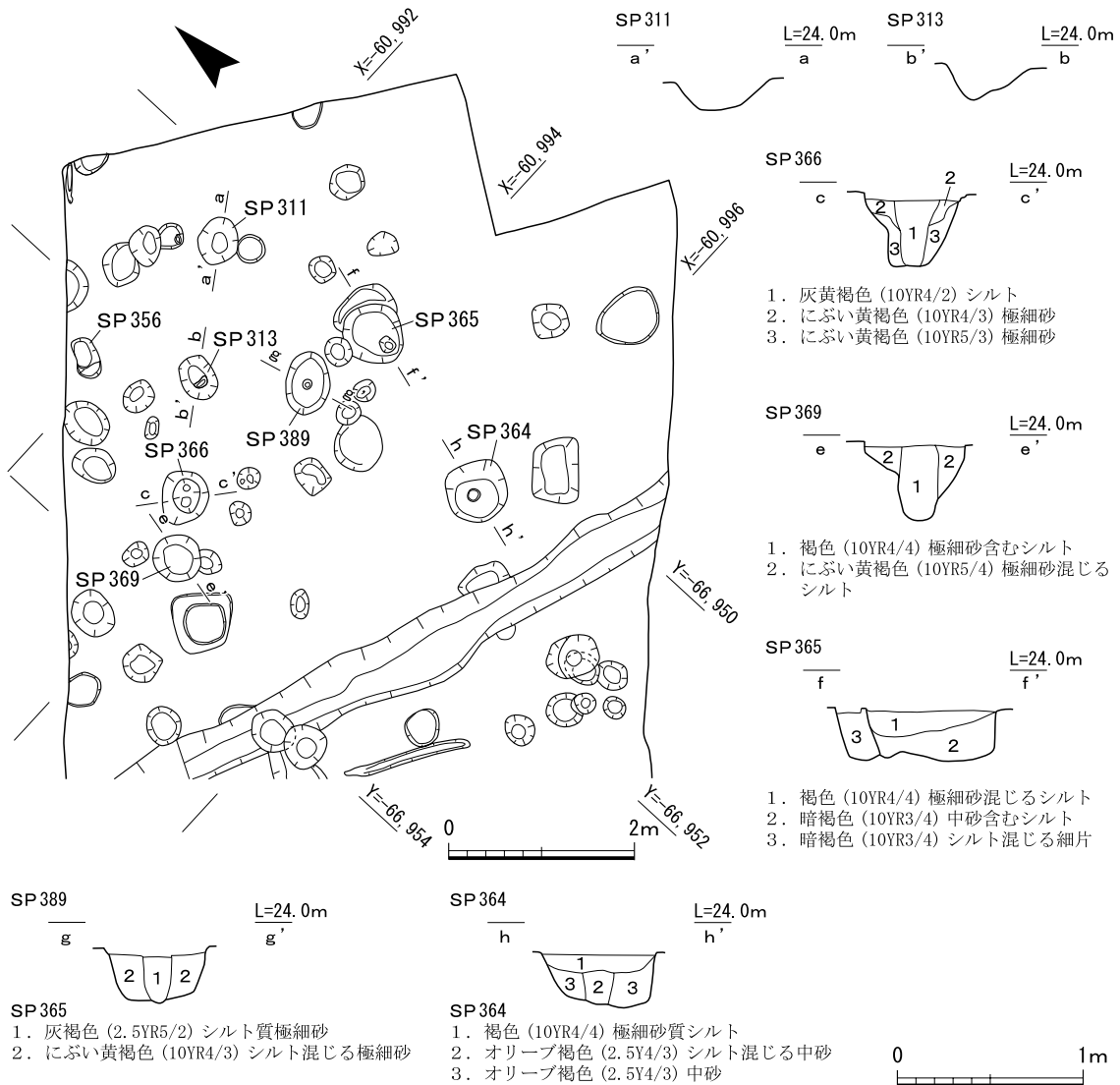
867・868)。

土坑 S K 427 (第74図) 柱穴 S P 335の北側で検出した。掘形は長軸0.6m、短軸0.4mの楕円形を呈する。弥生土器甕底部が出土した(第171図866)。

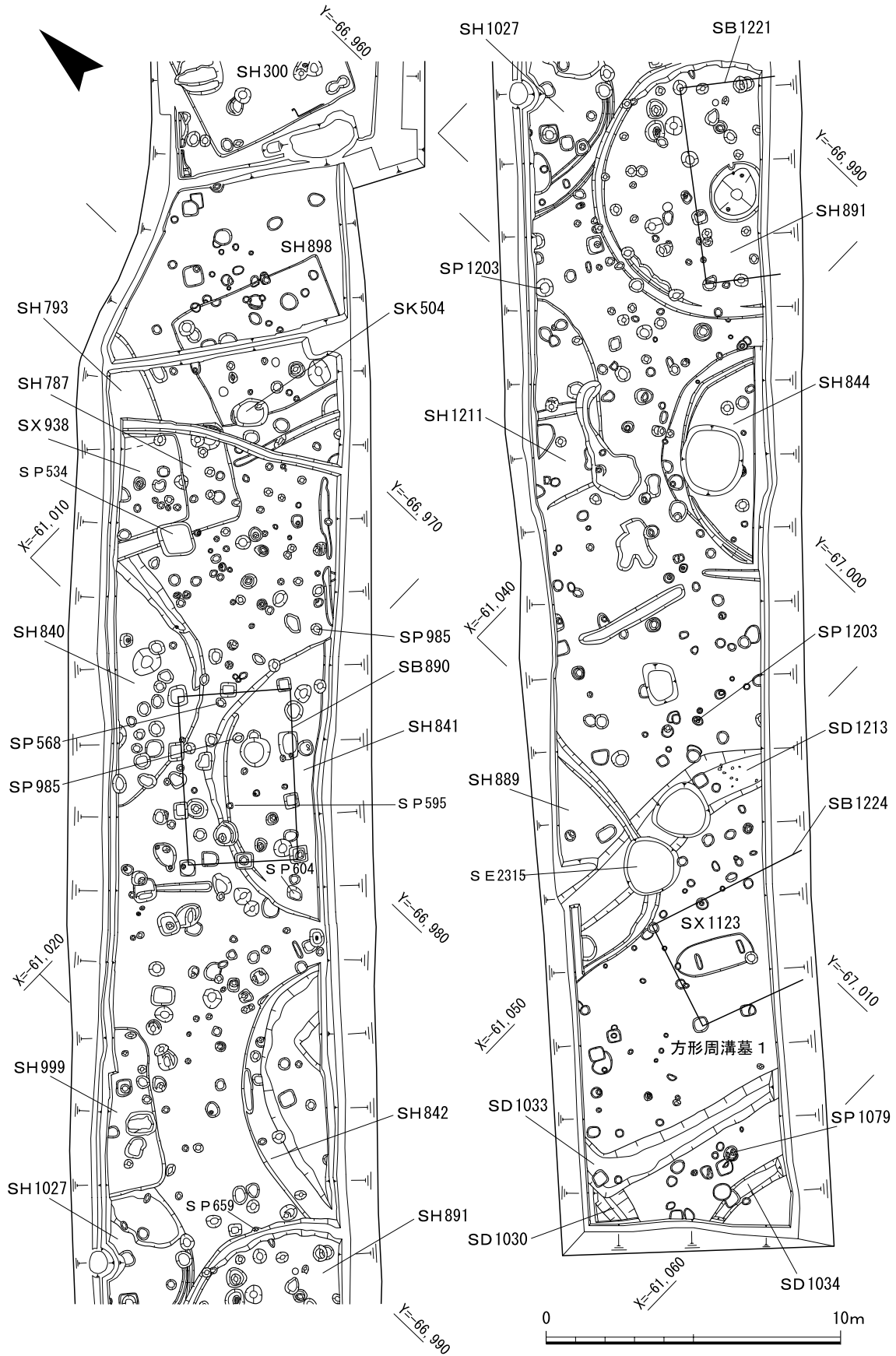
柱穴 S P 364 (第75図) 調査地の北東で検出した。掘形は、直径0.6m、深さ0.25mの円形を呈する。掘形埋土は褐色極細砂質シルト、オリーブ褐色中砂である。直径0.18mの柱痕を確認した。柱痕埋土はオリーブ褐色シルト混じる中砂である。

柱穴 S P 365 (第75図) 柱穴 S P 364の北側で検出した。柱穴掘形は直径0.7m、深さ0.3mで、円形を呈する。掘形埋土は褐色極細砂混じるシルト、暗褐色中砂混じるシルトである。

柱穴 S P 389 (第75図) 柱穴 S P 365の西側で検出した。柱穴掘形は長軸0.6m、短辺0.5mの楕円形を呈する。深さは0.3mを測る。掘形埋土はにぶい黄褐色シルト混じる極細砂である。直径0.15mの柱痕を確認した。柱痕埋土は灰褐色シルト質極細砂である。



第75図 B1地区 第3面検出遺構平面図(北東部)



第76図 B2地区 第3面検出遺構平面図

柱穴 S P 366(第75図) 柱穴 S P 389の西側で検出した。柱穴掘形は直径0.5mで、西側が広がるやや歪んだ隅丸方形を呈する。深さは0.36mを測る。掘形埋土はにぶい黄褐色極細砂、にぶい黄褐色極細砂である。直径0.2mの柱痕を確認した。柱痕埋土は灰黄褐色極細砂混じる細砂である。

柱穴 S P 311(第75図) 柱穴 S P 313の北東、調査地の北西辺付近で検出した。柱穴掘形は長軸0.4m、短軸0.2mの西側中央付近がやや凹む楕円形を呈する。須恵器杯が出土した(第171図860)。

柱穴 S P 369(第75図) 柱穴 S P 366の西側、調査地の北西辺付近で検出した。柱穴掘形は直径0.5mの円形を呈する。深さは0.4mを測る。掘形埋土は、にぶい黄褐色極細砂混じるシルトである。直径0.2mの柱痕を確認した。柱痕埋土は褐色極細砂含むシルトである。遺物は土師器甕が出土した。

(綾部侑真)

## (2) B 2 地区

調査地の北部と中央部、南部の3か所でそれぞれ1棟、合計3棟の掘立柱建物を検出した。

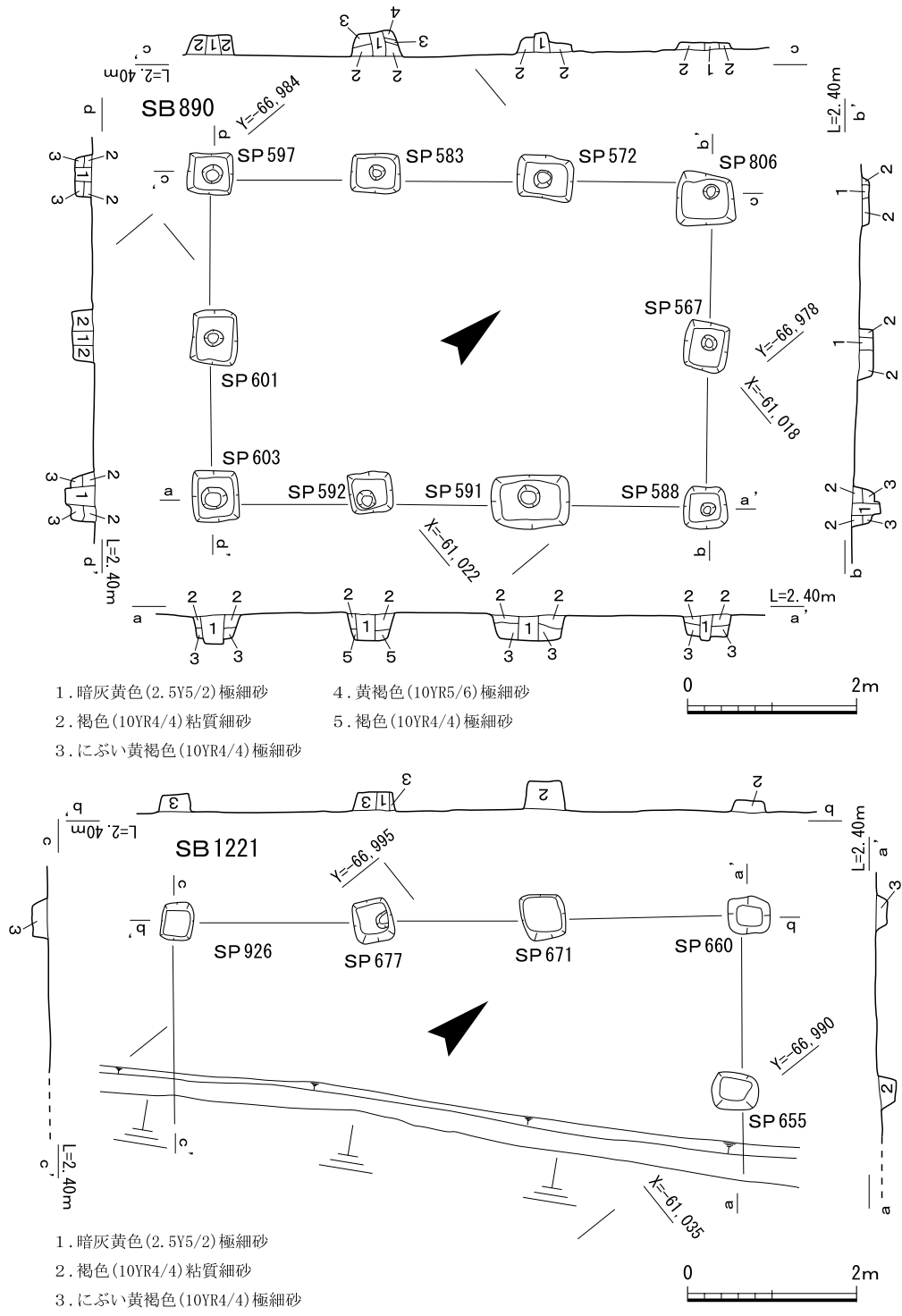
掘立柱建物 S B 890(第77図) 調査地北部で検出した、東西2間(3.8m)、南北3間(5.9m)を測る掘立柱建物である。主軸方位は北に対して42°東に振る。方形掘形の柱穴は一辺が0.5~0.9m、深さは検出面から0.1~0.3mと規模に大小の差が認められる。合計10基の柱穴掘形では、直径0.16~0.24mの柱痕を確認した。柱痕の間隔は心々間で桁行が1.85~2.1m、梁間が1.8~1.9mを測る。

掘立柱建物 S B 1221(第77図) 調査中央部で検出した、東西1間以上(2.1m以上)、南北3間(6.7m)を測る掘立柱建物である。建物規模は2間、3間規模と判断されるが、建物の東部分は調査地外に延びる。主軸方位は北に対して38°東に振れる。方形掘形の柱穴は直径が0.4~0.6m、深さは検出面から0.1~0.3mと規模に多少の差が認められる。柱穴掘形の観察では、S P 677から唯一直径0.18mの柱痕を確認した。

掘立柱建物 S B 1224(第77図) 調査地南部で検出した、東西2間以上(3.6m以上)、南北2間(3.9m)を測る掘立柱建物である。建物の主軸方位は北に対して42°東に振れ、先のS B 890・1221の2棟とは直行する主軸方向をとる。柱穴のうち、柱穴掘形が円形を呈するものは直径0.3~0.5mで、深さは検出面から0.1mを測る。柱穴 S P 1128・1131の2か所で直径0.16mと0.18mの柱痕を確認した。

調査地の全域から12基の竪穴建物を検出した。ほとんどの建物は一部が調査地外となる部分検出である。唯一、竪穴建物 S H 898のみ建物全体を検出できた。建物の平面形は大きく方形・円形・隅丸方形の3形態に分かれる。長方形もしくは方形が3基(S H 787・898・999)、円形が6基(S H 841・842・844・889・1027・1211)、隅丸方形が2基(S H 840・889)、円形もしくは隅丸方形の1基(S H 793)である。

竪穴建物 S H 898(第80図) 調査地北端で検出した長方形を呈する竪穴建物である。竪穴建物の長軸方位は北に対して67°西に振れ、B 1地区で検出したS H 300とほぼ方位を揃える。建物規模は長さ5.5m、幅4.4m、検出した壁高は0.03mを測る。竪穴は大きく削平を受けており、ほぼ床



第77図 B2地区 第3面掘立柱建物SB890・1221実測図

面を検出したのみである。平坦な床面の外周には周壁溝は存在しない。床面中央のやや南に偏って炉の焼土1か所を検出した。焼土は直径0.3mの円形を呈する。このほか床面上では大小多数の柱穴を検出したが、多くは後世の遺構の残りともみられた。竪穴建物に関連する柱穴として、4か所の主柱穴(S P 500・990・1038・1217)を検出した。主柱穴掘形は円形で、直径0.6~0.8m、深さ0.4mの規模を測る。建物埋土の中から土師器破片が出土したが、明確な時期判定には至ら

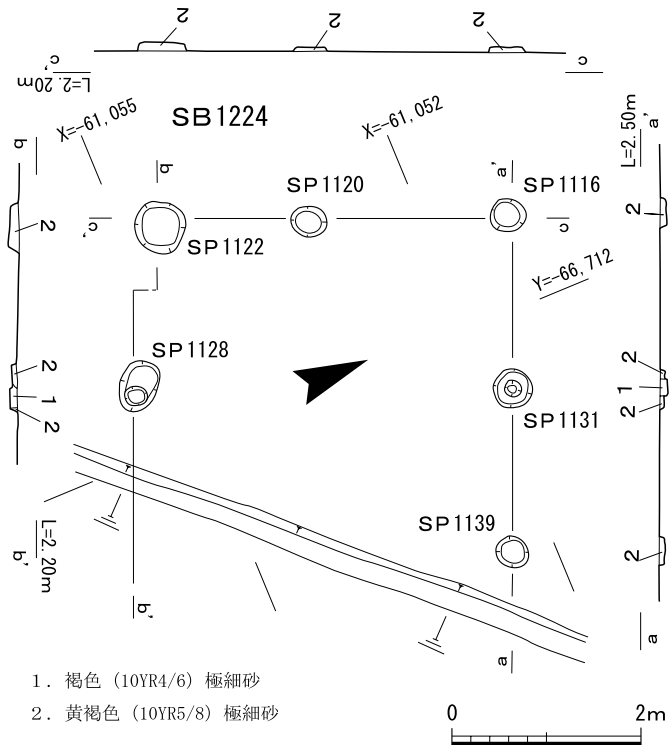
ない。

**竪穴建物 S H 793 (第79図)** 調査地北端で検出した竪穴建物である。建物の大部分は西側調査地外に延び、南部は S H 787、S X 938 に切られる。南北 3 m の長さで検出した周壁部が東方向に弧状に張り出す状況から、竪穴建物の形状は円形もしくは隅丸方形とみられる。また、わずかではあるが、北東側床面には周壁溝が検出された。壁高は床面から 0.2 m を測る。検出範囲内に柱穴は確認できない。S H 787 に接する竪穴建物埋土中から、弥生土器底部(第182図1078)が出土した。

**竪穴建物 S H 787 (第79図)** 調査地北端で検出した長方形を呈する竪穴建

物である。竪穴建物 S H 793 に切り勝つが、土坑 S X 938 に切り負ける関係にある。竪穴建物の長軸方位は北に対して 64° 西に振る。建物規模は建物西部が調査地外に延びることから、全体規模は不明である。検出長は最大で 4.6 m、幅 3.6 m、検出した壁高は 0.2 m を測る。床面上では周壁溝を確認できなかった。床面の中央で焼土 1 か所を検出し、炉の残欠と考える。炉は直径 0.4 m の浅い円形掘形があり、内部に焼土が認められた。このほか床面上では大小多数の柱穴を検出したが、多くは後世の遺構の残りともみられる。床面上では主柱穴 3 か所 (S P 1173・1174・1224) を検出した。主柱穴掘形は円形で、直径 0.3~0.4 m、深さ 0.2~0.4 m を測る。このうち S P 1173 と S P 1174 の掘形は底部が尖り気味に丸く終わる。竪穴埋土の中から土師器破片が出土したほか、布留式土器が出土した S X 938 に切り負けることから、古墳時代初頭頃と考えられる。

**竪穴建物 S H 840 (第81図)** 調査地北部で検出した平面形が隅丸方形と推測する竪穴建物である。建物の北部が S H 787 に、南部が S B 890 の S P 572 に切り負ける関係にある。建物の東側の 3 分の 1 を検出したが、大部分は調査地外となり全容は判明しない。竪穴の平面形は、南部は円形を呈するのに対して、東側は北に向かってやや直線的に延びている。建物の直径は、8 m を超えると推測される。壁高は 0.2 m を残す。床面は平坦で、東側に周壁溝の一部が残っていた。周壁溝は幅 0.4~0.8 m を測り、北に向かって幅が広がる。溝の深さは最大 0.1 m である。床面の調査から主柱穴 S P 792 を検出した。S P 792 の掘形平面は円形で、底部は尖り気味に終わる。規模は直径 0.7 m、深さ 0.5 m を測る。柱痕は確認できない。床面西端で検出した S P 1021 は、部分検出ではあるが規模が S P 792 とほぼ同規模である。検出位置からみて S P 1021 も主柱穴の可能性が高い。S H 840 の床面では S P 792・S P 1021 のほか、南端付近で土坑 S K 571 (第81図) を検出した。

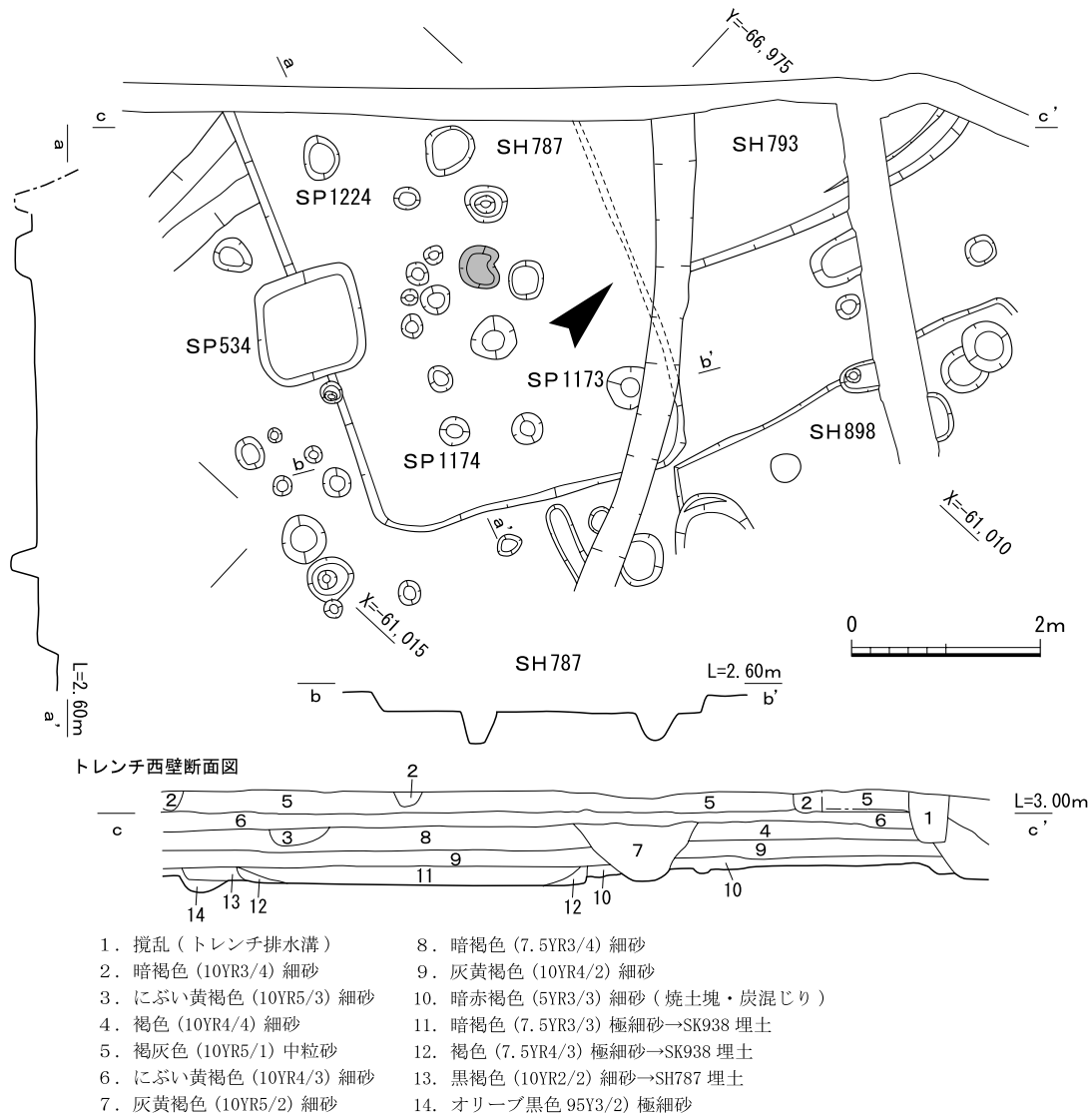


第78図 B2地区 第3面掘立柱建物 S B 1224実測図

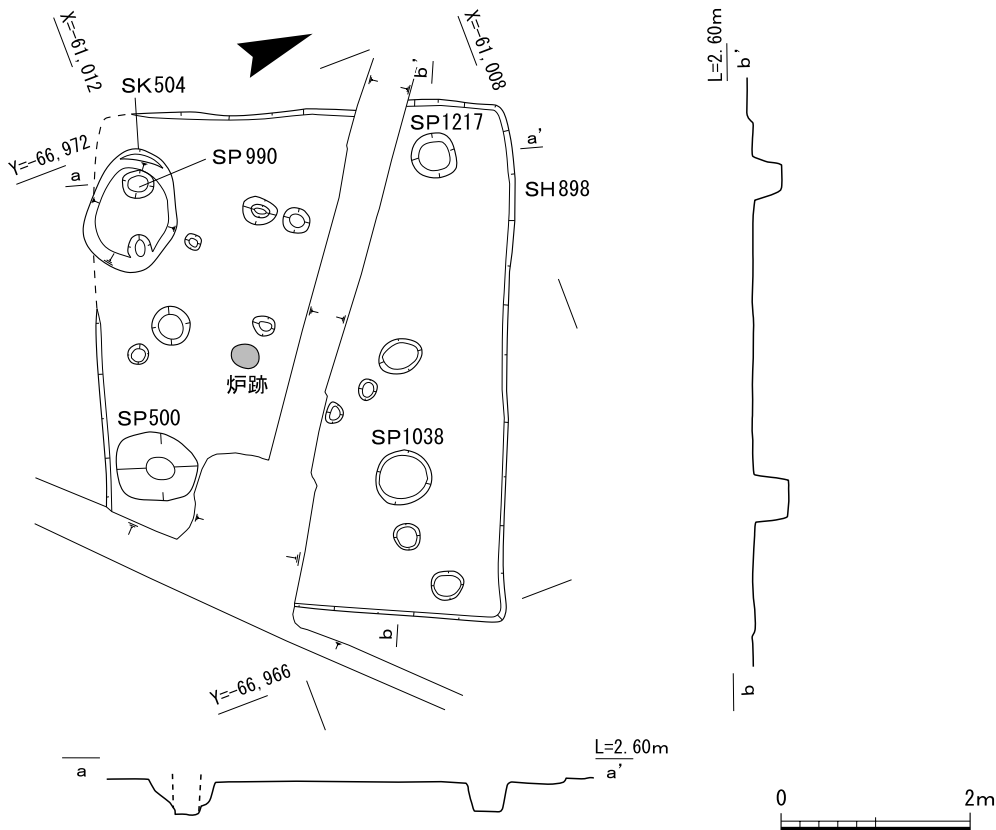
S K571は楕円形を呈し、長さ0.65m、幅0.4m、深さ0.2mを測る。土坑内の中央付近で、横位置ではほぼ完形の甕(第178図1049)の上半部が1点出土した。

**竪穴建物 S H841 (第82図)** S H840の南側で検出した、円形を呈する竪穴建物である。S H840との間隔は0.8mを測る。掘立柱建物 S B890の柱穴に埋土が切られる。建物全体の西側3分の1を検出したが、残りは東側調査地外であり全容は判明しない。建物は正確な規模が不明であるが、直径は9m以上と推測される。壁高は0.2mを残す。床面はほぼ平坦に近い。周壁溝は、建物の西側のみ検出した。周壁溝は幅0.2~0.4m、最深部で0.1mの規模を測る。床面の調査では、小規模なピットのほか支柱穴3か所(S P1182・1189・1194)を検出した。S P1182は平面形が円形で、直径0.6m、深さ0.5mを測る。底面は丸く終わる。S P1189は掘形が円形で、直径1.0m、深さ0.4mを測る。底面は平坦である。S P1194は平面が円形で、直径0.5m、深さ0.2mを測る。底面は丸く終わる。

**竪穴建物 S H842 (第83図)** S H841の南西側で検出した、円形を呈する竪穴建物である。S



第79図 B2地区 第3面竪穴建物 S H787・793実測図



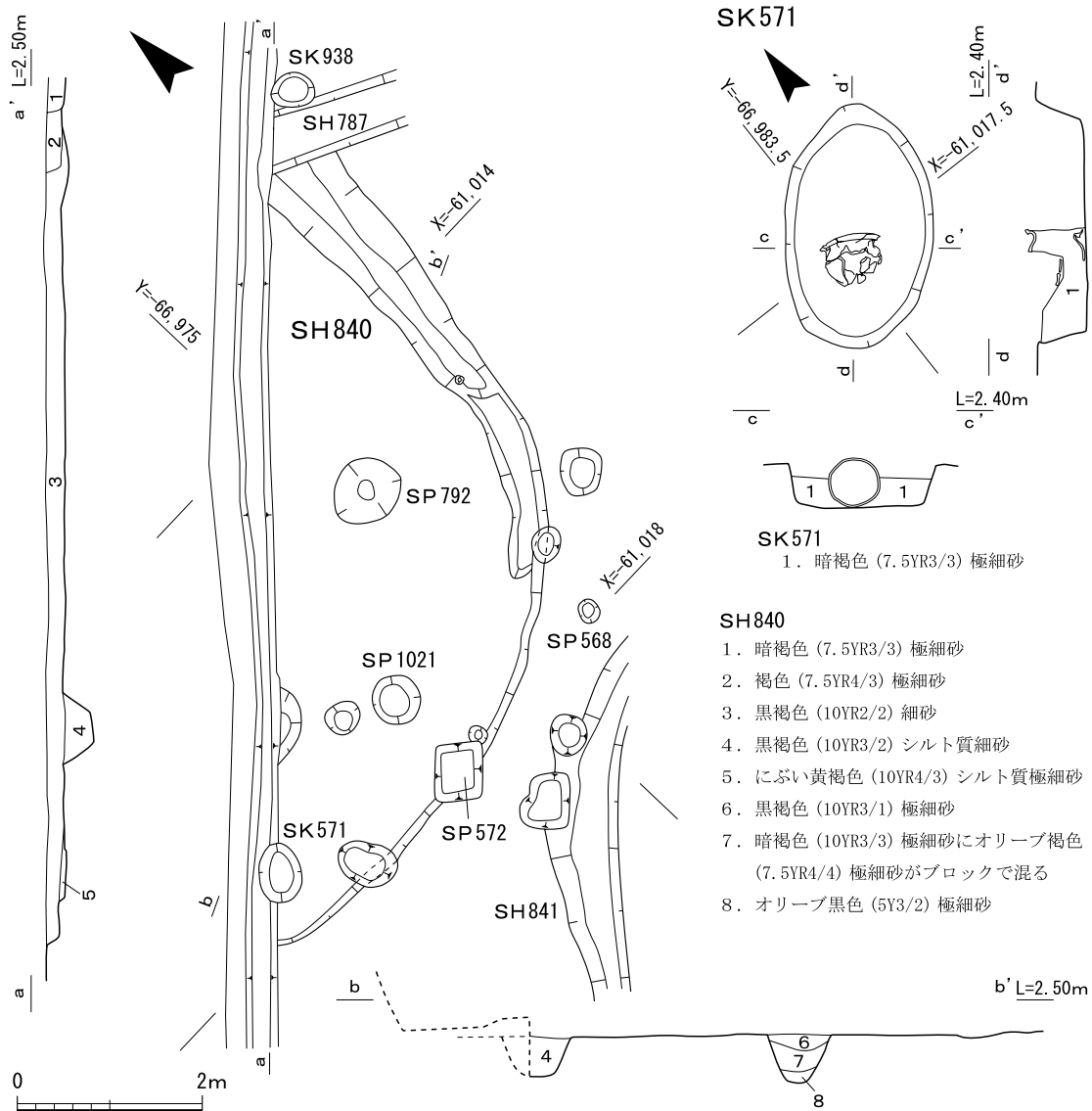
第80図 B2地区 第3面竪穴建物SH898実測図

H840との間隔は0.8mを測る。建物全体の西側4分の1程度を検出した。東側は調査地外へ延びる。建物は正確な規模が不明であるが、直径は9mを超えると推測される。壁高は0.2mを残す。建物は南西端がSH891によって切られる。床面北西側の一部に浅い周壁溝がみられる。また、床面には後世の大規模な掘り込み遺構SX627(第83図)が存在する。SX627はSH842の埋土を掘り込み、検出範囲で最大幅2.2m、深さ0.4mを測る。SX627の外周掘形は、SH842の壁面の内側を同規模に近い曲線で掘り下げる。SH842の廃絶後、自然堆積の埋没過程の中で輪郭や窪み等の建物痕が残る段階で、新たにSX627が掘られた可能性が高い。SX627の埋土上部には炭化物を含む黒色シルト質極細砂が堆積する。同極細砂中には古墳時代とみる土器破片が含まれた。SX627の底面の精査で3か所の柱穴を検出したが、SH842の柱穴であるかはわからない。

**竪穴建物SH999(第86図)** SH842の北東で検出した円形の竪穴建物である。建物東端部を検出し、東辺は5.6mを測る。壁高は0.2mを測る。周壁溝はみられない。東側壁面の中央付近に竈が存在する。竈は上部が削平により壊されているが、U字状の竈壁下部が0.2mの高さが残っている。竈は全長1.0m、幅0.8mを測り、中央の火床面は建物床面から0.1m高い位置に設けられる。火床は直径0.35mの範囲がよく焼け、竈内壁面も上端部が被熱赤変している。床面では、このほかコーナー付近にそれぞれ1か所の支柱穴(SP681・1006)が存在する。掘形は円形で直径0.3m、深さ0.18mを測る。建物埋土中から須恵器杯身(第183図1124)が出土した。

**竪穴建物SH1027(第85図)** SH891の北側で検出した方形の竪穴建物である。建物の北東部

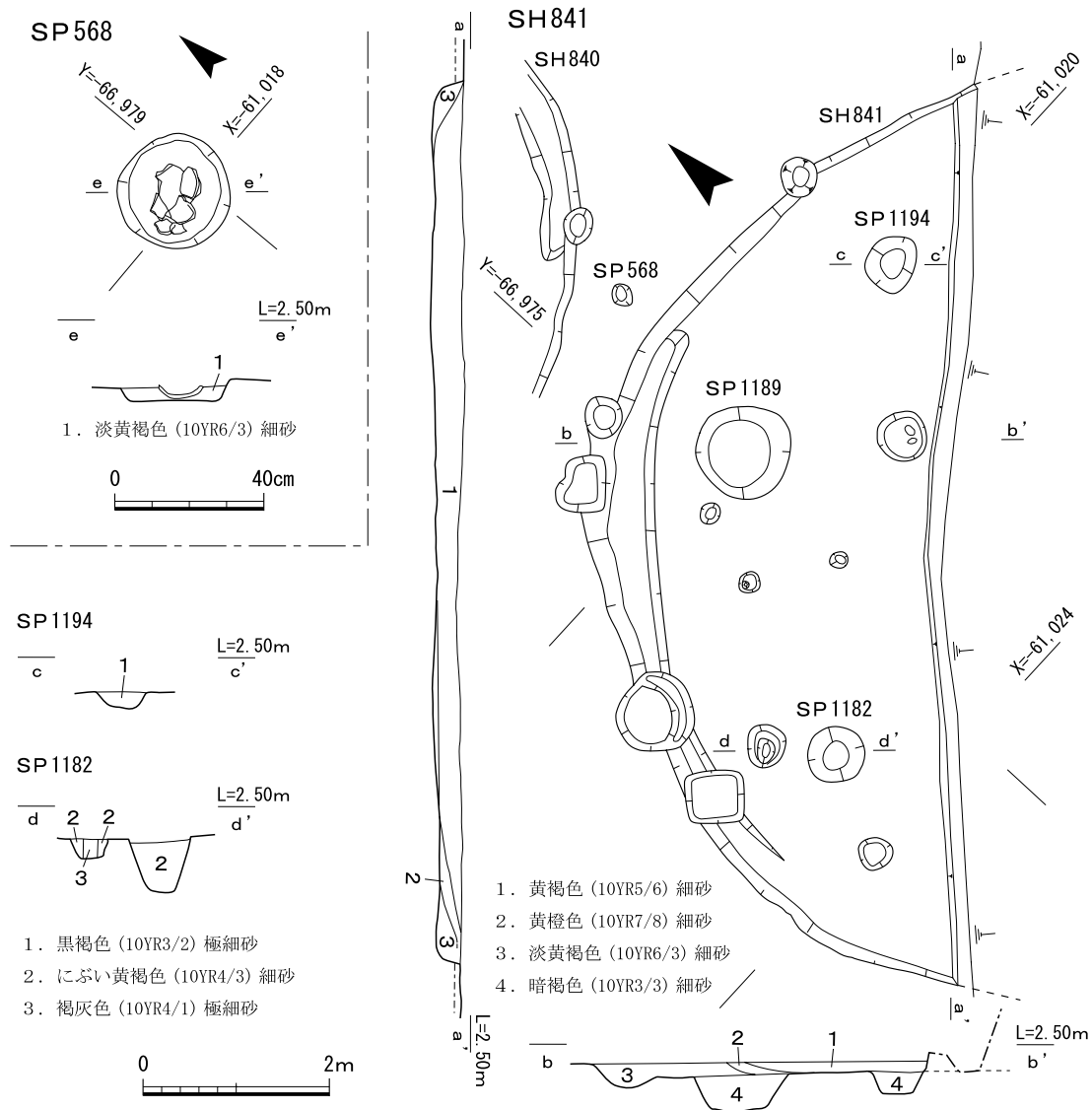




第81図 B2地区 第3面竪穴建物SH840、土坑SK571実測図

をSH999、南端部をSH891により切られる。8～9m規模の建物と推定され、東南部3分の1を検出した。壁高は0.1mを測る。建物南部床面から2条の周壁溝を検出した。新旧関係は不明であるが、建物の建て替えが行われたとみられる。床面では、1か所の支柱穴(SP664)を検出した。支柱穴掘形は円形で、直径0.4～0.5m、深さ0.25mを測る。床面の西側壁面に沿って長さ2.6m、幅1.6m、深さ0.4mの楕円形土坑を検出した。土坑底は緩やかな丸みを持って中央部が下がる。検出面直下で完形の高杯(第182図1097)が出土した。その他壺・甕・高杯(第182図1092～1097)が出土した。

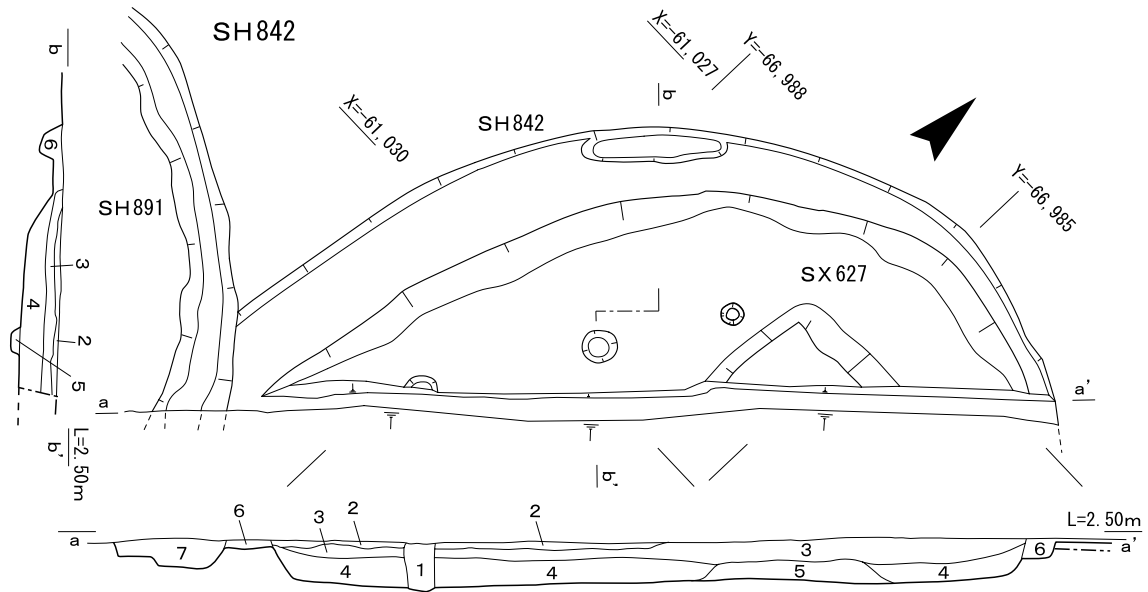
**竪穴建物SH891(第83・85図)** SH842の南西で検出した円形の竪穴建物である。SH842とSH1027に切り勝つ。建物は直径9.2m、壁高は最大0.1mを測り、中央部から東側は調査地外に延びる。床面中央には中央土坑SK386が存在する。SK386は楕円形を呈し、北東から南西に長軸を向け、掘形の周囲を土手状に掘り残す。長さ2.6m、幅2.4m、深さは土手上場から0.5mを



第82図 B2地区 第3面竪穴建物SH841実測図

測る。土手は幅0.15~0.2m、高さ0.06mである。SK386は中央部がすり鉢状に掘り下げられ、壁面は凹凸が多数認められる。最下部には炭化物を含む黒褐色シルト質極細砂が堆積している。床面では、周壁溝と支柱穴4か所(S P 654・669・831・930)、炉3か所が存在する。4基の支柱穴は円形掘形で、直径0.5~0.6m、深さ0.3mを測る。支柱穴の配置状況から建物を復原した場合、全体で6本の支柱穴であったとみられる。炉はS P 654とS P 831間に2か所、S P 669の東側に1か所存在する。これら炉は床面が赤褐色に焼け、直径は0.2~0.3mで円形を呈する。

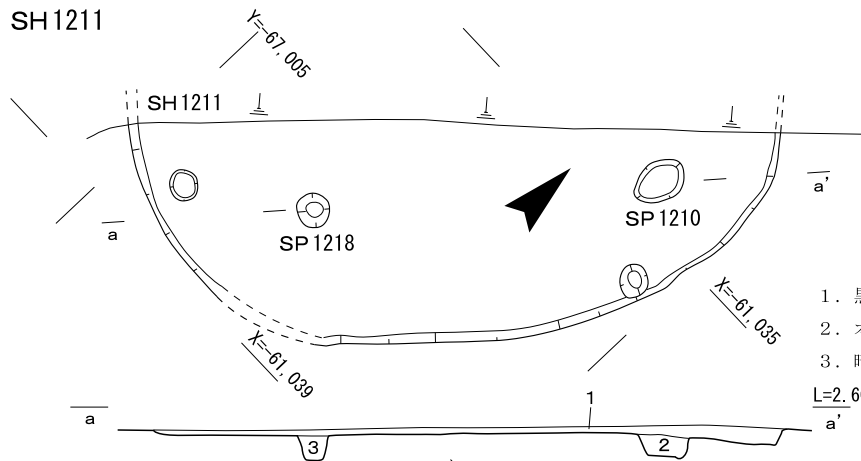
**竪穴建物SH1211(第83図)** SH891の西で検出した円形の竪穴建物である。建物は直径7m程度の規模とみられるが、大部分が調査地外であり南東部約3分の1を検出した。壁高は0.05mを測る。ほぼ平坦な床面から支柱穴S P 1210・1218を検出した。支柱穴の掘形は円形で、直径0.3~0.5m、深さ0.3mを測る。



- |                                   |                              |
|-----------------------------------|------------------------------|
| 1. 褐色 (7.5YR4/1) 極細砂              | 4. にぶい黄褐色 (10YR6/3) シルト質極細砂  |
| 2. 黒色 (N2/0) シルト質極細砂 (炭化物・焼土塊を含む) | 5. オリーブ褐色 (2.5YR4/4) シルト質極細砂 |
| 3. にぶい黄褐色 (10YR4/3) 粘質細砂          | 6. 褐灰色 (10YR4/1) シルト質極細砂     |
|                                   | 7. 暗褐色 (7.5YR3/3) 極細砂        |



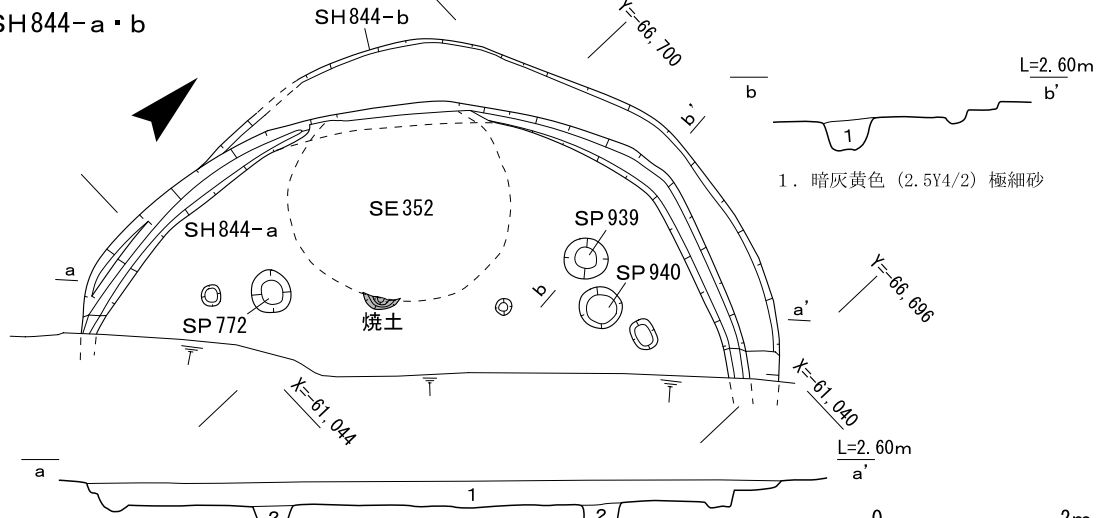
SH1211



- |                         |
|-------------------------|
| 1. 黒褐色 (10YR3/3) 極細砂    |
| 2. オリーブ褐色 (2.5Y4/3) 粘質砂 |
| 3. 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 粘質砂   |

L=2.60m

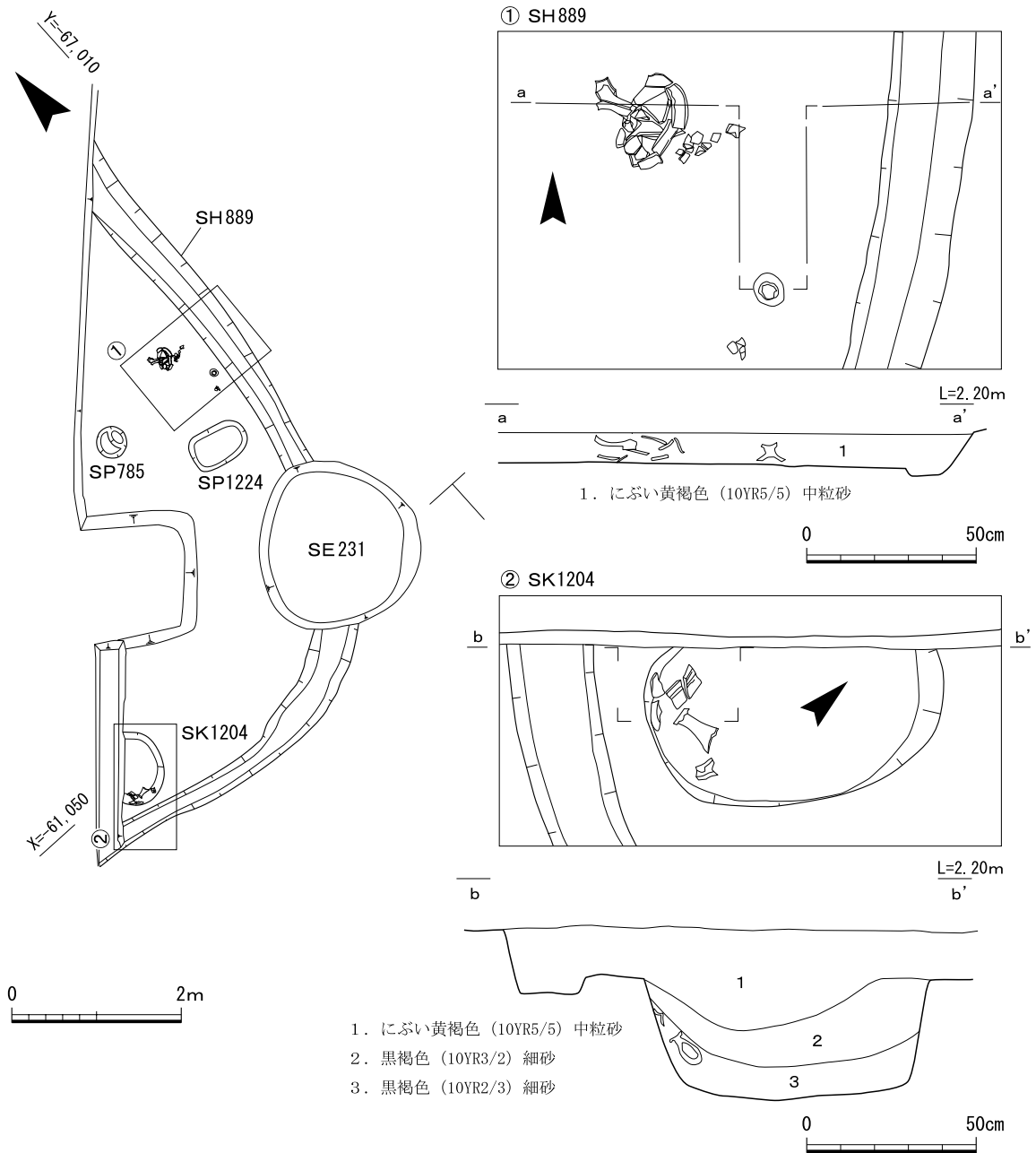
SH844-a・b



- |                      |                       |
|----------------------|-----------------------|
| 1. 黒褐色 (10YR3/3) 極細砂 | 2. 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 粘質砂 |
|----------------------|-----------------------|

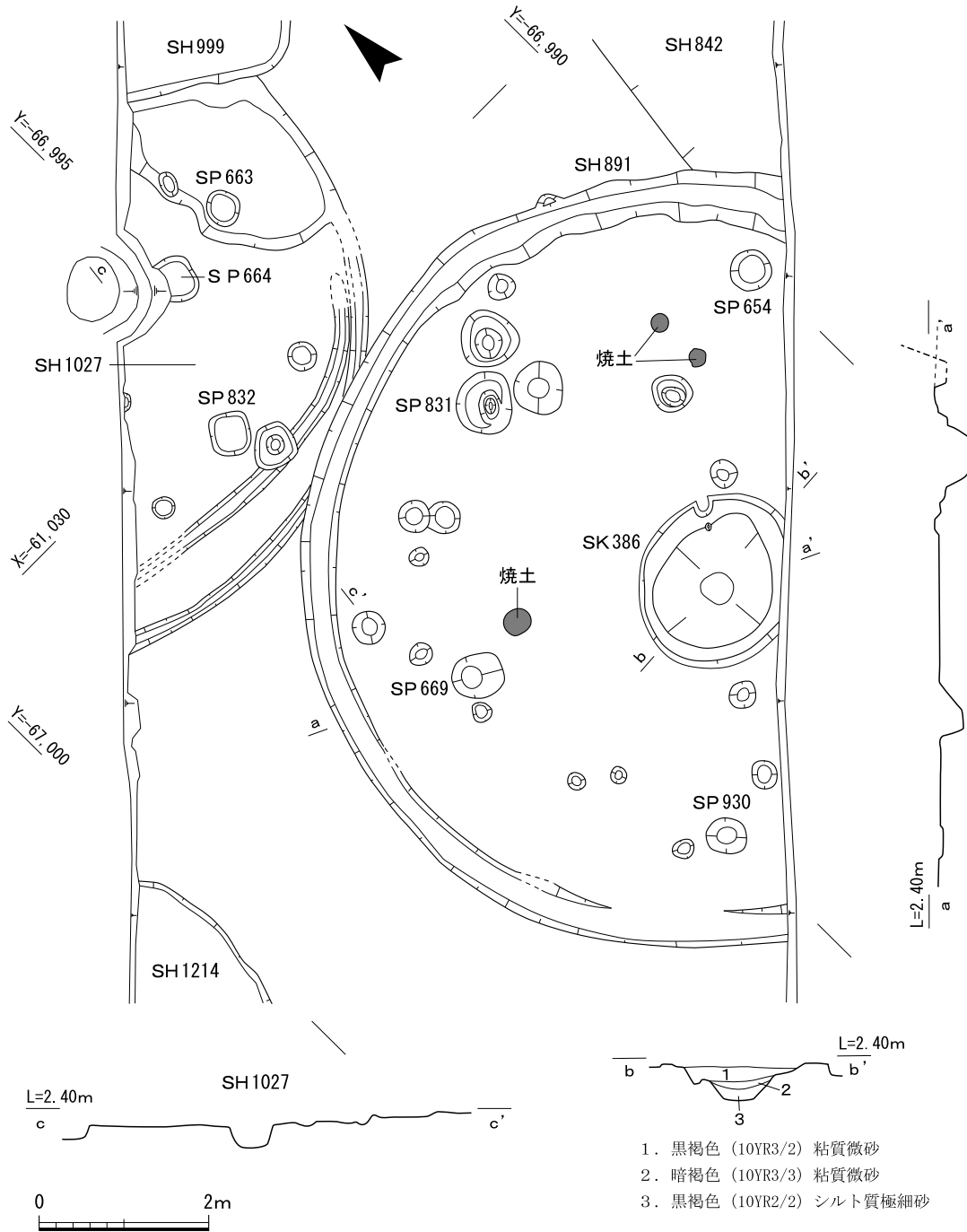


第83図 B2地区 第3面竪穴建物SH842・844・1211実測図



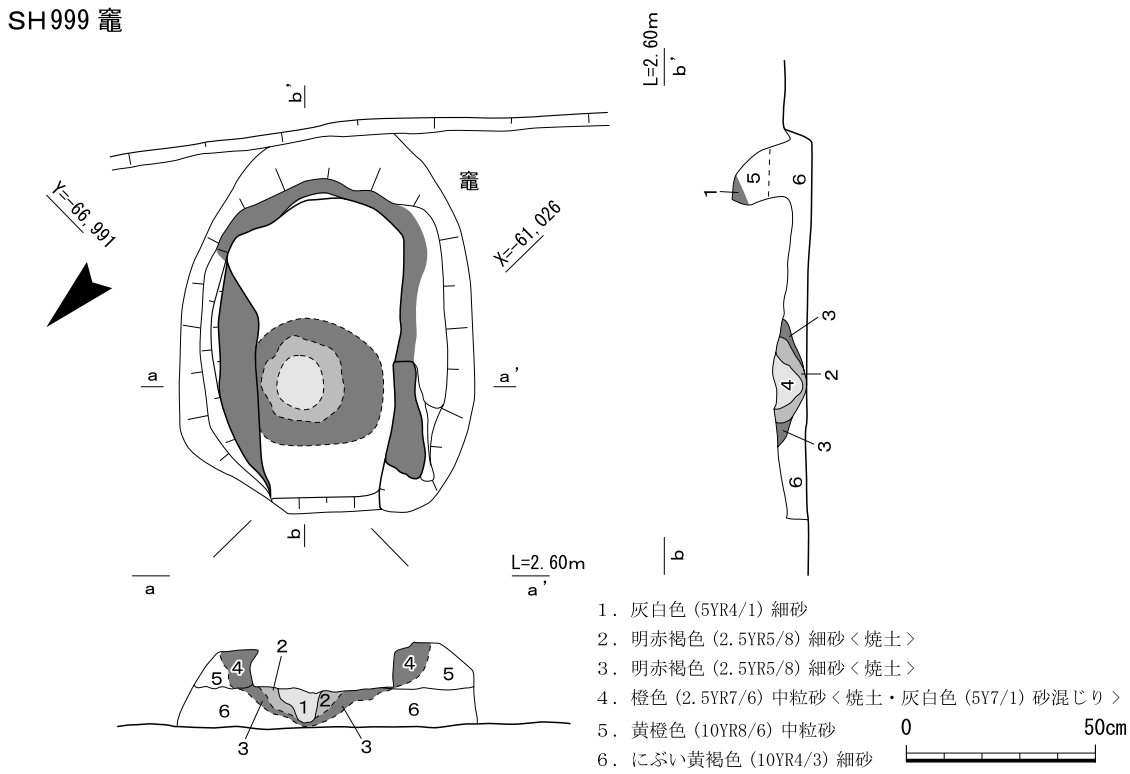
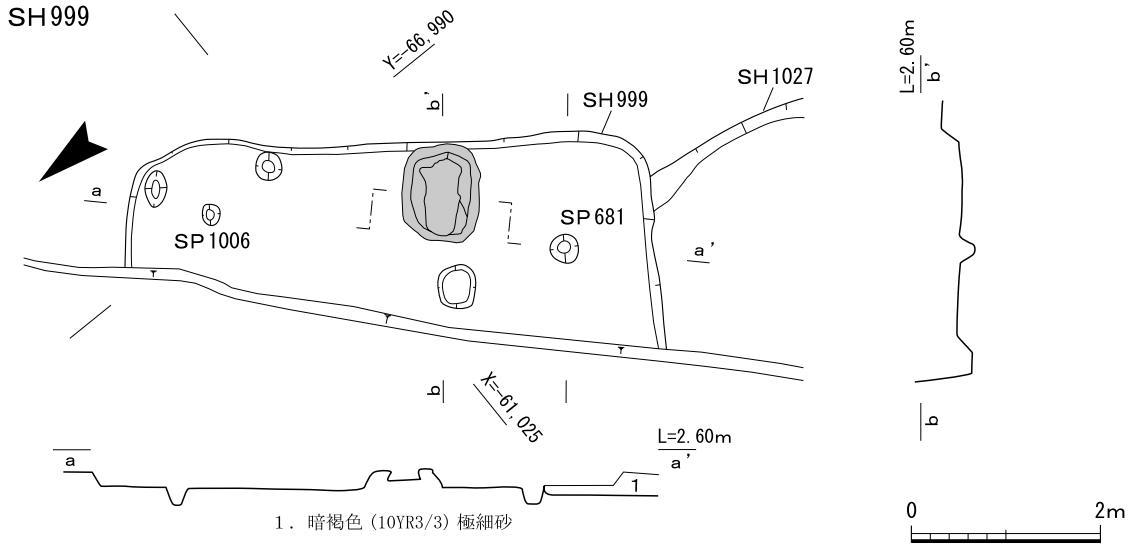
第84図 B2地区 第3面竪穴建物SH889、土坑SK1204実測図

竪穴建物SH844a・b(第83図) SH891の南西で検出した円形の竪穴建物である。建物は西側約2分の1を検出し、東側は調査地外となる。建物の北側部分は壁面ラインが二重に巡ることから、建て替えが行われている。北側のSH844-bが古く、南側に位置するSH844-aが新しい。また、建物a・bの重複では、建物aが南側に0.4m移動している。両建物の平面規模は、平面の形状からほぼ同規模とみられる。建物aは直径7.2m、壁高は0.2mを測る。建物bは壁高0.1mを測る。建物aには幅0.25m、深さ0.08mの周壁溝が巡るが、建物bでは確認できない。建物aの床面は後世のSE352に大きく攪乱されていたが、支柱穴SP772とSP940の2か所のほか、炉の焼土の一部を検出した。SP772・940の掘形は円形で、直径0.4m、深さ0.24mの規模を測る。炉は、建物の中央からやや西に偏って検出した。



第85図 B2地区 第3面竪穴建物SH891・1027実測図

**竪穴建物SH889**(第84図) 調査地の南西部で検出した隅丸方形の竪穴建物である。2面で検出したSE231に建物の南東部を切られ、方形周溝墓1の周溝SD1213を切っている。建物は南東側の約3分の1を検出し、残りは西側調査地外となる。検出範囲では長さ7.4m、幅4.0m、検出高0.15mを測る。調査地の南壁面の観察では、0.25mの立ち上がりが認められる。ほぼ平坦な床面には幅0.28m、深さ0.05mの周壁溝が巡り、南辺の壁面近くでは土坑SK1204を検出した。主柱穴は確認できない。また、建物の東部床面上からほぼ完形の高杯と脚台(第182図1085・1086)が出土した。土坑SK1204の平面形は楕円形で、長さ0.9m、幅0.55m、深さ0.35mを測る。土坑

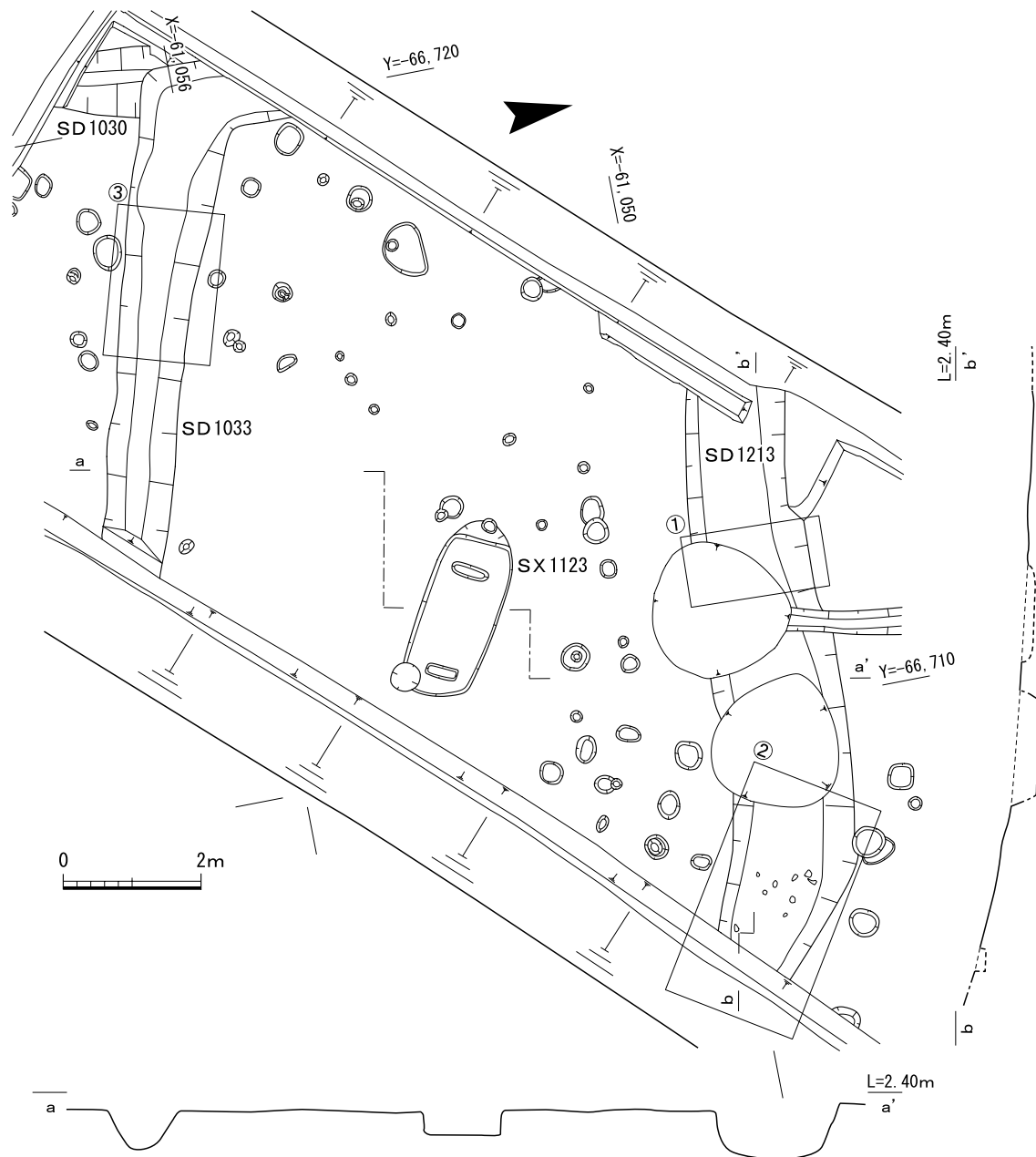


第86図 B2地区 第3面竪穴建物SH999実測図

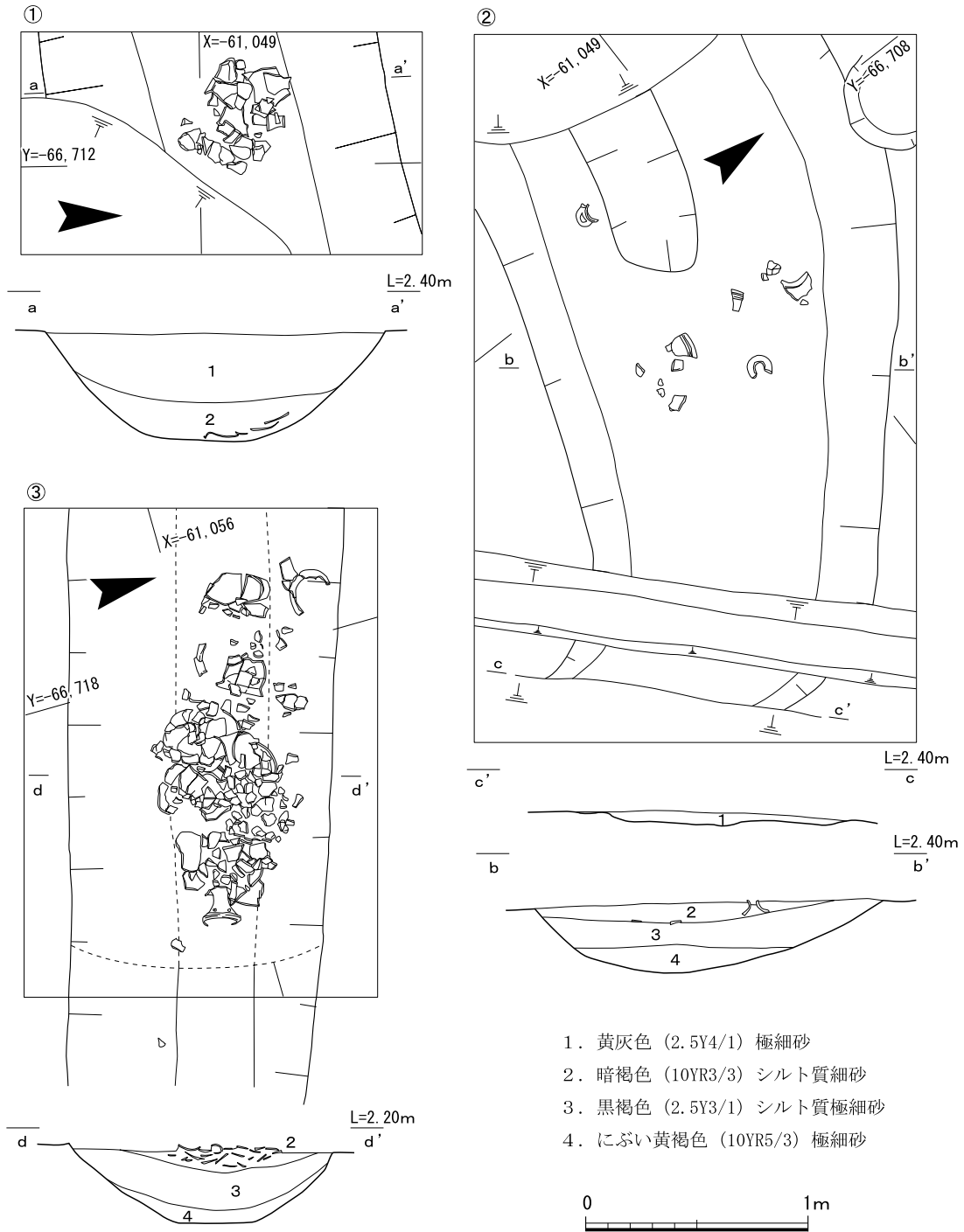
内埋土のうち、最下層の黒褐色細砂中から高杯等(第178図1052・1053)の破片が出土した。

**方形周溝墓1**(第87~89図) 調査地の南西端で検出した東西主軸の方形周溝墓である。周溝にみる主軸方位は、およそ北に対して80°西に振る。同一の周溝と判断する2本の溝(S D1033・1213)と土壌S X1123で構成される。周溝の東西溝は調査地外に位置する。また、四隅のコーナーのうち南西コーナーが検出できた。周溝内側の墓域は、南北方向の幅が7.3mを測る。S D1213の東端はやや南側に屈曲する状況にあることから、調査地外の東側近くに周溝のコーナーが位置するものとする。この推定によれば、東西方向の墓域の規模はおよそ12.5m前後と推定される。周溝は、北側のS D1213が長さ8.5m、幅2.0mを検出した。底面は平坦ではなく、西から

東に向かって緩やかに浅くなっている。この状況から、周溝墓北東コーナーは周溝が一旦途切れ、陸橋状の施設が存在する可能性が高い。溝底付近から弥生土器(第181図1071~1077)が出土した。弥生時代中期と判断される。南側周溝のSD1033は東西検出長7.5m、幅1.0~1.3m、深さ平均0.4mを測る。また、西端コーナーから北に延びる溝は最大2.0mを測る。溝埋土は3層に分かれ、このうち検出面最上層である暗褐色シルト質細砂から土器(第179・180図1054~1066)がまとまって出土した。これらの土器が出土した位置は南西内側コーナーから東約2mの地点であり、東西約1m、南北0.6mの範囲に集中する(第88図③)。これらの土器には、第179図1057のような祭祀用の壺のほか甕・高杯・鉢が12点含まれる。溝の下層にはにぶい黄褐色極細砂と黒褐色シルト質極細砂が約0.25m堆積するが、遺物の出土はみられない。最上層出土の土器群は、方形周溝墓1



第87図 B2地区 第3面方形周溝墓1実測図

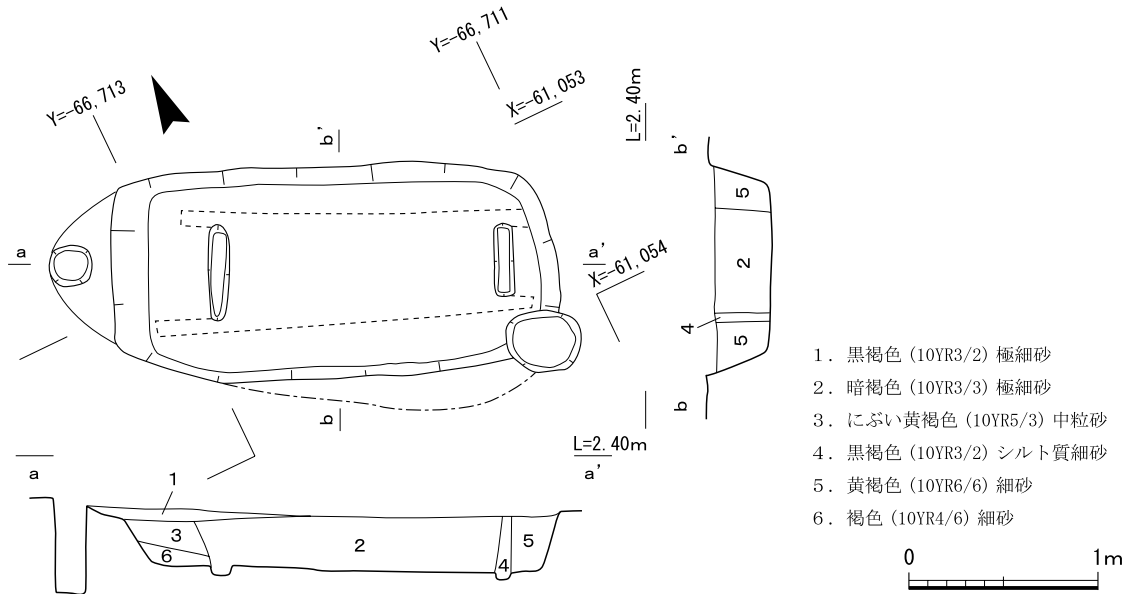


第88図 B2地区 第3面方形周溝墓1 周溝S D1033・1213遺物出土実測図

が築かれ一定時間経過後に溝内に置かれた可能性が高い。周溝墓1で行われた儀式で使用された土器とみられる。

土壌S X1123(第89図) 周溝に囲まれた墓域の、中央部やや南側に存在する。墓壙の主軸は墓域の主軸とは異なり、北に対して61°西に振る。墓壙の掘形は長方形を呈し、全長2.3m、幅1.1m、深さ0.3mを測る。底面は平坦であるが、標高で見ると東側に比べて西側が僅かに高い。墓壙内に設けた畦断面と底面のみで、木棺痕跡と判断される土色の違いを確認した。墓壙底には2





第89図 B2地区 第3面方形周溝墓1 土壌S X1123実測図

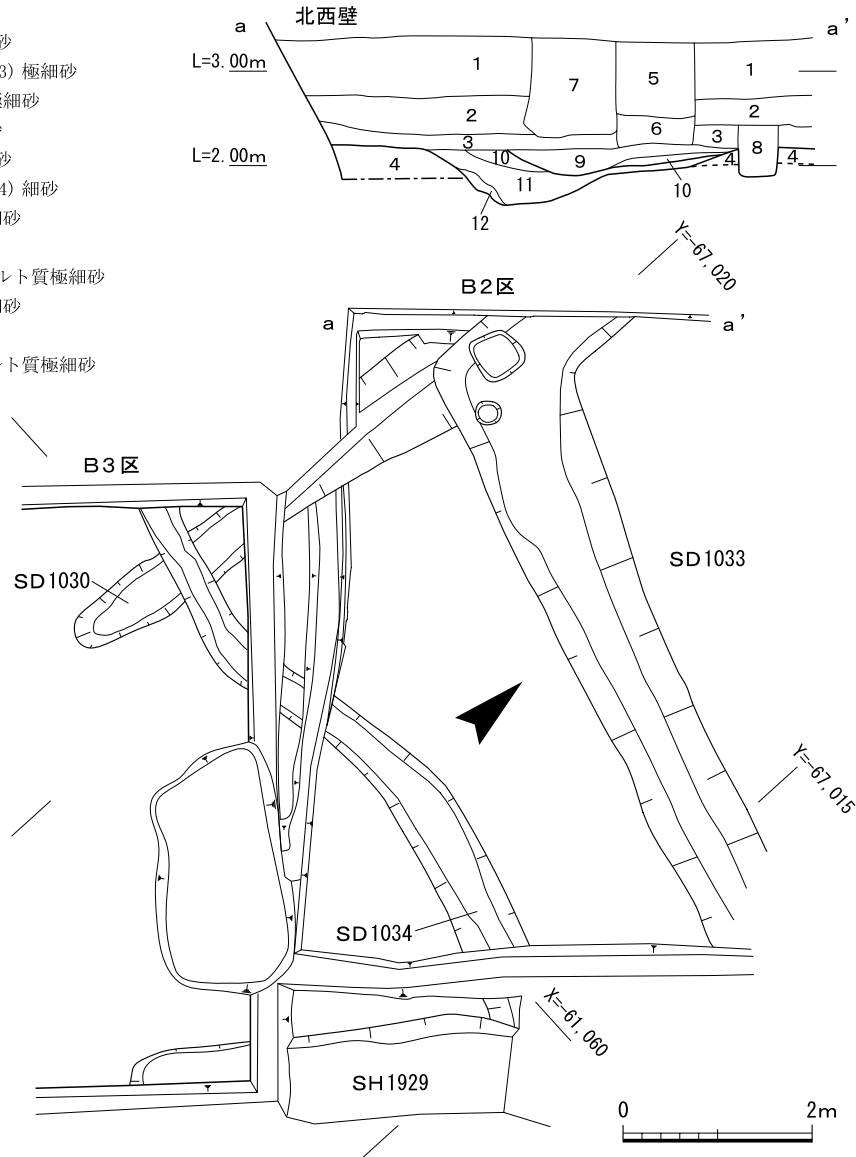
か所、長軸に直行する細く短い溝が掘られている。西側の溝は、西側墓壙下端から0.3m東に位置し、長さ0.5m、幅0.12m、深さ0.04mを測る。東側の溝は、東側墓壙下端から0.15m西に位置し、幅と深さは西側溝と変わらないが、長さが0.38mと短い。両溝間の内法は1.38mである。検出位置から、この2か所の溝はH形の組合式木棺の小口板を固定する溝と考えられる。墓壙底では長側板の位置に溝を検出できなかったこと、墓壙底直上の埋土上で長側板の位置で土色の違いが確認されたことから、長側板は底面上に直接置かれていたと推測される。北側と南側の長側板は長さが異なり、北側は1.8m、南側は2.0mを測る。板材の厚さは概ね8cmと復元できる。被葬者の埋葬方向は、西側の木棺幅が広く、かつ西側墓壙底がわずかに高くなっている状況から、被葬者は西側に頭を置き、東側に足を向けていたと推定される。棺内・棺外に副葬遺物は認められない。

第3面では、方形周溝墓の周溝以外に北部・中部・南部で小規模ながら数本の溝が存在したが、長さ2～4m、幅0.3m、深さ0.1～0.2m規模の遺構が大部分である。規模や方向性などをから、竪穴建物の周壁溝の一部ともみられるが、性格については判断が難しい。

**溝S D 1030** (第90図) B2地区第3面とB3地区第4面で検出した溝であり、一部を方形周溝墓1の南辺溝S D 1033に切られる。検出長5.0m、最大幅(北端)1.0mを測る直線溝である。溝底は北側が深く、南側に向かって底面が上昇し、先端は細く且つ丸く終わる。S D 1033の南北溝のほぼ延長上にあることや、規模・形状等からみて、方形周溝墓の周溝である可能性が高い。この場合、墓域は西側調査地外に位置すると考えられる。遺物は僅かに、溝の埋土中から弥生土器の細片が出土した。

**溝S D 1034** (第90図) B2地区第3面とB3地区第4面で検出した溝であり、S D 1030を切っている。検出位置は方形周溝墓1の南側である。長さ6.3m、幅0.4～0.6m、深さ0.2mを測る。溝の方位はほぼ東西に向くが、緩やかに蛇行している。埋土内から弥生中期後葉の高杯(第180図1069)・甕(第180図1067・1068・1070)が出土した。

1. 褐色 (7.5YR4/3) 細砂
  2. 暗褐色 (7.5YR3/4) 細砂
  3. にぶい黄褐色 (10YR4/3) 極細砂
  4. 明黄褐色 (10YR6/6) 極細砂
  5. 褐灰色 (10YR5/1) 細砂
  6. 暗灰黄色 (2.5YR5/2) 砂
  7. にぶい黄橙色 (10YR6/4) 細砂
  8. 灰黄褐色 (10YR4/2) 細砂
- SD1033 埋土
9. 黒褐色 (2.5YR3/1) シルト質極細砂
  10. 灰黄褐色 (10YR5/2) 細砂
- SD1030 埋土
11. 暗褐色 (10YR3/3) シルト質極細砂
  12. 褐色 (10YR4/4) 極細砂

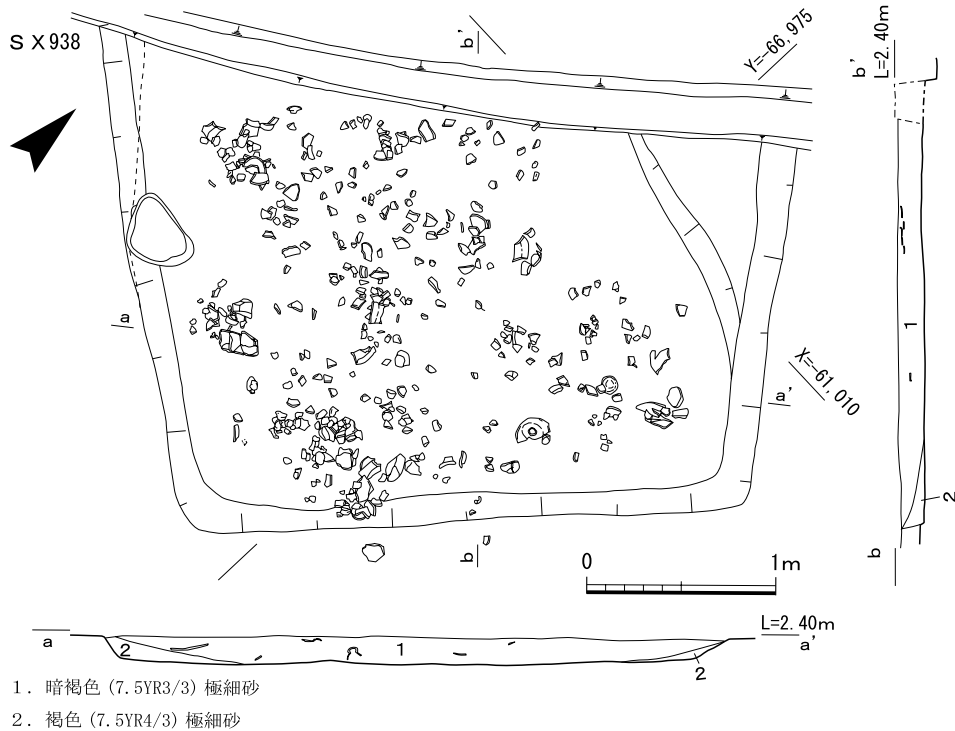


第90図 B2地区 第3面弥生溝SD1030・1033実測図

多数の土坑・ピットや柱穴を検出したが、詳細な年代が明らかとなる良好な遺構は少ない。なお、柱穴の中には掘立柱建物S B890と同様の、掘形が方形の柱穴も多数混在する。弥生から古墳時代の柱穴も多く、B2地区には検出遺構以外にもさらに多数の掘立柱建物、竪穴建物が存在していたとみられる。以下、竪穴建物に伴う土坑を除いた主要遺構について報告する。

**土坑S K667 (第92図)** 調査地中央部、SH891の西壁中央部に切って存在した土坑であるが調査過程で消滅した。掘形は丸みを帯びた長方形を呈する。長軸2.1m、短軸0.9m、深さ0.1mを測る。底面は平坦で南西端近くから土師器高杯(第177図1028)が出土した。土壌墓の可能性も高く、調査過程で残っていた畦で埋土層の精査・検討を行ったが、木棺痕跡を示す変化等は確認できなかった。

**土坑S X938 (第91図)** 調査地北部、竪穴建物SH787と重複して検出した、土器廃棄土坑である。SH787の方向と合致し、かつ竪穴の内側に収まる状況から、窪地と化した竪穴を掘り直



第91図 B2地区 第3面土坑S X 938実測図

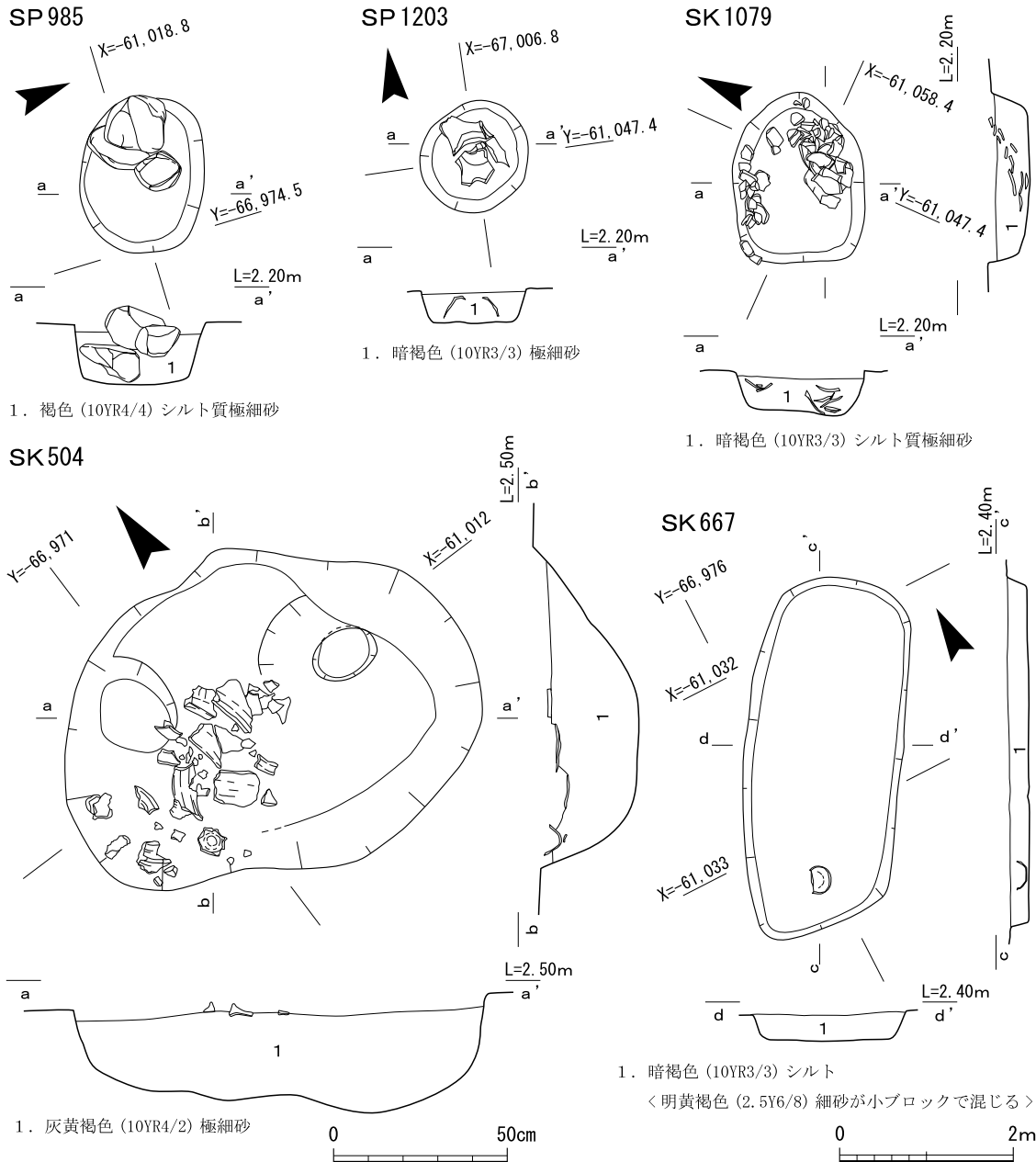
して利用したと判断する。土坑掘形は台形を呈し、西に向かうほど幅広となる。土坑の西側は調査地外に延びている。東西2.7m、南北3.0~3.6m、検出面からの深さ0.1mを測る。底面は平坦であり、ほぼS H 787の床面と同一面である。土坑内埋土は概ね暗褐色極細砂であり、小型丸底壺・器台・高杯・甕など多量の布留式土器(第177図1040・1043~1046)が出土した。また、滑石製勾玉(第177図1036)が1点出土した。土器は、比較的小さな破片がほとんどで、完形品が破碎した状況のものやそれに近いものは僅かである。同様な遺構がB 3地区第4面で検出したS H 1901でも認められる。

ピットS P 568(第82図) 調査地北部、竪穴建物S H 840とS H 841に挟まれた位置で検出した、円形ピットである。直径0.3m、深さ0.12mを測る。埋土は淡黄褐色細砂である。平坦な底面に接して甕体部が出土した。

ピットS P 1203(第92図) 竪穴建物S H 840の北東側で検出した。掘形は楕円形で、長さ0.45m、幅0.35m、深さ0.18mを測る。内部の西側に偏って、10~15cm大の石3個を検出した。柱の固定を目的とした石の可能性もあるが、柱の存在を示す状況は確認できなかった。埋土中から弥生土器の小破片が出土したが、遺構の性格は不明である。

ピットS P 985(第92図) S H 841の西側で検出した。平面形は楕円形を呈し、規模は長さ0.45m、幅0.35m、深さ0.2mを測る。埋土は褐色シルト質極細砂で、0.1~0.2mの川原石3個が西側に偏って検出できた。

ピットS P 1079(第92図) 調査地南端部、方形周溝墓1の南側で検出したピットである。掘形は不整な楕円形を呈し、長さ0.5m、幅0.36m、深さ0.11mを測る。底面は平坦である。埋土は



第92図 B2地区 第3面土坑S K504・667、柱穴S P985・1203・1079実測図

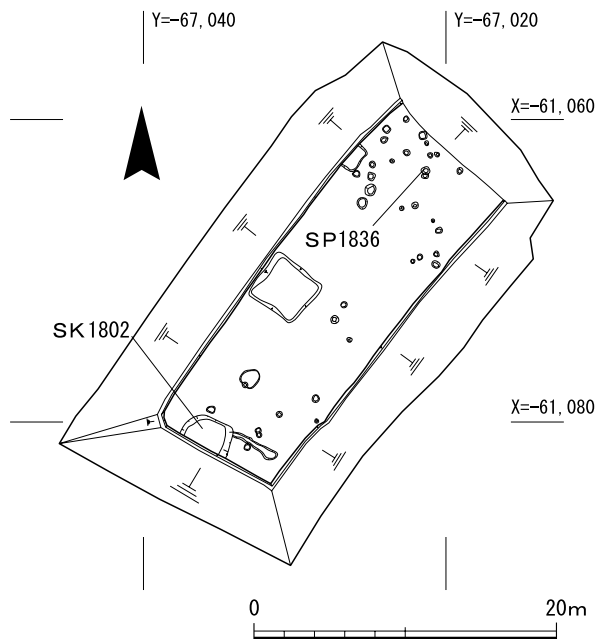
暗褐色シルト質極細砂で炭化物を含み、弥生土器(第183図1113~1115)破片が多数出土した。

土坑S K 504(第92図) 調査地北部で検出した土坑で、竪穴建物S H898を切っている。掘形はいびつな円形を呈し、長さ1.25m、幅0.85m、深さ0.35mを測る。土坑の底は中央が深く掘り窪められ、丸く終わる。埋土は灰黄褐色極細砂である。土師製の移動式竈(第178図1050)・須恵器高杯(第178図1048)などの破片が出土した。

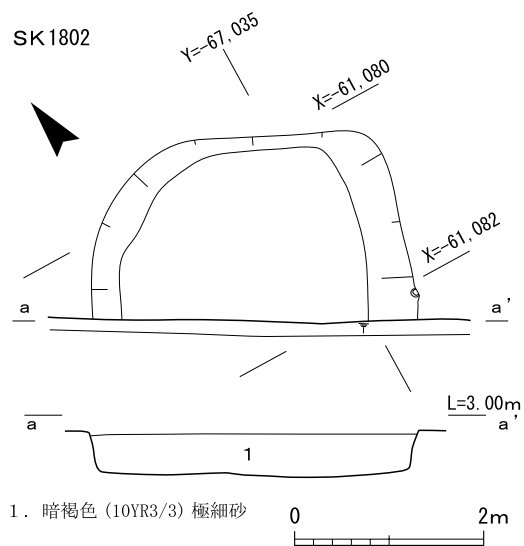
(竹原一彦)

(3) B3地区(第93図)

土坑S K 1802(第94図) 調査地南西部から検出した角の丸い方形掘形の土坑である。土坑の南部が調査地外に延びる。全体規模は不明であるが、東西3.2m、南北3m以上を測る。深さは



第93図 B3地区 第3面検出遺構平面図



第94図 B3地区 第3面土坑SK1802実測図

0.48mである。土坑底は平坦である。埋土は暗褐色極細砂であり、須恵器の杯身・杯蓋・甗などが出土した。

**柱穴SP1836**(第92図) 調査地北部で検出した。掘形は円形で、直径0.3m、深さ0.2mを測る。褐灰色極細砂の埋土から須恵器蓋(第184図1165)が出土した。

そのほかの調査地北東を中心に柱穴を検出したが、建物を復原するには至らなかった。

#### 6) 第4面の調査(第95図)

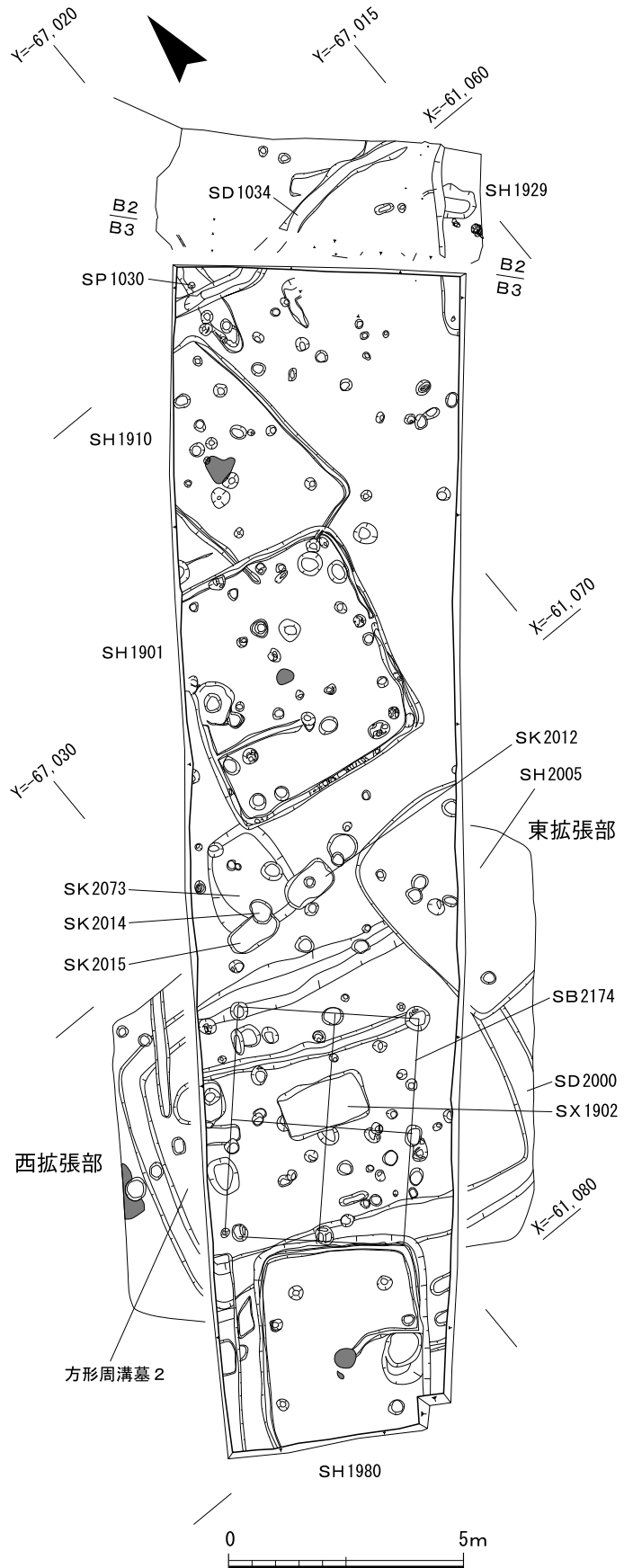
第4面は、B3地区でのみ確認した。海拔2.2m付近で検出した遺構面である。明黄褐色極細砂層(第45図第13層)が遺構を検出した基盤層である。第13層の上に堆積したにぶい黄褐色極細砂層(第45図第10層)は約0.6mの厚さを測り、弥生時代後期から古墳時代を中心とした土器・石器が多数含まれていた。遺構面はほぼ水平である。精査の結果竪穴建物5基、掘立柱建物1棟、方形周溝墓1基、土坑、柱穴を検出した。調査地南部で検出した方形周溝墓2は、周溝SD2000の東側と西側が調査地外に位置したことから、当初は方形周溝墓の全容が判明していなかった。調査の最終段階で重機を投入して周溝の東西部分の拡張を行い、周溝部全体の確認を行った。

**掘立柱建物SB2174**(第96図) 調査地南部、方形周溝墓2の墓域上で検出した、東西2間、南北2間の総柱の掘立柱建物である。建物の規模は南北4.9m、東西3.8mを測る。柱穴掘形は円形で、直径0.18~0.3m、深さは0.2~0.5mである。建物の方位は北に対して43°東に振る。

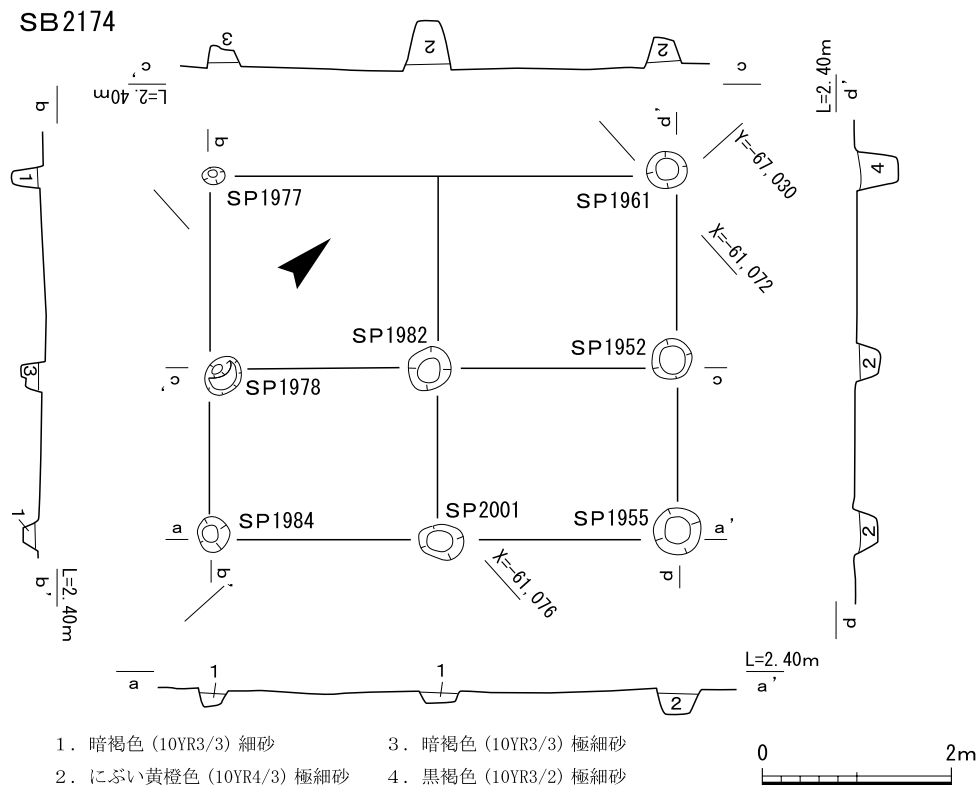
**竪穴建物SH1901**(第97図) 調査地中央で検出した平面長方形の竪穴建物である。建物の主軸方位は北に対して13°東に振る。規模は、南北5.2m、東西4.5m、壁高は0.18mを測る。建物の北西隅部が調査地外となる。床面から周壁溝、大小多数の柱穴、貯蔵穴SK2052、炉、溝SD2055を検出した。主柱穴は建物の各コーナー付近で3か所(SP2035・2045・2058)を検出した。主

柱穴の掘形は円形で、直径0.3～0.5m、深さ0.3～0.4mを測る。このほか、竪穴の壁面から0.4m前後内側の床面で、直径0.15m、深さ0.1m前後の小さなピットが巡っている。竪穴壁に沿って造られた施設に伴う支柱もしくは杭の痕跡の可能性が考えられる。貯蔵穴 S K 2052は建物西壁の中央部、周壁に接する床面で検出した。掘形は円形に近く、2段に掘り下げられる。規模は、1段目が直径0.9m、深さ0.1m、2段目が直径0.4m、深さ0.25mを測る。1段目の埋土であるにぶい黄褐色極細砂から古式土師器の壺（第187図1235）・高杯（第185図1190・1194）が出土した。貯蔵穴と判断するものである。

床面の中央で直径0.3mの円形範囲が特によく焼けて赤化していた。炉と判断する。床面の南西部、西側周壁溝から住居内部に延びる溝 S D 2055を検出した。S D 2055は建物長軸方向に対して南辺から3分の1地点にあり、建物内を仕切る区画溝と判断される。S D 2055は長さ1.8m、幅0.2m、深さは0.05mを測る。S D 2055の東側先端は溝底と建物床面の高さが揃い、溝は消滅状態となる。また、溝先端付近から検出した柱穴 S P 2043では土師器甕が出土した。S H 1901の廃絶後、竪穴内は埋め戻さず放置されていたことが土層の観察で窺われた。住居壁側から内



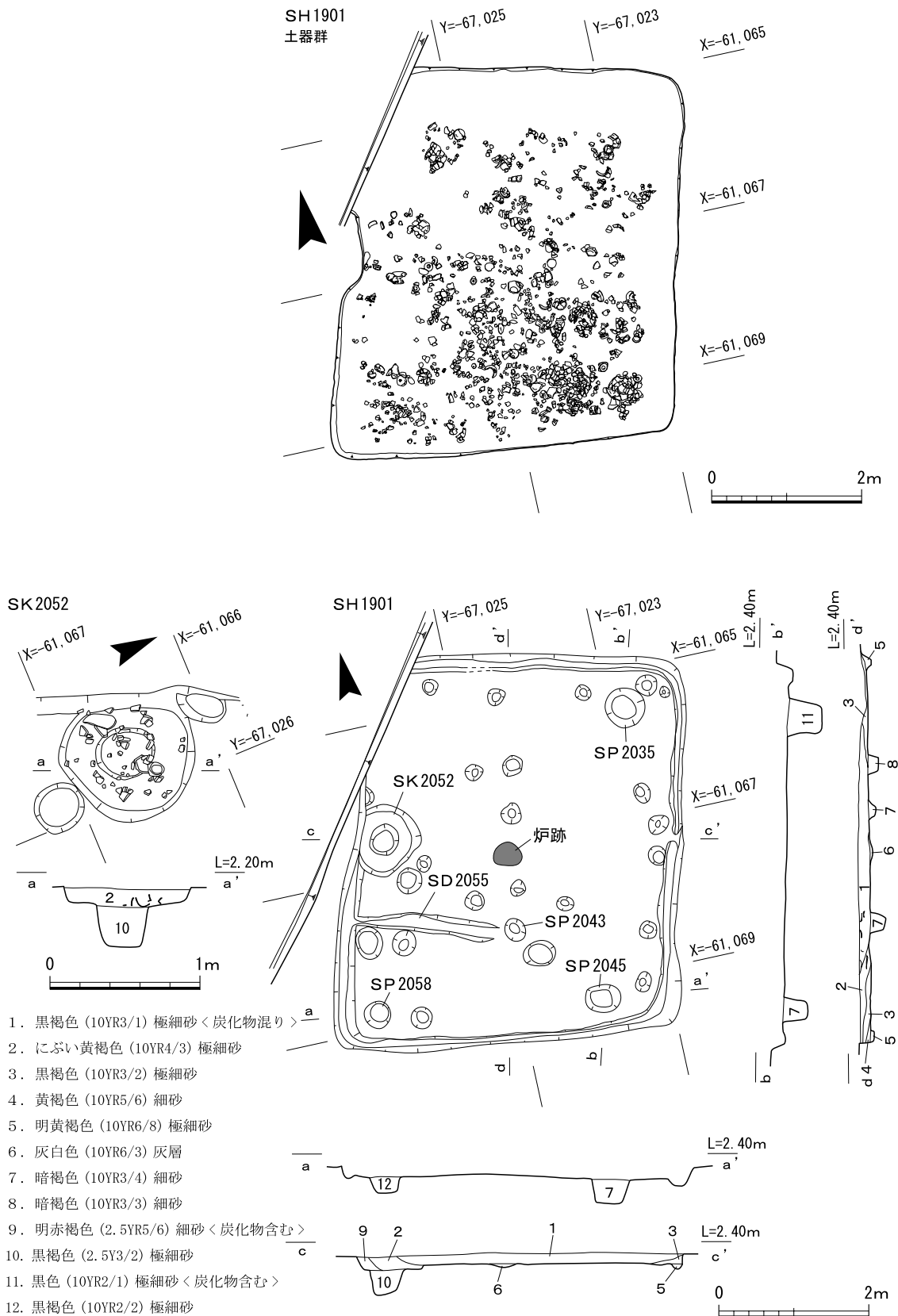
第95図 B3地区 第4面検出遺構平面図



第96図 B3地区 第4面掘立柱建物S B2174実測図

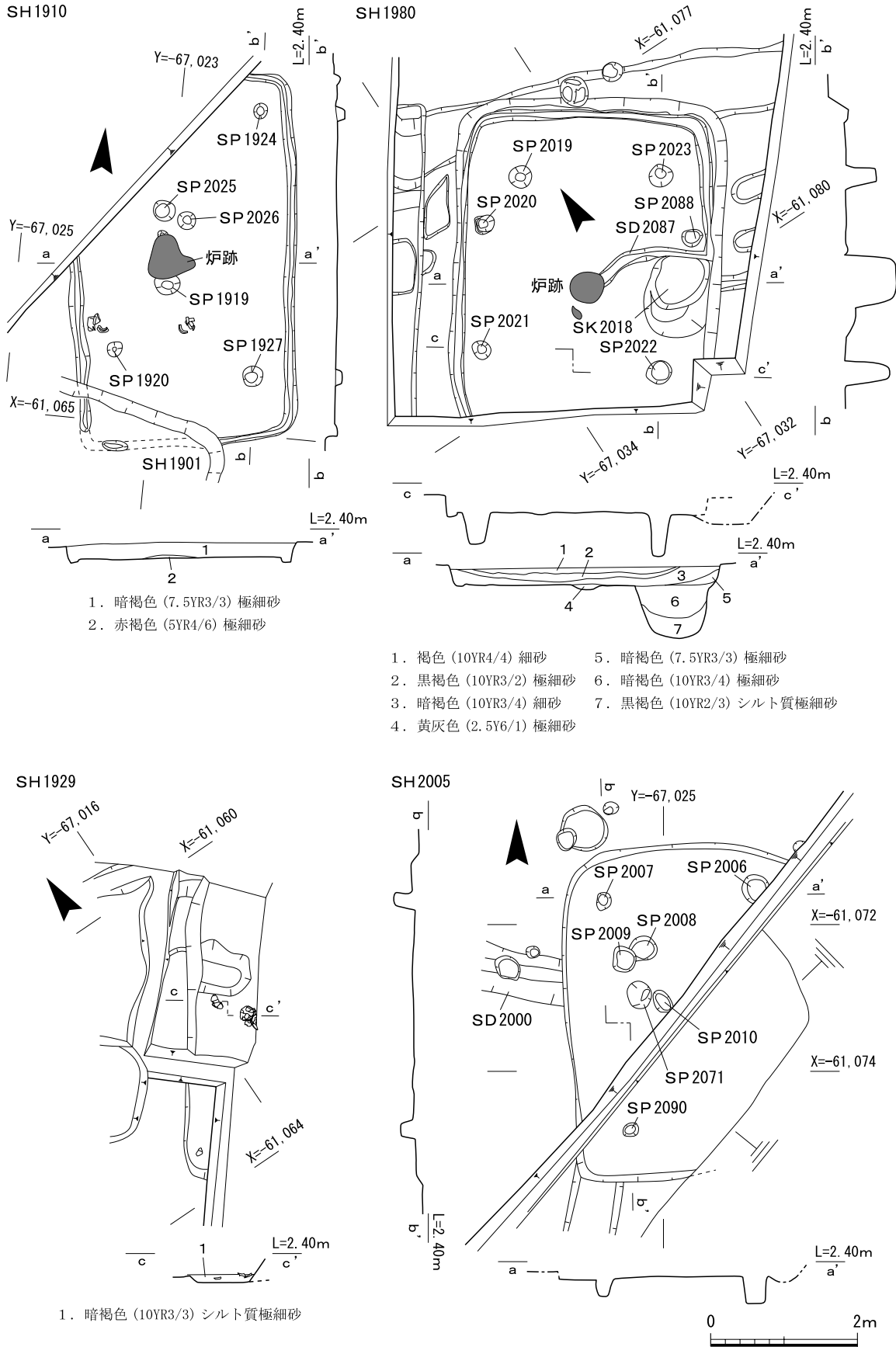
部に向かって0.3~0.5m範囲の床面上には、明赤褐色細砂(第97図第9層)とにぶい黄褐色極細砂(第97図第2層)が斜堆積する。これは、周辺部からの土砂が雨水等によって運ばれた自然堆積層と考えられる。その後、窪地と化していたS H1901は土器等の廃棄の場として再利用され、黒褐色極細砂層(第97図第1層)中から多量の土師器・高杯(第186・187・189図1195~1221・1223・1224・1296)杯・鉢(第187図1225~1232・1234)・壺(第187図1233・1235・1236・1239・1243・1248)・甕(第187・188図1240・1242・1244~1262)が出土した。その他、白玉35点(第203図1746~1781)、ガラス小玉1点(第203図1745)が出土した。土器や玉以外では、鉄製品(第189図1269)、砥石(第189図1270)、土師質鞆羽口(第189図1271)が出土した。また、少量ではあるが、須恵器の杯身(第189図1264・1265)と無蓋高杯(第189図1263・1266・1267)が出土した。畦断面の観察では土坑の存在を示す掘形は確認できない。出土遺物には甕なども含まれるが、特に土師器高杯と滑石製白玉の出土比率が高く、周辺で行われた祭祀で使用した土器等を廃棄したものであろう。多くの土器は破片化しているが、完形に近い甕が土圧で壊れた状態のものも数か所で確認できた。玉類は1か所に集中して出土する状況にはなく、土器検出範囲の全域から出土している。

**竪穴建物S H1910(第98図)** S H1901の北側で検出した長方形を呈する竪穴建物である。建物の主軸方位はほぼ真北である。建物の南西部はS H1901に切られ、北東部は調査地外に延びる。南北長4.9m、東西幅3.1m、壁高0.2mである。平坦な床面には周壁溝が巡り、北東部、南東部で2か所の支柱穴(S P1924・1927)を検出した。支柱穴の平面形は円形で、は直径0.2m、深さ0.1mを測る。床面南西隅部ではS P1927に対応する支柱穴が確認できないが、やや北に偏って柱穴



第97図 B3地区 第4面竪穴建物SH1901、土坑SK2052実測図





第98図 B3地区 第4面竪穴建物SH1910・1980・1929・2005実測図

S P 1920が存在する。このS P 1920も支柱穴の可能性が高い。直径0.2m、深さ0.15m、埋土は暗褐色細砂である。また、床面中央に炉の焼土を検出した。焼土の範囲は丸みを帯びた三角形状であり、一辺0.6mを測る。炉に近い南部床面上から庄内併行期の甕(第189図1168・1169)が出土した。

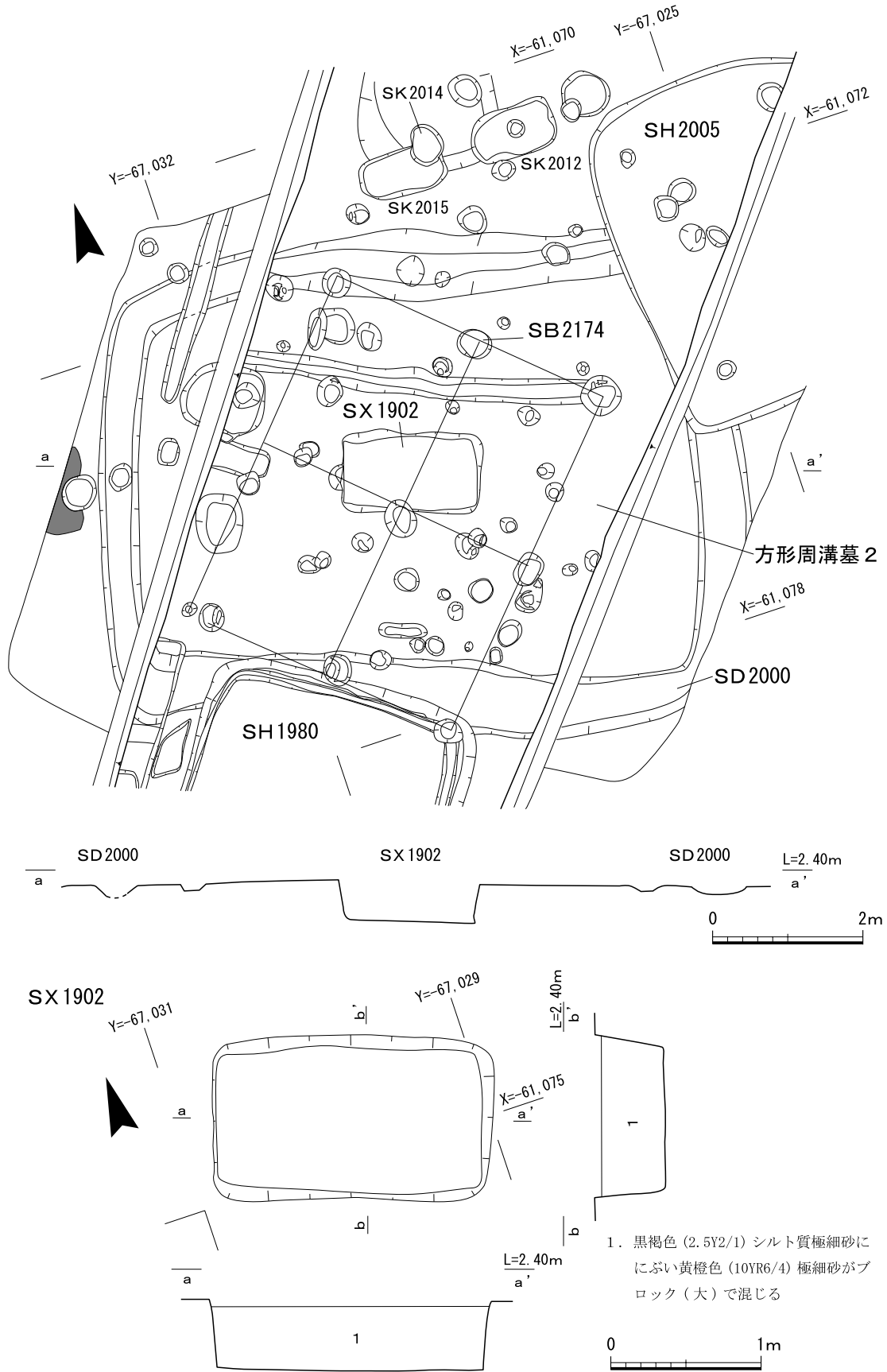
**竪穴建物 S H 1929** (第98図) 調査地北東部で検出した方形の竪穴建物である。竪穴建物東側の大半は調査地外へと延び、僅かに竪穴建物の南西角と床面の一部を検出した。建物の主軸は北に対して35°東に振る。検出した範囲は、東西1.0m、南北4.1m、壁高は0.1mを測る。周壁溝は検出していない。西壁に接して、東西0.7m、南北0.6m、深さ0.08mの土坑を検出した。土坑の南東部の床面上から庄内平行期の壺、甕、高杯(第185図1172～1176)が出土した。

**竪穴建物 S H 1980** (第98図) 調査地南部で検出した平面長方形の竪穴建物である。建物の主軸は北に対して55°東に振る。建物の南辺は調査地外となり、全体規模は不明である。検出範囲では、南北4.4m以上、東西3.65mとなり、壁高は0.3mを残す。床面では壁面に沿って周壁溝を検出し、各コーナーの内側で4か所の支柱穴(S P 2019・2021～2023)を認めた。やや規模の大きなS P 2022・2023の柱穴掘形は直径0.3m、深さ0.4～0.6mを測る。S P 2021は、直径約0.2m、深さ0.28mを測る。床面の中央で炉を検出した。焼土は円形で、直径0.4mを測る。溝S D 2087は炉から東方向に延びて周壁溝に接続しており、排水溝と判断する。S D 2087は緩やかにカーブし、長さ1.5m、幅0.18m、深さ0.03mを測る。東壁中央付近の床面で貯蔵穴S K 2018を検出した。S K 2018の掘形は楕円形を呈し、長軸は竪穴壁に沿う。貯蔵穴は南側のみ2段に掘り下げられる。1段目は東西幅0.6m、南北0.4m、深さ0.15mを測る。2段目は1段目の北側にあり、円形の掘形は直径0.7m、深さ0.7mである。底面は平らである。1段目底面から庄内平行期の台付鉢(第185図1187)が出土した。竪穴建物埋土からは弥生時代後期～古墳時代初頭の土器が出土した(第185図1178・1180～1186)。また磨製石鏃(第185図1179)も一点出土した。

**竪穴建物 S H 2005** (第98図) 調査地南部で検出した平面形が長方形の竪穴建物である。方形周溝墓2の調査に伴うトレンチを拡張した際に、S H 2005南東部を部分的に確認した。方形周溝墓2の北東部周溝S D 2000を切る。主軸は北に対して2°西に振る。南北方向4.6m、東西3.4m以上、壁高は0.08mを測る。床面は平坦で周壁溝は認められない。調査範囲内では南東側を除く3か所の支柱穴S P 2006・2007・2090を検出した。支柱穴の掘形は円形で、S P 2006は直径0.3m、深さ0.35m、S P 2007とS P 2090が直径0.2m、深さ0.2mを測る。

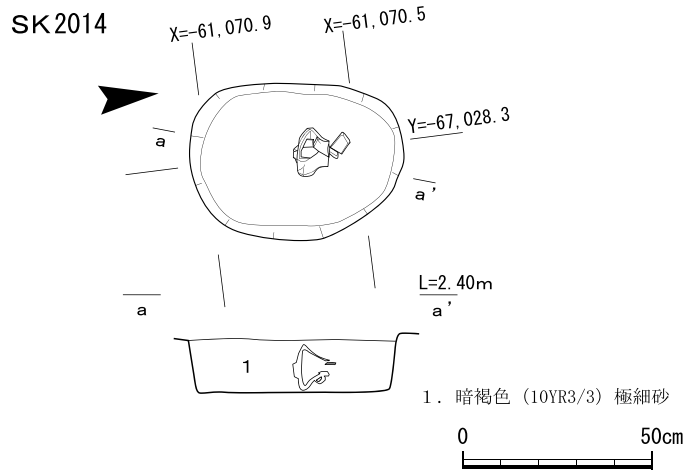
**方形周溝墓 2** (第99図) 調査地南部で検出した方形周溝墓である。周溝S D 2000の北・南の周溝を検出したため、東・西の周溝を確認するために調査区を拡張した。その結果、周溝S D 2000は墓域の四周を巡ることが明らかとなった。S D 2000に囲まれた墓域は、東西7.4m、南北5.4mの規模を測る。主軸方位は北に対して73°西に振る。S D 2000は幅0.6～0.9m、深さ0.1～0.2m規模を測る。埋土は黒褐色シルト質極細砂である。溝内から高杯、甕(第182図1188・1189・1191)の破片が出土した。

**土壇 S X 1902** (第99図) 方形周溝墓2の墓域中央で検出した埋葬施設である。墓壇平面は長方形で、主軸は北に対して70°西に振れ、墓域の長軸にはほぼ一致する。規模は、長さ1.85m、幅

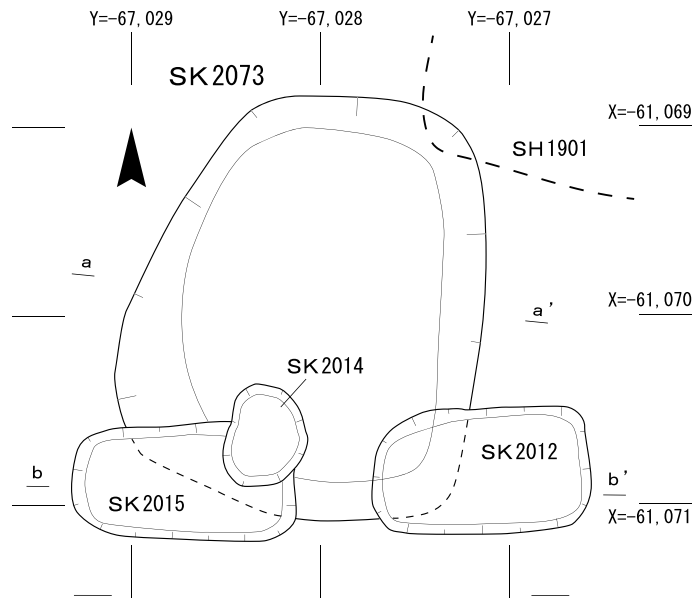


第99図 B3地区 第4面方形周溝墓2、土壌S X1902実測図

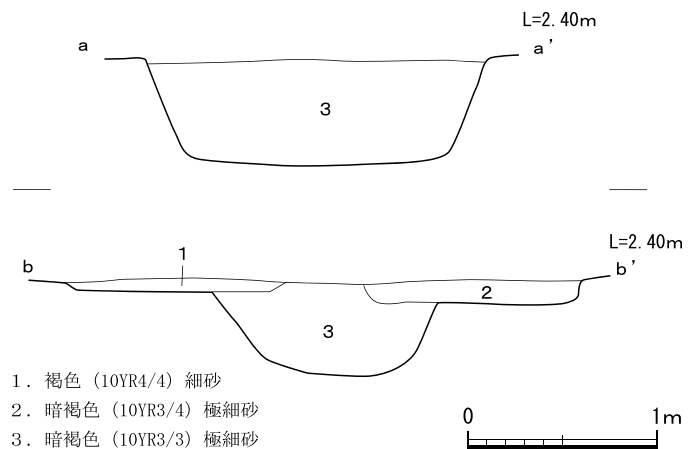
1.08m、深さ0.46mを測る。底面は平坦ではほぼ水平である。墓壙埋土は、黒褐色シルト質極細砂に、にぶい黄橙色極細砂がブロック状に混入している。木棺痕跡を確認するべく壁面観察を行ったが木棺の存在を示す土質・土色の違いは確認できなかった。また、墓壙底の精査でも木棺の痕跡を示す土質等の違いは確認できなかった。墓壙内埋土中からの遺物は出土していない。



土坑 S K 2012 (第100図) 方形周溝墓2の北側で検出した土坑であり、土坑 S K 2061を切っている。掘形平面は隅丸長方形で、長さ1.15m、幅0.65m、深さ0.1mを測る。底面は平坦で、水平である。長軸は東西を向く。底面は平坦で、埋土は暗褐色細砂である。遺物は出土していない。



土坑 S K 2014 (第100図) 方形周溝墓2の北側で検出した土坑である。土坑 S K 2015と S K 2061を切っている。掘形平面は楕円形で、長さ0.55m、幅0.4m、深さ0.14mの規模を測る。長軸方位は北に対して7°東に振る。底面は水平である。埋土は暗褐色極細砂で、把手杯壺が横位置で出土した(第185図1192)。



土坑 S K 2015 (第100図) S K 2012から西に0.4m離れた位置で検出した土坑である。掘形の北東部を S K 2014に切られるが、土坑 S K 2073を切っている。平面形は隅丸方形で、長さ1.15m、幅0.6m、深さ0.05mの規模を測る。底面は平坦で

第100図 B3地区 第4面土坑 S K 2012  
・ 2014・2015・2073実測図

ある。長軸方位は東西を向き、S K 2012と揃える。埋土は暗褐色極細砂である。遺物は出土していない。

土坑S K 2073(第100図) 方形周溝墓2の北側で検出した土坑であり、S H 1901、S K 2012・2014・2015に切られる。掘形平面はやや不整形な隅丸長方形を呈する。底面は平坦である。長さ2.25m、幅1.1~1.9m、深さ0.6mの規模を測る。長軸方位は北に対して7°東に振る。埋土は暗褐色極細砂である。遺物は、壺・甕・高杯・鉢・蓋(第189図1272・1273・1275~1292)のほか、磨製石斧(第189図1274)が出土した。

(竹原一彦)

## 4. C地区の調査

### 1) 調査の概要

調査対象地の南端に位置する。大川神社御旅所より南側に位置し、平成24年に実施した第3次調査の第1・2トレンチの範囲に相当する。この時の調査では、第1トレンチでは鎌倉時代～江戸時代の包含層、第2トレンチでは古墳時代～江戸時代の遺物を確認している。

用地の取得に時期差があり、3地区に分けて調査を行った。調査に着手した順にC1～3地区とし、南端部がC1地区、北端部がC2地区、中央部がC3地区とした。大字大川で小字は路、家ノ上である。

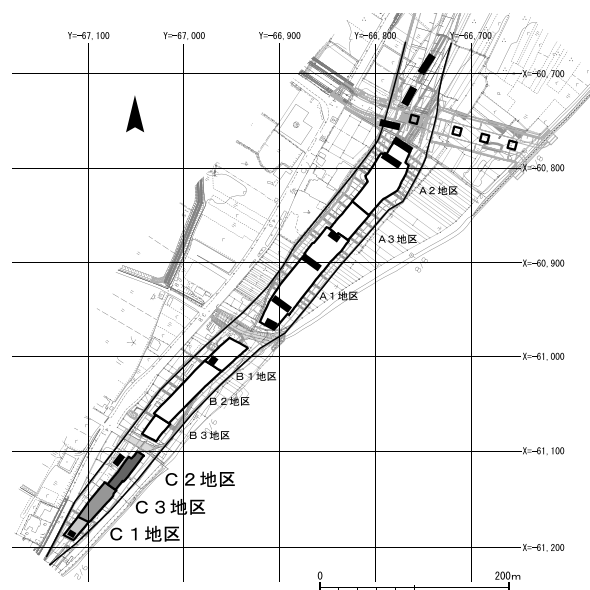
#### (1) C1地区

調査対象地の最南端に設けた調査区である。調査前は宅地であった。西側は国道175号に隣接している。小字は家ノ上である。4面で調査を行った。第1面は(第106図)は室町時代で、杭跡、溝を確認した。第2-1面(調査時第2面)(第113図)は鎌倉時代の遺構面である。調査地の南西側を中心に、掘立柱建物2列、柱穴、杭跡を確認したが、狭い調査面のため建物の復原ができない。第2-2面(調査時第3面)(第115図)は鎌倉時代の遺構面である。70基近くの柱穴、土坑を検出した。調査面中央は下層確認のサブトレンチを設定し、土層の観察を行った。第3面(調査時第4面)(第126図)は平安時代から鎌倉時代の遺構面である。調査地全面にわたって、40基近くの柱穴、杭跡、土坑を検出した。

#### (2) C2地区

調査前は宅地であった。地区の北東隅は第3次調査第2トレンチに隣接する。北側は市道神社線で限られる。小字は町路である。第1面検出遺構(第107図)は室町時代の遺構面である。調査地全体に多数の柱穴、土坑、溝を検出した。柱穴は無数にあり、掘立柱建物を復原することはできなかった。第2面検出遺構(第117図)は平安時代後期から鎌倉時代の遺構面である。調査地全体に多数の柱穴、土坑、溝、炉2基を検出した。第3面は飛鳥時代から奈良時代である。調査地中央よりを中心として柵列3条、大小34基の柱穴を検出した。柱穴を掘立柱建物として復原することはできなかった。第4面検出遺構(第133図)は弥生時代中期から古墳時代後期の遺構面である。古墳時代の方形竪穴建物4基、溝、土坑などを検出した。方形竪穴建物のうち1基は炭化した柱材が竪穴内に埋没していた。

#### (3) C3地区



第101図 C地区 調査地区割

C1地区とC2地区の間に位置する。トレンチ規模は全長約51m、幅約15mを測る。ここでは、4面の遺構面を検出し、調査を行った。第1面は、海拔3.2m付近で検出した、暗オリーブ褐色細砂層(第104図第17層)が遺構の基盤層である。ここでは北部を中心に室町時代の遺構を中心に検出した。掘立柱建物、溝と土坑、多数の柱穴を検出した。調査地南部では近世以降の井戸等の攪乱がみられる。第2面は海拔3.0m付近で検出した遺構面である。オリーブ褐色細砂層(第104図第18層)が遺構の基盤層である。ここでは掘立柱建物4棟、井戸3基、土坑のほか、多数の柱穴を検出した。第3面は海拔2.4~2.6m付近で検出した遺構面である。調査範囲は全長約52m、幅約2.5~5.2mを測る。暗褐色極細砂層(第104図第20層)が遺構の基盤層である。ここでは遺構密度が薄まるが、掘立柱建物2棟、土坑等を検出した。第4面は、調査範囲は全長約52m、幅約0.8m(南端)~3.0m(北部)を測る。オリーブ褐色シルト質細砂層(第104図第24層)が遺構の基盤層である。北東から南西に向かって遺構面が緩やかに下がる第4面の海拔は、調査地北端で1.8m、南端部で1.4m付近である。ここでは掘立柱建物3棟と建物の可能性の高い柵列2基、竪穴建物6基、土坑・柱穴を検出した。

## 2) 土層の堆積状況

### (1) C1地区

C1地区の北東壁面、南東壁面で土層を確認するとともにその土層断面図を作成した(第102図)。

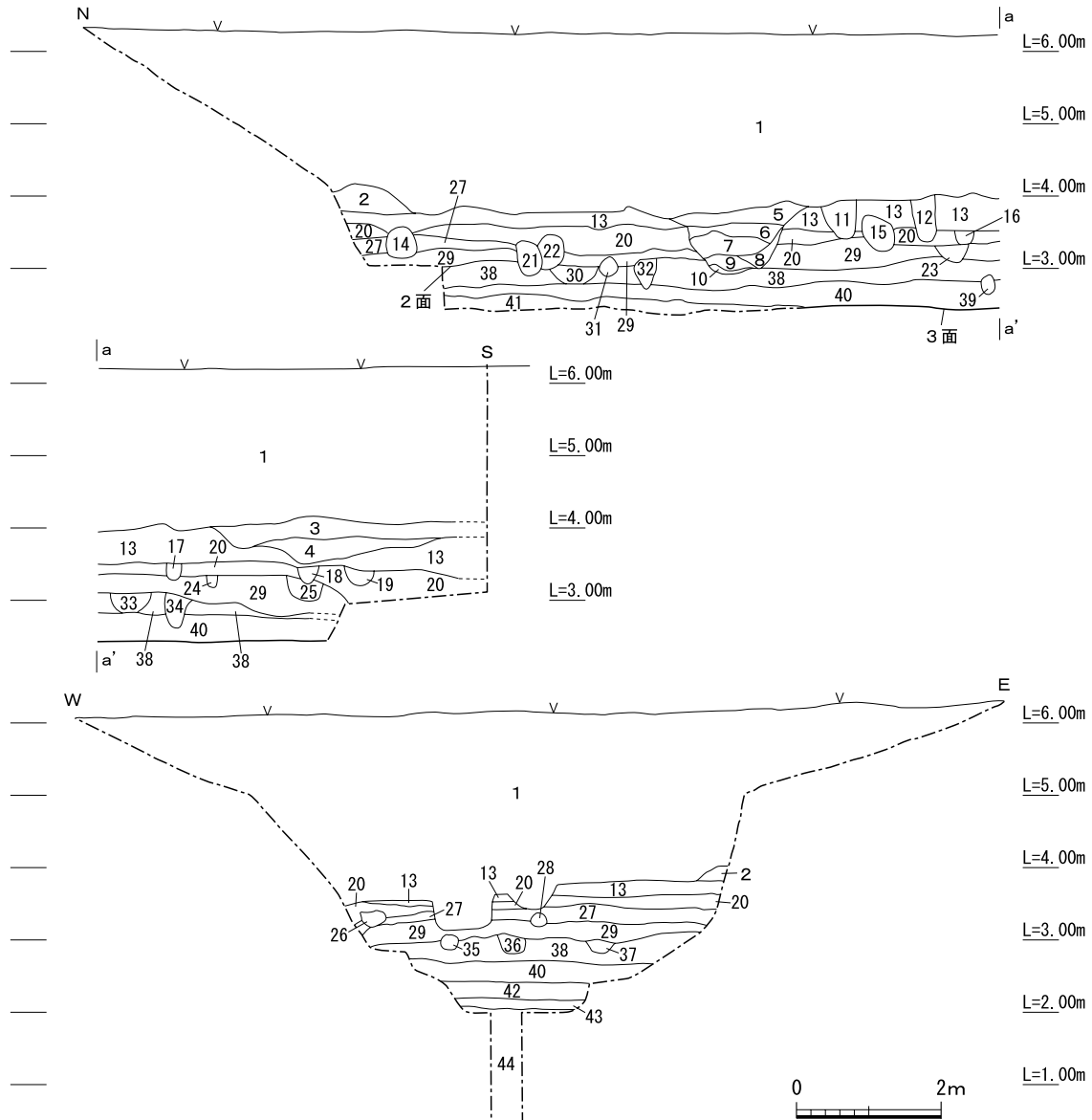
現地表面は標高6.1mを測る。第1層は現代に盛り土された人為的な堆積層で厚さ約2.5mの厚さに堆積している。第2~13層は近世の遺物包含層である。第20層は直径0.5cmの礫を含む暗褐色細砂で、厚さ10~20cmとなる。北部ではその下半に直径0.5~1cmの焼土片を多く含む(第27層)。室町時代の堆積層とみられる。第29層は暗褐色細砂で、南部で北から南に傾斜し、北部では厚さ10~20cmであるが、南部では厚さ40cmとなる。平安時代末から鎌倉時代にかけての遺物が出土した。第38層はオリーブ褐色シルト混じる粗砂で、洪水堆積とみられる。第40層はにぶい黄褐色シルト混じる細砂で、厚さ10~20cmになる。

調査では、第20層下面を第1面、第29層下面を第2-1面、第40層下面を第3面とした。第3面までの重機掘削中に第38層下面で第40層を掘り込む遺構を確認したため、第2-2面として調査した。第1・2-1面では南部で南に向かって傾斜をなし、高低差が20~30cmとなる。それに伴い遺構密度も希薄になる。由良川によって形成された自然堤防の南端にあたと想定される。

遺構面調査終了後、重機掘削により下層確認のための断ち割りを行った。第42・43層はオリーブ褐色粗砂で、洪水堆積とみられる。第44層はオリーブ黒色シルト質粘土で、奈良時代とみられる土師器片が出土した。標高1mより下層は、確認のできた標高0.5m付近まで地山とみられる暗オリーブ褐色シルトが堆積する(第45層)。

### (2) C2地区

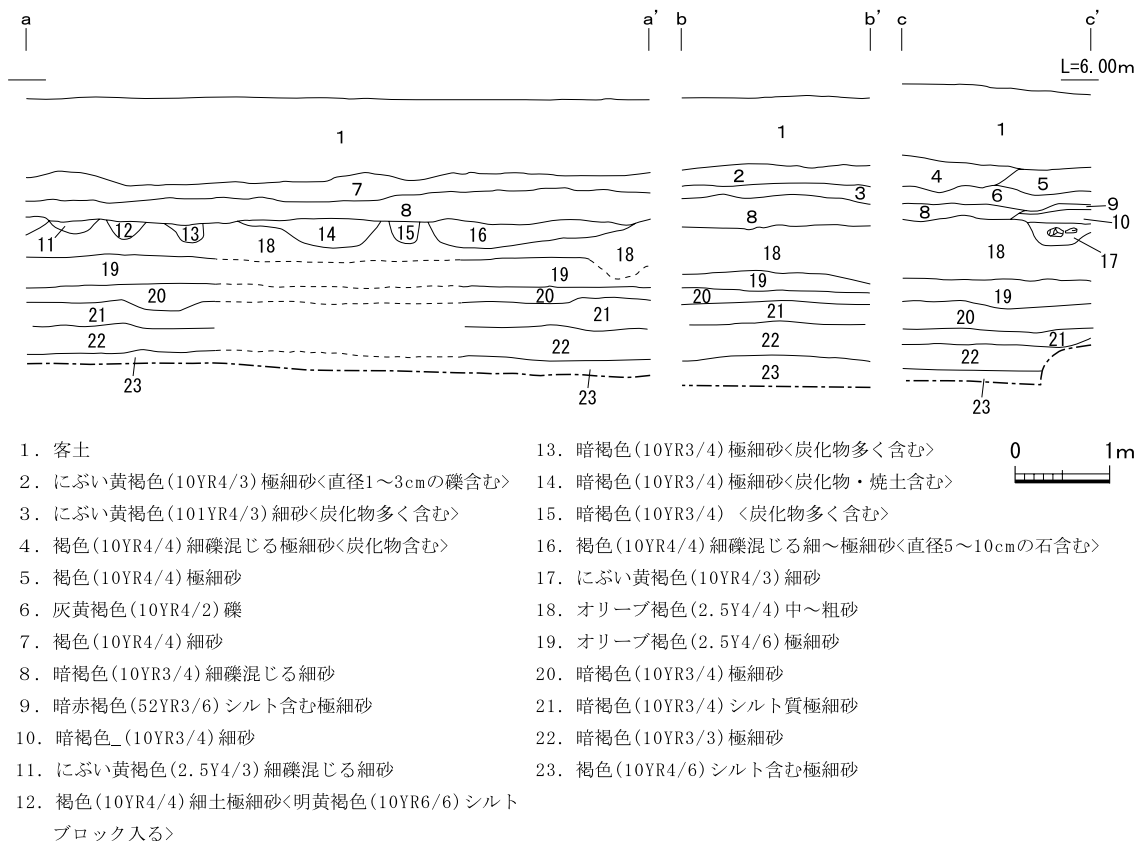
C2地区の東壁面で土層を確認するとともに、その土層断面図を作成した(第103図)。



- |  |   |                                     |
|--|---|-------------------------------------|
| 1. 現代盛土                                  | 17. 暗褐色 (10YR3/4) 細礫混じり粗砂                 | 30. オリーブ褐色 (2.5Y4/4) 細砂             |
| 2. 褐色 (10YR4/4) 極細砂<直径1~2mmの礫含>          | 18. 暗褐色 (10YR3/4) 細砂質 極細砂                 | 31. 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) 細砂            |
| 3. 褐色 (10YR4/6) 極細砂                      | 19. 暗褐色 (10YR3/4) 細砂                      | 32. 暗褐色 (10YR3/4) 細砂                |
| 4. オリーブ褐色 (2.5YR4/3) 極細砂                 | 20. 暗褐色 (10YR3/3) 細砂<直径5mmの石含>            | 33. 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 細礫混じり粗砂          |
| 5. 褐色 (10YR4/4) 極細砂                      | 21. 暗褐色 (10YR3/4) 細砂含極細砂<直径5~10mmの礫含>     | 34. にぶい黄褐色 (10YR4/3) 粗砂             |
| 6. 暗褐色 (10YR3/4) 細礫混じり極細砂                | 22. 暗褐色 (10YR3/3) 細砂含極細砂                  | 35. 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) 細砂            |
| 7. 褐色 (10YR4/4) 細礫混じり極細砂                 | 23. 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 中砂                     | 36. 暗灰黄色 (2.5Y4/4) 細砂               |
| 8. 暗褐色 (10YR3/4) 細砂                      | 24. にぶい黄褐色 (10YR4/3) 粗砂<炭化物多く含む>          | 37. にぶい黄褐色 (10YR4/3) 細砂             |
| 9. 暗褐色 (10YR3/4) シルト質 極細砂                | 25. 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) 細砂<粘土ブロック入る>        | 38. オリーブ褐色 (2.5Y4/4) シルト混じる粗砂       |
| 10. オリーブ褐色 (2.5YR4/4) 細砂                 | 26. 黒褐色 (10YR3/2) 細砂                      | 39. 黒褐色 (2.5Y3/2) シルト混じる細砂          |
| 11. 褐色 (10YR4/6) 極細砂                     | 27. 暗褐色 (10YR3/4) 極細砂<直径0.5~10mmの焼土片多く含む> | 40. にぶい黄褐色 (10YR5/4) シルト混じる細砂       |
| 12. 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) シルト質 極細砂<直径5mmの礫含> | 28. 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) 細砂                  | 41. 褐色 (10YR4/4) 細砂                 |
| 13. 褐色 (10YR4/4) 極細砂                     | 29. 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) 細砂<炭化物多く含む>         | 42. オリーブ褐色 (2.5Y4/3) 粗砂             |
| 14. 暗褐色 (10YR3/4) シルト混じり極細砂              |   | 43. オリーブ褐色 (2.5YR4/3) シルト含む粗砂       |
| 15. 褐色 (10YR4/4) シルト質 極細砂                |   | 44. オリーブ黒色 (5Y3/2) シルト質 粘土<炭化物多く含む> |
| 16. 褐色 (10YR4/4) 極細砂                     |   |                                     |

第102図 C1地区 東壁・北壁土層実測図





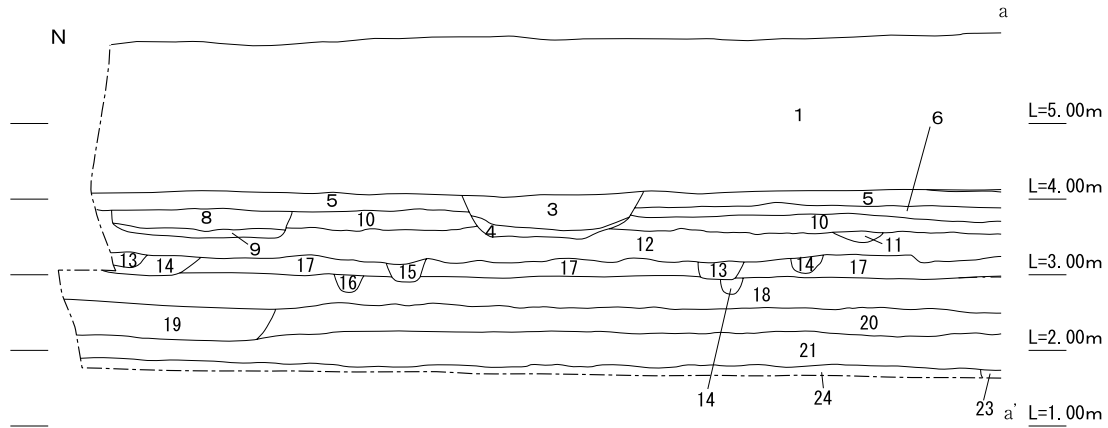
第103図 C2地区 東壁土層実測図

調査地全体で水平体積を基本とする。現地表面は標高4.8mを測る。第1層は竹林に伴う入れ土で、全体に竹根が確認できる。第2~7層は近世の堆積層である。第8層は細礫の混じる暗褐色細砂で、北部・南部では厚さ20cmであるが、調査地中央付近で最も厚くなり24~32cmを測る。室町時代の堆積層とみられる。第18層はオリーブ褐色中砂~粗砂が堆積しており、洪水堆積とみられる。北部では32cmであるが、南部に向けて徐々に厚くなり48~60cmとなる。平安時代から鎌倉時代と判断される土師器皿や中国製白磁碗などが出土している。第19~21層はオリーブ褐色極細砂や、暗褐色極細砂・シルト質極細砂からなる堆積層で、厚さ52~72cmとなる。飛鳥時代から奈良時代にかけての土師器や須恵器が出土している。第21層下面で遺構を確認した。第22層は暗褐色極細砂で厚さ24~40cmになる。弥生時代末から古墳時代にかけての堆積層とみられる。第23層はシルト含む褐色極細砂で硬く締まっており、遺物を含まないことから地山と判断した。

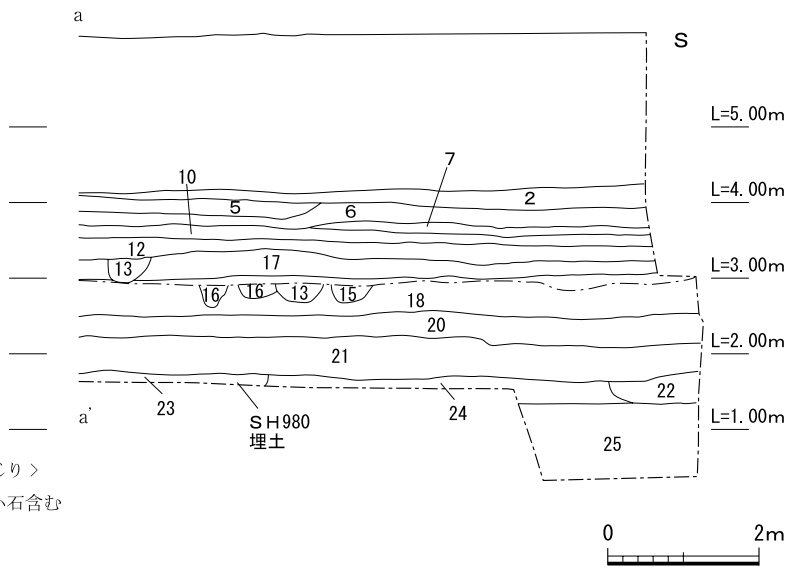
調査では、第8層下面を第1面、第18層下面を第2面、第21層下面を第3面、第22層下面を第4面とした。各遺構面は北部から南部にむけて傾斜面をなし、高低差が約20cmになる。

### (3) C3地区

C3地区は宅地造成に伴う盛土が厚く、その厚さは約2.1mを測る。旧地表面は標高4.1mを測る。旧地表以下はほぼ水平堆積を基本とする。旧表土の第1層には竹根が多数存在する。第2・5・6・7層は近世の堆積層であり、陶磁器・土師器・棧瓦が含まれる。第10・12層は小石混じりの暗褐色粗砂と細砂層であり、約0.4~0.6mの厚さを測る。室町時代の遺物包含層とみられる。第17層



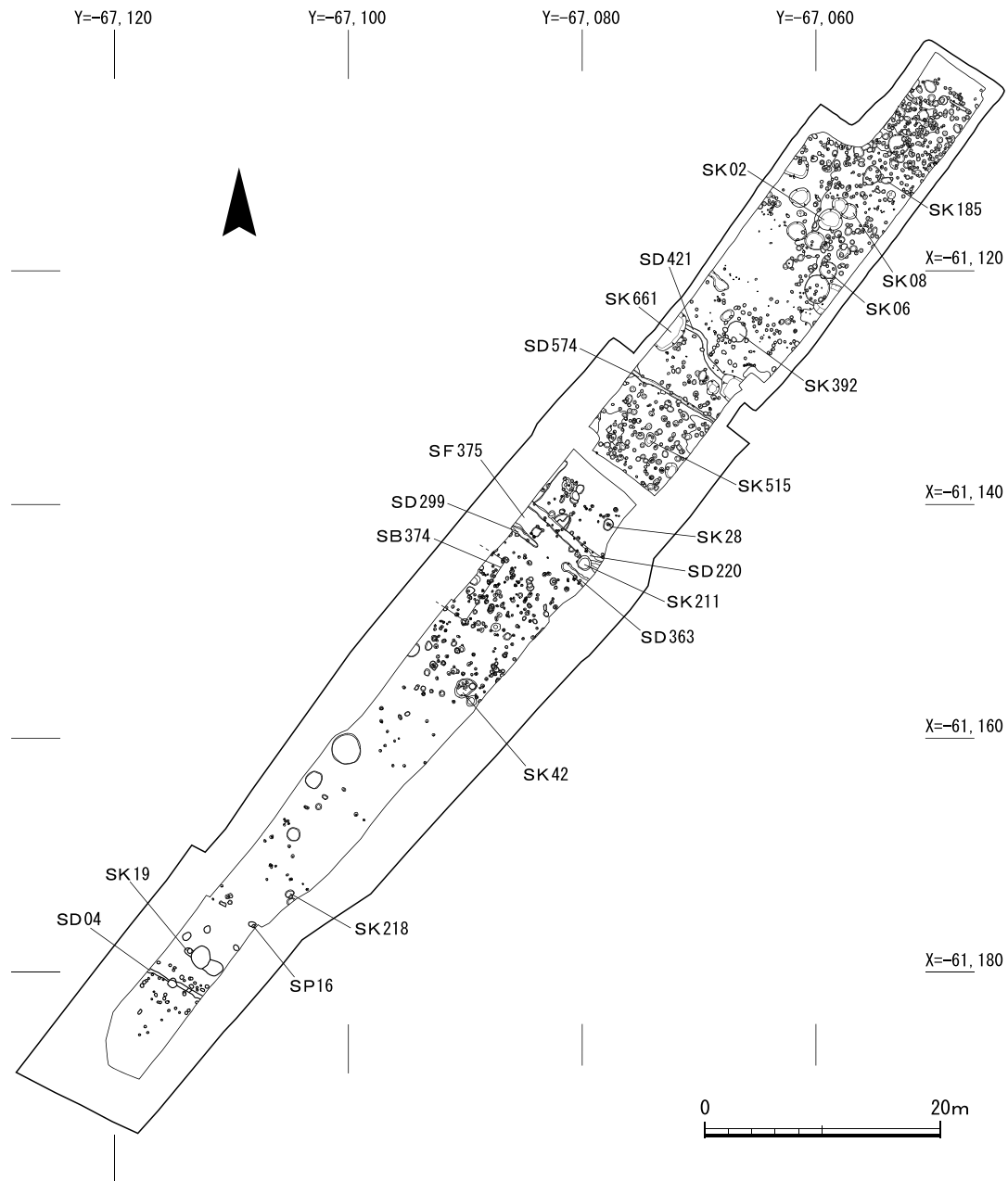
1. 盛土
2. 褐色 (10YR4/4) 細砂
3. 褐色 (10YR4/6) 極細砂
4. 褐色 (10YR4/4) 極細砂
5. 褐色 (10YR4/4) 極細砂
6. 暗褐色 (10YR3/4) 極細砂
7. 褐色 (10YR4/5) 中粒砂
8. 暗褐色 (10YR3/4) 粗砂
9. にぶい黄褐色 (10YR4/3) 極細砂
10. 暗褐色 (10YR3/3) 粗砂  
    <小石混じり>
11. 暗褐色 (10YR3/3) 細砂  
    <小石含む>
12. 暗褐色 (10YR3/4) 細砂<小石混じり>
13. にぶい黄褐色 (10YR2/3) 細砂に小石含む
14. 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 砂
15. 暗褐色 (10YR3/3) 細砂
16. にぶい黄褐色 (10YR4/2) 粗砂
17. 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) 細砂
18. オリーブ褐色 (2.5Y4/6) 細砂
19. 黒色 (10YR2/1) シルト質<SK804埋土>細砂
20. 暗褐色 (10YR3/4) 極細砂<第3面基盤土>



21. 暗褐色 (10YR3/3) 極細砂
22. 黒褐色 (2.5Y3/0) シルト質細砂<SH971埋土>
23. 黒褐色 (10YR2/3) シルト質極細砂<SH980埋土>
24. オリーブ褐色 (2.5YR4/3) シルト質細砂<第4面基盤土>
25. オリーブ黒色 (5YR3/2) シルト

第104図 C3地区 東壁土層実測図

上面(標高約3.2m)が第1面で、多数の柱穴・掘立柱建物跡・土坑・井戸・道路状遺構を検出した。第17層は暗オリーブ褐色細砂で平安時代～鎌倉時代の遺物を含む。厚さは0.15m前後を測る。第18層上面(標高3.0m)が第2面で、多数の掘立柱建物跡・柱穴・土坑・井戸が存在する。第18層はオリーブ褐色粗砂であり、0.2～0.3mの厚さを測る。由良川上流側となる南側ほど堆積土は厚さを増し、層内には古墳時代～奈良時代の須恵器・土師器が含まれる。第20層上面(標高2.6m)が第3面で、竪穴建物跡・井戸・土坑が存在する。第20・21層は暗褐色の細砂と極細砂層で明瞭な識別が困難な堆積土である。いずれも弥生時代から古墳時代の遺物を包含する。第24層上面(標高1.3～1.7m)が第4面で、竪穴建物・掘立柱建物跡・土坑が存在した。この第4面は北から南方向に緩やかに下がる傾斜を測る。第24・25層は無遺物層となる。調査地の一部で断ち割りを行い



第105図 C地区 第1面検出遺構平面図

標高0.4m まで土層確認したが、第25層に変化は認められない。

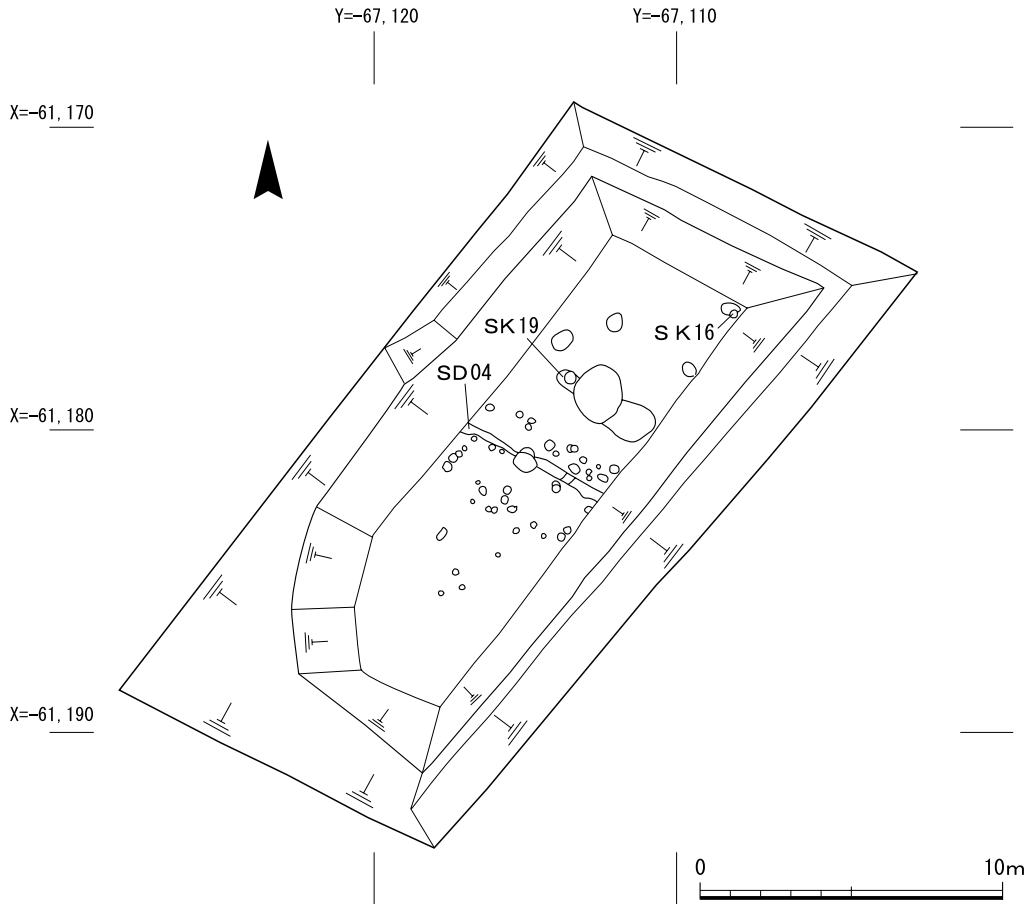
### 3) 第1面の調査(第105図)

室町時代の遺構面で、C1地区では溝1条と土坑、杭跡を確認した。C2地区では調査地全体で多数の柱穴、土坑、溝を検出した。C3地区では北部を中心に掘立柱建物、溝と土坑、多数の柱穴を検出した。

#### (1) C1地区(第106図)

溝・土坑・その他ピットを検出した。

溝SD04 検出長5.0m、幅0.1~0.2m、深さ0.2mで、調査地を横断する溝である。埋土はオリ



第106図 C1地区 第1面検出遺構平面図

ープ褐色細砂である。

**土坑SK19** SK02の北西に位置し、長辺0.7m、短辺0.6mの楕円形を呈する土坑である。埋土はオリーブ褐色細砂である。遺物は、瓦質鍋・羽釜(第190図1318・第190図1312)が出土した。

**土坑SK16** 調査地の北東隅で検出した、直径0.2mの円形を呈するピットである。遺構の性質は不明であるが、柱穴の可能性が考えられる。遺物は、土師器皿(第190図1313)が出土した。

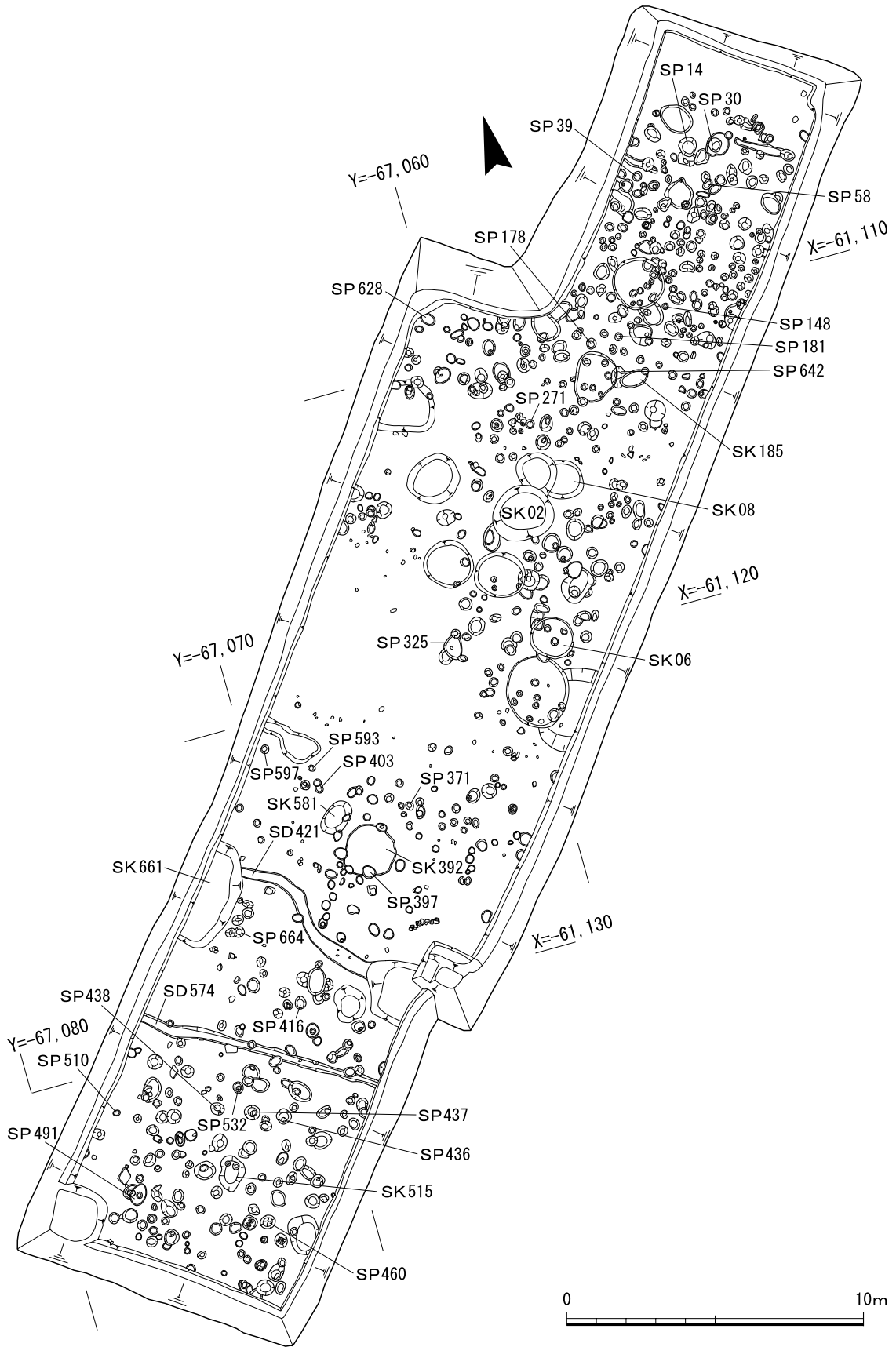
## (2) C2地区(第107図)

調査地全体で多数の柱穴、土坑、溝を検出した。柱穴は多数検出したが、掘立柱建物を復原することはできなかった。

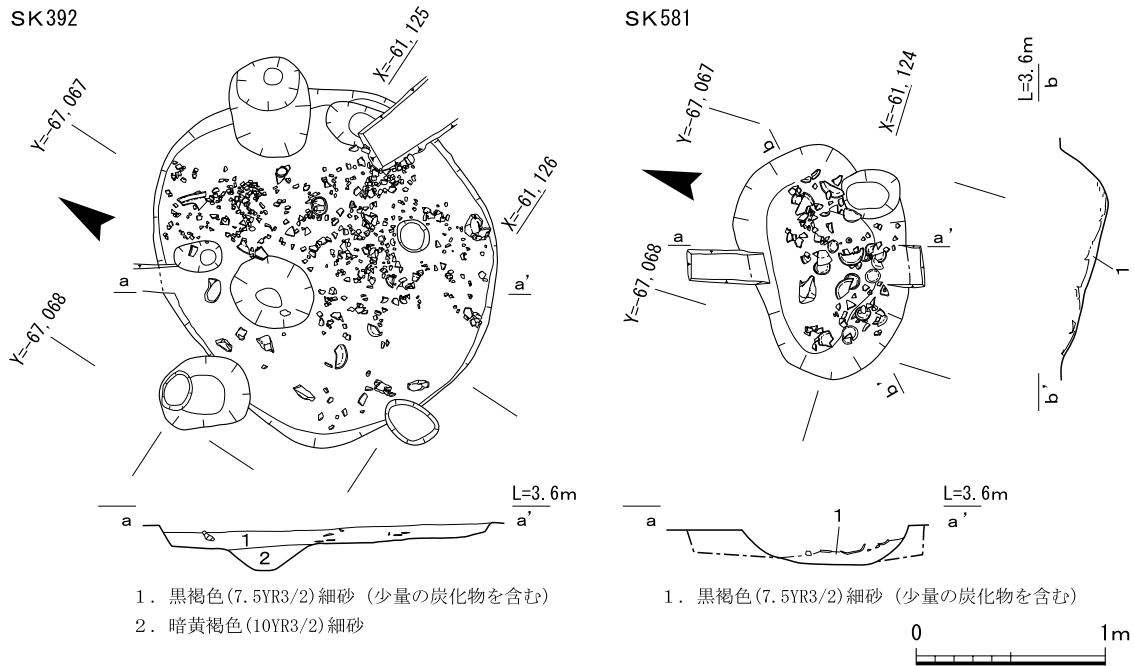
**土坑SK02**(第107図) 調査地中央よりやや南西で検出した土坑である。掘形は直径2mの円形を呈する。深さは0.5mを測る。掘形の埋土はオリーブ褐色細砂、黒褐色シルト混じる細砂である。東播系須恵器片口鉢(第192図1378)が出土した。

**土坑SK08**(第107図) SK02の南西で検出した土坑である。掘形は直径1.3mの円形を呈し、深さ0.5mを測る。掘形埋土はオリーブ褐色細砂、黒褐色シルト混り細砂である。唐津焼皿(第192図1380)が出土した。近世の攪乱とみられる。

**土坑SK392**(第108図) 調査地中央よりやや南西側で検出した。平面形は南北にやや長い楕円形を呈する。長軸1.94m、短軸1.66m、深さ0.1m前後である。埋土は黒褐色細砂などである。



第107図 C2地区 第1面検出遺構平面図



第108図 C2地区 第1面土坑SK392・581実測図

多くの土師器皿の破片のほか、中国製青磁椀(第192図1402)などが出土している。

土坑SK581(第108図) SK392の北西側で検出した。平面形は南北に長い楕円形を呈する。長軸1.24m、短軸0.8m前後、深さ0.2m前後である。埋土は黒褐色細砂である。土坑の底部から多くの土師器皿のほか、黒釉陶器壺(第192図1411)が出土した。

溝SD421(第107図) 土坑SK392の南で検出した。検出長5.8m、幅0.3~0.6m、深さ0.1m前後で、蛇行しながら調査地を北西から南東へ横断する。埋土は暗オリーブ褐色極細砂、にぶい黄褐色極細砂である。埋土から土師器皿(第192図1394)が出土した。

溝SD574(第107図) 溝SD421の南西で検出した。検出長8.2m、幅0.3~0.4m、深さ0.1m前後で、調査地を北西から南東へ直線的に延びる。埋土はにぶい黄褐色極細砂である。

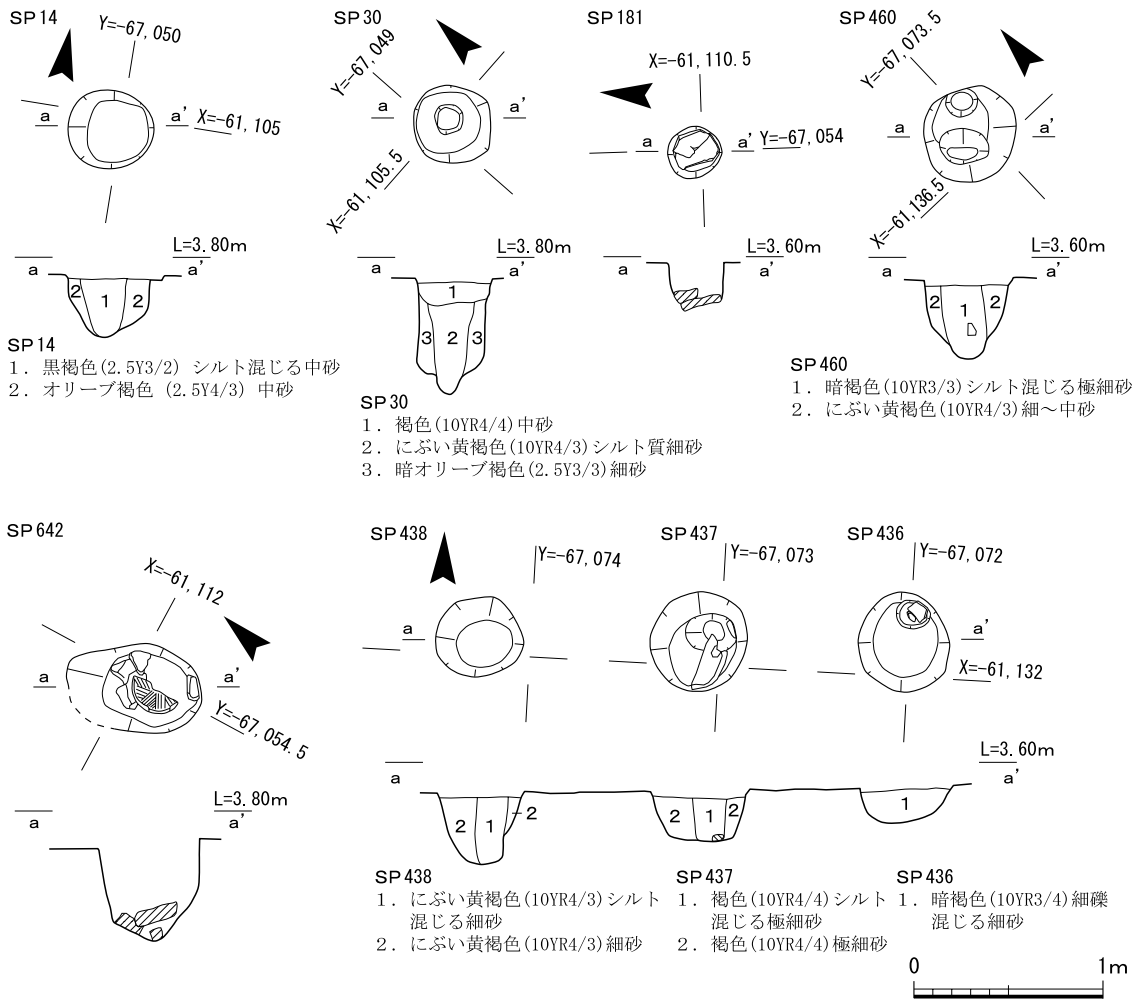
柱穴SP14(第109図) 調査地の北東付近で検出した。柱穴掘形は直径0.4mの円形を呈する。深さは0.3mを測る。掘形埋土はオリーブ褐色中砂である。直径0.2mの柱痕を確認した。柱痕埋土は黒褐色シルト混じる細砂である。

柱穴SP30(第109図) 柱穴SP14の東側で検出した。柱穴掘形は直径0.4mの円形を呈する。深さは0.5mを測る。掘形埋土は褐色中砂、暗オリーブ褐色細砂である。直径0.2mの柱痕を確認した。柱痕埋土はにぶい黄褐色シルト質細砂である。備前焼播鉢が出土している。(第192図1383)

柱穴SP181(第109図) 調査地の北東のやや南側で検出した。掘形は直径0.3mの円形を呈する。深さ0.2mを測る。掘形底部から扁平な石が出土しており、根石とみられる。

柱穴SP436(第109図) 調査地の南西側中央付近で検出した。柱穴掘形は直径0.5mの円形を呈する。深さは0.2mを測る。掘形埋土は暗褐色細礫混じる細砂である。柱痕は確認できなかった。

柱穴SP437(第109図) 調査地の南西側で柱穴SP436の西側で検出した。柱穴掘形は直径



第109図 C2地区 第1面柱穴SP 14・30・181・436・437・460・488・642実測図

0.5mの円形を呈する。深さは0.25mを測る。掘形の埋土は褐色細砂含む極細砂である。直径0.15mの柱痕を確認した。柱痕埋土は褐色シルト混じる極細砂である。

柱穴SP 438(第109図) 調査地の南西側で、柱穴SP 437の西側で検出した。柱穴掘形は0.44mの円形を呈する。深さは0.3mを測る。掘形埋土はにぶい黄褐色細砂である。直径0.16mの柱痕を確認した。柱痕埋土はにぶい黄褐色シルト混じる細砂である。

柱穴SP 436~438はそれぞれの柱間が1.1~1.2mで、掘形規模も近いことから柱列の可能性が考えられる。

柱穴SP 460(第109図) 調査地の南西側、柱穴SP 436の南で検出した。柱穴掘形は直径0.5mの円形を呈する。掘形埋土はにぶい黄褐色細砂である。直径0.2mの柱痕を確認した。柱痕埋土は暗褐色シルト混じる極細砂である。

柱穴SP 642(第107図) 土坑SK 185に東側を切られる形で検出した。柱穴掘形は長軸0.7m、短軸0.5mの南北に長い楕円形を呈する。深さは0.5mを測る。掘形底部中央に、石臼(第192図1422)が摺り目を上に向けた状態で据えられていた。根石に転用したものとみられる。

土坑SK 185(第107図) 調査地の北東側中央よりやや東よりで検出した。掘形は東西1m、

南北0.4mの楕円形を呈する。深さは0.4mを測る。遺物は土師器鍋(第192図1385)が出土した。

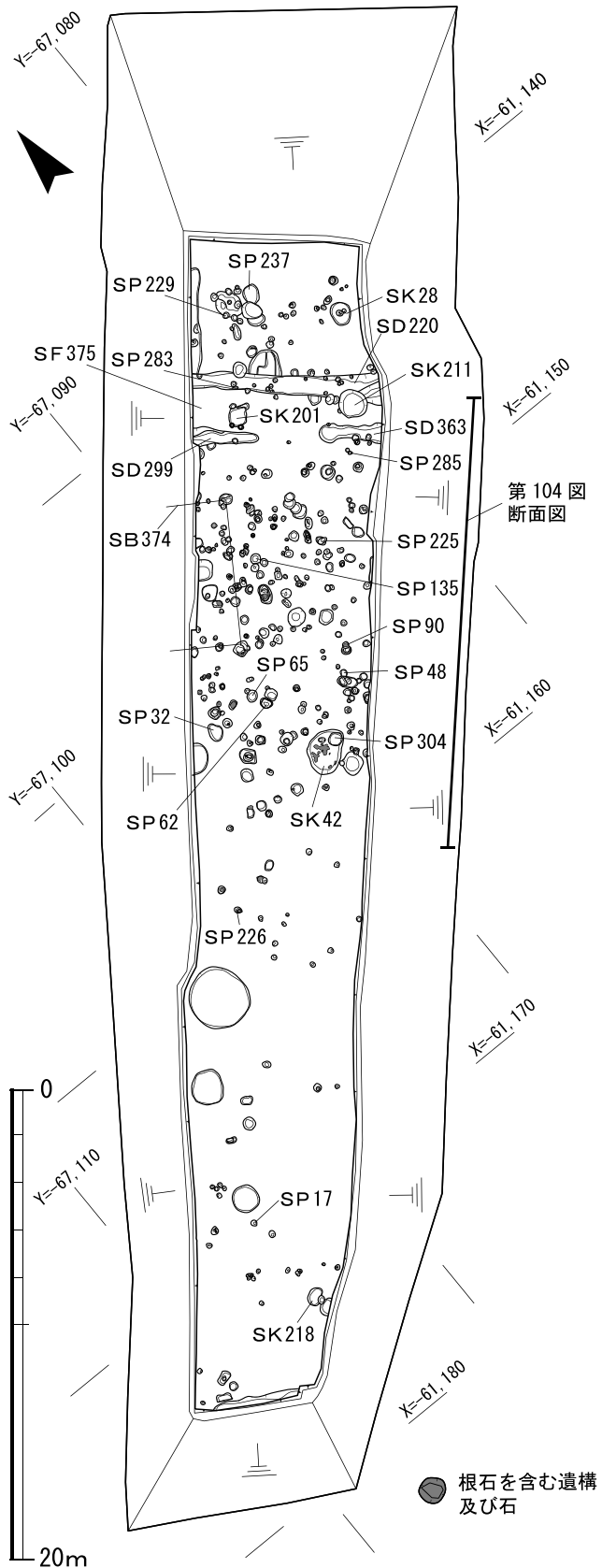
このほか、調査地全域で700基近くの柱穴を検出したが、掘立柱建物を復原することはできなかった。

(3) C3地区

標高3.0m付近で検出した遺構面である。北部を中心に掘立柱建物、溝と土坑、多数の柱穴を検出した。調査地南部では近世以降の井戸等がこの遺構面まで達している。

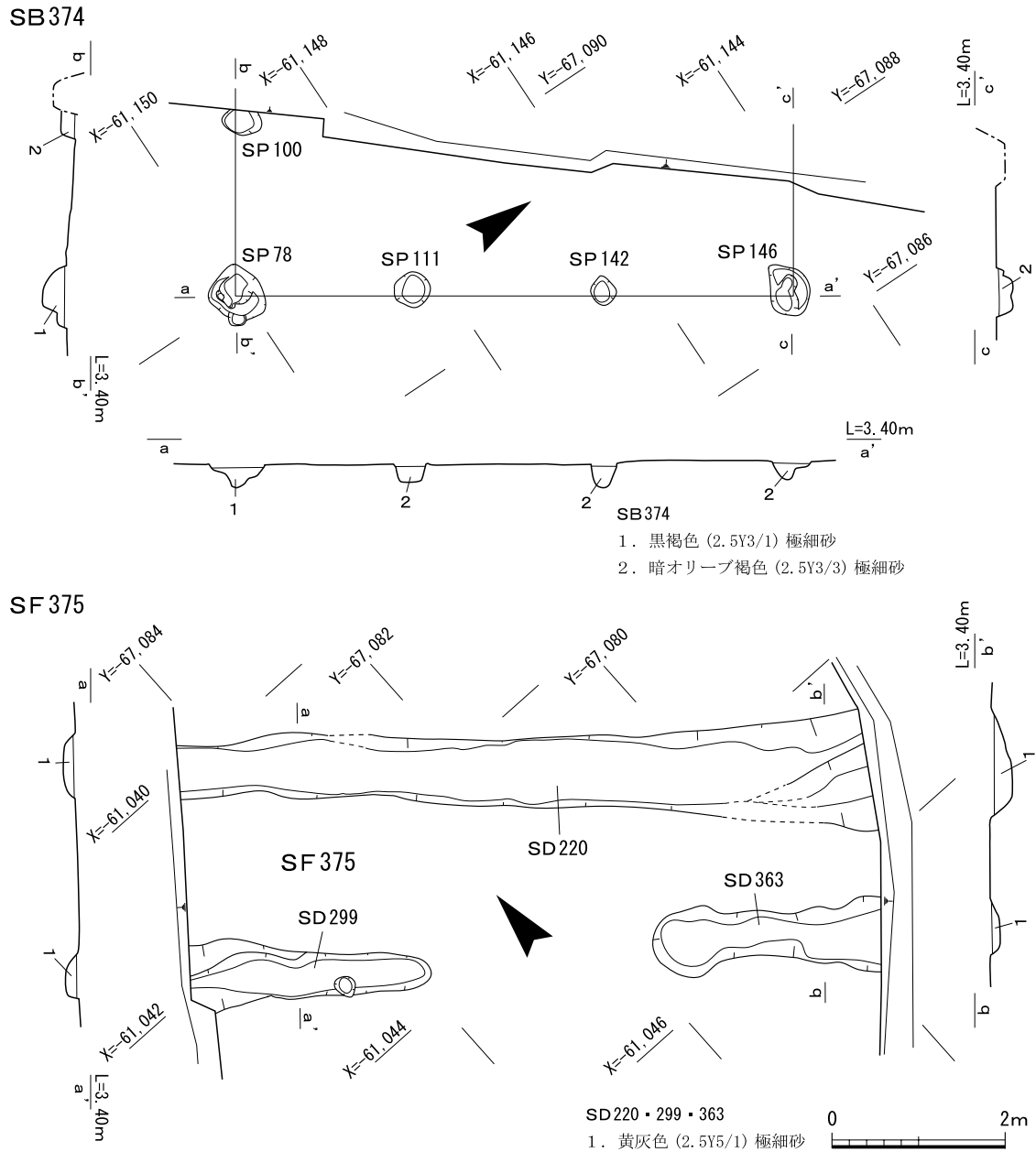
**掘立柱建物 S B 374 (第111図)** 調査地北部、柱穴が集中して分布する地点で検出した南北3間(5.7m)、東西1間(6.0m)以上の掘立柱建物である。建物の西部は調査地外へと延びる。建物の方位は北に対して33°東に振れるである。柱穴掘形は円形で、直径0.3~0.5m、深さは0.15mを測る。

**道路状遺構 S F 375 (第111図)** 調査地北部で検出した東西方向の道路と考えられる遺構であり、北・南の両側に素掘りの側溝(S D 220・299・363)が走る。北側側溝のS D 220と南側側溝のS D 299・S D 363間が道路幅とみられる。幅員は、溝心々間で2.4mを測る。S D 220は幅0.6~0.9m、深さ0.1mを測る。横断面U字形の溝底は、西から東方向に緩やかに下がる。S D 299とS D 363は東西一直線に設けられることから同一性が高い溝である。両溝は、調査地中央部で2.5mの間隔で途切れ、これより南側にはS B 374や多数の柱穴が存在する状況から、南側



第110図 C3地区 第1面検出遺構平面図





第111図 C3地区 第1面掘立柱建物S B374、道路状遺構S F375実測図

宅地の出入り口としての機能が考えられる。S D220の埋土は黄灰色極細砂で、瓦質播鉢・陶器鉢・土師皿(第196図1517・1518・1521・1523)が出土した。

柱穴S P17(第110図) 調査地の南端近くで検出した。掘形は円形で、直径0.25m、深さ0.2mの規模を測る。埋土はオリーブ色極細砂で、回転台土師器杯(第198図1558)が出土した。

柱穴S P32(第110図) 調査地中央部で検出した柱穴である。掘形は楕円形で、長さ0.8m、幅0.6m、深さ0.15mを測る。埋土はオリーブ色極細砂で、古瀬戸香炉(第196図1506)が出土した。

柱穴S P48(第110図) 調査地中央部の東側で検出した柱穴である。掘形は円形で、長さ0.8m、幅0.6m、深さ0.15mを測る。埋土はオリーブ色極細砂で、回転台土師器(第196図1507)が出土した。

柱穴S P62(第110図) 調査地中央部で検出した柱穴である。掘形が楕円形を呈し、長さ0.2m、

深さ0.2mを測る。埋土は黒褐色極細砂で、天目茶碗(第196図1505)が出土した。

柱穴 S P 65 (第110図) 調査地中央部、S P 62の南側で検出した柱穴である。掘形は円形で、直径0.3m、深さ0.2mを測る。埋土は暗オリーブ褐色極細砂で、土師器皿 (第196図1503) が出土した。

柱穴 S P 90 (第110図) 調査地中央部東端で検出した柱穴である。掘形は円形で、直径0.3m、深さ0.2mの規模を測る。埋土は黒褐色極細砂で、掘形底面から磨面を上に向けた石臼(第196図1529)が出土した。石臼は根石に転用したものであろう。

柱穴 S P 135 (第110図) 調査地北部、S B 374の東側で検出した柱穴である。掘形は円形で、直径0.4m、深さ0.2mを測る。埋土はオリーブ色極細砂で、常滑焼の甕口縁部(第196図1510)が出土した。

柱穴 S P 225 (第110図) 調査地北部、S B 374の東側で検出した柱穴である。掘形はやや歪んだ楕円形を呈し、長さ0.5m、幅0.3m、深さ0.25mを測る。埋土はオリーブ色極細砂で、土師器皿(第196図1520)が出土した。

柱穴 S P 226 (第110図) 調査地中央部の南側で検出した柱穴である。掘形は円形で、直径0.3m、深さ0.2mの規模を測る。埋土は黒褐色極細砂で、掘形底面から根石に転用された石臼破片(第196図1528)が出土した。

柱穴 S P 229 (第110図) 調査地北辺近くで検出した柱穴である。掘形は楕円形で、長さ0.4m、幅0.3m、深さ0.2mを測る。埋土は暗オリーブ褐色極細砂で瓦質鉢が出土した。

柱穴 S P 237 (第110図) 調査地北辺近く、柱穴 S P 229の東側で検出した柱穴である。掘形は円形で、直径0.2m、深さ0.2mを測る。埋土は暗オリーブ褐色極細砂で土師器皿(第196図1524)が出土した。

柱穴 S P 283 (第110図) 調査地北辺近くで検出した柱穴である。道路遺構の溝 S D 220を切る。掘形は円形で、直径0.2m、深さ0.1を測る。埋土は黄色粗砂で、瓦質播鉢が出土した。

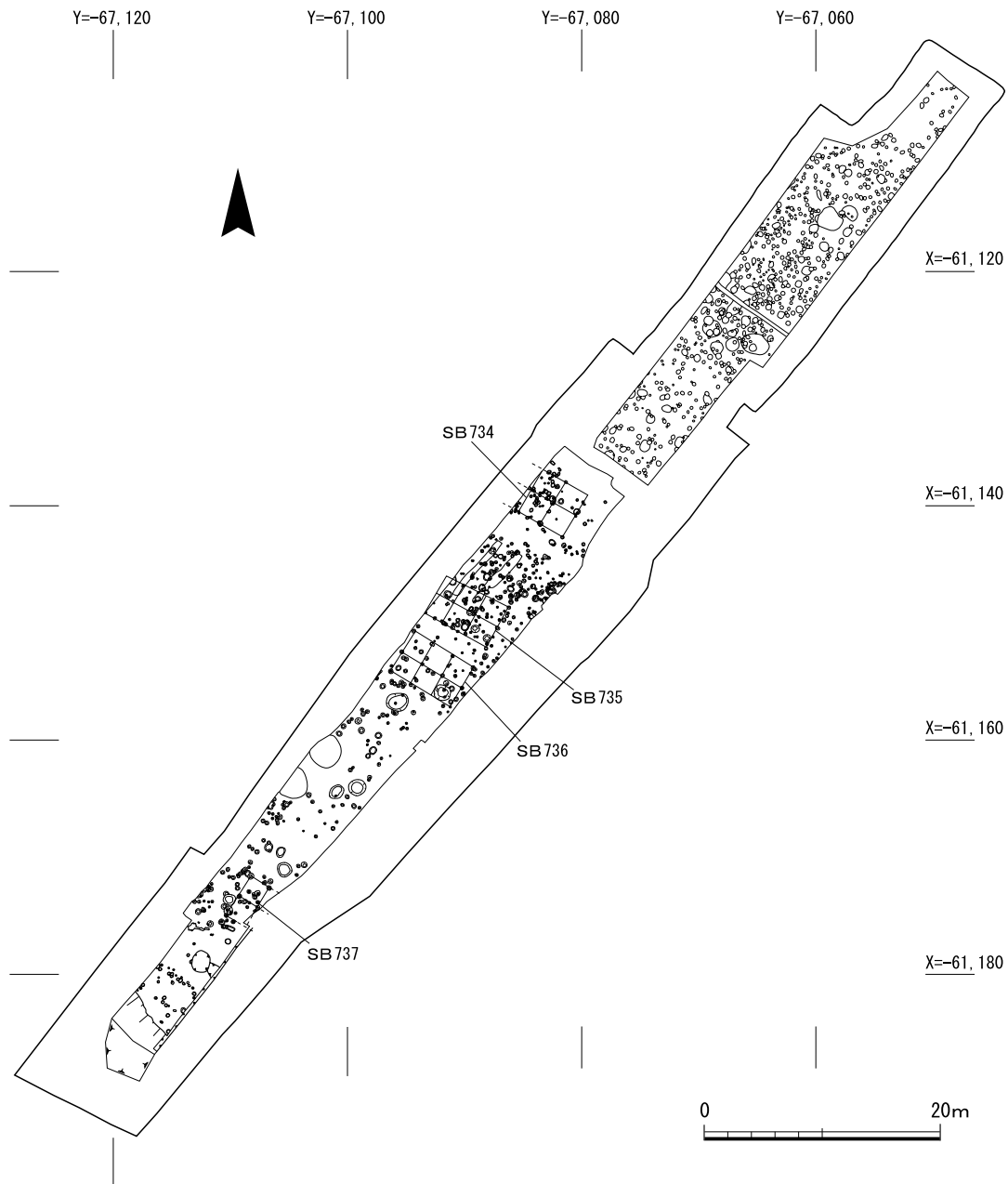
柱穴 S P 285 (第110図) 調査地北部、道路状遺構 S F 375の溝 S D 363の南側で検出した柱穴である。掘形は円形で、直径0.2m、深さ0.1mの規模を測る。埋土は黄灰色極細砂で、瓦質播鉢(第196図1518)が出土した。

柱穴 S P 304 (第110図) 調査地中央部の東側で検出した柱穴である。掘形は円形で、直径0.6m、深さ0.05mを測る。底面はほぼ平坦であり、中央部を中心に薄い炭化物層がみられた。埋土は黄灰色極細砂で、瓦質播鉢が出土した。

土坑 S K 28 (第110図) 調査地北辺近くで検出した。掘形は不整な円形で、長さ0.5m、幅0.25m、深さ0.1mの規模を測る。埋土は黄灰色極細砂で土師器皿(第196図1502)が出土した。

土坑 S K 42 (第110図) 調査中央部で検出した。掘形は不定形な楕円形を呈し、長さ1.0m、最大幅0.7m、深さ0.15mの規模を測る。埋土は黄灰色極細砂である。S P 304とは重複しており、より古い遺構である。

土坑 S K 201 (第110図) 調査地北部、道路状遺構 S F 375の路面部で検出した。掘形は方形で、



第112図 C地区 第2面検出遺構平面図

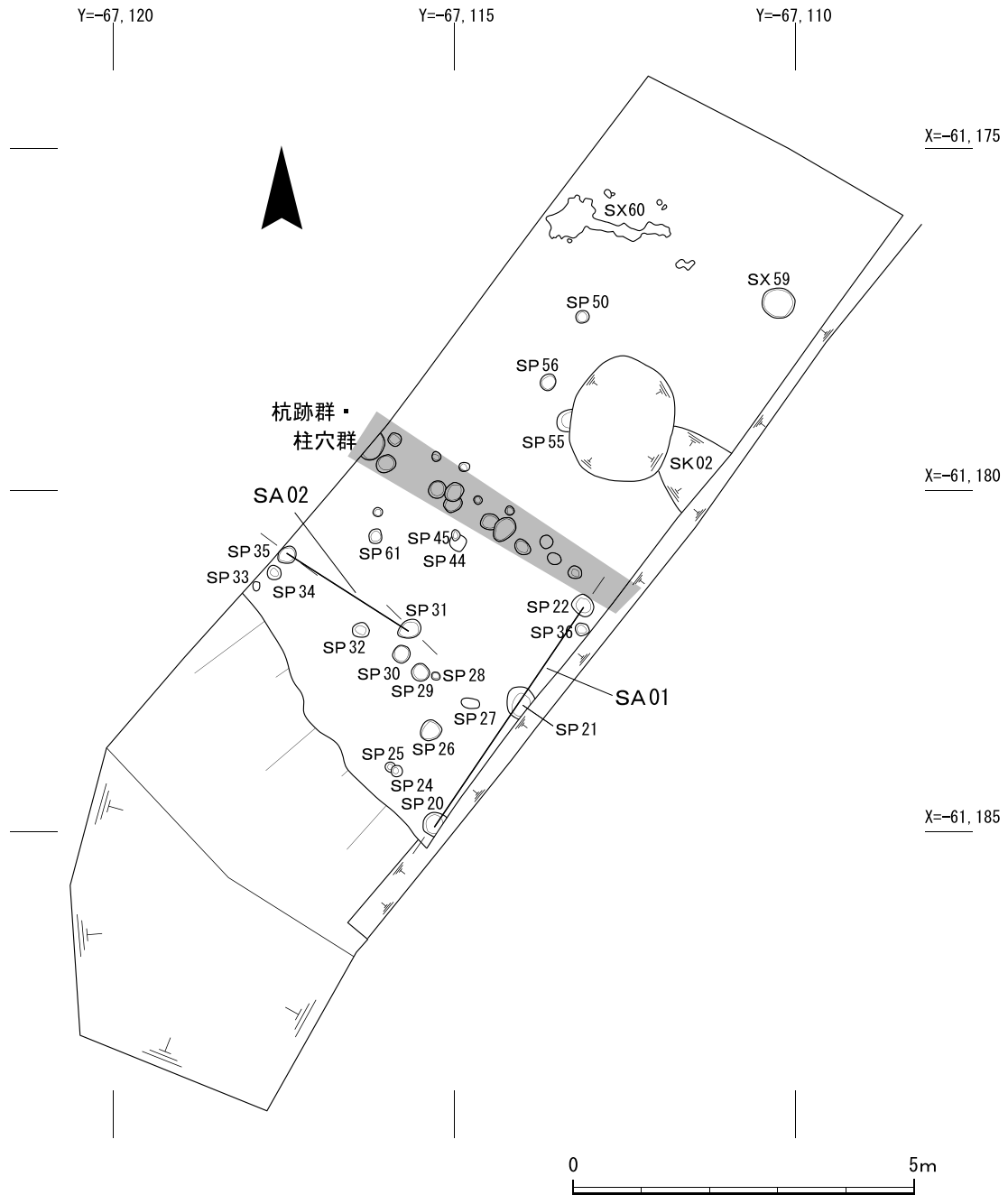
一辺0.8m、深さ0.08mの規模を測る。埋土は黄灰色極細砂で瓦質鍋(第196図1514)が出土した。

土坑SK211(第110図) 調査地北部で検出した。道路状遺構SF375の北側溝SD220を切っている。掘形は円形で、一辺0.6m、深さ0.2mの規模を測る。底面は平坦である。埋土は青灰色グライ化土壌で、陶器鉢(第196図1513)が出土した。

土坑SK218(第110図) 調査地南辺近くで検出した。掘形は楕円形で、長さ0.8m、幅0.5m、深さ0.2mの規模を測る。埋土は黄灰色極細砂で、陶器甕の底部(第196図1515)が出土した。

#### 4) 第2面の調査(第112図)

鎌倉時代の遺構面である。C1地区では、上面で柵列2列、柱穴・杭跡、下面で多数のの柱穴・



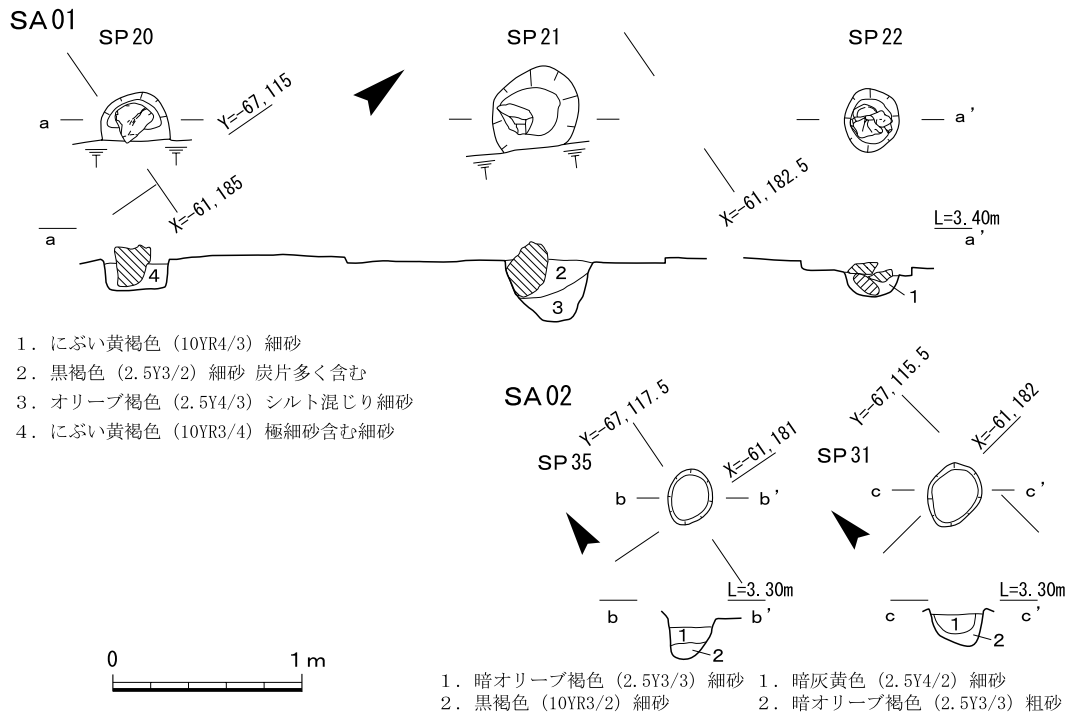
第113図 C1地区 第2-1面検出遺構平面図

土坑を検出した。C2地区では多数の柱穴・土坑・溝・炉、C3地区では掘立柱建物4棟、井戸3基、土坑のほか、多数の柱穴を検出した。

(1) C1地区

① C1地区第2-1面(第113図) 調査地の南西側を中心に、柵列2列、柱穴・杭跡を確認したが、狭い調査面のため建物の復原ができない。北東部では焼土の広がりを検出した他、第2面直上の遺物包含層から銭貨33枚が出土した。

柵列SA01(第114図) 調査地の南東隅で検出した、3基の柱穴が北東から南西へ向けて並ぶ、検出長3.9mの柵列である。柱間はSP22・21間が1.7m、SP21・20間が2.2mを測る。柱穴掘形



第114図 C1地区 第2-1面柵列S A01・02実測図

は直径0.3~0.44mの円形で、深さは0.12~0.32mである。掘形埋土はにぶい黄褐色細砂、にぶい黄褐色極細砂含む細砂などである。柱痕は確認できなかった。S P22は1辺0.2m程度の石が3つ重なって出土し、S P20は1辺0.3m程度の四角い石が、平らな面を上に向けて据えられている。S P21の埋土は上層黒褐色細砂、下層はオリーブ褐色シルト混じり細砂で、上層から1辺0.2~0.3mの石が出土した。根石と考えられる。柱列の方位は北に対して35°東に振れる。

柵列S A02(第114図) 柵列S A01の西側で検出した、2基の柱穴が北西から南東へ並ぶ、柱間2.1mの柵列である。柱穴掘形は長軸0.3~0.38m、短軸0.26m前後の楕円形を呈する。掘形埋土は暗灰黄色細砂、暗オリーブ褐色細砂、黒褐色細砂などである。柱列の方位は北に対して60°西に振れる。柵列S A01と直行するが、柵列S A02からは根石と考えられる石が出土しなかったため、掘立柱建物ではないと推定される。柱穴S P31から瓦質土器鉢が出土した(第190図1320)。

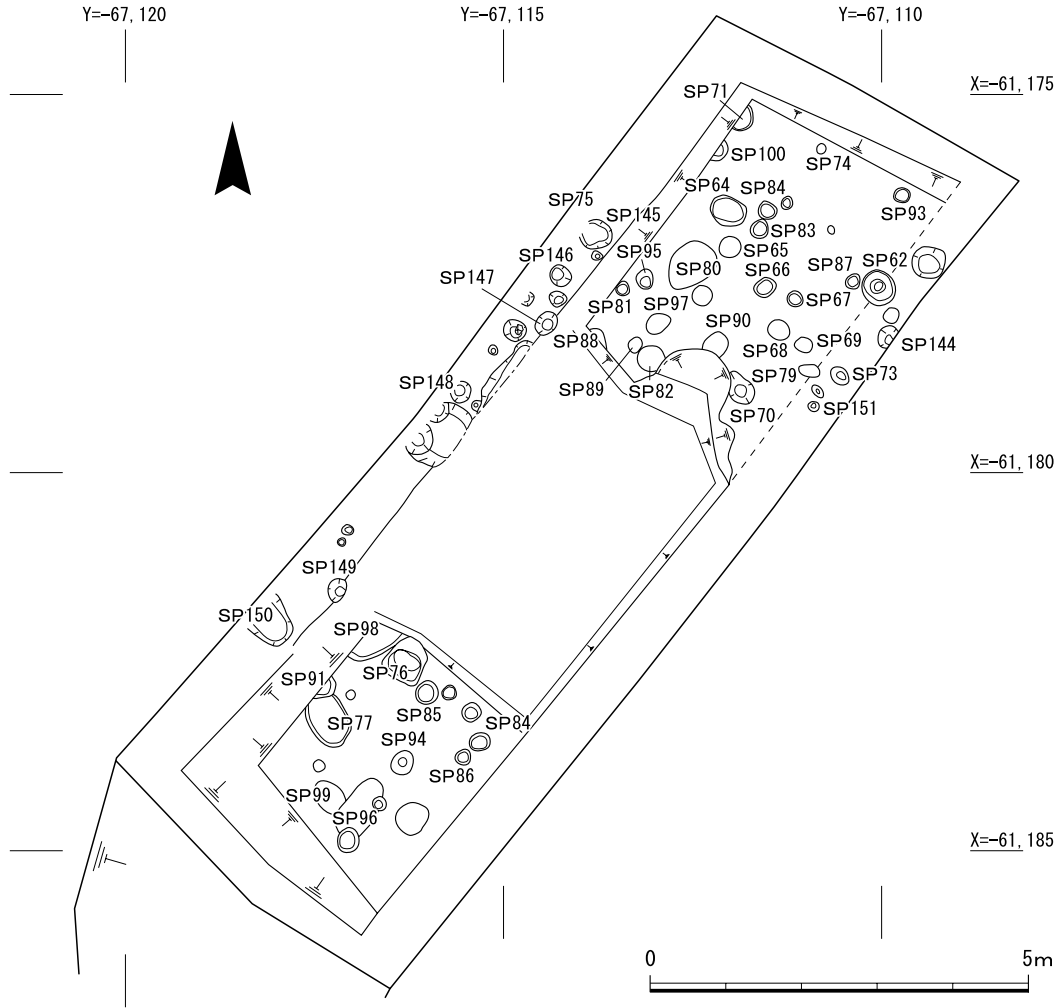
杭跡群・柱穴群(第114図) 調査地中央よりやや南側で、調査地を北西から南東にかけて横断する形で、杭跡・柱穴が集中する。杭穴は直径0.1m、柱穴は直径0.2~0.3mで、深さ0.1~0.3mである。調査地が狭小のため、明確なことはいえないが、土地の区画を示す杭列・柱列と推定される。

焼土S X60 調査地の北側で検出した焼土の広がりである。硬化した褐色の粘土が不定形に広がる。遺構の性格は不明であるが、近くに火を使用する竈などの施設があったことが推測される。

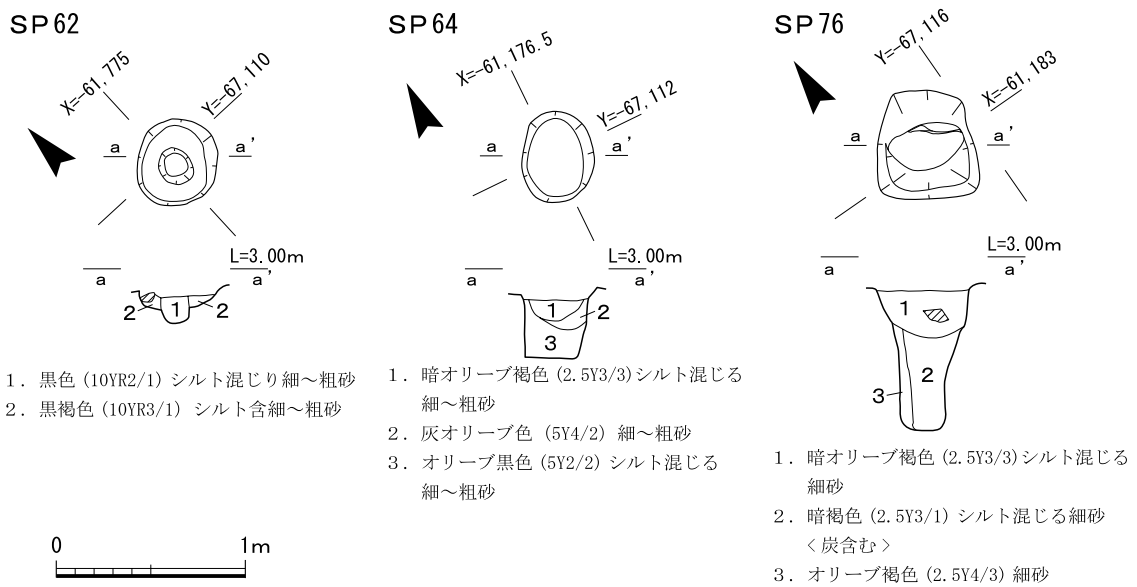
(綾部侑真)

②C1地区第2-2面(第115図)

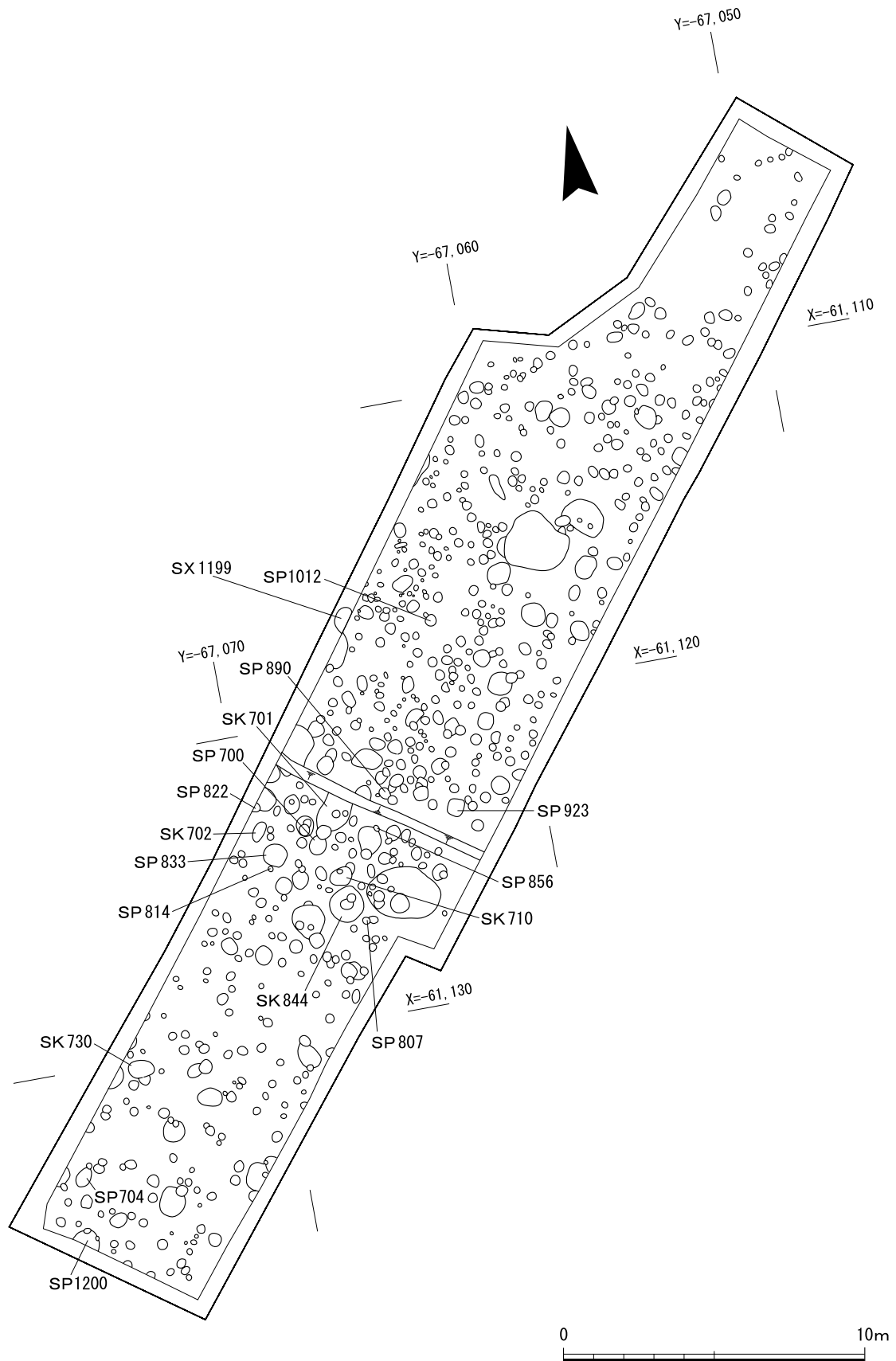
70基近くの柱穴、土坑を検出した。



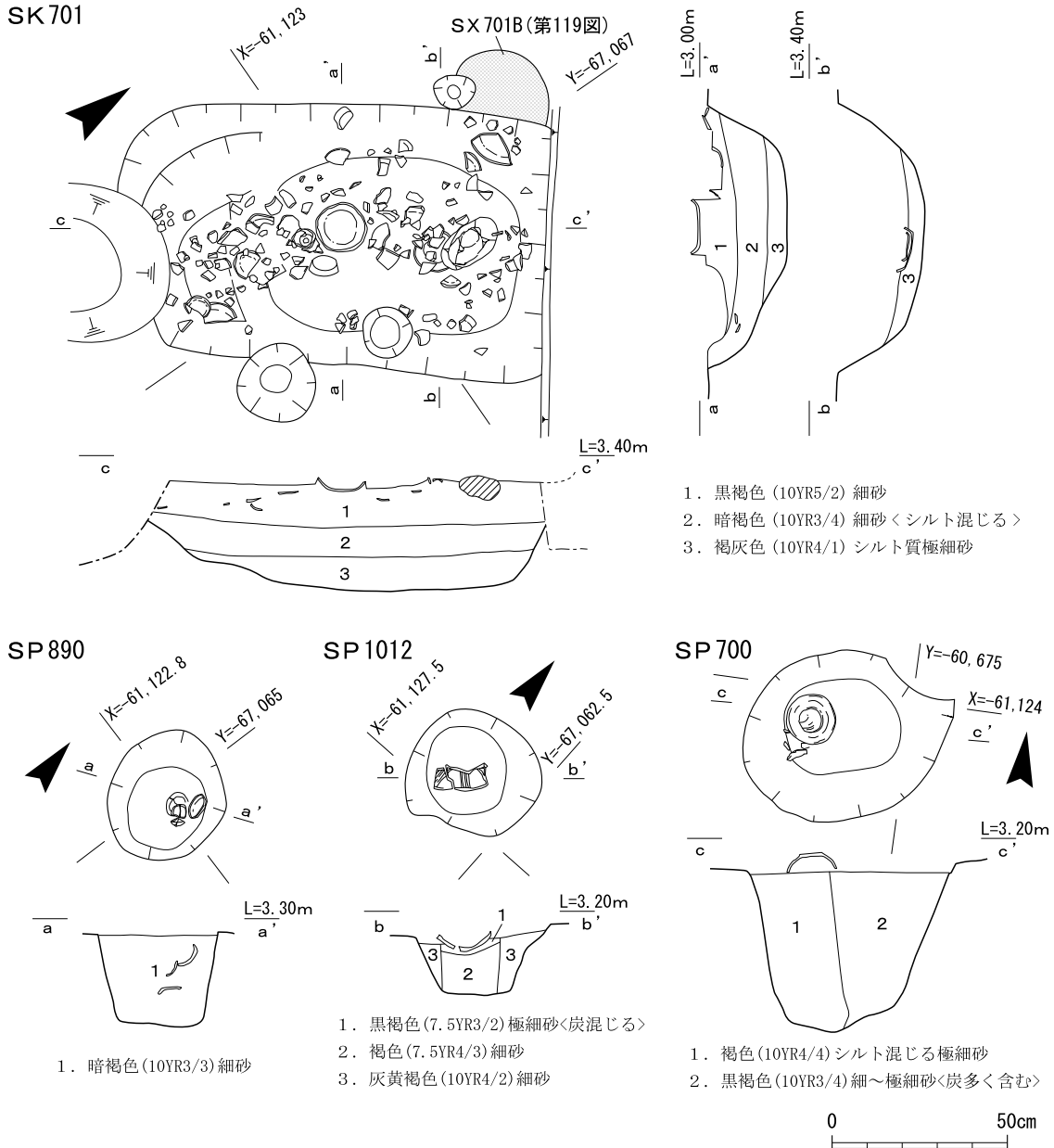
第115図 C1地区 第2-2面検出遺構平面図



第116図 C1地区 第2-2面柱穴SP62・64・76実測図



第117図 C2地区 第2面検出遺構平面図



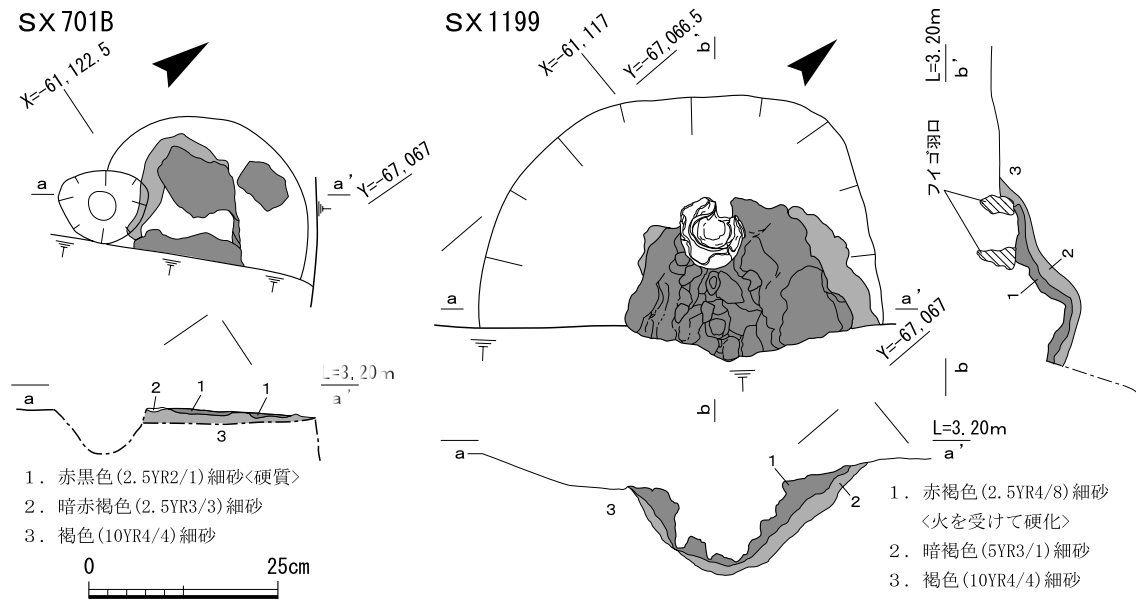
第118図 C2地区 第2面土坑SK701、柱穴SP890・1012・700実測図

柱穴SP76(第116図) 調査地の中央よりやや南西で検出した。柱穴長辺0.6m、短辺0.56mの、北東辺が膨らむ隅丸方形を呈する。掘形埋土はオリブ褐色シルト混じる細砂である。掘形底面に長辺0.38m、短辺0.2mの扁平な石が据えられており、根石と考えられる。遺物は、土師器皿、瓦質鍋、東播系片口鉢、古瀬戸端反皿(第191図1349)が出土した。

柱穴SP62(第116図) 調査地の北東隅で検出した。柱穴掘形は直径0.44mの円形を呈する。掘形埋土は黒褐色シルト含む細~粗砂である。直径0.18mの柱痕を確認した。柱痕埋土は黒色シルト混じり細~粗砂である。

柱穴SP64(第116図) 調査地の北端近くで検出した。長辺0.5m、短辺0.38mの楕円形を呈する。掘形埋土は3層で、暗オリブ褐色シルト混じる細~粗砂、灰オリブ色細~粗砂、オリブ黒色シルト混じる細~粗砂である。遺物は、土師器皿(第191図1334)が出土した。





第119図 C2地区 第2面炉S X701B・1199実測図

(2) C2地区(第117図)

調査地全体に多数の柱穴・土坑・溝、炉2基を検出した。宋銭を主体とする銭貨が20枚以上出土した。

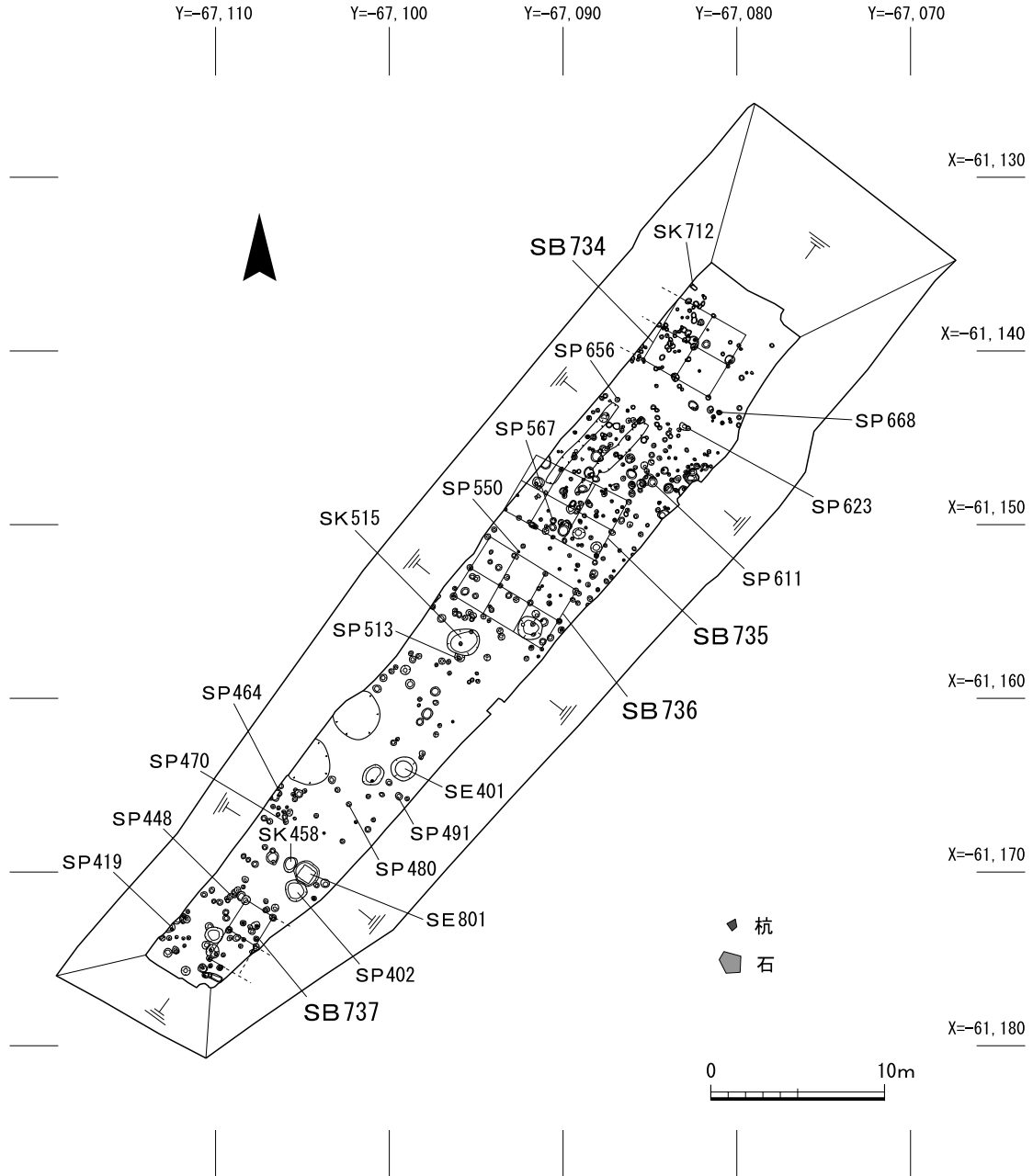
土坑S K 701(第118図) 調査地の中央よりやや南西寄りで検出した。平面形は南北に長い方形を呈する。長辺1.24m、短辺0.75m、深さ3.0m前後である。埋土は上層が黒褐色細砂、中層が暗褐色細砂、下層が灰褐色シルト質極細砂である。遺物は第1層から多くの土師器皿の他、瓦器羽釜、東播系須恵器片口鉢などが出土した(第194図1451・1452)。

柱穴S P 890(第118図) 調査地の中央よりやや南側で検出した。掘形はやや歪んだ楕円形を呈し、長軸0.38m、短軸0.33mで、深さは0.27mを測る。底面は平坦である。掘形埋土は暗褐色細砂である。埋土中から土師器皿が出土した(第194図1471・1472)。

柱穴S P 1012(第118図) 調査地の中央よりやや北側で検出した。掘形は南辺がくぼむ隅丸方形を呈する。長辺0.36m、短辺0.33m、深さ0.18mで、底面は平坦である。掘形埋土は灰黄褐色細砂である。また、直径0.16mの柱痕が確認した。柱痕埋土は、上層から黒褐色極細砂、褐色細砂である。柱痕埋土上層から、越前焼と見られる播鉢が出土した(第194図1476)。

柱穴S P 700(第118図) 調査地の中央よりやや南側、S P 1012の南西で検出した。掘形は楕円形を呈し、長軸0.62m、短軸0.46mを測る。掘形埋土は黒褐色細砂である。柱痕は直径0.23mで掘形底部より0.03mほど沈む。柱痕埋土は褐色シルト混じる極細砂である。土師器杯が出土した(第194図1450)。

炉S X 701B(第119図) S K 701の北西部で、重複して検出した(117図)。東側をS K 701に削平され、3分の2程度を検出した。平面形は半円形を呈する。深さは0.01m程度であるが、直径0.29mの範囲に被熱した暗赤褐色が広がる。一部は赤黒色にやや硬化しており、削平を受けた炉の痕跡と推定される。

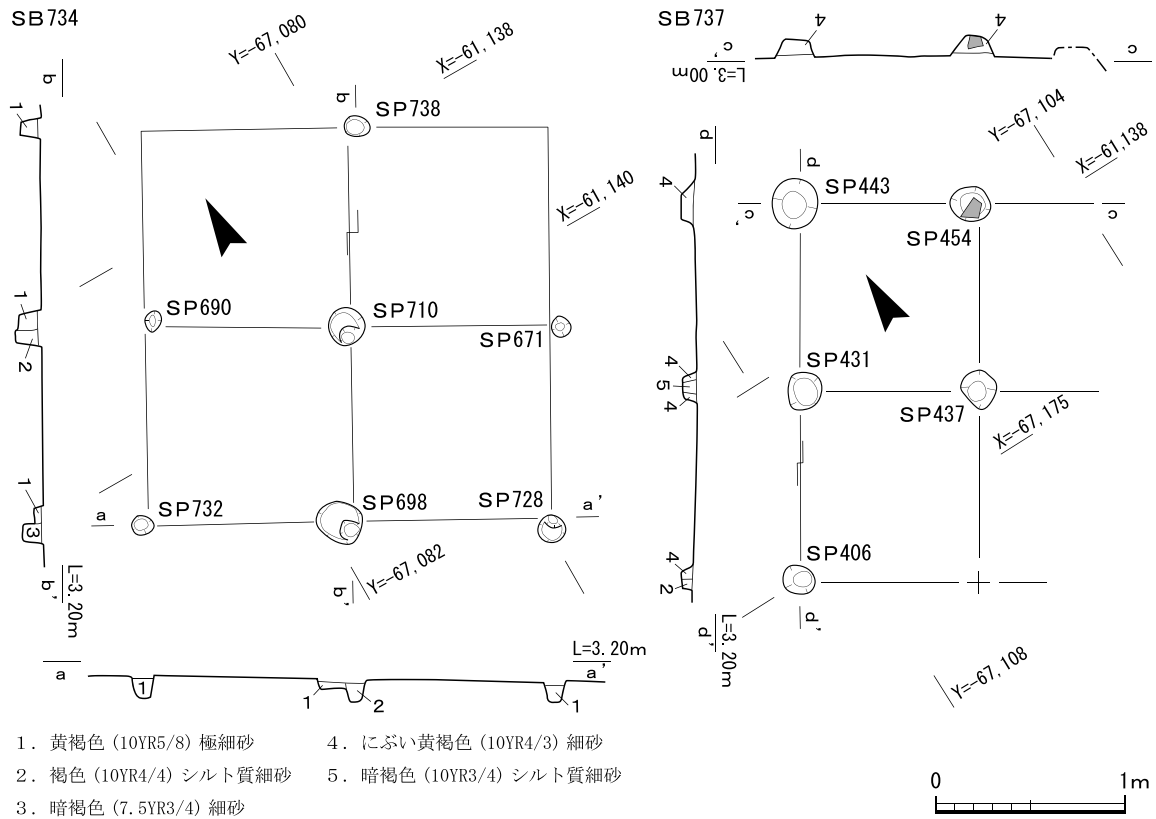


第120図 C3地区 第2面検出遺構平面図

炉S X 1199(第119図) 調査地の北西辺付近、中央よりやや北側で検出した。西側2分の1程度を確認した。長軸0.54m、短軸0.35mの規模を測り、深さは0.12mである。炉内は西側にテラスを形成した後、椀状に掘り下がる。炉内の表面は被熱し、上層は赤褐色、下層は暗褐色に硬化している。なお、この硬化面は被熱の影響により凸凹や亀裂を生じている。炉の西側のテラス上で鞆羽口の一部が出土した(第194図1449)。このことから西側が送風口と考えられる。ただし、鞆羽口は上を向いた状態で出土しているため、使用時の状態のままに埋没したものではないと判断される。

(3) C3地区(第120図)

第2面は海拔3.0m付近で検出した遺構面である。オリーブ補色砂層(第104図第18層上面)が遺



第121図 C3地区 第2面掘立柱建物SB734・737実測図

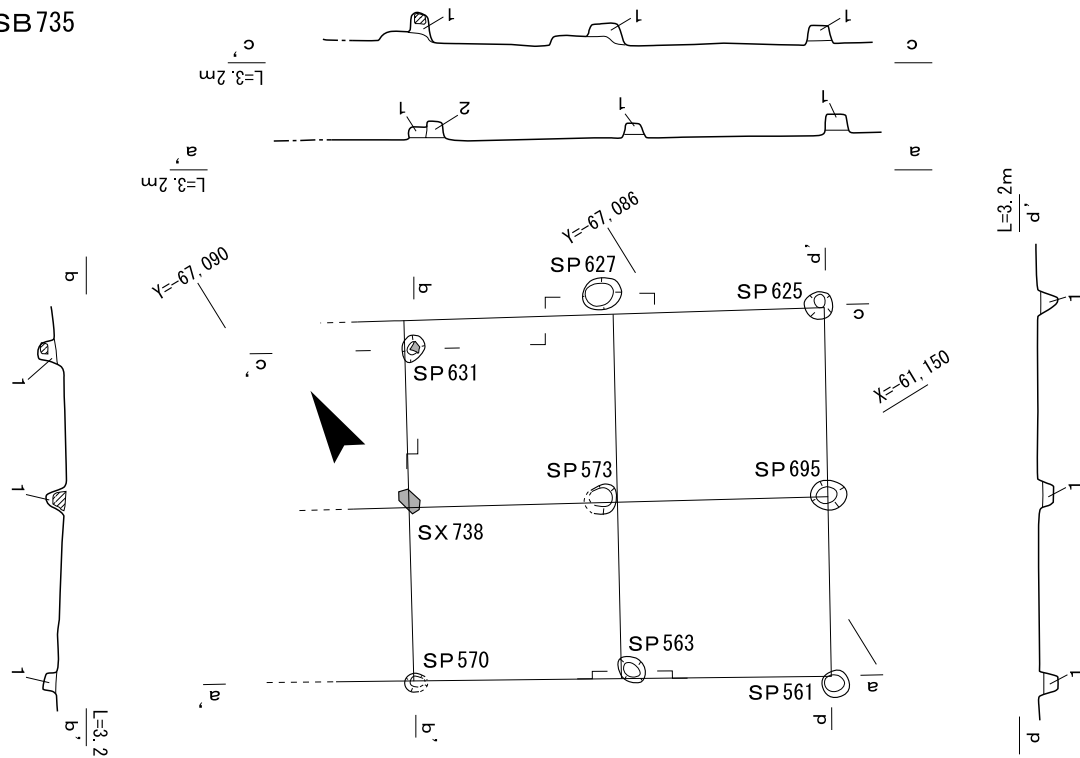
構の基盤層である。ここでは掘立柱建物4棟、井戸3基、土坑のほか、多数の柱穴を検出した。

**掘立柱建物SB734**(第121図) 調査地北東部で検出した総柱の掘立柱建物である。建物の方位はN-29°-Eである。建物の西半が調査地外に延びる。南北2間(4.2m)、東西2間(2.3m)以上の規模を測る。柱穴掘形は円形で、直径0.2~0.4m、深さ0.2mを測る。柱穴SP698は円形掘形が直径0.4m、深さ0.1mを測る。掘形南部に直径0.2m、深さ0.25mの柱痕を確認した。掘形埋土は黄褐色極細砂、柱痕は褐色シルト質細砂で、掘形埋土から土師器皿(第198図1584)が出土した。

**掘立柱建物SB737**(第121図) 調査地南端部で検出した総柱の掘立柱建物である。建物の方位はN-32°-Eである。建物の東半は調査地外に延び、南北2間(4.0m)、東西1間(1.8m)以上である。多くの柱穴掘形は円形で、直径0.4~0.5m、深さ0.2mを測る。柱穴SP431は直径0.4m、深さ0.6mを測る。柱痕跡は直径0.18mを測る。掘形内から回転台土師器杯(第198図1560)が出土した。柱穴SP454では、掘形内に根石と判断する15cm大の平石1個を確認したほか、瓦質鍋(第198図1564)が出土した。

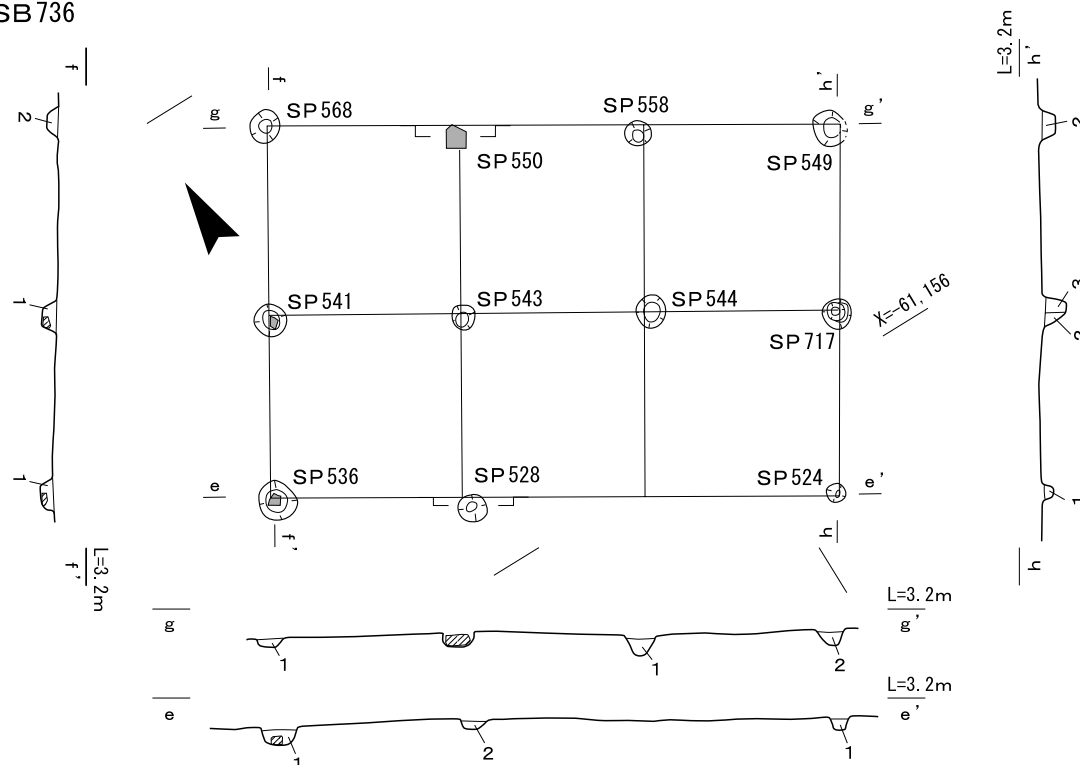
**掘立柱建物SB735**(第122図) 調査地北部、SB734の南西で検出した東西方向の総柱の掘立柱建物である。建物の主軸方位はN-68°-Wである。後述のSB736と柱筋が揃い、平行して検出したことから、西辺の柱列は検出できなかったが、東西3間と推定する。南北2間(3.9m)であり、東西3間とすると6.0m程度と推定される。柱穴の掘形は円形で、直径0.2~0.4m、深さ0.2mを測る。柱穴SP631は、東西方向の北柱列から南にやや外れている。これは、水を含んだ土壌の上で重

SB735



1. 黄褐色 (10YR5/8) 極細砂
2. 褐色 (10YR4/4) シルト質細砂

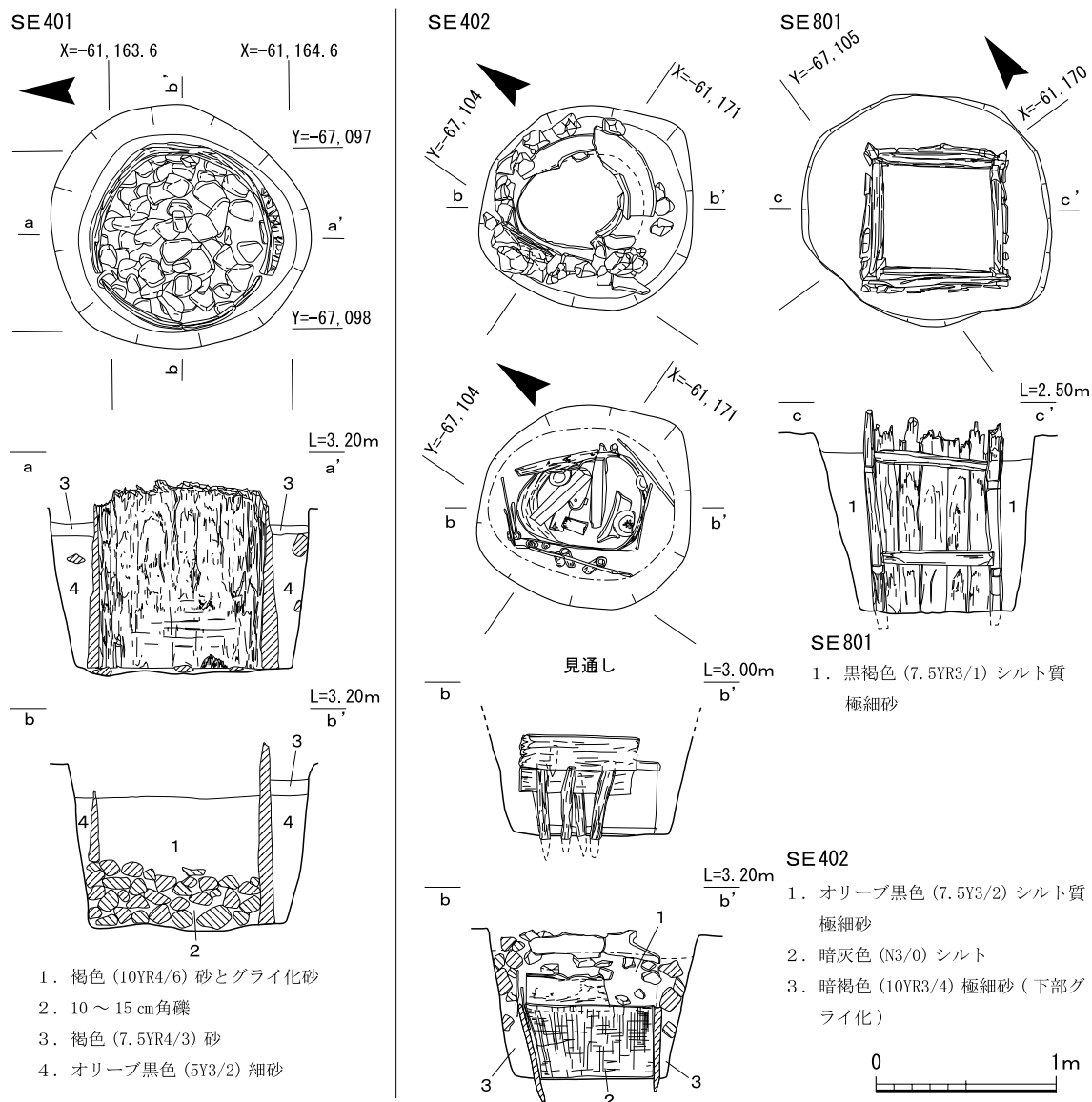
SB736



1. 黄褐色 (10YR5/8) 極細砂
2. 暗灰黄色 (2.5YR4/2) 細砂
3. 暗褐色 (10YR3/4) 極細砂



第122図 C3地区 第2面掘立柱建物SB735・736実測図



第123図 C3地区 第2面井戸SE401・402・801実測図

機が作業し、その重みにより土壌が動き、柱穴の位置が動いたものと判断される。また、SX738は根石(20×10×10cm大)のみを検出したが、掘形は確認できない。

**掘立柱建物SB736**(第122図) 調査地の中央部、SB735の南2mで検出した総柱の掘立柱建物である。SB735とは南北の柱列を揃える。建物の方位はN-68°-Wである。建物は東西3間(6.0m)、南北2間(3.9m)である。柱穴掘形は円形で、直径0.4~0.5m、深さ0.2mを測る。建物の柱穴SP536・541・550では、掘形内で根石を検出した。SP550は楕円形の掘形であり、長さ0.4m、幅0.2m、深さ0.5mである。掘形内には根石と判断される20cm四方の平石が存在し、埋土中から土師皿(第198図1583)が出土した。

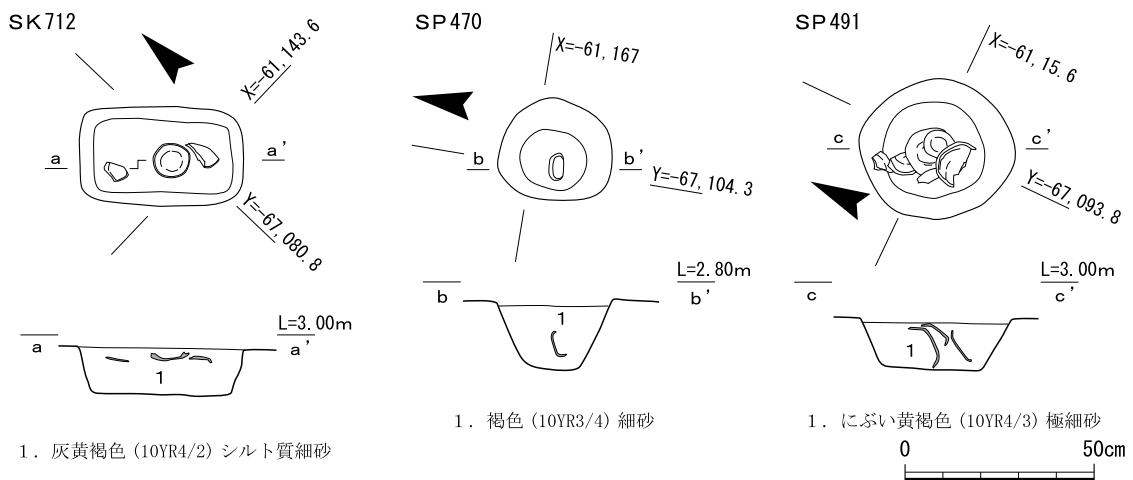
**井戸SE401**(第123図) 調査地中央部よりやや南で検出した木製井戸枠を有する井戸である。掘形は円形で直径1.7~1.8m、深さ0.9mを測る。底面の海拔は2.0mである。井戸枠は丸木を剥ぎ抜いているが、縦方向に2分したものを組み合わせている。丸太は、全体の3分の2対3分の1

の割合で分割されている。A1地区第2面検出のSE412と似た井戸枠ではあるが、SE401は完全な円筒形であることが大きく異なる。井戸枠の残存高は1.0m、内法直径は0.9m、底部での厚みは0.1mを測る。井戸内底面には0.3~0.35mの厚さで、15~30cm大の川原石が積み重ねられていた。水の浄化以外にも、井戸枠材の長さを調節し、井戸枠の高さを揃える機能も兼ねたようで、西側の小規模な井戸枠下端は川原石の上に設置されていた。井戸底の石積みの中から、陶器搦鉢と、土師器杯、須恵器杯、土錘(第197図1534~1540)が出土した。掘形内からは、回転台土師器杯(第197図1530~1533)が出土した。

**井戸SE402(第123図)** 調査地南半、掘立柱建物SB737の北東で検出した井戸である。掘形は円形で直径1.2m、深さ0.8mを測る。底面の海拔は2.15mである。掘形内には井戸枠が存在するが、上下で材質が異なる。井戸の下部は曲物を設置し、その外部上方に薄い横板(1~2枚重ね)を5方向に渡している。横板の固定方法として、細めの杭を交差させ、その上に板を乗せている。曲物は直径0.6m、高さ0.4mを測り、楕円形に変形させて掘形底面の中央に設置している。底から浮かせた横板の上面は井戸底から0.55mの位置にある。井戸枠上部には、破損した常滑焼大甕を使用して下部の木枠を覆っている。甕は肩部から口縁部分を主に使用し、口縁を開口部にして設置している。大甕は井戸枠東2分の1の範囲に限られ、西側には存在しない。西側では丸木の棒と10~20cm大の礫を2~3段積み上げる。また、礫は大甕の裏込めにも使われる。

SE402は上部が削平されており地上構造は不明であるが、地上にも井戸枠が存在した可能性が高い。その場合、今回検出した曲物は集水桮、常滑大甕は集水桮の保護材としての機能を持たせた可能性が考えられる。井戸内には水分の多い黒褐色シルトが堆積し、多種多量の木製遺物が出土した。木製遺物には漆器(椀・皿)・下駄・柄・楔・板材・箸(第205図1808~1848)がみられ、特に箸は100点を超える量が出土した。土器においては、瓦質の鍋・鉢、土師器皿・杯、中国製青磁椀(第197図1541~1557)等が出土した。

**井戸SE801(第123図)** 第3面の調査段階で検出した井戸である。掘形は第2面では確認できなかったが、出土遺物が第2面検出の遺構とほぼ同時期であるため、第2面検出遺構として報



第124図 C3地区 第2面土坑SK712、柱穴SP470・491実測図

告する。S E 401の掘形にこのS E 801の掘形の一部が切られる。S E 801の掘形は円形で直径1.3m、深さ1.0mを測る。底面の海拔は1.35m付近である。掘形内には4本の隅柱に縦板横棧止めの方形井戸枠が構築されている。井戸枠は内法で一辺0.7mを測る。縦板は幅0.12~0.15m、厚さ0.01mを測り、1面に5~6枚を使用する。隅柱は幅0.1mの角柱が使用され、井戸底から1.1m分が残っていた。柱には柄穴が設けられ、横棧が組まれている。北東と南西の2面では、井戸底から0.3mと0.9mの位置に横棧を設けているのに対して、南東と北西の2面は井戸底から0.2mと0.8mの位置に横棧が設けられている。井戸内から土師器皿、回転台土師器皿、須恵器杯(第198図1595~1596)が出土した。

柱穴S P 470(第124図) 調査地南部、S B 737の北側で検出した掘形が円形の柱穴である。直径0.3m、深さ0.2mを測る。埋土は褐色細砂で、完形の土師器燈明皿(第198図1565)が出土した。

柱穴S P 491(第124図) 調査地南部、S E 401の南側で検出した円形掘形の柱穴である。直径0.5m、深さ0.2mを測る。埋土はにぶい黄褐色極細砂で、完形の土師器皿、回転台土師器皿(第198図1572~1574・1578)などの土器が出土した。

第2面では、先述の主要遺構以外にも多数の柱穴を検出した。これら柱穴の中には時期の特定が可能な遺物を含むものも多数みられた。

柱穴S P 419(第120図) 調査地南端部の西壁に接して検出した円形掘形を呈する柱穴である。西部は調査地外に延びる。直径0.6m、深さ0.2mを測る。埋土は黄灰色極細砂で、土師器皿(第198図1562)が出土した。

柱穴S P 448(第120図) 調査地南部、S B 737のS P 443の西側で検出した円形掘形の柱穴である。直径0.3m、深さ0.15mを測る。埋土は暗オリーブ褐色極細砂で、瓦質鍋(第198図1570)が出土した。

柱穴S P 464(第120図) 調査地南部で検出した方形掘形の柱穴である。西部は調査地外に延びる。長さ0.7m、検出した幅は0.4m、深さ0.2mである。埋土は暗オリーブ褐色極細砂で、土師器皿(第198図1566)が出土した。

柱穴S P 480(第120図) 調査地南部、柱穴S P 464の東側で検出した円形掘形の柱穴である。直径0.25m、深さ0.2mを測る。埋土は灰褐色極細砂で、土師器杯(第198図1571)が出土した。

柱穴S P 513(第120図) 調査地中央部、S K 515の南側で検出した楕円形掘形の柱穴で、S K 515に切られる。直径0.6m、深さ0.3mである。埋土は黄灰色極細砂で、土師器皿(第198図1582)が出土した。

柱穴S P 567(第120図) 調査地北部、S B 734の南側で検出した楕円形掘形の柱穴である。長さ0.5m、幅0.3m、深さ0.15mを測る。埋土は褐色細砂で、回転台土師器皿(第198図1590)が出土した。

柱穴S P 611(第120図) 調査地北部、S B 735の柱穴S P 625の北東で検出した円形掘形の柱穴である。直径0.5m、深さ0.25mを測る。埋土は褐色細砂で、瓦器椀(第198図1575)が出土した。

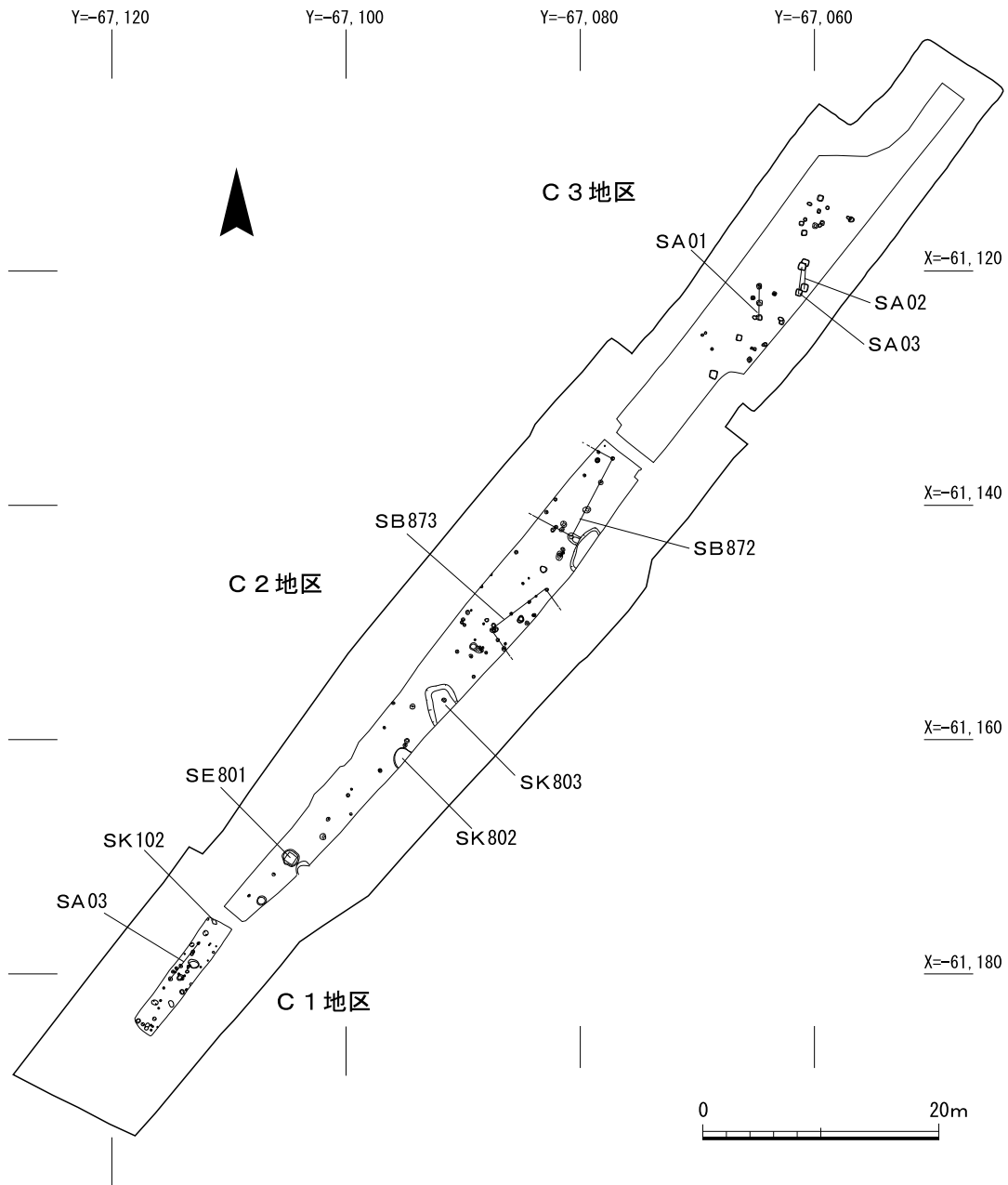
柱穴S P 623(第120図) 調査地北部、S B 734の南側で検出した楕円形掘形の柱穴である。長

さ0.5m、幅0.3m、深さ0.25mである。埋土はオリーブ褐色細砂で、土師器皿(第198図1585)が出土した。

柱穴 S P 656 (第120図) 調査地北部、柱穴 S P 723の西側で検出した円形掘形の柱穴である。直径0.3m、深さ0.15mである。埋土はオリーブ褐色極細砂で、土師器皿(第198図1579・1580)が出土した。

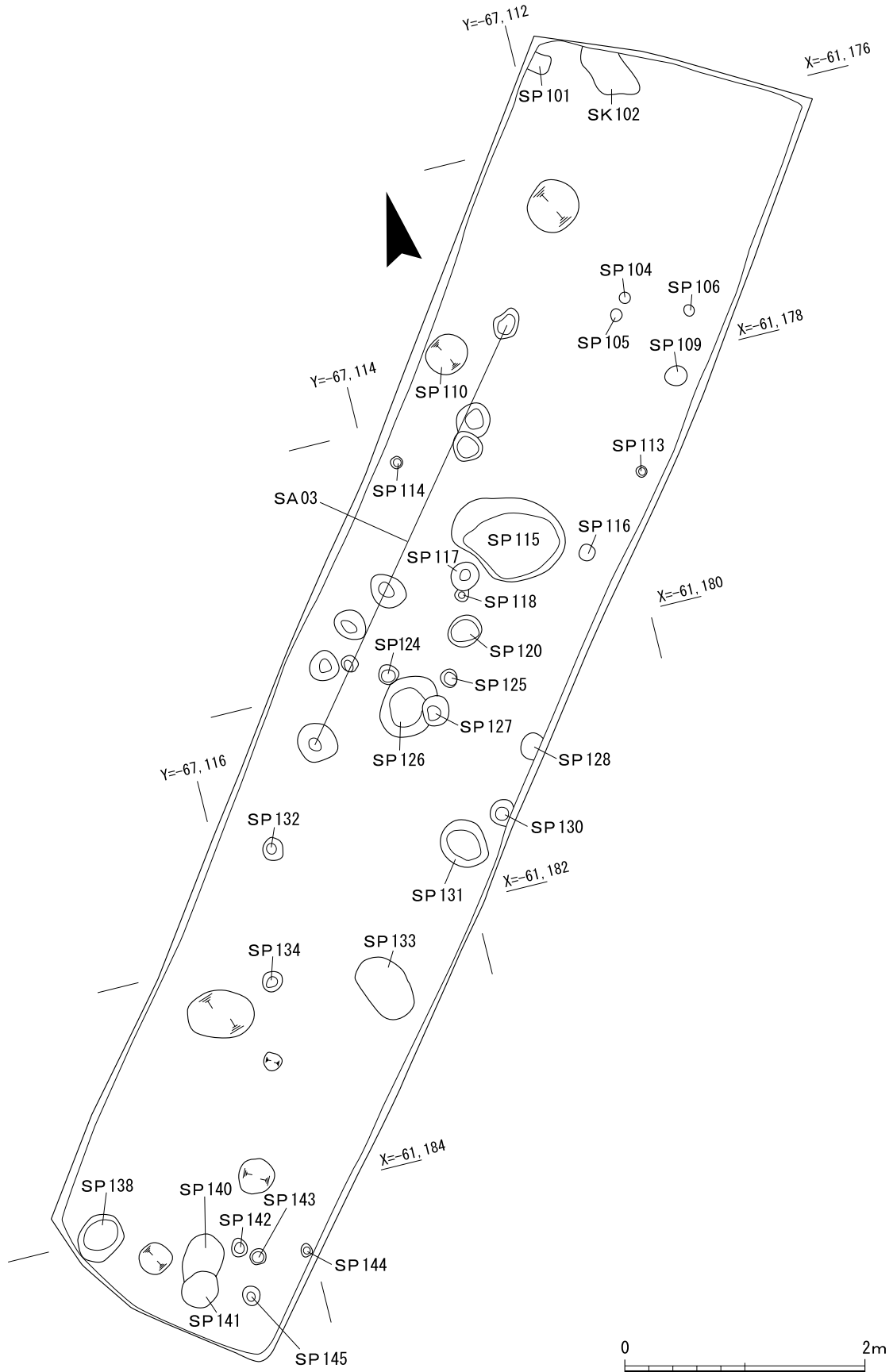
柱穴 S P 668 (第120図) 調査地北部、S B 734の南東で検出した円形掘形の柱穴である。直径0.3m、深さ0.4mである。埋土はオリーブ褐色極細砂で、土師器皿(第198図1593)が出土した。

土坑 S K 410 (第120図) 調査地南部、S B 737の S P 431の西側で検出した円形の掘形をした土坑である。直径1.0m、深さ0.2mを測る。底面は平坦である。埋土は褐色細砂で、陶製鉢の底



第125図 C地区 第3面検出遺構平面図





第126図 C1地区 第3面検出遺構平面図

部(第198図1561)が出土した。

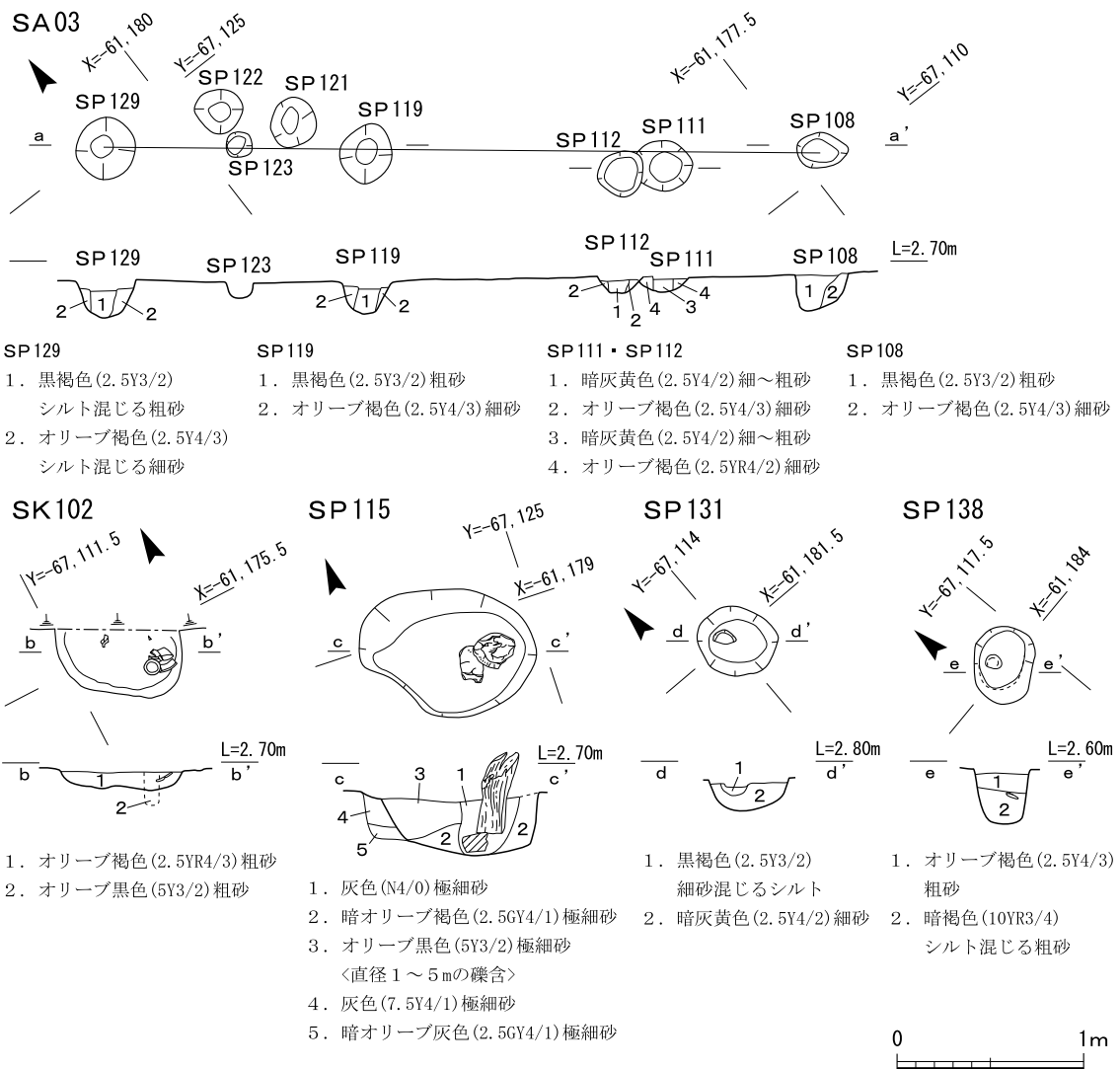
土坑 S K 458 (第120図) 調査地南部、井戸 S E 402の北側で検出した楕円形掘形の土坑である。長さ0.9m、幅0.7m、深さ0.2mを測る。底面は平坦ではなく、丸みをもつ。埋土は暗オリーブ褐色細砂で、土師器皿(第198図1563)が出土した。

土坑 S K 515 調査中央部、S B 736の南側で検出した楕円形掘形の土坑である。長さ1.0m、幅0.7m、深さ0.3mを測る。底面は平坦で、埋土は黄灰色極細砂である。

土坑 S K 712 (第124図) 調査地北端部、S B 734の北側で検出した長方形掘形の土坑である。長さ0.45m、幅0.25m、深さ0.12mを測る。底面は平坦である。埋土は灰黄褐色シルト質細砂で、完形の土師器皿(第198図1587)が出土した。

### 5) 第3面の調査(第125図)

平安時代後期から鎌倉時代の遺構面で、C 1 地区では柱穴・杭跡・土坑、C 2 地区では柵列・柱穴、C 3 地区では掘立柱建物・土坑を検出した。

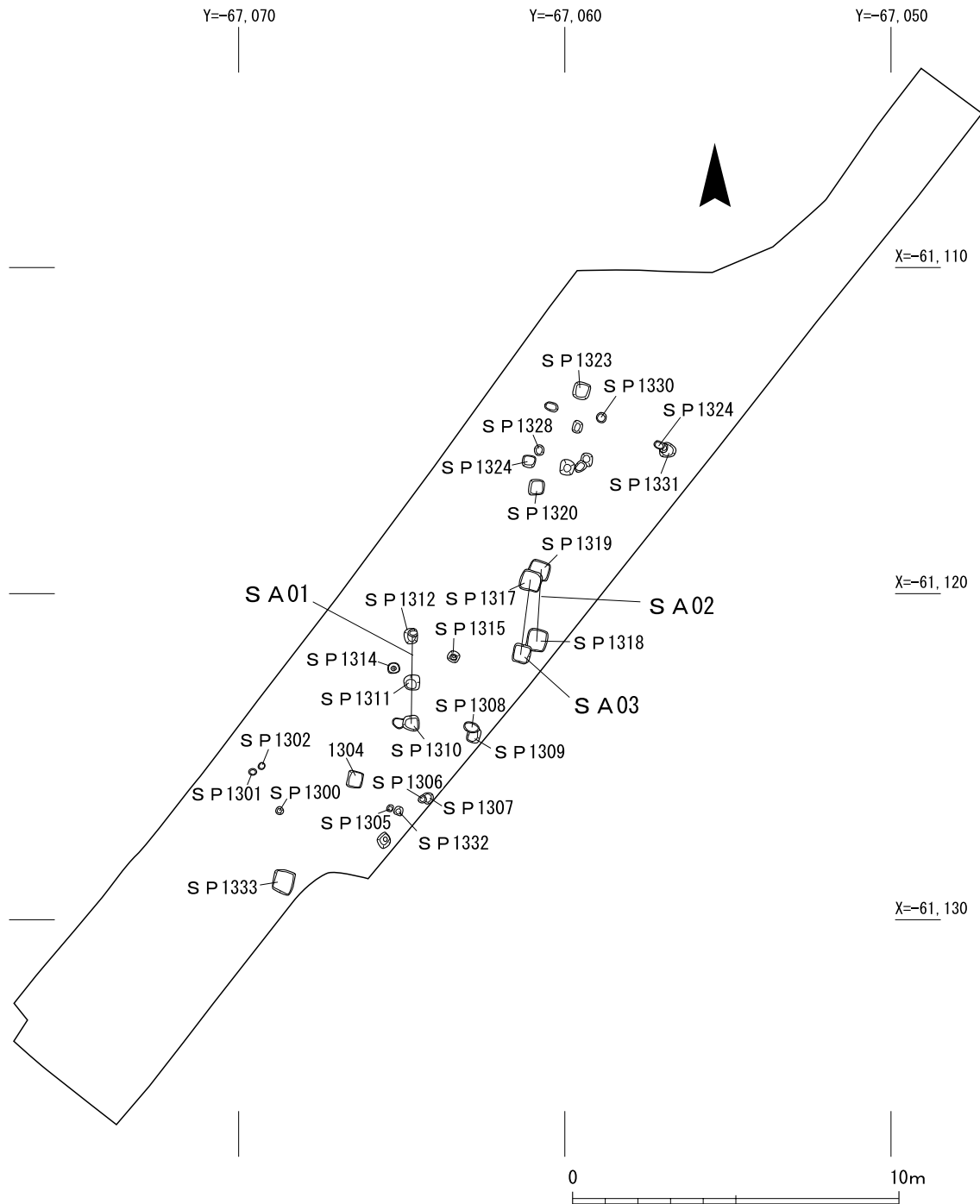


第127図 C 1 地区 第3面柵列 S A03、土坑 S K 102、柱穴 S P 115・131・138実測図

(1) C1地区(第126図)

調査地全面にわたって、40基近くの柱穴・杭跡・土坑を検出したが、狭い調査面のため建物の復原はできない。土師器、須恵器、中国製白磁等が出土した。

柵列SA03(第127図) 調査地の中央の西側で検出した、北東から南西の柵列である。検出長は3.84mで、柱間は0.8~1.4mである。柱穴SP108の掘形は長軸0.28m、短軸0.18mの楕円形で、SP111・112・119・129は直径0.24~0.32mの円形を呈する。掘形埋土はオリーブ褐色細砂、オリーブ褐色シルト混じる細砂である。SP108・119・129で直径0.12~0.16m、SP111・112で直



第128図 C2地区 第3面検出遺構平面図

径0.1mの柱痕を確認した。柱痕埋土は黒褐色細砂、暗灰黄色細砂、黒褐色粗砂などである。柱列の方位は北に対して39°東に振れる。出土遺物は、S P 108から土師器皿(第191図1369)が出土した。

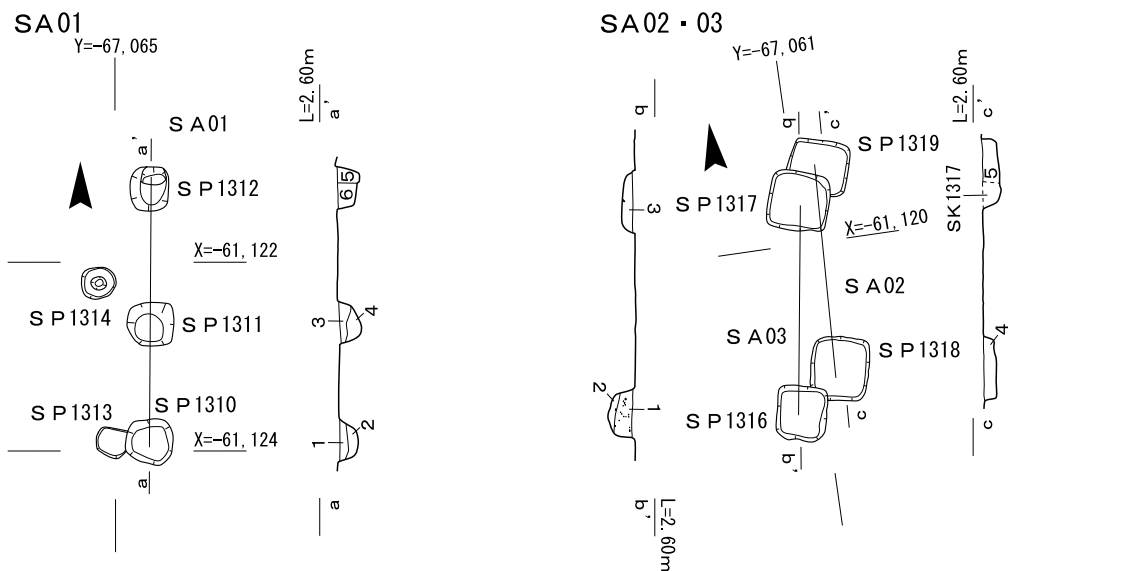
**柱穴S P 115**(第127図) S A 03の東で検出した。柱穴掘形は長軸0.94m、短軸0.68mの楕円形をとみられるが、第1面から確認していた近世の攪乱の影響を受けており、明確な柱穴掘形は不明である。掘形埋土は暗オリーブ褐色極細砂、オリーブ黒極細砂である。直径0.3mの柱痕を確認した。柱痕埋土は灰色極細砂である。柱痕の底部に長辺0.2m、短辺0.14mの長方形の石が置かれており、その上面に長さ0.44m、直径0.14mの柱根が2分の1程度乗る形で残存していた。

**柱穴S P 126** 調査地中央で検出した。柱掘形は長辺0.56m、短辺0.38mの円形を呈する。掘形埋土は2層で、上層から暗褐色細砂、オリーブ褐色シルト混じる粗砂である。遺物は土師器皿のほか、瓦質鍋(第191図1377)が出土している。

**柱穴S P 131**(第127図) 調査地中央付近で検出した。平面形は長軸0.44m、短軸0.38mの楕円形を呈する。埋土は暗灰黄色細砂、黒褐色細砂混じるシルトである。

**柱穴S P 138**(第127図) 調査地の南西隅で検出した。平面形は長軸0.42m、短軸0.34mの楕円形を呈する。埋土は上層がオリーブ褐色粗砂、下層が暗褐色シルト混じる粗砂である。遺物は、下層より土師器皿(第191図1368)が出土した。

**土坑S K 102**(第127図) 調査地の北東端で検出した。北東部は調査地外へ広がり、2分の1程度を確認した。平面形は長軸0.68m、短軸0.32m以上の楕円形を呈すると推定される。埋土は

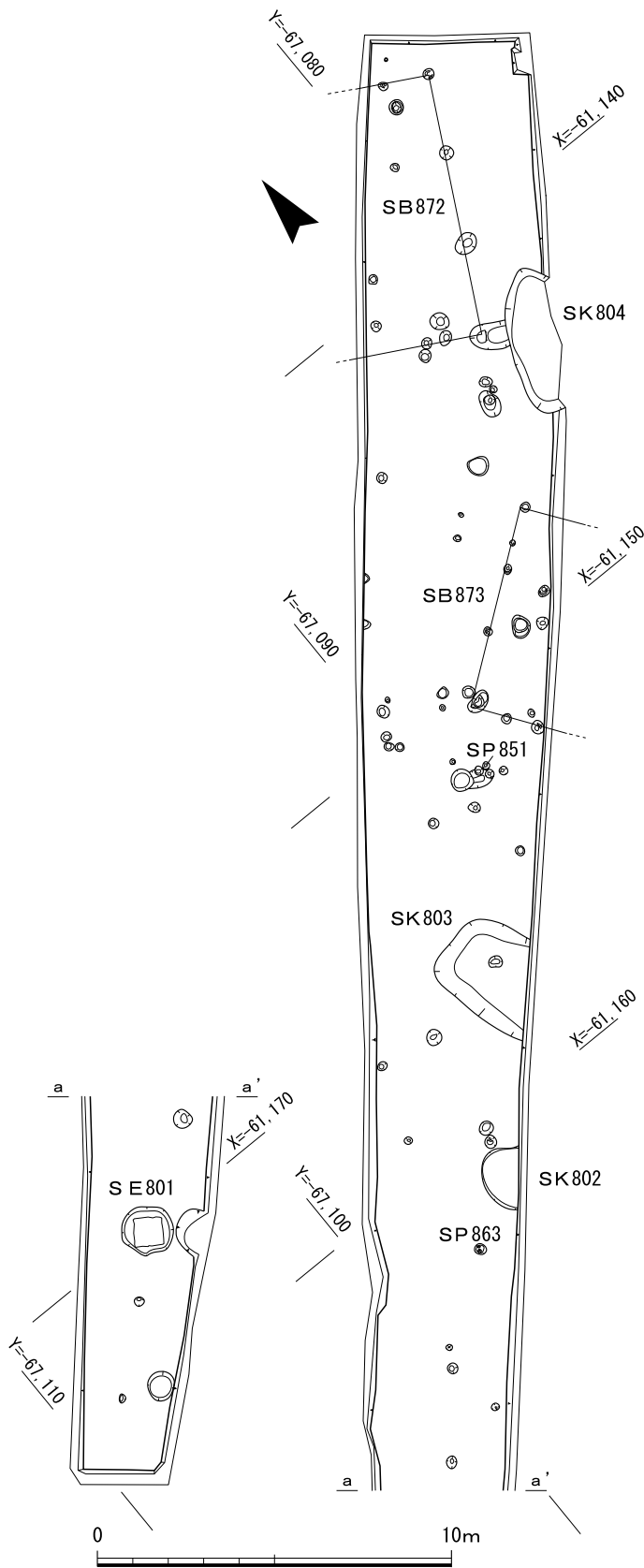


1. 暗褐色(10YR3/4)シルト極細砂
2. 暗灰黄色(2.5Y5/2)シルト
3. 褐色(10YR4/4)極細砂シルト
4. オリーブ黒色(5Y3/2)シルト(グライ化灰)
5. オリーブ褐色(2.5YR4/3)シルト質極細砂(一部グライ化)
6. オリーブ黒色(5Y3/4)極細砂含むシルト

1. にぶい黄褐色(10YP4/3)シルト焼土片多く含む
2. 暗灰黄色(2.5Y4/2)極細砂
3. 暗褐色(10YR3/4)極細砂
4. 褐色(10YR4/4)極細砂
5. 暗褐色(10YR3/4)極細砂



第129図 C2地区 第3面柵列S A 01~03実測図



第130図 C3地区 第3面検出遺構平面図

オリーブ褐色粗砂である。遺物は、土師器皿(第191図1365)が出土した。

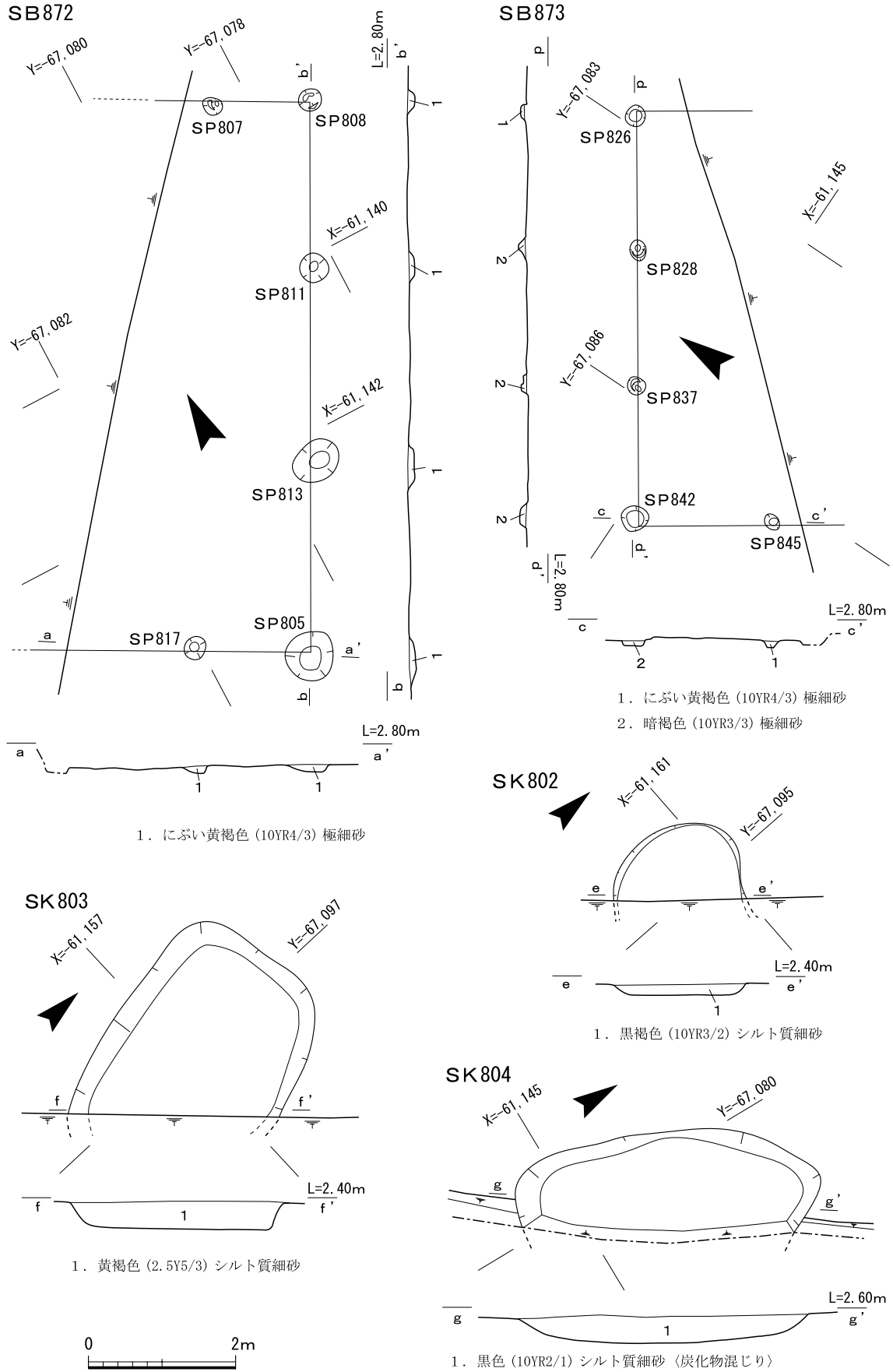
(綾部侑真)

(2) C2地区(第128図)

調査地中央よりを中心として柵列3条、大小34基の柱穴を検出した。柱穴を掘立柱建物として復原することはできなかった。

柵列SA01(第129図) 調査地中央よりやや南西で検出した、南北方向の柵列である。2間分を検出し、検出長2.8mである。柱間の距離はSP1312・1311間が1.6m、SP1311・1310間が1.2mを測る。柱穴掘形は一辺0.4~0.5mのややいびつな隅丸方形を呈する。掘形埋土はオリーブ褐色シルト、暗灰黄色シルト、オリーブ褐極細砂含むシルトなどである。SP1312では直径16cmの柱痕を確認した。柱痕埋土はオリーブ褐シルト質極細砂である。柱列の方位は南北を向く。SP1312の掘形埋土から鎌倉時代初頭とみられる土師器皿(第195図1478)が出土しており、柵列の時期もそれにならうものと考えられる。

柵列SA02(第129図) 柵列SA03に西側の一部を切られる形で検出した、南北方向の柵列である。柱間は2.2mで1間分を検出した。ある。柱穴掘形は隅丸方形を呈し、SP1316は1辺0.52m、SP1317は1辺0.66mである。掘形埋土は、



第131図 C3地区 第3面掘立柱建物SB872・873、土坑SK802～804実測図

にぶい黄褐色シルト、暗灰黄色極細砂、暗褐色極細砂である。柱列の方位は北に対し5°東に振れる。遺物は出土しなかったものの、柵列S A02と主軸をほぼ同じくし、柱穴掘形の大きさも近いことから短い間での建て替えと考えられる。

**柵列S A03**(第129図) 調査地中央東よりで検出した、南北方向の柵列である。柱間は2.2mで、1間分を検出した。柱穴掘形は1辺0.66mの隅丸方形を呈する。掘形埋土は褐色極細砂、暗褐色極細砂である。柱列の方位は北に対して7°東に振れる。

### (3) C3地区(第130図)

第3面は海拔2.4~2.6m付近で検出した遺構面である。調査範囲は全長約52m、幅約2.5~5.2mを測る。暗褐色極細砂層(第104図第20層)が遺構の基盤層である。ここでは遺構密度が薄まるが、掘立柱建物2棟、土坑等を検出した。

**掘立柱建物S B872**(第131図) 調査地北端部で検出した南北棟の掘立柱建物である。建物の方位はN-28°-Eである。建物西部が調査地外に延びている。南北3間(7.4m)、東西1間(1.6m)以上を測る。柱穴掘形は円形で、柱穴S P807とS P817は直径0.2m、深さ0.1mを測る。柱穴S P805は直径0.6m、深さ0.1mを測る。掘形埋土はにぶい黄褐色極細砂である。

**掘立柱建物S B873**(第131図) 調査地北部、S B872の南で検出した南北棟の掘立柱建物である。建物の方位はN-55°-Eである。建物東部が調査地外に延びている。南北3間(5.6m)、東西1間(1.8m)以上である。柱穴掘形は円形で、柱穴S P817は直径0.2m、深さ0.1mを測る。掘形埋土は鈍い黄褐色極細砂である。最も大きい柱穴S P805は直径0.3m、深さ0.1mの規模を測る。掘形埋土は暗褐色シルト質極細砂であり、須恵器杯・蓋(第199図1641~1644)、土師器甕、土錘(第199図1635・1638~1640)が出土した。

**井戸S E801** 第3面の調査段階で検出した井戸である。掘形は第2面では検出できなかったが、出土遺物から第2面の遺構と判断した。第2面検出遺構参照。

**土坑S K802**(第131図) 調査地中央南部で検出した不正形な円形の土坑である。土坑の東部が調査地外に延びる。直径は1.8m、深さ0.18mを測る。底面は平坦である。埋土は黒褐色シルト質極細砂で、須恵器の杯・土師器甕(第199図1599~1600)が出土した。

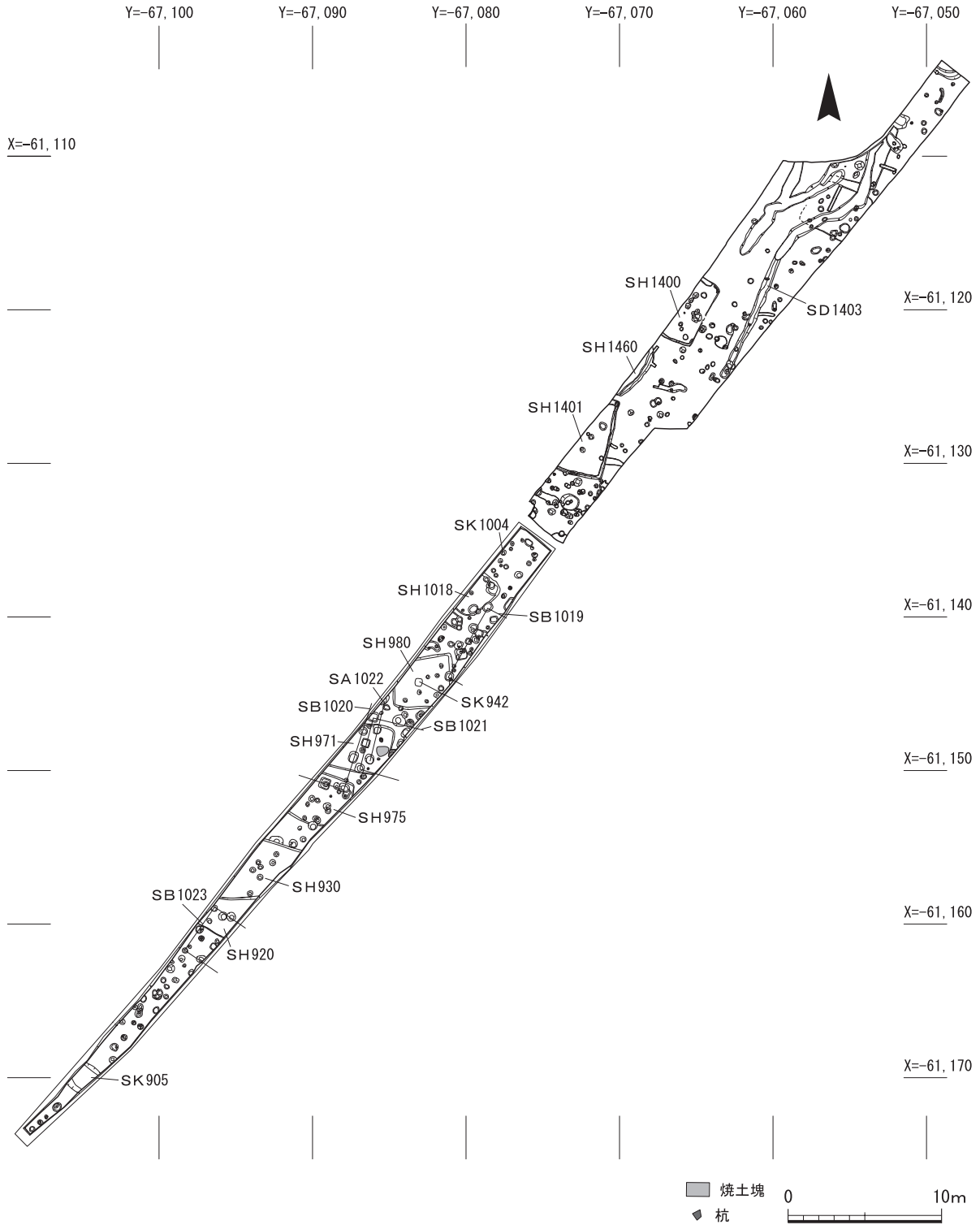
**土坑S K803**(第131図) 調査地中央南部で検出した隅丸長方形の土坑である。土坑の南部が調査地外に延びる。検出範囲での長さは3.18m、幅2.58m、深さ0.4mを測る。底面は平坦である。埋土は黄褐色シルト質細砂で、須恵器の杯・蓋(第199図1602・1603・1605・1610)、土師器高杯・甕・鍋の把手(第199図1601・1604・1606~1611)が出土した。さらに鉄滓(第199図1609)の出土もみた。

**土坑S K804**(第131図) 調査地北部で検出した楕円形の土坑である。土坑の東部が調査地外に延びる。全長4.16m、検出幅1.4m、深さ0.4mを測る。底面は平坦である。埋土は炭化物混じりの黒色シルト質細砂で、多数の須恵器と土師器が出土した。須恵器には杯・蓋(第199図1615~1618・1621~1632)がある。このうち蓋(第199図1618)には、天井部外面に『角田?』・『□』の墨書が認められた。土師器には甕・高杯・杯(第199図1612・1613・1619・1620・1633)等がある。

さらに鉄滓(第202図1634)の出土もみた。

柱穴 S P 851 調査地北部、S B 873の柱穴 S P 826の北で検出したやや歪な円形掘形の柱穴である。直径0.6m、深さ0.1mを測る。埋土は暗褐色シルト質細砂で、須恵器杯(第200図1650)が出土した。

柱穴 S P 863 調査地南部で検出した円形掘形の柱穴である。直径0.3m、深さ0.25mを測る。



第132図 C地区 第4面検出遺構平面図

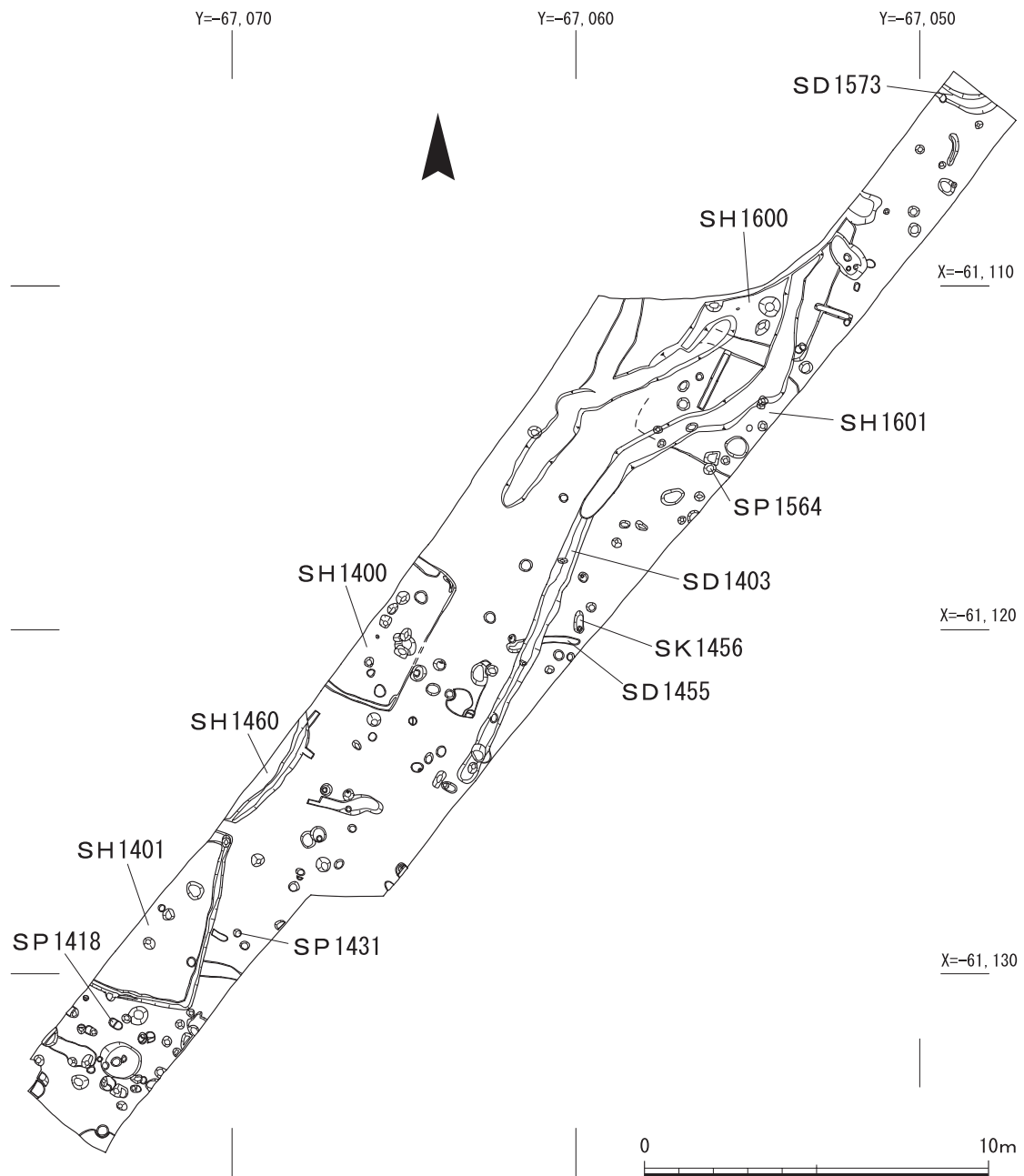


埋土は暗褐色シルト質細砂で、土師器甕（第200図1649）が出土した。

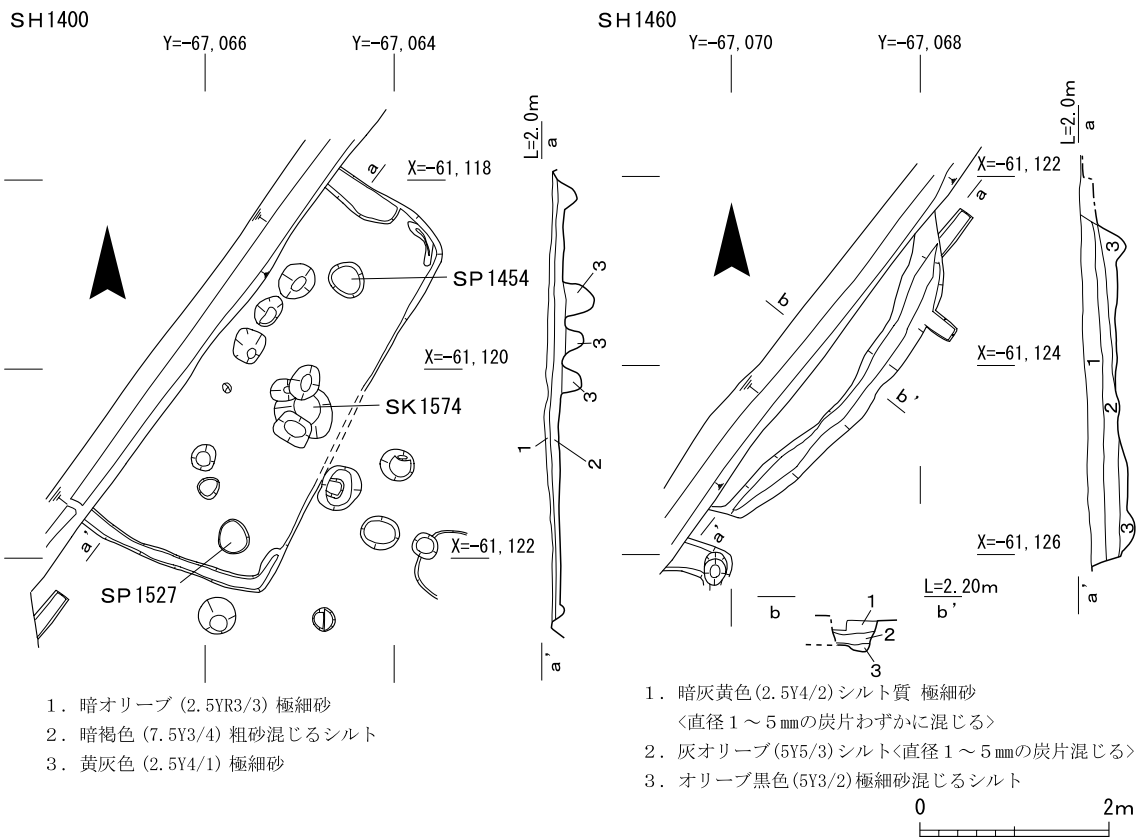
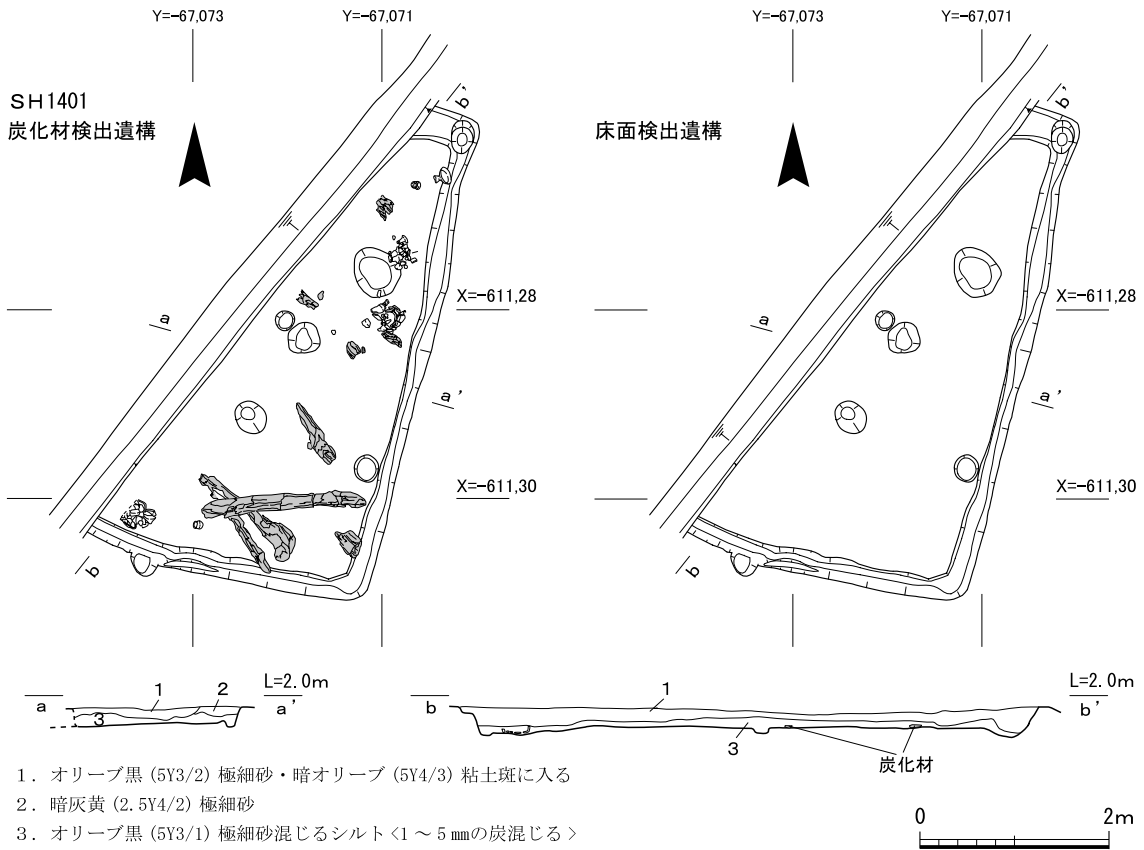
柱穴 S P 865 調査地南部、土坑 S K 802の南西で検出した円形掘形の柱穴である。直径0.3m、深さ0.2mの規模を測る。埋土は暗褐色シルト質細砂で、須恵器蓋（第200図1658）が出土した。

6) 第4面の調査(第132図)

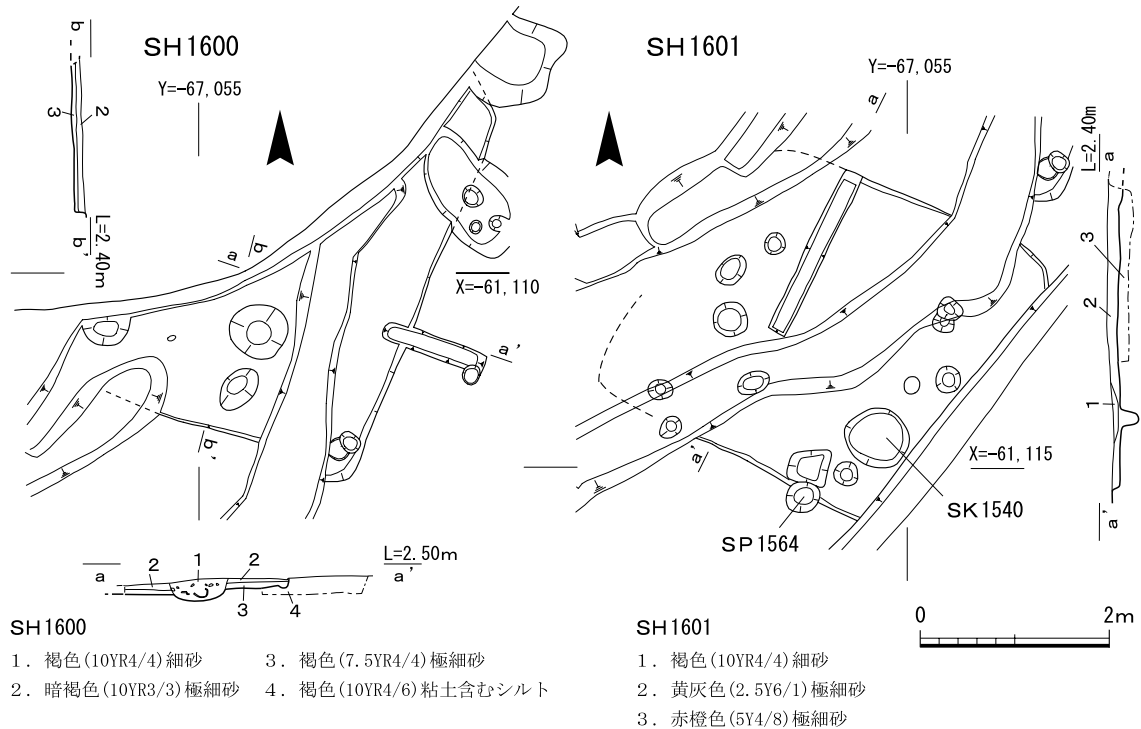
古墳時代の遺構面である。C 2 地区では、方形竪穴建物・溝・土坑、C 3 地区では掘立柱建物や竪穴建物、土坑・柱穴を検出した。C 1 地区では調査面積が狭く、安全勾配を保持して掘削することができなかったため、この時期の遺構面は確認できなかった。



第133図 C2地区 第4面検出遺構平面図



第134図 C2地区 第4面竪穴建物SH1400・1401・1460実測図



第135図 C2地区 第4面竪穴建物SH1600・1601実測図

(1) C2地区(第133図)

古墳時代の方形竪穴建物4基、溝、土坑などを検出した。方形竪穴建物のうち1基は炭化した柱材が竪穴内に埋没していた。

**竪穴建物SH1401(第134図)** 調査地南西部で検出した、平面方形を呈する竪穴建物である。竪穴建物の東側3分の1程度を検出し、大部分は調査地外へ延びる。規模は、検出範囲で南北辺5.3m、東西辺最大3mを測る。壁高は0.24mを測り、竪穴内埋土には大きく2層の堆積が確認された。床面直上のオリーブ黒色極細砂混じるシルトには、量のばらつきはあるものの検出範囲全体に炭化した木材が埋没しており、この建物が焼失したと考えられる。周壁溝は幅0.2~0.24m、深さは最大で0.13mである。床面で、5基の柱穴を検出したが、竪穴建物に伴うかどうかは不明である。建物の方位は北に対して15°東に振る。柱穴からは遺物は出土しなかった。床面からは、小型丸底壺、高杯、甕などが出土している。遺物から古墳時代前期の建物と推測される。

**竪穴建物SH1400(第134図)** 調査地中央西側で検出した、平面方形を呈する竪穴建物である。竪穴建物の東側2分の1程度を検出した。検出範囲で、南北辺4.12m、東西辺最大2mを測る。壁高は0.16mを測る。周壁溝は南側と北側の一部で確認し、幅0.16~0.32mを測り、北側部分で幅が広くなる。深さは最大0.12mである。建物の方位は北に対して27°東に振る。床面で10基の柱穴、土坑を検出した。SP1454・1527は層位より後世の遺構の残りと考えられる。SK1574は貯蔵穴の可能性はあるが、土坑内から遺物は出土していない。

**竪穴建物SH1460(第134図)** 竪穴建物SH1400の北側で検出した竪穴建物である。建物の大半が調査地外に延びており、全体の5分の1程度しか調査できなかった。壁高は0.28mを測り、

周壁溝は幅0.24~0.32m、深さ最大0.12mである。床面建物中央よりやや南西で炭化した木材を検出した。建物埋土には1~5mm程度の炭片を含むが、検出範囲が狭いため、竪穴建物S H1401と同様の焼失した建物と判断しがたい。土師器甕の破片が出土している。

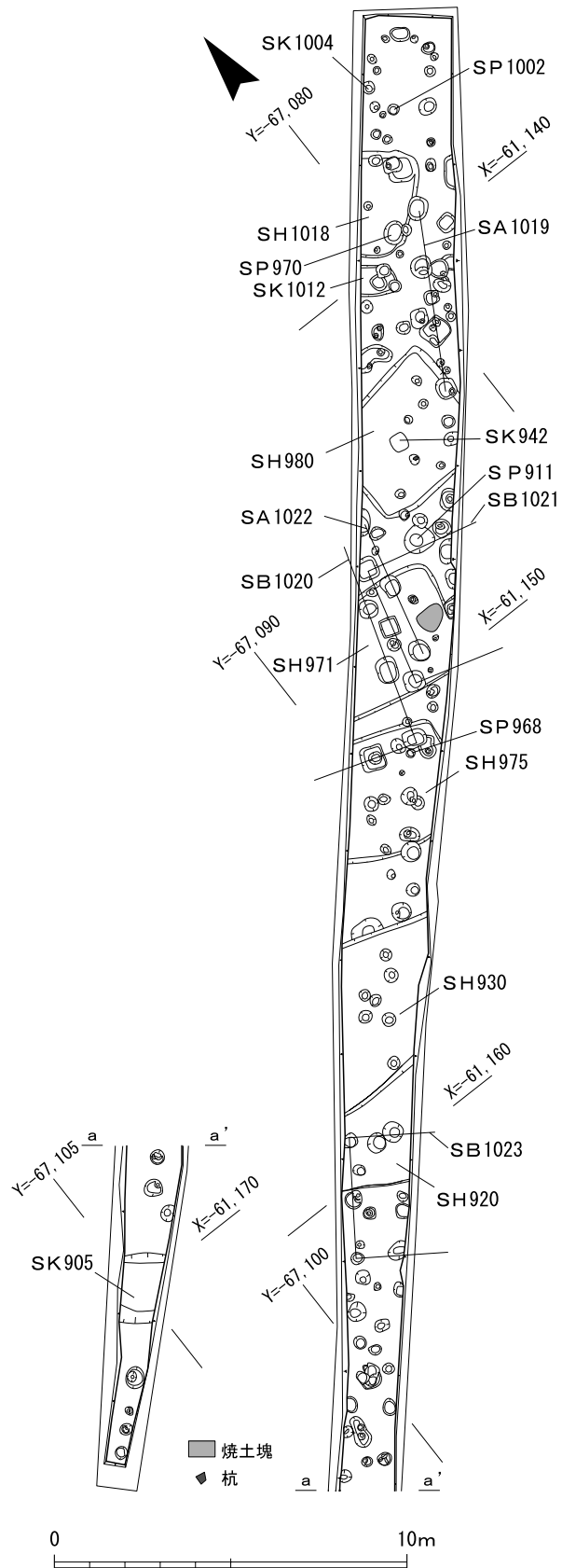
**竪穴建物 S H1600** (第135図) 調査地北東部で検出した、平面方形とみられる竪穴建物である。建物全体の2分の1程度を確認し、南北辺は4.2mである。建物主軸は北に対して20°東に振る。建物の壁体は後世の削平を受け、深さは0.12mを測るにすぎない。支柱穴および周壁溝は検出されなかった。

**竪穴建物 S H1601** (第135図) 竪穴建物 S H1600より0.52m南西で検出した、平面方形とみられる竪穴建物である。南北3.2m、東西2.4m以上になると考えられる。建物の壁体は0.12mを測る。支柱穴・周壁溝は確認できなかった。建物の方位は北に対して東に25°振る。SK1540は直径0.6mの円形を呈し、貯蔵穴と推測される。埋土は褐色極細砂質シルト、暗オリーブ褐色極細砂質シルトである。

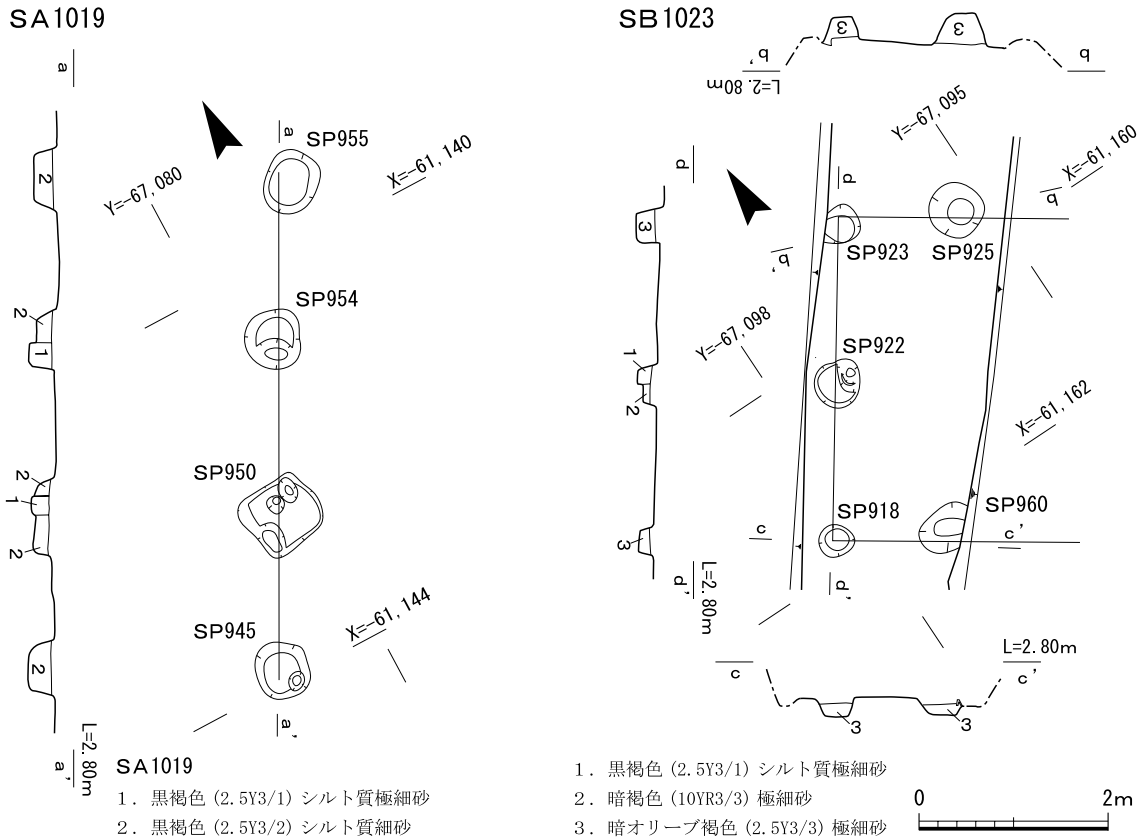
**溝 S D1403** 調査地中央で検出した、南西から北東にかけて延びる溝である。検出長8.5mで、幅0.4~0.6m、深さは最大0.2mである。溝の北東端は攪乱により確認ができなかった。溝の方位は北に対して25°東に振る。時期を特定する遺物は出土していないが、竪穴建物 S H1400と主軸を同じくすることから、同時期と考えられる。

(綾部侑真)

(2) C3地区(第136図)



第136図 C3地区 第4面検出遺構平面図



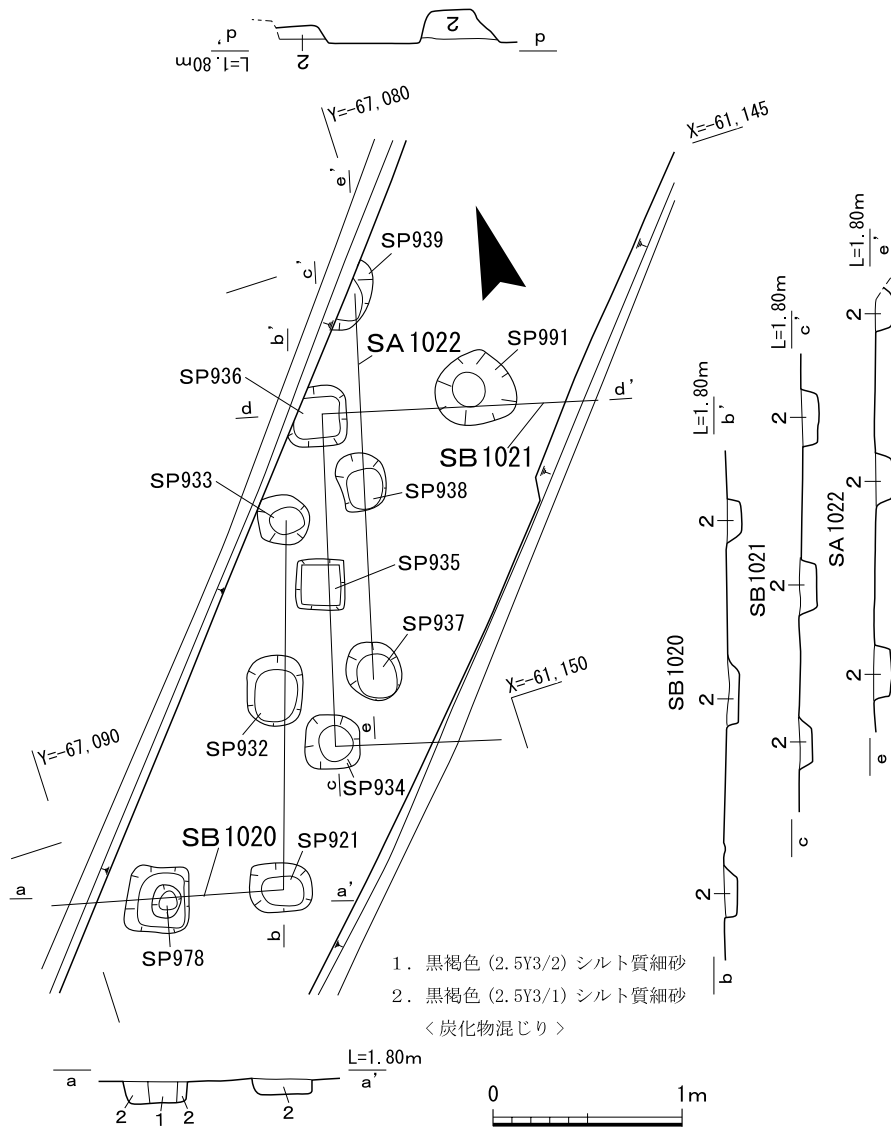
第137図 C3地区 第4面柵列SA1019、掘立柱建物SB1023実測図

第4面は、調査範囲は全長約52m、幅約0.8m(南端)～3.0m(北部)を測る。オリーブ褐色シルト質細砂層(第104図第24層)が遺構の基盤層である。北東から南西に向かって遺構面が緩やかに下がる第4面の海拔は、調査地北端で1.8m、南端部で1.4m付近である。ここでは掘立柱建物3棟と建物の可能性の高い柵列2条、竪穴建物6基、土坑・柱穴を検出した。

調査終了間際に南部域で重機を使用してトレンチによる下層確認調査を行った。第4面基盤の第22層は0.3mの厚さであるが、無遺物層である。その下にはオリーブ黒色シルト層(第104図25層)が掘削深度以下まで続く。この第22層も無遺物層である。掘削最下部は海拔0.4mである。

**掘立柱建物SB1020(第138図)** 調査地中央北部で検出した、南北棟と判断される掘立柱建物である。南北2間(4.0m)以上、東西1間(1.2m)以上の規模と考えられる。建物の主軸方位は、N-18°-Eである。柱穴掘形の平面形は方形であるが、角が丸みを帯び形が整わないものもみられる。SP978は一辺0.64m、深さ0.25mを測る。掘形埋土は黒褐色シルト質細砂である。直径0.3mの柱痕を確認した。柱痕は黒褐色シルト質細砂で、炭化物が混じる。

**掘立柱建物SB1021(第138図)** SB1020の東で検出した、東西棟の掘立柱建物である。建物の東部は調査地外となり、全体規模は不明である。南北2間(3.5m)、東西1間(1.6m)以上の規模と考えられる。建物の主軸は、N-16°-Eである。柱穴掘形の平面形は方形であるが、角が丸みを帯び形が整わないものもみられる。柱穴掘形は規模がほぼ揃い、一辺0.6m、深さ0.2mを測る。柱穴SP991は掘形上部が図化記録前に崩れたことから不整形で大きくなったが、崩壊前は他と

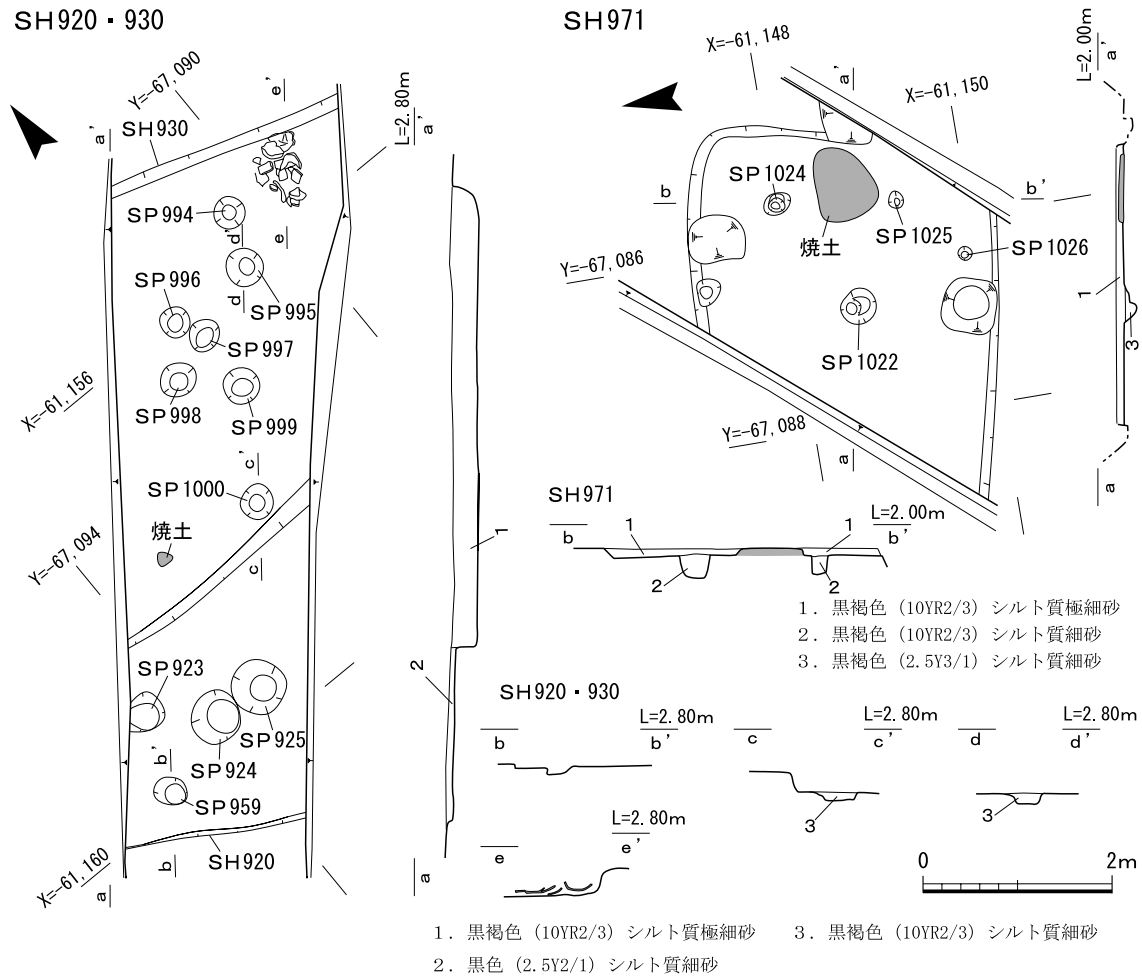


第138図 C3地区 第4面掘立柱建物SB1020・1021、柵列SA1022実測図

ほぼ同規模であった。柱穴掘形埋土は黒褐色シルト質細砂である。

**掘立柱建物SB1023**(第137図) 調査地南部で検出した、総柱と判断される掘立柱建物である。南北2間(3.4m)、東西1間(1.2m)以上の規模と考えられる。建物の方位は、N-33°-Eである。建物の東部は調査地外となり、全体規模は不明である。柱穴掘形の平面形は円形であるが、規模は揃わない。SP918・923は直径0.3m、深さ0.2mを測る。SP922・925・960は直径0.55m前後である。深さは柱穴SP925が0.38m、他の柱穴SP922・960が0.2mを測る。掘形埋土はほぼ暗オリーブ褐色極細砂である。柱穴SP922では直径0.2mの柱痕を確認した。柱痕の埋土は黒褐色シルト質極細砂である。

**柵列SA1019**(第137図) 調査地北部で検出した南北方向の柵列である。主軸方位はN-29°-Eである。。柵列は南北3間(5.4m)の規模を測る。柱穴掘形の平面形には、方形と円形が認められる。SP950のみが方形で、一辺0.7m、深さ0.2mを測る。掘形埋土は暗オリーブ褐色極細砂である。

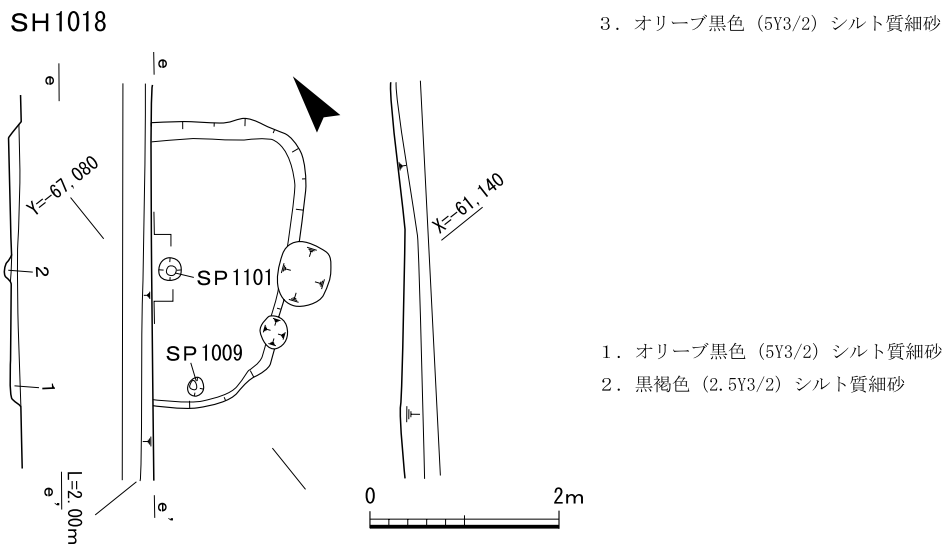
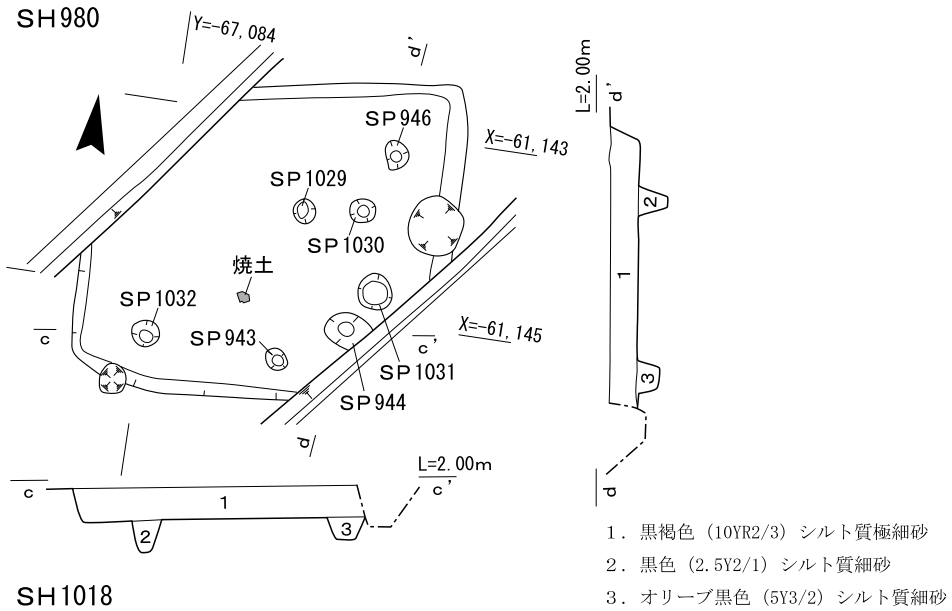
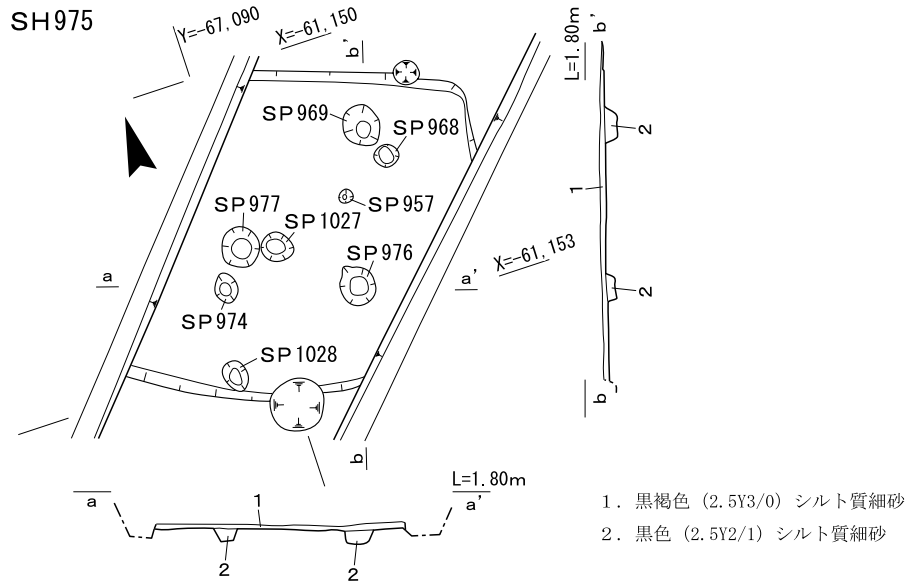


第139図 C3地区 第4面竪穴建物SH920・930・971実測図

直径0.2mの柱痕を確認した。柱痕の埋土は、黒褐色シルト質極細砂である。掘形埋土より暗色が強い。柱穴SP955は楕円形掘形で、長さ0.7m、幅0.5m、深さ0.25mを測る。埋土は黒褐色シルト質細砂で、須恵器蓋(第201図1713)が出土した。他の2基の柱穴掘形は円形で、直径0.6m、深さ0.2mを測る。

柵列SA1022(第138図) 調査地北部、SB1021と重複する南北方向の柵列であり、南北2間(4.0m)分を検出した主軸方位はN-16°-Eである。掘立柱建物の一部とみられるが、全様は不明である。柱穴掘形の平面形は丸みの強い方形で、埋土は黒褐色シルト質細砂である。柱穴SP937は円形に近いが、一辺0.6m、深さ0.2mを測る。黒褐色シルト質細砂である。柱穴SP938は方形を呈するが、一辺0.5~0.6m、深さ0.2mを測る。埋土は黒褐色シルト質細砂である。柱穴SP939は遺構の西部が調査地外となる。掘形は方形と推定するが、全様は不明である、南北の長さ0.8m、検出幅0.2m、深さ0.2mを測る。埋土は黒褐色シルト質細砂である。

竪穴建物SH920(第139図) 調査地中央南部で検出した方形の竪穴建物であり、今回の大川遺跡の調査範囲内において最も南で検出した竪穴建物である。SH930に竪穴の北部を切られる。検出範囲は、南側壁と床面の一部である。南壁にみる方位はE-3°-Nである。建物規模は南北3.4



第140図 C3地区 第4面竪穴建物SH975・980・1018実測図

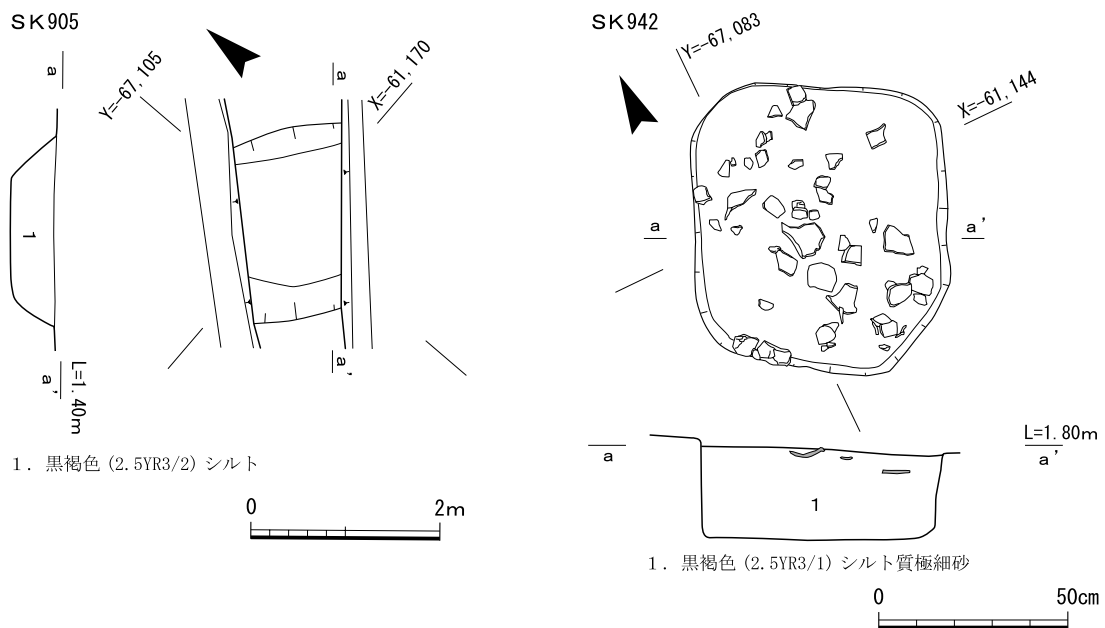


m以上、東西2.0m以上である。壁高は0.04mを測る。床面は平坦であり、周壁溝はみられない。柱穴4か所を検出したが、支柱穴は確認できない。

**竪穴建物 S H930 (第139図)** 調査地中央南部で検出したやや歪な長方形と推定される竪穴建物である。S H920を切る。検出範囲は建物の中央付近とみられ、建物の東側と西側が調査地外となる。南壁にみる方位はE-28°-Sである。建物規模は南北4.0m、東西4.6m以上である。壁高は0.3mを測る。床面は平坦であり、周壁溝はみられない。床面から柱穴7か所を検出したが、支柱穴は確認できない。床面の南東部で炉と判断される焼土を検出した。建物の埋土は黒褐色シルト質極細砂である。床面北壁に接して庄内併行期の甕(第201図1706)が出土した。遺物の大多数は古墳時代初頭である。一部古墳時代後期の土器(第201図1699)が含まれていたが、埋土上部での検出であり遺構上面に残っていた包含層からの混入遺物と判断される。

**竪穴建物 S H971 (第139図)** 調査地中央部で検出した長方形の竪穴建物である。建物の西部と南東角部が調査地外となる。建物の主軸方位はE-13°-Sである。建物規模は南北3.3m、東西4.4m以上である。壁高は0.1mを測る。床面は平坦であり、周壁溝は確認できなかった。東壁中央付近の床面から竈の一部と推測される焼土を検出した。焼土の範囲は東西に長い楕円形を呈し、長さ0.9m、幅0.6mを測る。竈の壁体は確認できなかった。床面に小規模な柱穴を数か所検出したが、支柱穴は確認できない。建物の埋土は黒褐色シルト質極細砂である。出土遺物には、土器片、管玉(第203図1800)がある。

**竪穴建物 S H975 (第140図)** 調査地中央部で検出した方形の竪穴建物である。S B1020の柱穴S P921・978(第136図)に切られる。建物の西部側と南東角が調査地外となる。建物規模は南北3.42m、東西3.75m以上である。壁高は0.03mを測る。建物方位はE-19°-Sである。床面は平坦であり、周壁溝は認められなかった。床面から8基の柱穴を検出した。床面北東部のS P969



第141図 C3地区 第4面土坑S K905・942実測図

と南東部のS P 976の2基の柱穴が支柱穴と判断される。S P 969は円形掘形で、直径0.4m、深さ0.15mを測る。掘形の埋土は黒色シルト質細砂である。P 976は円形掘形で、直径0.4m、深さ0.15mを測る。埋土は黒色シルト質極細砂である。S P 969の南側床面で検出したS P 968は、直径0.2m、深さ0.15mを測る。掘形の埋土は黒色シルト質細砂であり、甕の口縁部(第201図1709)が出土した。

**竪穴建物S H 980**(第140図) 調査地中央部で検出した方形の竪穴建物である。S B 1020の柱穴に切られる。建物の北西角と南東角が調査地外となる。建物規模は南北3.35m、東西3.9m以上を測る。壁高は0.38mを測る。床面は平坦であり、周壁溝は確認できなかった。床面東部から支柱穴と判断される柱穴として、S P 946とS P 944、S P 1032の3か所を検出した。支柱穴掘形は円形で、S P 946とS P 1032は直径0.3m、深さ0.4m、S P 944は直径0.4m、深さ0.2mを測る。埋土はS P 946・1032が黒色シルト質細砂、S P 944がオリーブ黒色シルト質細砂である。竪穴の埋土は黒色シルト質極細砂で、土師器壺・甕・高杯・ミニチュア壺等(第200図1656～1662)が出土した。

**竪穴建物S H 1018**(第140図) 調査地北部で検出した方形の竪穴建物である。S A 1019の柱穴S P 955に切られる。建物の西部側は調査地外となる。建物規模は南北3.0m、東西1.75m以上である。壁高は0.1mを測る。床面は平坦であり、周壁溝は検出できなかった。支柱穴は確認できない。竪穴の埋土はオリーブ黒色シルト質細砂で、須恵器杯身、土師器杯・甕(第201図1685～1686)が出土した。

**柱穴S P 1002** 調査地の北部、S H 1018の北側で検出した柱穴である。直径0.5m、深さ0.2mの規模を測る。埋土は暗褐色シルト質細砂で、土師器甕皿と鉄滓(第201図1683・1684)が出土した。

**土坑S K 905**(第141図) 調査地南部で検出した遺構である。遺構の東部と西部が調査地外となる。規模は東西1.2m以上、南北2.0m、深さ0.45mを測る。掘形の断面形は逆台形を呈する。出土遺物はない。

**土坑S K 942**(第141図) 調査地北部検出のS H 980の埋土を切っている。掘形平面形は隅丸方形で、東西0.65m、南北0.75m、深さ0.25mを測る。底面は平坦で、壁は垂直に立ち上がる。埋土は黒褐色シルト質極細砂で、上部付近から土師器・高杯(第201図1707・1708)が出土した。

(竹原一彦)

## 5. 出土遺物

3次にわたる発掘調査で548箱出土した。種類は弥生土器甕・壺・鉢、土師器皿、須恵器杯・皿・鉢・壺・甕、緑釉陶器皿、中国製白磁椀・皿、青磁椀・皿・青白磁、高麗青磁椀、朝鮮王朝陶磁椀、土錘、石帯、砥石、石鍋、石臼、鉄製品として鉄刀・鉄釘・鉄塊、銅製品として銭貨、木製品として下駄・漆器椀、鍛冶関連製品として鉄滓などである。

### 1) 第3次調査

#### (1) 第1トレンチ

第142図1～2は第1トレンチの包含層から出土した遺物の実測図である。1は瓦器鍋である。小破片のため口径はやや前後するが推定27.2cmである。2は古瀬戸小皿である。内外面とも施釉されているが、外面の下半部の一部は露胎である。いずれも、室町時代である。

#### (2) 第2トレンチ

第142図3～5は第2トレンチから出土した遺物である。すべて包含層から出土した。3は陶器すり鉢である。やや軟質に焼きあがっており、備前を模倣した江戸時代の湊焼きである。4は唐津椀である。上部は施釉されており、下部は露胎である。削りだし高台で、江戸時代初期である。5は石臼である。すり面は4分1ほど残っているに過ぎない。直径は推定15cmで、3分割が遺存している。おそらく、8分割されていたと考えられる。1分割は6条の筋目で構成されている。

#### (3) 第3トレンチ

第142図6～7は包含層から出土した遺物である。6は手づくね成形の土師器皿である。口径9cmの小皿で、底部の厚さが1cmと分厚い。口縁部は面取り手法と思われるので、鎌倉時代である。7は中国龍泉窯青磁杯である。口縁部が外反した、いわゆる端反りのタイプである。内外面とも施釉され、細かな貫入が認められる。室町時代前半である。

#### (4) 第4トレンチ

第4トレンチの包含層から出土した遺物には、第142図8～14がある。8は土師器皿である。口径13.8cmの中皿で、器高は3cm以上と高い。平安時代後期から鎌倉時代前期である。9は土師器皿である。直径11.8cmの中皿である。10は須恵器杯蓋である。口縁部は欠損している。11は土製紡錘車である。縦2.2cm、横3.6cmである。中央部は中空である。12は土師器高杯である。上下とも欠損しており、軸部のみが遺存している。13は土師器皿である。口径7.8cmの小皿で、底部の厚さが1cmと分厚い。鎌倉時代である。14は瓦器鍋である。口縁部は逆「く」の字状に外反する。

#### (5) 第5トレンチ

第142図15～38は第5トレンチの包含層、S X02・03から出土した遺物の実測図である。15は包含層とS X03から出土した回転台土師器杯である。内外面とも調整は回転ナデで、底部は回転糸きり(以降、糸きり)である。口径13.2cm、器高4.0cmである。16は回転台土師器皿である。底

部は糸きりである。口径8.4cm、器高1.6cmの小皿である。17は回転台土師器杯である。18は回転台土師器である。底部は分厚いが、柱状高台のように円筒形ではなく、外開きの高台である。底部は中空である。19は土師器台付き皿である。高台は貼り付けである。口径8.5cm、器高3.1cmである。20は土師器皿である。口径8.3cm、器高1.5cmである。21は東播磨系須恵器鉢である。底部のみ遺存している。22は土師器鍋である。体部のみ依存している。外面はタタキを施す。丹波・播磨型で、鎌倉時代である。23は中国龍泉窯青磁椀である。外面は鎬蓮弁文を施す。鎌倉時代である。24は土師器皿である。口径8.7cmの小皿である。25は土師器高杯である。軸部のみ遺存している。26・27は回転台土師器杯である。28は中国同安窯青磁皿である。歪んでいるためやや器高が低い。外底面には墨が付着しており、転用硯であった可能性がある。内底面にはジグザグの櫛描き紋を施す。29は中国南部白磁椀である。体部内外面とも施釉しているが、底部は露胎である。釉薬の表面は亀裂が入る、いわゆる粗い貫入がある。30は回転台土師器である。底部は分厚いが、柱状高台のように円筒形ではなく、円錐形に広がる。中空である。上部は欠損しており、器形の全容は不明である。31は土師器皿である。口径11.5cm、器高2cmの中皿である。32はS X02から出土した東播磨系の須恵器鉢である。口径29.6cmである。口縁部は肥厚しないので平安時代後期でも、やや古い時代に想定できる。硬く、焼きしまっており、一般的な魚住産ではなく、神出(かんで)産であろうか。33は陶器鉢(桶)である。口径20.3cmである。内面には櫛状の沈線が残る。室町時代の越前と思われる。34は土師器皿である。口径は16.7cmと大きく、大皿である。口縁部の先端はすぼまり、外面には2段ナデを施していることから、平安時代後期である。35は瓦器椀である。口径16.0cmである。体部上半は直線的で、丹波型である。36は回転台土師器杯である。外面に回転ナデが明瞭に認められる。37は土師器皿である。38は中国青磁椀である。内外面とも施釉しているが、遺存している外面最下部は露胎である。

#### (6)第6トレンチ

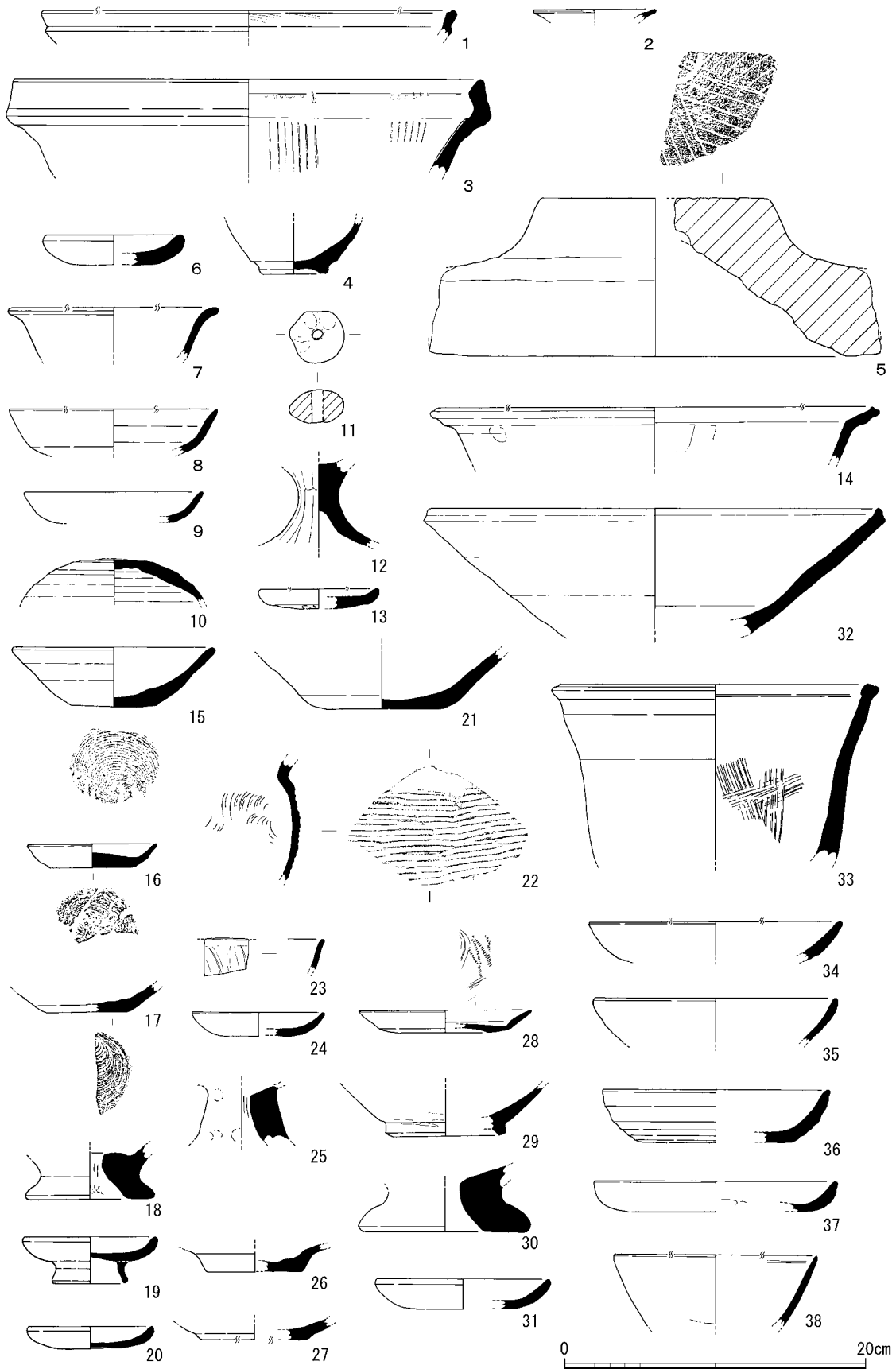
第143図39は瓦器鍋で、第6トレンチ包含層と集石遺構S X01から出土したものが接合した。口縁部は逆「く」の字に屈曲している。内外面とも調整はヨコナデである。口径29.6cm、現存高10.9cmである。

#### (7)第7トレンチ

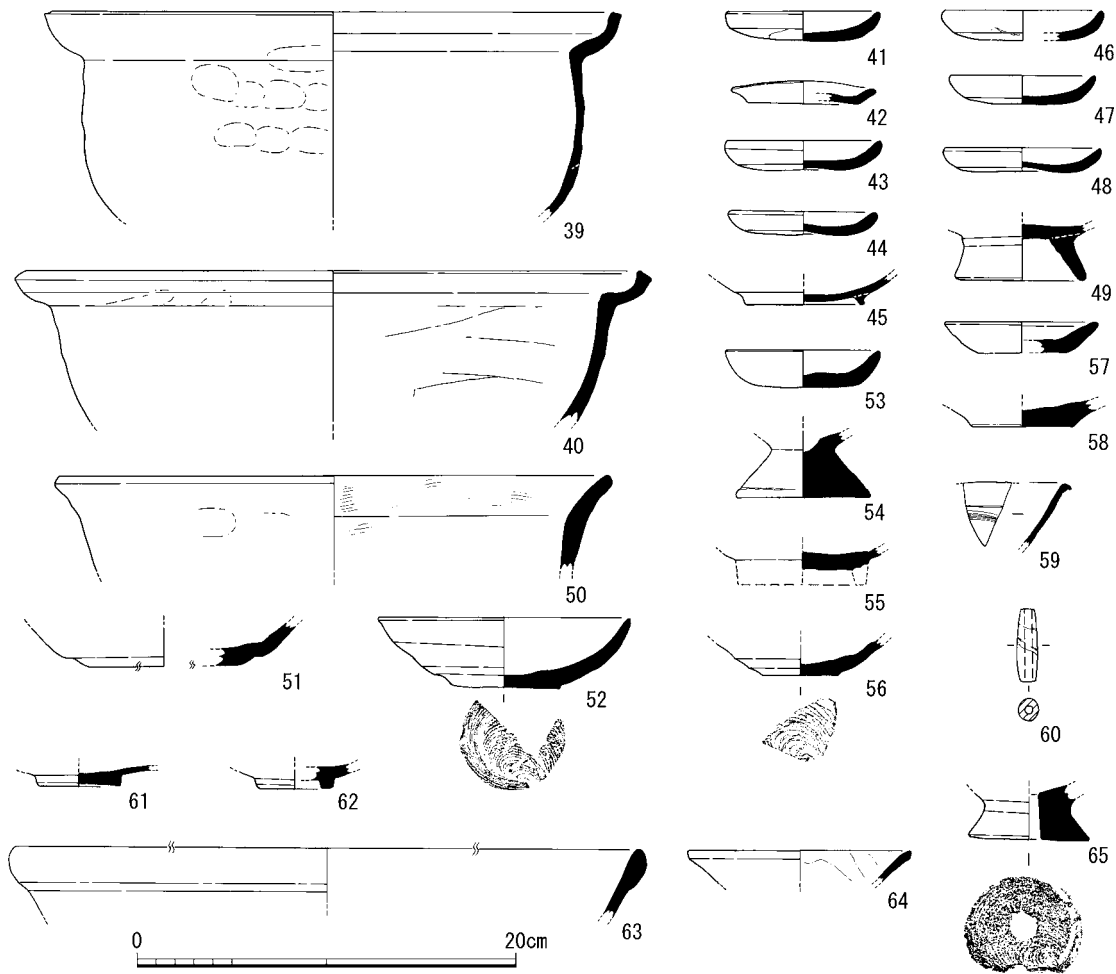
第143図40～49は第7トレンチの包含層から出土した遺物である。40は瓦器鍋である。口縁部は逆「く」の字に屈曲している。端部内側は鋭角である。内外面とも調整はヨコナデである。口径32.2cm、現存高8.0cmである。41・43・44・46～48は土師器皿である。42以外はすべて、手づくね成形である。41は体部下半に筋状の亀裂がある。成形が粘土円盤技法によるものである。42は回転台土師器皿である。43は、口縁端部を強くヨコナデして、いわゆる面取り状となっている。口径8.2cm、現存高1.6cmである。49は土師器高台付き皿である。高台部分のみ遺存している。

#### (8)第8トレンチ

第143図50～60は第8トレンチから出土した遺物で、すべて包含層から出土した遺。50は土師器鍋である。ほとんど摩滅しており、調整は不明である。口縁部内面にハケ目が一部残存してい



第142図 出土遺物実測図1

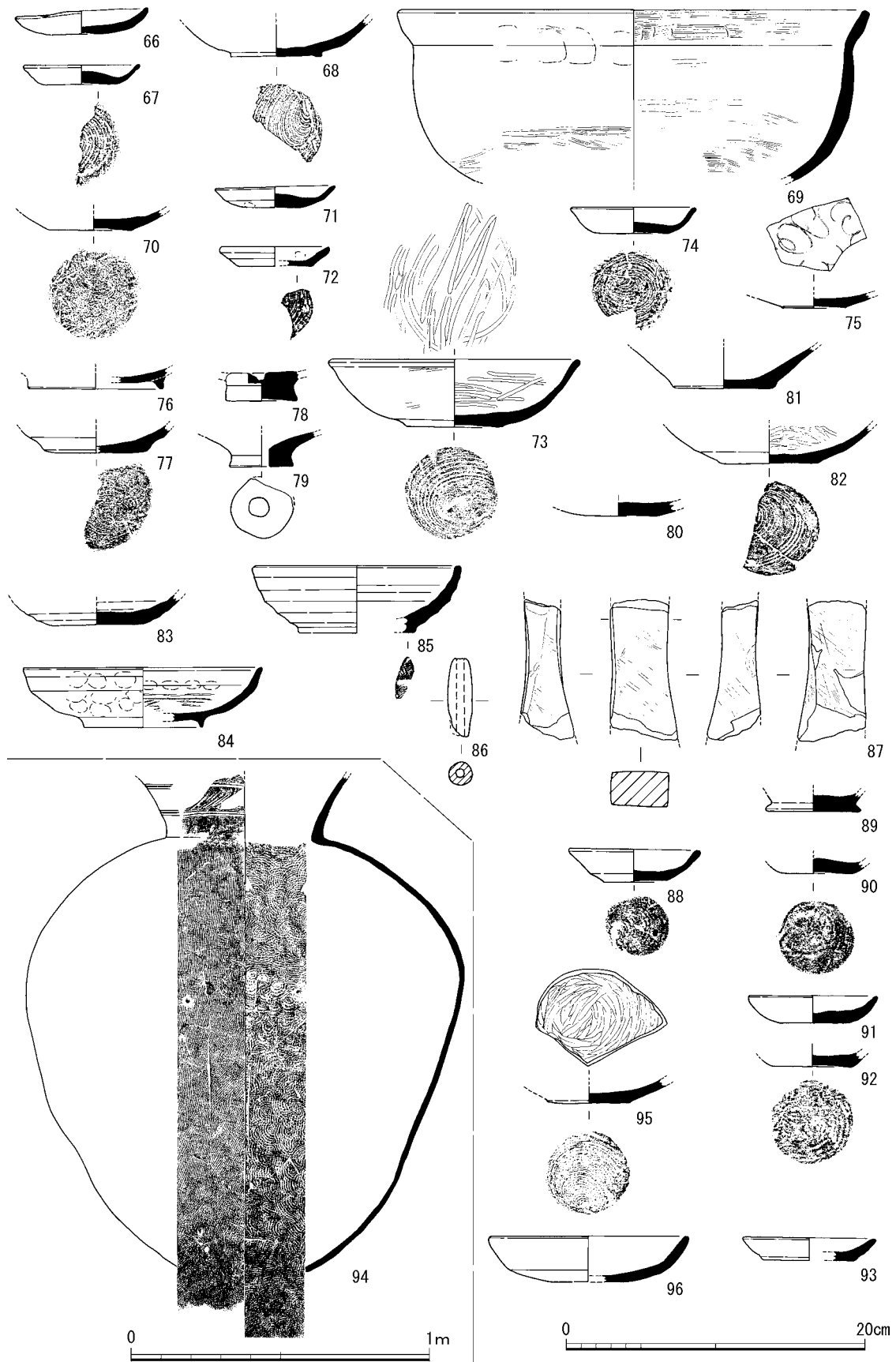


第143図 出土遺物実測図2

る。口径28.8cm、現存高5.0cmである。51・52・56・58は回転台土師器杯である。52は口径13.2cm、現存高3.8cmである。底部は糸きりである。53は土師器皿である。摩滅しており、回転台かどうかは不明である。54は回転台土師器のいわゆる柱状高台である。「ハ」の字状に広がっており、高台は中実である。55は中国福建省製白磁碗の底部である。高台は削りだして、おそらく大宰府分類V類のように、高くなると推定する。57は回転台土師器皿である。59は中国福建省製白磁碗である。大宰府分類V類で、口縁部が小さく外側に折れている。体部内面にはヘラ描きが施されている。60は土錘である。長さ3.8cm、直径1.1cmである。細身のタイプである。

#### (9)第9トレンチ

第143図61～65は第9トレンチの包含層から出土した遺物である。61・62は中国製白磁皿である。61はロクロ成形で、底部は削りだしの蛇の目高台である。内外面を施釉しているが、底部外面だけは露胎である。62はロクロ成形で底部は削りだして高台を作っている。この2点は胎土が同じで、軟らかい感じである。63は東播磨系須恵器鉢である。口縁部が外側に肥厚している。瓦質のように軟質である。64は古瀬戸皿で、ロクロ成形である。外面の一部と内面は施釉されている。しかし、内面は釉薬がかからない、露胎部分がある。65は回転台土師器のいわゆる柱状高台であ



第144図 出土遺物実測図3

る。「ハ」の字状に広がっており、高台は中実であるが、焼成前に中心部は空洞としている。

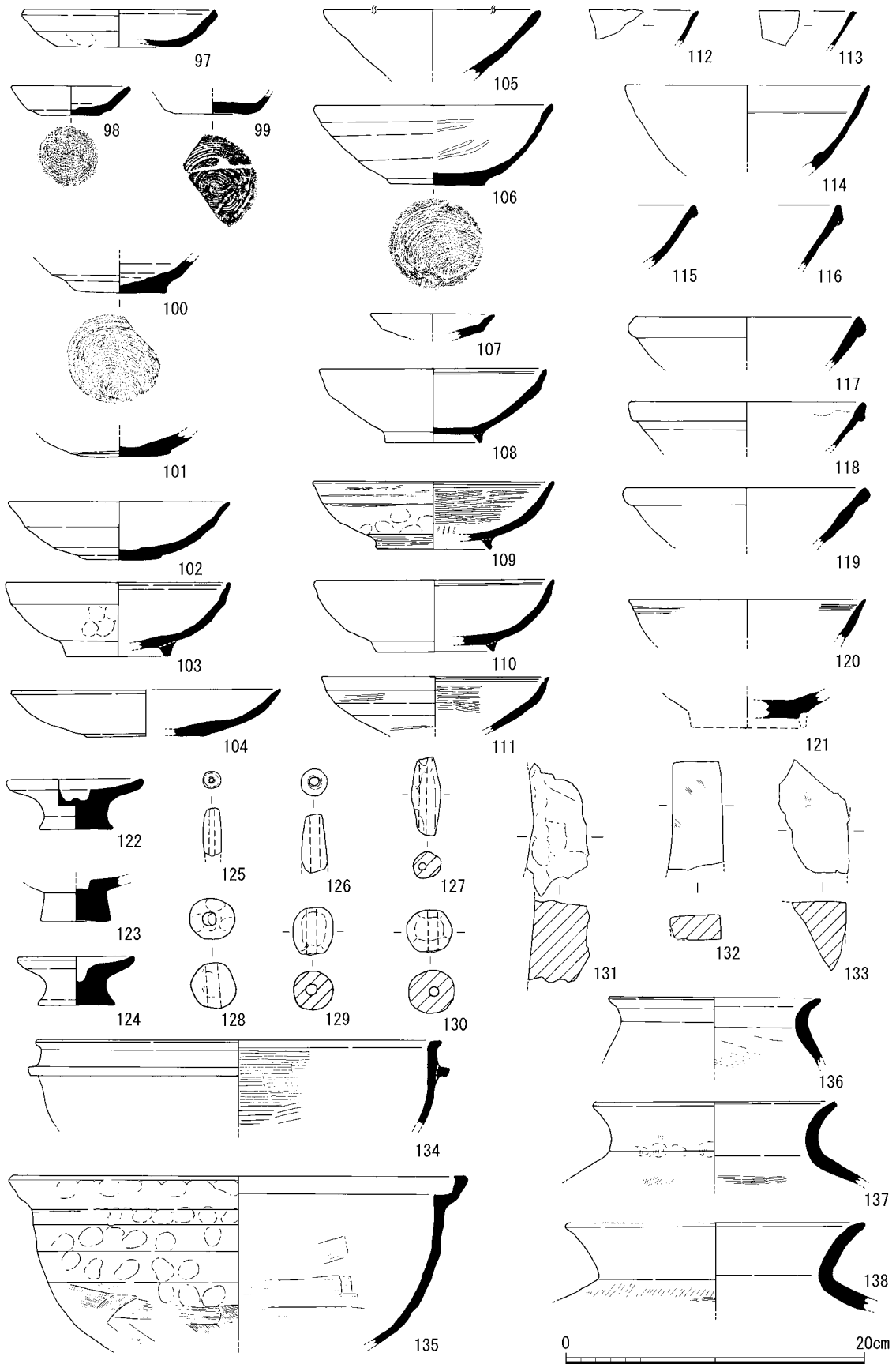
## 2) 第4・5次調査 土器

### (1) A1地区

第144図66～96はA1地区の第1面で検出した遺構から出土した遺物である。66はS P12から出土した完形の土師器皿である。口径8.8cm、器高1.6cmである。67はS P15から出土した回転台土師器皿である。口径7.6cm、器高1.3cmである。68はS P16から出土した回転台土師器杯である。69はS P14から出土した土師器鍋である。内面はヨコハケである。70はS P26から出土した黒色土器椀である。71・72はS P32から出土した。71は土師器皿である。72は回転台土師器皿である。73・75はS P42から出土した。73は内黒の黒色土器椀である。体部内面にミガキを施す。底部は低い平高台の丹後型で、12世紀後半である。75は中国製白磁皿である。内面にヘラによる刻み文を施す。底部は平高台である。74はS P46から出土した回転台土師器皿である。76はS P50から出土した瓦器椀である。変色しており、色調はにぶい黄橙色である。貼り付け高台である。77はS P61から出土した回転台土師器杯である。底部は糸きりである。78～81はS P63から出土した。78・79は土師器柱状高台である。78は見込みにくぼみがある。79は中央部が円筒形に中空である。80は内黒の丹後型黒色土器椀である。底部のみ遺存している。81は回転台土師器杯である。82はS P61から出土した黒色土器椀である。内面にはミガキを施す。底部は糸きりである。83はS P99から出土した回転台土師器杯である。84はS P100から出土した瓦器椀である。口縁端部内側に沈線がある。85はS P61から出土した回転台土師器杯である。86はS P312から出土した土錘である。87はS P61から出土した砥石である。上下は欠損している。長さ9.4cm、幅4cmで、4面を使用している。色調は淡黄色である。88はS P249から出土した回転台土師器皿である。口径8.8cm、器高1.3cmである。89はS P149から出土した回転台土師器杯である。底部のみ遺存している。90～92はS P260から出土した回転台土師器杯である。底部のみ遺存している。93はS P211から出土した回転台土師器皿である。94はS X02から出土した須恵器甕である。口縁端部のみ欠損している。内外面にタタキを施す。95はS X99から出土した内黒の丹後型黒色土器椀である。底部のみ遺存している。内面にはミガキを施す。96は土師器皿である。口径13cm、器高3.1cmである。

第145図97～138、第146図139～145は、A1地区第1面直上の包含層、遺構精査時に出土した遺物である。97は土師器皿である。口縁端部はいわゆる面取りで、口縁部は一段ナデである。口径12.8cm、器高2.3cmである。13世紀である。98は須恵器皿である。底部は糸きりである。口径7.8cm、器高2.0cmである。99は回転台土師器皿である。底部のみ遺存している。100・101は回転台土師器杯である。底部のみ遺存している。102は回転台土師器杯である。口径14.8cm、器高3.9cmである。103は土師器椀である。底部は貼り付け高台である。口径14.8cm、器高5.0cmである。口縁端部内側に沈線がある。104は回転台土師器杯である。口径18.0cm、器高3.1cmである。口径に対して器高が低い。105は内黒の丹後型黒色土器椀である。106は内黒の丹後型黒色土器椀で





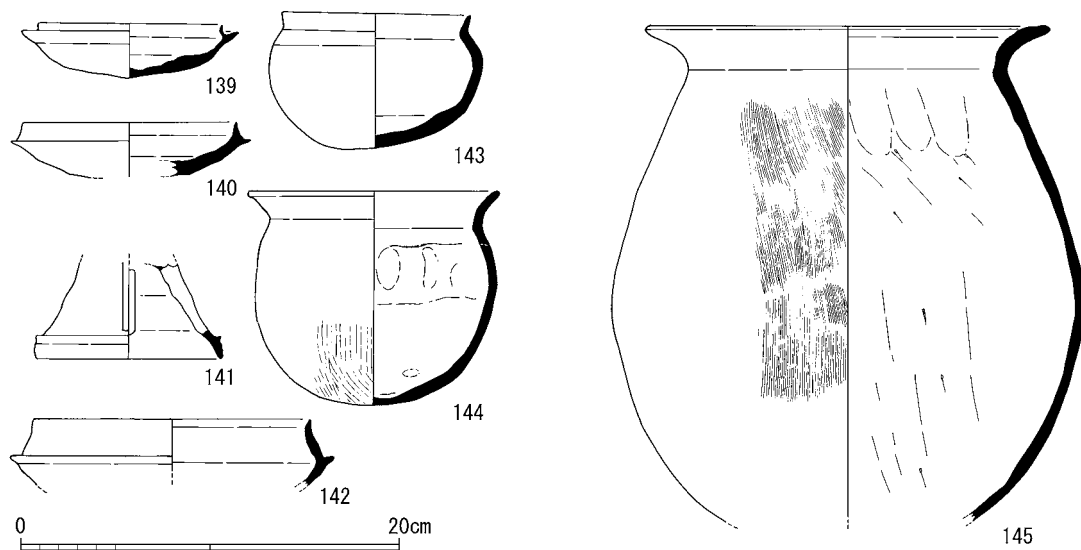
第145図 出土遺物実測図 4

ある。口径15.8cm、器高5.4cmである。107は瓦器皿である。108～111は瓦器椀である。いずれも口縁端部内側に沈線がある。109は内面に密なミガキが施されている。口径16cm、器高4.6cmである。いずれも12世紀である。112は中国製白磁輪花椀である。113は中国福建省製白磁椀である。口縁部が折縁なので、大宰府分類V類である。12世紀後半から13世紀はじめである。114は中国福建省製白磁椀である。口縁部は直線的で、大宰府分類V類である。115～119は中国福建省製白磁椀である。口縁部が玉縁なので、大宰府分類IV類である。120は中国浙江省龍泉窯製青磁椀である。大宰府分類I類である。121は中国福建省製白磁椀である。底部のみ遺存している。122・123・124は回転台土師器皿で、柱状高台である。見込みには小さなくぼみがある。122は口径9.0cm、器高3.4cmである。125～130は土錘である。125～127は円筒形である。128～130は半球状である。いずれも、中空である。131は炉壁片である。左側面が遺存している。湾曲しているので、左側が内面である。132・133は砥石である。上面のみ使用している。134は瓦器羽釜である。把手は小さく突出するもので14世紀である。135は瓦器鍋である。口縁部は「く」の字に屈曲している。内面はヨコハケで、外面はユビオサエを施す。12世紀後半から13世紀はじめである。136～137は古墳時代後期の土師器甕である。138は須恵器甕である。

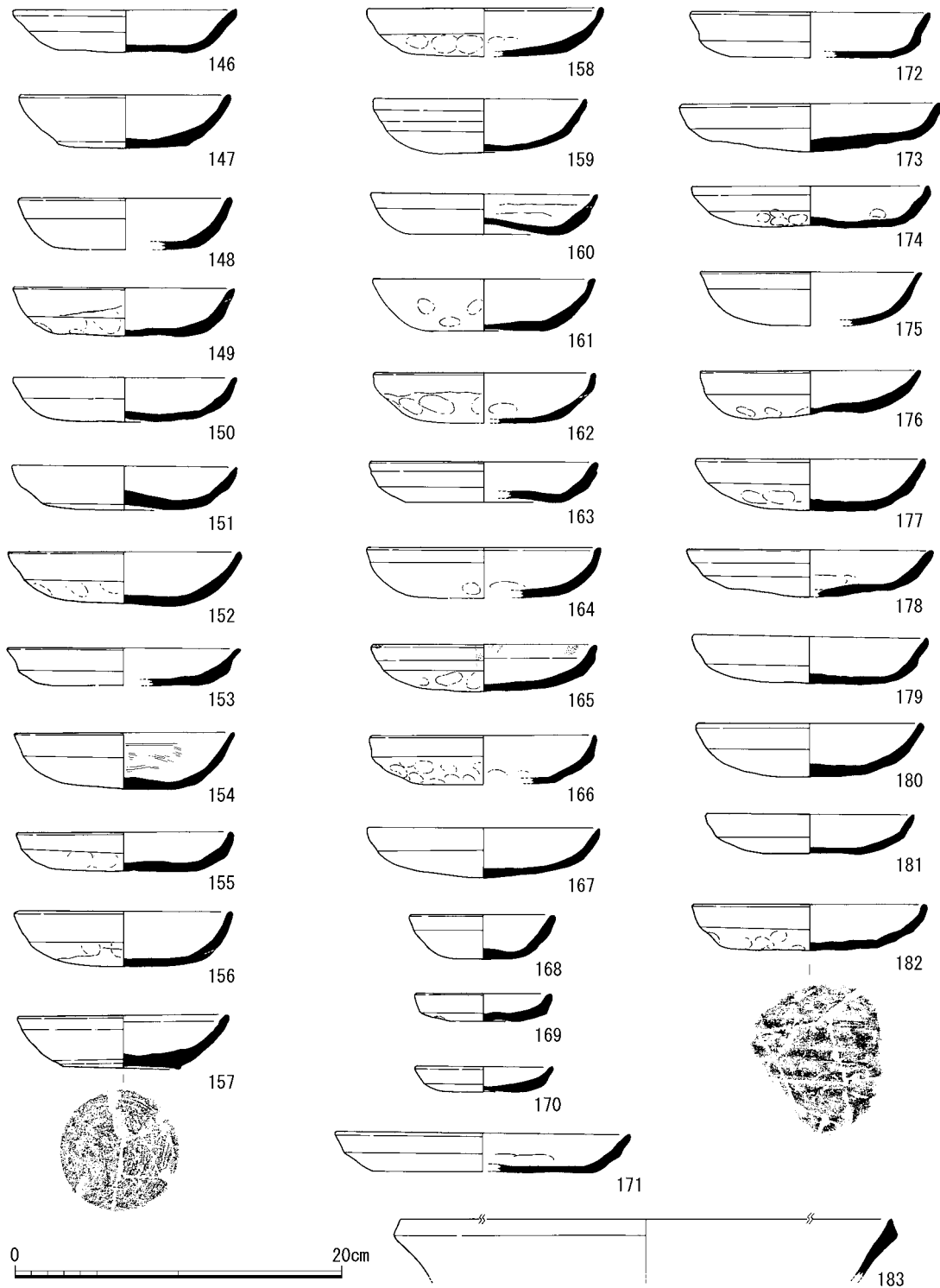
139・140・142は古墳時代後期の須恵器杯身である。141は古墳時代後期の須恵器高杯である。脚部のみ遺存している。143は7～8世紀の土師器鉢である。144・145は体部外面にタテハケを施す土師器甕である。

第147図146～183、第148図184～227、第149図228～244、第150図245～287、第151図288～304は、A1地区第2面で検出した遺構から出土した遺物である。

第147図146～183はすべてS K105から出土した。146は土師器皿である。口縁部は面取りしており、平安京のJタイプである。口径13.5cm、器高2.7cmである。13世紀前半である。147は回転台土師器皿である。口径13.8cm、器高3.3cmである。148～156は土師器皿である。口縁部は一段



第146図 出土遺物実測図5



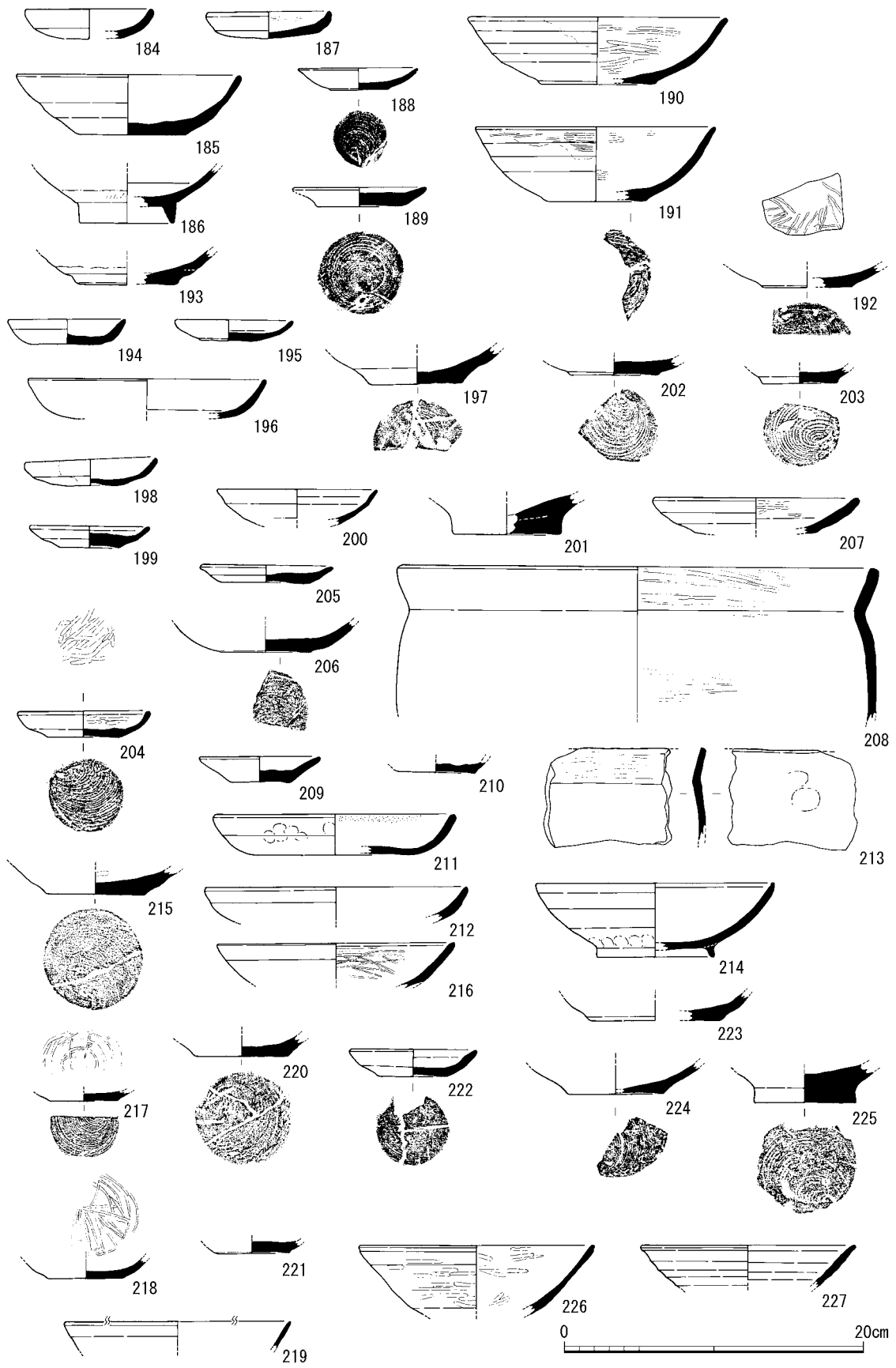
第147図 出土遺物実測図6

ナデで、端部は面取りではなく、すぼまるもので、平安京Aタイプの後継である。149の底部外面には板状圧痕がある。焼成前の乾燥時に板の上に置いたため付いたものである。157は回転台土師器皿である。糸きりが明瞭にある。口径12.8cm、器高3.4cmである。158～167は土師器皿である。159・163・165は口縁端部を除くと2段ナデである。それ以外は一段ナデである。以上は

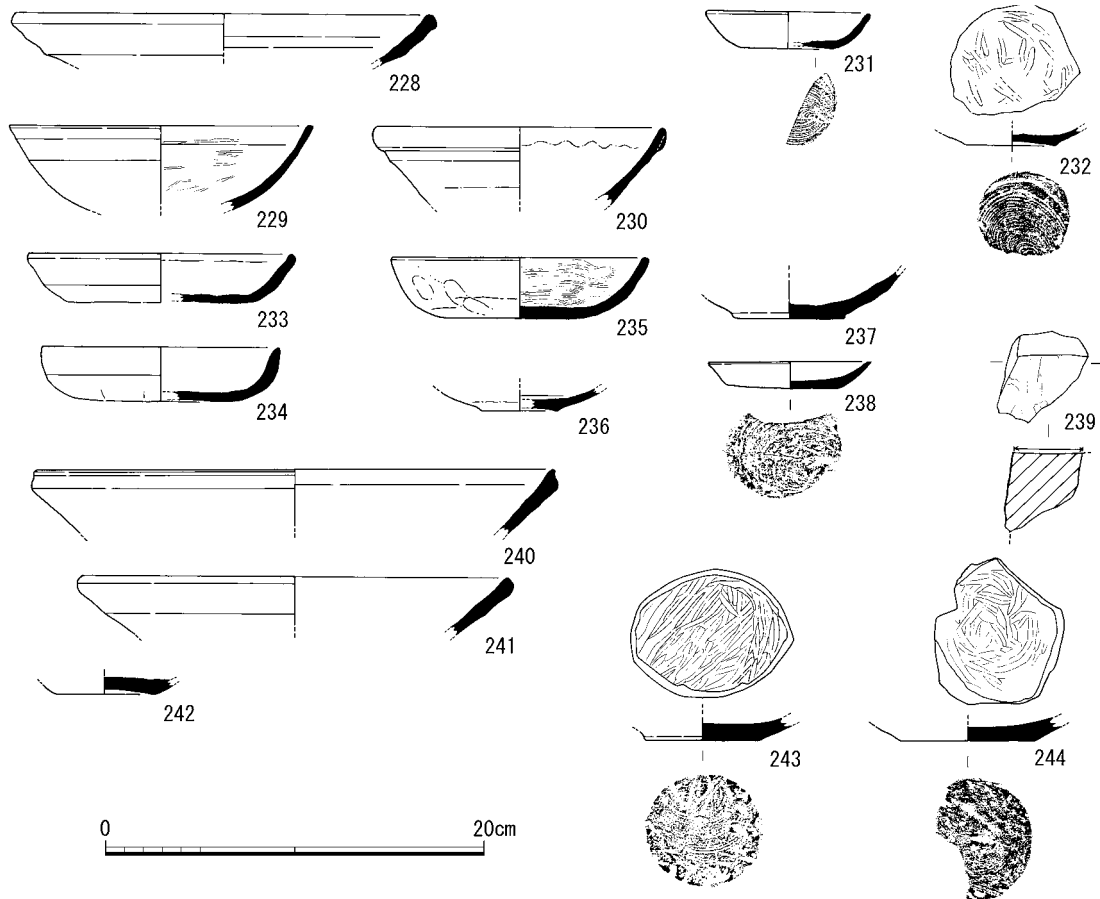
中皿である。168は土師器杯である。色調は灰色系で、焼成は不良である。口径8.6cm、器高2.8cmである。169・170は土師器皿である。小皿である。169は口径8.2cm、器高1.7cmである。171は土師器皿である。小破片であるが口径15cm以上、器高2.4cmであるので大皿である。172～182は土師器皿である。やや口径が大きい一群の中皿である。12世紀である。172は口径14.6cm、器高2.8cmである。174は口縁部は面取りしており、平安京のJタイプである。一段ナデである。口径14.5cm、器高2.5cmである。182の底部外面には板状圧痕がある。183は須恵器鉢である。口縁部は三角形で、12世紀の東播磨の魚住産である。

第148図184～186はS K 190から出土した。184は土師器皿である。185は回転台土師器杯である。口径14.8cm、器高4.1cmである。186は中国福建省製白磁碗である。大宰府分類V類で、底部のみ遺存している。187・188はS K 252から出土した。187は土師器皿である。188は回転台土師器皿である。189はS K 214から出土した回転台土師器皿である。190・191はS P 47から出土した内黒の丹後型黒色土器碗である。体部内面にミガキを施す。190は口径17.0cm、器高4.5cmである。192は包含層から出土した内黒の丹後型黒色土器碗である。底部内面にミガキを施す。193・194はS P 106から出土した。193は回転台土師器杯である。194は回転台土師器皿である。195～197はS P 107から出土した。195は回転台土師器皿である。196は土師器皿である。197は回転台土師器杯である。198～200はS P 212から出土した。198は瓦器皿である。歪みがあり、口径8.8cm、器高1.4～2.0cmである。199は回転台土師器皿である。200は中国製青磁皿である。201はS P 213から出土した回転台土師器杯である。202はS P 214から出土した内黒の丹後型黒色土器碗である。203はS P 214から出土した両黒の丹後型黒色土器碗である。204はS P 222から出土した両黒の丹後型黒色土器皿である。205・207はS P 244から出土した回転台土師器皿である。油煤が付着しており灯明用である。206はS P 247から出土した回転台土師器杯である。208はS P 244から出土した土師器鍋である。体部内面にヨコハケを施す。209・210はS P 259から出土した回転台土師器皿である。211はS P 251から出土した土師器皿である。口縁部に油煤痕が付着している。212はS P 267から出土した土師器皿である。213はS P 259から出土した土師器鍋である。214はS P 278から出土した瓦器碗である。口縁端部内側に沈線がある。215はS P 298から出土した内黒の丹後型黒色土器碗である。216はS P 300から出土した内黒の丹後型黒色土器碗である。217・218はS P 300から出土した両黒の丹後型黒色土器碗である。219はS P 302から出土した中国浙江省龍泉窯製青磁碗である。220はS P 305から出土した内黒の丹後型黒色土器碗である。221・223はS P 305から出土した回転台土師器皿・杯である。222はS P 306から出土した回転台土師器皿である。224はS P 305から出土した内黒の丹後型黒色土器碗である。225はS X 308から出土した回転台土師器杯である。226はS P 306から出土した内黒の丹後型黒色土器碗である。227はS P 306から出土した回転台土師器杯である。

第149図228はS P 310から出土した須恵器杯である。229はS P 314から出土した内黒の丹後型黒色土器碗である。230はS P 314から出土した中国福建省製白磁碗である。口縁部が玉縁なので、大宰府分類IV類である。231はS P 319から出土した須恵器皿である。232はS P 319から出土した



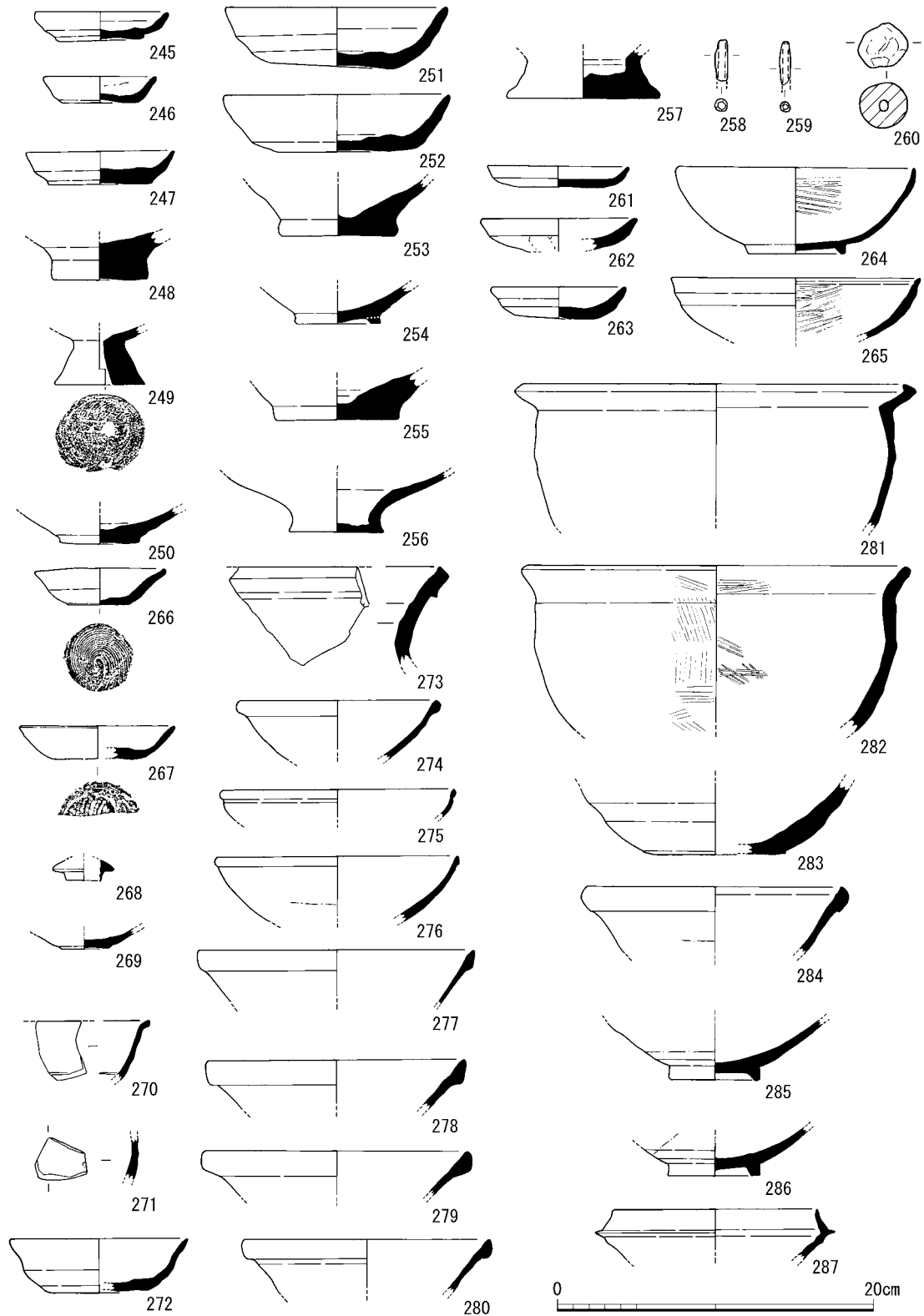
第148図 出土遺物実測図7



第149図 出土遺物実測図8

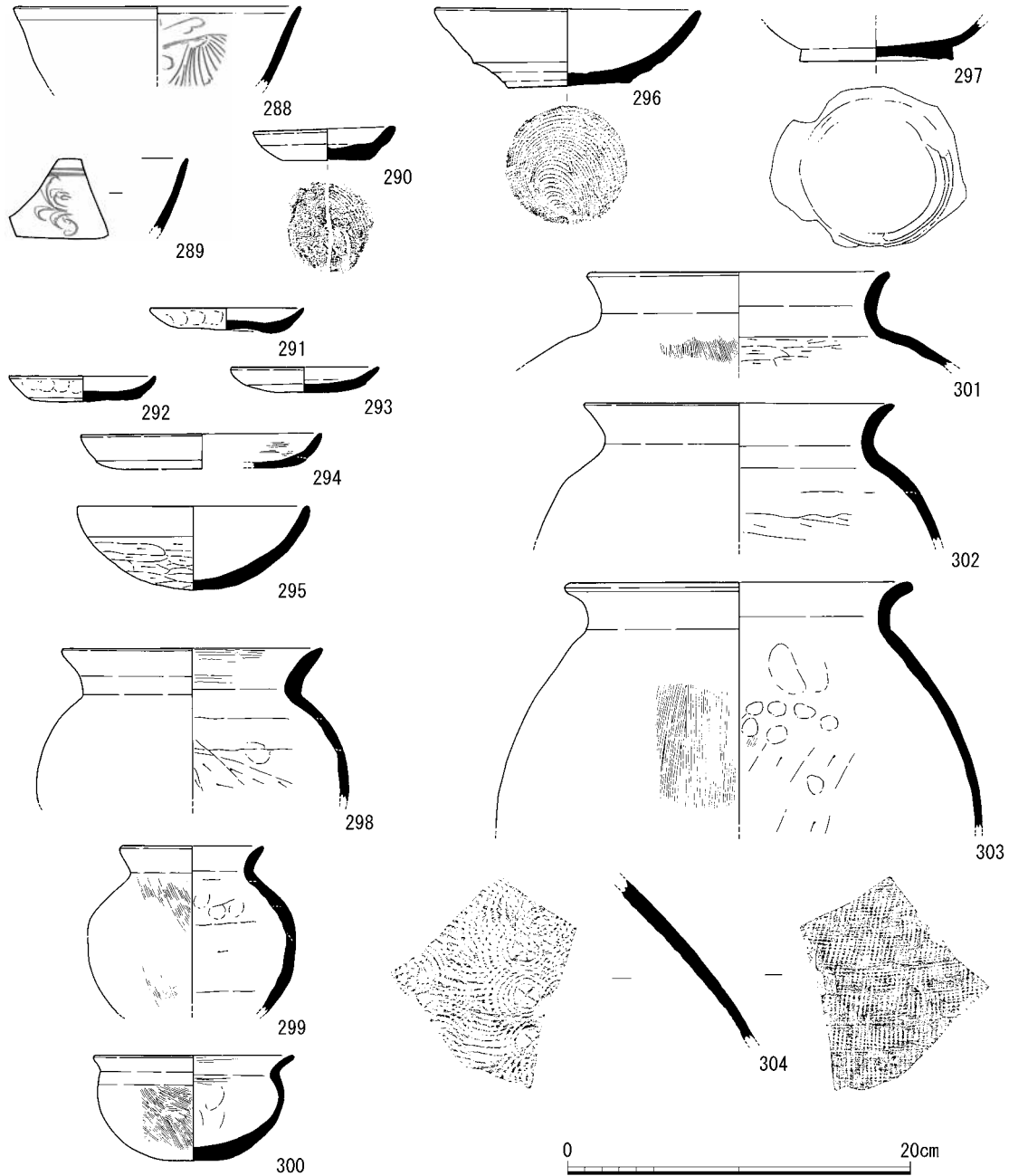
両黒の丹後型黒色土器碗である。233はS P 329から出土した土師器皿である。口縁部を面取りし、一段ナデである。12世紀末である。234はS P 340から出土した土師器皿である。235はS P 329から出土した土師器皿である。内面には板ナデを施す。236はS P 343から出土した中国南部製白磁皿である。237はS P 331から出土した回転台土師器杯である。238はS P 343から出土した回転台土師器皿である。239はS P 345から出土した砥石である。1面のみ使用している。240はS P 380から出土した東播磨系の須恵器鉢である。241はS X 308から出土した東播磨系の須恵器鉢である。242はS X 308から出土した回転台土師器皿である。243・244はS X 308から出土した内黒の丹後型黒色土器碗である。

第150図245～287は、A 1 地区第2面直上の包含層、遺構精査時に出土した遺物である。245～247は回転台土師器皿である。248・249は柱状高台の回転台土師器である。249は底部のほぼ中央が中空である。250・253・255・256は回転台土師器杯で、口縁部が広がるタイプである。256は底部の厚さが薄い。251・252は回転台土師器杯で、大型である。251は口径14.2cm、器高3.8cmである。254は瓦器碗である。257は内外面がロクロ成形の古瀬戸花瓶である。底部のみ遺存している。『愛知県史』分類の花皿類で、室町時代である。258～260は土錘である。258・259は円柱状の小型で、260は球状である。261～263は瓦器皿である。264・265は瓦器碗である。体部内面に密なミガキを施す。266は小型の回転台土師器杯である。267は須恵器皿である。底部は糸き



第150図 出土遺物実測図9

りで、生産地は不明であるが、12世紀の製品である。268は中国製白磁蓋である。小壺の蓋である。269は薄手の中国製白磁皿である。270は中国製青磁碗である。体部内面に横方向の沈線文様がある。271は緑釉碗の小片である。大川遺跡では1点のみ出土した。272は須恵器杯である。273は須恵器甕である。古墳時代後期から飛鳥時代である。274~280は中国製白磁碗である。274~276

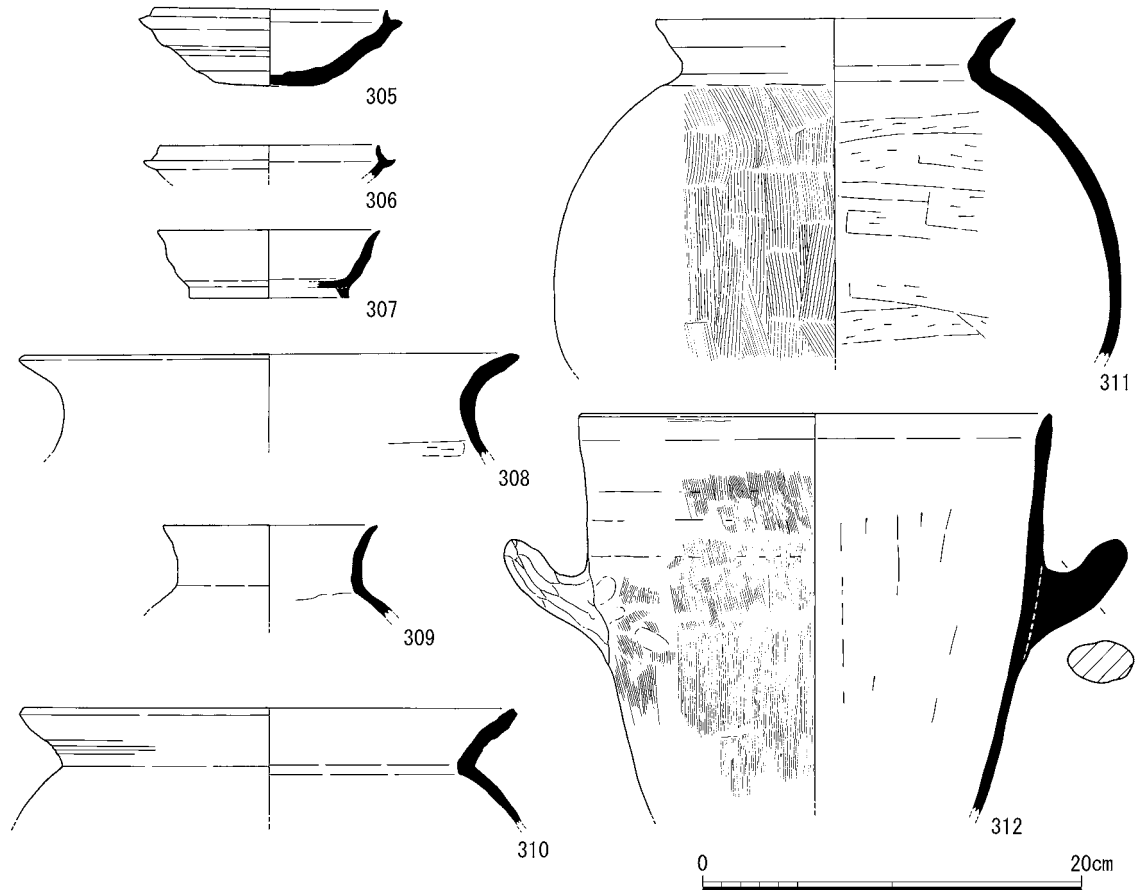


第151図 出土遺物実測図10

は大宰府分類Ⅱ類である。277～280は大宰府分類Ⅳ類である。281は山城系の瓦器鍋であるが、口縁端部内面を突出させるのは、丹後の特徴である。282は土師器鍋である。283は東播磨系須恵器鉢である。284～286は中国製白磁碗である。284は大宰府分類Ⅳ類である。285・286は大宰府分類Ⅴ類である。底部のみ遺存している。287は古墳時代後期の須恵器杯脚である。

第151図288～304は、すべて井戸S E 412から出土した。288・289は中国龍泉窯製青磁碗である。大宰府分類Ⅰ類である。290は回転台土師器皿である。291～293は土師器皿である。12世紀である。294は口径14cmの土師器皿である。8世紀である。295は土師器杯である。体部外面下半にヘラケズリを施す。8～9世紀である。296は口径15.4cm、器高4.6cmの回転台土師器碗である。297は漆器碗である。内面見込み外周に溝を施す。298・299・301～303は土師器甕である。8～9世





第152図 出土遺物実測図11

紀である。300は土師器壺である。奈文研分類の壺Bである。304は須恵器甕の体部片である。

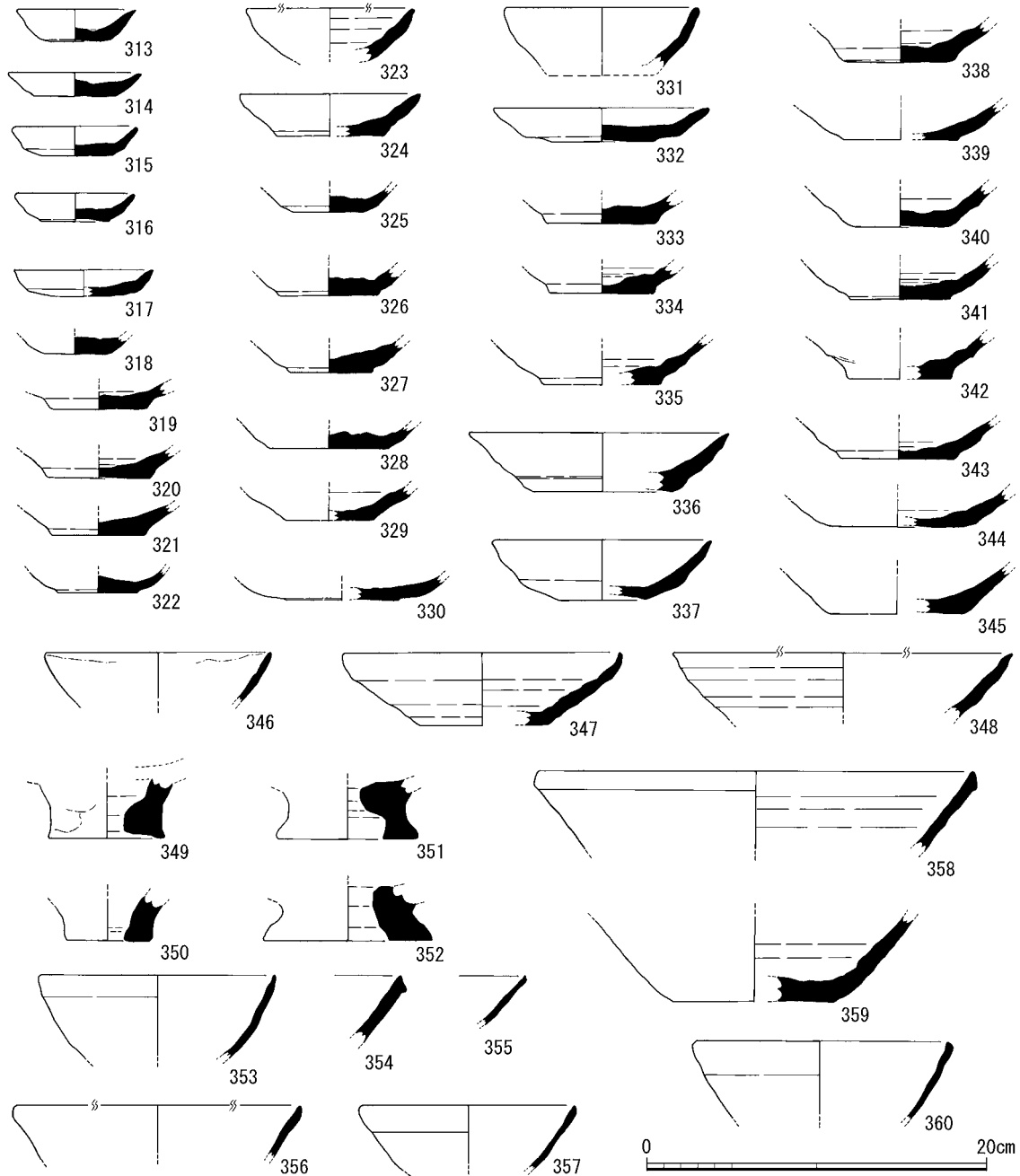
第152図305～312は第3面の包含層から出土した遺物の実測図である。305～306は古墳時代後期の須恵器杯である。307は平安時代初期の須恵器杯である。308～311は土師器甕である。312は土師器甕である。体部上部に把手をつける。

(2)A2地区

第153図313～360、第154図361～382、第155図383～420、第156図421～470、第157図471～478、第158図479～506(502・503を除く)は、A2地区第2面で検出した遺構内から出土した。第153図313～360は、すべて土坑S K505から出土した。313～316は回転台土師器皿である。317は土師器皿である。318～331・333～345は回転台土師器杯である。332は回転台土師器皿である。346は土師器椀である。内外面とも摩滅しており、回転台土師器かどうかは不明である。347・348は回転台土師器杯である。349～352は柱状高台の回転台土師器杯である。

353・355～357・360は瓦器椀である。外形は直線的で丹波型に属するが、やや薄手なので、地元産である可能性がある。354・358・359は平安時代後期の東播磨系須恵器鉢である。これらは平安時代後期から鎌倉時代初期である。

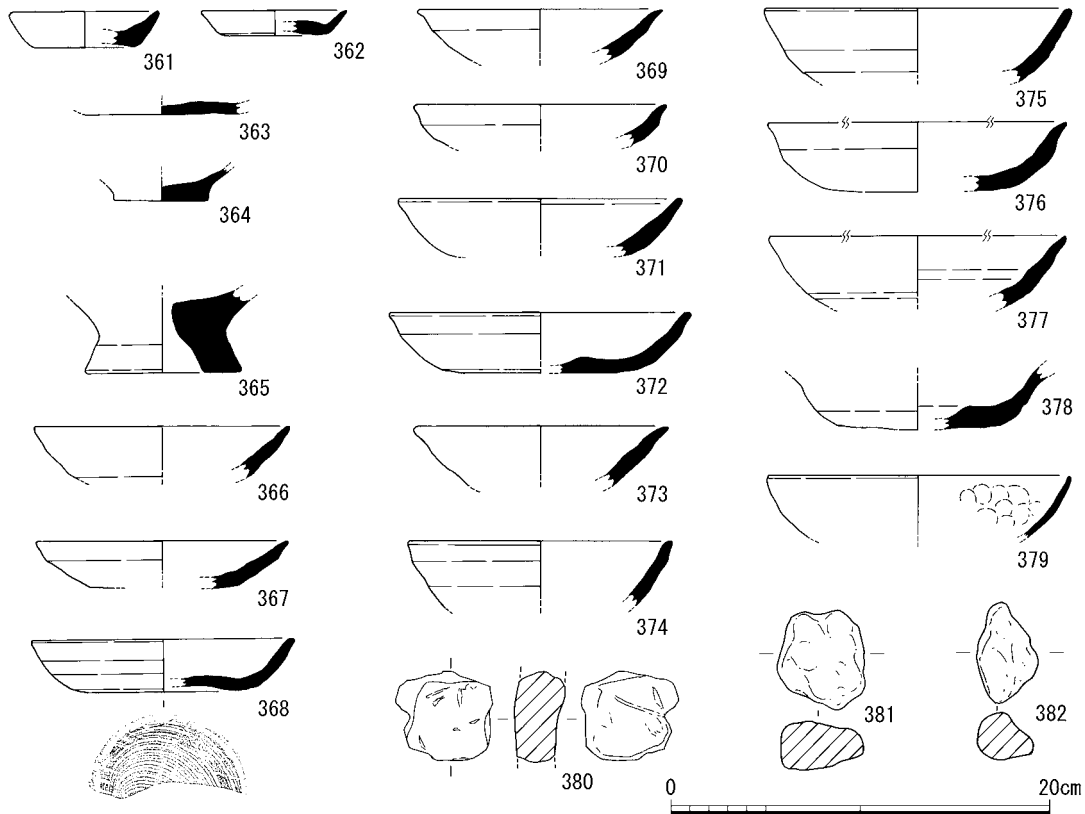
第154図361～382は、すべて土坑S K544から出土した。361～363・376は回転台土師器皿である。364・373・374・375・378は回転台土師器杯である。365は柱状高台の回転台土師器杯である。底部は中空である。366～372は回転台土師器皿である。379は瓦器椀である。380は炉壁片である。



第153図 出土遺物実測図12

右手内面にスサ様の跡がある。381・382は焼土である。

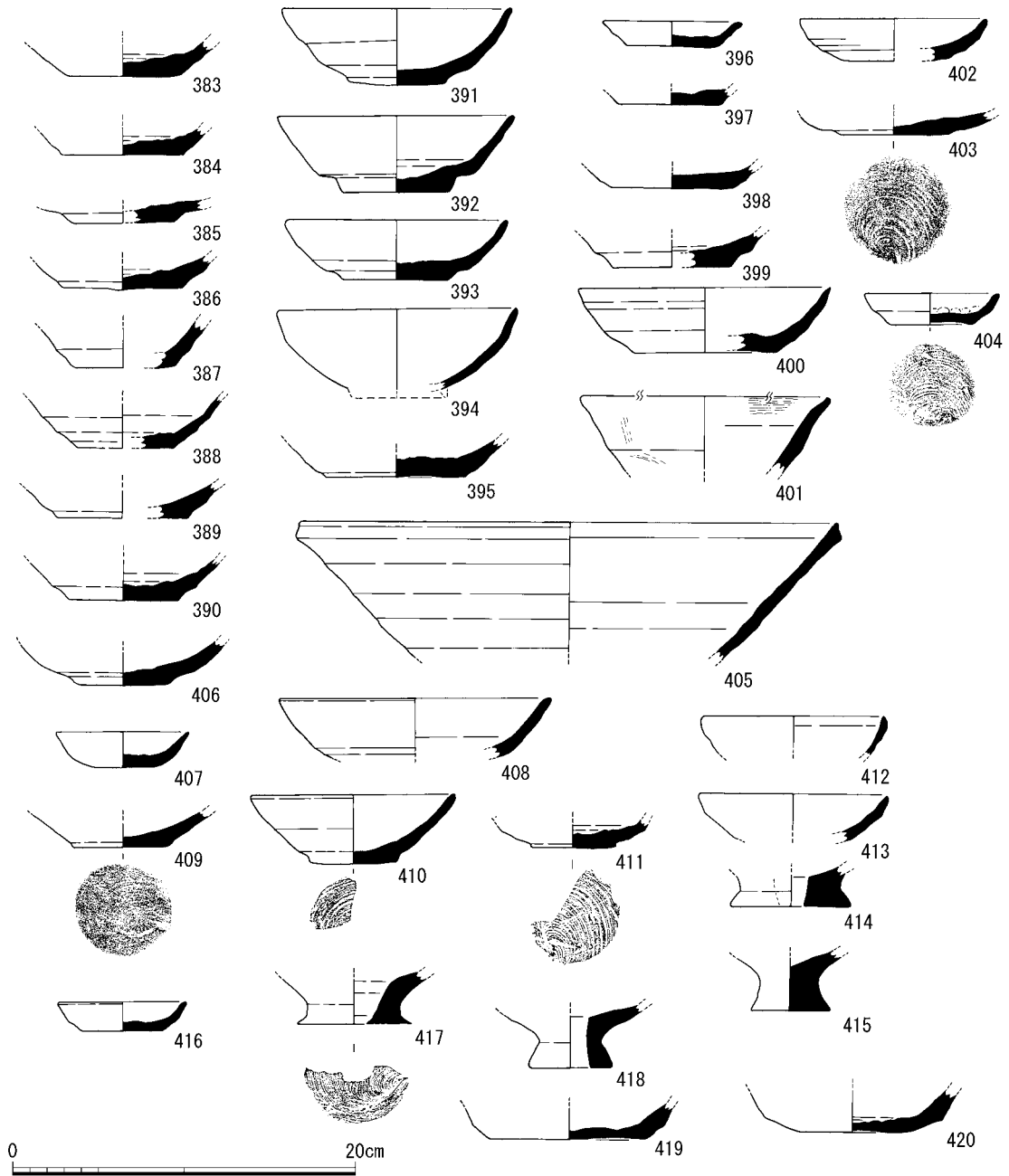
第155図383～405は土坑 S K 520から出土した。383～393・395・398～400・403は回転台土師器杯である。394は瓦器碗である。396・397・404は回転台土師器皿である。401は土師器鍋である。小破片なので口径は不明である。402は土師器皿である。405は東播磨系須恵器鉢である。406・407は S K 540から出土した。406は回転台土師器杯である。407は回転台土師器皿である。408は土坑 S K 541から出土した回転台土師器杯である。409～415は土坑 S K 572から出土した。409・410は回転台土師器杯である。411は須恵器杯である。底部は切り離しである。412・413は回転台土師器杯である。414・415は柱状高台の回転台土師器杯である。416は土坑 S K 575から出土した



第154図 出土遺物実測図13

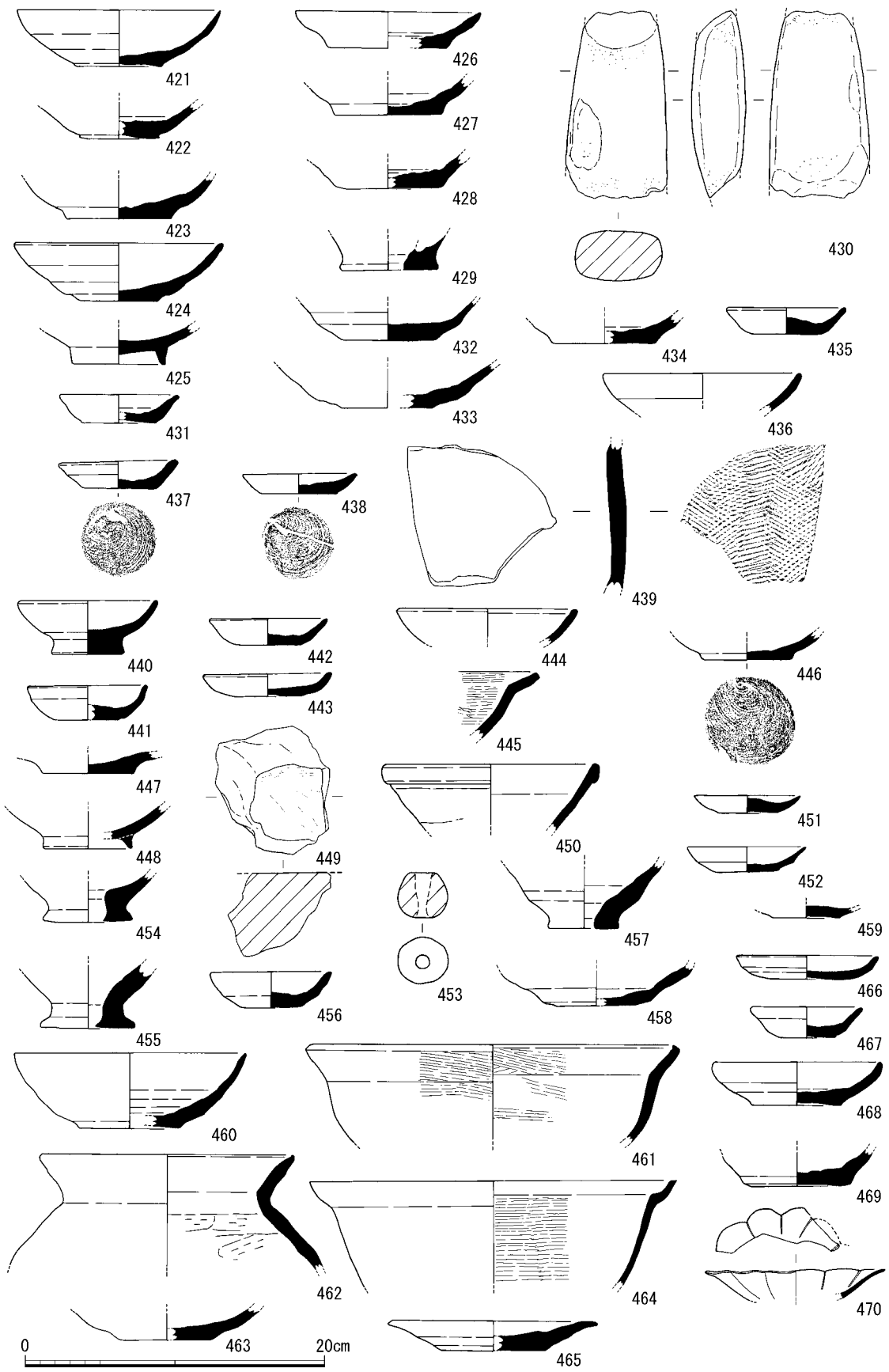
回転台土師器皿である。417～420は土坑 S K 589から出土した。417・418は柱状高台の回転台土師器杯である。419・420は回転台土師器杯である。

第156図421は S P 500から出土した平安時代後期の回転台土師器杯である。422は S P 502から出土した平安時代後期の須恵器杯である。423～425は S P 505から出土した。423・424は回転台土師器杯である。425は中国製白磁碗である。大宰府分類 V 類である。426～430は S P 526から出土した。426～429は回転台土師器杯である。430は片刃の磨製石斧である。縄文時代である。431～436は S P 528から出土した。431～434は回転台土師器杯である。435は回転台土師器皿である。436は土師器皿である。437・438は S P 538から出土した回転台土師器皿である。437は小皿で口径7.7cm、高さ1.8cmである。439は S P 534から出土した須恵器甕である。体部の小破片である。440～444は S P 540から出土した。440はやや低い柱状高台の回転台土師器皿である。441・442・444は回転台土師器皿である。441は普通の皿より深身である。443は土師器皿である。445・467～469は S P 588から出土した。445は土師器鍋である。467・468は回転台土師器皿である。469は回転台土師器杯である。446は S P 541から出土した回転台土師器杯である。447～449は S P 543から出土した。447は回転台土師器杯である。448は瓦器碗である。449は砥石である。450は S K 544から出土した中国製白磁碗である。大宰府分類 iv 類である。平安時代後期である。451・452は S P 545から出土した回転台土師器皿である。453は S P 550から出土した球状の土錘である。454は S K 505から出土した柱状高台の回転台土師器皿である。底部は中空である。455は S P 563

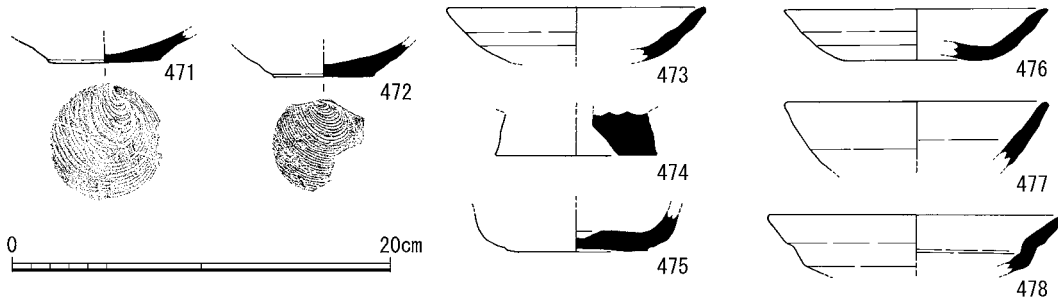


第155図 出土遺物実測図14

から出土した柱状高台の回転台土師器皿である。高台の端部は裾広がり、中央は穿孔され中空である。456はS P 578から出土した回転台土師器皿である。口径8.0cm、器高2.4cmで、普通の皿より深身である。457はS P 552から出土した回転台土師器杯である。458はS P 565から出土した回転台土師器杯である。中央は穿孔され中空である。459はS P 565から出土した回転台土師器杯である。460はS P 571から出土した平安時代後期の回転台土師器杯である。口径15.4cm、器高5.4cmである。461はS P 578から出土した平安時代後期の土師器鍋である。462はS P 580から出土した古墳時代後期の土師器甕である。463はS P 584から出土した回転台土師器杯である。464・467～469はS P 588から出土した。464は瓦器鍋である。467・468は回転台土師器皿である。



第156図 出土遺物実測図15



第157図 出土遺物実測図16

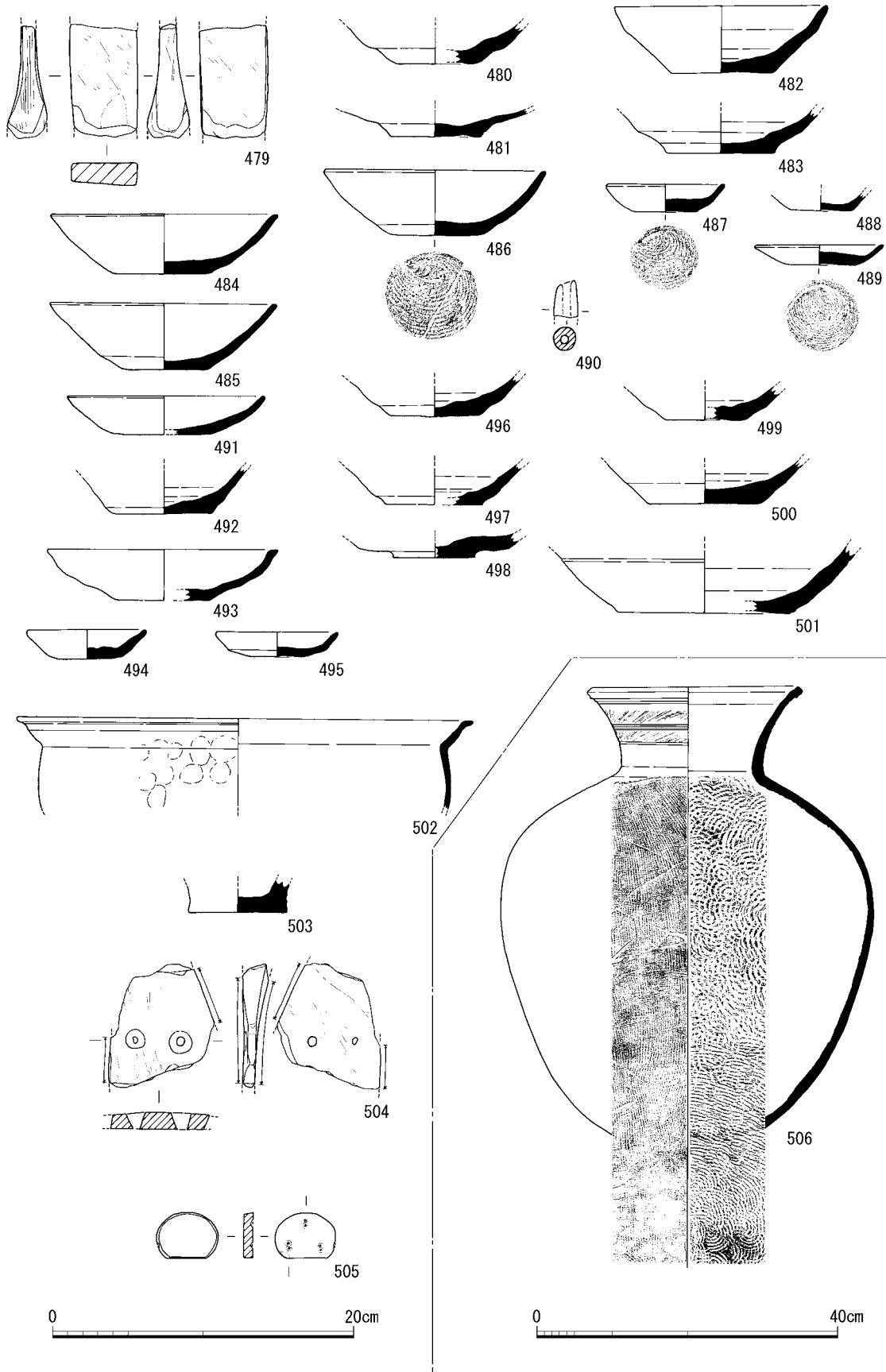
469は回転台土師器杯である。465はS P 597から出土した回転台土師器皿である。466はS P 595から出土した瓦器皿である。470はS P 211と包含層から出土した中国製景德鎮窯系の青白磁花形杯である。推定8葉の輪花である。口径の4分1が残存していた。

第157図471・472はS X 597から出土した回転台土師器杯である。473～478はS X 675から出土した。473～475は回転台土師器杯である。476は2段ナデの土師器皿である。平安京土師器分類のAタイプの影響を受けたもので、福知山市大内城跡で平安時代後期のものに類例がある。口径13.8cm、器高2.7cmである。477はやや深身の土師器皿である。摩滅しており、回転台土師器杯の可能性もある。478は土師器皿である。体部中位から口縁部に掛けて外側に広がっている。口径15.4cm、器高3.1cmである。

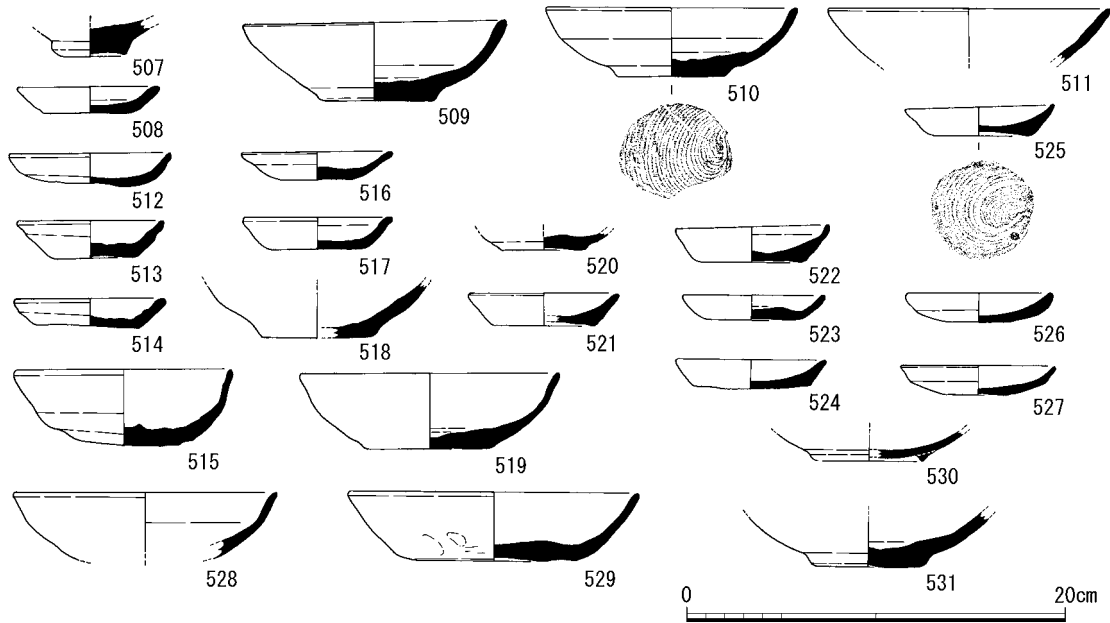
第158図479はS P 601から出土した長方形の砥石である。480はS P 626から出土した回転台土師器杯である。481はS P 628から出土した回転台土師器杯である。482・483・488はS P 633から出土した回転台土師器杯である。482は口径14.0cm、器高4.5cmである。484～487・489はS P 641から出土した回転台土師器杯である。486は口径14.4cm、器高4.4cm、底径6.2cmである。490・496～498はS P 646から出土した。490は土錘である。496～498は回転台土師器杯である。491はS P 645から出土した回転台土師器杯である。492はS P 647から出土した回転台土師器杯である。493～495はS P 668から出土した回転台土師器杯である。499～501はS P 648から出土した。499・500は回転台土師器杯である。501は東播磨系須恵器鉢である。502は第1面のS P 23から出土した鎌倉時代の瓦器鍋である。503は第1面のS P 32から出土した柱状高台をもつ回転台土師器杯である。504はS P 664から出土した砥石である。2か所に円形の穿孔を施すが、貫通はしていない。505は包含層から出土した石帯である。丸軀で、底辺が直線的で、他辺が丸型である。幅4.1cm、長さ3.1cm、厚さ0.6cmである。色調は黒色で、材質は粘板岩系である。506は須恵器甕である。調査区内の第4トレンチから出土した。口径27.4cm、器高61.9cmである。古墳時代後期である。

### (3)A3地区

第159図507～531は、A3地区の第1面で検出した遺構から出土した。第157図507はS K 17から出土した、柱状高台をもつ回転台土師器杯である。508～510はS P 03から出土した回転台土師器杯である。511はS P 09から出土した回転台土師器杯である。512～515はS P 14から出土した。512～514は回転台土師器皿である。515は回転台土師器杯である。大きくゆがんでいるので、口



第158図 出土遺物実測図17



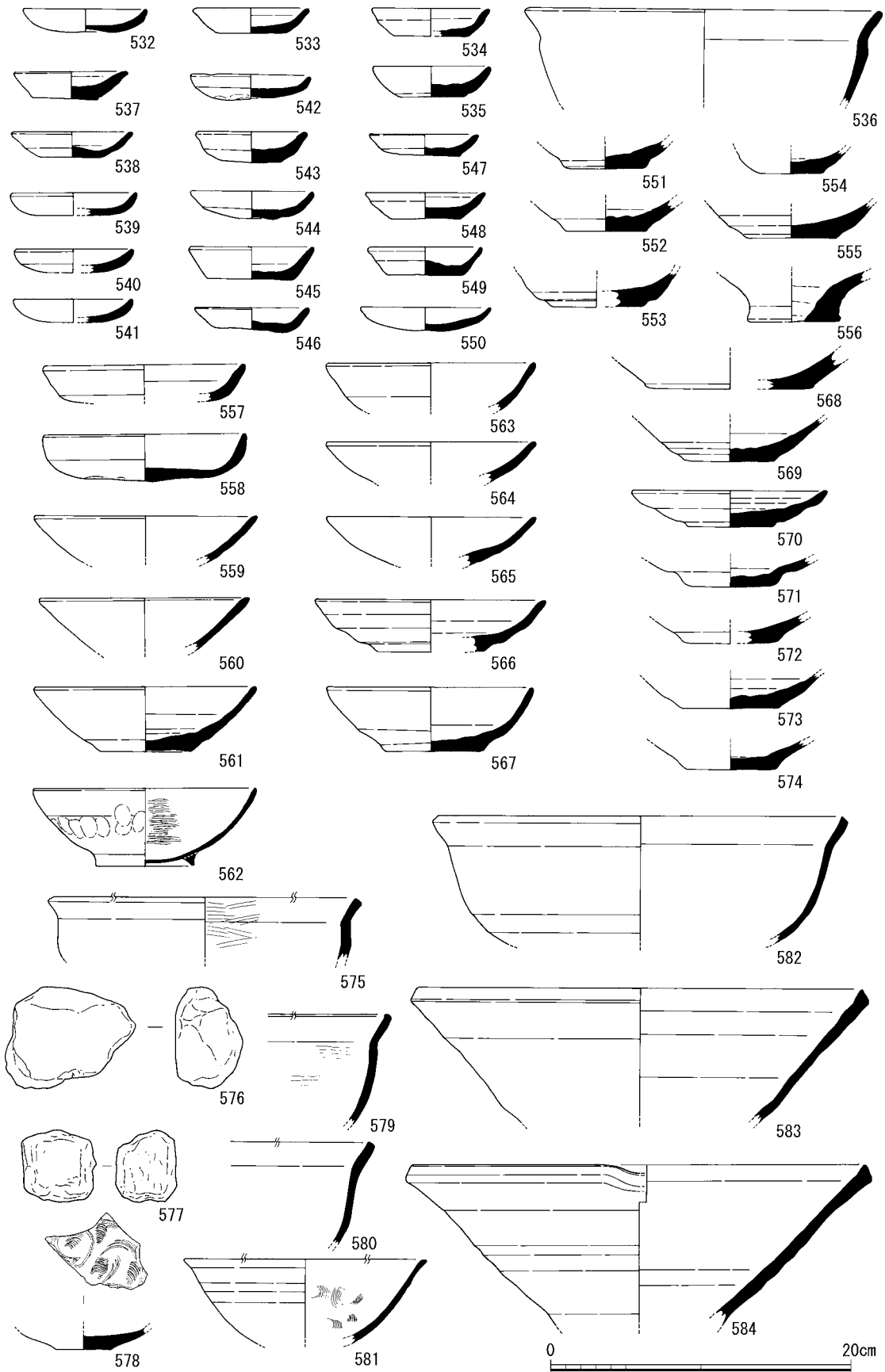
第159図 出土遺物実測図18

径は不明である。516～519はS P 15から出土した。516・517は回転台土師器皿で、518・519は回転台土師器杯である。520～527はS P 19から出土した。520～525は回転台土師器皿で、526・527は土師器皿である。528～531はS P 22から出土した。528・529・531は回転台土師器杯である。530は瓦器椀である。

第160図532～584、第161図585～629、第162図630～705、第163図706～729は、A 3 地区第 2 面で検出した遺構から出土した遺物である。532～536は平面建物から出土した。この他はS K 125から出土した。532は土師器皿である。口径8.1cm、器高1.6cmである。533・534は回転台土師器皿である。536は土師器鍋である。これらは皿は小さく、鍋は口縁部の屈曲があまりなく、新しい傾向なので、鎌倉時代前半である。537・538・543・545～549は回転台土師器皿である。551～556は回転台土師器杯である。556は柱状高台である。539～542・544・550は土師器皿である。557・558は中型の土師器皿である。558は口径13.6cm、器高3.2cmである。559～561・563～567は回転台土師器杯である。561は口径14.6cm、器高4.4cmである。562は瓦器椀である。体部内面にミガキを施す。貼り付け高台である。口径14.7cm、器高5.2cmである。568は東播磨系須恵器鉢である。570は大型の回転台土師器皿である。口径13.0cm、器高2.4cmである。569・571～574は回転台土師器杯である。575は土師器鍋である。576・577は焼土である。578は中国龍泉窯青磁皿である。内面にハケで文様を刻む。579・580は土師器鍋である。581は中国製白磁椀である。第V類である。582は土師器鍋である。583・584は東播磨系須恵器鉢である。これらの遺物は平安時代後期である。

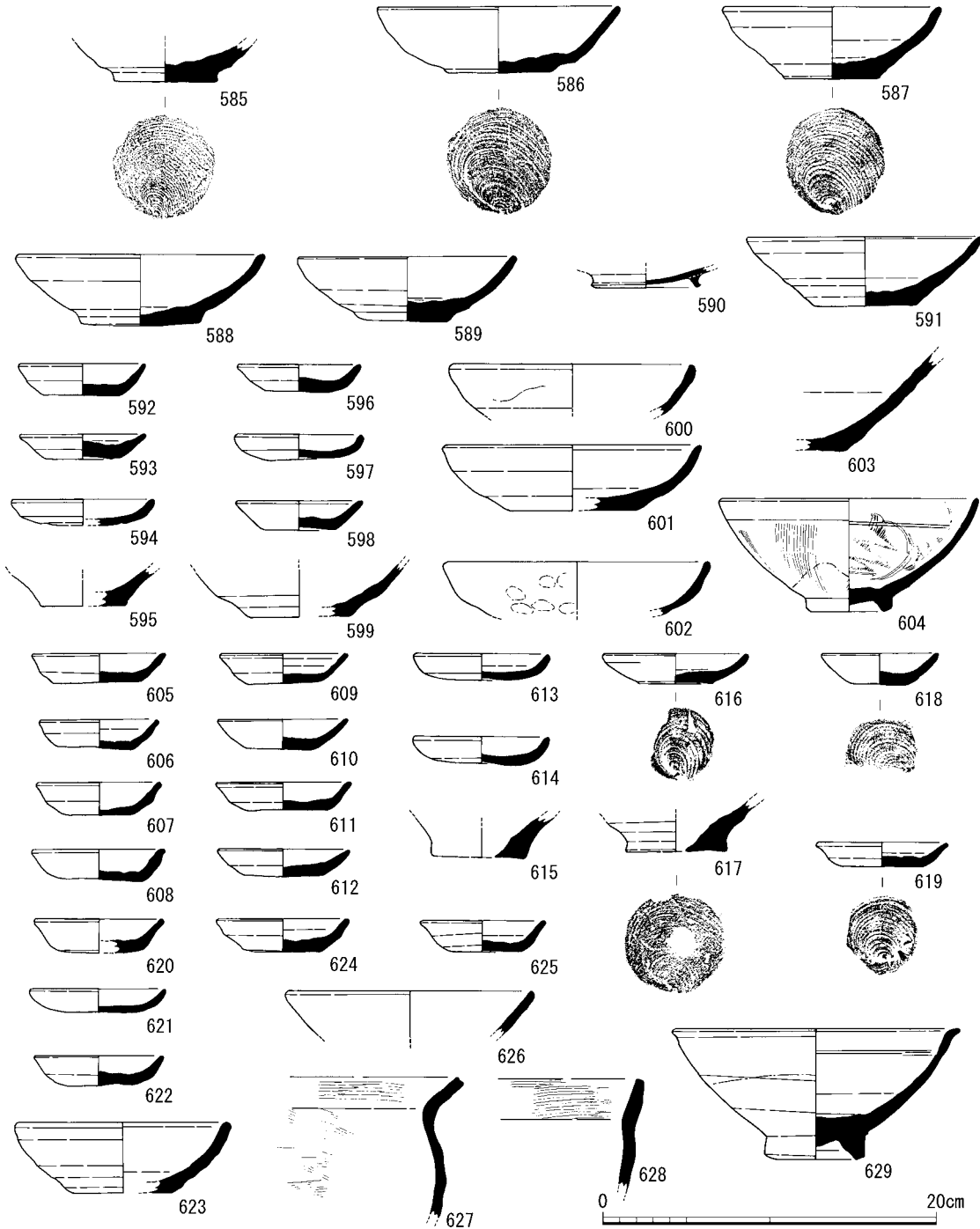
第161図585～589はS K 125から出土した回転台土師器杯である。590・591はS K 127から出土した。590は瓦器椀である。591は回転台土師器杯である。592～604はS K 148から出土した。592・593・596・598は回転台土師器皿である。594は瓦器皿、597・600は土師器皿である。595・



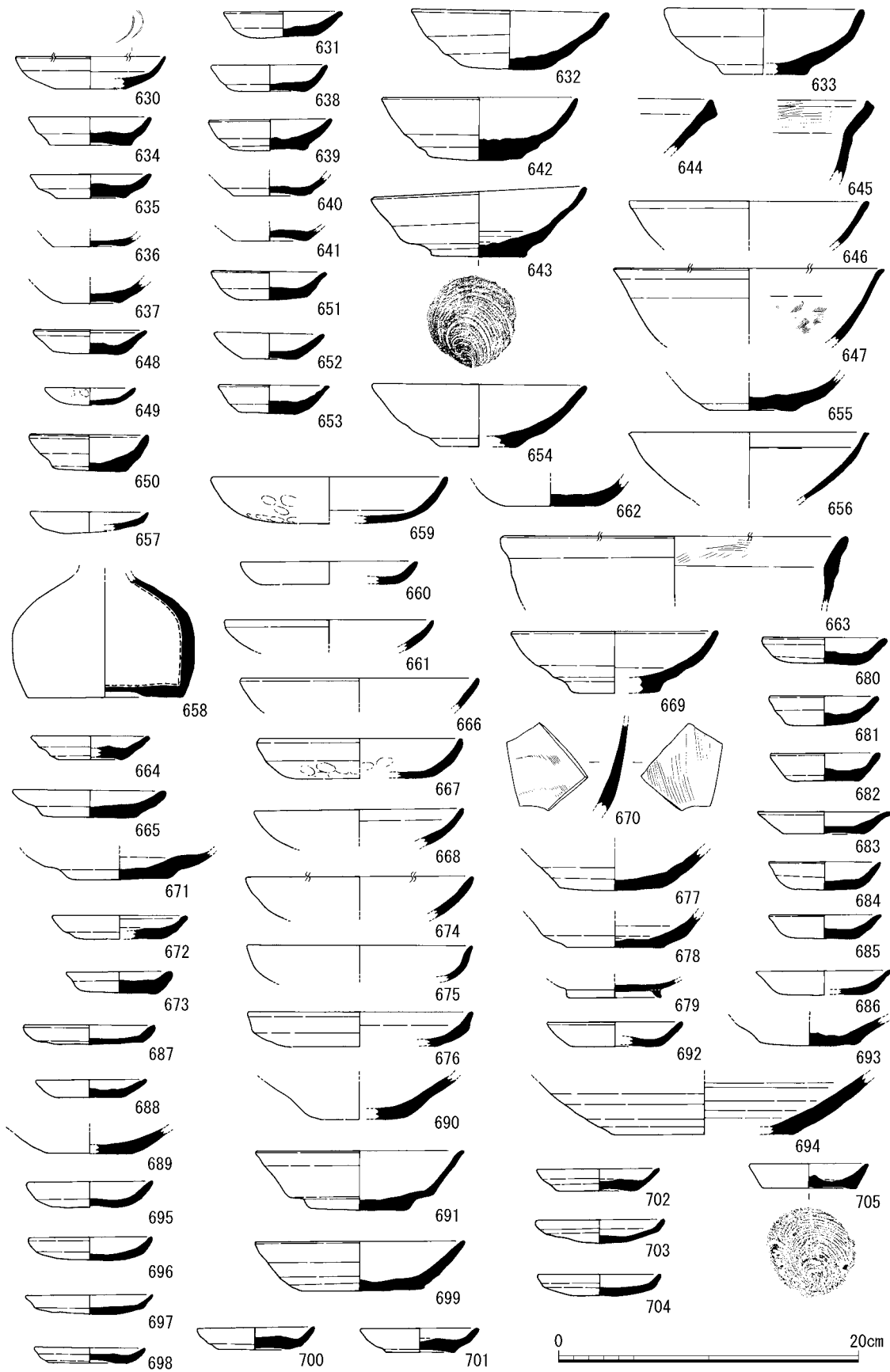


第160図 出土遺物実測図19

599・601は回転台土師器杯である。602は土師器杯である。603は東播磨系須恵器鉢である。604は中国同安窯青磁碗である。内外面に施釉、底部は露胎である。内外面に櫛描き文を施す。605～619はS K 213から出土した。605～612・616・618・619は回転台土師器皿である。613・614は土師器皿である。平安時代後期である。615・617は回転台土師器杯である。620～629はS P 232から出土した。620・624・625は回転台土師器皿である。621は瓦器皿、622は回転台土師器皿である。623は回転台土師器杯である。626は瓦器碗である。627・628は土師器鍋である。629は中国製白磁碗である。第V類である。ただし、口縁部の外側への折り返し(折縁)は通常より丸み



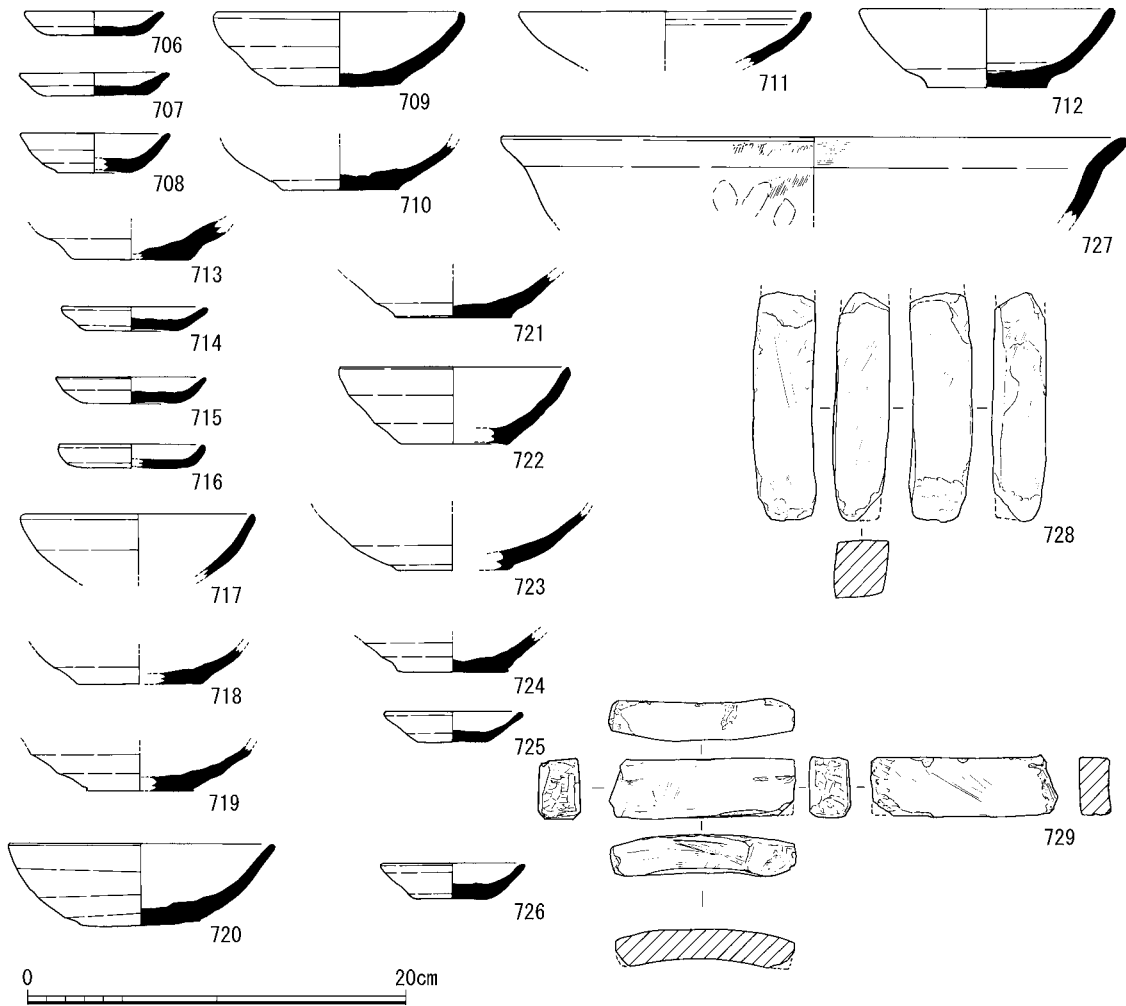
第161図 出土遺物実測図20



第162図 出土遺物実測図21

がある。高台部の厚みもある。

第162図630はS P 109から出土した中国製白磁皿である。631はS P 220から出土した回転台土師器皿である。632・633はS P 116出土した回転台土師器杯である。634～643はS P 144から出土した。634～641は回転台土師器皿である。642・643は回転台土師器杯である。646はS P 120から出土した丹後型黒色土器椀(内黒)である。644・645・647はS P 125から出土した。644は須恵器鉢、645は土師器鍋である。647は中国製白磁椀である。内面に櫛描き文を施す。648～656・663はS P 148から出土した。648・650～653は回転台土師器皿である。649は土師器皿である。654・655は回転台土師器杯である。656は中国製白磁椀である。内面に沈線を施す。663は土師器鍋である。657～661はS P 149から出土した。657・659～661は土師器皿である。658は須恵器壺である。底部は上げ底で不調整である。体部はロクロなでである。平安時代中期である。662は回転台土師器杯である。664～670はS P 191から出土した。664・665・668は回転台土師器皿である。666は瓦器椀である。667は土師器皿である。669は回転台土師器杯である。670は中国製同安窯青磁椀である。671・674～686はS P 220から出土した。671・677・678は回転台土師器杯である。674～676は土師器皿である。679は瓦器椀である。680～686は回転台土師器皿である。これらは平安時



第163図 出土遺物実測図22

代後期から鎌倉時代初期である。672はS P 201から出土した回転台土師器皿である。673はS P 203から出土した回転台土師器皿である。687～691はS P 232から出土した。687は土師器皿である。688は回転台土師器皿である。689～691は回転台土師器杯である。692～695はS P 235から出土した。692は回転台土師器皿である。693は回転台土師器杯である。694は東播磨系須恵器鉢である。695～705はS P 238から出土した。695～697・703・704は土師器皿である。698～702・705は回転台土師器皿である。

第163図706～712はS P 239から出土した。706～710は回転台土師器皿である。709～712は回転台土師器杯である。713はS D 225から出土した回転台土師器杯である。714～720はS X 125から出土した。714～716は土師器皿である。717は瓦器碗である。718～720は回転台土師器杯である。721～728はS X 232から出土した。721～724は回転台土師器杯である。725・726は回転台土師器皿である。727は土師器鍋である。728は砥石である。仕上げ用である。729は表面採取した砥石である。

第164図730～735、第165図736～744、第166図745～753、第167図754～760はすべてA 3地区の第3面で検出したS X 677から出土した遺物の実測図である。

第164図730～735、第165図736～744、第166図745～753は土師器甕である。古墳時代中～後期である。

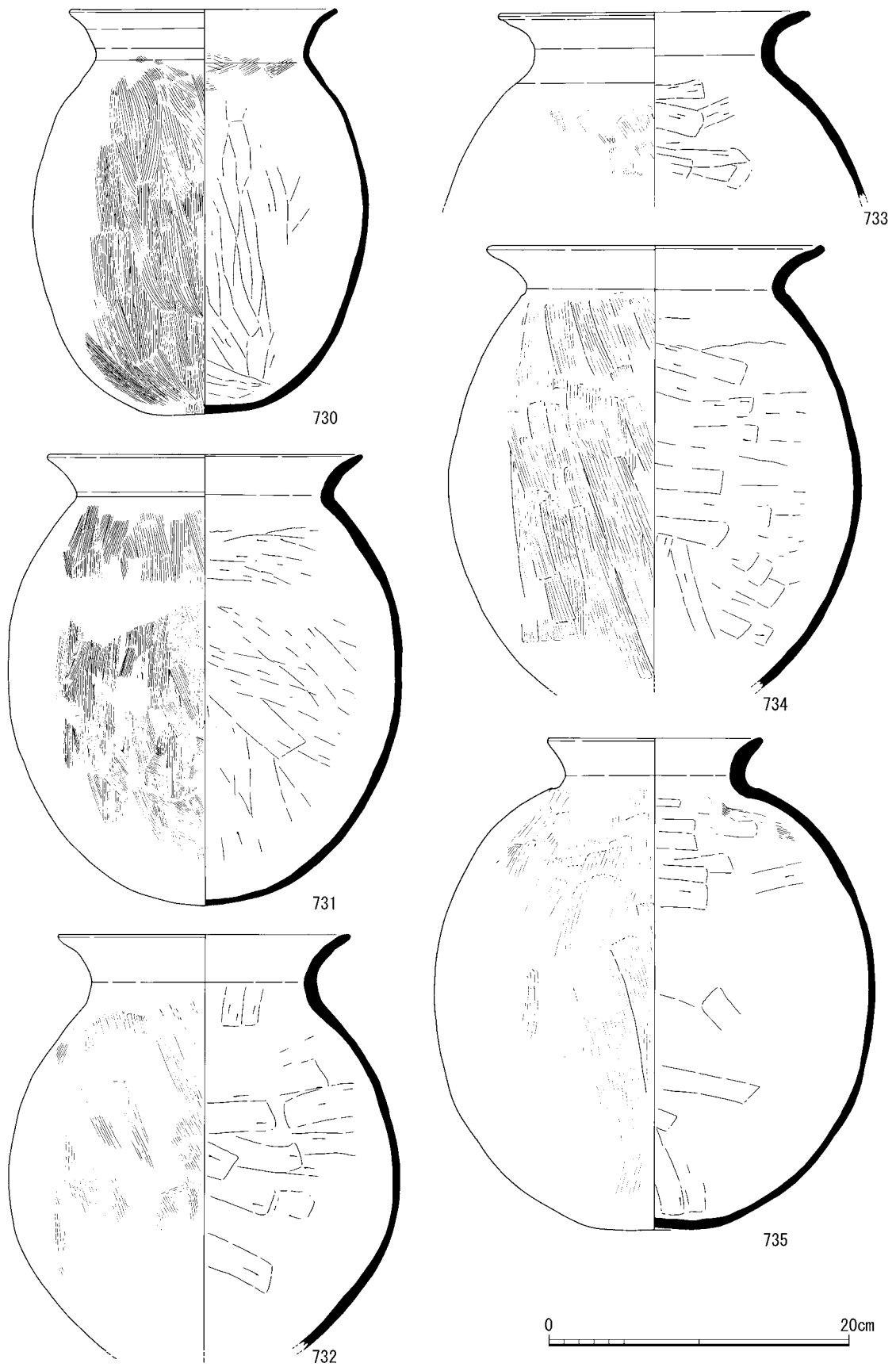
第167図754・755は土師器長頸壺である。754は体部の一部に亀裂がある。焼成後に施されているが、意図的かどうかは不明である。土師器甕である。756は把手付き土師器甕である。757～759は土師器甕である。古墳時代中～後期である。760は包含層から出土した須恵器特殊扁壺である。突出した一部が欠損しているものの体部は遺存している。体部の直径は12.6cmである。片側中央には円孔がある。円孔を中心にその周囲はヘラにより刻みが全面に施されている。刻みは2重で、円孔に近い1重目はやや右に傾斜しており、円孔より遠い2重目はやや左に傾斜している。もう一方の片側には円孔はなく、なにかを取り付けた跡がある。類例をみると棒状の突起が付いていたと考えられる。この面も刻みは2重で中央に近いところはやや左に傾斜していて、遠い2重目はやや右に傾斜している。

761は第3面の包含層から出土した完形の須恵器提瓶である。

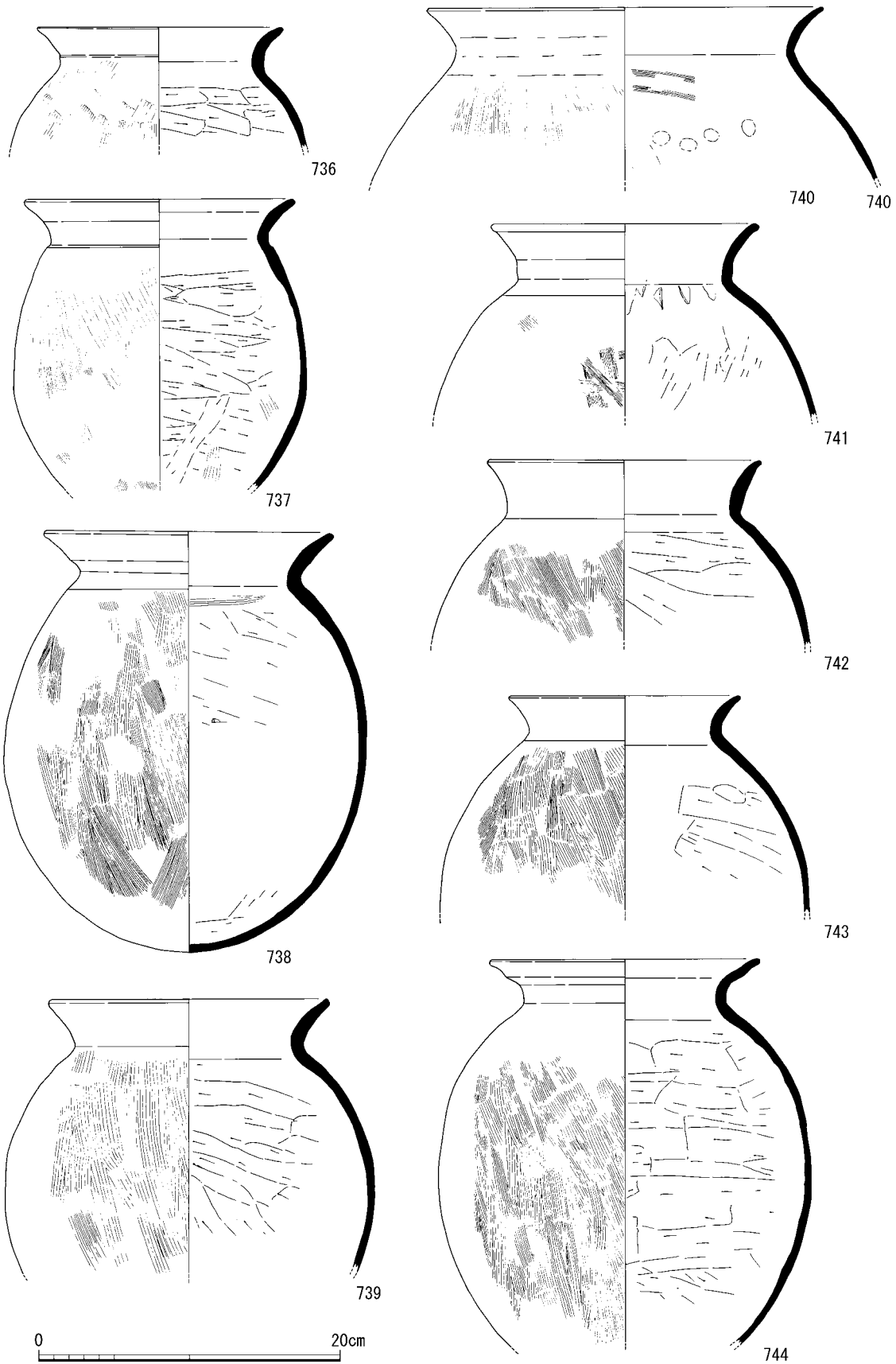
#### 4) B 1地区

第168図762～770はB 1地区の第1面の包含層から出土した遺物である。762は瓦器羽釜である。763・764はS K 04から出土した陶器甕である。764は鎌倉時代後期の常滑系である。765は土師器皿である。766はS D 54から出土した土師器皿である。767はS P 52から出土した中国製白磁碗である。第V類である。768は包含層から出土した越前鉢の底部である。見込みに格子状の刻み目を施す。769はS D 41から出土した瓦器鍋である。770はS P 47から出土した東播磨系須恵器鉢である。

第169図771～803、第168図808～835は、B 1地区第2面の遺構から出土した遺物の実測図である。771はS P 51から出土した瓦器碗である。口縁端部内側に沈線を施す。772・773はS P 61か



第164図 出土遺物実測図23

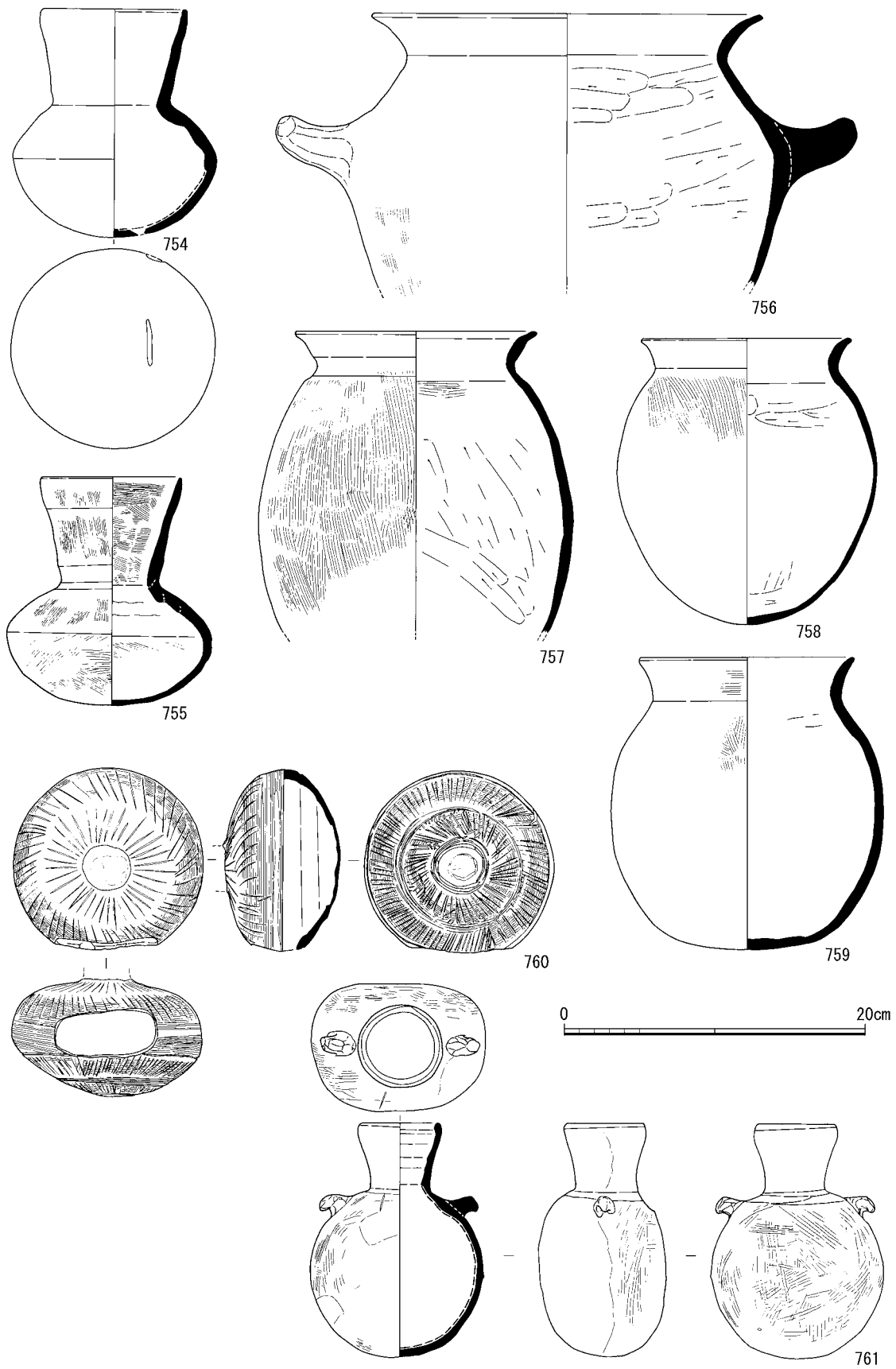


第165図 出土遺物実測図24

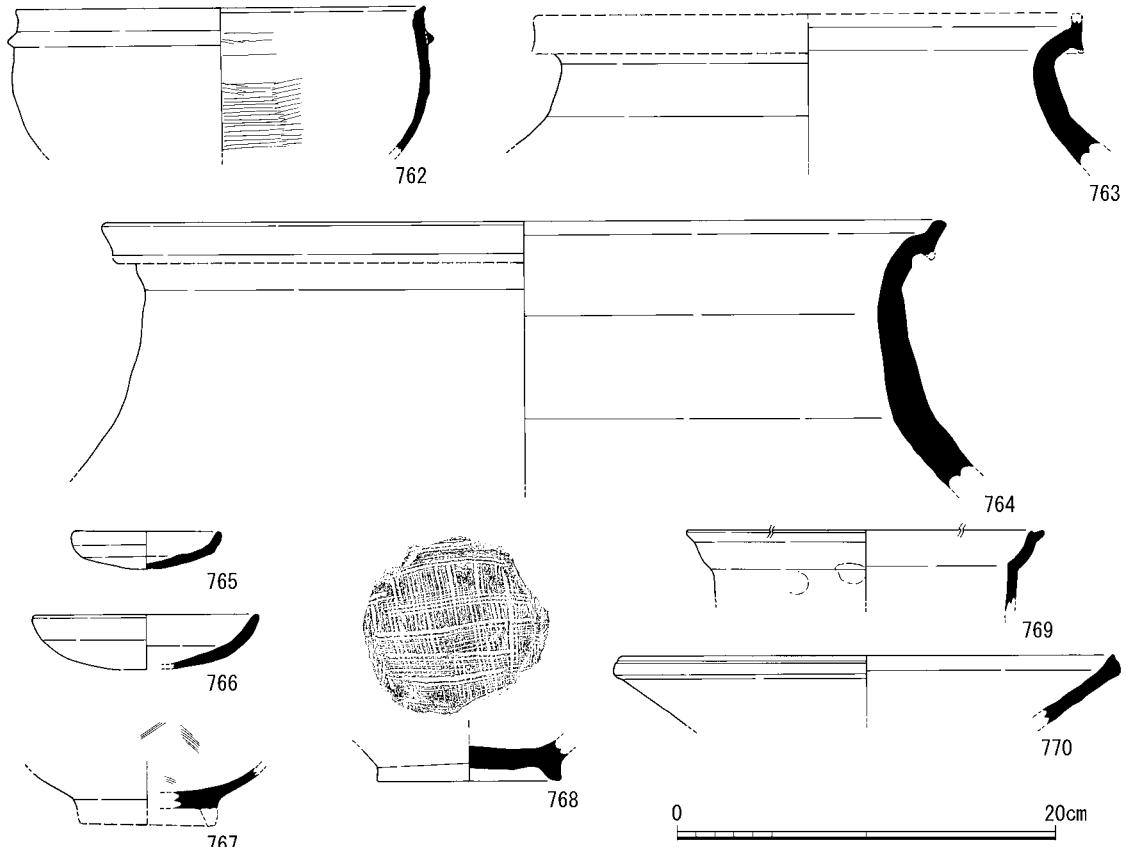


第166図 出土遺物実測図25



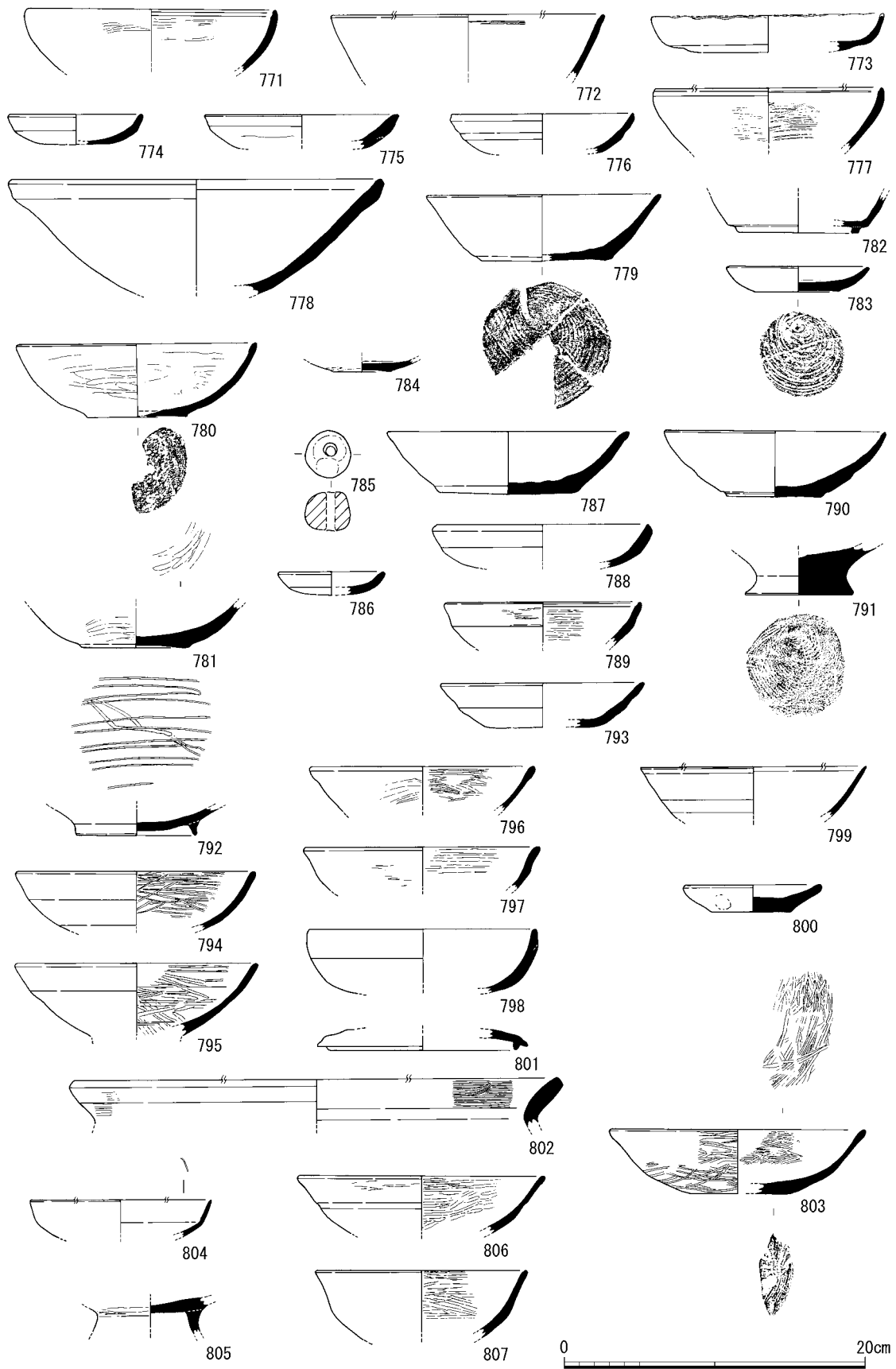


第167図 出土遺物実測図26



第168図 出土遺物実測図27

ら出土した。772は中国龍泉窯青磁碗である。口縁端部内側に沈線を施す。773は土師器皿である。口縁部は輪花状になっている。飛鳥～奈良時代である。774～776はS P 63から出土した土師器皿である。776は口縁部を面取りした京都系のもので、口径が12cmと小さいので、鎌倉時代中～後期である。777はS K 65から出土した瓦器碗である。778はS P 66から出土した東播磨系須恵器鉢である。口縁部は丸みを帯びているので、鎌倉時代後期である。779はS X 82から出土した回転台土師器杯である。780・781はS D 89から出土した丹後型黒色土器碗である。内黒である。内外面ともミガキを施す。平安時代後期である。782はS D 88から出土した須恵器杯である。奈良時代である。783・790はS D 90から出土した。783は両黒の黒色土器皿である。口径9.3cm、器高1.7cmである。790は回転台土師器杯である。784はS P 94から出土した中国製白磁皿である。785はS D 100から出土した短い円筒形の土錘である。786は土師器皿である。787はS K 82から出土した回転台土師器杯である。788はS P 83から出土した土師器皿である。789はS P 95から出土した瓦器碗である。口縁部内側には段状のくぼみがある。大和型模倣である。S D 92から出土した。791は柱状高台の回転台土師器杯である。792はS P 105から出土した瓦器碗である。見込みにジグザグ状暗文を施す。793はS P 106から出土した土師器皿である。794・795はS P 134から出土した丹後型黒色土器碗である。内面に密なミガキを施す。796・797はS P 121から出土した丹後型黒色土器碗(内黒)である。平安時代後期である。798はS P 132から出土した土師器杯である。奈良時代である。799はS P 128から出土した中国製白磁碗である。800～803はS P 141から出土

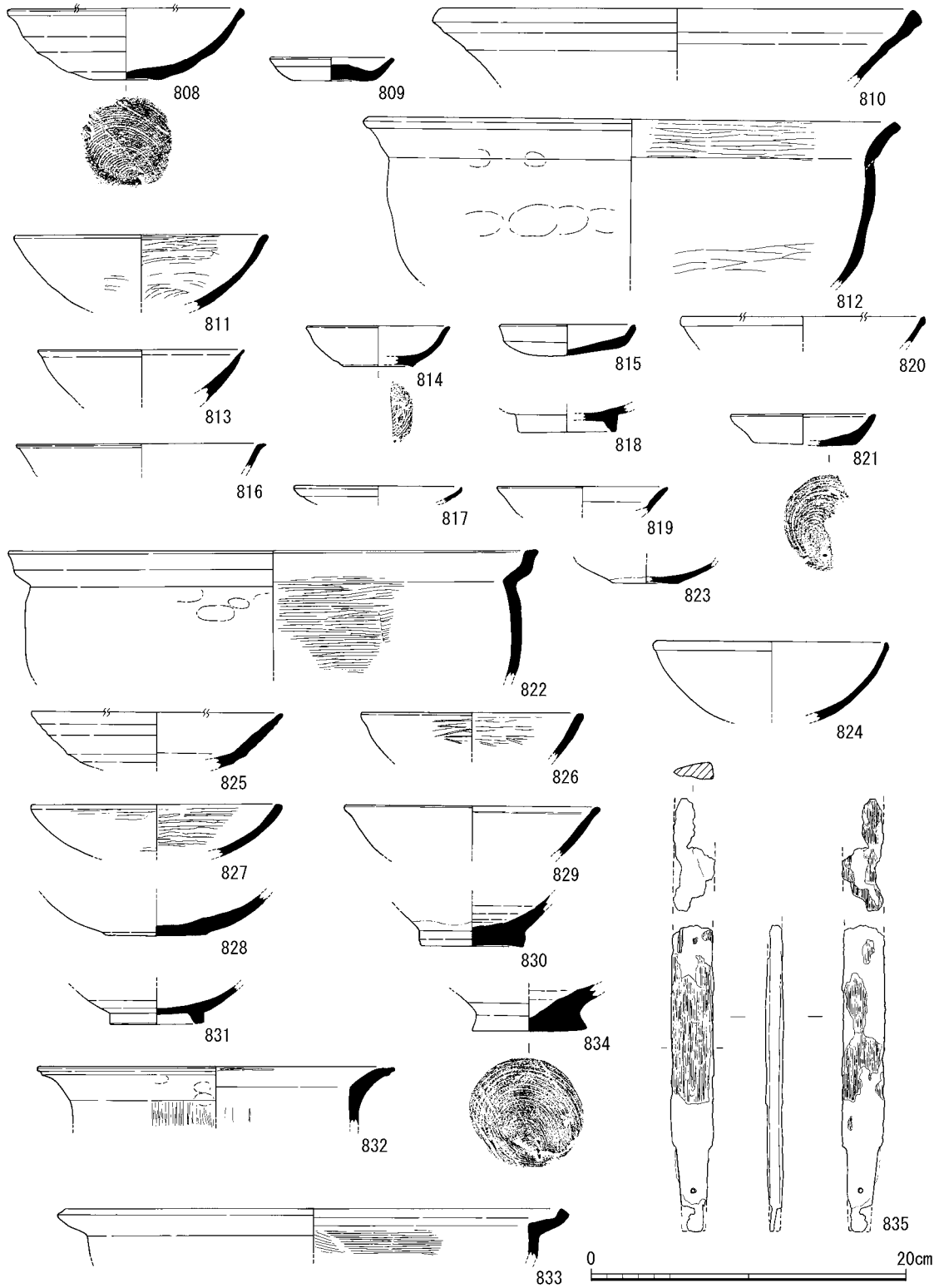


第169図 出土遺物実測図28

した。S B101を構成する柱穴である。800は801は回転台土師器皿である。801は須恵器杯蓋である。奈良時代である。802は土師器鍋である。803は丹後型黒色土器碗(内黒)である。804はS P143から出土した中国製白磁皿である。805はS P157から出土した高台付き土師器皿である。806はS D144から出土した丹後型黒色土器碗(内黒)である。807はS P150から出土した丹後型黒色土器碗(内黒)である。

第170図808～810はS K169から出土した。808は丹後型黒色土器碗(内黒)である。809は回転台土師器皿である。810は鎌倉時代後期の東播磨系須恵器鉢である。811・812はS P170から出土した。811は丹後型黒色土器碗(内黒)である。812は土師器鍋である。813・814はS P173から出土した。813は回転台土師器杯である。814は須恵器皿である。ロクロ成形である。815はS P176から出土した土師器皿である。816はS P181から出土した中国製白磁碗である。第V類である。817はS P210から出土した中国製白磁皿である。818はS P188から出土した中国製白磁碗である。第V類である。819はS P224から出土した中国製青磁皿である。820はS P190から出土した中国製白磁碗である。第II類である。平安時代中期である。この他は平安時代後期である。821はS P192から出土した回転台土師器皿である。822はS P215から出土した瓦器鍋である。823はS P219から出土した中国製白磁皿である。824は包含層から出土した中国製白磁碗である。第II類である。825・826はS P216から出土した。825は回転台土師器杯である。826は丹後型黒色土器碗である。内黒である。827～830はS P225から出土した。S A103である。827・828は丹後型黒色土器碗(内黒)である。829は回転台土師器杯である。830は中国製白磁碗である。第IV類である。831はB2地区S P751から出土した中国製白磁碗である。832はS P229から出土した土師器甕である。833はS P227から出土した土師器鍋である。834はS P199から出土した柱状高台の回転台土師器杯である。835は包含層から出土した鉄刀である。

第171図836～868、第170図869は、B1地区の第3面で検出した遺構より出土した遺物である。第171図836・837はS H300から出土した。836は土師器壺である。837は土師器杯である。飛鳥時代から奈良時代である。838～841はS H301から出土した。838・839・841は弥生土器甕である。840は須恵器杯である。古墳時代中期である。842・843はS H303から出土した。842は弥生土器壺、843は弥生土器甕である。844～851・858はS D304から出土した。845は弥生土器甕である。844・849～851は土師器甕である。846は弥生土器水差形土器である。847は奈良時代の須恵器杯である。848は古墳時代後期の須恵器はそうである。858は土師器把手付き甕である。852はS D305から出土した古墳時代後期の須恵器杯である。853はS D306から出土した土師器甕である。854・855はS P335から出土した。854は土師器羽釜である。855は須恵器杯蓋である。856はP338から出土した弥生土器である。器台か高杯である。857はS P342から出土したミニチュア小壺である。859はS X348から出土した古墳時代後期の須恵器杯蓋である。860はS P356から出土した奈良時代の須恵器杯である。861はS H439から出土した弥生土器である。862はS P369から出土した土師器甕である。863はS P429から出土した土師器碗である。864はS H419から出土した弥生土器甕である。865・866はS P427から出土した。865は弥生土器短頸壺である。866は弥

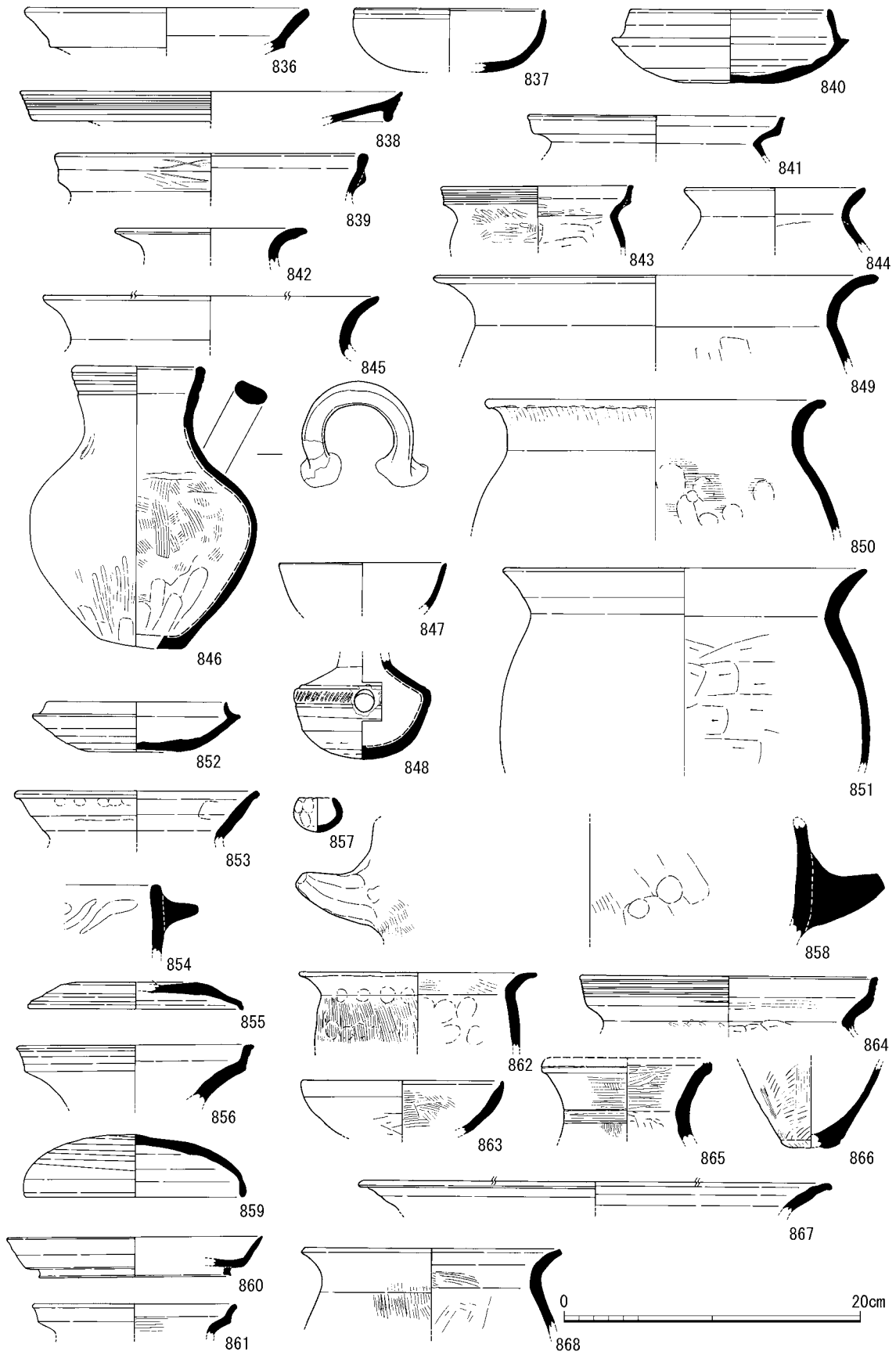


第170図 出土遺物実測図29

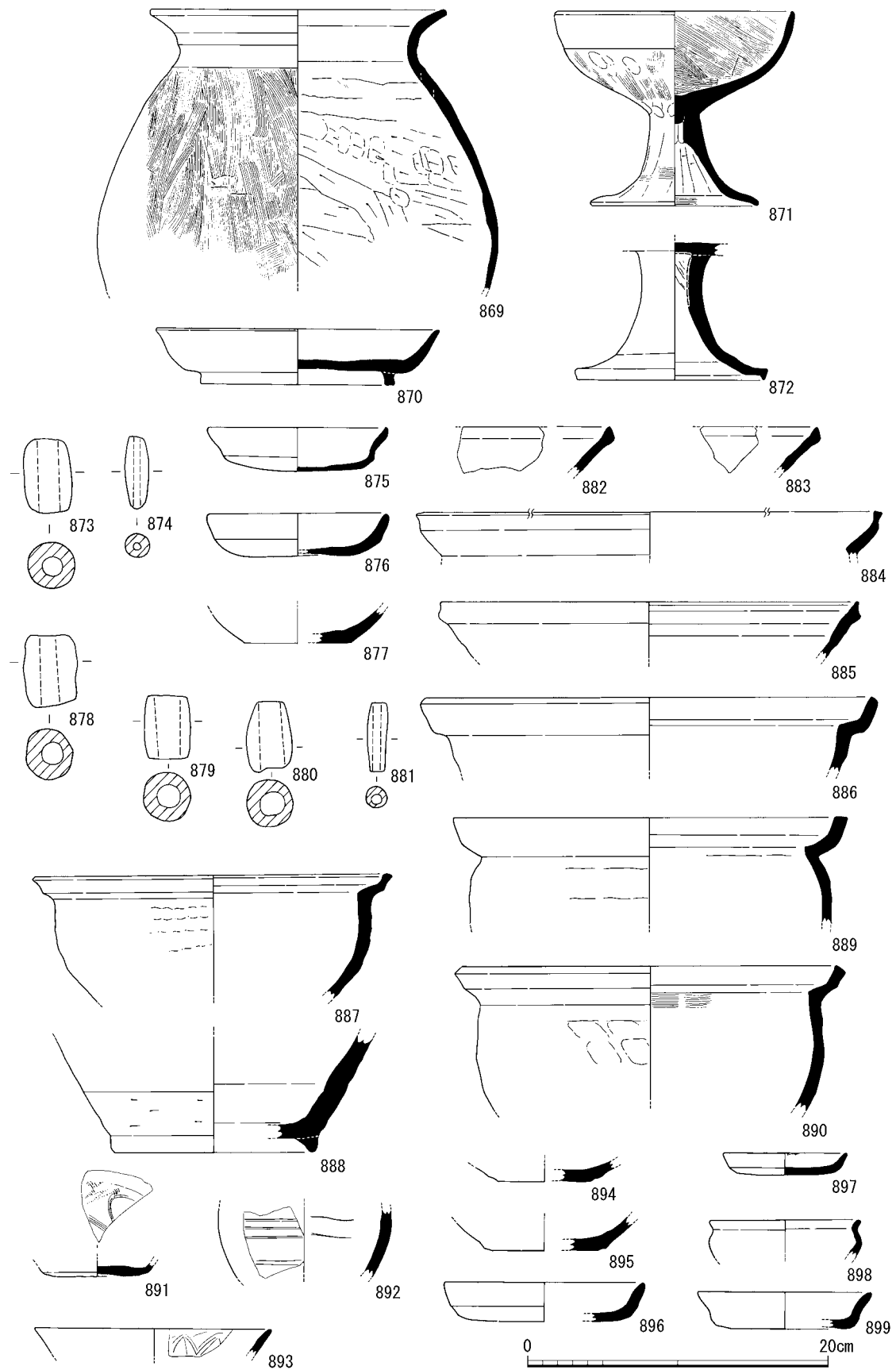
生土器甕である。867・868はS P 405から出土した土師器甕である。867は小破片のため口径は不明である。

第172図869はS H 439から出土した土師器甕である。

第172図870～872はB 1 地区第3面の包含層から出土した。870は須恵器杯である。871は土師



第171図 出土遺物実測図30



第172図 出土遺物実測図31

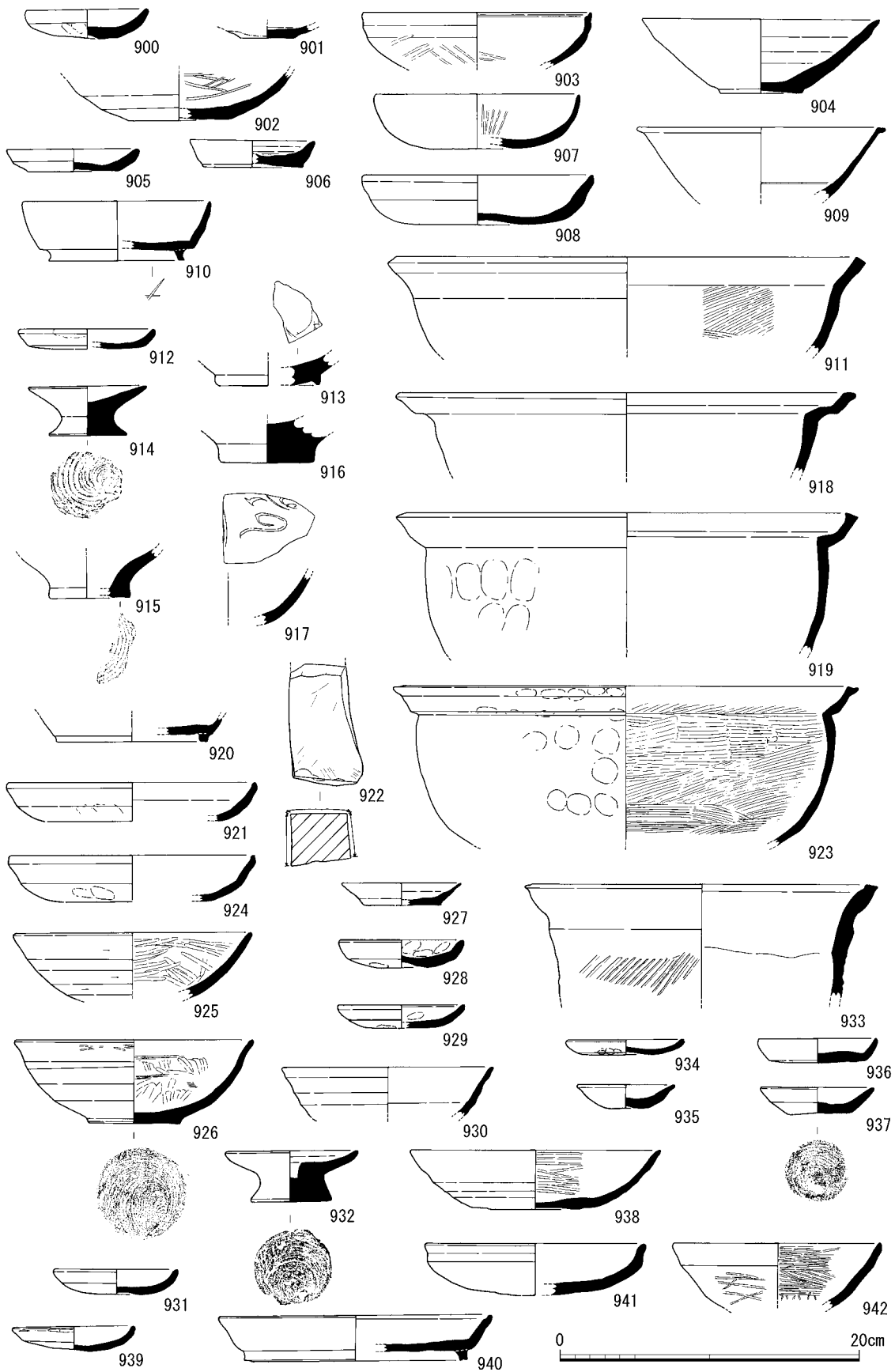
器高杯である。872は須恵器高杯である。いずれも古墳時代後期から奈良時代である。

#### (5) B 2 地区

第172図873～877はB 2地区第1面で検出した遺構から出土した遺物である。873～875はS K 02から出土した。873・874は土錘である。875は土師器皿である。口径11.8cmの中皿で、器高2.9cmで鎌倉時代後期から室町時代はじめである。876はS K 22から出土した土師器皿である。877はS P 120から出土した回転台土師器杯である。878～899はB 2地区第1面の包含層から出土した。878～881は土錘である。882・883・885は東播磨系須恵器鉢である。884・886・887・889・890は鎌倉時代の瓦器鍋である。888は陶器壺の底部である。東海系である。891は中国同安窯青磁皿である。892は高麗象嵌青磁壺である。外面は緑灰色の施釉があり、内面は露胎で、ロクロなどで成形である。体部上半には3条の沈線を施し、下半部には白色土を入れた象嵌を施す。893は中国龍泉窯鎬蓮弁文青磁碗である。894・895は回転台土師器杯である。896・897・899は土師器皿である。898は古瀬戸灰釉碗である。内外面とも施釉しており、釉色は緑灰色である。

第173図900～942、第174図943～974は、B 2地区第2面で検出した遺構から出土した遺物である。900はS K 202から出土した土師器皿である。901はS K 204から出土した中国製白磁皿である。902はS K 201から出土した丹後型黒色土器碗(内黒)である。903・904はS K 203から出土した。903は内外面ともミガキがある平安時代後期の瓦器碗である。904は回転台土師器杯である。905～911はS K 230から出土した。905・908は土師器皿である。908は口縁部を一段ナデしている。口径15.0cm、器高3.3cmと大型であるが、プロポーションから鎌倉時代はじめである。906は回転台土師器杯である。907は土師器杯である。909は中国製白磁碗である。第V類である。910は須恵器杯である。911は土師器鍋である。912・913はS K 231から出土した。912は土師器皿である。913は青白磁碗である。見込みにヘラによる花文を施す。914・915はS P 257から出土した。914は台付き土師器皿、915は回転台土師器杯である。916・918はS K 286から出土した。916は柱状高台の回転台土師器杯である。918は瓦器鍋である。917はS D 294から出土した中国龍泉窯青磁碗である。内面にヘラ描き文を施す。919はS D 293から出土した瓦器鍋である。920・921・922はS P 241から出土した。920は須恵器杯である。奈良時代後期から平安時代はじめである。921は土師器皿である。922は砥石である。923はS P 5は瓦器鍋である。924はS P 240から出土した土師器皿である。口径16.2cm、器高3.3cmと大型で平安時代後期である。925はS P 336から出土した丹後型黒色土器碗(内黒)である。926はS P 232から出土した丹後型黒色土器碗(内黒)である。927はS P 248から出土した回転台土師器皿である。928はS P 252から出土した土師器皿である。929はS P 269から出土した土師器皿である。930はS P 273から出土した回転台土師器杯である。931・932はS P 273から出土した。931は土師器皿である。932は台付き土師器皿である。中央部にくぼみがある。933はS P 306から出土した土師器鍋である。外面にタタキを施す。934はS P 278から出土した瓦器皿である。935はS P 416から出土した回転台土師器皿である。936はS P 288から出土した土師器皿である。外底面に板状圧痕がある。937はS P 318から出土した回転台土師器皿である。938はS P 329から出土した丹後型黒色土器碗(内黒)である。939はS P 366から



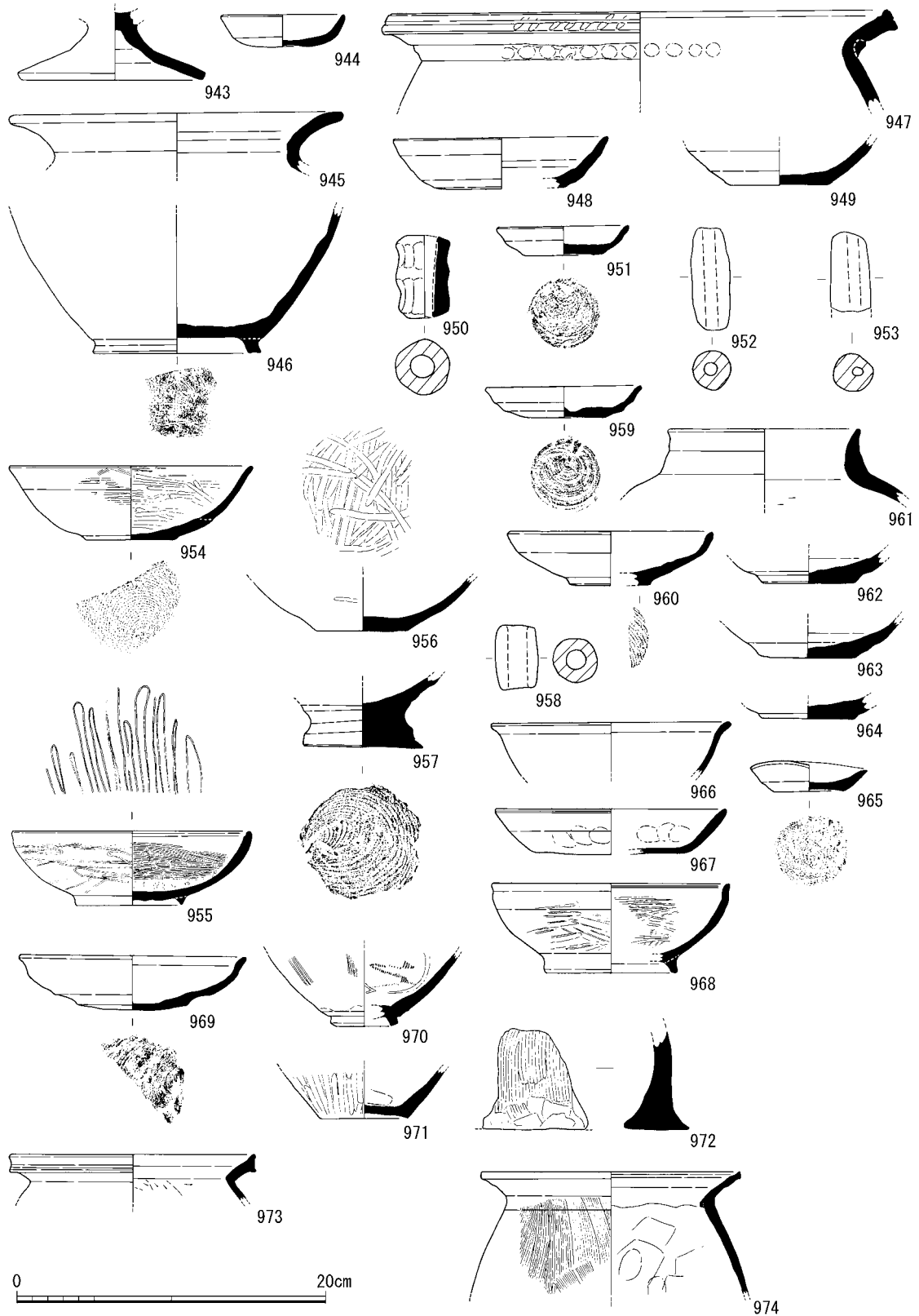


第173図 出土遺物実測図32

出土した土師器皿である。940はS P 279から出土した奈良時代の須恵器杯である。941はS P 318から出土した土師器皿である。口縁部を二段ナデしたもので、平安時代後期である。942はS P 294から出土した瓦器椀である。内外面ともミガキを施した平安時代後期から鎌倉時代初期の丹波型である。

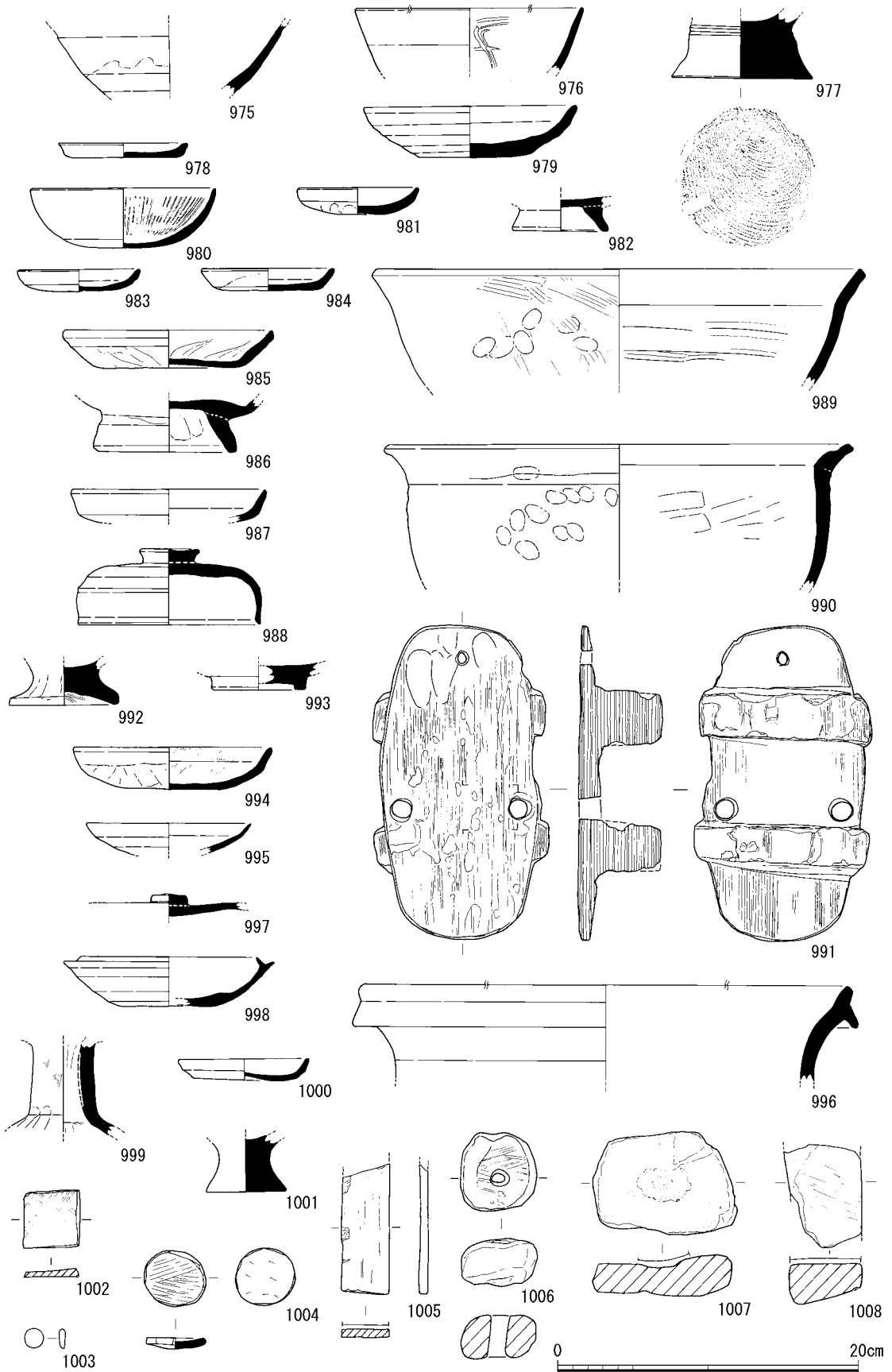
第174図943はS K 792から出土した弥生土器である。内外面とも摩滅している。944はS P 2041から出土した瓦器皿である。945はS P 215から出土した土師器甕である。946はS P 227から出土した須恵器壺である。947はS P 595から出土した弥生土器甕である。948は936はS P 242から出土した土師器皿である。949はS P 269から出土した回転台土師器杯である。950はS P 258から出土した瓦質の土錘である。951はS P 259から出土した瓦器皿である。952・953はS P 278から出土した土錘である。954はS P 335から出土した丹後型黒色土器椀(内黒)である。955はS P 354から出土した瓦器椀である。内外面ともミガキを施す。見込みには鋸歯状暗文がある。口縁端部内側に沈線をもつ。楠葉型模倣で平安時代後期である。956はS P 338から出土した丹後型黒色土器椀(内黒)である。957はS P 392から出土した柱状高台の回転台土師器杯である。958はS P 401から出土した土錘である。959はS P 353から出土した須恵器皿である。底部は糸きりで、平安時代後期である。960はS P 386から出土した回転台土師器杯である。961はS P 278から出土した土師器壺である。962・963はS P 416から出土した回転台土師器杯である。964・967・970はS P 417から出土した。964は回転台土師器杯である。967は土師器皿である。970は中国同安窯青磁椀である。これらは平安時代後期である。965はS P 454から出土した回転台土師器杯である。966はS P 413から出土した中国龍泉窯青磁椀である。968はS P 421から出土した瓦器椀である。内外面ともミガキを施す。口縁端部内側に沈線をもつ。969はS P 423から出土した回転台土師器杯である。971はS P 604から出土した土師器甕である。972はS P 504から出土した土製かまどである。973はS P 666から出土した弥生土器甕である。974はS P 534から出土した土師器甕である。

第175図975～1008は、B 2 地区第 2 面の遺構から出土した遺物である。975はS P 209から出土した古瀬戸平椀である。976はS P 258から出土した中国龍泉窯青磁椀である。977～982はS E 230から出土した。977は柱状高台の回転台土師器杯である。978・981は土師器皿である。979は回転台土師器皿である。灯明皿として使用している。いずれも平安時代後期である。980は奈良時代の土師器杯である。982は高台付き土師器皿である。983～988・990・991はS E 231から出土した。983～985・987は土師器皿である。985は口径13.7cm、器高2.7cmで、口縁部を一段ナデし、端部を面取りしたタイプである。鎌倉時代はじめである。986は台付き土師器皿である。平安時代後期である。988は古墳時代の須恵器蓋である。989は土師器鍋である。990は瓦器鍋である。991は下駄である。ほぼ全形が遺存している。長さ20.7cm、幅11.7cm、高さ5.5cmである。992～996はS E 280から出土した。992は皿か杯の土師器高台である。993は中国製青磁椀である。994は土師器皿である。995は中国製青磁皿である。996は瓦器鍋である。通常のタイプではなく、口縁部が拡張している。997～1008はS E 352から出土した。997は奈良時代の須恵器蓋である。998は古墳時代後期の須恵器杯である。999は土師器高杯である。1000は平安時代後期の土師器皿である。

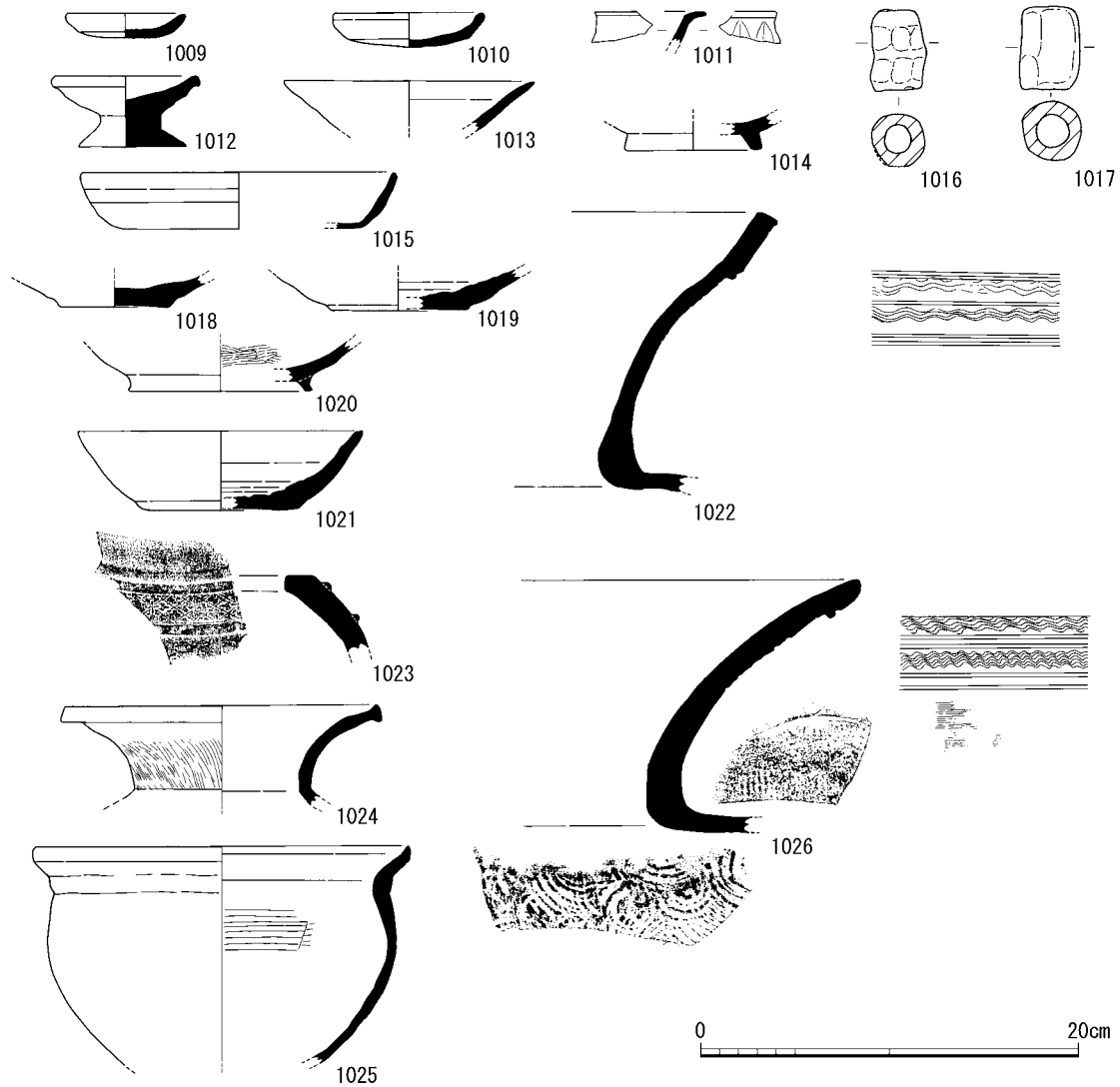


第174図 出土遺物実測図33

1001は土師器高台である。1002は方形で薄手の砥石である。1003は基石である。黒色で、縦1.3cm、横1.3cm、厚さ0.4cmである。1004は直径4.0cm、厚さ0.7cmの土製円板である。1005は長方形の薄手の砥石である。1006は隅丸方形で扁平の石製品である。1007はタタキ石である。1008



第175図 出土遺物実測図34

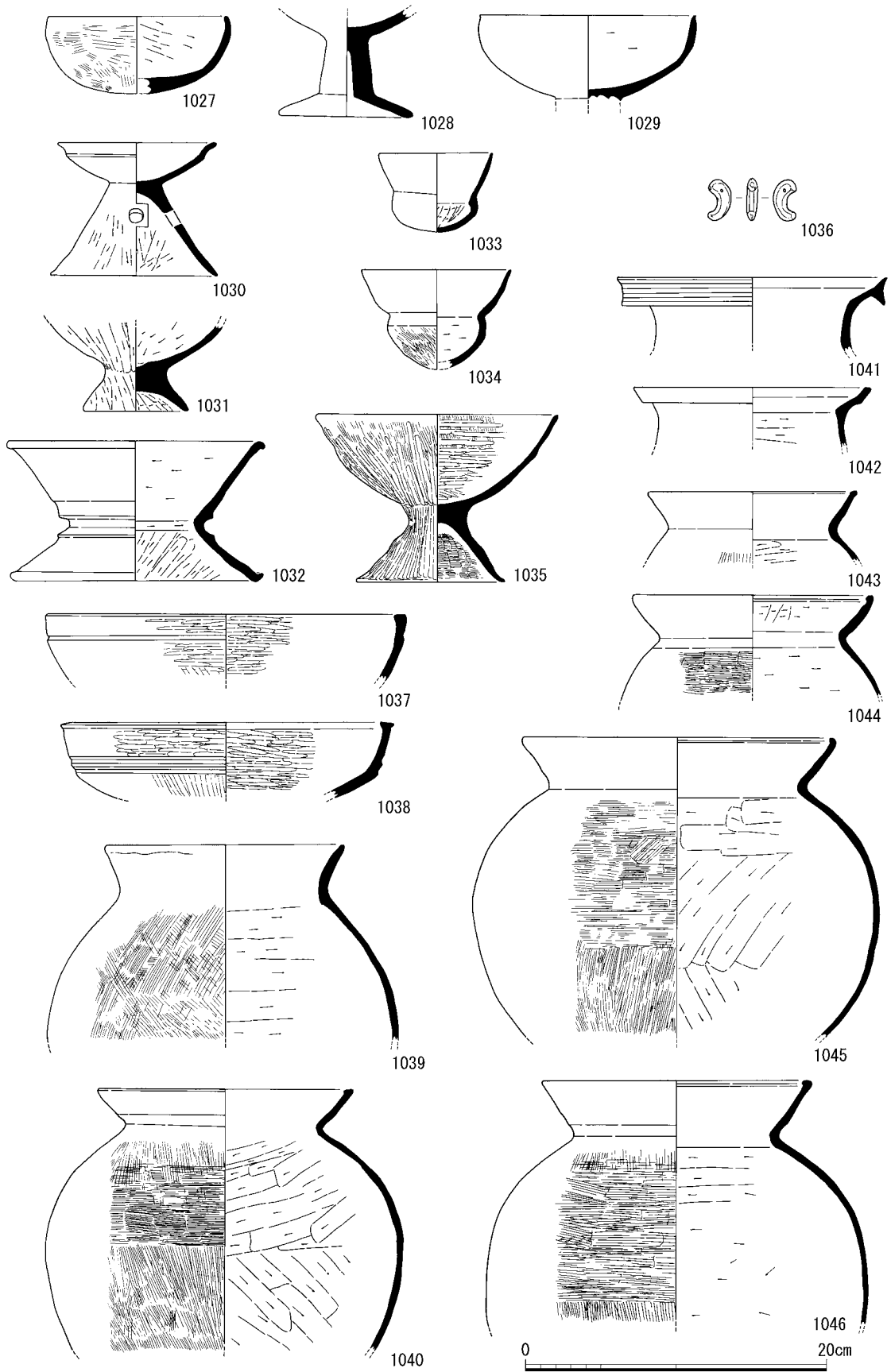


第176図 出土遺物実測図35

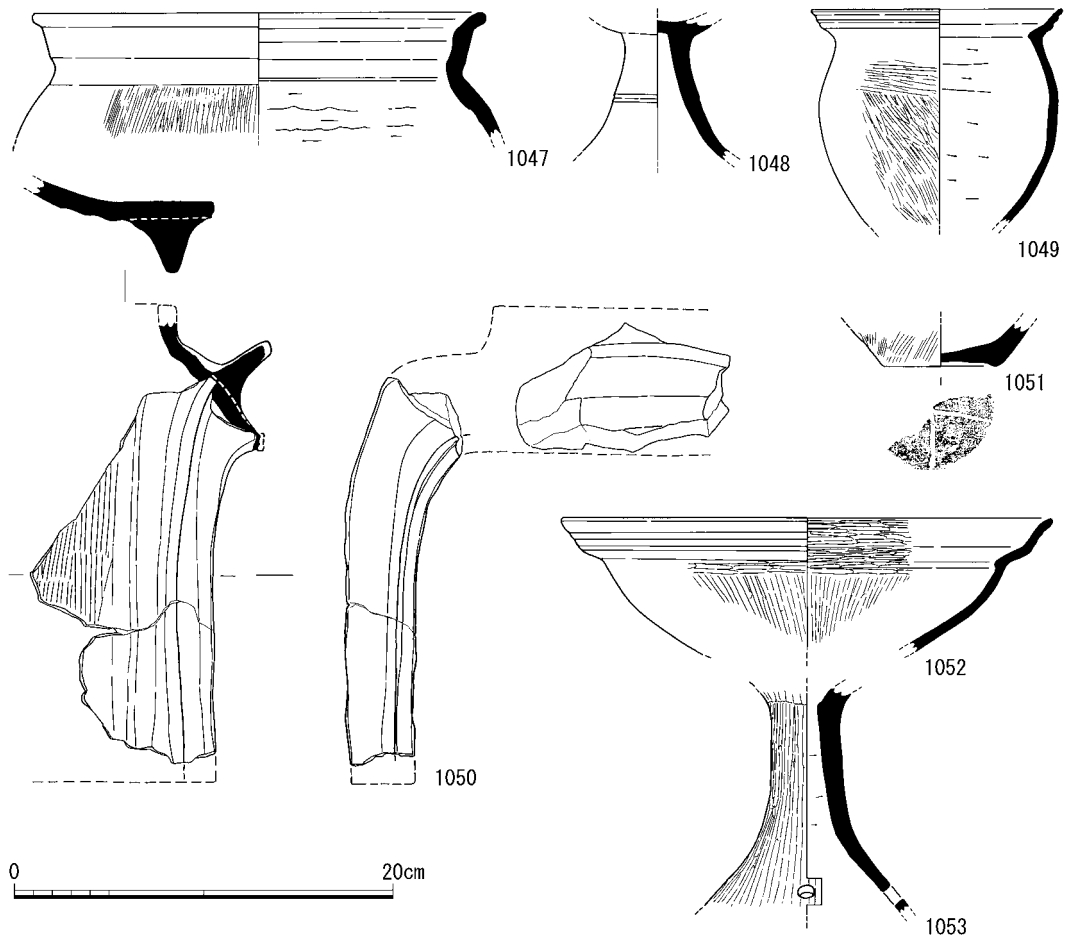
は砥石である。

第176図1009～1026は、B2地区第2面の包含層から出土した遺物である。1009・1010・1015は土師器皿である。1015は口縁部が二段ナデで、平安時代後期である。1012は回転台成形の台付き皿である。1013・1018・1019・1021は回転台土師器杯である。1011は中国龍泉窯鎬蓮弁文青磁碗である。鎌倉時代である。1014は中国製白磁碗である。1016・1017は土錘である。1020は瓦器碗である。1022・1026は口縁部に波状文がある須恵器甕である。1023は室町時代の瓦器火鉢である。1024は弥生土器甕である。1025は鉢である。

第177図1027～1046、第176図1047～1053は、B2地区第3面で検出した遺構内から出土した遺物である。1027～1029はS K 667から出土した。それ以外はS K 938から出土した。1027は土師器杯である。1028・1029は土師器高杯である。1030～1035、1039～1046は古式土師器である。1030は器台で1031は台付き甕か。1032は鼓形器台である。1033・1034は小型丸底壺である。1035は高杯である。内外面にミガキを施す。1036は滑石製勾玉である。長さ2.7cm、厚さ0.6cmである。1037・1038は口縁部外面に凹線がある弥生中期の高杯である。内外面にミガキを施す。1039・



第177図 出土遺物実測図36



第178図 出土遺物実測図37

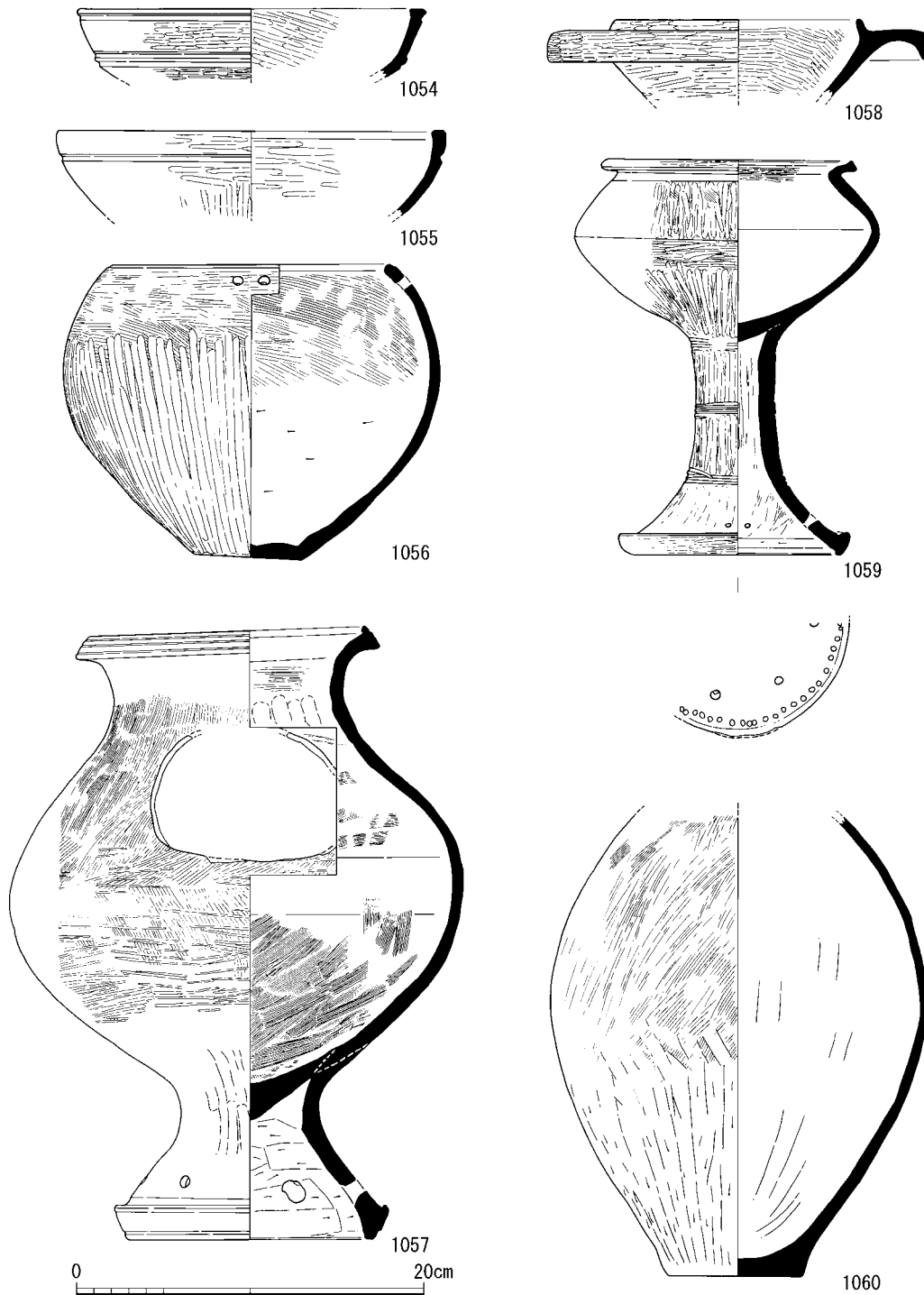
1040・1042～1046は土師器甕である。1044～1046は布留式甕である。

第178図1047・1048・1050はS K 504から出土した。1047は由良川流域通有の土師器甕である。1048は須恵器高杯である。1050は移動式かまどである。1049はS P 571から出土した弥生土器甕である。1051～1053はS H 889内のS K 1204から出土した。1051は弥生土器甕である。1052・1053は接合はしないが同一個体で、弥生土器高杯である。全面ミガキを施す。

第179図1054～1060、第178図1061～1070、第179図1071～1077、第180図1078～1105、第181図1106～1125はB 2地区第3面検出の遺構から出土した。1054～1060はS D 1033から出土した弥生土器である。1054・1055は高杯である。1056は無頸壺で、口縁部に2つの円孔がある。1057は台付き壺であるが、体部に円窓をもつ。遡源は東海地域にあるが、在地土器に焼成後に円窓を施したものである。1058・1059は高杯で、底部に複数の円孔がある。1060は甕である。

第180図1061～1066はS D 1033から出土した弥生土器である。1067～1070はS D 1034から出土した弥生土器である。1061～1063は甕である。1064・1065は広口壺である。1066は壺である。1067・1068・1070は甕である。1069は高杯である。

第181図1071～1077はS D 1213から出土した弥生土器である。1071は把手付き壺である。1072・1074は高杯である。1073は長頸壺である。1075・1076は脚部である。胎土・色調などから

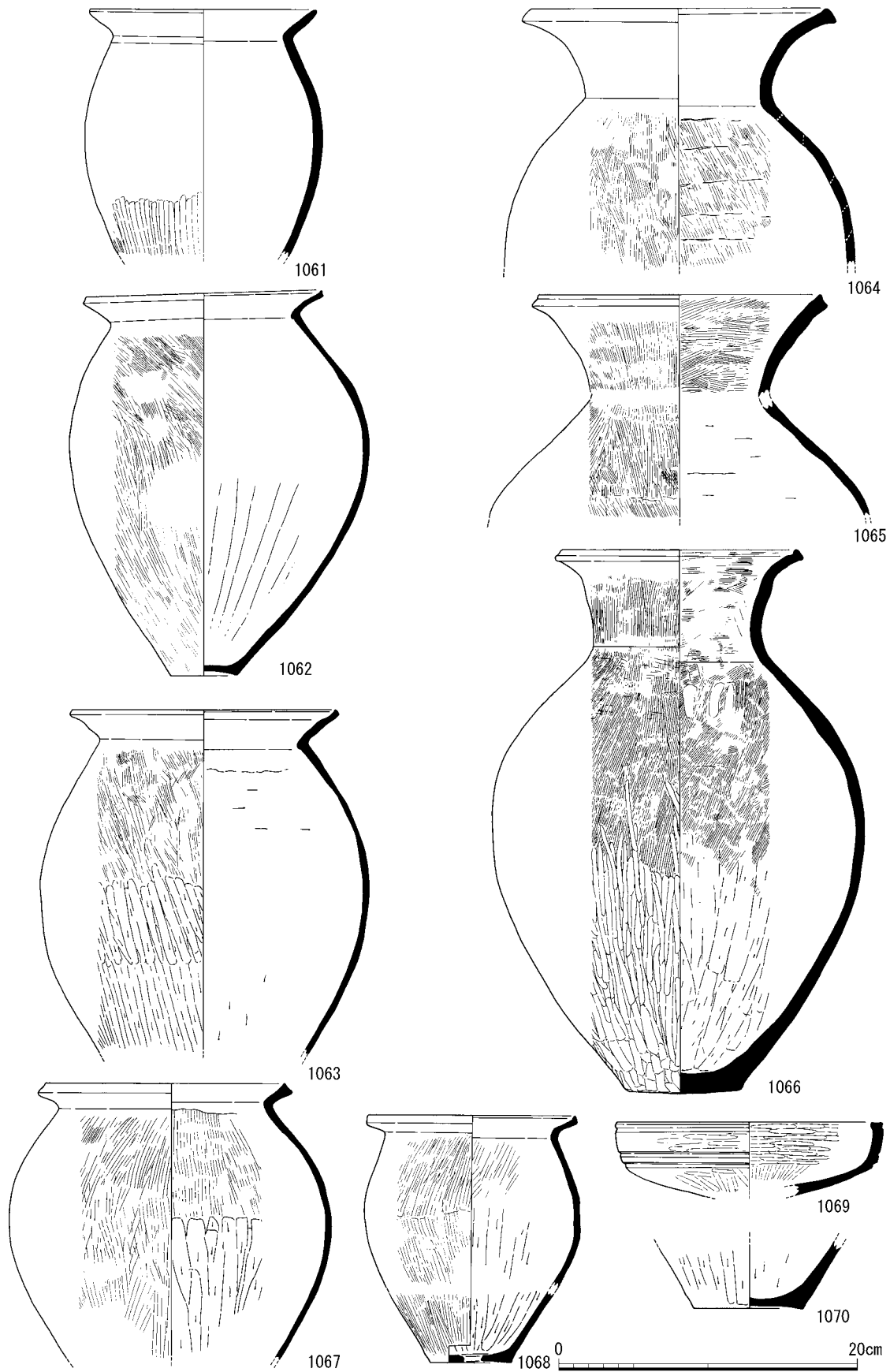


第179図 出土遺物実測図38

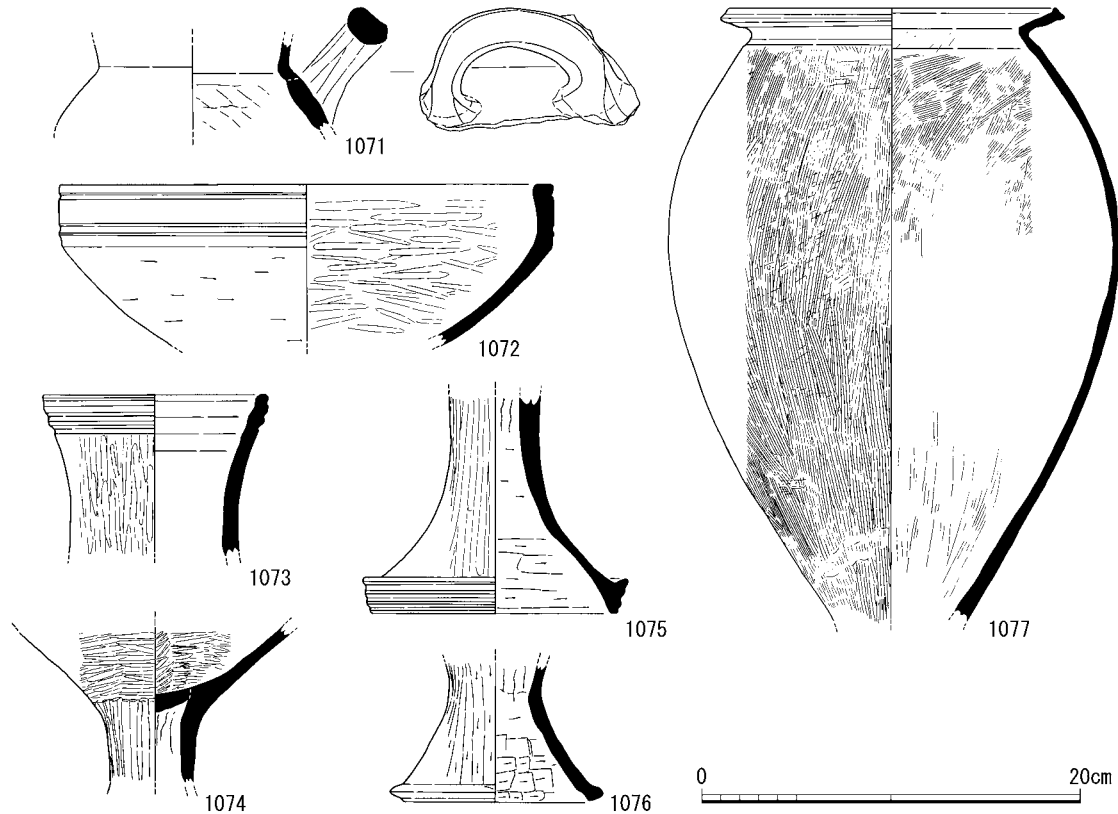
1076は1072と同一個体である。1077は甕である。

第182図1078はS H793から出土した弥生土器底部である。1079・1080・1081はS H841から出土した。1079は砥石である。1080はミニチュア土器である。1081は高杯である。1082～1084はS H844から出土した。1082・1083は脚部である。1084は底部である。1085～1087はS H889から出土した。1085は高杯である。1086は脚部である。1087は甕である。1088～1090はS H891から出土した。1088は甕である。1089は壺である。1090は高杯である。1091・1092・1094～1097はS H1027から出土した。1091は台付鉢である。1092は壺である。1094は底部である。1095は長頸壺で





第180図 出土遺物実測図39



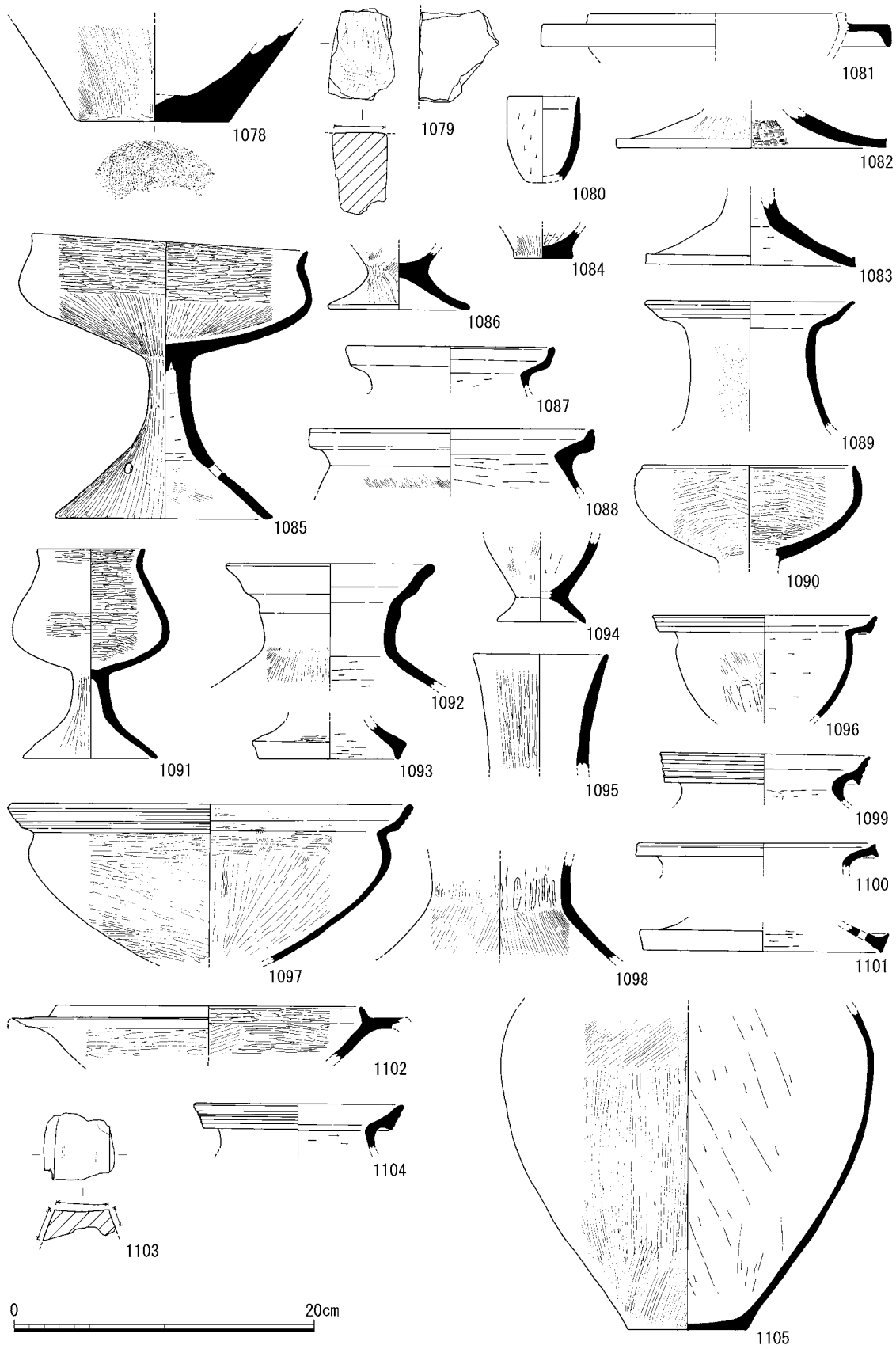
第181図 出土遺物実測図40

ある。1096は甕である。1093・1097～1105はS H1028から出土した。1097は高杯である。1098は壺である。1099・1100・1104・1105は甕である。1101は脚部である。1102は高杯である。1103は砥石である。

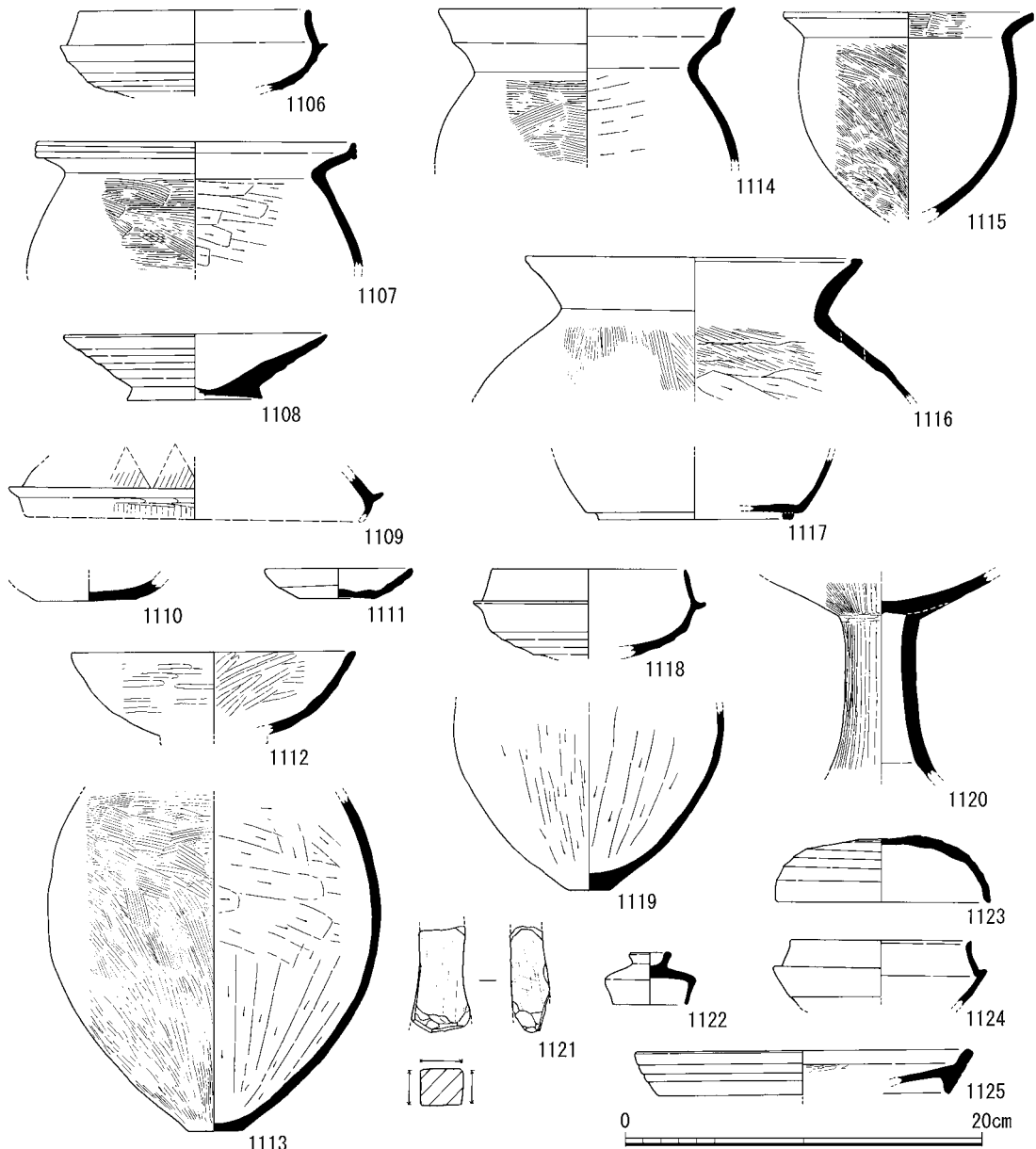
第183図1106はS P 646から出土した古墳時代中期の須恵器杯身である。1107はS P 659から出土した土師器甕である。1108はS P 714から出土した回転台土師器杯である。1109はS P 806から出土した器台である。吉備系である。1110・1111はS P 908から出土した。1110は回転台土師器杯である。1111は土師器皿である。1112はS P 914から出土した丹後型黑色土器碗(内黒)である。1113～1115はS P 1079から出土した弥生時代後期から古墳時代前期の甕である。1116はS P 1012から出土した土師器甕である。1117はS P 908から出土した須恵器杯Bである。1118はS P 1188から出土した須恵器杯身である。1119はS P 1079から出土した弥生時代後期から古墳時代前期の甕である。1120はS P 1204から出土した弥生土器高杯である。1121は包含層から出土した砥石である。1122は包含層から出土したミニチュア蓋である。1123は包含層から出土した須恵器蓋である。1124はS B 999から出土した須恵器杯身である。1125はS H1027から出土した弥生土器広口壺もしくは器台である。

#### (6) B 3 地区

第184図1126～1153・1156～1162は第1面出土、1154・1155は第2面、1165～1167は第3面出土である。

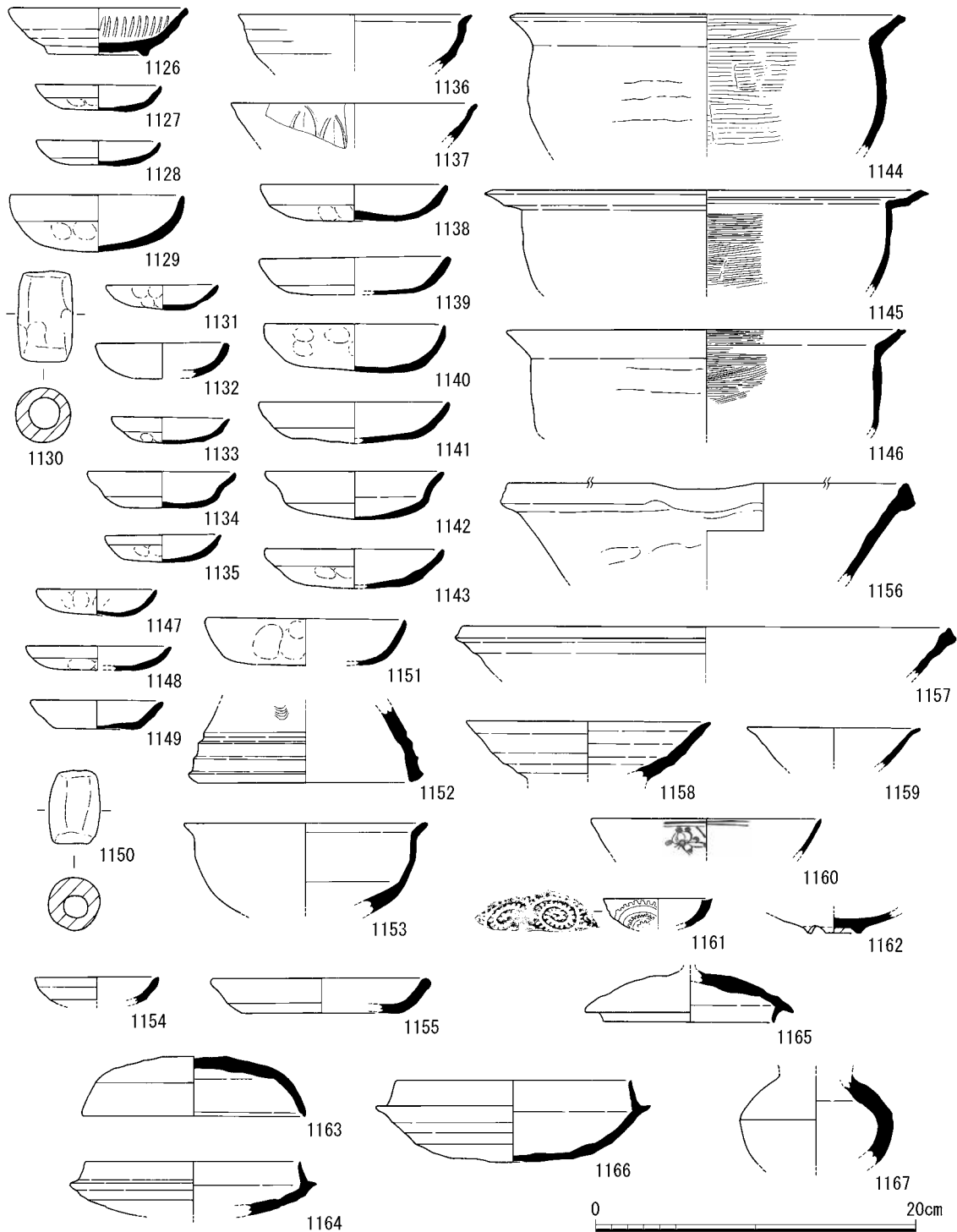


第182図 出土遺物実測図41



第183図 出土遺物実測図42

1126はS E 1367から出土した古瀬戸丸皿である。1127はS K 1489から出土した土師器皿である。1128～1130はS K 1431から出土した。1128は土師器皿である。1129は土師器杯である。1130は土錘である。1131・1132はS P 1483から出土した土師器皿である。1133・1134・1142はS P 1487から出土した土師器皿である。1135・1143はS P 1489から出土した土師器皿である。1136はS P 1404から出土した中国龍泉窯青磁椀である。1137はS P 1428から出土した中国龍泉窯鎬蓮弁文青磁椀である。1138はS P 1476から出土した土師器皿である。1139～1141・1146はS P 1483から出土した。1139～1141は土師器皿である。1146は瓦器鍋である。1144はS K 1301から出土した瓦器鍋である。1145はS E 1367から出土した瓦器鍋である。1147・1148・1151・1156はS K 1508から



第184図 出土遺物実測図43

出土した。1147・1148・1151は土師器皿である。1156は東播磨系須恵器鉢である。口縁部は肥厚しており、鎌倉時代後期から室町時代前期である。1149はS P 1766から出土した回転台土師器杯である。1150はS P 1548から出土した土錘である。1152はS P 1539から出土した須恵器器台である。1153はS P 1582から出土した中国龍泉窯青磁椀である。1154はS P 1610から出土した土師器皿である。1155はS P 1604から出土した土師器皿である。1158はS P 1758から出土した回転台土師器杯である。1159～1162は包含層から出土した。1159は中国製白磁皿である。口縁部の施釉が

拭い取られており、いわゆる口はげの皿である。1160は戦国時代の青花磁器(染付け)椀である。1161は中国製白磁小杯である。外面は型押しによる渦巻き状の浮文がある。1162は中国製白磁皿である。高台は挟り入りである。室町時代である。1163・1166・1167はS K1802から出土した。11163は須恵器蓋である。1166は須恵器杯である。1167は須恵器壺である。1164はS K1836から出土した須恵器杯である。

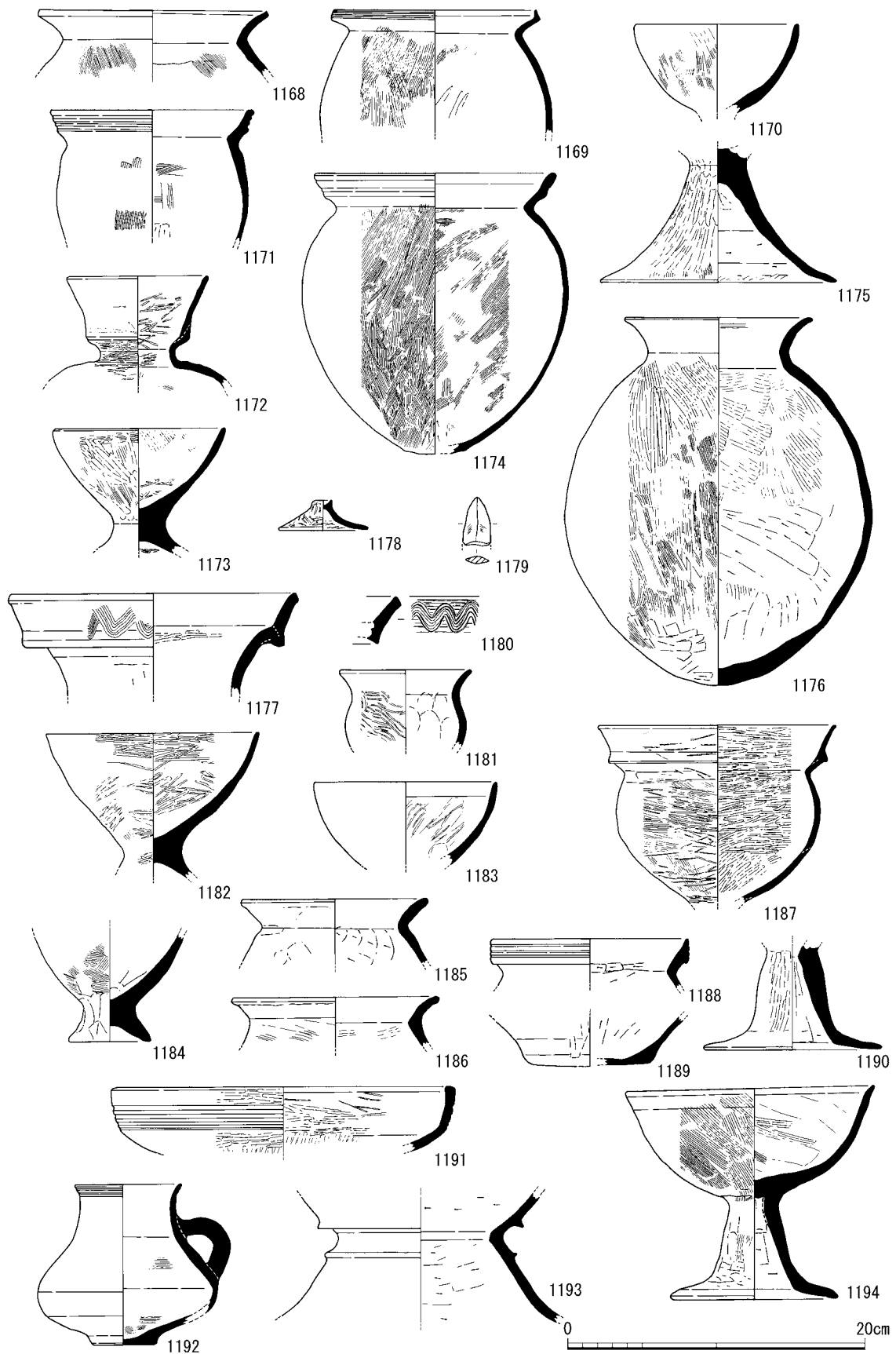
第185図1168～1194、第184図1195～1218、第185図1219～1249、第186図1250～1262、第187図1263～1296は、B3地区第4面の遺構から出土した遺物である。弥生時代中期から古墳時代中期に属する土師器である。1168～1170はS H1910から出土した。1168・1169は甕である。1170は高杯である。1171はS K1902から出土した。1172～1176はS H1929から出土した。1172は壺である。1173は鉢である。1174・1176は甕である。1175は脚部である。1177はS H1975から出土した壺である。1178～1187はS H1980から出土した。1178は蓋である。1179は磨製石鏃である。1180は壺である。1181・1185・1186は甕である。1182～1184・1187は鉢である。1188・1189・1191はS D2000から出土した。1190・1194はS H1901内のS P2052から出土した。1190・1194は高杯である。1193はS H1901内のS P2035から出土した器台である。1192はS H2014から出土した把手付き壺である。

第186図1195～1218はS H1901から出土した弥生土器高杯である。1204は内外面ともハケ目を施す。口径14.7cm、器高11.8cmである。1206は内外面ともハケ目を施す。口径16.2cm、器高11.8cmである。

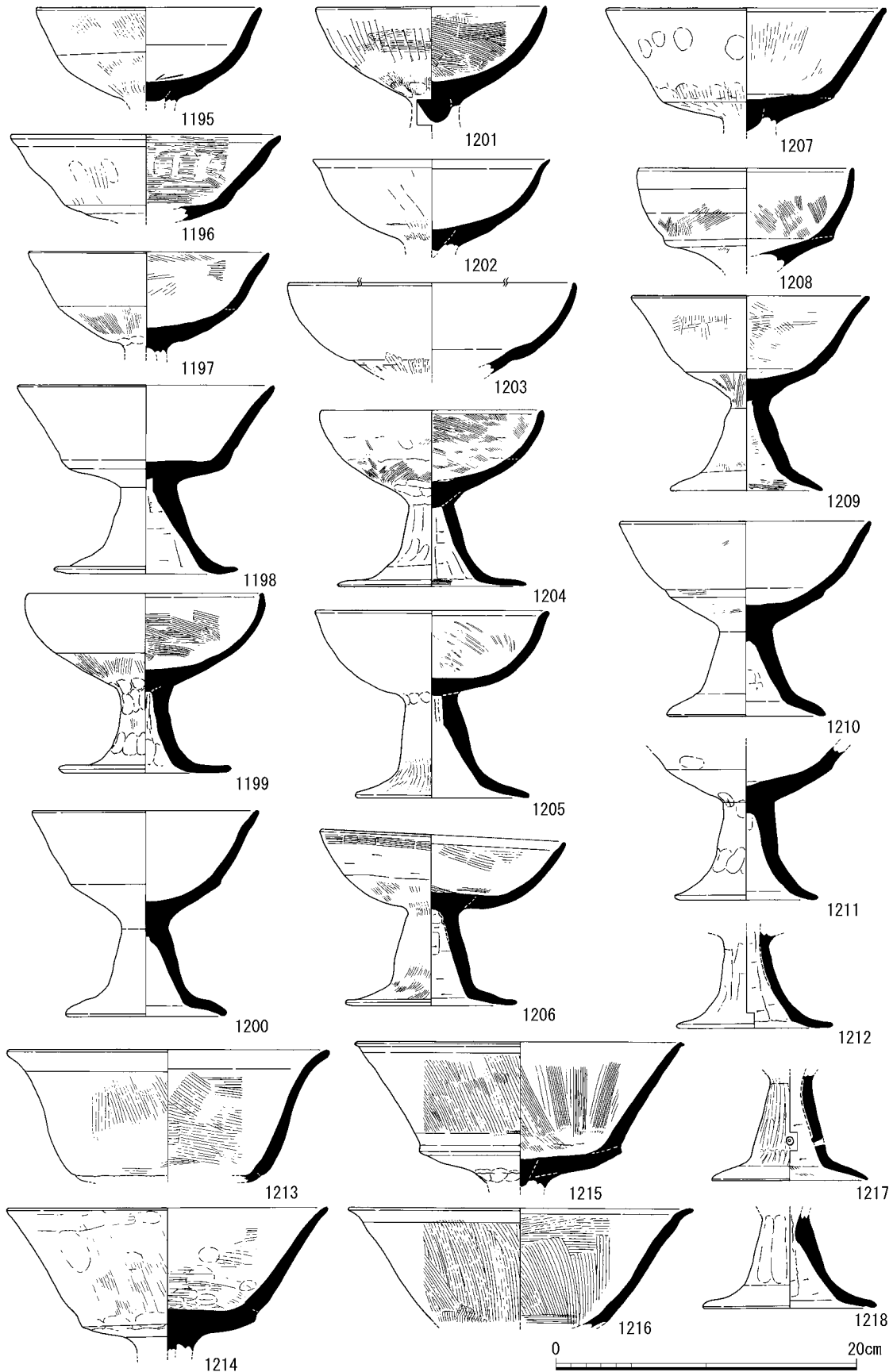
第187図1219～1249はS H1901から出土した土師器である。1219～1224は高杯である。1225・1226・1228・1229・1234は杯である。1227・1230～1232は鉢である。1233はミニチュア土器である。1235・1236・1239・1242・1243は壺である。1237・1238は底部である。1240は甕である。1241は口縁部である。1244～1247・1249は甕である。1248は壺である。

第188図1250～1262はS H1901から出土した土師器甕である。1261は外面はハケ目、内面はヘラケズリを施す。口径18.3cm、器高28.7cmである。1262は外面はハケ目、内面はヘラケズリを施す。口縁端部内側に膨らみをもつ。口径17.0cm、器高30.6cmである。

第189図1263～1267・1269～1271はS H1901から出土した。1263・1266・1267は須恵器高杯である。1264・1265は須恵器杯身である。すべて古墳時代中期である。1269は鉄鏃の一部である。1270は長方形の砥石である。粘板岩製である。1271は鞆の羽口である。1268・1272～1292・1296はS K2061から出土した。1268は蓋である。1272は鉢である。1273は壺か鉢である。1274は磨製石斧である。先端はほとんど欠損しているが蛤刃である。現存長6.6cm、現存幅2.2cmである。1275・1276・1278・1279・1291・1296は高杯である。1277・1280は口縁部である。1281・1282・1285・1286は甕である。1283・1284・1287・1292は脚部である。1288～1290は底部である。弥生時代後期から古墳時代前期のものが多いが、1285・1296など古墳時代中～後期のものもある。また、1274・1280などのように弥生時代中期かそれ以前のものもある。1293・1295は包含層から出土した。1293は高杯である。1295は壺である。1294はS H1029から出土した弥生土器壺である。

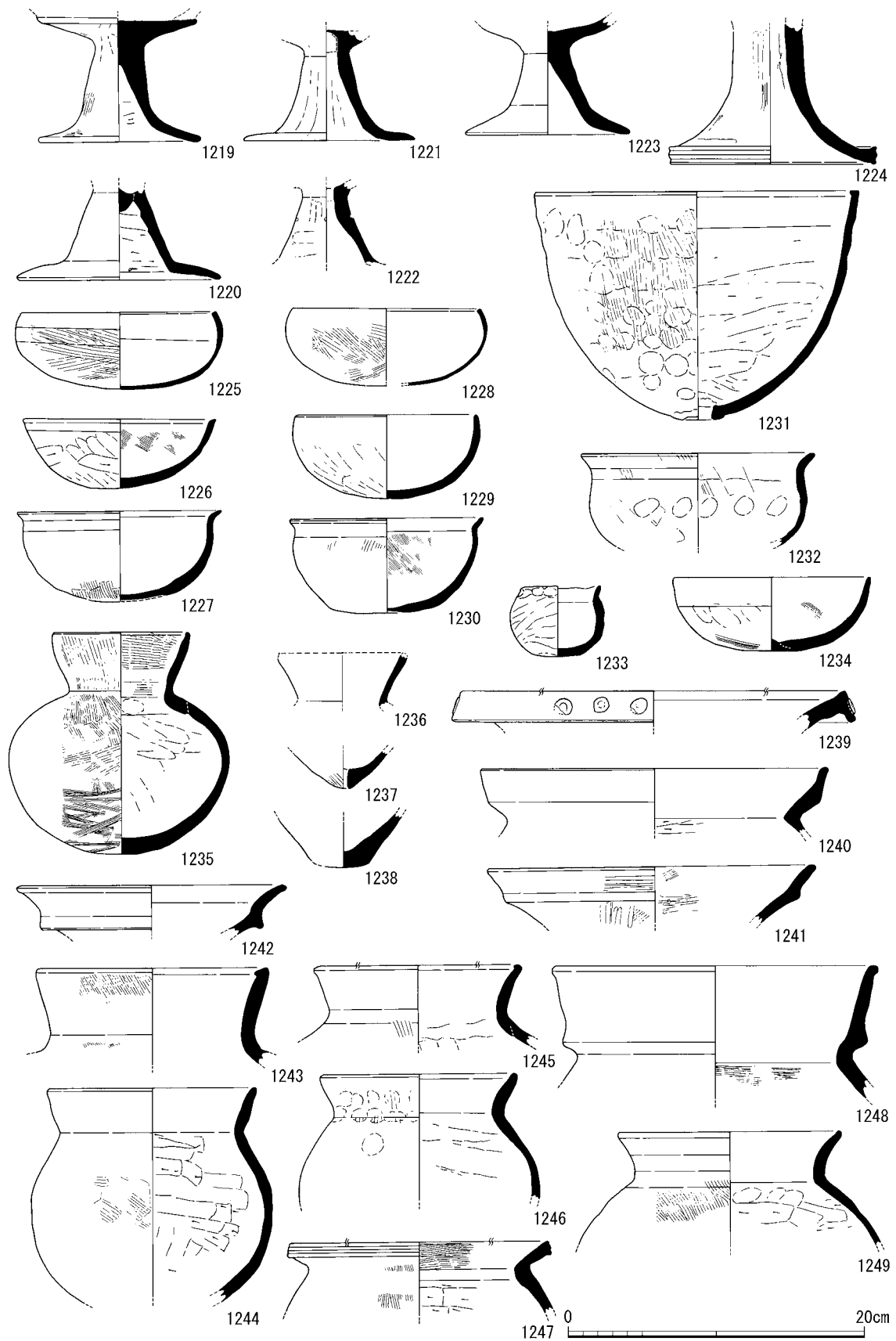


第185図 出土遺物実測図44

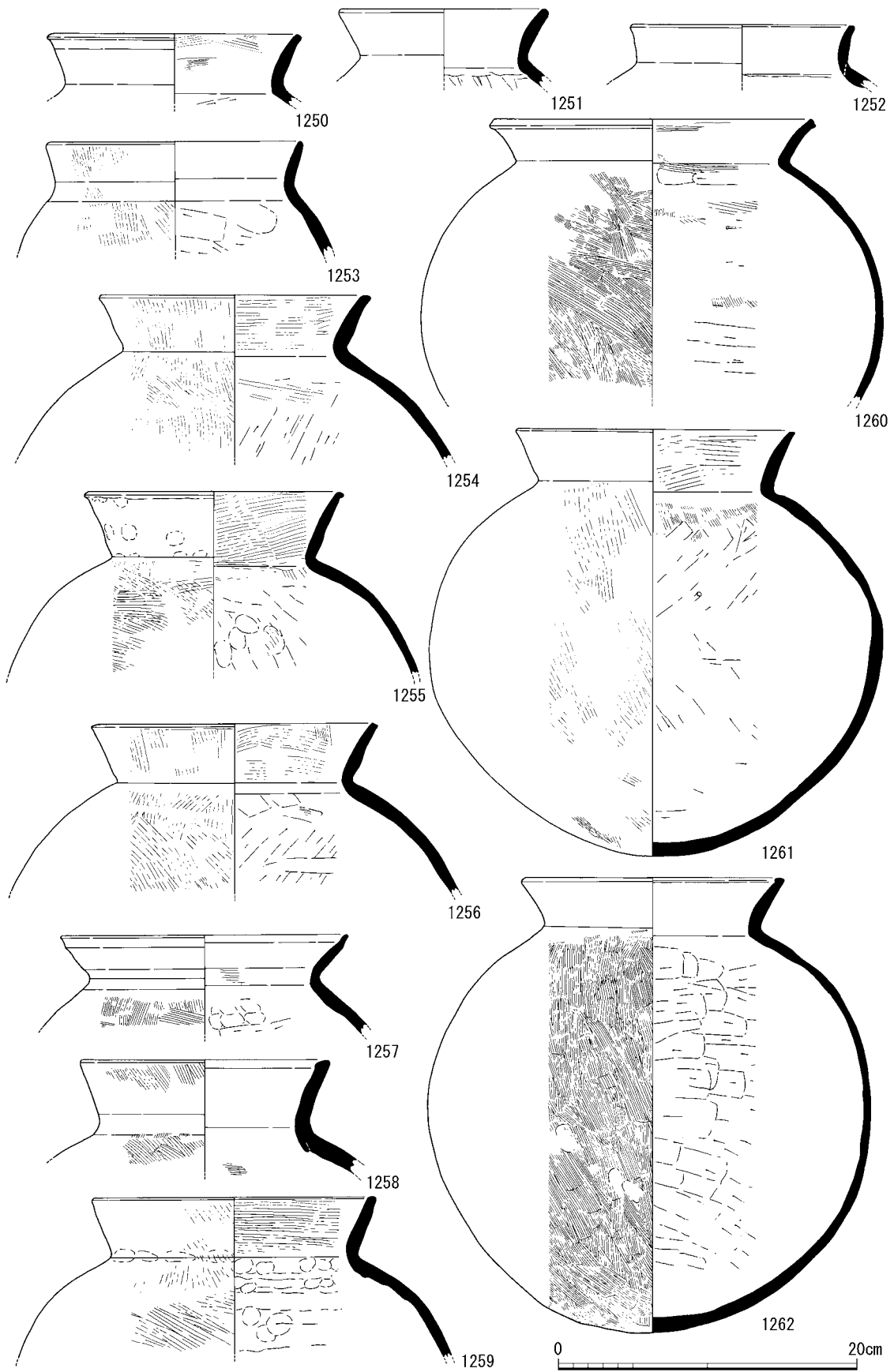


第186図 出土遺物実測図45

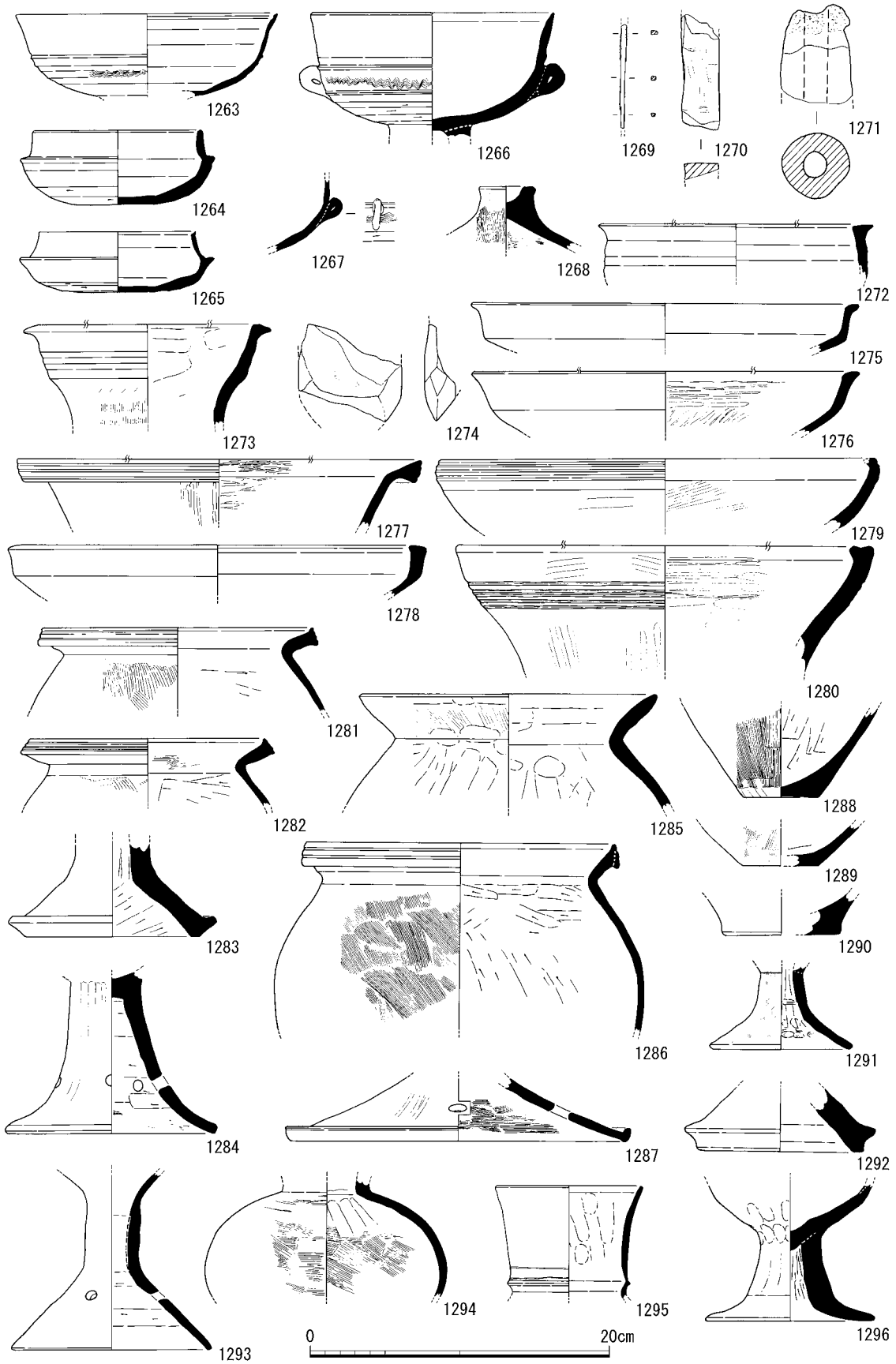




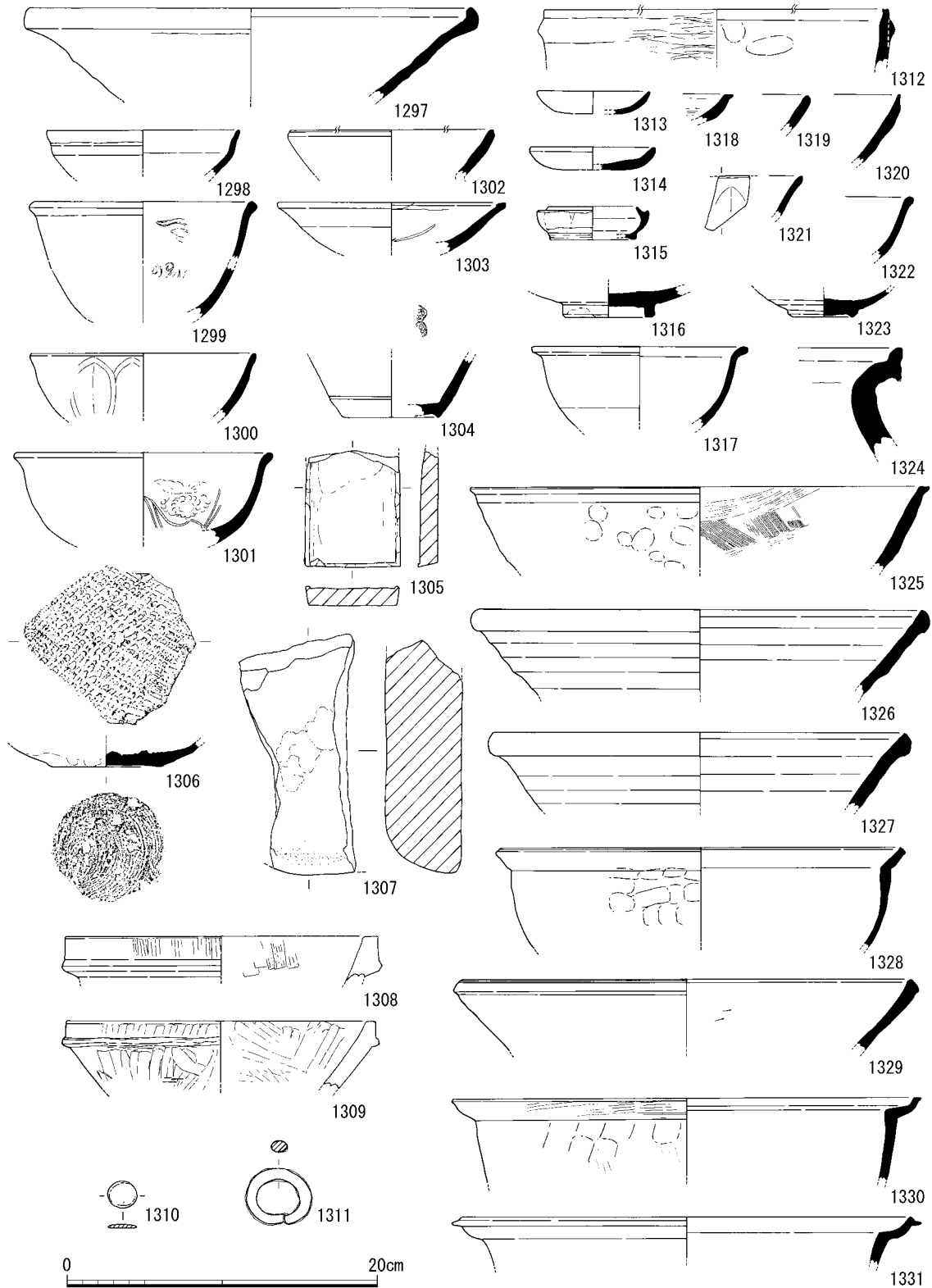
第187図 出土遺物実測図46



第188図 出土遺物実測図47



第189図 出土遺物実測図48



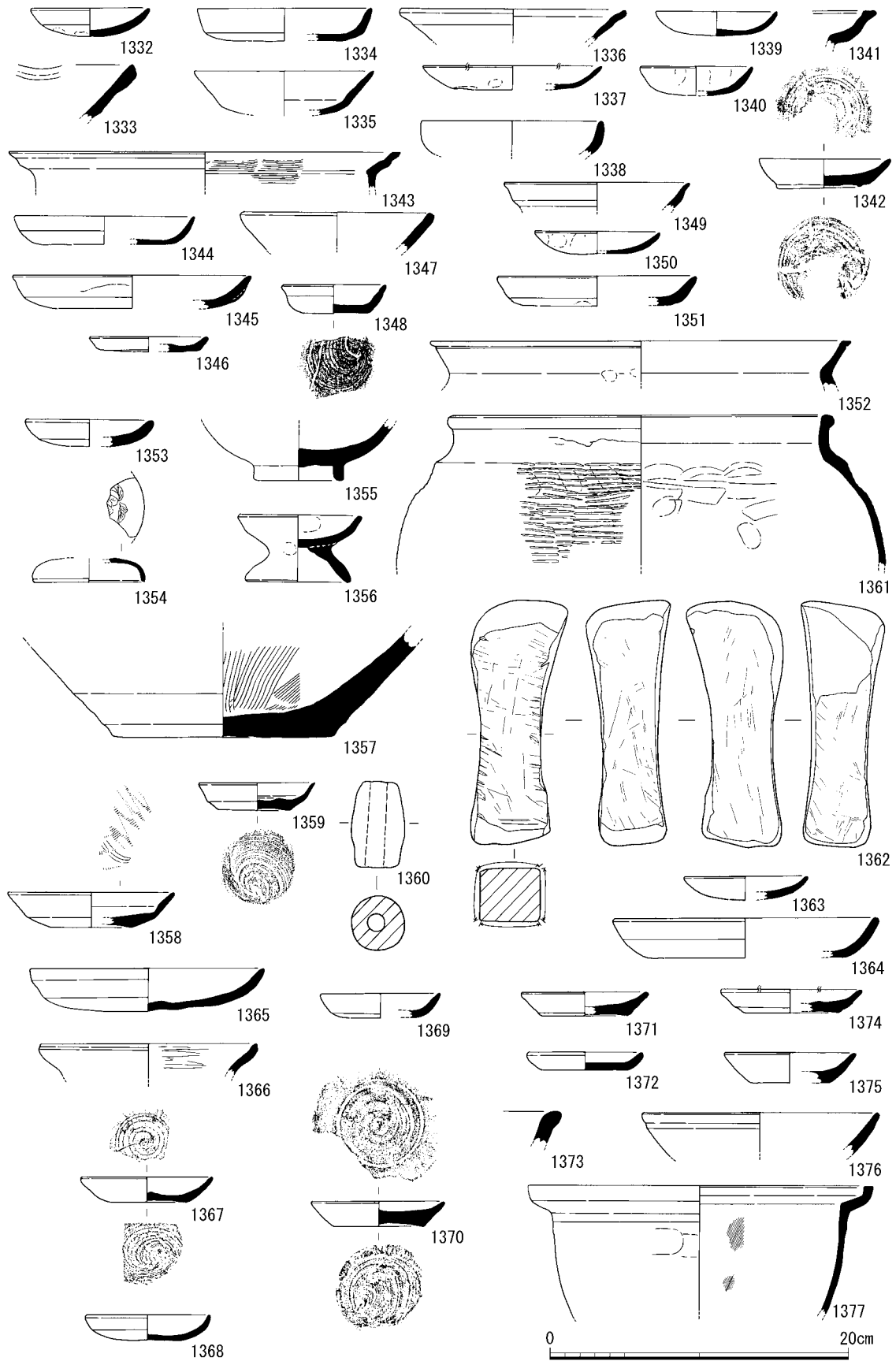
第190図 出土遺物実測図49

(7)C1地区

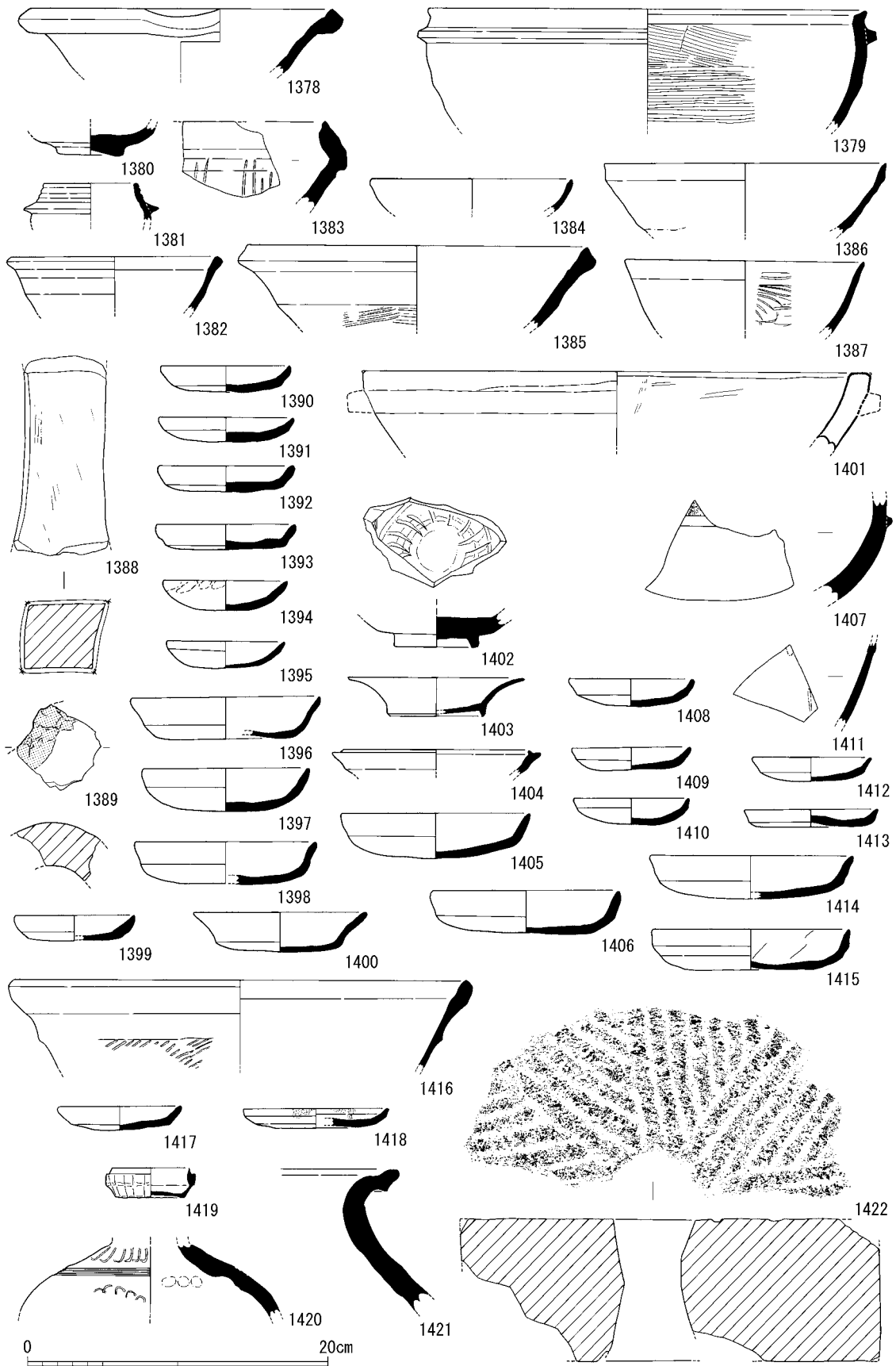
第190図1297～1331は、C1地区第1面の遺構・包含層から出土した遺物である。1297はS K 02から出土した東播磨系須恵器鉢である。鎌倉時代後期である。1298・1299はS P 26から出土し

た。1298は瀬戸の天目茶碗である。釉色は黒色である。1299は中国龍泉窯青磁碗である。1300は包含層から出土した中国龍泉窯鎬蓮弁文青磁碗である。1301は包含層から出土した中国龍泉窯青磁碗である。内面に花文を施す。1302はS P 59から出土した土師器皿である。1303～1310は包含層から出土した。1303は古瀬戸おろし皿である。1304は高麗象嵌青磁鉢である。見込みにひし形様の文様が施されている。外面には沈線が施され、いずれも象嵌されている。釉色がオリーブ灰色で、象嵌部は明緑灰色である。内外面ともロクロ成形である。底部は削りだし高台である。高台径6.0cm、残存高3.8cmである。1305は長方形の硯である。1306は古瀬戸おろし皿である。1307は石皿である。1面のみ使用されている。1308・1309は石鍋である。1310は基石である。直径1.8cmである。1311は金属製の円環である。1312・1318はS K 19から出土した。1312は室町時代の瓦器羽釜である。1313はS P 16から出土した土師器皿である。1314はS P 42から出土した土師器皿である。1315～1317・1321～1330は包含層から出土した。1315は中国製青白磁合子である。1316・1317・1322は中国龍泉窯青磁碗である。1321は中国龍泉窯鎬蓮弁文青磁碗である。1323は中国製白磁皿である。1324は常滑甕である。鎌倉時代後期である。1325は室町時代の瓦器鉢である。1326・1327・1329は東播磨系須恵器鉢である。1328・1330・1331は瓦器鍋である。1319はS P 32から出土した瓦器鉢である。1320はS P 31から出土した瓦器鉢である。

第191図1332～1377は、C 1 地区第2・3面の遺構・包含層から出土した遺物である。1332はS P 62から出土した土師器皿である。1333・1343・1349・1353はS P 76から出土した。1333は東播磨系須恵器鉢である。1343は瓦器鍋である。1338は古瀬戸おろし皿である。1353は土師器皿である。1334はS P 64から出土した土師器皿である。1335はS P 70から出土した土師器皿である。1336はS P 65から出土した土師器皿である。1337はS P 74から出土した土師器皿である。1338はS P 72から出土した土師器皿である。1339・1341はS P 66から出土した。1339は土師器皿である。1341は瓦器鍋である。1340はS P 73から出土した土師器皿である。1342はS D 98から出土した回転台土師器皿である。内面にはハケ目を施す。底部は糸きりである。1344・1345・1347・1350はS P 80から出土した土師器皿である。1346はS P 94から出土した土師器皿である。1348はS P 92から出土した回転台土師器皿である。1351はS P 82から出土した土師器皿である。1352はS P 93から出土した土師器鍋である。1354～1362は包含層から出土した。1354は中国製青白磁合子蓋である。1355は中国龍泉窯青磁碗である。1356は土師器台付き皿である。1357は陶器すり鉢である。1358は中国同安窯青磁皿である。1359は回転台土師器皿である。1360は土錘である。1361は土師器鍋である。1362は砥石である。4面使用している。1363はS P 146から出土した土師器皿である。1364はS P 133から出土した土師器皿である。1365はS K 102から出土した土師器皿である。1366はS K 115から出土した瓦器碗である。鎌倉時代の丹波型である。1367はS P 127から出土した回転台土師器皿である。内面はヘラナデを施す。1368はS P 138から出土した土師器皿である。1369はS P 108から出土した土師器皿である。1370～1377はS P 126から出土した。1370～1372・1374・1375は回転台土師器皿である。内面はヘラナデを施す。1373は陶器鉢である。1376は土師器皿である。1377は土師器鍋である。



第191図 出土遺物実測図50



第192図 出土遺物実測図51

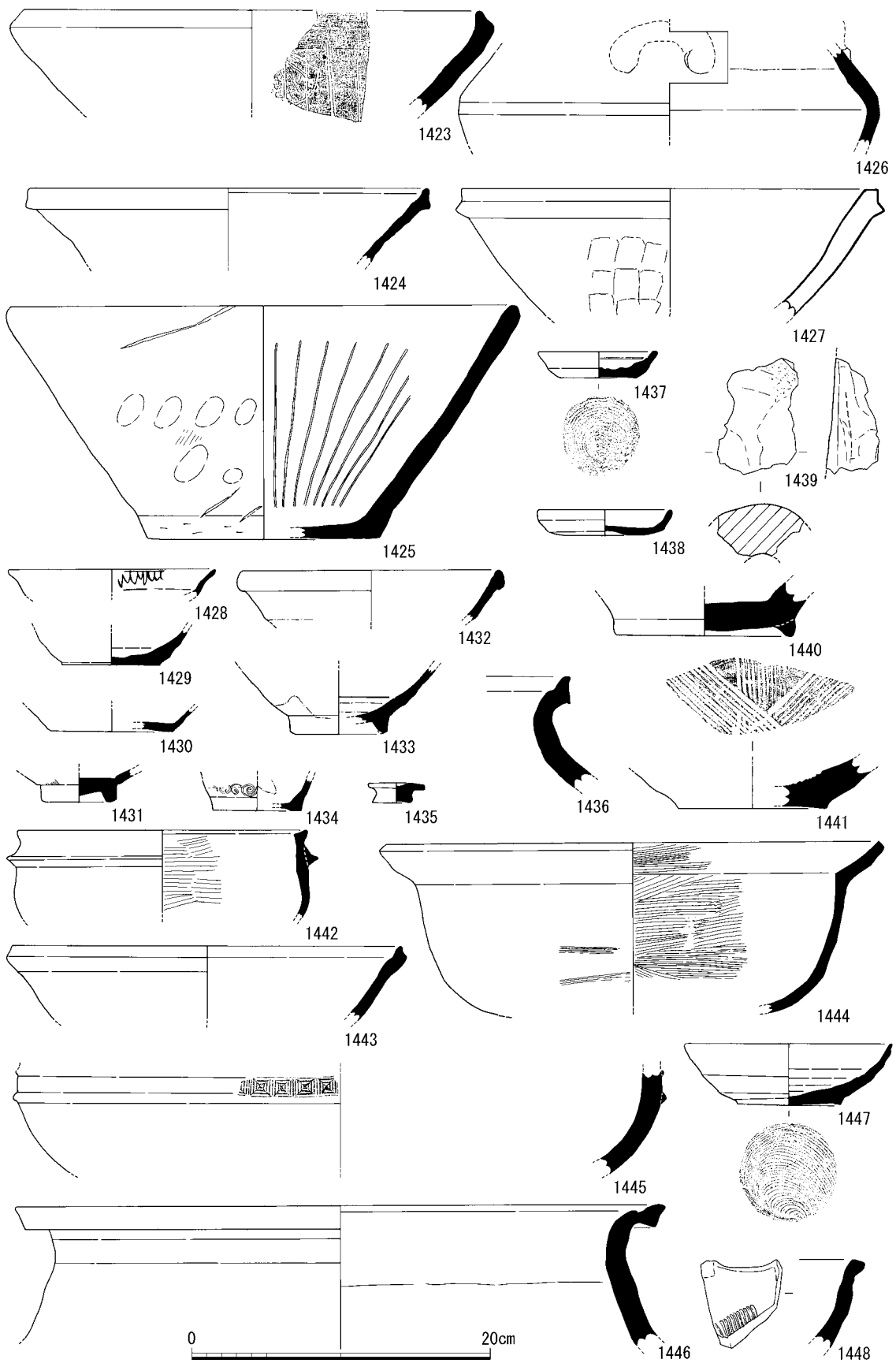
## (8)C2地区

第192図1378～1422、第191図1423～1448は、C2地区第1面の遺構・包含層から出土した遺物である。1378はS K02から出土した東播磨系須恵器鉢である。鎌倉時代後期から室町時代前期である。1379はS K06から出土した瓦器羽釜である。1380はS K08から出土した唐津皿である。1381はS P39から出土したミニチュア瓦器羽釜である。1382はS P148から出土した中国龍泉窯青磁椀である。1383はS P30から出土した室町時代の備前すり鉢である。1384はS P58から出土した陶器椀である。1385はS K185から出土した土師器鍋である。1386はS P58から出土した古瀬戸平椀である。1387はS P178から出土した中国龍泉窯青磁椀である。1388はS P271から出土した砥石である。4面使用している。1389はS P403から出土した韃の羽口である。1390はS P325から出土した土師器皿である。1391・1392・1402はS K392から出土した。1391・1392は土師器皿である。1402は中国龍泉窯青磁椀である。1393はS P397から出土した土師器皿である。1394はS D421から出土した土師器皿である。1395はS P491から出土した土師器皿である。1396はS P416から出土した土師器皿である。1397はS P532から出土した土師器皿である。1398はS P597から出土した土師器皿である。1399はS P628から出土した土師器皿である。1400はS P661から出土した土師器皿である。1401はS P371から出土した石鍋である。1403はS P510から出土した中国製白磁皿である。端そりタイプで室町時代である。1404はS K515から出土した古瀬戸おろし皿である。1405・1406・1408～1410・1412・1414・1415はS K581から出土した土師器皿である。1407は瓦器火鉢である。外面に印刻を施している。1411はK581から出土した黒釉陶器壺である。内外面ともロクロナデで、生産地は不明である。1416はS P664から出土した土師器鍋である。外面にタタキを施す播丹型の最終段階に近い形態で、室町時代である。1417はS K701から出土した土師器皿である。1418はS P856から出土した瓦器皿である。1419～1421は包含層から出土した。1419は中国製青白磁合子である。1420は古瀬戸瓶子である。外面に印刻を施している。1421は室町時代の丹波甕である。1422はS P642から出土した花崗岩製の石臼である。

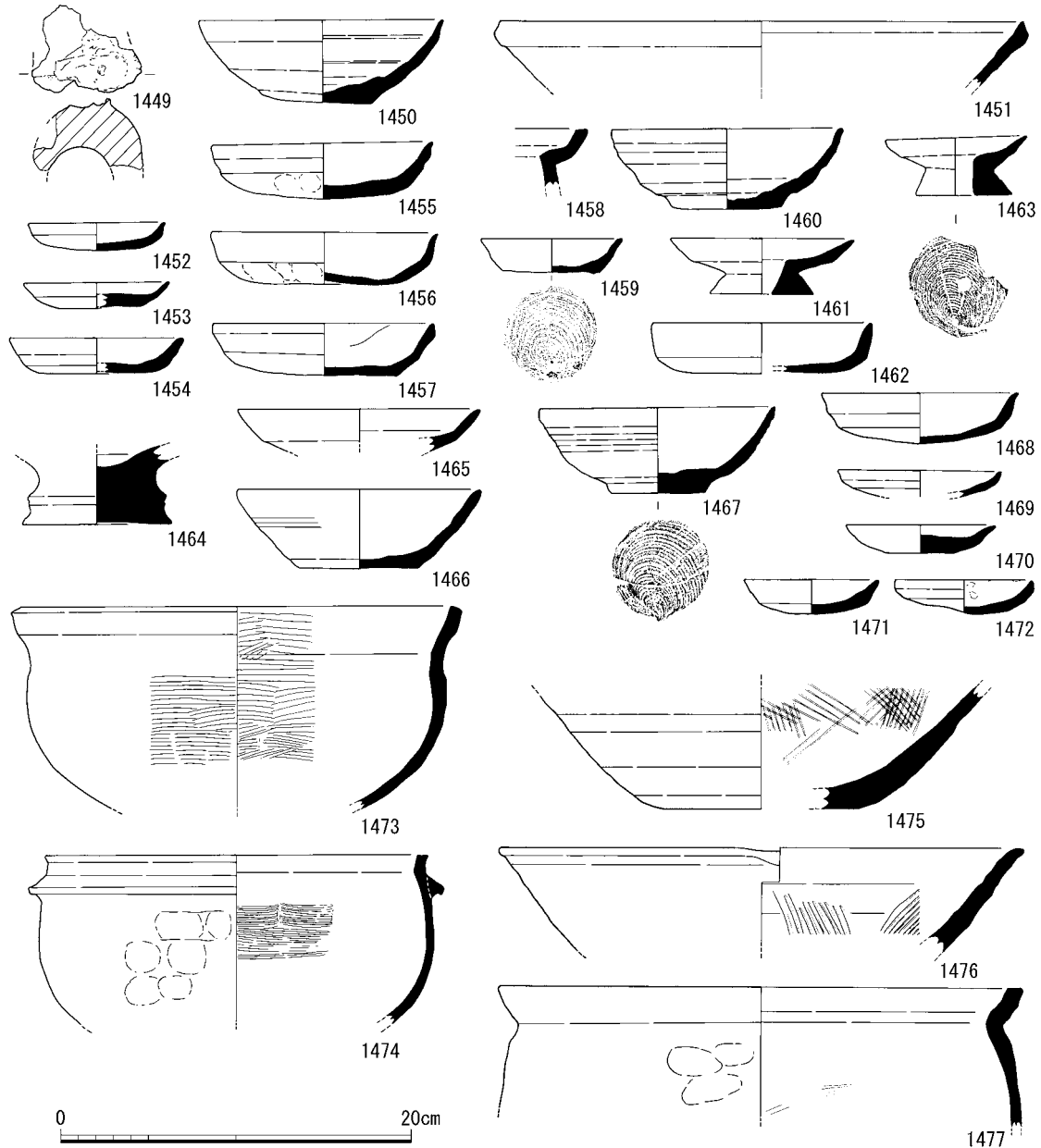
第193図1423～1448は、C2地区第1・2面の包含層から出土した。1423は丹波すり鉢である。摺り目は1本引きである。遺存した面の左手にはヘラですり目のほか貝殻形の刻みがある。1424・1443は東播磨系須恵器鉢である。1425は室町時代の丹波すり鉢である。1426は耳をもつ中国製青磁壺である。1427は石鍋である。1428は青花磁器(染付け)皿である。1429は回転台土師器皿である。1430は中国製白磁皿である。いわゆる口はげ皿で、鎌倉時代である。1431は中国同安窯青磁椀である。1432は中国製白磁椀である。第Ⅳ類である。1433は中国製白磁椀である。第Ⅴ類である。1434は陶器壺である。釉色は黄褐色である。外面下部には渦巻き文がスタンプされている。1435は古瀬戸蓋である。1436は常滑甕である。1437は回転台土師器皿である。1438は瓦器皿である。見込みにジグザグ状暗文を施す。1439は韃の羽口である。1440・1441・1448は室町時代の越前鉢である。1442は土師器羽釜である。1444は瓦器鍋である。1445は瓦器火鉢である。体部中位に印刻を施す。1446は越前甕か。1447は回転台土師器杯である。

第194図1449～1477C2地区第2面の遺構から出土した遺物である。1449はS X1199から出土し



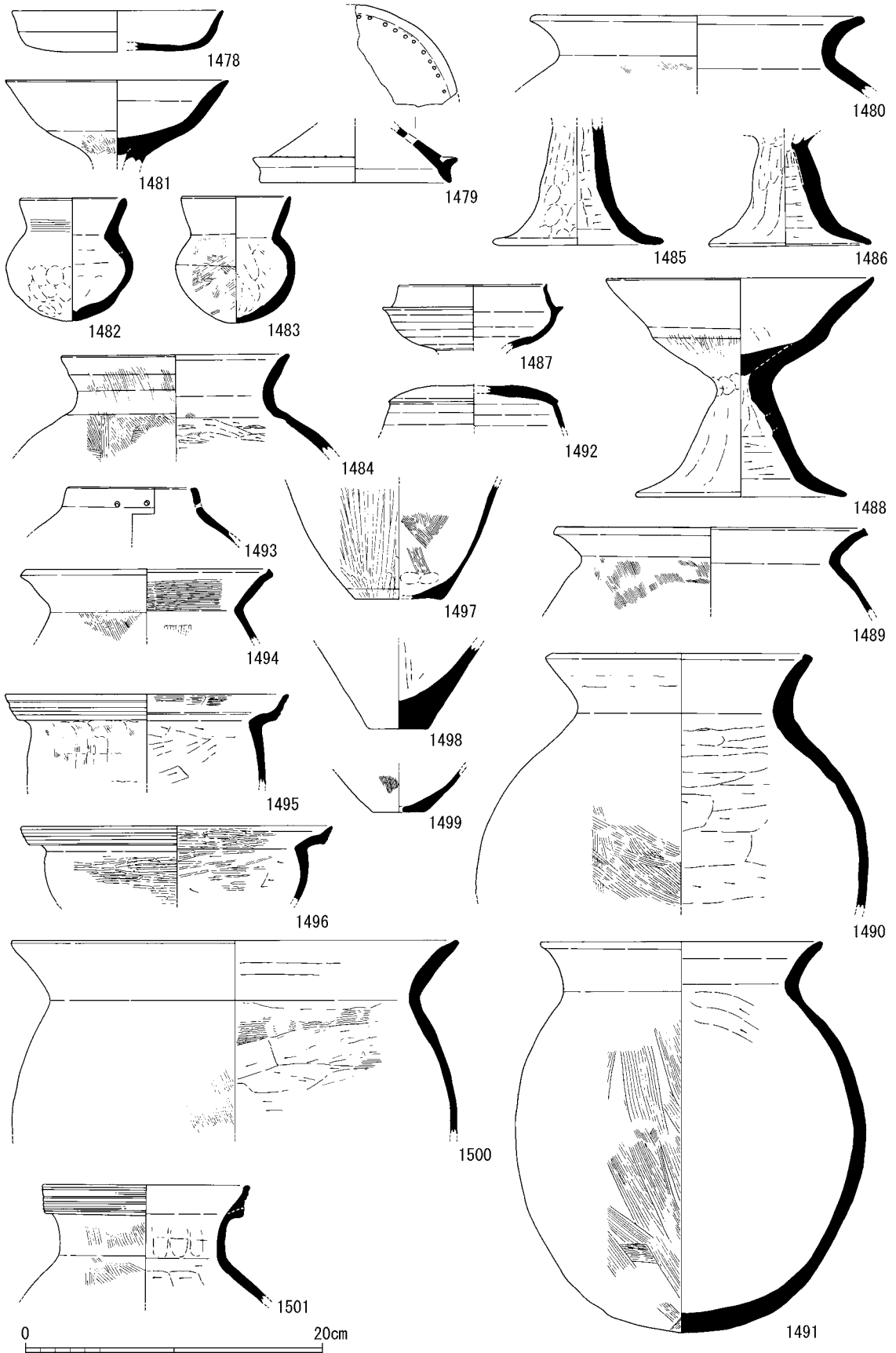


第193図 出土遺物実測図52

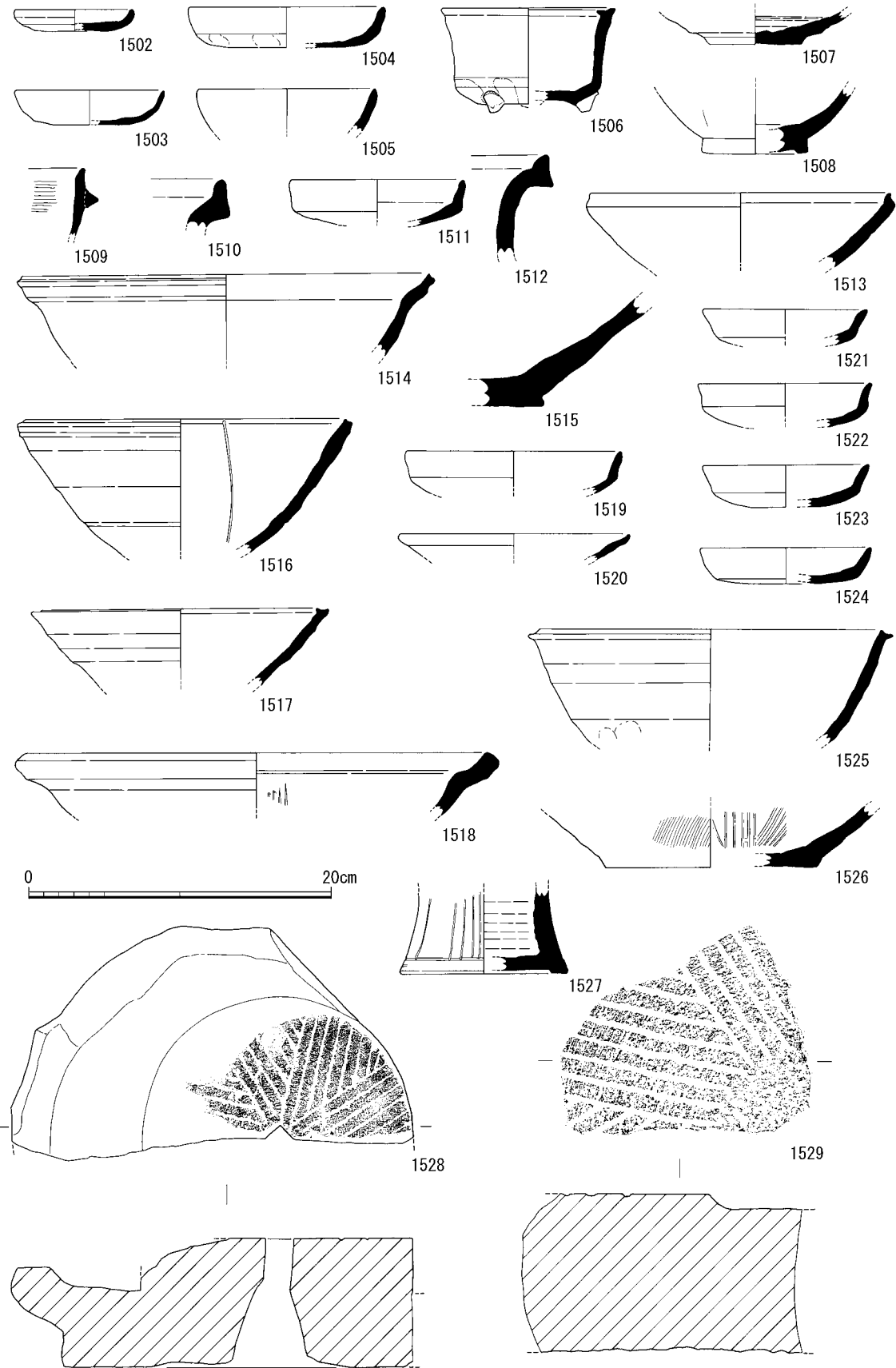


第194図 出土遺物実測図53

た轆の羽口である。1450はS K700から出土した回転台土師器杯である。1451～1453・1455～1458はS K701から出土した。1451は東播磨系須恵器鉢である。1452・1453・1455～1457は土師器皿である。1458は瓦器鍋である。1454はS P730から出土した土師器皿である。1459・1460はS K702から出土した。1459は回転台土師器皿で、1460は回転台土師器杯である。1461・1462はS K710から出土した。1461は土師器台付き皿で、中央部が中空である。1462は土師器皿である。1463はS P704から出土した。土師器台付き皿で、中央部が中空である。1464～1467はS P807から出土した。1464は柱状高台の回転台土師器杯である。1465は中国製青磁皿である。1466・1467は回転台土師器杯である。1468はS P814から出土した土師器皿である。1469・1470はS K844から出土した。1469は瓦器皿である。1470は回転台土師器皿である。1471・1472はS P890から出土した土師器皿である。1473はS P822から出土した土師器鍋である。1474はS P923から出土し



第195図 出土遺物実測図54



第196図 出土遺物実測図55

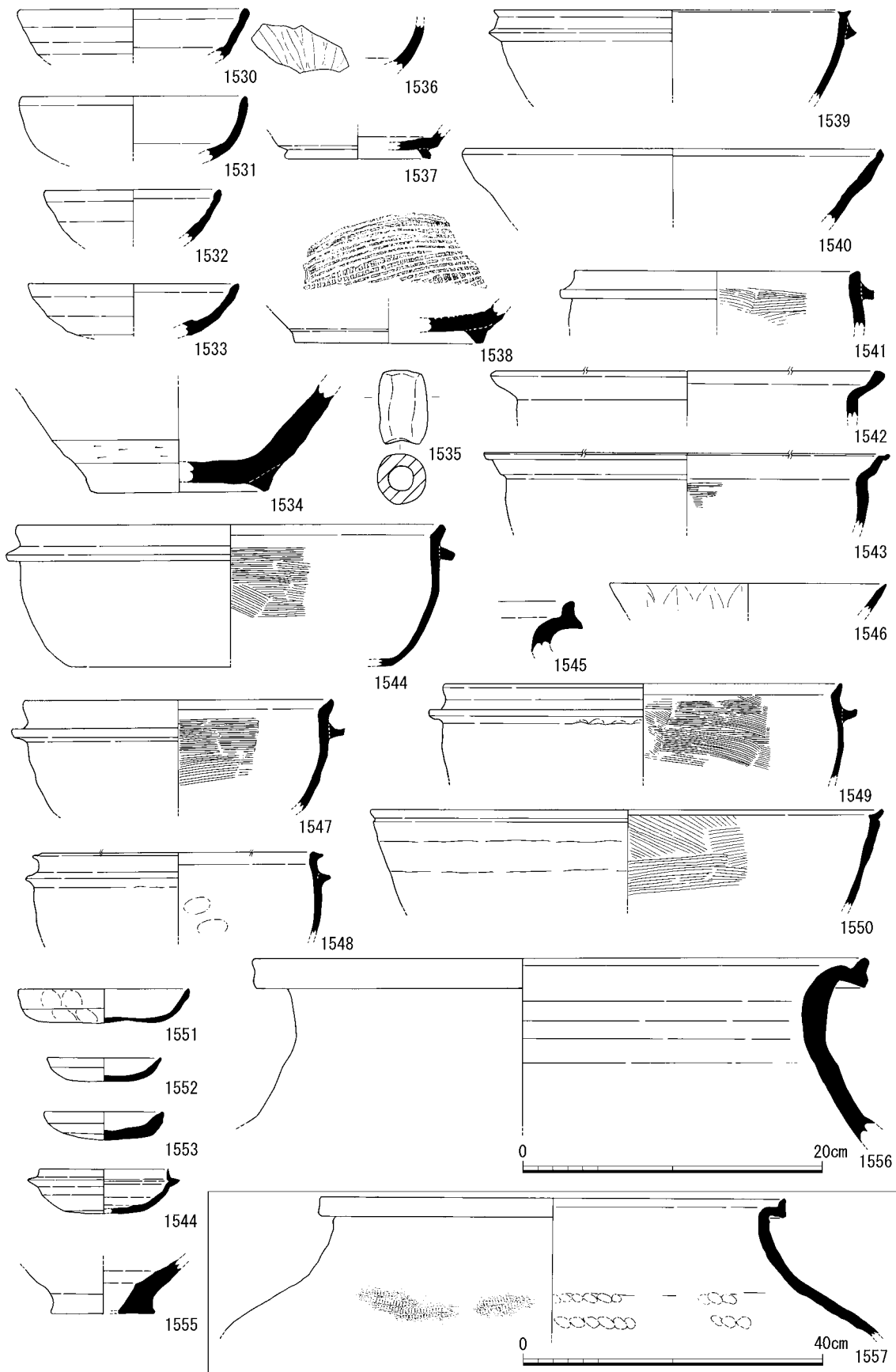
た瓦器羽釜である。1475はS P 833から出土した須恵器鉢である。内面に櫛状の沈線がある。1476はS P 1012から出土した陶器すり鉢である。1477はS P 1200から出土した土師器鍋である。

第195図1478～1501は、C 2 地区第 3 面で検出した遺構から出土した遺物のである。1478はS P 1312から出土した土師器皿である。1479はS P 1333から出土した弥生土器脚部である。1480はS P 1331から出土した土師器甕である。1481～1484・1485・1486・1488～1491はS H 1401から出土した。1481・1485・1486・1488は土師器高杯で、1482・1483は土師器小型丸底壺、1484・1489～1491は土師器甕である。1487はS H 1400から出土した須恵器杯である。1492・1497はS H 1402から出土した。1492は須恵器杯蓋である。1497は弥生土器甕である。1493・1494はS P 1418から出土した。1493は弥生土器壺、1494は土師器甕である。1495はS P 1431から出土した弥生土器甕である。1496はS D 1455は弥生土器鉢である。1498はS P 1431から出土した弥生土器甕である。1499はS P 1564から出土した弥生土器甕である。1500はS K 1456から出土した土師器甕である。1501はS D 1573から出土した弥生土器壺である。

#### (9)C 3 地区

第196図1502～1529は、C 3 地区第 1 面の遺構・包含層から出土した。1502・1504はS K 28から出土した土師器皿である。1503はS P 65から出土した土師器皿である。1505はS P 62から出土した天目茶碗である。1506はS P 32から出土した古瀬戸香炉である。1507はS P 48から出土した回転台土師器杯である。1508は包含層から出土した中国龍泉窯青磁椀である。1509はS P 110から出土した瓦器羽釜である。1510はS P 135から出土した陶器甕である。常滑か越前である。1511はS P 186から出土した土師器皿である。1512はS P 201から出土した陶器甕である。常滑か越前である。1513はS E 211から出土した陶器鉢である。1514はS P 201から出土した瓦器羽釜である。鏝が退化した段階のもので、室町時代である。1515はS P 218から出土した陶器甕である。越前か。1516・1517・1521～1523はS D 220から出土した。1516は瓦器すり鉢である。1517は陶器鉢である。1521～1523は土師器皿である。1518はS P 285から出土した瓦器すり鉢である。1519はS D 220から出土した土師器皿である。1520はS P 225から出土した土師器皿である。1524はS D 237から出土した土師器皿である。1525はS D 299から出土した瓦器すり鉢である。1526はS P 304から出土した瓦器すり鉢である。1527は高麗象嵌青磁梅瓶である。底部は削りだし高台である。縦方向に沈線があり、そこに象嵌されている。釉色は灰色である。象嵌部分は黄白色である。1528はS P 226から出土した石臼である。1529はS P 90から出土した石臼である。

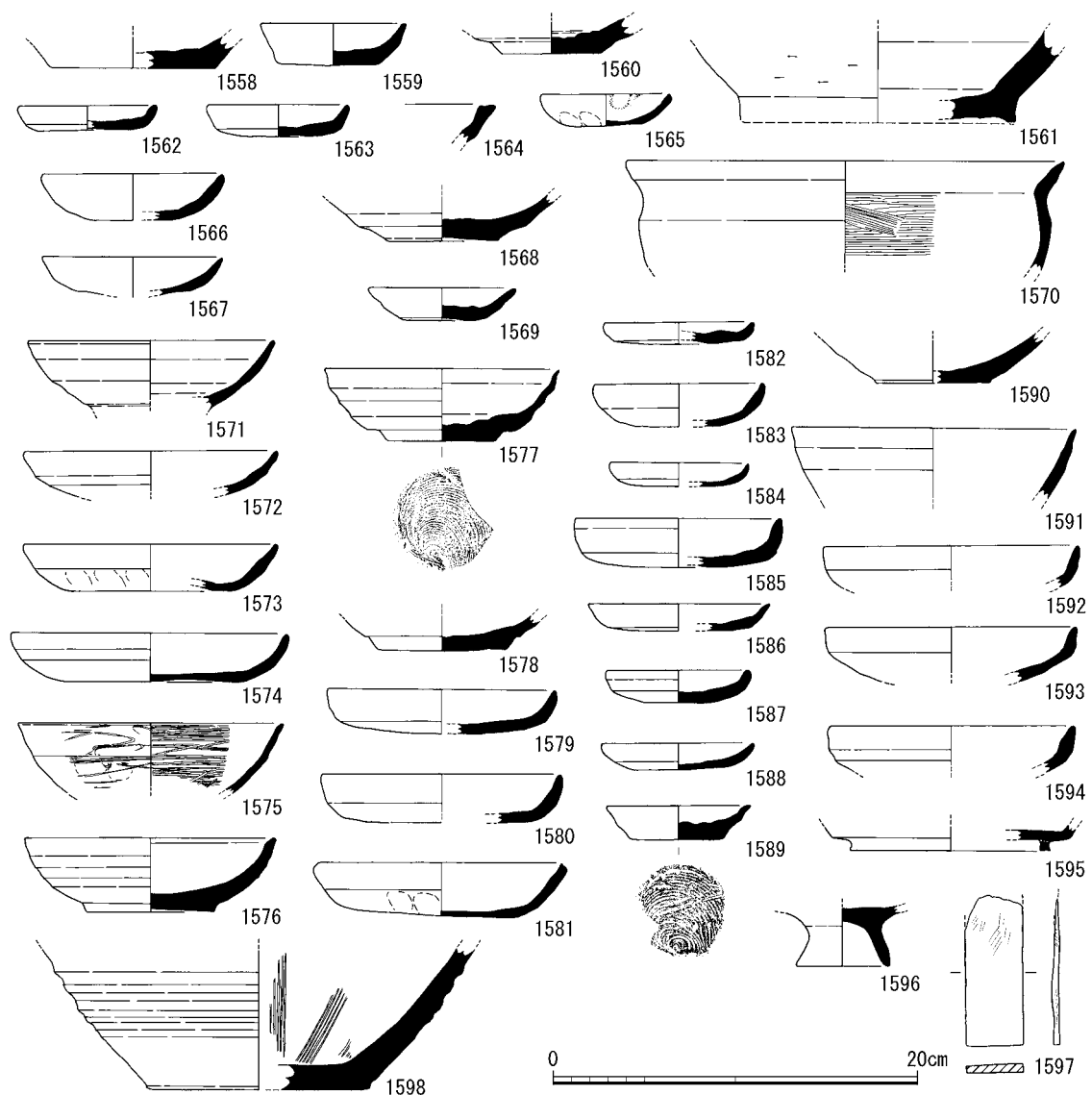
第197図1530～1557、第196図1558～1597は、C 3 地区第 2 面で検出した遺構・包含層より出土した遺物である。1530～1540はS E 401から出土した。1530・1532・1533は回転台土師器杯である。1531は土師器杯である。1534は陶器鉢である。1535は土錘である。1536は中国龍泉窯鎬蓮弁文青磁椀である。1537は須恵器杯身である。1538は陶器すり鉢である。1539は瓦器羽釜である。1540は瓦器すり鉢である。1541～1557はS E 402から出土した。1541・1544・1547～1549は瓦器羽釜である。1542・1543は瓦器鍋である。1545は鎌倉時代の常滑甕である。1557と接合する。口径62.0cm、現存高18.0cmである。肩部にはスタンプ文を施す。1546は中国龍泉窯鎬蓮弁文青磁椀



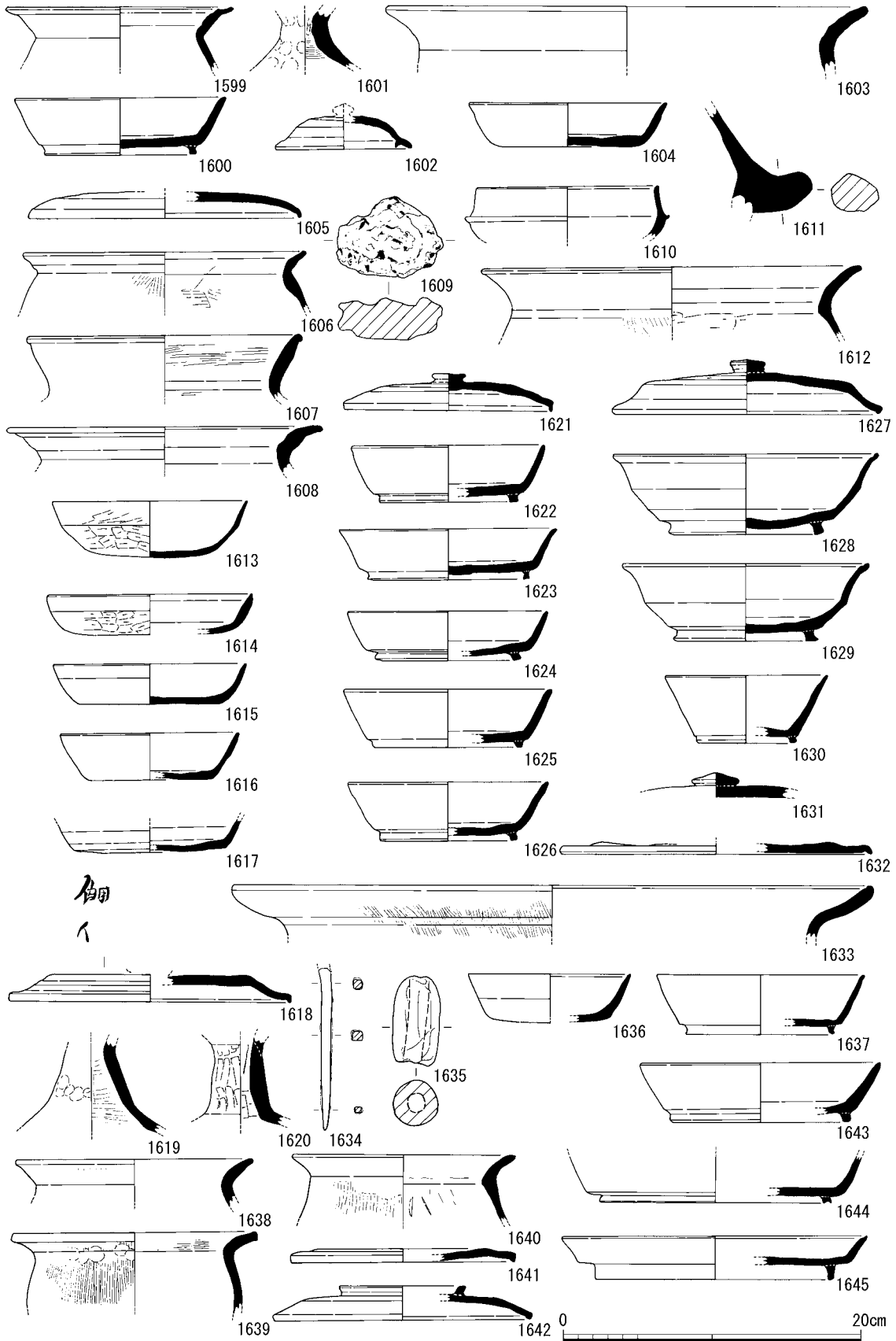
第197図 出土遺物実測図56

である。1550は瓦器鉢である。1551～1553は土師器皿である。1554は須恵器杯身である。1555は回転台土師器杯である。1556は鎌倉時代の常滑甕である。

第198図1558はS P 17から出土した回転台土師器杯である。1559は包含層から出土した回転台土師器皿である。1560はS P 431から出土した回転台土師器杯である。1561はS K 410から出土した陶器鉢である。1562はS P 419から出土した土師器皿である。1563はS K 458から出土した土師器皿である。1564はS P 454から出土した瓦器鍋である。1565はS P 470から出土した土師器皿である。口縁端部に燈芯が当たった跡がある。1566・1567はS P 464から出土した土師器皿である。1568は包含層から出土した回転台土師器杯である。1569・1572～1574・1577・1578はS P 491から出土した。1569は回転台土師器皿である。1572～1574は土師器皿である。1577・1578は回転台土師器杯である。1570はS P 448から出土した瓦器鍋である。1571はS P 480から出土した回転台土師器杯である。1575はS P 611から出土した瓦器碗である。内外面ともミガキを施す。1576・

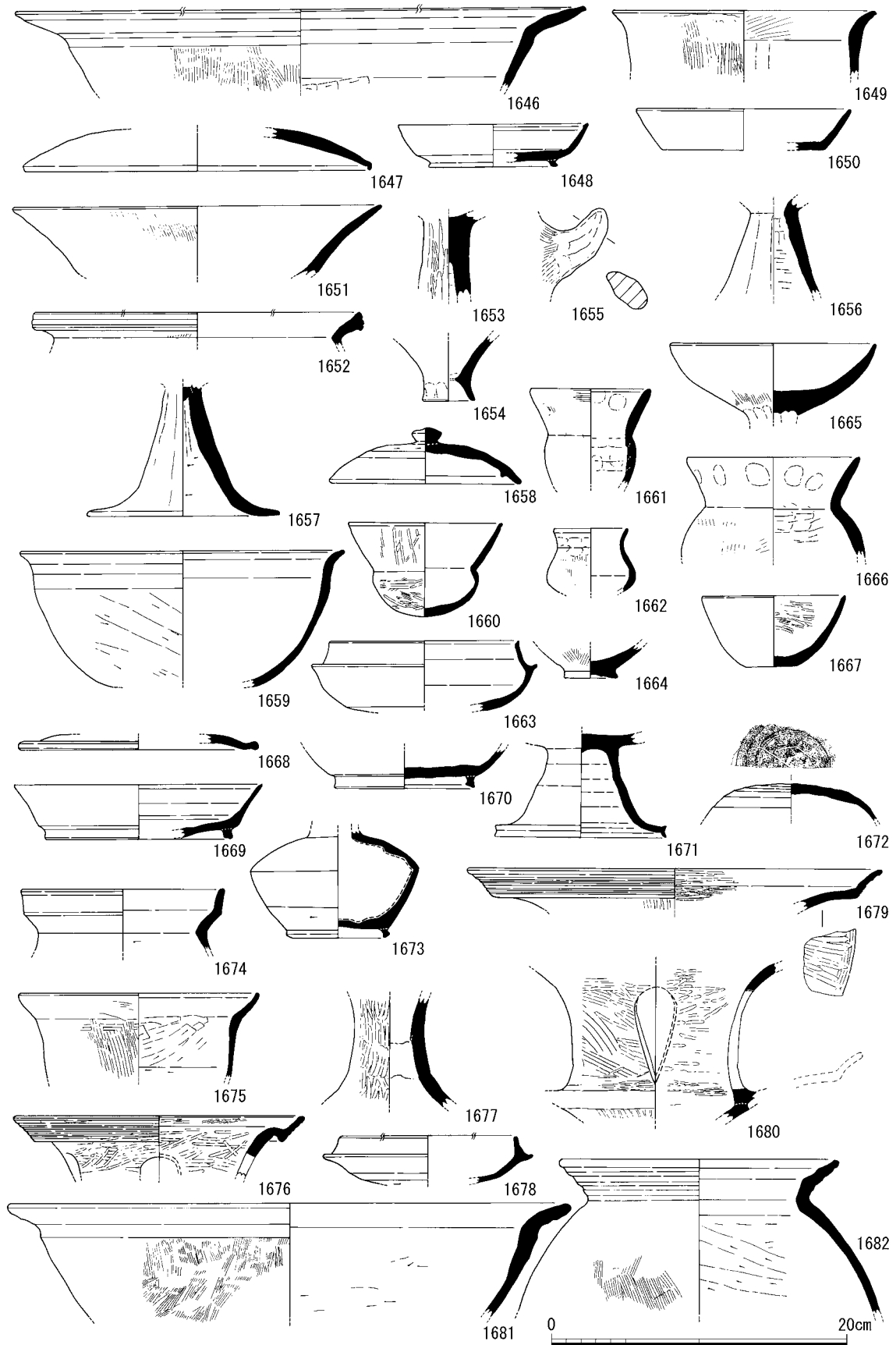


第198図 出土遺物実測図57



第199図 出土遺物実測図58





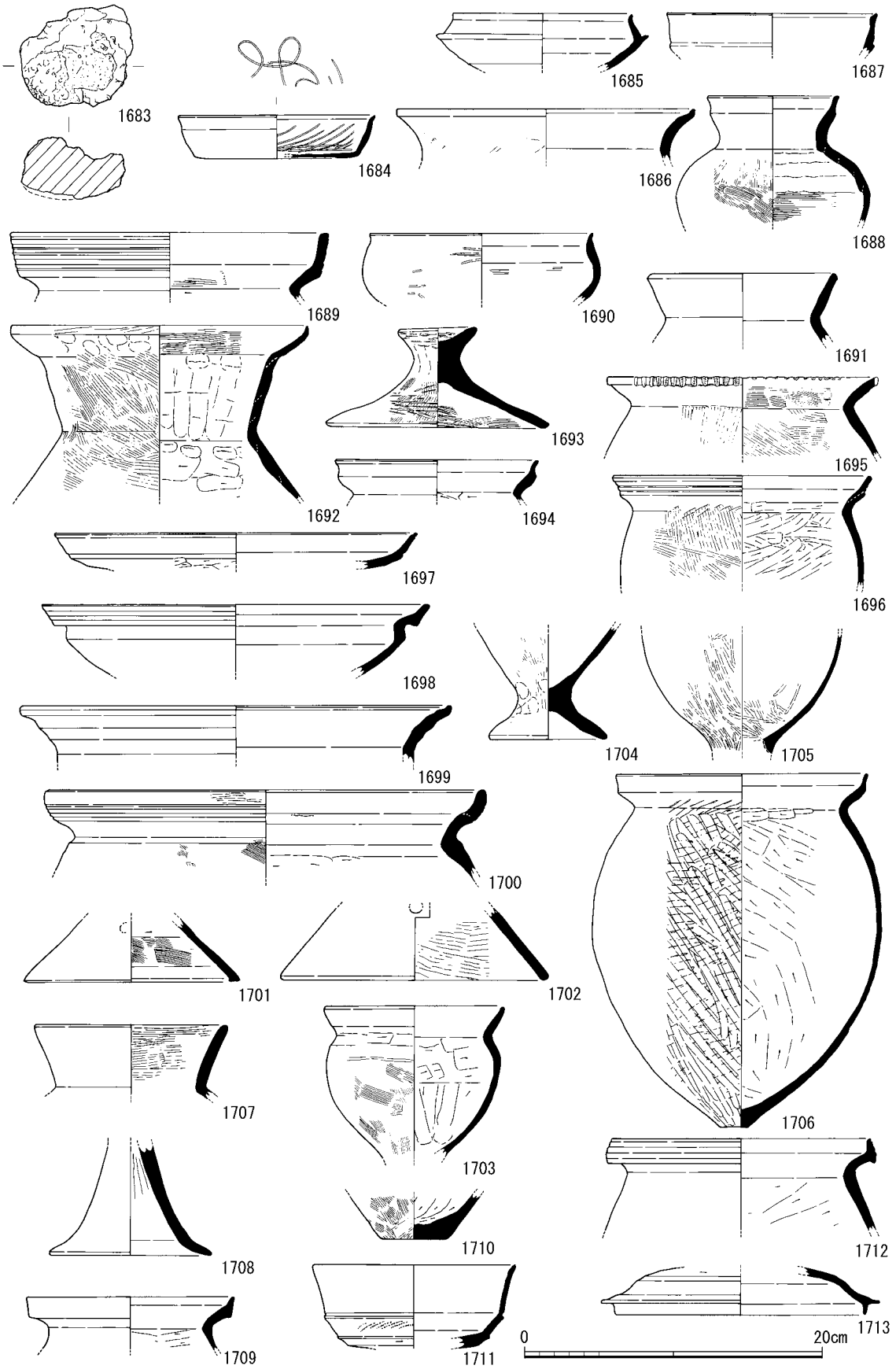
第200図 出土遺物実測図59

1581・1588・1589・1595・1596はS E 801から出土した。1576は回転台土師器杯である。1581・1588は土師器皿である。1589は回転台土師器皿である。1595は須恵器杯Bである。1596は高台付き土師器皿である。1579・1580はS P 656から出土した土師器皿である。1582はS P 513から出土した土師器皿である。1583はS P 550から出土した土師器皿である。1584はS P 698から出土した土師器皿である。1585はS P 623から出土した土師器皿である。1586はS P 710から出土した土師器皿である。1587はS P 712から出土した土師器皿である。1590はS P 567から出土した回転台土師器杯である。1591はS P 570から出土した古瀬戸平椀である。1592～1594はS P 668から出土した土師器皿である。

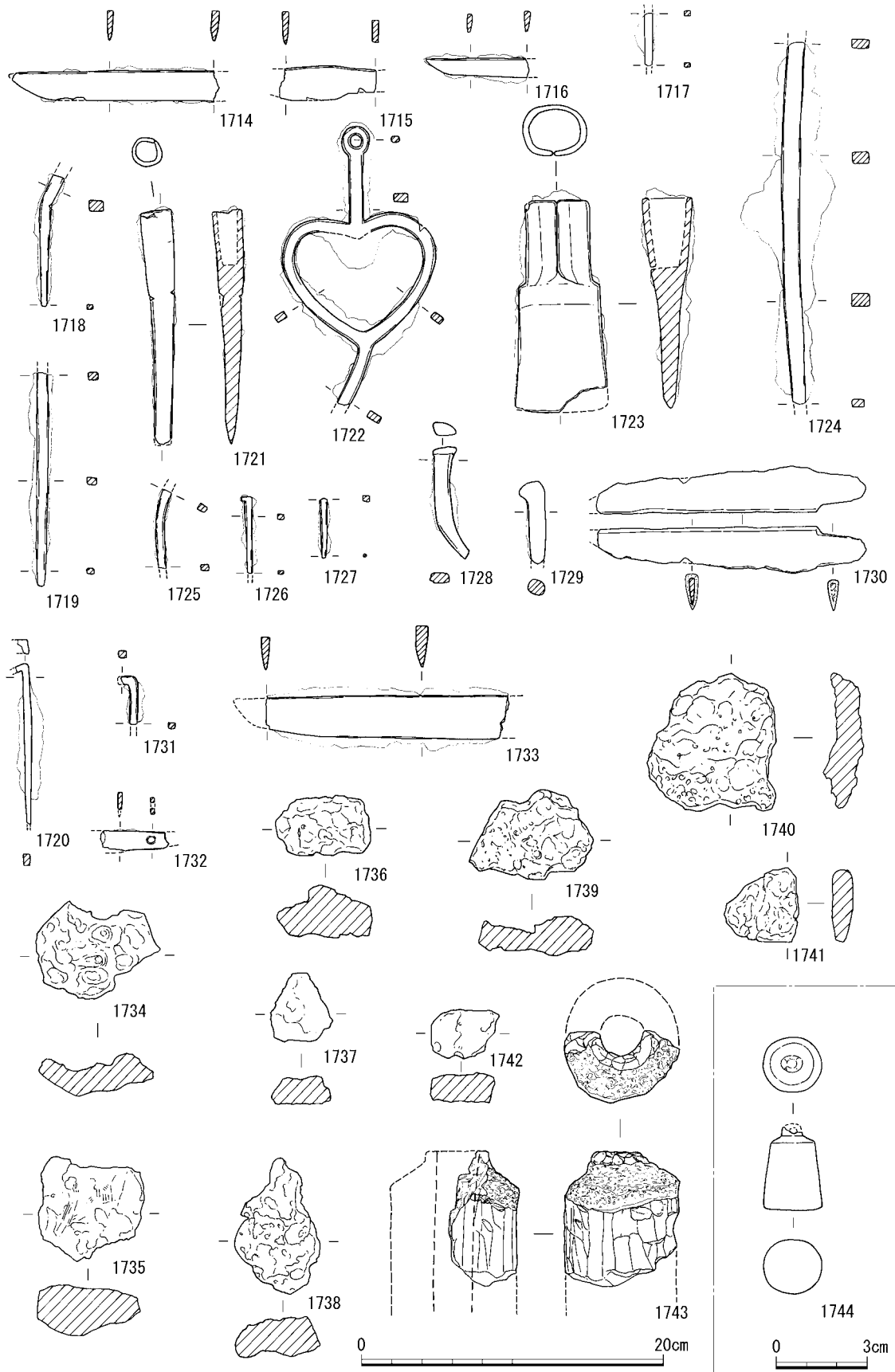
第199図1599～1645は、C 3 地区第 3 面の遺構・包含層より出土した遺物である。1599・1600はS P 802から出土した。1601は包含層から出土した土師器高杯である。1602～1611はS K 803から出土した。1602・1605は須恵器蓋である。1602は飛鳥時代、1605は奈良時代である。1603・1606～1608は土師器甕である。1604・1610は須恵器杯である。1604は奈良時代、1610は古墳時代である。1609は鉄滓である。1611は土師器把手である。1612～1634はS K 804から出土した。1613は土師器杯である。1614は土師器皿である。1615～1617・1622～1626は須恵器杯である。1618・1621・1627・1631・1632は須恵器蓋である。1618は外面に墨書があるが、文字かどうか不明である。1619・1620は土師器高杯である。1628・1629は須恵器椀である。稜椀形である。1630は須恵器杯であるが、奈良時代が主体をなすのに対して、これのみ新しく平安時代はじめてである。1633は土師器甕である。1634は鉄製品である。鉄鏃の一部か。1635～1645はS P 805から出土した。1635は土錘である。1636・1637・1643～1645は須恵器杯である。1638～1640は土師器甕である。1641・1642は須恵器蓋である。

第200図1646～1682、第199図1683～1713は、C 3 地区第 4 面で検出した遺構および包含層から出土した遺物である。1646はS K 804から出土した土師器鍋である。1647はS K 804から出土した須恵器蓋である。1648はS P 823から出土した須恵器杯である。1649はS P 863から出土した土師器甕である。1650はS P 851から出土した須恵器杯である。1651はS K 842から出土した土師器高杯である。1652～1654・1656～1662・1664～1667はS H 980から出土した。1652・1666は甕である。1653・1656・1657・1665は高杯である。1654・1664は底部である。1658は飛鳥時代の須恵器蓋である。1659・1667は鉢である。1660・1661は弥生時代後期から古墳時代前期の小型丸底壺である。1662はミニチュア土器である。1655は土師器把手である。1663はS P 983から出土した須恵器杯である。1668～1682は包含層から出土した。1668・1672は須恵器蓋である。1672の外面にはヘラ記号と思われる刻み文がある。1669・1670・1678は須恵器杯である。1671は須恵器高杯である。1673は須恵器壺である。1674は甕である。1675は鉢である。1676・1680は弥生土器装飾器台である。1677は弥生土器器台である。1681は土師器鍋である。1682は土師器甕である。

第201図1683・1684はS P 1002から出土した。1683は鉄滓である。1684は奈良時代の土師器皿である。1685・1686はS H 1018から出土した。1685は須恵器杯である。1686は甕である。1687はS P 1012から出土した須恵器蓋である。1688・1689・1691～1706はS H 930から出土した。1688



第201図 出土遺物実測図60



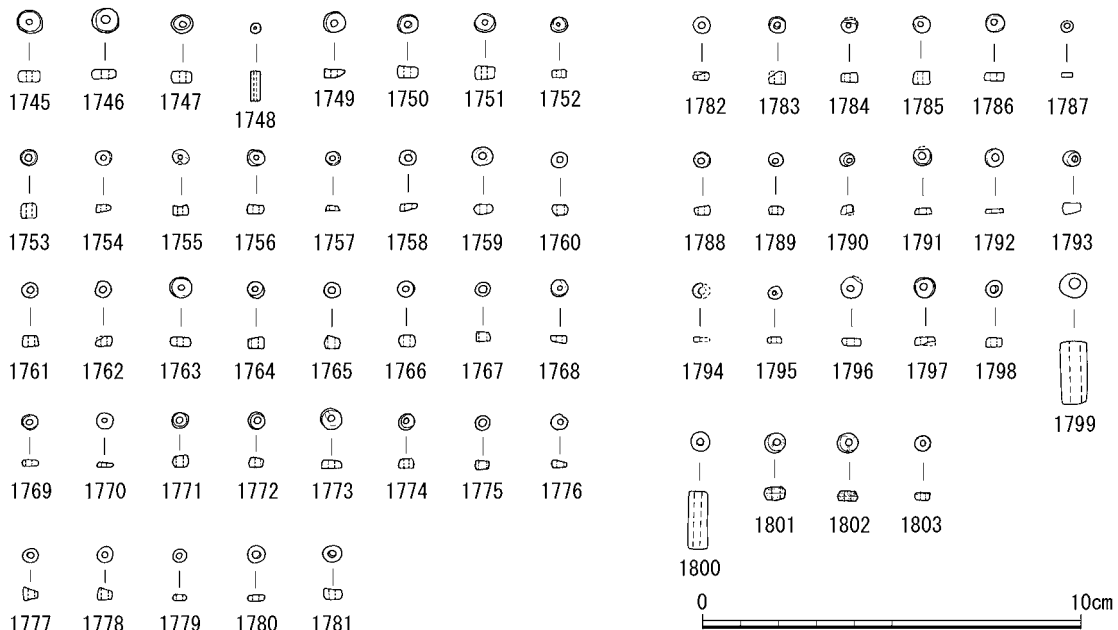
第202図 出土遺物実測図61

は土師器壺である。1689・1691・1694～1696・1699・1700・1703は甕である。1692は弥生土器壺である。1693は蓋である。1697・1698・1701・1702は高杯である。1704・1705は台付き鉢である。1706は弥生時代後期から古墳時代前期の甕である。外面にタタキを施し、内面はヘラケズリを施す。1707・1708はS K 942から出土した。1707は壺である。1708は高杯である。1709はS P 968から出土した甕である。1710はS P 954から出土した弥生土器甕底部である。1711はS K 970から出土した須恵器高杯である。1712はS P 945から出土した弥生土器甕である。1713は須恵器蓋である。

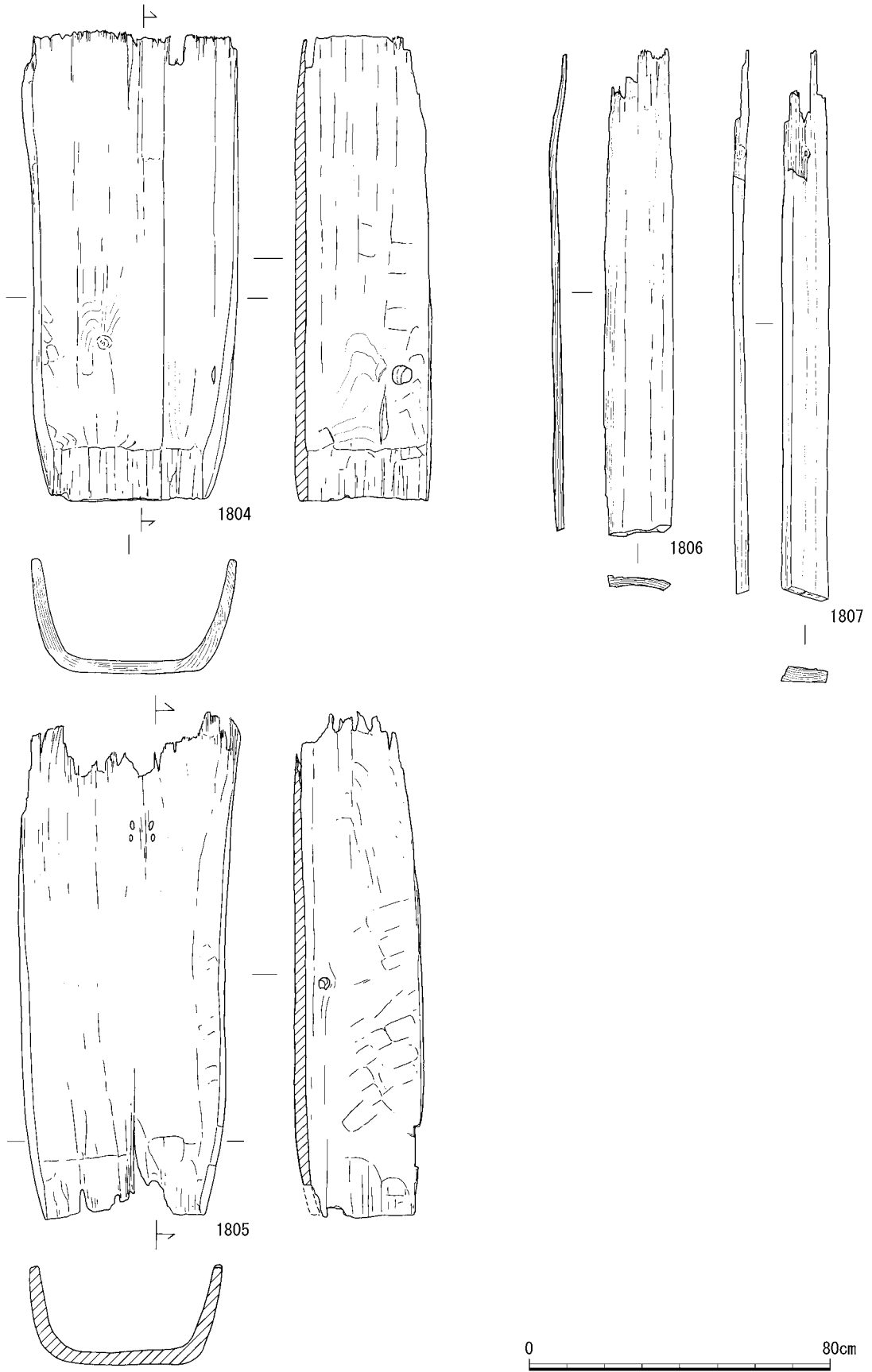
3)第4・5次調査 その他の遺物

(1)金属器 A1～3地区

第202図1714・1715・1717・1718・1722～1724はA2地区から出土した。1714・1717はS K 520から出土した。1714は切っ先部分の鉄刀である。残存長13.5cmで、刀身幅2.0cmである。1717は鉄釘である。1715はS P 626から出土した柄部分の鉄刀である。残存長6.4cmである。1718はS P 555から出土した鉄釘である。1722は第2面直上の包含層から出土した鉄製馬具と思われる部分である。残存長18.3cm、中央のハート形部分の幅は8.5×10.0cmである。1723・1724は包含層から出土した。1723は鉄斧である。残存長13.9cm、刃部幅は6.9cm、柄部幅5.4cmである。1724は棒状鉄製品である。1716・1719～1721・1725～1730・1737・1738・1741～1744はA1地区から出土した。1716・1719・1721・1725～1727・1730・1735・1743・1744は包含層から出土した。1716は鉄製刀子である。残存長6.4cmで、刀身幅1.3cmである。1719・1725～1727は鉄釘である。1721はノミ状鉄製品である。1730は鉄刀である。残存長17.8cmである。1735・1737は鉄滓である。1743は鞆の羽口である。先端が著しく被熱して硬化している。直径7.6cmで、中心は直径3.2cmの風を通すための空洞がある。1720はS P 201から出土した鉄釘である。1728はS P 310から出土

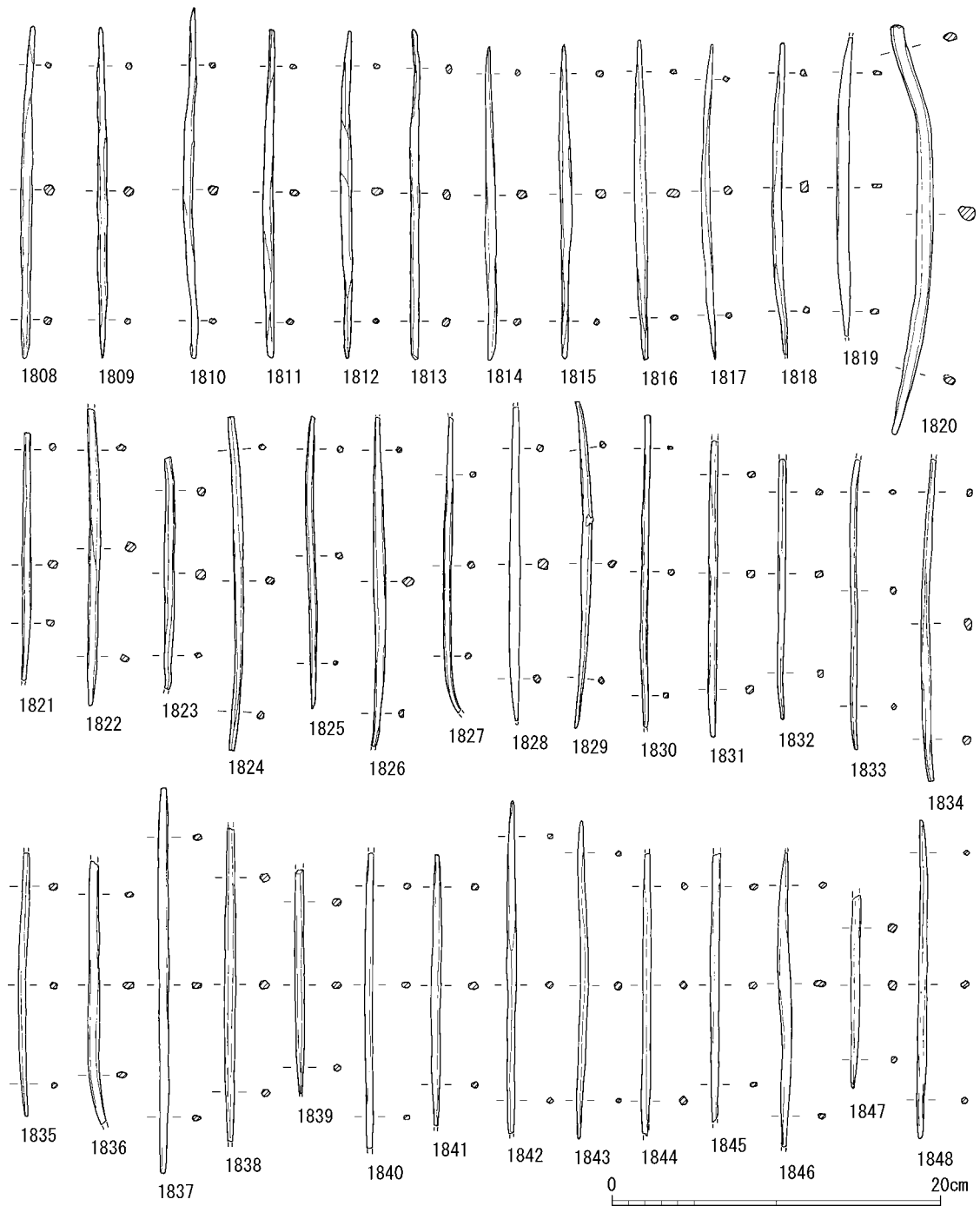


第203図 出土遺物実測図62

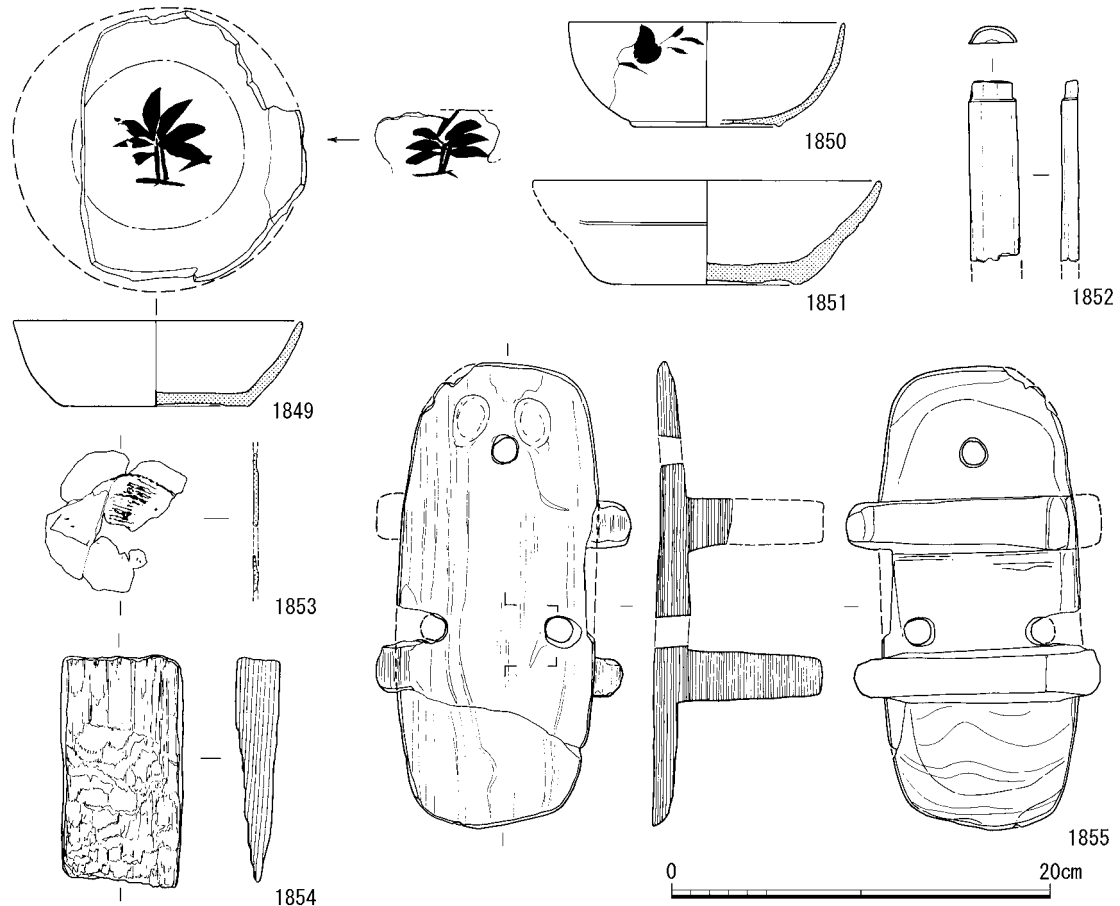


第204図 出土遺物実測図63

した鉄釘である。1729はS P 64から出土した鉄釘である。1744は銅製錘である。全長2.8cm、幅2.0cm、重さ40.6gである。先端には紐を通すための穴がある。棹ばかりの錘である。出土層位の年代は室町時代である。1738はS P 343から出土した鉄滓である。1741はS P 309から出土した鉄滓である。1742はSL03から出土した鉄滓である。1731～1734・1736・1739・1740はA 3地区から出土した。1731はS X 125から出土した鉄釘である。1732はS P 201から出土した鉄製刀子である。1733はS K 148はS K 148から出土した鉄刀である。1734・1736・1739・1740は包含層から出土した鉄滓である。



第205図 出土遺物実測図64



第206図 出土遺物実測図65

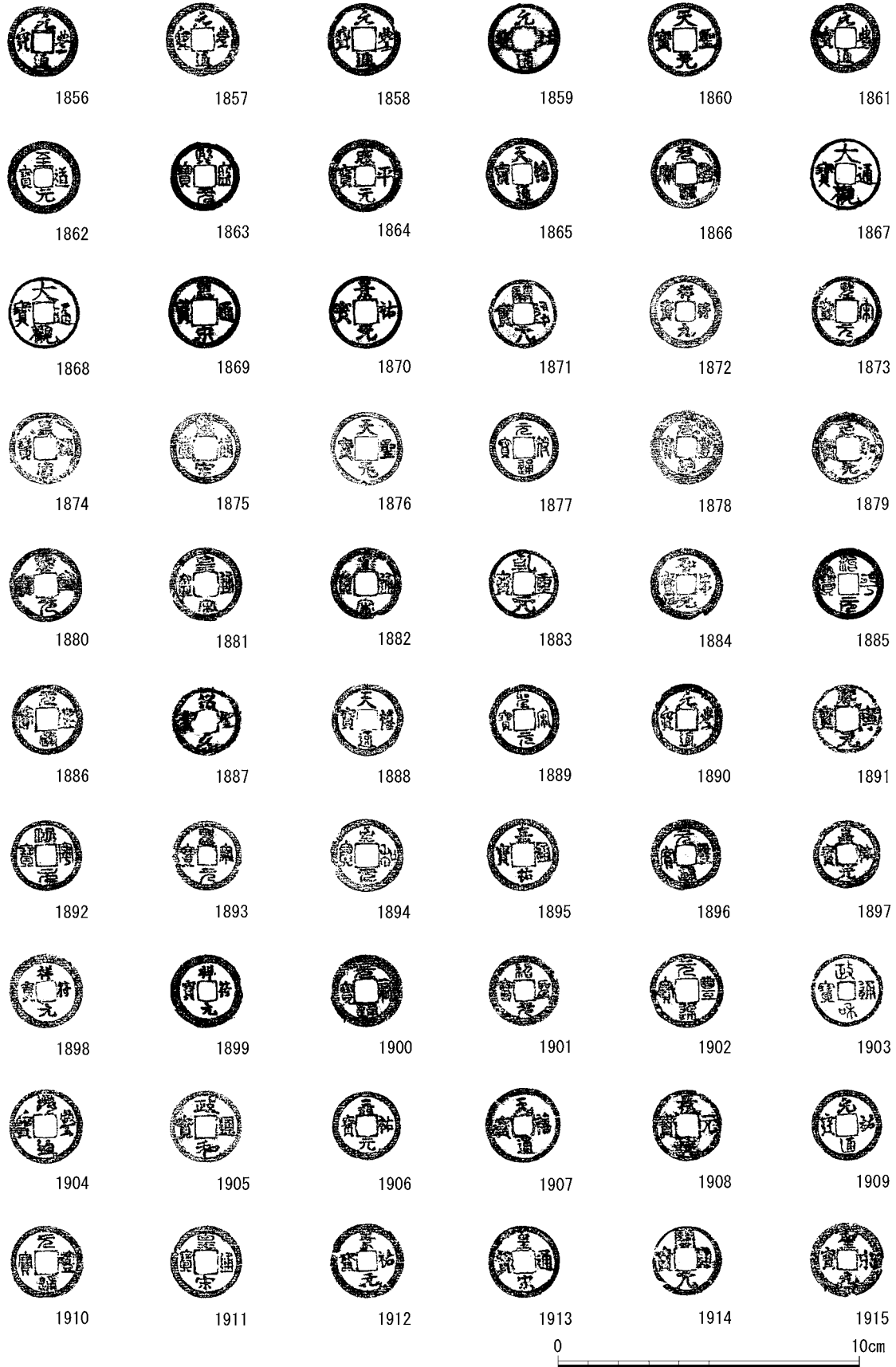
### (2) ガラス製品 B3・C2・C3地区

第203図1745～1781はB3地区SH1901から出土した玉類である。1745はガラス小玉である。直径6mm、厚さ4mmである。色調はコバルトブルーである。1746以降は滑石製の白玉である。1746は直径6mm、厚さ4mmである。色調はオリーブ黒色である。緑灰色のものも多い。1748は管玉である。長さ0.8cm、直径3mmである。1782～1799はC2地区包含層から出土した。1782～1798は滑石製白玉である。1782は直径5mm、厚さ3mmである。色調は暗オリーブ灰色である。1799は管玉である。長さ1.7cm、直径7mmである。色調は暗緑灰色である。1800～1803はC3地区から出土した。1800はSH971から出土した管玉である。長さ1.5cm、直径5mmである。色調は明緑灰色である。1801～1803は包含層から出土した滑石製白玉である。1801は直径6mm、厚さ4mmである。色調は青灰色である。

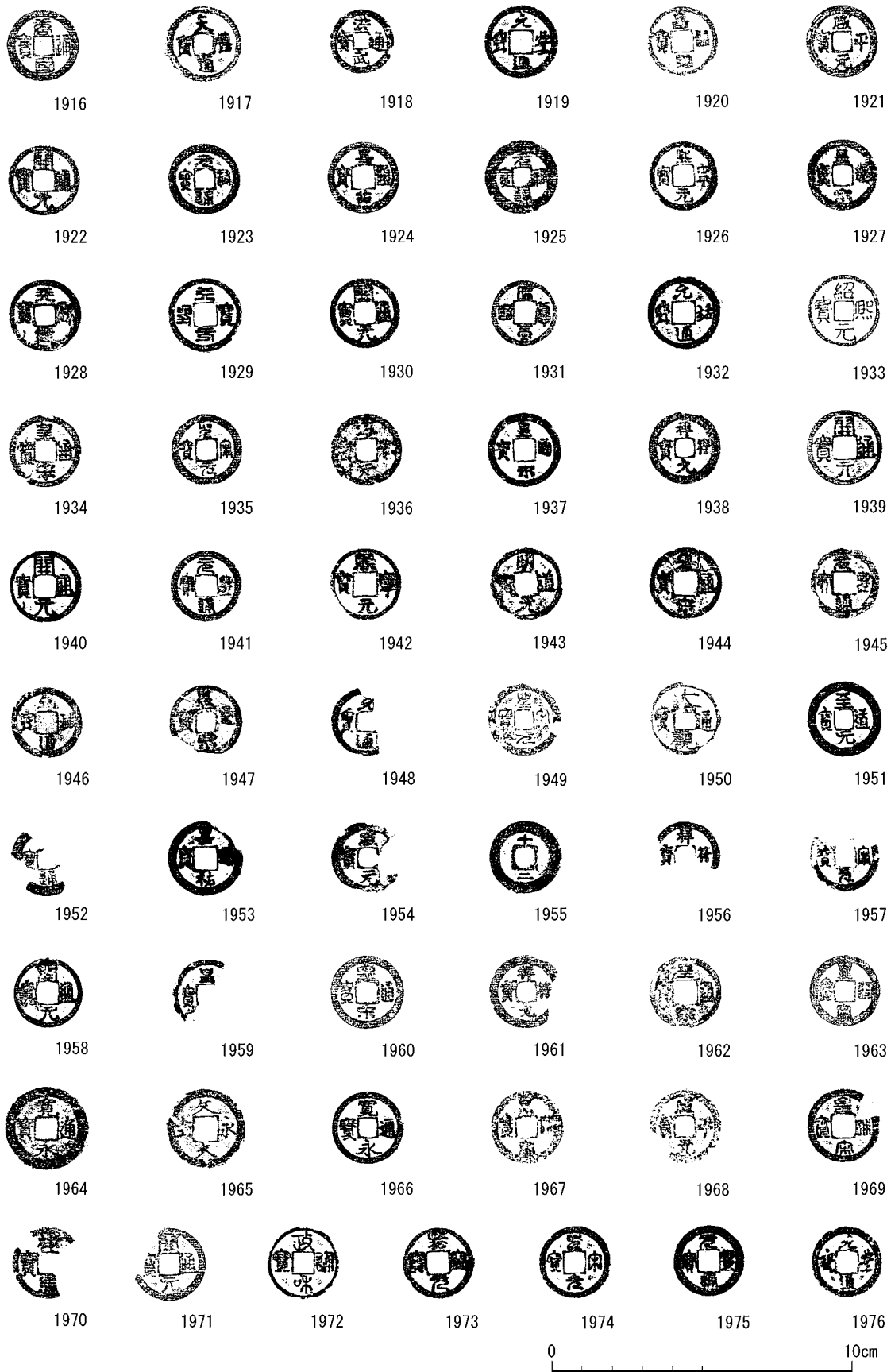
### (3) 井戸枠 A1地区

第204図1804～1807はSE142の井戸枠である。円筒形に組み合わせて使用している。元は1艘の丸木舟であったのだが、中央で切断し、それを転用したものである。切断したか所を上側に設置していた。1804は縦長125cm、幅56cmである。断面は凹形で、厚さ3.2cmである。全面削り抜いて成形している。図面上端は切断したか所である。下端は幅がやや狭くなっており、船の端である。材質は杉である。





第207図 出土遺物実測図66



第208図 出土遺物実測図67

## (4)木製品 C3地区

第205図1808～1848はすべてS E 402から出土した木製の箸である。棒状で両端が細くなっている。1808は長さ20.1cm、最大幅0.7cmである。やや曲がっているものの最大は1820で、長さ25.0cm、最大幅1.0cmである。

第206図1849～1855はすべてS E 402から出土した木製品である。1849は漆器椀である。見込みおよび外面に茶褐色の漆でヤツデ葉様の文様を施す。全体は黒漆で、口径15.2cm、器高4.5cmである。1850は黒地に朱色の漆で、葉文を施す。口径14.4cm、器高7.7cmである。1851は漆器椀である。体部中位に沈線を施す。1852は柄である。1854は片方が尖っており、クサビである。1855は下駄である。長さ24.1cm、最大幅10.4cm、高さ8.9cmと高足である。1853は漆器椀の断片である。

## (5)銭貨

第207・208図は銭貨である。銭貨は29種173枚が出土した。寛永通寶や文久永寶などの日本銭および銘不明を除くと27種124枚である。初鑄年がもっとも古いのは開元通寶(621年)で、もっとも新しいのが洪武通寶(1368年)である。北宋銭がほとんどであるが、これ以外に唐国通寶(南唐・959年)、紹熙元寶(南宋・1190年)、景定元寶(南宋・1260年)がある。1種類1～2枚程度がほとんどであるが、8枚以上と多数出土したのは開元通寶(10枚)、祥符元寶(10枚)、皇宋通寶(16枚)、熙寧元寶(9枚)、元豊通寶(18枚)、元祐通寶(8枚)、聖宋元寶(9枚)である。出土地区はC2地区95点、C1地区49点、C3地区15点である、B1～3地区は14点、A1～3地区は0点である。

## 4)土器・陶磁器・銭貨点数の概要

大川遺跡の発掘調査で出土した土器・陶磁器は多量である。そこで、出土傾向を知るために中世段階の遺構面で確認された遺構出土の点数を数えた。この結果は62,180点である。器種別の点数は、土師器57,459点(92.4%)、須恵器909点(1.5%)、黒色土器1,585点(2.5%)、瓦器875点(1.4%)、陶器289点(0.5%)、輸入陶磁器1,063点(1.7%)である。なお、輸入陶磁器だけは遺構以外に包含層出土のものも数えた。

土師器はいずれも回転台成形の在地産で、皿と杯が主体である。須恵器は中世前半の東播磨系鉢がほとんどで、産地不明の皿が少数ある。壺・甕はほとんどない。黒色土器は、平安時代前期

付表3 大川遺跡器種別破片点数

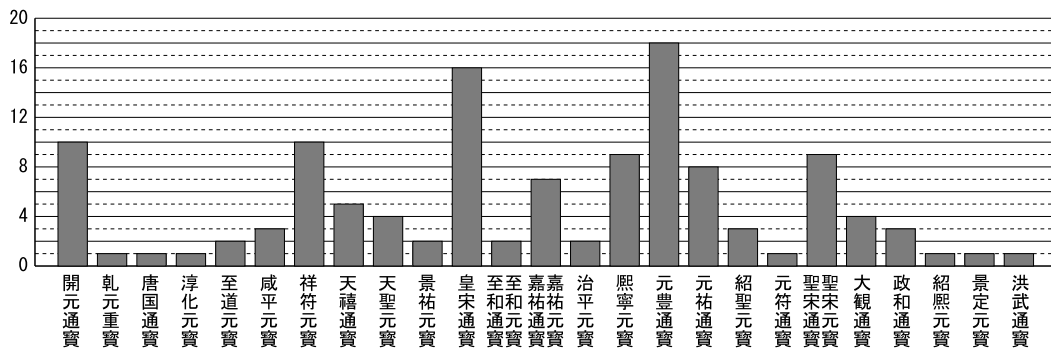
地区名	土師器	須恵器	黒色土器	瓦器	陶器	小計	輸入陶磁器	合計	銭貨
A1	4,095	23	818	114	0	5,050	213	5,263	0
A2	7,761	50	47	65	0	7,923	80	8,003	0
A3	10,459	4	45	39	16	10,563	25	10,588	0
B1	4,101	127	264	52	0	4,544	127	4,671	4
B2	6,927	212	312	352	27	7,830	145	7,975	2
B3	8,337	28	1	0	0	8,366	39	8,405	8
C1	422	8	5	2	2	439	21	460	49
C2	9,401	164	62	135	135	9,897	364	10,261	95
C3	5,956	293	31	116	109	6,505	49	6,554	15
計	57,459	909	1,585	875	289	61,117	1,063	62,180	173

付表4 大川遺跡輸入陶磁器種類別破片点数

調査区	白磁							青白磁		青磁													小計	合計	
	碗II	碗IV	碗V	その他碗	皿	小壺	壺	小壺	合子	龍泉窯磁碗I	龍泉窯鎬蓮弁文碗	龍泉窯蓮弁文碗	龍泉窯幅広蓮弁文碗	龍泉窯細蓮弁文碗	龍泉窯無文碗	龍泉窯皿	龍泉窯杯・盤	龍泉窯香炉	同安窯碗	同安窯皿	生産地不明	褐釉・緑釉・その他			高麗・朝鮮
A-1	8	27	15	60	69	1	1	1	0	11	1	0	1	0	8	6	0	0	2	2	0	0	0	213	318
A-2	0	5	21	15	1	0	1	2	4	14	2	0	0	0	7	4	0	0	2	0	0	2	0	80	
A-3	0	1	3	6	1	0	1	0	0	0	2	0	0	0	3	3	0	0	5	0	0	0	0	25	
B-1	4	9	7	27	20	1	1	1	0	9	10	3	1	0	19	8	4	0	2	0	0	1	0	127	311
B-2	1	13	10	36	21	0	1	0	1	11	11	3	6	0	15	6	4	0	5	0	0	0	1	145	
B-3	0	1	0	5	8	0	1	0	1	1	5	0	0	1	11	2	1	0	0	0	0	0	2	39	
C-1	0	1	0	0	4	0	0	1	2	0	2	0	0	4	5	0	1	0	0	0	0	0	1	21	434
C-2	0	11	22	60	48	2	5	7	4	9	33	6	1	7	90	13	21	0	3	1	0	5	16	364	
C-3	0	0	2	10	4	0	2	1	3	1	7	1	1	1	5	3	1	0	3	0	0	3	1	49	
計	13	68	80	219	176	4	13	13	15	56	73	13	10	13	163	45	32	0	22	3	0	11	21	1,063	1,063

～中期に都城で出土するタイプではなく、平安時代後期の丹後型で、内黒がほとんどである。瓦器は丹波型である。丹後地域は黒色土器が主体で、瓦器は希少であるが、大川遺跡では一定量出土しており、由良川流域の当該地は、瓦器が多量に使用された福知山方面から下った地点であり、地理的要因が考えられる。つまり、由良川水運の存在である。なお、楠葉型や大和型と判断できるものはない。陶器は常滑や丹波・越前ではほぼすべてを占める。輸入陶磁器は中国南部製がほとんどである。白磁は碗IV・V類、皿が多い。青磁は龍泉窯碗I類・鎬蓮弁文が多い。これらの遺物は平安時代後期から鎌倉時代前期に多い遺物である。青磁無文碗も多いが、これは鎌倉時代後期から室町時代にかけて増えるものである。高麗青磁や朝鮮王朝の陶磁器が21点出土したことは特筆すべきことである。当調査研究センターが調査したうちの1982～2007年までのデータ(伊野2015)では4点しか報告されていないのである。

地区別出土点数は、ほぼ調査面積に比例しているが、器種の多寡には特徴がある。A1・B2地区は黒色土器や瓦器の点数が多い。これに対して、C2・3地区は陶器の点数が多い。これは、前者が平安時代後期から鎌倉時代に中心があるのと、後者が鎌倉時代後期から室町時代にか



第209図 大川遺跡出土銭貨グラフ

けて中心があるという、中心時期の違いが原因である。

出土した銭貨173点のうち、A地区では0点、B地区で14点、C地区では159点である。意図的に埋納したのではなく、包含層から出土した銭貨の出土比率がC地区で圧倒的であることから、C地区が大川遺跡では商業活動が盛んな場所であったことは確実である。高麗青磁や朝鮮王朝の陶磁21点のうち16点がC 2地区で出土している。梅瓶もあることから、日常品以外の奢侈品をもつ有力な場所であったことがわかる。

(伊野近富)

## 6. まとめ

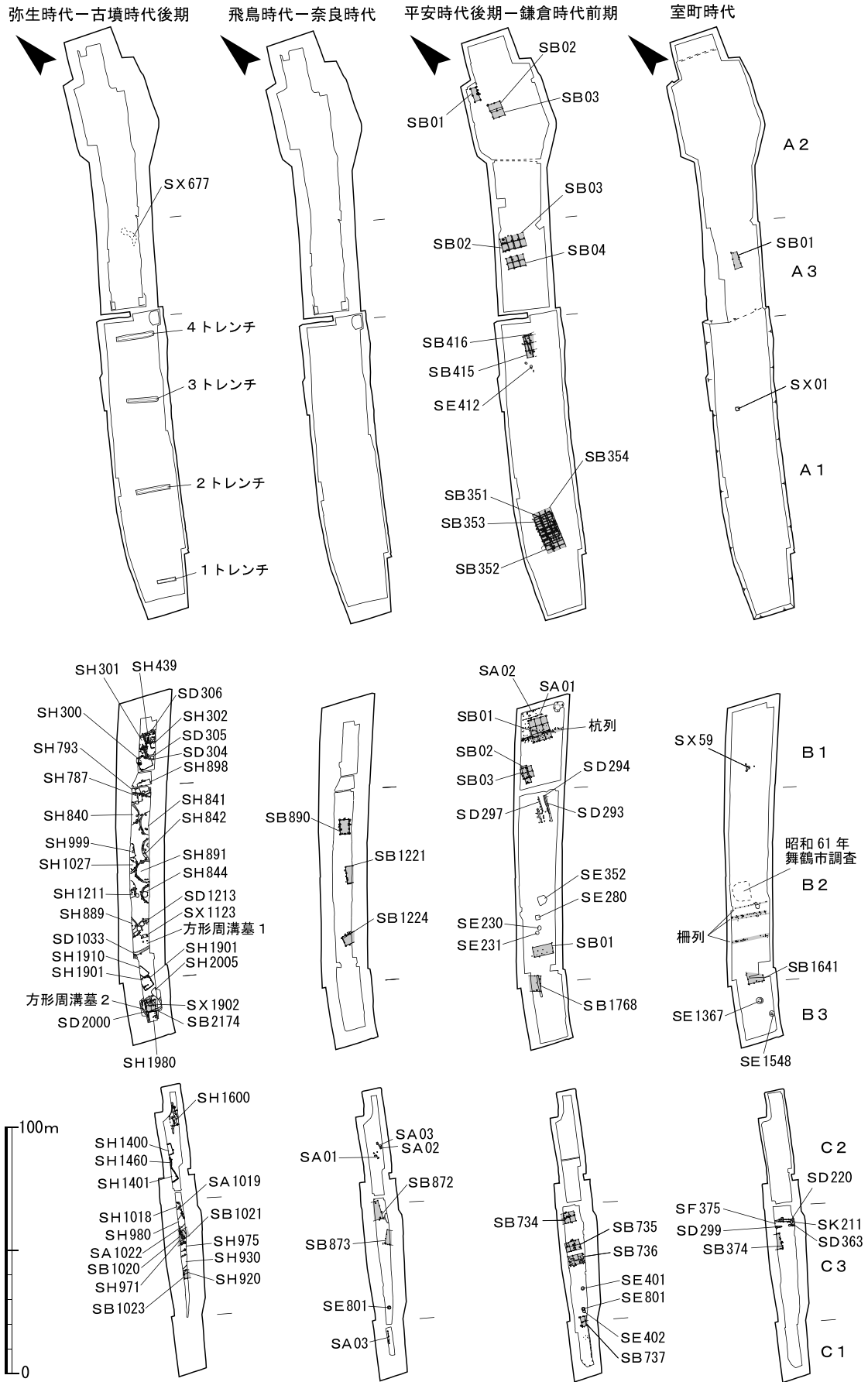
### 1)各地区の様相

今回の調査の成果は以下の通りである。まず、地区別にまとめると、A地区ではA3地区で古墳時代中期から後期にかけて土器が多数出土した。しかし、遺構に伴うものではなく、堆積状況から調査地の北西方向から風雨等の自然現象により流入したと考えられる。完形の須恵器特殊扁壺や須恵器提瓶もまた、同様に堆積したものである。平安時代中期の緑釉陶器片が1点のみ確認された。また、石帯1点が出土したので、平安時代前半には官衙的な施設が近隣にあった可能性がある。平安時代後期から鎌倉時代初期にかけてはA地区で鍛冶工房跡を3か所確認した。この結果大川遺跡の北部であるA地区一帯が平安時代後期から鎌倉時代初期にかけて鍛冶工房があったことが判明した。微高地上に形成されていた。A1地区北端からA3地区までが、井戸と掘立柱建物があることから、工房にともなう居住域であったことも判明した。井戸は丸木舟を転用しており、この地で舟が一般的に使用されていたことが窺われる。調査地全体で網の錘である土錘が出土しており、由良川での漁労が、網を使用したことが知られる。室町時代には石塔の台座と考えられる石壇状遺構が1基のみ確認された。

B地区では弥生時代後期の円形竪穴建物が12基、古墳時代前期にも建物や土坑が存在しており、この時期も集落が営まれたことが判明した。B2地区の北端では勾玉をはじめ高杯などの土器が多数出土しており、祭祀が行われた可能性がある。B1地区では古墳時代後期から飛鳥時代の方形竪穴建物が4基確認されたので、この時期もまた集落であったことが判明した。平安時代後期から鎌倉時代にかけての建物跡を確認した。ただし、復元できたのはB1地区の1棟と、B2地区の1棟の合計2棟だけである。B2地区では井戸が4基確認され、また、B1地区とB2地区にまたがって、溝が2条平行して確認された。おそらく、道路側溝と考えられる。B地区では道と建物と井戸という、集落を構成する施設が確認されたことから、ここに、集落が営まれていたことが判明した。室町時代にはB1地区ではA1地区と同様に石塔の台座と考えられる石壇状遺構が1基のみ確認された。

C地区はC2地区で弥生時代後期から古墳時代の建物跡を確認した。また、古墳時代の玉類が多数出土したことから、祭祀などが行われた可能性がある。平安時代後期から鎌倉時代の集落の一部が確認された。室町時代の遺物も多く、他の地区と違ってやや新しい時代まで存続していたようである。また、宋銭をはじめとする銭貨が90枚出土していることは、この周辺で貨幣を使用した商業活動が盛んであったことを示している。C1地区の南部では遺構はなく、自然堆積土中から奈良時代の土器が確認されたので、この地区の中央部で遺跡の端が確認されたことになる。

輸入陶磁器が1,000点以上出土したことは特筆できる。京都北部では宮津市中野遺跡周辺で400点以上、福知山市大内城跡で1,300点と並ぶ出土点数である。大川遺跡の場合、流通経路が由良川を介していることは確実である。さらには、高麗青磁や朝鮮王朝陶磁器も21点出土していることは、輸入陶磁器が瀬戸内海ルート以外に日本海ルートがあったことを示している。



第210図 大川遺跡 時期別遺構変遷図

平安京を別にすれば京都府で高麗青磁や朝鮮王朝陶磁器の出土は笠置町笠置山や宮津市中野遺跡など数か所なのである。今回の発掘調査によって、今まで不明だった日本海ルートの流通経路の存在が明らかとなったことは、大きな成果のひとつである。

(伊野近富)

## 2)大川遺跡の時期別変遷

今回の調査では、弥生時代～奈良時代、平安時代後期～鎌倉時代前期、室町時代の遺構・遺物が検出された。ここでは、各時代の遺構の変遷を述べる。

### (1)弥生時代～古墳時代後期

この時期の遺構はB地区とC2・3地区に集中する。検出した遺構は、多くが調査地外へと延びるため、明確な集落域を提示することは難しい。

弥生時代中期では、方形周溝墓を2基検出したが、竪穴建物は検出されなかった。

弥生時代後期では、平面円形を主とする竪穴建物を検出した。そのほとんどがB2地区での検出であり、集落の中心とみられる。

古墳時代前期～後期では、平面方形を主とする竪穴建物を検出した。B地区、C地区の全域で検出しており、おそらく調査地の西側に集落が展開するとみられる。また、C地区の特徴として包含層中から多くの白玉が出土しており、集落内での玉類の生産、もしくはまつりごとが行われたと推測される。

A地区と、C1地区ではこの時期の遺構面がなかった。しかし、A地区では流入とみられる土師器甕、須恵器特殊扁壺や須恵器提瓶が出土している。A地区土層断面の観察により、平安時代後期～鎌倉時代前期の遺構面より下層が、西から東へ傾斜することから、これを自然堤防の川側斜面と考えると、高台となる調査地西側で遺構が展開すると想定される。同様にC1地区では下流側から上流側へと傾斜する地形であることから、自然堤防の上流斜面ととらえることができるのではないかと。

### (2)飛鳥時代～奈良時代

調査対象地で遺物量は少なく、遺構の広がりも限定的になる。B1～3地区、C2・3地区で掘立柱建物5棟、柱列3条を検出した。B2地区で検出したS B890・1224・1221の主軸は近似した方位を向くが、計画的な配置や企画性は認められない。

### (3)平安時代後期～鎌倉時代前期

A・B・C地区を通じて現況地割方向に沿う建物配置が概観できる。この際、B1地区で側溝を伴う道路と判断される遺構がこの地区の主要道路の一部であろう。

調査地の全域で、掘立柱建物20基、井戸8基を検出した。特にC地区は遺構の密度が最も高く、多くの柱穴を検出した。何度も建て替えが行われたとみられ、建物として復元できたものは少ないものの、小字名で「町路」とあるように長期間にわたり集落の中心地であったとみられる。

B地区は、C地区と比べ遺構の密度はやや希薄になる。特にB2・3地区ではそれが顕著である。一方で、この時期の井戸がB2・3地区に集中してみられる。これは、道路に面して屋敷が



やや散在して設けられ、間の空間地に「ニワ」のような井戸を中心とした空間が分布する地域であったためとも考えられる。

A地区は、A1地区南西部、A2地区北東部の2か所に掘立柱建物が集中する。両方の地域で、建物中央付近から炉を検出しており、その周囲から鍛造剥片が出土していることから鍛冶工房とみられる。A1地区で検出した鍛冶工房より南西側の遺構分布は希薄となり、B1地区で検出したS B01から鍛冶工房までは約80mを測る。この空間地によって火を扱う工房と、集落域を区画していたと考えられる。そのことから集落域はB1地区を北限としてC地区へ向かって広がると想定できる。

#### (4)室町時代

A1地区とB1地区で石壇状遺構を検出したほか、B・C地区では柵列を検出した。掘立柱建物を数棟検出したものの、まとまりはなく、集落域から外れるとみられる。

(綾部侑真)

#### 参考文献

- ・『大川遺跡発掘調査概報 舞鶴市文化財調査報告』第13集 舞鶴市教育委員会 1987
- ・『舞鶴市史通史編(上)』1993
- ・山本信夫ほか「大宰府条坊跡X V陶磁器分類編」(『大宰府の文化財』第29集)大宰府教育委員会 2000
- ・三宅俊彦「金代・北東アジアの銭貨流通」(『東北アジアの中世考古学 アジア遊学』NO.107 勉誠出版) 2008
- ・石崎善久「平成24年府内遺跡試掘・確認調査等報告」(『京都府埋蔵文化財調査報告書 平成24年度』京都府教育委員会)2013
- ・伊野近富「京都府内出土の輸入陶磁器」(『埋蔵文化財情報』第128号 公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター)2015

付表5 大川遺跡第3次調査 土器一覧

報告番号	トレンチ	層序	器種	器形	口径	器高	残存	胎土	焼成	色調	外面
1	1トレンチ	4層	瓦器	鍋	27.2	(1.8)	1/12	密	良	灰7.5Y5/1	内外面ヨコナデ、内面刷毛面
2	1トレンチ	2層	瀬戸	皿	8.0	(0.7)	1/12	密	良	淡黄 2.5Y8/4	内外面回転ナデ
3	2トレンチ	精査	陶器	播鉢	31.0	(6.3)	1/20	やや密	良	素地：浅黄橙 10YR8/4	内外面回転ナデ、内面櫛目
4	2トレンチ	精査	唐津	椀	4.3	(3.4)	1/2	密	良	にぶい黄橙 10YR7/4、釉：灰オリーブ	内外面回転ナデ、底部回転ヘラケズリ
5	2トレンチ	5層	石製品	臼	15.0	10.5	1/4	-	-	-	-
6	3トレンチ	精査	土師器	皿	9.0	(2.1)	1/18	やや密	良	橙 7.5YR7/6	ナデ
7	3トレンチ	精査	青磁	杯	14.0	(3.4)	1/12	密	良	素地：灰白 7.5Y8/1、釉：明オリーブ	ロクロナデ、中国製
8	4トレンチ	5層	土師器	皿	13.8	(3.0)	1/12	密	良	浅黄橙 10YR8/4	内外面ヨコナデ、外面ナデ
9	4トレンチ	4層	土師器	皿	11.8	(2.1)	1/12	やや粗	やや軟	浅黄橙 10YR8/3	内外面ナデ
10	4トレンチ	5層	須恵器	蓋	-	(2.8)	1/4	密	堅緻	灰 N5/0	内外面回転ケズリ・回転ナデ
11	4トレンチ	4層	土製	紡錘車	2.2	3.6	完存	密	良	浅黄橙 7.5YR8/6	手づくね
12	4トレンチ	4層	土師器	高杯	2.7	(5.6)	2/12	密	良	にぶい黄橙 10YR7/4	内面ナデ、外面ヘラナデ
13	4トレンチ	5層	土師器	皿	7.8	1.4	1/6	密	良	明黄褐 10YR7/6	内外面ナデ、外面指オサエ
14	4トレンチ	精査	瓦器	鍋	28.7	(3.7)	1/12	やや粗	やや軟	暗灰 N3/0	内面ハケ、外面ヨコナデ・指オサエ
15	5トレンチ	SX03	回土師	杯	13.2	4.0	1/3	やや密	良	淡黄橙 10YR8/4	内外面回転ナデ
16	5トレンチ	精査	回土師	皿	8.4	1.6	1/6	やや粗	良	橙 7.5YR6/6	内外面回転ナデ
17	5トレンチ	4層	回土師	皿	底) 5.3	(1.8)	1/3	やや密	良	橙 7.5YR6/6	内外面回転ナデ、内面ナデ
18	5トレンチ	4層	回土師	皿	8.4	(2.7)	1/2	密	良	浅黄橙 10YR8/4	外面回転ナデ・ヨコナデ
19	5トレンチ	精査	土師器	皿	8.5	3.1	1/2	密	良	にぶい橙 7.5YR7/4	内外面回転ナデ
20	5トレンチ	4・5層	土師器	皿	8.3	1.5	1/12	密	良	淡黄橙 10YR8/4	内外面ナデ、外面指オサエ
21	5トレンチ	4層	須恵器	鉢	底) 7.6	(3.9)	1/4	粗	良	灰 N5/0	内外面ナデ、外面ケズリ、東播磨系
22	5トレンチ	精査	土師器	鍋	-	-	1/6	やや密	良	橙 7.5YR7/6	内面タタキあて具痕、外面ヨコナデ・タタキ・丹波、播磨型
23	5トレンチ	3層	青磁	椀	-	-	1/12	精良	良	素地：灰白 5Y7/1、釉：緑灰	中国、縞蓮弁文
24	5トレンチ	5層	土師器	皿	8.7	1.6	1/4	密	良	にぶい黄橙 10YR7/3	内外面ヨコナデ・ナデ
25	5トレンチ	3・4層	土師器	高杯	-	(3.4)	1/4	密	良	橙 5YR6/6	内面絞り目、外面ナデ・指オサエ
26	5トレンチ	3・4層	回土師	杯	6.4	(1.5)	1/2	密	良	橙 5YR7/6	内外面回転ナデ
27	5トレンチ	4層	回土師	杯	底) 7.0	1.0	1/4	やや密	良	灰白 10YR8/2	内外面
28	5トレンチ	4層	青磁	皿	11.4	1.5	1/4	精良	良	素地：灰白 5Y7/1、釉：緑	内面ヘラケズリ、中国同安窯
29	5トレンチ	5層	白磁	椀	底) 7.0	(3.2)	1/12	精良	良	素地：灰白 2.5Y8/2、釉：淡白緑色	中国南部
30	5トレンチ	4層	回土師	皿	11.0	(2.0)	5/12	密	良	にぶい橙 7.5YR7/4	内面ナデ
31	5トレンチ	5層	土師器	皿	11.5	2.0	1/12	密	良	浅黄橙 10YR8/4	内外面ヨコナデ
32	5トレンチ	精査	須恵器	鉢	29.6	(8.4)	1/4	やや密	堅緻	暗オリーブ灰 N4/1	内外面ロクロナデ、内面播鉢状刷毛目、東播磨系
33	5トレンチ	4層	陶器	鉢	20.3	(11.7)	1/8	良	堅緻	灰黄褐 10YR5/2	沈線
34	5トレンチ	5層	土師器	皿	16.7	(2.6)	1/18	密	良	にぶい黄橙 10YR7/3	内外面ナデ
35	5トレンチ	4層	瓦器	椀	16.0	(3.0)	1/8	密	良	灰 N5/0	丹波型
36	5トレンチ	4層	回土師	皿	15.0	3.5	1/18	密	良	淡黄橙 10YR8/4	内外面回転ナデ・ヨコナデ
37	5トレンチ	4・5層	土師器	皿	16.0	2.1	1/12	密	良	淡黄橙 10YR8/4	内外面ナデ、内面指オサエ
38	5トレンチ	4層	青磁	椀	13.4	(4.8)	1/12	精良	良	素地：灰白 2.5Y8/2、釉：淡緑色	中国
39	6トレンチ	SX01	瓦器	鍋	29.6	(10.9)	1/4	密	良	灰 N5/0	内外面ヨコナデ・ナデ、外面指オサエ

報告番号	トレンチ	層序	器種	器形	口径	器高	残存	胎土	焼成	色調	外面
40	7トレンチ	精査	瓦質	鍋	31.2	(8.0)	1/6	密	良	灰白 2.5Y7/1	内外面ヨコナデ、内面ハケ? 外面指オサエ
41	7トレンチ	精査	土師器	皿	7.9	1.6	完存	密	良	橙 2.5YR7/6	内外面ヨコナデ、内面ナデ、外面指オサエ
42	7トレンチ	精査	回土師	皿	7.5	1.3	2/3	密	良	橙 7.5YR6/6	内外面回転ナデ
43	7トレンチ	精査	土師器	皿	8.1	1.6	11/12	密	良	橙 2.5YR6/6	内外面ナデ、外面ヨコナデ・指オサエ
44	7トレンチ	精査	土師器	皿	7.6	1.3	1/4	密	良	にぶい黄橙 10YR7/4	内外面ヨコナデ、内面ナデ、外面指オサエ
45	7トレンチ	精査	瓦器	椀	底) 6.1	(1.3)	7/12	密	良	灰白 N8/0	マメツ
46	7トレンチ	精査	土師器	皿	8.2	(1.6)	1/3	密	良	橙 7.5YR6/6	内外面ヨコナデ、外面指オサエ
47	7トレンチ	精査	土師器	皿	7.5	1.6	5/12	密	良	にぶい黄橙 10YR7/4	内外面ヨコナデ、内面ハケ? 外面指オサエ
48	7トレンチ	精査	土師器	皿	8.4	1.3	1/12	密	良	橙 5YR7/6	内外面ヨコナデ
49	7トレンチ	精査	土師器	台付皿	底) 6.5	(2.6)	完存	密	良	橙 5YR6/6	内外面ヨコナデ、内面ナデ、外面指オサエ
50	8トレンチ	5層	土師器	鍋	28.8	(5.0)	1/8	やや粗	良	橙 5YR7/8	内面ハケ
51	8トレンチ	精査	回土師	杯	底) 7.4	(2.1)	1/4強	やや密	良	橙 7.5YR7/6	内外面回転ナデ
52	8トレンチ	深掘り	回土師	杯	13.2	(3.8)	1/2	密	良	橙 5YR7/6	内外面回転ナデ
53	8トレンチ	精査	土師器	皿	8.0	2.0	1/6	密	良	橙 5YR8/6	マメツ
54	8トレンチ	6層	回土師	皿	底) 7.0	(3.0)	底) 7/12	密	良	橙 5YR7/8	内外面回転ナデ
55	8トレンチ	精査	白磁	椀	底) 7.0	(1.2)	1/12以下	密	良	釉) 灰白素地) 灰白 5Y8/2	中国
56	8トレンチ	精査	回土師	杯	底) 4.0	(1.7)	1/4	密	良	橙 5YR7/6	内外面回転ナデ
57	8トレンチ	精査	回土師	皿	8.0	1.6	1/4	密	良	橙 5YR7/6	内外面ヨコナデ
58	8トレンチ	6層	回土師	杯	底) 5.4	(0.9)	1/2弱	密	良	橙 5YR7/6	内外面回転ナデ
59	8トレンチ	精査	白磁	椀	-	(3.5)	1/12以下	精良	良	釉) 灰白素地) 灰白 5Y8/1	内外面施釉、内面沈線、中国椀V類
60	8トレンチ	精査	土製品	土錘	1.1	3.8	完存	やや密	良	にぶい褐 5YR6/3	外面ナデ
61	9トレンチ	精査	白磁	高台	底) 4.2	(0.8)	底) 完存	精良	良	釉) 素地) 灰白 2.5Y8/2	内外面施釉、中国
62	9トレンチ	精査	白磁	高台	底) 3.8	(0.9)	底) 1/3	精良	良	釉) 素地) 灰白 2.5Y8/2	内面施釉、中国
63	9トレンチ	4層	須恵器	鉢	-	(3.7)	1/12以下	密	良	灰白 7.5Y7/1	内外面ヨコナデ、内面ナデ、東播磨系
64	9トレンチ	精査	古瀬戸	皿	11.8	(1.8)	1/6	精良	良	釉) オリーブ黄 7.5Y6/3 素地) 浅黄 2.5Y7/3	内外面施釉
65	9トレンチ	精査	回土師	皿	底) 6.3	(2.2)	3/4	密	良	橙 7.5YR7/6	糸切り

付表6 大川遺跡第4・5次調査 土器一覧

報告番号	トレンチ	出土地点	器種	器形	口径	器高	残存	胎土	焼成	色調	調整・備考
66	A 1	SP12	土師器	皿	8.8	1.6	完存	やや密	良	にぶい黄橙 10YR7/4	内面ヨコナデ・ナデ、外面指オサエ
67	A 1	SP15	回土師	皿	7.6	1.3	口) 4.5/12	やや粗	良	にぶい黄橙 10YR7/4	内外面回転ナデ
68	A 1	SP16	回土師	杯	底) 6.0	(2.5)	底) 5/12強	密	良	橙 7.5YR6/6	内外面回転ナデ
69	A 1	SP14	土師器	鍋	31.0	(11.5)	1.5/12	やや密	良	にぶい黄橙 10YR6/4	内外面ハケ、外面ナデ・指オサエ、内面ヨコナデ
70	A 1	SP26	黒色土器	椀	底) 5.1	(1.4)	底) 1/2	やや粗	やや軟	にぶい橙 7.5YR7/4	外面ナデ
71	A 1	SP32	土師器	皿	8.0	1.5	底) 完存口) 1/6	やや粗	軟	橙 5YR6/8	内外面ナデ・指オサエ

報告番号	トレンチ	出土地点	器種	器形	口径	器高	残存	胎土	焼成	色調	調整・備考
72	A 1	SP32	回土師	皿	口) 7.2 底) 5.0	1.4	底) 1/6	やや粗	やや軟	黄橙 7.5YR7/8	内外面回転ナデ、外面指オサエ
73	A 1	SP42	黒色土器	椀	16.4	4.6	完存	密	良	にぶい黄褐 10YR5/4	内面ミガキ、外面ナデ・条切り・ヘラ記号
74	A 1	SP46	回土師	皿	8.2	(1.8)	1/6	密	良	橙 5YR6/8	内外面回転ナデ
75	A 1	SP42	白磁	皿	底) 4.2	1.0	2/3	精良	精良	施釉) 淡黄 5Y8/3 ~ 淡黄褐 5Y7/3	内面ヘラ描き模様、外面施釉・ロクロナデ
76	A 1	SP50	瓦器	椀	底) 9.0	(1.3)	1/6	やや密	良	にぶい黄橙 10YR7/2	内外面ナデ
77	A 1	SP61	回土師	椀	5.0	(1.9)	2/12	やや粗	やや軟	にぶい黄橙 10YR6/3	外面回転ナデ
78	A 1	SP63	土師器	底部	4.6	2.0	2/12	やや密	良	浅黄橙 7.5YR8/6	柱状高台
79	A 1	SP63	土師器	底部	4.2	2.3	1/12	やや密	良	にぶい黄橙 10YR7/4	内外面ナデ、柱状高台
80	A 1	SP63	黒色土器	椀	底) 5.1	(1.1)	1/12	やや粗	良	浅黄橙 7.5YR8/3	内面ミガキ・内面ナデ
81	A 1	SP63	回土師	杯	6.2	2.7	1/2	やや密	良	にぶい橙 7.5YR7/4	内外面回転ナデ
82	A 1	SP61	黒色土器	椀	6.0	(2.6)	1/12	やや粗	やや軟	灰黄 2.5Y7/2	内面ミガキ
83	A 1	SP99	回土師	杯	底) 0.6	1.6	1/2	密	良	橙 7.5YR7/6	内外面回転ナデ
84	A 1	SP100	瓦器	椀	15.8	4.0	1.5/12	密	良	オリーブ黒	内外面ヨコナデ・ナデ・指オサエ、内面ミガキ
85	A 1	SP61	回土師	杯	13.6	4.5	1/6	やや粗	良	黒褐 10YR3/1	内外面回転ナデ
86	A 1	SP312	土製品	土錘	5.2	1.6	11/12	密	良	にぶい黄橙 10YR6/4	内外面ナデ
88	A 1	SP249	回土師	皿	8.8	2.3	11/12	密	良	橙 7.5YR7/6	内外面回転ナデ
89	A 1	SP149	回土師	杯	5.9	(1.1)	1/12	密	良	浅黄橙 7.5YR8/4	内外面回転ナデ
90	A 1	SP149	回土師	杯	5.0	4.0	2/12	密	良	橙 7.5YR7/4	内外面回転ナデ
91	A 1	SP260	回土師	杯	8.6	1.9	1/2	密	良	橙 7.5YR7/6	内外面回転ナデ
92	A 1	SP260	回土師	皿	5.4	(6.0)	底) 完存	密	良	橙 7.5YR8/4	内外面回転ナデ
93	A 1	SP211	回土師	皿	8.7	1.6	3/12	粗	良	にぶい黄橙 10YR7/4	内外面回転ナデ
94	A 1	SX 2	須恵器	甕	最大径 73.3	(83.6)	7/12	密	良	灰色 7.5Y6/1	内外面回転ナデ・内面同心円タタキ・外面カキ目・平行タタキ
95	A 1	SX99	黒色土器	椀	底径 5.4	(2.1)	底部完存	やや密	良	にぶい黄橙 10YR7/3	外面ヘラミガキ・内面ヨコナデ
96	A 1	SX 1	土師器	皿	13.0	3.1	11/12	密	良	橙 5YR7/6	内外面ヨコナデ・ナデ
97	A 1	精査	土師器	皿	12.8	2.5	1/6	良	やや軟	にぶい黄橙 10YR7/3	内外面ヨコナデ、内面ナデ、外面指オサエ
98	A 1	精査	須恵器	皿	7.8	2.0	完存	良	堅緻	灰 N5/0	内外面ロクロナデ
99	A 1	SP45・37	回土師	皿	5.0	(1.3)	1/2	密	良	にぶい黄橙色 10YR5/3	内外面回転ナデ
100	A 1	第1面	回土師	杯	底) 6.3	(2.3)	3/4	密	良	橙 7.5YR7/6	内外面回転ナデ
101	A 1	第1面	回土師	皿	底) 6.6	(1.6)	1/2	やや軟	やや軟	浅黄橙 7.5YR8/4	内面回転ナデ
102	A 1	精査	回土師	杯	14.8	3.9	1/4	粗	軟	橙 7.5YR7/6	内外面回転ナデ
103	A 1	精査	土師器	椀	14.8	5.0	5/12	良	軟	灰白 7.5Y8/1	内外面ヨコナデ、外面指オサエ
104	A 1	中央部・南西・底面上	回土師	杯	18.0	3.1	1/4	密	良	橙 5YR7/6	内外面ナデ
105	A 1	精査	黒色土器	椀	14.5	(4.4)	2/3	粗	軟	灰白 10YR8/2	マメツ
106	A 1	精査	黒色土器	椀	15.8	5.4	5/6	粗	軟	灰白 N8/0	内面ミガキ、外面回転ナデ
107	A 1	精査	瓦器	皿	8.2	(1.7)	1/4	良	良	灰 N7/0	内外面ナデ
108	A 1	精査	瓦器	椀	15.2	5.0	1/4	良	軟	黒 N5/1	口縁部沈線
109	A 1	平安～室町・包含層	瓦器	椀	16.0	4.6	1/6	密	良	灰 5Y6/1	内外面ミガキ
110	A 1	精査	瓦器	椀	17.8	4.9	5/12	良	軟	黒 N2/0	口縁部沈線
111	A 1	精査	瓦器	椀	15.2	(37.0)	1/6	良	やや軟	黒 N2/0	内外面ナデ、内面ミガキ、外面ヨコナデ・指オサエ
112	A 1	精査	白磁	椀	-	-	1/12以下	精良	堅緻	施釉) 浅黄灰白	中国、輪花
113	A 1	包含層	白磁	椀	-	-	1/12以下	精良	堅緻	施釉) 灰白	中国、内外面施釉
115	A 1	包含層	白磁	椀	-	-	1/12以下	精良	堅緻	施釉) 白・断面) 白	中国、内外面施釉
116	A 1	包含層	白磁	椀	-	-	1/12以下	精良	堅緻	施釉) 灰白・断面) 灰白	中国、内外面施釉

報告番号	トレンチ	出土地点	器種	器形	口径	器高	残存	胎土	焼成	色調	調整・備考
117	A 1	包含層	白磁	椀	15.0	3.3	1/12	精良	堅緻	施釉) 灰白	中国、内外面施釉
118	A 1	包含層	白磁	椀	15.6	(3.2)	1/12以下	精良	堅緻	施釉) 灰白・断面) 灰白	中国、内外面施釉
119	A 1	包含層	白磁	椀	16.6	(3.8)	1/12	精良	堅緻	施釉) 灰白・断面) 灰白	中国、内外面施釉
120	A 1	包含層	青磁	椀	15.8	3.7	1/12	精良	堅緻	施釉) 緑灰・断面) 灰白	内外面施釉、内面ヘラによる刻み線、中国
121	A 1	包含層	白磁	椀	不明	不明	1/12以下	精良	堅緻	施釉) 灰白・断面) 灰白	内面施釉、中国
122	A 1	包含層	土師器	杯	9.0	3.4	2/3	粗	軟	橙 7.5YR7/6	内外面回転ナデ
123	A 1	包含層	土師器	柱状高台	4.8	(2.4)	柱状部	粗	軟	黄橙 7.5YR8/8	内外面回転ナデ
124	A 1	包含層	土師器	杯	7.6	3.3	2/3	粗	軟	橙 7.5YR7/6	内外面回転ナデ
125	A 1	鎌倉～室町包含層	土製品	土錘	縦 (3.2)	横 1.2	3/4	密	良	灰 N4/0	手づくね
126	A 1	工房床面上埋積土	土製品	土錘	縦 4.0	横 2.75	3/4	密	良	にぶい黄橙 10YR7/3	手づくね
127	A 1		土製品	土錘	長 5.3	幅 2.6	11/12	粗	軟	にぶい黄橙 10YR7/4	外面手づくね
128	A 1	鎌倉～室町包含層	土製品	土錘	縦 3.1	横 3.05	完存	密	良	にぶい橙 7.5YR7/3	手づくね
129	A 1	包含層	土製品	土錘	3.2	幅 2.7	完存	良	軟	橙 5YR7/8	外面手づくね
130	A 1	包含層	土製品	土錘	長 2.8	幅 3.0	完存	良	軟	浅黄橙 10YR8/3	外面手づくね
134	A 1	包含層	瓦器	羽釜	27.0	5.6	1/12	良	軟	黒 N2/0	内外面ハケ
135	A 1	平安～室町・包含層	瓦器	鍋	30.2	11.5	1/4	密	良	黒色 15/0 暗褐 7.5YR3/3	内外面ヨコナデ・指オサエ、ハケ
136	A 1	中央南東	土師器	甕	14.0	4.6	1/4	良	良	明褐 10YR6/6	内外面ハケ、内面指オサエ、外面ヨコナデ
137	A 1	南東	土師器	甕	16.0	5.6	1/6	良	良	明赤褐 5YR5/6	内外面ヨコナデ・ハケ、内面ナデ
138	A 1	中央南東	須恵器	甕	19.8	6.0	2.5/12	やや密	堅緻	灰 7.5YR6/1	内外面回転ナデ・ハケ・ナデ
139	A 1	包含層	須恵器	杯	9.8	2.9	1/6	良	良	青灰 5B6/1	内外面ロクロナデ、外面ヘラ切り
140	A 1	包含層	須恵器	杯	11.2	(2.9)	1/12	良	やや堅	灰 N5/0	内外面ロクロナデ
141	A 1	包含層	須恵器	脚底)	9.8	5.0	1/4	良	良	暗灰 N3/0	内外面ロクロナデ
142	A 1	包含層	須恵器	杯	14.8	(3.6)	1/12	良	良	灰 N6/1	内外面ロクロナデ
143	A 1	包含層	土師器	鉢	10.0	7.2	11/12	粗	軟	明赤褐 2.5YR7/6	内外面ヨコナデ・ナデ
144	A 1	SX02	土師器	甕	13.2	11.3	2/3	やや密	良	にぶい橙 7.5YR7/4	内外面ヨコナデ、内面指オサエ、外面ハケ
145	A 1	SX02	土師器	甕	21.0	26.2	1/4	やや粗	良	橙 2.5YR6/8	内面ナデ・ヘラケズリ・指オサエ、外面ヨコナデ
146	A 1	SK105	土師器	皿	13.5	2.7	7/12	密	良	灰色 10YR8/2	内外面ヨコナデ・ナデ
147	A 1	SK105	回土師	皿	12.8	3.3	1/2	密	良	浅黄橙 10YR8/4	内外面回転ナデ
148	A 1	SK105	土師器	皿	13.2	3.2	1/4	密	良	にぶい橙 7.5YR7/3	内面ヨコナデ・指オサエ、外面ナデ
149	A 1	SK105	土師器	皿	13.6	3.0	1/6	密	良	橙 5YR7/6	内外面ナデ・ヨコナデ・指オサエ
150	A 1	SK105	土師器	皿	13.6	3.8	2/3	密	良	にぶい橙 7.5YR7/4	内外面ナデ、内面ヨコナデ・指オサエ
151	A 1	SK105	土師器	皿	13.8	2.4	1.5/12	密	良	にぶい黄橙 10YR7/3	内外面ヨコナデ、内面ナデ
152	A 1	SK105	土師器	皿	14.0	3.3	1/2	密	良	橙 7.5YR6/6	内面ナデ、外面ヨコナデ・指オサエ
153	A 1	SK105	土師器	皿	14.2	2.3	1/6	密	良	橙 5YR7/6	内外面ナデ・外面ヨコナデ・指オサエ
154	A 1	SK105	土師器	皿	13.3	3.5	3/4	やや密	良	橙 5YR6/6	内面ハケ・指オサエ・ナデ、外面ヨコナデ
155	A 1	SK105	土師器	皿	13.0	2.4	1/2	密	良	にぶい橙 7.5YR6/4	内外面ヨコナデ・ナデ、外面指オサエ
156	A 1	SK105	土師器	皿	13.0	3.4	ほぼ完存	やや密	良	にぶい橙 7.5YR6/4	内外面ヨコナデ・ナデ、外面指オサエ
157	A 1	SK105	回土師	皿	12.8	3.4	ほぼ完存	やや粗	良	明赤褐 5YR5/6～橙 5YR7/8	内外面ヨコナデ、内面回転ナデ

報告番号	トレンチ	出土地点	器種	器形	口径	器高	残存	胎土	焼成	色調	調整・備考
158	A 1	SK105	土師器	皿	14.2	3.0	4.5/12	やや密	良	にぶい黄橙 10YR7/4	内外面ヨコナデ・指オサエ外面ナデ
159	A 1	SK105	土師器	皿	13.4 ~ 14.0	3.4	11/12	密	良	にぶい黄橙 10YR7/2 ~ 褐灰 10YR5/2	内外面ヨコナデ、内面ナデ、外面指オサエ
160	A 1	SK105	土師器	皿	13.8	2.5	1/2	密	良	浅黄橙 10YR8/4	内外面ヨコナデ・ナデ、内面指オサエ
161	A 1	SK105	土師器	皿	13.6	3.2	1/4	密	良	にぶい黄橙 7.5YR7/3	内外面ヨコナデ・指オサエ外面ナデ
162	A 1	SK105	土師器	皿	13.4	3.1	1/2	密	良	橙 7.5YR7/6	内外面ヨコナデ・指オサエ外面ナデ
163	A 1	SK105	土師器	皿	13.8	2.6	4.5/12	密	良	にぶい黄橙 10YR7/3	内外面ヨコナデ・ナデ、外面指オサエ
164	A 1	SK105	土師器	皿	14.2	3.1	1/3	密	良	浅黄橙 7.5YR8/3	内外面ヨコナデ・指オサエ、外面ナデ
165	A 1	SK105	土師器	皿	13.6	2.9	ほぼ完存	密	良	橙 7.5 Y 7/6	内外面ナデ・ヨコナデ、外面指オサエ
166	A 1	SK105	土師器	皿	13.7	3.0	1/2	密	良	橙 5YR7/6	内外面ナデ・外面ユビオサエ
167	A 1	SK105	土師器	皿	14.2	3.1	1/4	密	良	浅黄橙 10YR8/3	内面ナデ、外面ヨコナデ
168	A 1	SK105	土師器	杯	8.6	2.8	1.5/12	やや密	良	褐灰 10YR5/1	外面ナデ、外面ヨコナデ
169	A 1	SK105	土師器	皿	8.2	1.7	4.5/12	密	良	にぶい橙 5YR6/4	内外面ヨコナデ・ナデ、外面指オサエ
170	A 1	SK105	土師器	皿	8.3	1.6	ほぼ完形	密	良	にぶい橙 2.5YR6/4 赤灰 2.5YR6/1	内面指オサエ、外面ヨコナデ・ナデ
171	A 1	SK105	土師器	皿	15.0	2.4	1/6	密	良	にぶい橙 7.5YR6/4	ヨコナデ・内外面ナデ・指オサエ、外面ヨコナデ
172	A 1	SK105	土師器	皿	14.6	2.8	1/4	やや密	良	にぶい橙 10YR7/4	内外面ヨコナデ・ナデ
173	A 1	SK105	土師器	皿	15.8	3.0	1/4	密	良	浅黄橙 10YR8/3	内外面ヨコナデ・ナデ
174	A 1	SK105	土師器	皿	14.5	2.5	7/12	密	良	浅黄橙 10YR8/3	内外面ヨコナデ・ナデ・指オサエ
175	A 1	SK105	土師器	皿	13.4	2.8	4.5/12	密	良	明褐灰色 7.5YR7/2	内外面ヨコナデ・ナデ
176	A 1	SK105	土師器	皿	13.4	3.0	7.5/12	やや密	良	にぶい橙 7.5YR7/4	内外面ヨコナデ・ナデ、外面指オサエ
177	A 1	SK105	土師器	皿	13.8	3.2	1/2	やや密	良	にぶい黄橙 10YR6/3	内外面ヨコナデ・ナデ、外面指オサエ
178	A 1	SK105	土師器	皿	15.0	2.9	1/4	密	良	橙 7.5YR7/6	内外面ヨコナデ・ナデ、内面指オサエ
179	A 1	SK105	土師器	皿	14.2	2.9	3/4	やや粗	良	浅黄橙 10YR8/3	内面ナデ、外面ヨコナデ
180	A 1	SK105	土師器	皿	13.7	3.3	11/12	密	良	橙 7.5YR6/6	内外面ヨコナデ・ナデ
181	A 1	SK105	土師器	皿	12.6	2.5	1/6	密	良	にぶい黄橙 10YR7/4	内外面ナデ、内面ヨコナデ、外面指オサエ
182	A 1	SK105	土師器	皿	14.0	2.9	3/4	密	良	橙 7.5YR7/6	内外面ヨコナデ、内面ナデ、外面指オサエ・板状圧痕
183	A 1	SK105	須恵器	鉢	30.0 前後	(32.6)	1/12 以下	やや密	堅緻	灰 N6/0	内外面回転ナデ
184	A 1	SK190	土師器	皿	8.6	2.0	5/12	密	良	橙 7.5YR7/6	内外面ヨコナデ・ナデ
185	A 1	SK190	回土師	杯	14.8	4.1	7/12	密	良	にぶい橙 5YR7/4	内外面ヨコナデ
186	A 1	SK190	白磁	椀	6.2	(3.6)	1/4	密	良	灰白 5Y8/1	内外面施釉、内面沈線、中国
187	A 1	SK252	土師器	皿	7.6 ~ 8.2	1.8	完存	密	良	にぶい黄橙色 10YR7/3	内外面ヨコナデ・ナデ
188	A 1	SK252	回土師	皿	8.0	1.5	1/2	密	良	橙 7.5YR6/6	内外面回転ナデ
189	A 1	SK214	回土師	皿	8.8	1.3	4.5/12	密	良	にぶい橙 7.5YR7/4	内外面回転ナデ
190	A 1	SP47	黒色土器	椀	17.0	4.5	1.5/12	やや粗	良	浅黄 2.5Y7/3	内面ミガキ、外面ナデ
191	A 1	SP47	黒色土器	椀	16.0	5.0	1/4	やや粗	良	浅黄 2.5Y7/3	外面ミガキ
192	A 1	SP 周辺包含層	黒色土器	椀	-	(1.5)	底) 1/3	やや密	良	灰黄 2.5Y7/2	内面ミガキ、外面ナデ
193	A 1	SP106	回土師	杯	底) 6.4	0.3	1/4	やや密	良	橙 5YR7/6	内外面回転ナデ
194	A 1	SP106	回土師	皿	7.8	1.7	1/4	密	良	橙 7.5YR7/6	内外面回転ナデ

報告番号	トレンチ	出土地点	器種	器形	口径	器高	残存	胎土	焼成	色調	調整・備考
195	A 1	SP107	回土師	皿	口) 7.8 底) 3.6	1.4	1/4	粗	やや軟	橙 7.5YR7/6	内外面回転ナデ、内面ナデ
196	A 1	SP107	土師器	皿	15.9	2.7	1/4	粗	良	橙 7.5YR6/8	内外面ヨコナデ、外面ナデ・指オサエ、内面ヨコナデ
197	A 1	SP107	回土師	杯	-	2.4	底) 1/2	やや密	良	にぶい橙 7.5YR6/4	内外面回転ナデ
198	A 1	SP212	瓦器	皿	8.8	1.4~2.0	11/12	密	良	灰白 7.5Y8/1~灰 N4/0	内外面ヨコナデ・ナデ・指オサエ、内面ミガキ
199	A 1	SP212	回土師	皿	口) 8.0 底) 4.0	2.8	底) 完存	やや粗	やや軟	にぶい黄橙 10YR7/4	内外面回転ナデ
200	A 1	SP212	青磁	皿	10.6	2.4	口) 1/6弱	精良	堅緻	施釉) 浅黄 5Y7/4 素地) 灰白 7.5Y7/1	内外面施釉、外面素地
201	A 1	SP213	回土師	杯	底) 7.0	(2.7)	1/4	密	良	にぶい黄橙色 10YR6/4	内外面回転ナデ、内面ハケ
202	A 1	SP214	黒色土器	椀	底) 5.6	(1.2)	2/12	密	良	黒 N2/0	外面ナデ
203	A 1	SP214	黒色土器	椀	底) 4.8	8.0	底) 7/12	やや粗	良	暗灰 N3/0	内外面ナデ、外面ヨコナデ・糸切り痕
204	A 1	SP222	黒色土器	皿	8.7	1.7	口) 1/3	密	良	黒 N2/0	内面ミガキ、外面ヨコナデ
205	A 1	SP244	回土師	皿	口) 8.7 底) 6.0	1.2	口) 1/2	やや密	良	にぶい黄橙 10YR7/3	内面ミガキ、外面ヨコナデ
206	A 1	SP247	回土師	杯	6.0	(2.1)	底) 1/4強	粗	軟~やや軟	黄褐 7.5YR7/8	内外面回転ナデ
207	A 1	SP244	土師器	皿	13.6	2.4	1/8	粗	良	灰黄褐 10YR6/3	内面ナデ・ミガキ、外面ヨコナデ・ナデ
208	A 1	SP14・SP15	土師器	鍋	31.2	-	1.5/12	やや密	良	にぶい橙 7.5YR6/4	内面ヨコナデ・ハケ
209	A 1	SP259	回土師	皿	8.0	1.8	底) 完存	密	良	橙 5YR6/6	内面回転ナデ
210	A 1	SP259	回土師	皿	底) 5.2	(8.0)	底) 完存	密	良	にぶい黄橙 10YR7/2	内面回転ナデ
211	A 1	SP251	土師器	皿	16.0	2.8	1/4	粗	良	にぶい黄橙 10YR7/3	内外面ヨコナデ・ナデ・指オサエ
212	A 1	SP267	土師器	皿	17.4	(2.2)	1/12弱	密	良	にぶい橙 7.5YR7/4	内外面ヨコナデ、外面ナデ
213	A 1	SP259	土師器	鍋	底) 14.0	-	1/12以下	やや密	良	にぶい黄褐 10YR5/3	内面ヨコナデ・ハケ、外面指オサエ
214	A 1	SP278	瓦器	椀	15.8	7.8	2/12	やや密	良	灰 N4/0	内外面ミガキ、内面ナデ、外面ヨコナデ・指オサエ
215	A 1	SP298	黒色土器	椀	-	(1.9)	底部完存	やや粗	やや軟	にぶい黄橙 10YR7/3	内面ミガキ、外面クロナデ
216	A 1	SP300	黒色土器	椀	17.5	2.9	口) 1/8	やや粗	良	灰白 2.5Y7/1	内外面ヨコナデ、内面ミガキ、外面ナデ
217	A 1	SP300	黒色土器	椀	-	(0.5)	3/12	密	良	黒 7.5Y1/2	内面ミガキ・外面ナデ
218	A 1	SP300 周辺包含層	黒色土器	椀	-	1.4	底) 1/2	やや粗	良	黒 N2/0	内面ミガキ、外面ヨコナデ
219	A 1	SP302	青磁	椀	-	-	-	精良	堅緻	施釉) 浅黄橙 2.5Y7/4 素地) 灰白 N7/0	内外面灰釉
220	A 1	SP305	黒色土器	椀	底) 6.4	(1.5)	4/12	やや粗	良	にぶい黄橙 10YR6/3	内面ミガキ、外面ナデ
221	A 1	SP305	回土師	皿	底) 4.8	(0.8)	底) 完存	粗	良	にぶい黄橙 10YR7/4	内外面回転ナデ
222	A 1	SP306	回土師	皿	8.3	1.8	11/12	密	良	橙 5YR7/6	内外面回転ナデ
223	A 1	SP305	回土師	杯	底) 8.6	(1.9)	1/4	やや密	良	橙 7.5YR/6	内外面ナデ
224	A 1	SP305	黒色土器	椀	底) 6.4	(2.2)	3/12	やや粗	良	浅黄 2.5Y7/3	内面ミガキ、外面ヨコナデ
225	A 1	SX308 西半 SP309	回土師	皿	6.8	(2.0)	底) 完存	密	良	灰黄褐 10YR6/2	内外面回転ナデ
226	A 1	SP306	黒色土器	椀	15.6	4.7	1/6	やや粗	やや軟	灰褐色 7.5YR4/2	内外面ミガキ
227	A 1	SP306	回土師	杯	14.2	2.9	1/4	密	良	黒褐色 2.5Y3/1	内外面回転ナデ
228	A 1	SP310	須恵器	鉢	22.0	(2.7)	1/12強	密	堅緻	青灰 5PB6/1	内外面回転ナデ・自然釉

報告 番号	トレンチ	出土地点	器種	器形	口径	器高	残存	胎土	焼成	色調	調整・備考
229	A 1	SP314	黒色土器	椀	15.9	4.5	2/12	やや粗	良	にぶい橙 7.5YR7/4	内面ミガキ、外面ヨコナデ・ナデ
230	A 1	SP314	白磁	椀	15.0	(4.1)	1/6	精良	堅緻	施釉) 灰白 10Y9/1 素地) 灰白 7.5Y8/1	内外面施釉
231	A 1	SP319	須恵器	皿	8.4	1.9	1/4	精良	堅緻	灰 N4/0	内外面回転ナデ
232	A 1	SP319	黒色土器	椀	4.7	-	3/12	密	良	黒 N2/0	内面ミガキ、外面ヨコナデ
233	A 1	SP329	土師器	皿	13.8	2.6	1/3	やや密	やや軟	にぶい黄橙 10YR7/4	内外面ヨコナデ・ナデ、 外面指オサエ
234	A 1	AP340	土師器	皿	12.6	2.9	2.5/12	密	良	浅黄橙 7.5YR8/4	内外面ナデ、内面ヨコナデ
235	A 1	SP329	土師器	皿	13.4	3.2	11/12	密	良	橙 7.5YR6/8 ~ 橙 7.5YR7/6	外面ナデ・指オサエ
236	A 1	SP343	白磁	皿	底) 3.9	(1.3)	底) 1/6	精良	堅緻	施釉) 灰白 7.5Y7/2 素地) 灰白 5Y7/1	内外面施釉、外面ヘラケズリ
237	A 1	SP331	回土師	杯	底) 5.9	(2.4)	底) 1/2 たち	密	良	浅黄橙 7.5YR8/6	マメツ
238	A 1	SP343	回土師	皿	8.6	1.5	1/2	やや密	良	橙 5YR7/6	内外面回転ナデ
240	A 1	SP330	須恵器	鉢	27.4	(3.4)	1/12 強	密	堅緻	灰 N6/0	内面ヨコナデ、外面回転ナデ
241	A 1	SX308	須恵器	鉢	22.4	(3.1)	1.5/12	密	堅緻	灰 5YR6/1	内外面回転ナデ・自然釉
242	A 1	SX308	土師器	皿	底) 5.1	(0.5)	底) 完存	密	良	浅黄橙 10YR8/4	内外面ナデ
243	A 1	SX308	黒色土器	椀	底径 6.0	(1.3)	底) 完存	やや密	良	浅黄橙 10YR8/3	外面ヘラミガキ・内面ヨコナデ
244	A 1	SX308	黒色土器	椀	底径 6.0	(8.0)	底) 1/2	やや密	良	灰白 7.5YR8/2	外面ヘラミガキ・内面ヨコナデ
245	A 1	包含層	回土師	皿	8.3	1.8	5/6	良	軟	橙 5YR7/8	内外面回転ナデ
246	A 1	包含層	回土師	皿	7.0	1.7	2/3	粗	軟	黄橙 7.5YR7/8	内外面回転ナデ
247	A 1	包含層	土師器	皿	9.4	2.1	5/6	良	軟	橙 5YR7/8	内外面回転ナデ
248	A 1	包含層	土師器	柱状高台	底) 5.9	(2.4)	柱状部 5/6	良	軟	橙 5YR7/6	マメツ
249	A 1	包含層	土師器	柱状高台	底) 5.6	(3.2)	5/6	粗	軟	橙 5YR7/8	マメツ
250	A 1	包含層	土師器	杯	5.0	1.8	底) 完存	粗	軟	橙 5YR7/6	内外面回転ナデ
251	A 1	包含層	土師器	杯	14.0	3.8	11/12	粗	軟	橙 5YR6/8	マメツ
252	A 1	包含層	土師器	杯	14.2	3.6	5/6	粗	軟	橙 5YR6/8	マメツ
253	A 1	包含層	土師器	杯	底) 7.2	3.3	底) 11/12	粗	軟	にぶい橙 7.5YR7/4	内外面転ナデ
254	A 1	包含層	瓦器	椀	底) 5.4	2.1	1/4	粗	軟	灰白 N8/0	マメツ
255	A 1	包含層	土師器	杯	底) 7.6	2.1	底) 11/12	粗	軟	にぶい橙 7.5YR7/4	内外面回転ナデ
256	A 1	包含層	回土師	杯	底) 5.8	(3.6)	4/12	良	軟	浅黄橙 10YR8/4	内外面回転ナデ
257	A 1	包含層	古瀬戸	仏花瓶	底) 9.6	(2.8)	底) 5/12	良	良	施釉) 灰緑・断面) 灰	内外面施釉
258	A 1	包含層	土製品	土錘	長 2.7	幅 0.8	完存	良	軟	浅黄橙 10YR8/4	外面手づくね
259	A 1	包含層	土製品	土錘	長 2.8	幅 0.7	11/12	良	軟	明褐色 7.5YR5/8	外面手づくね
260	A 1	包含層	土製品	土錘	長 2.8	幅 3.2	完存	良	軟	橙 2.5YR7/8	
261	A 1	包含層	瓦器	皿	8.8	1.4	5/12	良	軟	黒 N2/ と N8/ 灰白 のまだら	内外面ヨコナデ、外面指オサエ
262	A 1	包含層	瓦器	皿	9.8	(2.1)	1/12	良	やや良	黒 N2/0・灰白 N8/0	内外面ヨコナデ、外面指オサエ
263	A 1	包含層	瓦器	皿	8.4	2.0	完存	粗	軟	灰白 7.5Y4/1・黒 N2/0	内外面ヨコナデ、外面指オサエ
264	A 1	包含層	瓦器	椀	15.0	5.5	5/6	良	良	黒 N5/1	内外面回転ナデ、内面ミガキ
265	A 1	包含層	瓦器	椀	15.8	(3.8)	口) 1/4	良	やや良	黒 N2/0 と 灰白 N7/0 のまだら	内外面ナデ、内面ミガキ、 外面指オサエ
266	A 1	包含層	回土師	杯	8.3	2.4	完存	良	良	灰 7.5Y4/1	内外面回転ナデ
267	A 1	包含層	須恵器	皿	口) 9.75	2.1	5/12	やや密	良	灰 7.9Y6/1	内外面回転ナデ



報告番号	トレンチ	出土地点	器種	器形	口径	器高	残存	胎土	焼成	色調	調整・備考
268	A 1	包含層	白磁	蓋	最大径 4.0	1.3	1/6	精良	堅緻	施釉) 灰白・断面) 灰白	内外面施釉
269	A 1	包含層	白磁	皿	底) 3.0	0.9	2/3	精良	堅緻	施釉) 黄灰・断面) 灰白	内外面施釉・ロクロナ デ、外面ロクロケズリ
270	A 1	包含層	青磁	椀	-	-	1/12 以下	精良	堅緻	施釉) 緑灰・断面) 灰白	内外面施釉
271	A 1	包含層	緑釉陶器	椀	不明	不明	1/12 以下	良	やや良	施釉) 淡緑・断面) 灰	内外面施釉
272	A 1	包含層	須恵器	杯	11.2	3.5	5/12	良	良	灰 N6/0	内外面ロクロナデ
273	A 1	包含層	須恵器	甕	不明	不明	1/12 以下	粗	良	暗灰 N3/0	内外面ロクロナデ
274	A 1	包含層	白磁	椀	12.6	(3.8)	1/12	精良	堅緻	施釉) 灰・断面) 灰 白	内外面施釉
275	A 1	包含層	白磁	碗	14.6	(1.9)	1/12 以下	精良	堅緻	施釉) 黄灰・断面) 灰白	内外面施釉
276	A 1	包含層	白磁	椀	15.2	4.2	1/4	精良	堅緻	施釉) 灰白・断面) 灰白	内外面施釉
277	A 1	包含層	白磁	椀	17.4	(3.4)	口) 1/4	精良	堅緻	施釉) 灰白	内外面施釉
278	A 1	包含層	白磁	椀	16.2	3.1	1/6	精良	堅緻	施釉) 白・断面) 白	内外面施釉
279	A 1	包含層	白磁	椀	16.6	(2.9)	口) 1/4	精良	堅緻	施釉) 黄白・断面) うすい黄白	内外面施釉・ロクロケ ズリ・ナデ
280	A 1	包含層	白磁	椀	15.6	(3.5)	1/12 以下	精良	堅緻	施釉) 灰白・断面) 灰白	内外面施釉
281	A 1	包含層	瓦器	鍋	27.6	(9.2)	1/12	粗	軟	灰 N5/0	内外面ナデ
282	A 1	包含層	土師器	鍋	24.0	(10.5)	口) 1/6	粗	やや良	橙 5YR6/8	内外面ハケ
283	A 1	包含層	須恵器	鉢	底) 9.0	(4.2)	底) 1/2	良	やや良	灰白 25.GY8/1	内外面ロクロナデ
284	A 1	包含層	白磁	椀	16.2	4.3	1/12 以下	精良	堅緻	施釉) 灰白・断面) 灰白	内外面施釉
285	A 1	包含層	白磁	椀	底) 5.8	3.6	1/3	精良	堅緻	施釉) 緑灰・断面) 黄白	内外面施釉、外面ロク ロヘラケズリ
286	A 1	包含層	白磁	椀	5.8	(2.8)	底) 1/2	精良	堅緻	施釉) 黄灰白・断面) 灰白	内外面ロクロナデ
287	A 1	包含層	須恵器	杯	12.8	3.2	1/12 以下	良	良	灰白 N7/0	内外面ロクロナデ
288	A 1	SE412	青磁	椀	16.6	(4.7)	1/12	精良	良	施釉) オリーブ灰・ 素地) 灰白 7.5Y7/1	内外面施釉・外面線刻
289	A 1	SE412	青磁	椀	-	-	1/12 以下	精良	良	施釉) 灰オリーブ素 地) 灰白 N7/0	内外面施釉・外面線刻
290	A 1	SE412	回土師	皿	8.1	底) 4.9	1.8	やや密	良	にぶい黄橙 10YR6/4	内外面回転ナデ
291	A 1	SE412	土師器	皿	8.5	1.7	ほぼ 完存	やや密	良	にぶい黄橙 10YR7/3	内外面ヨコナデ、内面 ナデ、外面指オサエ
292	A 1	SE412	土師器	皿	8.5	1.7	ほぼ 完存	やや密	良	にぶい黄橙 10YR7/3	内外面ヨコナデ、内面 ナデ、外面指オサエ
293	A 1	SE412	土師器	皿	8.6	1.6	口) 2/3	やや密	良	黒褐色 7.5YR3/1	内外面ヨコナデ・ナデ
294	A 1	SE412	土師器	皿	14.0	2.1	1/12	やや密	良	浅黄 2.5Y7/3	内外面ヨコナデ・ナデ、 外面ハケ
295	A 1	SE412	土師器	杯	13.4	4.9	7/12	やや密	良	橙 5YR6/8	内面ヨコナデ・ナデ、 外面ヘラケズリ
296	A 1	SE412	回土師	椀	15.4	4.6	3/4	やや密	良	橙 5YR6/6	内外面回転ナデ、外面 回転ヘラナデ
297	A 1	SE412	漆器	椀	底) 8.8	(1.9)	底部 完存	-	-	黒色・茶褐色	ロクロケズリ
298	A 1	SE412	土師器	甕	15.0	(9.0)	3/4	やや粗	良	赤橙 10YR6/6	内面ナデ・ハケ・ケズ リ、外面ヨコナデ
299	A 1	SE412	土師器	甕	8.2	(19.8)	口) 1/2 体部) 7/12	やや粗	やや粗	橙 2.5YR6/8	内外面ヨコナデ、内面 ヘラケズリ・指オサエ、 外面ハケ
300	A 1	SX412	土師器	壺	11.6	6.2	11/12	やや密	良	橙 5YR7/8	内外面ヨコナデ・ハケ、 内面指オサエ、外面ナ デ
301	A 1	SE412	土師器	甕	17.4	(5.4)	1/2	やや粗	良	橙 5YR7/6	内外面ヨコナデ、内面 ヘラケズリ、外面ハケ

報告番号	トレンチ	出土地点	器種	器形	口径	器高	残存	胎土	焼成	色調	調整・備考
302	A 1	SE412	土師器	甕	18.0	(8.0)	2.5/12	やや粗	良	にぶい橙 7.5YR6/4	内外面ナデ、内面ヘラケズリ・指オサエ、外面ヨコナデ
303	A 1	SE412	土師器	甕	19.6	(14.4)	1/6	やや粗	良	にぶい橙 7.5YR7/4	内面ナデ・ケズリ・指オサエ、外面ヨコナデ・ハケ
304	A 1	SE412	須恵器	甕	-	-	1/12以下	密	良	灰白 7.5Y7/1	内面同心円タタキ・外面平行タタキ・ハケ
305	A 1	包含層	須恵器	杯	12.2	4.1	1/4	粗	良	灰白 5GY8/1	内外面ロクロナデ
306	A 1	包含層	須恵器	杯	11.8	(1.7)	1/12	粗	良	灰 N5/0	内外面ロクロナデ
307	A 1	包含層	須恵器	杯	11.6	3.6	1/6	粗	良	灰白 N7/0	内外面ロクロナデ
308	A 1	包含層	土師器	甕	26.4	(5.2)	1/6以下	粗	軟	橙 5YR6/6	内外面ヨコナデ、内面ヘラケズリ
309	A 1	包含層	土師器	甕	11.2	(4.4)	1/4	粗	軟	明赤褐 2.5YR5/8	内外面ヨコナデ
310	A 1	包含層	土師器	甕	26.0	(6.0)	1/6	粗	軟	橙 5YR6/6	内外面ヨコナデ
311	A 1	包含層	土師器	甕	18.8	18.0	1/3	粗	軟	明赤褐 2.5YR5/8	内外面ヨコナデ
312	A 1	SE412	土師器	甕	24.6	(21.1)	1/4	やや粗	良	橙 7.5YR/6	内外面ヨコナデ、内面ケズリ、外面ハケ
313	A 2	SK505	回土師	皿	6.8	1.9	2/3	粗	軟	橙 7.5YR7/6	回転ナデ
314	A 2	SK505	回土師	皿	7.2	1.4	1/4	粗	軟	橙 5YR7/6	マメツ
315	A 2	SK505	回土師	皿	7.2	1.8	1/3	粗	軟	橙 5YR7/8	マメツ
316	A 2	SK505	回土師	皿	底) 6.8	1.7	3/4	粗	軟	橙 7.5YR7/6	回転ナデ
317	A 2	SK505	土師器	皿	8.2	1.6	5/12	粗	軟	明赤褐 5YR5/8	ヨコナデ・不調整
318	A 2	SK505	回土師	杯	底) 3.6	(1.9)	1/3	粗	軟	にぶい橙 5YR6/4	マメツ
319	A 2	SK505	回土師	杯	底) 5.6	(1.8)	4/12	粗	軟	橙 7.5YR6/6	回転ナデ
320	A 2	SK505	回土師	杯	底) 6.0	(1.4)	5/12	密	軟	橙 5YR7/6	マメツ
321	A 2 アゼ東側	SK505	回土師	杯	底) 5.4	(1.5)	1/3	粗	軟	橙 5YR6/6	マメツ
322	A 2	SK505	回土師	杯	底) 4.8	(1.3)	3/12	粗	軟	橙 7.5YR6/6	回転ナデ
323	A 2	SK505	回土師	杯	推定 12.8	(3.1)	1/12	粗	軟	浅黄橙 7.5YR8/4	回転ナデ
324	A 2	SK505	回土師	皿	10.6	2.5	1/4	粗	軟	にぶい橙 7.5YR6/4	マメツ
325	A 2	SK505	回土師	杯	底) 4.0	(1.2)	2/12	粗	軟	橙 7.5YR6/6	回転ナデ
326	A 2	SK505	回土師	杯	底) 5.8	(1.1)	1/3	粗	軟	橙 5YR6/6	回転ナデ
327	A 2	SK505	回土師	杯	底) 5.0	(1.6)	1/6	密	軟	明褐 7.5YR5/6	マメツ
328	A 2	SK505	回土師	杯	底) 7.0	(1.3)	3/12	粗	軟	橙 7.5YR7/6	マメツ
329	A 2	SK505	回土師	杯	底) 5.0	1.8	1/4	粗	軟	橙 5YR7/6	マメツ
330	A 2	SK505	回土師	皿	底) 6.8	(1.2)	1/4	粗	軟	橙 7.5YR7/6	マメツ
331	A 2	SK505	回土師	杯	11.2	(3.7)	1/12	粗	やや良	灰褐 7.5YR5/2	回転ナデ
332	A 2	SK505	回土師	皿	12.6	2.0	5/12	粗	軟	にぶい橙 7.5YR7/4	回転ナデ
333	A 2	SK505	回土師	杯	底) 6.4	(1.1)	1/4	粗	軟	橙 7.5YR7/6	マメツ
334	A 2	SK505	回土師	杯	底) 6.0	(1.3)	5/12	粗	軟	橙 7.5YR7/6	回転ナデ
335	A 2	SK505	回土師	杯	底) 7.8	(2.4)	1/12	密	軟	橙 5YR7/6	マメツ
336	A 2	SK505	回土師	杯	底) 7.8	(2.5)	1/4	粗	軟	浅黄橙 7.5YR8/4	回転ナデか
337	A 2	SK505	回土師	杯	12.8	3.6	1/4	粗	粗 (軟?)	橙 5YR7/6	マメツ
338	A 2	SK505	回土師	杯	底) 6.0	(1.8)	1/2	粗	軟	橙 7.5YR7/6	回転ナデ
339	A 2 アゼ東側	SK505	回土師	杯	底) 6.8	(1.8)	1/12	粗	軟	橙 5YR6/6	マメツ
340	A 2	SK505	回土師	杯	底) 6.0	(2.0)	1/6	粗	軟	橙 7.5YR6/6	回転ナデ
341	A 2	SK505	回土師	杯	底) 6.0	(1.9)	1/4	やや粗	やや軟	橙 5YR6/6	マメツ
342	A 2	SK505	回土師	杯	底) 6.0	(2.2)	1/4	粗	軟	にぶい橙 7.5YR7/4	回転ナデ
343	A 2	SK505	回土師	杯	底) 6.6	(2.1)	2/3	粗	軟	にぶい橙 7.5YR7/4	マメツ
344	A 2	SK505	回土師	杯	底) 8.0	(1.7)	1/12	粗	軟	橙 5YR6/8	マメツ
345	A 2	SK505	回土師	杯	15.6	3.5	1/4	粗	軟	橙 7.5YR6/6	マメツ
346	A 2	SK505	土師器	碗	13.2	(3.0)	1/6	粗	軟	黄橙 7.5YR7/8	マメツ
347	A 2	SK505	回土師	杯	16.2	4.3	1/4	粗	やや軟	黄橙 7.5YR7/8	回転ナデ
348	A 2	SK505	回土師	杯	推定 19.8	3.9	1/12	粗	軟	橙 7.5YR6/6	回転ナデ
349	A 2	SK505	回土師	柱状 高台皿	底) 6.6	(3.2)	1/4	粗	軟	明黄褐 10YR7/6	マメツ

報告番号	トレンチ	出土地点	器種	器形	口径	器高	残存	胎土	焼成	色調	調整・備考
350	A 2	SK505	回土師	柱状高台	底) 4.8	2.1	1/4	粗	軟	橙 7.5YR7/6	マメツ
351	A 2	SK505	回土師	柱状高台皿	底) 8.0	(2.8)	1/2	粗	軟	にぶい橙 5YR7/3	マメツ
352	A 2	SK505	回土師	柱状高台	底) 9.8	(3.2)	1/2	粗	軟	にぶい橙 7.5YR7/4	マメツ
353	A 2	SK505	瓦器	椀	13.8	(5.0)	1/12	良	やや軟	暗灰 N3/0	マメツ
354	A 2	SK505	須恵器	鉢	不明	(4.0)	1/12	粗	軟	褐灰 7.5YR6/1	東播系
355	A 2	SK505	瓦器	椀	不明	(3.0)	1/12	良	軟	灰 7.5Y5/1	マメツ
356	A 2	SK505	瓦器	椀	推定 18.6	3.2	1/12	良	やや軟	暗灰 N3/0	マメツ
357	A 2	SK505	瓦器	椀	12.4	3.8	1/6	良	やや軟	暗灰 N3/0	マメツ
358	A 2	SK505	須恵器	鉢	25.6	(4.7)	1/12	粗	堅	灰 7.5 Y 6/1	回転ナデ、東播系
359	A 2	SK505	須恵器	鉢	底) 9.6	4.8	1/6	粗	やや軟	灰白 N7/0	不調整、東播系
360	A 2	SK505	瓦器	椀	15	(4.7)	1/12	粗	軟	黒 N2/0	マメツ
361	A 2 B18t	SK544	回土師	皿	7.6	1.9	1/3	粗	軟	橙 5YR6/6	マメツ
362	A 2	SK544	回土師	皿	7.6	1.3	1/4	粗	軟	橙 7.5YR6/6	回転ナデ
363	A 2	SK544 南部	回土師	皿	底) 8.0	(1.7)	3/4	やや密	良	橙 7.5YR7/6	回転ナデ
364	A 2	SK544 南部	回土師	皿	底) 4.8	(1.6)	6/12	やや密	良	橙 7.5YR7/6	回転ナデ
365	A 2	SK544	回土師	高台	底) 8.1	(4.3)	4/12	やや密	良	にぶい黄橙 10YR7/3	回転ナデ
366	A 2	SK544	回土師	皿	13.6	(3.4)	1/12	粗	軟	橙 7.5YR6/4	マメツ
367	A 2	SK544	回土師	皿	13.2	2.5	1/6	粗	軟	橙 7.5YR6/6	回転ナデ
368	A 2 北部	SK544	回土師	皿	13.8	2.8	5/12	密	良	橙 7.5YR7/6	回転ナデ
369	A 2	SK544	回土師	皿	12.8	(2.7)	1/6	粗	軟	橙 7.5YR6/6	マメツ
370	A 2	SK544	回土師	皿	13	(2.2)	1/6	粗	軟	にぶい黄橙 10YR6/4	回転ナデ
371	A 2	SK544	回土師	皿	14.9	(3.1)	1/7	やや密	良	にぶい橙 7.5YR7/4	回転ナデ
372	A 2	SK544	回土師	皿	15.8	3.2	3/12	やや密	良	にぶい橙 7.5YR6/4	回転ナデ
373	A 2	SK544	回土師	杯	13.6	(3.2)	1/12	粗	軟	橙 7.5YR6/4	マメツ
374	A 2	SK544	回土師	杯	13.9	(3.5)	1/8	やや粗	良	橙 7.5YR6/6	回転ナデ
375	A 2	SK544	回土師	杯	16	(3.8)	1/12 強	やや密	良	橙 7.5YR7/6	回転ナデ
376	A 2	SK544	回土師	皿	15.8	(3.8)	1/12	粗	軟	黄橙 7.5YR7/8	マメツ
377	A 2	SK544	土師器	杯	15.8	(3.7)	1/12	粗	軟	にぶい橙 7.5YR7/4	マメツ
378	A 2	SK544	回土師	杯	底) 7.0	(2.7)	底) 1/4	粗	軟	橙 5YR7/6	マメツ
379	A 2	SK544	瓦器	椀	15.8	(3.3)	1/12 強	密	良	灰 5 Y 5/1	マメツ
380	A 2	SK544	炉壁	-	4.7	(5.0)	-	粗	軟	橙 7.5YR6/8	-
381	A 2	SK544	焼土	-	-	-	-	-	-	橙 5YR6/6	-
382	A 2	SK544	焼土	-	-	-	-	-	-	橙 5YR6/6	-
383	A 2	SK520	回土師	杯	底) 6.0	1.7	底) 5/12	粗	軟	橙 7.5YR7/6	マメツ
384	A 2	SK520	回土師	杯	底) 7.2	1.3	1/3	粗	軟	橙 7.5YR7/6	マメツ
385	A 2	SK520	回土師	杯	底) 5.8	0.7	底) 完存	粗	軟	橙 7.5YR7/6	マメツ
386	A 2 1B16r	SK520	回土師	杯	底) 7.0	(1.5)	5/12	密	軟	橙 7.5YR7/6	回転ナデ
387	A 2	SK520	回土師	杯	底) 5.4	(2.3)	1/12	粗	軟	にぶい橙 7.5YR6/4	回転ナデ
388	A 2	SK520	回土師	杯	底) 5.8	(2.8)	1/3	粗	軟	橙 5YR6/6	回転ナデ
389	A 2	SK520	回土師	杯	底) 7.6	1.7	1/3	粗	軟	にぶい橙 7.5YR7/4	マメツ
390	A 2	SK520	回土師	杯	底) 6.4	(2.3)	5/12	粗	軟	橙 5YR6/6	回転ナデ
391	A 2	SK520	回土師	杯	13.3	4.5	6/12	やや密	やや軟	橙 5YR7/8	ヨコナデ・ナデ
392	A 2	SK520	回土師	杯	13.6	4.5	2/3	密	軟	にぶい橙 5YR7/3	マメツ
393	A 2	SK520	回土師	杯	12.8	3.5	5/12	密	軟	橙 5YR7/8	マメツ
394	A 2	SK505	瓦器	椀	14.0	(4.8)	1/12	良	軟	黒 N2/0	マメツ
395	A 2	SK520	回土師	杯	底) 8.0	2.0	1/6	粗	軟	橙 5YR6/6	回転ナデか
396	A 2	SK520	回土師	皿	8.0	1.5	1/4	粗	軟	橙 5YR6/6	回転ナデ
397	A 2	SK520	回土師	皿	6	(0.6)	1/12	密	軟	明赤褐 5YR5/6	回転ナデ
398	A 2	SK520	回土師	杯	底) 7.0		1/2	粗	軟	にぶい橙 7.5YR7/4	マメツ

報告番号	トレンチ	出土地点	器種	器形	口径	器高	残存	胎土	焼成	色調	調整・備考
399	A 2	SK520	回土師	杯	底) 6.8	(1.9)	1/4	密	軟	橙 7.5YR6/6	回転ナデ
400	A 2	SK520	回土師	杯	14.6	(3.8)	1/4	粗	軟	橙 5YR6/6	マメツ
401	A 2	SK520	土師器	鍋	-	(4.6)	1/12	粗	軟	にぶい褐 7.5YR5/3	煤付着
402	A 2	SK520	土師器	皿	10.8	2.4	1/6	粗	軟	にぶい橙 7.5YR7/4	ヨコナデか
403	A 2	SK520	回土師	皿	底) 6	(1.3)	1/12	密	良	明黄褐 10YR7/6	ナデ
404	A 2	SK520	回土師	皿	7.8	1.9	11/12	密	良	にぶい橙 7.5YR7/4	ヨコナデ・ナデ
405	A 2	SK520	須恵器	鉢	31.2	(8.5)	2/12	密	堅緻	灰 5Y6/1	回転ナデ、東播系
406	A 2	SK540	回土師	杯	底) 5.0	(2.4)	3/12	やや密	良	にぶい黄橙 10YR7/4	回転ナデ
407	A 2	SK540	回土師	皿	7.7	2.1	□) 1/4	やや粗	良	橙 7.5YR7/6	回転ナデ
408	A 2	SK541	回土師	杯	15.8	(3.5)	1/14	やや密	良	橙 7.5YR7/6	回転ナデ
409	A 2	SK572	回土師	杯	底) 5.5	(2.4)	3/12	やや密	やや軟	橙 7.5YR6/6	回転ナデ
410	A 2	SK572	回土師	杯	□) 11.8	4.1	1/6	やや密	良	橙 7.5YR6/6	回転ナデ
411	A 2	SK572	須恵器	杯	底) 5.0	(2.4)	1/4	良	堅	灰褐 5YR5/2	回転ナデ
412	A 2	SK572	回土師	杯	10.6	(2.2)	1/6	粗	軟	橙 7.5YR6/8	回転ナデ
413	A 2	SK572	回土師	杯	11	(2.8)	1/12	粗	軟	灰白 10YR7/1	マメツ
414	A 2	SK572	回土師	柱状高台皿	底) 7.0	(1.9)	1/4	粗	軟	にぶい橙 7.5YR7/4	マメツ
415	A 2	SK572	回土師	柱状高台皿	底) 4.6	(3.1)	5/12	粗	軟	にぶい橙 7.5YR7/4	マメツ
416	A 2	SK575	回土師	皿	7.4	1.7	6/12	やや密	良	橙 7.5YR6/6	回転ナデ
417	A 2	SK589	回土師	杯	底) 6.6	(2.7)	底) 1/2	密	やや軟	明赤褐 5YR5/8	回転ナデ
418	A 2	SK589	回土師	杯	底) 4.6	(3.3)	6/12	粗	軟	橙 5YR7/6	マメツ
419	A 2	SK589	回土師	杯	底) 9.0	(1.8)	1/4	粗	茶褐色	明赤褐 5YR5/8	マメツ
420	A 2	SK589	回土師	杯	底) 6.0	(2.3)	1/4	密	やや軟	明赤褐 5YR5/8	回転ナデ
421	A 2	SP500	回土師	杯	13.4	3.8	2/3	密	やや軟	浅黄橙 7.5YR8/4	回転ナデ
422	A 2	SP502	須恵器	杯	底) 5.4	(1.9)	1/4	良	堅	灰 N4/0	回転ナデ
423	A 2	SP505	回土師	杯	底) 7.3	(2.7)	3/12	ほぼ密	やや軟	橙 7.5YR7/6	回転ナデ
424	A 2	SP505	回土師	杯	13.7	3.9	□) 1/2	やや粗	やや軟	橙 7.5YR7/6	回転ナデ
425	A 2	SK505	白磁	碗	底) 6.1	(2.6)	底) 完存	やや粗	堅緻	釉) 灰白 7.5Y7/2 素地) 7.5Y8/1	施釉・削り出し高台
426	A 2	SP526	回土師	皿	12.4	2.5	底) 1/4	粗	軟	にぶい橙 7.5YR7/4	回転ナデ
427	A 2	SP526	回土師	杯	底) 7.0	(1.9)	3/12	粗	軟	にぶい橙 7.5YR7/4	回転ナデ
428	A 2	SP526	回土師	杯	底) 6.8	(1.6)	3/12	粗	軟	にぶい橙 7.5YR7/4	回転ナデ
429	A 2	SP526	回土師	柱状高台	底) 6.4	(2.4)	底) 完存	粗	軟	橙 7.5YR6/8	マメツ
431	A 2	SP528	回土師	皿	7.8	1.9	5/12	粗	軟	橙 5YR6/8	回転ナデ
432	A 2	SP528	回土師	杯	底) 6.2	(2.5)	3/12	やや粗	良	橙 7.5YR7/6	回転ナデ
433	A 2	SP528	回土師	杯	底) 6.0	2.7	3/12	粗	軟	橙 7.5YR7/6	回転ナデ
434	A 2	SP528	回土師	杯	底) 7.0	(1.4)	1/4	粗	軟	橙 5YR6/6	マメツ
435	A 2	SP528	回土師	皿	7.75	1.8	1/16	やや粗	良	橙 7.5YR7/6	回転ナデ
436	A 2	SP528	土師器	皿	13.0	(2.6)	1/12	粗	軟	にぶい橙 5YR6/4	ヨコナデ
437	A 2	SP538	回土師	皿	7.7	1.8	11/12	やや密	良	橙 7.5YR7/6	回転ナデ
438	A 2	SP538	回土師	皿	7.45	(1.4)	4/5	やや密	良	にぶい橙 7.5YR6/4	回転ナデ
439	A 2	SP534	須恵器	甕	不明	不明	1/12	粗	軟	黒 N2/0	タタキ(綾杉様)
440	A 2	SP540	回土師	皿	9.1	3.6	3/12	やや粗	やや軟	橙 7.5YR7/6	回転ナデ
441	A 2	SP540	回土師	皿	7.7	2.3	1/24	やや密	良	にぶい橙 7.5YR7/4	回転ナデ
442	A 2	SP540	回土師	皿	7.75	1.8	6/12	やや粗	やや軟	橙 7.5YR7/6	回転ナデ
443	A 2	SP540	土師器	皿	8.5	1.6	3/12	やや密	良	浅黄橙 10YR8/4	ヨコナデ
444	A 2	SP540	回土師	皿	11.7	(2.4)	1/4	やや密	良	にぶい黄橙 10YR7/4	回転ナデ
445	A 2	SP588	土師器	鍋	不明	(4.4)	1/12	粗	軟	灰褐 7.5YR4/2	マメツ
446	A 2	SP541	回土師	杯	底) 6.0	(1.5)	底) 完存	やや密	やや軟	橙 7.5YR6/6	回転ナデ
447	A 2	SP543	回土師	杯	底) 6.0	(1.5)	底) 完存	やや密	やや軟	橙 7.5YR7/6	回転ナデ
448	A 2	SP543	瓦器	椀	底) 5.8	(2.9)	底) 1/2	密	良	灰 N4/0	ナデ・貼りつけ高台・ ユビオサエ
450	A 2	SK544	白磁	碗	14	(4.5)	1/12	密	堅緻	灰白 7.5Y7/2	施釉、中国

報告番号	トレンチ	出土地点	器種	器形	口径	器高	残存	胎土	焼成	色調	調整・備考
451	A 2	SP545	回土師	皿	7.0	1.2	5/6	粗	軟	橙 5YR6/6	回転ナデ
452	A 2	SP545	回土師	皿	7.9	1.7	5/6	粗	軟	にぶい橙 5YR7/4	回転ナデか
453	A 2	SP550	土製品	土錘	長 3.0	幅 3.3	1/2	やや粗	良	にぶい橙 7.5YR6/4	
454	A 2	SP563	回土師	柱状高台皿	底) 4.6	4.2	1/3	粗	軟	にぶい橙 7.5YR7/4	マメツ
455	A 2	SP552	回土師	柱状高台皿	底) 6.0	(2.8)	底) 1/4	粗	軟	にぶい橙 7.5YR7/4	回転ナデ
456	A 2	SP578	回土師	皿	8.0	2.4	5/6	粗	軟	橙 7.5YR7/6	
457	A 2	SP552	回土師	杯	底) 6.4	3.5	1/4	粗	軟	にぶい橙 7.5YR7/4	マメツ
458	A 2	SP565	回土師	杯	底) 7.3	(2.6)	底) 約 1/2	やや粗	良	橙 7.5YR7/6	回転ナデ
459	A 2	SP565	回土師	杯	底) 4.4	(0.8)	3/12	やや密	良	橙 7.5YR7/6	回転ナデ
460	A 2	SP571	回土師	杯	15.4	5.0	1/3	密	軟	橙 7.5YR6/6	回転ナデ
461	A 2	SP578	土師器	鍋	24.2	(6.6)	口) 1/6	粗	軟	黒 7.5Y2/1	ヨコハケ・煤付着
462	A 2	SP580	土師器	甕	16.8	(7.5)	口) 5/12	粗	軟	橙 2.5YR6/8	ナデ
463	A 2	SP584	回土師	杯	底) 6.0	(1.9)	底) 1/2	やや密	良	橙 7.5YR7/6	回転ナデ
464	A 2	SP588	瓦器	鍋	24.6	(8.1)	1/12	粗	軟	オリーブ黒 7.5Y3/0	ナデ
465	A 2	SP597	回土師	皿	13.4	2.0	1/6	密	軟	にぶい橙 7.5YR7/4	回転ナデ
466	A 2	SP595	瓦器	皿	9.1	1.6	完存	密	良	灰 N4/0	ヨコナデ・ナデ
467	A 2	SP588	回土師	皿	7.4	2.1	2/3	粗	軟	橙 5YR6/6	回転ナデ
468	A 2	SP588	回土師	皿	11.0	2.9	2/3	粗	軟	橙 5YR7/6	回転ナデ
469	A 2	SP588	回土師	杯	底) 6.0	2.3	底) 1/3	粗	軟	橙 5YR6/6	回転ナデ
470	A 2	SP211	青白磁	杯	12	(2.0)	口) 約 1/4	密	堅緻	灰白 2.5GY8/1	ロクロナデ・輪花
471	A 2	SX597	回土師	杯	底) 5.9	(1.2)	底) 9/10	やや密	良	橙 7.5YR7/6	回転ナデ
472	A 2	SX597	回土師	杯	底) 5.3	(1.8)	底) 1/3	密	良	橙 7.5YR7/6	回転ナデ
473	A 2	SX675	回土師	杯	13.4	(2.9)	口) 1/4	良	軟	浅黄橙 7.5YR8/6	ヨコナデ・不調整
474	A 2	SX675	回土師	杯	底) 8.4	(2.2)	底) 4/12	良	軟	浅黄橙 10YR8/4	ナデ
475	A 2	SX675	回土師	杯	底) 7.4	1.9	1/4	粗	軟	浅黄橙 7.5YR8/6	回転ナデ
476	A 2	SX675	回土師	皿	13.8	2.7	1/4	粗	軟	橙 7.5YR7/6	ヨコナデ・不調整
477	A 2	SX675	土師器	皿	13.8	(3.3)	口) 1/6 全体) 1/12 以下	良	軟	浅黄橙 10YR8/4	ナデ、回転ナデかは不明
478	A 2	SX675	土師器	皿	15.4	(3.1)	1/12 以下	良	軟	浅黄橙 10YR8/4	ナデ
480	A 2	SP626	回土師	杯	底) 5.0	2.3	底) 1/4	粗	軟	にぶい橙 7.5YR7/4	マメツ
481	A 2	SP628	回土師	杯	底) 6.0	(1.5)	底) 完存	粗	軟	にぶい橙 7.5YR7/4	マメツ
482	A 2	SP633	回土師	杯	14.0	4.5	1/4	粗	軟	にぶい橙 7.5YR7/4	回転ナデ
483	A 2	SP633	回土師	杯	底) 7.2	(2.7)	1/4	粗	軟	にぶい橙 7.5YR7/4	回転ナデ
484	A 2	SP641	回土師	杯	15	4.0	1/3	やや粗	良	橙 5YR6/6	回転ナデ
485	A 2	SP641	回土師	杯	14.3	4.4	1/2 強	やや密	やや軟	橙 7.5YR7/6	回転ナデ
486	A 2	SP641	回土師	杯	14.5	4.4	口) 7/12 底) 完存	やや粗	良	橙 5YR6/6	回転ナデ
487	A 2	SP641	回土師	杯	7.8	1.8	口) 1/4 底) 完存	やや粗	良	橙 7.5Y6/6	回転ナデ
488	A 2	SP633	回土師	杯	底) 4.0	1.1	底) 完 存) 1/12	粗	軟	にぶい赤褐 5YR4/4	回転ナデ

報告番号	トレンチ	出土地点	器種	器形	口径	器高	残存	胎土	焼成	色調	調整・備考
489	A 2	SP641	回土師	杯	8.3	1.3	口) 7/12 底) 完存	やや粗	良	橙 7.5YR7/6	回転ナデ
490	A 2	SP646	瓦質	土錘	(2.4)	1.6	約 1/2	やや密	良	黄灰 2.5Y5/1	手づくね
491	A 2	SP645	回土師	杯	13	2.6	口) 1/12	やや粗	良	明黄褐 10YR7/6	回転ナデ
492	A 2	SP647	回土師	杯	底) 6.4	(2.9)	1/3	密	軟	橙 7.5YR6/6	回転ナデ
493	A 2	SP668	回土師	杯	15.7	3.4	1/12	粗	軟	橙 7.5YR6/6	マメツ
494	A 2	SP668	回土師	皿	7.8	2.0	1/4	粗	軟	橙 5YR7/6	回転ナデ
495	A 2	SP668	回土師	皿	8.0	1.7	2/3	粗	軟	にぶい橙 5YR7/4	ヨコナデ・不調整
496	A 2	SP646	回土師	杯	底) 5.8	(2.3)	底) 5/6	粗	軟	橙 5YR6/6	回転ナデ
497	A 2	SP646	回土師	杯	底) 6.4	(2.5)	底) 1/4	粗	軟	明赤褐 5YR5/6	回転ナデ
498	A 2	SP646	回土師	杯	底) 5.4	(1.1)	底) 完存	粗	軟	橙 5YR6/6	回転ナデ
499	A 2	SP648	回土師	杯	底) 5.0	(1.8)	底) 1/3	粗	軟	橙 7.5YR7/6	回転ナデ
500	A 2	SP648	回土師	杯	底) 7.6	(2.6)	1/4	粗	軟	橙 7.5YR7/6	回転ナデ
501	A 2	SP648	須恵器	東播系 鉢	底) 11.0	(4.0)	底) 1/6	粗	やや硬	灰 N6/1	ヨコナデまたは回転ナ デ・不調整
502	A 2	SP23	瓦器	鍋	30.1	(5.9)	口) 1/24	やや密	良	灰 N4/0	回転ナデ・ユビオサエ
503	A 2	SP32	回土師	杯	底) 6.6	(2.2)	底) 9/10	やや粗	良	にぶい黄橙 10YR7/4	回転ナデ
506	A 2	第4ト レン チ	須恵器	甕	27.4	61.9	口) 10/12 強底) 11/12	密	良~や や軟	灰白 N8/0 ~ 7/0	ヨコナデ・タタキ
507	A 3	SK17	回土師	杯	底) 約 4.0	(1.95)	完存	密	軟	にぶい黄橙 10YR7/4 ~ 6/4	回転ナデ
508	A 3	SP3	回土師	皿	7.5	1.4	ほぼ 完存	やや粗	良	橙 7.5YR7/6	回転ナデ
509	A 3	SP3	回土師	杯	13.7	4.2	7/12	やや密	やや軟	にぶい黄橙 10YR7/4	回転ナデ
510	A 3	SP3	回土師	杯	13.1	3.65	8/12	やや粗	良	橙 5YR7/6	回転ナデ
511	A 3	SP9	回土師	杯	14.9	(2.9)	1/4	密	軟	黄橙 7.5YR7/8	回転ナデ
512	A 3	SP14	回土師	皿	8.5	2.3	ほぼ 完存	密	良	にぶい橙 7.5YR7/4, 6/4, 7/6	ヨコナデ
513	A 3	SP14	回土師	皿	7.6	2.1	ほぼ 完存	密	やや軟	橙 5YR7/6	回転ナデ
514	A 3	SP14	回土師	皿	7.8	1.6	11/12	密	やや軟	橙 5YR7/6 ~ 6/6	回転ナデ
515	A 3	SP14	回土師	杯	11.4	4.5	11/12	密	良	褐灰 5YR4/1 ~ 1.7/1	回転ナデ
516	A 3	SP15	回土師	皿	7.9	1.4	1/12	やや粗	軟	橙 7.5YR7/6	回転ナデ
517	A 3	SP15	回土師	皿	7.8	1.7	2/12	やや密	良	にぶい黄橙 10YR7/4	回転ナデ
518	A 3	SP15	回土師	杯	底) 5.9	(2.8)	2/12	やや密	軟	橙 7.5YR7/6	回転ナデ
519	A 3	SP15	回土師	杯	13.6	4.0	2/12	やや密	やや軟	にぶい黄橙 10YR7/4	回転ナデ
520	A 3	SP19	回土師	皿	不明	(0.9)	底) 完存	密	軟	にぶい黄橙 10YR7/4	回転ナデ
521	A 3	SP19	回土師	皿	7.9	1.6	1/4	やや粗	やや軟	橙 7.5YR6/6	回転ナデ
522	A 3	SP19	回土師	皿	8.0	2.0	完存	やや粗	やや軟	橙 7.5YR7/6	回転ナデ
523	A 3	SP19	回土師	皿	7.4	1.35	完存	やや密	良	にぶい橙 7.5YR7/6	回転ナデ
524	A 3	SP19	回土師	皿	7.8	1.55	1/4	やや粗	やや軟	橙 7.5YR6/6	回転ナデ
525	A 3	SP19	回土師	皿	7.9	1.55	完存	やや密	やや軟	橙 7.5YR6/6	回転ナデ
526	A 3	SP19	土師器	皿	7.5	1.55	完存	密	良	橙 5YR7/6	回転ナデ
527	A 3	SP19	土師器	皿	8.1	1.55	5/12	やや密	軟	浅黄橙 10YR8/3	ヨコナデ
528	A 3	SP22	回土師	杯	13.8	(3.5)	1/6	やや密	軟	橙 7.5YR7/6	回転ナデ
529	A 3	SP22	回土師	杯	15.6	3.65	1/6	やや粗	軟	橙 7.5YR7/6	回転ナデ
530	A 3	SP22	瓦器	椀	底) 5.6	(1.7)	底) 1/6	密	軟	灰 N4/0	鋸歯状暗文
531	A 3	SP22	回土師	杯	底) 5.5	(2.9)	2/3	やや粗	軟	にぶい黄橙 10YR7/4	回転ナデ
532	A 3	第2面	土師器	皿	8.1	1.55	口) 1/4	やや密	やや軟	にぶい黄橙 10YR7/4	ヨコナデ
533	A 3	第2面	回土師	皿	7.3	1.7	完存	やや粗	良	にぶい黄橙 10YR6/4	回転ナデ

報告番号	トレンチ	出土地点	器種	器形	口径	器高	残存	胎土	焼成	色調	調整・備考
534	A 3	第2面	回土師	皿	7.8	1.9	1/4	やや密	やや密	10YR7/4	回転ナデ
535	A 3	第2面	土師器	皿	7.5	2.1	口) 1/2	やや密	良	にぶい黄橙 10YR7/4	回転ナデ
536	A 3	第2面	土師器	鍋	23.2	(6.3)	1.5/12	粗	やや軟	灰黄褐 10YR4/2	ユビオサエ
537	A 3	SK125	回土師	皿	7.4	1.95	完存	密	やや軟	にぶい橙 7.5YR7/4 ~ 6/4	回転ナデ
538	A 3	SK125	回土師	皿	7.8	1.75	1/2	やや粗	軟	橙 7.5YR7/6	回転ナデ
539	A 3	SK125	土師器	皿	8.4	1.5	1/6	密	軟	にぶい黄橙 10YR7/4	ヨコナデ
540	A 3	SK125	土師器	皿	7.6	1.6	1/3	密	軟	にぶい橙 7.5YR7/4	ヨコナデ
541	A 3	SK148	土師器	皿	7.8	(1.6)	1/3	粗	軟	橙 7.5YR7/6	ヨコナデ
542	A 3	SK125	土師器	皿	7.8	1.3	完存	密	やや軟	浅黄橙 7.5YR8/4 ~ 橙 7.5YR7/6	ヨコナデ
543	A 3	SK125	回土師	皿	7.4	2.1	完存	密	やや軟	にぶい橙 7.5YR7/4	回転ナデ
544	A 3	SK125	土師器	皿	8.2	1.9	完存	密	軟	浅黄橙 10YR8/3	ヨコナデ
545	A 3	SK125	回土師	皿	8.0	2.3	2/3	やや粗	軟	にぶい橙 7.5YR7/4 ~ 橙 7.5YR7/6	回転ナデ
546	A 3	SK125	回土師	皿	7.6	1.7	5/6	密	やや軟	橙 5YR7/8	回転ナデ
547	A 3	SK125	回土師	皿	7.2 ~ 7.4	1.5	11/12	密	やや軟	橙 5YR7/6 ~ 6/6	回転ナデ
548	A 3	SK125	回土師	皿	7.9	1.8	3/12	粗	軟	にぶい橙 7.5YR6/4	回転ナデ
549	A 3	SK125	回土師	皿	7.6	1.8	1/12	密	やや軟	にぶい橙 7.5YR7/4	回転ナデ
550	A 3	SK125	土師器	皿	8.5	1.55	完存	密	軟	浅黄橙 10YR8/3	ヨコナデ
551	A 3	SK125	回土師	杯	底) 4.8	(1.9)	1/4	密	軟	にぶい黄橙 10YR7/4	回転ナデ
552	A 3	SK125	回土師	杯	底) 5.2	(2.15)	7/12	密	やや軟	橙 7.5YR7/6	回転ナデ
553	A 3	SK125	回土師	杯	底) 6.0	2.3	底) 1/2	密	軟	浅黄橙 10YR8/4	回転ナデ
554	A 3	SK125	回土師	杯	底) 4.2	(1.6)	底) 完存	やや粗	やや軟	にぶい橙 7.5YR6/4	回転ナデ
555	A 3	SK125	回土師	杯	5.7	(2.35)	1/3	粗	軟	にぶい橙 7.5YR6/4	回転ナデ
556	A 3	SK125	回土師	杯	底) 5.9	3.4	底)口) 1/12	密	軟	橙 7.5YR7/6	回転ナデ・柱状高台
557	A 3	SK125	土師器	皿	13.2	(2.5)	1/12 強	密	やや軟	にぶい橙 7.5YR7/4 ~ 橙 7.5YR7/6	ヨコナデ・面取り
558	A 3	SK125	土師器	皿	13.6	3.2	1/6	密	軟	橙 5YR6/6	ヨコナデ
559	A 3	SK125	回土師	杯	14.7	(3.15)	1/12 強	やや密	良	にぶい橙 7.5YR6/4	回転ナデ
560	A 3	SK125	回土師	杯	7.0	(3.65)	口縁 5	密	やや軟	橙 7.5YR7/6 ~ 6/6	回転ナデ
561	A 3	SK125	回土師	椀	14.6	(4.35)	1/3	密	軟	にぶい黄橙 10YR7/4 ~ 6/4	回転ナデ
562	A 3	SK125	瓦器	椀	14.7	5.2	3/12	やや粗	やや軟	灰白 10YR8/2 ~ 灰 N4/0	ミガキ
563	A 3	SK125	回土師	杯	13.8	(3.2)	口) 1/6 弱	やや密	やや軟	にぶい黄橙 10YR7/4	回転ナデ
564	A 3	SK125	回土師	杯	13.9	(2.7)	2.5/12	やや粗	良	にぶい橙 7.5YR6/4	回転ナデ
565	A 3	SK125	回土師	杯	13.8	(3.3)	口) 1.5/12	やや粗	軟	橙 7.5YR7/6	回転ナデ
566	A 3	SK125	回土師	杯	15.0	3.5	口) 1/12	密	軟	橙 7.5YR7/6	回転ナデ
567	A 3	SK125	回土師	杯	13.6	4.3	7/12	密	軟	橙 7.5YR7/6	回転ナデ
568	A 3	SK125	須恵器	鉢	底) 11.2	(2.6)	1/6	密	堅緻	灰 N5/0	東播系
569	A 3	SK125	須恵器	杯	底) 6.0	(2.9)	底) 1/4	やや密	やや軟	橙 5YR6/6	回転ナデ
570	A 3	SK125	回土師	皿	13.0	2.4	底部 完存	密	軟	橙 5YR7/8	回転ナデ・大皿
571	A 3	SK125	回土師	杯	6.0	(2.0)	底) 1/2 強	粗	軟	橙 7.5YR7/6	回転ナデ
572	A 3	SK125	回土師	杯	底) 6.3	(1.9)	底) 1/4	やや粗	軟	にぶい黄橙 10YR6/4	回転ナデ
573	A 3	SK125	回土師	杯	底) 6.4	(2.3)	底) 1/4	やや密	やや軟	橙 7.5YR6/6	回転ナデ
574	A 3	SK125	回土師	杯	底) 6.0	(1.7)	底) 1/4	やや粗	軟	にぶい黄橙 10YR7/4	回転ナデ
575	A 3	SK125	土師器	鍋	-	4.1	1/12 以下	粗	良	にぶい黄橙 10YR5/3	ハケ

報告番号	トレンチ	出土地点	器種	器形	口径	器高	残存	胎土	焼成	色調	調整・備考
576	A 3	SK125	焼土	-	幅 8.7	6.8	厚 4.5	-	-	にぶい黄橙 10YR7/4	-
577	A 3	SK125	焼土	-	長 4.8	幅 4.7	-	-	-	にぶい黄橙 10YR7/4	-
578	A 3	SK125	青磁	皿	底) 3.6	(1.5)	1/2	精良	良	釉調緑灰色明オリブ灰 2.5GY7/1	内面ヘラ描き、中国
579	A 3	SK125	土師器	鍋	-	(7.4)	不明	密	良	にぶい黄橙 10YR6/4	ハケ
580	A 3	SK125	土師器	鍋	-	6.95	口) 6.5	密	良	灰黄褐 10YR4/2 ~ 黒 10YR1.7/1	ヨコナデ
581	A 3	SK125	白磁	椀	16.0	(5.7)	口) 1/12 未満	精良	堅緻	明オリブ灰 2.5GY7/1	中国製V類・櫛描き文
582	A 3	SK125	土師器	鍋	27.0	(8.6)	3.5/12	やや粗	良	褐灰 7.5YR4/1 にぶい黄褐 10YR5/3 黒褐 7.5YR3/1	ヨコナデ
583	A 3	SK125	須恵器	鉢	29.5	(9.0)	1/6 弱	密	堅緻	灰白 N7/0 ~ N6/0	ナデ・東播系
584	A 3	SK125	須恵器	鉢	30.0	(10.8)	1/12	密	堅緻	灰 N6/0 ~ 5/0	ナデ・東播系
585	A 3	SK125	回土師	杯	底) 6.2	(2.3)	底) 完存	やや粗	やや軟	にぶい黄橙 10YR7/4	回転ナデ
586	A 3	SK125	回土師	杯	6.3	4.0	2/3	やや粗	やや軟	浅黄橙 10YR8/4	回転ナデ
587	A 3	SK125	回土師	杯	13.8	4.4	1/3	密	やや軟	橙 5YR6/6	回転ナデ
588	A 3	SK125	回土師	杯	14.6	4.3	1/4	密	軟	にぶい黄橙 10YR7/4 ~ 6/4	回転ナデ
589	A 3	SK125	回土師	杯	13.2	3.95	7/12	密	軟	橙 5YR6/6	回転ナデ
590	A 3	SK127	瓦器	椀	底) 6	(1.2)	底) 1/2	密	やや軟	灰白 N8/0	ナデ
591	A 3	SK127	回土師	杯	14.0	4.1	1/3	密	やや軟	橙 7.5YR7/6 ~ 6/6	回転ナデ
592	A 3	SP148	回土師	皿	7.4	(7.4)	口) 1/6	密	軟	にぶい橙 7.5YR7/4 ~ 橙 7.5YR7/6	回転ナデ
593	A 3	SP148	回土師	皿	7.5	1.5	1/4	密	軟	にぶい橙 7.5YR7/4 ~ 橙 7.5YR7/6	回転ナデ
594	A 3	SP148	瓦器	皿	8.4	1.5	5/12	密	良	灰白 N8/0 灰 N5/0 ~ 4/0	ヨコナデ
595	A 3	SP148	回土師	杯	底) 4.9	(2.2)	底) 1/4	やや粗	やや軟	橙 7.5YR6/6	回転ナデ
596	A 3	SP148	回土師	皿	7.3 ~ 7.6	1.7	ほぼ完存	密	やや軟	橙 5YR7/6	回転ナデ
597	A 3	SP148	土師器	皿	7.4	1.6	完存	密	やや軟	浅黄橙 10YR8/4 ~ 黄橙 10YR8/6	ヨコナデ
598	A 3	SP148	回土師	皿	7.4	1.65	5/12	密	やや軟	にぶい黄橙 10YR7/4	回転ナデ
599	A 3	SP148	回土師	杯	底) 6.0	(3.1)	不明	密	軟	にぶい橙 7.5YR6/4 ~ 橙 7.5YR6/6	回転ナデ
600	A 3	SP148	土師器	皿	14.3	(3.1)	1/6 弱	密	やや軟	浅黄橙 10YR8/3	ヨコナデ
601	A 3	SP148	回土師	杯	15.3	4.0	口) 1.5/12	密	やや軟	橙 7.5YR7/6	回転ナデ
602	A 3	SP148	土師器	杯	15.8	(3.3)	2.5/12	やや密	やや軟	橙 7.5YR6/6	ヨコナデ
603	A 3	SP148	須恵器	鉢	-	(6.0)	底) 3.8	密	堅緻	黄灰 2.5Y5/1 灰 N4/0	ナデ・東播系
604	A 3	SP148	青磁	椀	15.3	6.8	5/12	密	良	灰白 7.5Y8/1 ~ 7/1	中国同安窯・ねこ描き文
605	A 3	SK213	回土師	皿	7.9	1.75	5/6	密	やや軟	橙 7.5YR7/6	回転ナデ
606	A 3	SK213	回土師	皿	7.0	1.8	完存	密	やや軟	にぶい橙 7.5YR	回転ナデ
607	A 3	SK213	回土師	皿	7.3	2.0	11/12	密	やや軟	にぶい橙 5YR7/6 ~ 6/6	回転ナデ
608	A 3	SK213	回土師	皿	7.9	2.0	11/12	密	やや軟	にぶい橙 7.5YR	回転ナデ
609	A 3	SK213	回土師	皿	7.5	1.9	口) 1/2	密	やや軟	橙 7.5YR7/6	回転ナデ
610	A 3	SK213	回土師	皿	7.6	1.85	5/6	密	やや軟	橙 7.5YR	回転ナデ
611	A 3	SK213	回土師	皿	8.0	1.7	5/6	密	やや軟	橙 7.5YR	回転ナデ
612	A 3	SK213	回土師	皿	7.8	1.7	1/4	密	軟	にぶい橙 7.5YR7/4 ~ 橙 7.5YR7/6	回転ナデ
613	A 3	SK213	土師器	皿	8.0	1.6	1/4	密	やや軟	浅黄橙 10YR8/4 ~ にぶい黄橙 10YR7/4	ヨコナデ
614	A 3	SK213	土師器	皿	8.0	1.8	完存	密	やや軟	にぶい橙 7.5YR7/4	ヨコナデ
615	A 3	SK213	回土師	杯	底) 5.7	(2.5)	底) 1/3	密	やや軟	にぶい橙 7.5YR	回転ナデ
616	A 3	SK213	回土師	皿	8.6	1.8	1/6	密	やや軟	にぶい黄橙 10YR7/4	回転ナデ



報告番号	トレンチ	出土地点	器種	器形	口径	器高	残存	胎土	焼成	色調	調整・備考
617	A 3	SK213	回土師	杯	底) 6	(3.1)	底) 5/6	密	やや軟	にぶい橙 5YR7/4 褐灰 5YR5/1	回転ナデ
618	A 3	SK213	回土師	皿	7.0	(1.9)	1/3	密	やや軟	にぶい橙 5YR7/4	回転ナデ
619	A 3	SK123	回土師	皿	7.6	1.5	1/4	密	やや軟	橙 7.5YR7/6 ~ 6/6	回転ナデ
620	A 3	SK232	回土師	皿	7.6	1.95	1/6	密	やや軟	にぶい橙 10YR7/4	回転ナデ
621	A 3	SK232	瓦器	皿	7.9	1.45	11/12	密	良	灰 N4/0 ~ 暗灰 N3/0	ヨコナデ・ユビオサエ
622	A 3	SK232	回土師	皿	7.6	1.85	1/2	密	やや軟	橙 5YR7/8 橙 7.5YR7/6	回転ナデ
623	A 3	SK232	回土師	杯	12.4	(4.25)	1/4	密	軟	橙 7.5YR7/6	回転ナデ
624	A 3	SK232	回土師	皿	7.6	2.0	11/12	密	やや軟	にぶい黄橙 10YR7/4 ~ 明黄褐 10YR7/6	回転ナデ
625	A 3	SK232	回土師	皿	7.3	1.9	3/4	密	軟	にぶい黄橙 10YR7/4 ~ にぶい橙 7.5YR7/4	回転ナデ
626	A 3	SK232	瓦器	椀	14.5	(2.7)	1/6	密	良	暗灰 N3/0 (断面) 灰白 N8/0	ヨコナデ
627	A 3	SK232	土師器	鍋	-	(8.5)	口) 4.5	密	良	にぶい橙 7.5YR6/4 ~ 橙 7.5YR6/6	ハケ
628	A 3	SK232	土師器	鍋	-	(6.95)	不明	密	やや軟	にぶい黄橙 10YR6/4 灰黄褐 10YR5/2	ハケ
629	A 3	SK232	白磁	椀	7.6	7.85	7/12	密	良	浅黄 2.5Y8/3 ~ 2.5Y7/3	中国製V類
630	A 3	SP109	白磁	皿	10.0	2.2	口) 1/12 以下	精良	堅緻	釉調緑がかつた灰色 断面灰白色	中国製
631	A 3	SP111	回土師	皿	7.8	1.8	5/6	密	やや軟	にぶい橙 7.5YR7/4	回転ナデ
632	A 3	SP116	回土師	杯	13.0	3.9	1/2	やや密	良	橙 7.5YR7/4	回転ナデ
633	A 3	SP116	回土師	杯	13.0	4.4	1.5/12	やや粗	軟	にぶい黄橙 10YR7/4	回転ナデ
634	A 3	SP144	回土師	皿	8.1	1.9	1/2	やや粗	良	にぶい橙 7.5YR6/4	回転ナデ
635	A 3	SP144	回土師	皿	7.95	1.6	1/8	やや密	やや軟	にぶい黄橙 10YR7/4	回転ナデ
636	A 3	SP144	回土師	皿	底) 4.9	(0.7)	底) 完存	やや粗	軟	にぶい橙 7.5YR6/6	回転ナデ
637	A 3	SP144	回土師	皿	底) 3.8	(1.2)	底) 完存	やや密	軟	橙 5YR6/6	回転ナデ
638	A 3	SP144	回土師	皿	7.7	1.8	2/3	やや粗	やや軟	明黄褐 10YR7/6	回転ナデ
639	A 3	SP144	回土師	皿	8.1	2.1	完存	やや粗	やや軟	橙 7.5YR7/6	回転ナデ
640	A 3	SP144	回土師	皿	底) 4.8	(1.1)	2/3	密	やや軟	にぶい橙 7.5YR8/4	回転ナデ
641	A 3	SP144	回土師	皿	底) 4.9	(0.9)	底) ほぼ完存	密	やや軟	にぶい褐 7.5YR5/4	回転ナデ
642	A 3	SP144	回土師	杯	12.9	4.2	ほぼ完存	やや粗	軟	橙 7.5YR6/6	回転ナデ
643	A 3	SP144	回土師	杯	14.0	4.9	ほぼ完存	やや粗	軟	橙 7.5YR7/6	回転ナデ
644	A 3	SK125	須恵器	鉢	-	(3.5)	口) 3.5	密	堅緻	灰 N6/0	ナデ・東播系
645	A 3	SK125	土師器	鍋	-	(5.2)	口) 2.5	密	良	黒 10YR1.7/1	ハケ
646	A 3	SP120	黒色土器	椀	16.0	3.0	1/12	密	良	灰黄褐 10YR5/2	丹後型・内黒
647	A 3	SK125	白磁	椀	-	(約 6.0)	1/12 以下	精良	良	灰白 7.5Y7/1	中国製V類・内面ヘラ 描き文
648	A 3	SP148	回土師	皿	7.4	1.7	ほぼ完存	密	やや軟	にぶい橙 7.5YR7/4	回転ナデ
649	A 3	SP148	土師器	皿	6.0	1.2	1/3	密	軟	橙 5YR7/6	ヨコナデ
650	A 3	SP148	回土師	皿	7.8	2.5	ほぼ完存	やや密	やや軟	橙 5YR7/6	回転ナデ
651	A 3	SP148	回土師	皿	7.6	1.95	3/4	密	やや軟	橙 7.5YR	回転ナデ
652	A 3	SP148	回土師	皿	7.1	1.75	5/12	やや粗	やや軟	にぶい黄橙 10YR7/4	回転ナデ
653	A 3	SP148	回土師	皿	7.3	1.95	3/4	密	やや軟	橙 7.5YR7/6	回転ナデ
654	A 3	SP148	回土師	杯	14.1	4.2	1/12	やや密	軟	橙 7.5YR7/6	回転ナデ
655	A 3	SP148	回土師	杯	底) 5.6	(2.3)	ほぼ完存	やや密	軟	にぶい黄橙 10YR7/4	回転ナデ
656	A 3	SP148	白磁	椀	16.0	4.5	口) 1/6	精良	堅緻	釉調緑がかつた灰色 断面灰白色	中国製・内面に沈線
657	A 3	SP149	土師器	皿	8.0	1.5	1/2	密	良	10YR 明黄褐 7/6	回転ナデ

報告番号	トレンチ	出土地点	器種	器形	口径	器高	残存	胎土	焼成	色調	調整・備考
658	A 3	SP105	須恵器	壺	底) 10.4	(8.0)	口縁部のみ欠損	良	堅緻	灰 N4/	回転ナデ
659	A 3	SP148	土師器	皿	15.6	(3.1)	口) 1/4	やや粗	良	橙 5YR6/6	ヨコナデ
660	A 3	SP149	土師器	皿	11.8	1.5	1/6	粗	軟	浅黄橙 10YR8/3	ヨコナデ
661	A 3	SP149	土師器	皿	14.0	(2.0)	1/12	密	良	にぶい橙 7.5YR7/4	ヨコナデ
662	A 3	SP171	回土師	杯	底) 6	(1.8)	底) 1/2	密	軟	にぶい黄橙 10YR7/3	回転ナデ
663	A 3	SP148	土師器	鍋	-	4.5	1/12以下	粗	良	にぶい黄橙 10YR6/3	ハケ
664	A 3	SP191	回土師	皿	7.8	1.6	1/6	密	やや軟	橙 7.5YR6/6	回転ナデ
665	A 3	SP191	回土師	杯	10.0	(1.9)	口) 1/4	やや密	やや軟	にぶい橙 7.5YR7/4	回転ナデ
666	A 3	SP191	瓦器	椀	15.7	2.1	1/6弱	密	軟	灰 N4/0	マメツ
667	A 3	SP191	土師器	皿	13.5	2.7	1/12	密	軟	にぶい黄橙 10YR7/3	一段ナデ
668	A 3	SP191	回土師	杯	13.9	(2.5)	1/4	やや粗	やや軟	橙 7.5YR6/6	回転ナデ
669	A 3	SP191	回土師	杯	13.7	4.2	口) 1/12	やや密	やや軟	黄橙 7.5YR6/8	回転ナデ
670	A 3	SP191	青磁	椀	-	-	1/12	精良	堅緻	釉調鉛色断面灰色	同安窯
671	A 3	SP220	回土師	杯	底) 7.0	2.0	1/4	密	軟	橙 7.5YR7/6	回転ナデ
672	A 3	SP201	土師器	皿	8.9	1.55	1/4	やや密	やや軟	橙 7.5YR7/6	回転ナデ
673	A 3	SP203	回土師	皿	7.1	1.3~1.6	1/2	密	良	橙 7.5YR7/4	回転ナデ
674	A 3	SP220	回土師	皿	15.0	(2.8)	1/12	やや粗	軟	橙 7.5YR7/6	回転ナデか
675	A 3	SP220	回土師	皿	15.0	(2.4)	1/6	密	軟	にぶい黄橙 10YR7/4	回転ナデか
676	A 3	SP220	回土師	皿	15.0	2.3	1/4	密	軟	浅黄橙 10YR8/3	回転ナデ
677	A 3	SP220	回土師	杯	底) 6.9	2.8	完存	密	やや軟	にぶい橙 7.5YR7/4	回転ナデ
678	A 3	SP220	回土師	杯	底) 6.4	2.2	1/4	密	軟	橙 7.5YR6/6	回転ナデ
679	A 3	SP220	瓦器	椀	底) 6.3	1.2	1/2	密	軟	暗灰 N3/0	ナデ
680	A 3	SP220	回土師	皿	7.9~8.2	1.85	ほぼ完存	密	やや軟	橙 5YR7/6	回転ナデ
681	A 3	SP220	回土師	皿	7.2	2.0	7/12	密	やや軟	浅黄橙 10YR8/4	回転ナデ
682	A 3	SP220	回土師	皿	7.2	1.95	2/3	密	良	橙 5YR7/6	回転ナデ
683	A 3	SP220	回土師	杯	9.0	1.5	1/6	密	軟	橙 5YR6/8	回転ナデ
684	A 3	SP220	回土師	皿	7.0	1.9	11/12	密	やや軟	黄橙 7.5YR	回転ナデ
685	A 3	SP220	回土師	皿	7.5	1.65	5/6	密	軟	橙 7.5YR7/6	回転ナデ
686	A 3	SP220	回土師	皿	9.2	1.6	1/4	密	軟	橙 5YR6/8	回転ナデ
687	A 3	SP232	土師器	皿	8.6	1.25	7/12	密	良	にぶい橙 7.5YR7/4	ヨコナデ
688	A 3	SP232	回土師	皿	7.2	(1.2)	6/12	密	良	にぶい橙 7.5YR7/4	回転ナデ
689	A 3	SP232	回土師	皿	底) 5.7	(1.7)	底) 5/12	やや粗	軟	橙 7.5YR6/6	回転ナデ
690	A 3	SP232	回土師	皿	底) 5.5	(3.0)	底) 1/4	やや粗	やや軟	橙 7.5YR6/6	回転ナデ
691	A 3	SP232	回土師	杯	底) 6.1	(4.0)	7/12	密	やや軟	橙 7.5YR7/6	回転ナデ
692	A 3	SP235	回土師	皿	9.0	1.65	1/12	密	軟	橙 7.5YR7/6	回転ナデ
693	A 3	SP235	回土師	杯	底) 6.4	1.9	7/12	密	軟	橙 7.5YR6/6	回転ナデ
694	A 3	SP235	須恵器	鉢	底) 12.0	4.0	1/12	粗	良	灰 5Y6/1	ナデ・東播系
695	A 3	SP238	土師器	皿	8.3	1.85	完存	やや粗	良	橙 7.5YR7/6	ヨコナデ
696	A 3	SP238	土師器	皿	8.1	1.6	完存	やや粗	やや軟	にぶい黄橙 10YR7/4	ヨコナデ
697	A 3	SP238	土師器	皿	8.4	1.3	1/6	密	軟	橙 7.5YR7/6	ヨコナデ
698	A 3	SP238	回土師	皿	7.2	1.05	底) 完存	密	良	にぶい橙 7.5YR7/4	回転ナデ
699	A 3	SP238	回土師	皿	13.8	3.35	ほぼ完存	やや粗	やや軟	浅黄橙 10YR8/4	回転ナデ
700	A 3	SP238	回土師	皿	7.6	1.45	1/6	やや密	軟	にぶい黄橙 10YR7/4	回転ナデ
701	A 3	SP238	回土師	皿	7.8	1.6	11/12	やや密	良	にぶい橙 7.5YR7/4	回転ナデ
702	A 3	SP238	回土師	皿	8.2	1.4~1.5	底) ほぼ完存	密	良	にぶい橙 7.5YR7/4	回転ナデ
703	A 3	SP238	土師器	皿	8.5	1.6	完存	やや密	軟	橙 7.5YR7/6	回転ナデ
704	A 3	SP238	土師器	皿	8.2	1.45	ほぼ完存	やや密	やや軟	にぶい黄橙 10YR7/4	ヨコナデ

報告番号	トレンチ	出土地点	器種	器形	口径	器高	残存	胎土	焼成	色調	調整・備考
705	A 3	SP238	回土師	皿	7.8	1.65	7/12	やや粗	やや軟	橙 7.5YR6/6	回転ナデ
706	A 3	SP239	回土師	皿	7.1	1.3	6/12	やや密	やや軟	橙 7.5YR6/6	回転ナデ
707	A 3	SP239	回土師	皿	8.0	1.2	1/2	密	軟	橙 7.5YR7/6	回転ナデ
708	A 3	SP239	回土師	皿	7.8	2.1	3/12	やや粗	両	にぶい褐 7.5YR6/3	回転ナデ
709	A 3	SP239	回土師	杯	13.0	(4.0)	11/12	密	やや軟	橙 7.5YR7/6	回転ナデ
710	A 3	SP239	回土師	杯	底) 6	(2.6)	1/4	密	軟	橙 7.5YR7/6	回転ナデ
711	A 3	SP239	回土師	杯	15.4	2.8	1/4	密	軟	橙 7.5YR7/6	回転ナデ
712	A 3	SP239	回土師	杯	13.2	4.2	1/4	やや粗	やや軟	橙 7.5YR6/6	回転ナデ
713	A 3	SD225	回土師	杯	底) 6.0	(2.1)	不明	密	やや軟	橙 7.5YR7/6	回転ナデ
714	A 3	SX125	土師器	皿	7.6	1.8	11/12	密	やや軟	橙 5YR7/6	ヨコナデ
715	A 3	SX125	土師器	皿	7.8	1.4	1/4	密	やや軟	にぶい橙 7.5YR7/4	ヨコナデ
716	A 3	SX125	土師器	皿	7.6	(1.3)	5/12	密	良	浅黄橙 10YR8/4	ヨコナデ
717	A 3	SX125	瓦器	椀	16.0	(3.5)	1/12	密	良	灰 N4/0	ナデ
718	A 3	SX125	回土師	杯	底) 6.6	(2.0)	5/12	密	やや軟	にぶい橙 7.5YR7/4	回転ナデ
719	A 3	SX125	回土師	杯	底) 5.6	(2.4)	5/12	やや粗	良	橙 7.5YR7/6	回転ナデ
720	A 3	SX125	回土師	杯	13.9	4.4	11/12	密	やや軟	橙 5YR7/6 ~ 浅黄橙 10YR8/4	回転ナデ
721	A 3	SP232	回土師	杯	底) 6.0	(2.2)	底) 3/4	密	やや軟	にぶい褐 7.5YR7/4	回転ナデ
722	A 3	SP232	回土師	杯	12.0	(4.1)	口) 1/6	やや粗	やや軟	橙 7.5YR7/6	回転ナデ
723	A 3	SP232	回土師	杯	底) 6.0	(3.0)	底) 1/4	密	やや軟	橙 5YR7/6	回転ナデ
724	A 3	SP232	回土師	杯	底) 5.6	(2.1)	底部完存	密	良	にぶい褐 7.5YR5/4	回転ナデ
725	A 3	SP232	回土師	皿	9.2	1.6	1/6	密	やや軟	橙 5YR7/6	回転ナデ
726	A 3	SP232	回土師	皿	7.5	1.9	7/12	密	やや軟	にぶい橙 7.5YR7/4	回転ナデ
727	A 3	SP232	土師器	鍋	33.0	(4.5)	不明	やや粗	良	にぶい褐 7.5YR5/4	ナデ・ケズリ
730	A 3	SX677	土師器	甕	17.55	27.2	口) 1/4 弱	密	良	にぶい黄褐 10YR6/4 ~ 明黄褐 10YR6/6	ハケ・ケズリ
731	A 3	SX677	土師器	甕	20.7	(30.1)	口) 5/12	密	良	橙 7.5YR7/6 ~ 6/6	ハケ・ケズリ
732	A 3	SX677	土師器	甕	19.4	(27.8)	1/4	やや粗	良	にぶい黄橙 10YR7/4 ~ 6/4	ハケ・ケズリ
733	A 3	SX677	土師器	甕	20.6 ~ 21.6	(12.5)	口) 1/2	密	良	橙 7.5YR7/6 ~ 明黄褐 10YR7/6	ハケ・ケズリ
734	A 3	SX677	土師器	甕	21.8	(29.6)	口) 1/4 強 (全) 5/12 程度	密	良	橙 5YR7/6 ~ 明赤褐 5YR5/6	ハケ・ケズリ
735	A 3	SX677	土師器	甕	13.8	(32.8)	口) 7/12 全) 1/2	密	良	明黄褐 10YR7/6	ハケ・ケズリ
736	A 3	SX677	土師器	甕	16.1	(8.0)	口) 7/12	やや粗	やや軟	橙 7.5YR6/6	ハケ・ケズリ
737	A 3	SX677	土師器	甕	17.6	(19.4)	口) 11/12	密	良	橙 7.5YR7/6	ハケ・ケズリ
738	A 3	SX677	土師器	甕	18.8	28.1	5/6	密	良	橙 7.5YR6/6	ハケ・ケズリ
739	A 3	SX677	土師器	壺	18.2	(18.3)	口) 3.5/12	密	良	にぶい赤褐 5YR5/4 ~ 明赤褐 5YR5/6	ハケ・ケズリ
740	A 3	SX677	土師器	甕	26.0	(11.55)	1/12 以下	やや粗	やや軟	橙 7.5YR6/6	ハケ
741	A 3	SX677	土師器	壺	17.2	(12.9)	口) 12/12	密	良	明赤褐 5YR5/6	ハケ
742	A 3	SX677	土師器	甕	17.9	(12.3)	口) 12/12	密	用	橙 7.5YR7/6	強いヨコナデのため凹凸あり
743	A 3	SX677	土師器	甕	15.0	(14.4)	口) 1/3	密	良	にぶい黄橙 10YR6/3 ~ 灰黄褐 10YR6/2	ハケ・ケズリ
744	A 3	SX677	土師器	甕	17.6	(25.8)	口) 11/12	密	良	橙 5YR6/6	ハケ・ケズリ
745	A 3	SX677	土師器	甕	11.8	(15.1)	口) 1/4	やや粗	良	橙 7.5YR6/6	ハケ・ケズリ

報告番号	トレンチ	出土地点	器種	器形	口径	器高	残存	胎土	焼成	色調	調整・備考
746	A 3	SX677	土師器	甕	13.3	11.5	口) 全体) 1/2	やや粗	良	にぶい褐 7.5YR5/4	ナデ
747	A 3	SX677	土師器	甕	17.6	(14.4)	口縁 完存	やや粗	良	にぶい褐 7.5YR5/4	ハケ・ケズリ
748	A 3	SX677	土師器	甕	(20.6)	(19.2)	口) 4.5/12	密	良	にぶい黄橙 10YR6/3	ハケ・ケズリ
749	A 3	SX677	土師器	甕	19.0	(31.0)	口) 11/12	密	やや軟	明黄褐 10YR6/6	ハケ
750	A 3	SX677	土師器	甕	16.2	7.7	口) 11/12	やや粗	やや軟	にぶい褐 7.5YR5/4	ハケ
751	A 3	SX677	土師器	甕	14.8	(20.2)	口) 完 存体) 3/4	やや密	良	にぶい黄橙 10YR7/4	ハケ・ケズリ
752	A 3	SX677	土師器	甕	19.4~ 19.7	(14.4)	口) 完 存	密	良	明赤褐 5YR5/8~橙 5YR6/6	ハケ・ケズリ
753	A 3	SX677	土師器	壺	16.8	(16.8)	口) 5/6	やや粗	軟	橙 7.5YR6/8~6/6	ハケ・ケズリ
754	A 3	SX677	土師器	壺	9.3	15.2	完存	やや粗	良	橙 5YR6/6	ナデ・底部穿孔
755	A 3	SX677	土師器	壺	9.0	15.2	口) 11/12 以下	密	良	明赤褐 5YR5/8~赤 褐 5YR4/8	ハケ
756	A 3	SX677	土師器	甕	25.6	(18.2)	口) 1/3	やや粗	良	明褐 7.5YR5/6	ハケ・ケズリ
757	A 3	SX677	土師器	甕	15.8	(20.0)	口) 3.5/12	やや粗	良	赤褐 5YR4/6	ハケ・ケズリ
758	A 3	SX677	土師器	甕	13.5	19.1	5/6	密	やや軟	にぶい橙 5YR6/4	ハケ・ケズリ
759	A 3	SX677	土師器	甕	14.0	19.45	ほぼ 完存	やや粗	やや軟	明赤褐色 5YR5/6	ハケ
760	A 3	壁面	須恵器	特殊扁 壺	12.6	(7.8)	ほぼ 完存	密	堅緻	自然釉付着等により 褐灰 10YR4/1	沈線・カキ目
761	A 3	第4層	須恵器	提瓶	5.1	15.6	完存	密	堅緻	暗灰 N3/0	ハケ
762	B 1	東部精査	瓦器	羽釜	21.6	(7.6)	口) 1/6	粗	軟	暗灰 N3/1	内面ハケ、外面ヨコナ デ
763	B 1	SK4	陶器	甕	29.9	(29.0)	口) 約 1/32	やや密	良	釉) 暗褐 10YR3/4	内外面回転ナデ・施釉
764	B 1	SK4	陶器	甕	44.0	(14.3)	口) 約 1/32	やや密	良	釉) 褐 10YR4/6 素地) 灰黄 2.5Y7/2	内外面回転ナデ・施釉
765	B 1	室町面	土師器	皿	7.8	2.0	11/12	粗	軟	橙 5YR6/6	外面ヨコナデ・ナデ
766	B 1	SD54	土師器	皿	11.7	(2.9)	1/2強	やや密	良	灰黄 2.5Y6/2	内外面ヨコナデ・ナデ
767	B 1	SP52	白磁	椀	7.4	(2.1)	1/12	やや密	堅緻	釉) 灰白 7.5Y7/2 素 地) 灰白 7.5Y8/1	内外面施釉、中国
768	B 1	包含層	陶器	播鉢	底) 9.8	(1.5)	底) 完 存	粗	良	橙 2.5YR6/8	越前
769	B 1	SD41	瓦器	鍋	18.8	(3.9)	1/12 弱	やや密	良	灰 N5/0	内外面ヨコナデ・ナデ
770	B 1	SP47	須恵器	鉢	25.9	(3.7)	1/16	やや粗	堅緻	灰 5Y5/1	内外面回転ナデ、東播 系
771	B 1	SP51	瓦器	椀	16.5	(4.2)	1/12 弱	密	良	灰 N5/0	内外面ミガキ、内面沈 線、外面ナデ
772	B 1	P61	青磁	椀	18.0	(4.3)	口) 1/12 以下	精良	堅緻	灰オリーブ 7.5Y5/3	内外面施釉、中国龍泉 窯
773	B 1	P61	土師器	皿	15.4	2.5	2/12	密	良	橙 5YT7/8	内外面ヨコナデ・ナデ、 外面指オサエ
774	B 1	SP63	土師器	皿	8.8	(8.8)	1/6	密	良	橙 7.5YR7/6	内外面ヨコナデ・ナデ
775	B 1	SD88	土師器	皿	12.6	(12.6)	1/6弱	密	良	浅黄橙 7.5YR8/4	内外面ナデ・外面ヨコ ナデ
776	B 1	P63	土師器	皿	12.0	(12.0)	1/12	密	良	橙 5YR7/6	内外面ナデ、外面ヨコ ナデ
777	B 1	SK65	瓦器	椀	15.0	(4.2)	1/12 以下	密	良	灰 N5/0	内外面ナデ・ミガキ、 内面ハケ、外面ヘラミ ガキ
778	B 1	SP66	須恵器	鉢	24.4	(7.7)	1/12 強	密	堅緻	灰白 2.5Y7/1	内外面回転ナデ、内面 ナデ、東播系
779	B 1	SX82	回土師	杯	底) 8.0 ~8.5	4.4	底) 3/4	密	良	橙 7.5YR6/6	内外面回転ナデ

報告番号	トレンチ	出土地点	器種	器形	口径	器高	残存	胎土	焼成	色調	調整・備考
780	B 1	SD89	黒色土器	椀	15.7	4.9	1/6	密	良	浅黄橙～にぶい黄橙 10YR8/3～7/3	内外面ロクロナデ・ミ ガキ、内面ナデ
781	B 1	SD89	黒色土器	椀	底) 7.2	(3.0)	底) 1/2弱	やや粗	良	にぶい橙 7.5YR7/4	内外面ヘラミガキ、内 面ナデ
782	B 1	SD88	須恵器	杯	底) 8	底) (8.0)	1/6強	密	堅緻	灰 N4/0	外面回転ナデ
783	B 1	AD90	黒色土器	皿	9.3	9.3	1/2	密	良	暗灰 N3/0	内外面ナデ、外面ハケ、 内面ハケ
784	B 1	SP94	白磁	皿	底) 3.85	(8.5)	底) 1/6	精良	堅緻	灰白 10Y7/1	内外面施釉、外面ヘラ ケズリ、中国
785	B 1	SD100	土製品	土錘	直径 3.0	2.6	完存	密	良	にぶい黄橙 10YR7/4	手づくね
786	B 1	AP122	土師器	皿	7.0	(1.6)	1/4	密	良	橙 5YR7/6	内外面ナデ、外面ヨコ ナデ・指オサエ
787	B 1	SK82	回土師	杯	16.0	(4.2)	1/4	密	良	橙 5YR6/6	内面回転ナデ
788	B 1	SP83	土師器	皿	14.0	(2.9)	1/12	密	良	にぶい黄橙 10YR7/4	内面ナデ、外面ヨコナ デ・オサエ
789	B 1	SP95	瓦器	椀	13.0	(2.9)	1/12 以下	密	良	灰 N4/0	内外面ミガキ、内面沈 線、外面ナデ
790	B 1	SD90	回土師	杯	14.6	4.4	1/2弱	やや粗	やや軟	橙 5YR7/6	マメツ
791	B 1	SD92	回土師	杯	底) 7.2	(3.2)	底) 11/12	密	良	浅黄橙 10YR8/4	内外面回転ナデ
792	B 1	SP105	瓦器	椀	底) 7.8	(1.8)	底) 3/4	密	良	灰 N5/0	内面暗文、外面回転ナ デ
793	B 1	P106	土師器	皿	13.4	3.0	1/6	密	良	浅黄橙 10YR8/3	内外面ヨコナデ、外面 ナデ
794	B 1	SP134	黒色土器	椀	15.5	(4.0)	1/6	やや密	良	灰黄褐色 (10YR5/2)	内外面回転ナデ、内面 ミガキ
795	B 1	P134	黒色土器	椀	15.9	(4.9)	1.5/12	密	良	にぶい黄橙 10YR6/3	内外面回転ナデ、外面 ミガキ
796	B 1	SP121	黒色土器	椀	14.8	(3.0)	1/12 弱	密	良	淡黄灰 2.5Y8/3	内面ヘラミガキ、外面 ミガキ
797	B 1	SP121	黒色土器	椀	15.6	(2.8)	1.5/12	密	良	灰白 5Y7/2	内面ヘラミガキ・ナデ
798	B 1	SP132	土師器	杯	15.0	(15.0)	1/6	密	良	橙 5YR6/6	内外面ヨコナデ・ナデ
799	B 1	P128	白磁	椀	15.0	(3.4)	1/12	精良	堅緻	灰白 5Y8/1	内外面施釉、中国
800	B 1	P141	回土師	皿	9.0	1.9	7/12	密	良	橙 7.5YR7/6	内外面回転ナデ
801	B 1	P141	須恵器	蓋	12.4	(1.4)	1/12	粗	良	灰 N6/1	内外面ロクロナデ
802	B 1	P141	土師器	鍋	32.0	(3.0)	不明	密	良	にぶい黄橙 10YR6/3	内外面ナデ・ハケ、外 面ヨコナデ
803	B 1	P141	黒色土器	椀	16.8	4.3	1/12	密	良	灰黄 2.5Y7/2～浅黄 2.5Y4/4	内外面ミガキ、内面暗 文
804	B 1	SP143	白磁	皿	12.0	(2.5)	1/12	精良	堅緻	灰白 5Y7/2	中国
805	B 1	SP157	土師器	台付き 皿	基部) 6.7	(1.7)	7/12	密	良	浅黄橙 10YR8/4	内面ヨコナデ・ナデ、 外面ヘラミガキ
806	B 1	P144	黒色土器	椀	16.3	(3.9)	1/4	密	良	にぶい黄褐 10YR5/3	内外面回転ナデ、内面 ミガキ、外面ナデ
807	B 1	P150	黒色土器	椀	14.0	(4.6)	1/12	密	良	にぶい黄橙 10YR7/2	内面ヘラミガキ、外面 ミガキ
808	B 1	SK169	黒色土器	椀	15.0	(4.6)	1/12	密	良	にぶい黄橙 10YR6/4	内外面回転ナデ、内面 ヘラミガキ
809	B 1	SK169	回土師	皿	7.8	1.5	1/4	密	良	橙 7.5YR7/6	内外面ヨコナデ・内面 ナデ
810	B 1	SK169	須恵器	鉢	30.0	(4.7)	1/6弱	密	堅緻	灰 N5/0	内外面回転ナデ、東播 系
811	B 1	SP170	黒色土器	椀	16.0	(4.8)	3/12	密	良	にぶい黄橙 10YR7/2	内面ヘラミガキ、外面 ミガキ
812	B 1	SP170	土師器	鍋	33.4	(33.4)	1/12	やや粗	良	灰黄褐 10YR5/2	ナデ・指オサエヨコナ デ・ハケ・ヘラナデヘ ラケズリ
813	B 1	P173	回土師	杯	13.0	(3.4)	1/12	密	良	にぶい橙 7.5YR7/3	内外面回転ナデ
814	B 1	P173	須恵器	皿	9.0	9.0	1/2強	密	堅緻	灰 N5/0	内外面回転ナデ
815	B 1	SP176	土師器	皿	8.6	8.6	1/2弱	密	良	浅黄橙 10YR8/4	内外面」ヨコナデ・指 オサエ、内面ナデ
816	B 1	P181	白磁	椀	15.7	(1.6)	1/12	精良	堅緻	灰白 5Y7/2	内外面施釉、外面貫入、 中国
817	B 1	P210	白磁	皿	10.6	(1.0)	1/12	精良	堅緻	灰白 7.5Y7/1	内外面施釉、中国

報告番号	トレンチ	出土地点	器種	器形	口径	器高	残存	胎土	焼成	色調	調整・備考
818	B 1	P188	白磁	椀・高台	高台) 6.1	(1.8)	高台) 4.5/12	精良	堅緻	釉) 灰黄 2.5Y7/2 素地) 灰白 5Y8/1	内面施釉、外面素地・ロクロナデ、中国
819	B 1	P224	青磁	皿	10.8	(1.7)	口) 1/12	精良	堅緻	オリーブ灰 10YR6/2	内外面施釉、中国
820	B 1	P190	白磁	椀	15.4	(1.7)	口) 1/12 以下	精良	堅緻	灰白 5Y5/2	内外面施釉、中国
821	B 1	SP192	回土師	皿	9.2	9.2	5/12	密	良	橙 2.5YR6/8	内外面ヨコナデ、内面ナデ・指オサエ
822	B 1	P215	瓦質	鍋	33.6	(8.0)	1/12 弱	密	良	褐灰 10YR5/1	内外面回転ナデ、内面ハケ、外面ナデ・指オサエ
823	B 1	P219	白磁	皿	底) 4.0	(1.2)	底) 1/6	精良	堅緻	灰白 5Y7/2	内外面施釉、外面素地・ヘラケズリ、中国
824	B 1	南排水溝	白磁	碗	14.6	(5.0)	口) 1/6	密	堅緻	灰黄 2.5Y7/2	内外面施釉、中国
825	B 1	P216	回土師	杯	16.0	(3.6)	1/12 以下	密	良	灰白 10YR8/2	内面ナデ、外面ヨコナデ
826	B 1	P216	黒色土器	椀	140.0	(2.9)	1.5/12	密	良	にぶい橙 7.5YR7/4	内外面ヘラミガキ・ヨコナデ
827	B 1	SP225	黒色土器	椀	15.8	(3.3)	1.5/12	密	良	にぶい黄 2.5Y6/3	内外面回転ナデ・ミガキ
828	B 1	P225	黒色土器	椀	底) 6.4	(2.4)	1/2 強	密	良	灰黄 2.5YR7/2	内黒
829	B 1	SP225	回土師	杯	16.0	(16.0)	1.5/12	密	良	橙 7.5YR7/6	内外面回転ナデ
830	B 1	P225	白磁	碗	底) 6.4	(3.4)	底) 完存	精良	堅緻	釉) 灰黄 2.5Y7/2 素地) 灰白 N8/0	内外面施釉、外面ロクロケズリ、中国
831	B 2	SP751	白磁	椀	底) 6.0	2.5	2/3	堅緻	良	灰白 7.5Y8/1	内外面施釉、外面回転ケズリ、中国
832	B 1	SP229	土師器	甕	22.4	(3.6)	1/12 以下	密	良	橙 5YR7/6	内外面ヨコナデ・ハケ、内面ナデ・工具痕
833	B 1	SP227	土師器	鍋	31.4	(3.1)	1/12 以下	密	良	にぶい黄橙 10YR7/2	内面ナデ・ハケ
834	B 1	P199	回土師	杯	底) 7.3	(2.4)	底) 完存	密	良	橙 7.5YR6/6	内外面回転ナデ
836	B 1	SH300	土師器	壺	18.8	(3.0)	1/12 以下	やや粗	良	浅黄橙 10YR8/4	マメツ
837	B 1	SH300	土師器	杯	12.8	(4.3)	1/2 弱	密	良	橙 5YR6/6	内外面ナデ、外面ヨコナデ
838	B 1	SD301	弥生土器	甕	25.6	(2.2)	1/12 以下	やや粗	良	灰白 10YR8/28/2	外面擬凹線
839	B 1	SH301 南西区	土師器	甕	20.5	(3.0)	1/12 以下	やや粗	良	にぶい橙 7.5YR7/4	内外面ナデ、外面ハケ
840	B 1	SH301	須恵器	杯身	13.4	5.0	5/12	やや粗	良	灰 N4/0	内外面回転ナデ、内面ナデ、外面回転ケズリ
841	B 1	SH301 南西区中央 炉外	弥生土器	甕	16.9	(2.7)	口) 1/12 以下	粗	良	浅黄橙 7.5YR8/4	内面ヨコナデ・ケズリ
842	B 1	SH303 南部アゼ除去中	弥生土器	壺	12.4	(2.0)	1.5/12	やや粗	良	橙 2.5YR6/8	内外面ヨコナデ・ナデ
843	B 1	SH303	弥生土器	甕	12.8	(4.3)	口) 1/12	やや粗	良	赤褐 5YR4/6	内外面ミガキ、内面ケズリ、外面ハケ・擬凹線
844	B 1	SD304 + 305	土師器	甕	12.2	(4.0)	1/6 強	やや粗	良	にぶい橙 5YR7/4	内面ヨコナデ
845	B 1	SD304	弥生土器	甕	22.4	(3.4)	1/12 以下	やや粗	良	橙 7.5YR7/6	内外面ヨコナデ
846	B 1	SD304 南端	弥生土器	水差し	8.4	19.2	11/12	やや粗	良	明褐 7.5YR5/8 ~ 橙 7.5YR6/8	内面ヨコナデ・ナデ、外面ミガキ・ヘラナデ・沈線
847	B 1	SD304 + 305	須恵器	杯	11.2	(3.2)	1/12	密	堅緻	灰 N5/0	内外面回転ナデ
848	B 1	SD304 + 305	須恵器	甕	-	(6.9)	体) 完存	密	堅緻	灰 N4/0	外面回転ナデ・回転ケズリ・沈線・列点文
849	B 1	SD304	土師器	甕	29.4	(6.2)	口) 1/20	やや粗	良	にぶい黄橙 10YR7/4	内外面ロクロ回転ナデ、内面ケズリ
850	B 1	SD304	土師器	甕	22.7	(9.0)	1/2 弱	やや粗	良	にぶい黄橙 10YR7/4	内外面ハケ・ナデ、内面指圧痕

報告番号	トレンチ	出土地点	器種	器形	口径	器高	残存	胎土	焼成	色調	調整・備考
851	B 1	SD304	土師器	甕	24.2	(13.4)	1/12	粗	良	にぶい橙 7.5YR7/4	内外面ヨコナデ、内面ナデ・指オサエ・ヘラケズリ
852	B 1	SD305	須恵器	杯	12.0	3.4	1/4	堅緻	良	灰 N5/0	内外面回転ナデ、内面ナデ、外面回転ケズリ
853	B 1	SD306	土師器	甕	16.1	(3.4)	1/12強	やや粗	良	褐 7.5YR4/3	内外面ヨコナデ、内面ハケ・ケズリ、外面指頭圧痕
854	B 1	SP335	土師器	羽釜	-	(4.6)	不明	やや粗	良	明褐 7.5YR5/8	内外面ナデ、内面指オサエ
855	B 1	SP335	須恵器	杯蓋	14.5	1.8	1/4	やや軟	良	灰白 5Y7/1	内外面回転ナデ、内面ナデ、外面回転ケズリ
856	B 1	SP338	弥生土器	高杯器台	16.0	(4.0)	1/12以下	やや粗	良	橙 5YR6/6	内外面ナデ、内面ヨコナデ、外面擬凹線
857	B 1	SP342	ミニチュア土器	小壺	2.3	(2.3)	完存	やや粗	良	にぶい黄橙 10YR6/4	内外面ナデ、外面指オサエ
858	B 1	SD304	土師器	甕	39.8	(7.7)	不明	やや粗	良	にぶい橙 7.5YR6/4	内面ケズリ・指オサエ、外面ハケ・マメツ
859	B 1	SX348	須恵器	蓋	14.7	4.2	1/2	やや粗	良	黄灰 2.5Y5/1	内外面回転ナデ、内面ナデ、外面回転ケズリ
860	B 1	SP356	須恵器	杯	17.1	2.8	□ 1/12	やや粗	堅緻	灰白 N7/0	内外面回転ナデ
861	B 1	SH439	弥生土器	壺?	13.6	(2.1)	1/8	やや粗	良	橙 7.5YR7/6	内外面ヨコナデ
862	B 1	SP369	土師器	甕	15.8	(5.1)	1/6	やや粗	良	にぶい褐 7.5YR5/4	内外面ヨコナデ・ハケ・指オサエ・ナデ
863	B 1	SP429	土師器	椀	13.6	(3.65)	1/12強	やや粗	良	橙 5YR6/8	内外面ヨコナデ、内面ハケ、外面ヘラケズリ
864	B 1	SH419	弥生土器	甕	19.8	(3.8)	□ 1/6弱	やや粗	良	橙 5YR7/6	内外面ヨコナデ、内面ハケ、外面ナデ・ミガキ・擬凹線
865	B 1	SP427	弥生土器	短頸壺	10.6	(5.3)	1/12弱	やや粗	良	橙 5YR6/6	内外面ハケ、内面ヘラミガキ・ヘラケズリ、外面ヨコナデ
866	B 1	SP427	弥生土器	甕	底) 4.0	(5.5)	1/4弱	やや粗	良	橙 7.5YR6/6	外面タタキ・ハケ
867	B 1	SP405	土師器	甕	31.4	(2.1)	□ 1/12以下	やや粗	良	にぶい橙 5YR6/4	内外面ヨコナデ
868	B 1	SP405	土師器	甕	17.2	(5.1)	□ 1/6弱	やや粗	良	にぶい赤褐 5YR5/4	内外面ハケ、内面ナデ・ケズリ、外面ヨコナデ
869	B 1	SH439	土師器	甕	19.4	(18.8)	□ 1/3	密	良	橙 7.5YR6/4	内外面ヨコナデ・ナデ、内面ヘラケズリ・指オサエ、外面ハケ
870	B 1	包含層	須恵器	杯	18.7	3.7	□ 1/3	やや粗	堅緻	灰 5Y6/1	内外面回転ナデ、内面指オサエ、外面回転ケズリ
871	B 1	包含層	土師器	高杯	15.5	13.0	底) 3/4弱	やや粗	良	橙 5YR6/6	内外面ハケ、外面ヨコナデ・ナデ・指オサエ・
872	B 1	3面	須恵器	高杯	底) 12.4	(9.3)	脚部) 2/3	密	堅緻	灰 N4/0 ~ 6/0	内外面回転ナデ
873	B 2	SK2	土師質	土錘	幅 3.2	長さ 5.0	完存	やや粗	良好	橙 7.5YR6/6	外面手づくね・ナデ
874	B 2	SK2	土師質	土錘	幅 1.6	長さ 1.45	11/12	やや粗	良好	浅黄 2.5Y8/3	外面手づくね・ナデ
875	B 2	SK2	土師器	皿	11.8	2.9	完存	粗	軟	灰白 10YR8/2	内外面ヨコナデ、外面板状圧痕
876	B 2	SK22	土師器	皿	11.8	2.9	5/12	粗	軟	にぶい黄橙 10YR7/4	内外面ヨコナデ、外面指オサエ
877	B 2	SP120	回土師	杯	底) 7.0	(2.3)	底) 3.5/12	密	やや軟	にぶい黄橙 10YR7/4	内面回転ナデ
878	B 2	精査	瓦質	土錘	幅 3.7	長さ 4.8	完存	粗	軟	灰 5Y5/1	外面手づくね
879	B 2	精査	土製品	土錘	直径 3.1	長さ 4.3	完存	粗	軟	灰白 5Y8/1	内外面手づくね
880	B 2	精査	土製品	土錘	直径 3.1	長さ 4.7	完存	粗	軟	浅黄 2.5Y7/4	内外面手づくね
881	B 2	精査	土製品	土錘	直径 1.4	長さ 4.6	完存	良	軟	灰白 2.5Y8/2	内外面手づくね
882	B 2	精査	須恵器	鉢	不明	不明	1/12以下	粗	良	灰白 N7/	内外面口ロナデ、東播系

報告番号	トレンチ	出土地点	器種	器形	口径	器高	残存	胎土	焼成	色調	調整・備考
883	B 2	精査	須恵器	鉢	不明	不明	1/12以下	粗	良	灰白 N7/0	内外面ロクロナデ、東播系
884	B 2	SP107	瓦器	鍋	30.0 ?	(2.9)	口) 1/12以下	密	良好	灰 N4/0	内外面ヨコナデ
885	B 2	精査	須恵器	鉢	27.8	(3.8)	1/12以下	粗	良	灰白 N7/0	内外面ロクロナデ
886	B 2	精査	瓦器	鉢	29.8	(5.1)	1/12以下	粗	軟	黒 N2/0	マメツ
887	B 2	精査	瓦器	鍋	23.6	(8.3)	1/4	粗	やや良	黒 2.5Y2/1	内面ヨコナデ、外面指オサエ
888	B 2	精査	陶器	底部	底) 13.2	(7.4)	1/12以下	粗	良	にぶい赤褐 2.5YR4/4	内外面ロクロナデ、外面ロクロケズリ
889	B 2	精査	瓦器	鍋	26.2	(7.1)	口) 1/6	粗	軟	灰白 5Y7/1	内外面ヨコナデ、内面指オサエ
890	B 2	精査	瓦器	鍋	25.0	(9.7)	口) 1/6	粗	やや軟	黒褐 2.5Y3/1	内面ナデ・ハケ、外面指オサエ
891	B 2	精査	青磁	皿	底) 5.6	(0.7)	1/4	精良	堅緻	釉) 緑灰	内外面施釉、中国
892	B 2	精査	青磁	壺	5.2	4.0	1/12以下	良	堅	釉) 緑灰	外面施釉・象嵌、内面回転ナデ、高麗
893	B 2	精査	青磁	椀	15.6	(1.8)	1/12以下	精良	堅緻	釉) 緑灰	内外面施釉、中国龍泉窯
894	B 2	精査	回土師	杯	底) 6.2	(0.9)	底) 5/12	粗	軟	橙 5YR7/6	マメツ
895	B 2	精査	回土師	杯	底) 7.0	1.7	底) 1/4	粗	軟	橙 5YR7/8	マメツ
896	B 2	精査	土師器	皿	13.2	2.6	1/6	良	軟	浅黄橙 10YR8/6	内外面ヨコナデ
897	B 2	精査	土師器	皿	8.2	1.5	5/12	良	軟	浅黄橙 10YR8/4	内外面ヨコナデ、油煤痕
898	B 2	精査	古瀬戸	椀	10.0	(2.5)	1/12以下	良	良	釉) 黄緑	内外面施釉
899	B 2	精査	土師器	皿	11.6	(2.5)	1/6	良	軟	浅黄橙 7.5YR8/6	内面ミガキ
900	B 2	SK202	土師器	皿	8.0	2.0	完存	粗	軟	にぶい橙 7.5YR7/3	内外面ヨコナデ・ナデ、外面指オサエ
901	B 2	SK204	白磁	皿	底) 3.6	(0.6)	底) 1/4	精良	堅緻	灰白 7.5Y8/1	内外面ロクロナデ、外面ロクロケズリ、中国
902	B 2	SK201	黒色土器	椀	底) 7.0	2.9	1/3	粗	軟	浅黄橙 10YR8/4	内面ミガキ
903	B 2	SK203	瓦器	椀	15.2	(3.6)	口) 1/6	良	やや堅	褐灰 10YR4/1	内外面ナデ・ミガキ
904	B 2	SK203	回土師	杯	15.8	5.0	2/3	粗	軟	浅黄橙 7.5YR8/4	内外面回転ナデ
905	B 2	SK230	土師器	皿	8.6	1.5	5/12	粗	軟	にぶい橙 7.5YR7/4	内外面ヨコナデ・ナデ
906	B 2	SK230	回土師	杯	8.2	1.8	5/12	粗	軟	橙 5YR6/6	内外面回転ナデ
907	B 2	SK230	土師器	杯	13.6	3.7	1/4	粗	軟	橙 7.5YR7/6	暗文
908	B 2	SK230	土師器	皿	15.0	3.3	1/4	良	軟	浅黄橙 10YR8/4	内外面ヨコナデ、内面ナデ、外面指オサエ
909	B 2	SK230	白磁	椀	16.4	(4.8)	口) 1/4	精良	堅緻	灰白 7.5YR8/1	内外面施釉、中国
910	B 2	SK230	須恵器	杯	12.5	4.6	1/4	良	堅緻	灰 N6/1	内外面ロクロナデ
911	B 2	SK230	土師器	鍋	30.6	(6.4)	口) 1/6	粗	軟	黒褐 10YR3/1	内面ハケ
912	B 2	SK231	土師器	皿	8.8	1.3	1/4	良	軟	橙 5YR6/6	内外面ヨコナデ
913	B 2	SK231	青白磁	椀	6.6	(1.4)	底) 1/4	精良	堅緻	釉) 淡緑灰	内外面施釉、中国
914	B 2	SP257	土師器	高台付皿	7.8	3.3	上部 1/6 下部 11/12	密	良	橙 5YR7/8	内外面ナデ
915	B 2	SP257	回土師	杯	5.6	(2.8)	1/3	密	良	橙 5YR6/8	内外面ナデ
916	B 2	SK286	回土師	柱状高台	底) 6.2	1.7	底) 7/12	粗	軟	橙 5YR7/8	内外面回転ナデ
917	B 2	SD294	青磁	椀	不明	不明	1/12以下	良	堅緻	釉) 緑灰	内外面施釉、ヘラ描き文、中国
918	B 2	SK286	瓦器	鍋	30.2	(5.3)	口) 1/6	良	軟	黒 N1.5/0	内外面ヨコナデ
919	B 2	SD293	瓦器	鍋	29.2	(9.3)	口) 1/4	粗	軟	黒 N1.5/0	外面指オサエ、煤付着



報告番号	トレンチ	出土地点	器種	器形	口径	器高	残存	胎土	焼成	色調	調整・備考
920	B 2	SP241	須恵器	杯	底) 10.0	1.8	1/4	やや粗	良	灰白 N7/6	内外面回転ナデ
921	B 2	SP241	土師器	皿	16.6	2.6	1/12	粗	良	にぶい橙 7.5YR7/3	内外面回転ナデ
923	B 2	SP5	瓦器	鍋	29.7	(10.5)	1/2弱	密	良	暗灰 N3/0	内外面ナデ、内面ハケ、外面ヨコナデ・指オサエ
924	B 2	SP240	土師器	皿	16.2	(3.1)	口) 1.5/12	やや粗	良	浅黄橙 10YR8/3	内外面ヨコナデ、外面ナデ・指オサエ
925	B 2	SP336	黒色土器	椀	15.6	(4.4)	口) 1/6	やや粗	良好	にぶい黄橙 10YR7/4	内面ミガキ、外面回転ヘラケズリ・ナデ
926	B 2	SP232	黒色土器	椀	15.8	5.6	1/12	やや粗	良好	黒 N1.5/0・灰白 2.5Y8/2	内外面ミガキ、外面ヘラケズリ
927	B 2	SP248	回土師	皿	8.0	1.5	1/6	粗	良	にぶい橙 7.5YR7/3	内外面回転ナデ、外面ナデ
928	B 2	SP252	土師器	皿	8.2	1.9	口) 4.5/12	密	良好	橙 7.5YR6/6	内外面ナデ・指オサエ
929	B 2	SP269	土師器	皿	8.4	(1.6)	口) 1/3	密	良	にぶい黄橙 10YR7/4	内外面ヨコナデ、外面ナデ
930	B 2	SP273	回土師	杯	14.0	(3.3)	1/6	密	良好	灰白 10YR8/2	内外面ナデ (回転ナデ?)
931	B 2	SP273	土師器	皿	8.2	1.2	1/2	密	良	橙 5 Y R 7/8	内外面ヨコナデ・ナデ、外面指オサエ
932	B 2	SP273	土師器	台付皿	底) 5.0	3.4	1/12	密	良	橙 7.5YR7/6	内外面回転ナデ
933	B 2	SP306	土師器	鍋	22.8	(7.5)	1/12	粗	軟	淡黄 2.5Y8/4	内外面ヨコナデ、外面タタキ
934	B 2	SP278	瓦器	皿	7.8	1.0	1/3	密	良	灰 N6/6 N7/6	内外面ヨコナデ、外面指オサエ・ナデ
935	B 2	SP416	回土師	皿	6.4	1.6	1/3	密	良	橙 7.5YR7/6	内外面ナデ
936	B 2	SP288	土師器	皿	8.0	1.6	1/2	密	良	浅黄橙 10YR8/3	内外面ナデ、内面ヨコナデ、外面ハケ
937	B 2	SP318	回土師	皿	7.5		完存	密	良	橙 5YR7/6	内外面回転ナデ
938	B 2	SP329	黒色土器	椀	16.6	4.0	1/4	粗	軟	淡黄橙 7.5Y8/4	内面ミガキ、外面回転ナデ
939	B 2	SP366	土師器	皿	8.0	1.7	完存	密	良	橙 5YR7/6	内外面指オサエ、内面ヨコナデ、外面ナデ
940	B 2	SP279	須恵器	杯	18.0	3.1	1/6弱	密	堅緻	灰 N6/0	内外面回転ナデ、内面ナデ
941	B 2	SP318	土師器	皿	14.6	3.5	4.5/12	密	良	灰黄 2.5Y7/2	内外面ヨコナデ・ナデ
942	B 2	SP294	瓦器	椀	13.6	(4.3)	口) 1/4	良	やや軟	灰 N4/1	内面鋸歯文暗文、外面ヨコナデ・ミガキ
943	B 2	SK792	弥生土器	蓋か	底) 10.4~11.7	(4.4)	脚部) 1/4	粗	軟	にぶい橙 7.5YR7/4	摩滅
944	B 2	SP2041	瓦器	皿	7.8~8.4	2.1	完存	密	堅緻	灰 N5/0	内外面ナデ、内面ヨコナデ、外面指オサエ
945	B 2	SP215	土師器	甕	21.0	(4.0)	口) 1/4	密	良好	橙 5YR6/6	摩滅
946	B 2	SP227	須恵器	壺	10.8	9.0	底) 1/2	密	良	青灰 5PB6/1	内外面回転ナデ
947	B 2	SP595	弥生土器	甕	32.0	(6.4)	口) 1/12	密	やや軟	浅黄橙 10YR7/6	内外面指オサエ・マメツ
948	B 2	SP242	土師器	皿	13.8	3.3	1/4	密	良	浅黄橙 10YR8/4	内外面回転ナデ
949	B 2	SP269	回土師	杯	底) 6.2	(2.9)	底) 7/12	密	やや軟	橙 7.5YR7/6 とにぶい黄橙 10YR7/4	内外面回転ナデ
950	B 2	SP258	瓦質	土錘	3.5	5.4	完存	良	軟	灰 N4/0	内外面手づくね
951	B 2	SP259	瓦器	皿	8.4	1.9	5/12	密	良	橙 5YR7/8	内外面回転ナデ
952	B 2	SP278	土師質	土錘	幅 2.45	長さ 6.6	11/12	やや粗	良好	橙 7.5YR6/6	外面手づくね・ナデ
953	B 2	SP278	土師質	土錘	幅 2.55	長さ 5.2	不明	やや粗	良好	にぶい黄橙 10YR7/4	外面手づくね・ナデ
954	B 2	SP335	黒色土器	椀	15.6	4.9	3/12	やや粗	良好	黒 N1.5/0・灰白 2.5Y8/2	内外面ミガキ、内面ナデ、外面ヘラケズリ
955	B 2	SP354	瓦器	椀	14.5	4.9	口) 1/2強	密	良好	灰 N6/0	内面ミガキ・指オサエ、外面ヨコナデ
956	B 2	SP338	黒色土器	椀	底) 5.8	(3.2)	底) 完存	やや粗	良好	灰黄 2.5Y6/2	内外面ミガキ、外面回転ナデ
957	B 2	SP392	回土師	杯	底) 7.7	(4.7)	底) 2/3	密	良好	橙 7.5YR7/6	内外面回転ナデ

報告番号	トレンチ	出土地点	器種	器形	口径	器高	残存	胎土	焼成	色調	調整・備考
958	B 2	SP401	土製品	土錘	縦 4.2	径 2.8	完存	密	良	灰白 2.5Y8/2	手づくね
959	B 2	SP353	須恵器	皿	10.2	2.6	口) 5/6 底) 全	密	良	灰 N 6/0	内外面回転ナデ
960	B 2	SP386	回土師	杯	13.0	3.5	1/6	密	良	橙 7.5YR7/6	内外面回転ナデ
961	B 2	SP278	土師器	壺	12.2	(4.9)	2.5/12	密	良好	明黄褐 2.5YR5/6 ~ 5/8	内外面ヨコナデ、内面 ケズリ
962	B 2	SP416	回土師	杯	底) 6.0	(2.2)	1/3	密	やや軟	にぶい橙 7.5YR7/4	内面回転ナデ
963	B 2	SP416	回土師	杯	底) 6.0	(2.7)	底) 完存	密	密	橙 7.5YR7/6	内外面回転ナデ・マメ ツ
964	B 2	SP417	回土師	杯	底) 6.0	(1.5)	底) 1/3	密	やや軟	にぶい黄橙 10YR7/4	内面回転ナデ
965	B 2	SP454	回土師	杯	7.2 ~ 7.5	2.0	完存	密	良	橙 5YR7/6	内外面回転ナデ
966	B 2	SP413	青磁	椀	15.4	(3.5)	口) 1/12	精良	良好	釉) 灰青色	内外面施釉、中国龍泉 窯
967	B 2	SP417	土師器	皿	15.0	3.0	1/4	密	良	にぶい橙 7.5YR7/4	内外面ヨコナデ・指オサ エ、面ナデ
968	B 2	SP421	瓦器	椀	15.4	5.8	1/3	密	良	灰 N5/6	内外面ナデ・回転ナデ・ ミガキ
969	B 2	SP423	回土師	杯	17.6	3.5	1/6 弱	密	良	浅黄橙 7.5YR8/6	内外面回転ナデ
970	B 2	SP417	青磁	椀	底) 3.4	4.6	底) 1/4	良	堅緻	釉) 緑灰	内外面櫛描文
971	B 2	SP604	土師器	甕	5.7	(3.2)	底) 2/3	やや粗	良好	赤褐 5YR4/8	内外面ナデ、外面ナデ
972	B 2	SP504	土製品	かまど	底) 3.9	(6.5)	不明	やや粗	良	にぶい黄橙 10YR7/4	内面ナデ、外面ハケ
973	B 2	SP666	弥生土器	甕	15.8	(3.1)	口) 1/4	やや粗	良好	橙 7.5YR6/6	内外面ヨコナデ、内面 ヘラケズリ、外面擬凹 線
974	B 2	SP534	土師器	甕	16.5	(8.0)	口) 1/6	やや粗	良好	明赤褐 7.5YR5/8	内外面ヨコナデ、内面 指オサエ・ヘラ状工具、 外面ハケ
975	B 2	SP209	古瀬戸	平椀	不明	不明	1/12 以下	粗	良	釉) 淡緑	内外面施釉、外面口ク ロケズリ
976	B 2	SP258	青磁	椀	15.0	(4.3)	口) 1/0	精良	良好	釉) 灰青色	内外面施釉、中国龍泉 窯
977	B 2	SE230	回土師	杯	底) 9.35	4.35	底) 11/12	密	良	橙 5YR7/6	外面回転ナデ
978	B 2	SE230	土師器	皿	8.6	1.0	1/2	密	密	にぶい黄橙 10YR7/2	内外面回転ナデ、外面 ヘラケズリ
979	B 2	SE230	回土師	灯明皿	14.2	3.5	11/12	やや粗	良	にぶい黄橙 10YR7/3	内外面回転ナデ
980	B 2	SE230	土師器	杯	12.2	4.0	口) 1/3	密	良	橙 5YR6/6 ~ 6/8	内面放射状にミガキ
981	B 2	SE230	土師器	皿	7.8	1.8	口) 3/4	密	良	にぶい黄橙 10YR7/3	内外面ヨコナデ・指オ サエ
982	B 2	SE230	土師器	皿	底) 6.0	(2.3)	高台) 3/12	密	やや軟	灰黄 2.5Y7/2	内外面ナデ
983	B 2	SE231	土師器	皿	7.9	1.5	5/12	密	やや軟	にぶい黄橙色 10YR7/2	内外面ヨコナデ
984	B 2	SE231	土師器	皿	8.5	1.5	口) 5/12	密	良	にぶい橙色 5YR6/4 と橙 5YR6/6	内外面ヨコナデ
985	B 2	SE231	土師器	皿	13.7	2.6	口) 5/12	密	良	灰黄 2.5Y7/2	内外面ヨコナデ・ナデ
986	B 2	SE231	土師器	高台 付皿	底) 9.5	3.7	底) 完 存	密	良	にぶい黄橙 10YR7/3	内外面回転ナデ・指オ サエ、外面板ナデ
987	B 2	SE231	土師器	皿	12.8	2.3	口) 1/4	密	良	にぶい橙 7.5YR7/4	内外面ヨコナデ、外面 指オサエ
988	B 2	SE231	須恵器	杯蓋	12.0	5.1	1/3	密	堅緻	灰 7.5Y5/1	内外面回転ナデ、外面 ナデ・回転ケズリ
989	B 2	SE230	土師器	鍋	32.2	(7.7)	口) 1/12	密	良好	にぶい黄橙 10YR7/3	内外面ハケ・ナデ内面 ヨコナデ、外面指オサ エ
990	B 2	SE231	瓦器	鍋	30.6	(9.7)	口) 1/12	密	良好	灰 N4/0	内外面ヨコナデ、内面 ヘラ状工具痕、外面指 オサエ
992	B 2	SE280	土師器	高台	底) 7.1	(3.0)	底) 11/12	密	良	にぶい橙 7.5YR6/4	内面ナデ、外面指オサ エ・ハケ

報告番号	トレンチ	出土地点	器種	器形	口径	器高	残存	胎土	焼成	色調	調整・備考
993	B 2	SE280	青磁	高台	6.0	(1.8)	高台) 1/3	精良	良	灰 7.5Y6/1 ~ 灰 7.5Y7/1	内外面施釉、中国
994	B 2	SE280	土師器	灯明皿	13.2	2.8	口) 1/12	密	良	灰白 10YR8/2	内外面ナデ、内面ハケ、外面ヘラケズリ
995	B 2	SE280	青磁	椀口縁部	10.9	(2.1)	口) 1/12	精良	良	灰白 5Y7/2	内外面施釉、中国
996	B 2	SE280	瓦器	鍋	32.0	(6.3)	1/12以下	やや粗	良好	暗灰 N3/0	マメツ
997	B 2	SE352	須恵器	蓋	つまみ 2.45	(1.5)	つまみ完存	精良	堅緻	灰 N6/0	内面回転ナデ、外面回転ヘラケズリ
998	B 2	SE352	須恵器	杯	11.7	3.3	1/4	良	良	灰 7.5Y4/1・灰白 7.5Y7/1・灰 N5/0	内外面回転ナデ、外面ヘラケズリ
999	B 2	SE352	土師器	高杯脚	-	(6.2)	-	やや粗	良好	にぶい黄橙 10YR7/4	内面ナデ、外面指ナデ
1000	B 2	SE352	土師器	皿	8.8	1.5	11/12	粗	良	にぶい橙 7.5YR7/4	ヨコナデ
1001	B 2	SE352	土師器	柱状高台	底) 5.1	(3.8)	底) 11/12	密	良	にぶい橙 7.5YR6/4	外面ヨコナデ
1009	B 2	中央部	土師器	皿	6.2	1.3	5/12	粗	軟	橙 5YR7/6	内外面ヨコナデ、外面指オサエ
1010	B 2	精査	土師器	皿	7.8	1.9	2/3	粗	軟	にぶい橙 7.5YR7/4	内外面ヨコナデ
1011	B 2	精査	青磁	杯	不明	不明	1/12以下	精良	堅緻	釉) 緑灰	内外面施釉、中国龍泉窯
1012	B 2	精査	回土師	杯	7.4	3.8	5/6	粗	軟	橙 5YR6/8	内外面回転ナデ
1013	B 2	精査	土師器	杯	13.2	(2.7)	1/12	粗	軟	橙 7.5YR6/6	マメツ
1014	B 2	精査	白磁	椀	底) 7.0	(1.3)	底) 1/4	精良	堅緻	釉) 黄灰白	外面口ロケズリ、中国
1015	B 2	精査	土師器	皿	16.6	3.0	1/12	粗	軟	明褐灰 7.5YR7/2	内外面ヨコナデ
1016	B 2	精査	土製品	土錘	幅 2.7	4.3	11/12	良	良	灰白 5Y8/2	内外面手づくね
1017	B 2	精査	土製品	土錘	幅 3.0	長さ 4.4	11/12	良	軟	灰白 5Y8/1	内外面手づくね
1018	B 2	精査	回土師	杯	底) 5.8	(1.3)	底) 1/4	粗	軟	黄橙 10YR7/4	マメツ
1019	B 2	精査	回土師	杯	底) 7.2	(1.8)	底) 1/4	粗	軟	浅黄橙 10YR8/4	内外面回転ナデ
1020	B 2	精査	瓦器	椀	底) 9.6	(2.2)	1/12	良	やや軟	灰 N6/0	内外面ナデ、内面ミガキ
1021	B 2	精査	回土師	杯	15.2	4.2	1/4	良	軟	にぶい橙 5YR7/4	内外面回転ナデ
1022	B 2	ベース包含層	須恵器	甕	46.2	(14.9)	口) 1/12以下	密	堅緻	灰白 N7/0 ~ 灰 6/0	内外面ヨコナデ・タタキ
1023	B 2	精査	瓦器	火鉢	不明	不明	1/12以下	粗	軟	灰 N5/0	マメツ
1024	B 2	排水溝	弥生土器	広口壺	16.6	(4.8)	口) 12/12	チャート長石石英含む	良	浅黄橙 7.5YR8/3	内外面ハケ、外面ナデ
1025	B 2	第3面精査	弥生土器	甕	19.8	(15.8)	1/4	粗	軟	橙 2.5YR7/8 とにぶい赤褐 2.5Y4/3 のまだら	内面ハケ
1026	B 2	包含層	須恵器	甕	48 ~ 54.0	(13.4)	口) 15/12	密	堅緻	灰 N6/0 ~ 暗灰 3/0	内外面回転ナデ・タタキ、外面ハケ
1027	B 2	SK667	土師器	鉢	11.8	5.2	口) 1/3全) 5/12	チャート石英含む	やや軟	にぶい赤褐 5YR5/3	内面ヘラケズリ、外面粗いハケ
1028	B 2	SK667	土師器	高杯	8.2	(6.8)	底) 1/4	粗	軟	灰白 2.5Y8/2	
1029	B 2	SK667	弥生土器	杯部	14.0	(5.7)	口) 1/2	長石石英含む	軟	橙 5YR5/6	内外面ナデ、内面ヘラケズリ
1030	B 2	精査	土師器	皿	16.6	3.0	口) 1/6	良	軟	明褐灰 7.5YR7/2	内外面ヨコナデ
1031	B 2	SX938	弥生土器	台付甕か	7.0	(5.8)	底) 1/2	良	軟	灰白 7.5YR8/2	内外面ヘラケズリ
1032	B 2	SX938	弥生土器	鼓形器台	16.6	9.4	口) 完存全) 8/12	良	良	明褐 7.5YR5/8	内面ヘラケズリ・ナデ、外面回転ナデ
1033	B 2	SX938	弥生土器	小型丸底壺	6.8	5.3	完存	良	軟	にぶい黄褐 10YR5/3	内外面ナデ

報告 番号	トレンチ	出土地点	器種	器形	口径	器高	残存	胎土	焼成	色調	調整・備考
1034	B 2	SX938	弥生土器	小型丸底壺	10.0	6.6	1/4	良	良	橙 7.5YR6/6	内外面ナデ、内面ヘラケズリ、外面ハケ
1035	B 2	SX938	弥生土器	高杯	16.3	11.2	口) 3/4 全) 5/6	良	良	明赤褐 2.5YR5/6	内外面」ハケ・ミガキ
1036	B 2	SX938	滑石製	勾玉	長さ 2.7	厚さ 0.6	完存	良	-	暗緑灰 10GY4/1	円孔1ヶ所
1037	B 2	SX938	弥生土器	高杯	22.2	(4.5)	口) 1/12	良	良	にぶい橙 7.5YR7/4	内外面ヨコミガキ
1038	B 2	SX938	弥生土器	高杯	20.6	(5.1)	1/6	良	良	にぶい橙 7.5YR7/4	内外面ヘラミガキ、外面ナデ
1039	B 2	SX938	土師器	甕	15.4	(13.1)	1/3	良	良	明黄褐 2.5YR7/6	内外面ナデ、内面ヘラケズリ、外面ハケ
1040	B 2	SX938	土師器	布留甕	15.6	(17.4)	1/4	良	良	にぶい黄橙 10YR7/4	内外面ナデ、内面ヘラケズリ、外面ハケ
1041	B 2	SX938	弥生土器	器台	10.6	8.8	3/4	良	良	橙 5YR6/6	内外面ヘラケズリ、外面ナデ
1042	B 2	SX938	土師器	甕	17.1	(3.9)	1/4	良	良	にぶい黄橙 10YR7/3	内外面ナデ内面ヘラケズリ
1043	B 2	SX938	土師器	布留甕	13.1	(4.7)	口) 1/12	良	軟	にぶい橙 5YR6/4	内面ヘラケズリ
1044	B 2	SX938	土師器	布留甕	15.8	(6.8)	1/4	良	良	にぶい橙 7.5YR7/3	内外面ナデ、内面ヘラケズリ、外面ハケ
1045	B 2	SX938	土師器	布留甕	20.0	(20.0)	1/4	良	良	にぶい橙 7.5YR7/4	外面ハケ、内面ヘラケズリ
1046	B 2	SX938	土師器	布留甕	16.6	(16.3)	1/6	良	良	橙 7.5YR6/8	内外面ナデ、内面ヘラケズリ、外面ハケ
1047	B 2	SK504	土師器	甕	23.4	(6.5)	1/4	良	良	にぶい橙 7.5YR7/3	内外面ナデ、内面ヘラケズリ、外面ハケ
1048	B 2	SK504	須恵器	高杯	-	(6.9)	脚柱部) 12/12	良	良	灰白 10YR7/1	沈線
1049	B 2	SK571	弥生土器	甕	13.0	(11.5)	口) 完 存全) 5/12	良	やや軟	明赤褐 2.5YR5/6	内外面ナデ、内面ヘラケズリ、外面ハケ
1050	B 2	SK504	土製品	移動式 カマド	-	(23.5)	焚口) 5/12	良	良	浅黄橙 10YR3/8	内面ハケ、外面ナデ・ヘラ切り
1051	B 2	SK1204	弥生土器	底部	6.0	(2.0)	底) 5/12	良	やや軟	浅黄橙 7.5YR8/3	内面ヘラケズリ、外面ハケ
1052	B 2	SH889 内 SK1204	弥生土器	高杯	25.8	(7.0)	口) 1/12	精良	良	にぶい橙 7.5YR7/4	内外面ヘラミガキ、外面ナデ・擬凹線
1053	B 2	SH889 内 SK1204	弥生土器	脚部	-	(11.8)	1/12	精良	良	にぶい橙 7.5YR7/4	外面ヘラミガキ
1054	B 2	SD1033	弥生土器	高杯	18.2	(4.0)	1/12	良	良	にぶい黄橙 10YR7/4	内外面ミガキ、外面凹線文
1055	B 2	SD1033	弥生土器	高杯	20.8	(4.9)	6/12	良	良	黄褐 10YR5/8	内外面ヘラミガキ、外面凹線文
1056	B 2	SD1033	弥生土器	無頸壺	16.1	12.0	1/12	良	良	明赤褐 2.5YR5/8	内外面ヘラケズリ、ハケ・ナデ
1057	B 2	SD1033 SK938	弥生土器	台付壺	15.8	35.3	11/12	粗	良	橙 2.5YR7/8	内外面ヨコナデ・ハケ、内面ナデ・指頭圧痕、外面ミガキ、体部に凹窓
1058	B 2	SD1033	弥生土器	高杯 杯部	13.8	(4.6)	2/12	良	良	明黄褐 10YR6/8	内外面ミガキ、外面ナデ
1059	B 2	SD1033	弥生土器	高杯	14.0	22.8	口) 11/12	密	良	にぶい黄橙 10YR7/4 ~ 6/4	内外面ミガキ・ハケ、内面ケズリ、外面ヨコナデ・擬凹線・刺突痕
1060	B 2	SD1033	弥生土器	甕	底) 7.8	(26.5)	6/12	密	良	浅黄橙 7.5YR8/3	内面ナデ、外面ハケ・ケズリ
1061	B 2	SD1033	弥生土器	甕	15.2	(16.5)	1/12	良	良	明赤 2.5YR5/6	内外面ナデ・ヘラケズリ
1062	B 2	SD1033	弥生土器	甕	15.8	25.8	1/12	良	良	明黄褐 10YR7/6	内外面ナデ、外面ハケ
1063	B 2	SD1033	弥生土器	甕	17.9	(23.0)	1/12	良	良	赤 10R4/8	内外面ナデ・ケズリ、外面ヨコナデ・ハケ
1064	B 2	SD1033	弥生土器	広口壺	19.8	17.4	1/12	良	やや軟	明赤褐 2.5YR5/8	内外面ナデ・ハケ

報告番号	トレンチ	出土地点	器種	器形	口径	器高	残存	胎土	焼成	色調	調整・備考
1065	B 2	SD1033	弥生土器	広口壺	18.8	(15.1)	1/12	良	良	暗赤 10R3/6	内外面ハケ、内面ケズリ・ナデ
1066	B 2	SD1033	弥生土器	壺	15.7	36.4	4/5	密	良	淡黄 2.5Y8/3	内外面ヨコナデ・ハケ、内面ケズリ、外面タタキ・ミガキ
1067	B 2	SD1034	弥生土器	甕	13.0	(18.5)	1/12	良	良	にぶい黄橙 10YR7/3	内外面ナデ・ハケ、内面ヘラケズリ
1068	B 2	SD1034	弥生土器	甕	13.9	16.5	1/12	良	良	浅黄橙 10YR8/3	内外面ナデ・ハケ内面ヘラケズリ
1069	B 2	SD1034	弥生土器	高杯	16.7	(5.0)	1/12	良	良	にぶい橙 7.5YR7/4	内外面ヘラミガキ、外面ナデ・凹線文
1070	B 2	SD1034	弥生土器	甕	底) 7.4	(4.0)	1/12	良	良	橙 7.5YR6/6	ヘラケズリ
1071	B 2	SD1213	弥生土器	取手部	(4.2)	-	1/12	良	良	橙 7.5YR6/8	内外面ナデ
1072	B 2	SD1213	弥生土器	高杯	24.2	(8.5)	1/12	良	やや軟	にぶい黄橙 10YR7/4	内外面ナデ、内面ミガキ、外面ヘラケズリ・凹線文
1073	B 2	SD1213	弥生土器	長頸壺	11.2	(8.5)	1/12	良	良	浅黄橙 10YR8/3	内面ナデ、外面ミガキ・凹線3条
1074	B 2	SD1213	弥生土器	高杯	-	(8.0)	1/12	良	良	明黄褐 10YR6/6	内外面ミガキ、内面ナデ
1075	B 2	SD1213 (方周溝)	弥生土器	高杯	底) 13.0	(11.5)	1/12	良	良	浅黄橙 10YR8/3	内面ヘラケズリ、外面ミガキ・ナデ・凹線文
1076	B 2	SD1213	弥生土器	脚部	底) 9.8	(7.3)	1/12	良	やや軟	浅黄橙 10YR8/3	内外面ケズリ、外面ナデ
1077	B 2	SD1213	弥生土器	甕	17.3	27.5	1/4	やや密	良	橙 5YR6/8	内外面ヨコナデ・ハケ、タタキ・指頭圧痕
1078	B 2	SH793	弥生土器	底部	底) 10.0	(6.5)	1/12	良	良	にぶい橙 7.5YR7/4	内面ナデ・マメツ、外面ハケ
1079	B 2	SH841	石製品	砥石	長さ 5.8	幅 4.4	6/12	-	-	淡黄 2.5Y8/3	1面使用
1080	B 2	SH841	弥生土器?	ミニチュア壺	4.6	(5.6)	10/12	良	良	にぶい橙 7.5YR7/4	内面ナデ、外面ヘラケズリ
1081	B 2	SH841	弥生土器	高杯	-	-	縁) 1/6	良	良	にぶい橙 7.5YR7/4	内面ヘラケズリ、外面ミガキ・ナデ
1082	B 2	SH844	弥生土器	脚部	底) 18.0	(2.3)	底) 1/6	良	良	浅黄橙 7.5YR8/6	内面ハケ、外面ミガキ・ナデ
1083	B 2	SH844	弥生土器	脚部	底) 14.0	(4.5)	底) 1/4	良	良	浅黄 2.5Y7/3	内面ヘラケズリ、外面ナデ
1084	B 2	SH844	弥生土器	甕	3.9	(2.0)	底) 11/12	良	良	橙 2.5YR7/6	内面ヘラケズリ、外面ハケ
1085	B 2	SH889	弥生土器	高杯	18.3	19.0	口) 11/12 全) 1/3	良	良	浅黄橙 10YR8/4	内外面ミガキ
1086	B 2	SH889	弥生土器	脚部	底) 9.2	(3.8)	1/12	良	良	橙 5YR6/8	内面ナデ、外面ミガキ
1087	B 2	SH889	弥生土器	甕	13.6	2.8	1/12	良	やや軟	にぶい黄橙 10YR7/4	内面ヘラケズリ・ケズリ 外面ナデ
1088	B 2	SH891	弥生土器	甕	18.9	4.1	口) 1/6	良	良	にぶい橙 5YR6/3	内外面ナデ、内面ヘラケズリ、外面ハケ・凹線
1089	B 2	SH891	弥生土器	壺	14.0	(8.3)	1/12	良	やや軟	黄橙 10YR8/6	外面ヨコナデ・擬凹線・ハケ
1090	B 2	SH891	弥生土器	高杯	底) 8.0	(21.4)	底) 7/12	良	良	橙 5YR7/8 ~ 黄橙 10YR8/8	内外面ミガキ
1091	B 2	SH1027	弥生土器	高杯	7.1	14.0	口) 完 存全) 5/6	良	良	橙 7.5YR7/6	内外面ヘラミガキ、ナデ
1092	B 2	SH1027	弥生土器	壺	13.0	(8.0)	1/12	良	良	橙 5YR6/6	内外面ナデ、内面ヘラケズリ、外面ハケ
1093	B 2	SH1028	弥生土器	脚部	底) 9.2	(2.5)	1/12	良	良	明赤褐 5YR5/8	内面ケズリ、外面ミガキ・ナデ
1094	B 2	SH1027	弥生土器	脚部	底) .8	(5.3)	1/12	良	良	橙 5YR6/6	内外面ヘラケズリ 外面ハケ・ナデ
1095	B 2	SH1027	弥生土器	長頸壺	8.9	(7.7)	1/12	良	やや軟	浅黄橙 10YR8/4	内外面ナデ、外面ヘラミガキ
1096	B 2	SH1027	弥生土器	甕	15.0	(6.9)	1/12	良	良	橙 7.5YR6/8	内外面ナデ・ヘラケズリ、 外面ハケ・擬凹線

報告番号	トレンチ	出土地点	器種	器形	口径	器高	残存	胎土	焼成	色調	調整・備考
1097	B 2	SH1027	弥生土器	高杯	26.6	10.6	2/12	良	良	橙 5YR7/6	内外面ミガキ、内面ケズリ、外面ハケ
1098	B 2	SH1028	弥生土器	長頸壺	頸) 9.6	(6.3)	1/12	良	良	橙 7.5YR6/6	内外面ハケ
1099	B 2	SH1028	弥生土器	甕	14.0	(3.3)	1/12	良	良	橙 5YR6/6	内外面ナデ、外面擬凹線
1100	B 2	SH1028	弥生土器	甕	14.9	(1.8)	1/12	良	良	にぶい橙 7.5YR7/4	マメツ
1101	B 2	SH1028	弥生土器	脚部	底) 16.0	(1.7)	1/12	良	良	浅黄橙 7.5YR8/4	内外面ナデ、内面ヘラケズリ、外面ミガキ
1102	B 2	SH1214	弥生土器	高杯	10.1	(3.6)	1/12	良	良	にぶい橙 7.5YR6/4	内外ミガキ
1103	B 2	SH1214	石製品	砥石	長) 4.4	(3.6)	2/12	-	-	灰白 2.5Y8/2	3面使用
1104	B 2	SH1214	弥生土器	甕	16.9	(3.1)	1/12	良	良	浅黄橙 10YR8/4	内面ナデ・ケズリ、外面擬凹線
1105	B 2	SH1028	弥生土器	甕	底) 8.0	(21.4)	1/12	良	良	浅黄橙 10YR8/4	内面ヘラケズリ、外面ハケ
1106	B 2	SP646	須恵器	杯部	12.9	(4.6)	口) 1/6	良	良	褐灰 7.5YR5/1	内外面ナデ、外面ヘラケズリ
1107	B 2	SP659	弥生土器	甕	17.8	(7.2)	口) 1/3	良	良	黄橙 7.5YR7/8	内外面ナデ、内面ヘラケズリ、外面擬凹線・ハケ
1108	B 2	SP714	土師器	杯	14.8	3.7	口) 7/12	良	良	灰白 7.5YR8/2	外面回転ナデ
1109	B 2	SP806	弥生土器	器台	脚端) 19.1	(2.7)	脚) 1/12	良	良	橙 5YR6/6	内外面ナデ・内面オサエ、外面ハケのち鋸歯文・ヘラミガキ
1110	B 2	SP908	回土師	杯	底) 6.0	(1.2)	底) 1/2	良	軟	浅黄橙 7.5YR8/4	内外面回転ナデ
1111	B 2	SP908	回土師	皿	8.2	1.7	5/6	良	やや軟	浅黄橙 7.5YR8/4	内外面回転ナデ
1112	B 2	SP914	黒色土器	椀	15.5	(4.7)	口) 1/4	良	良	明褐灰 7.5YR7/1	内外面ヘラミガキ、ナデ
1113	B 2	SP1079	弥生土器	甕	底) 3.1	(18.8)	1/12	良	やや軟	橙 5YR7/6	内面ヘラケズリ、外面ハケ
1114	B 2	SP1079	弥生土器	甕	16.5	(8.8)	1/12	良	良	橙 7.5YR6/8	内外面ナデ、内面ヘラケズリ、外面ハケ
1115	B 2	SP1079	弥生土器	甕	14.0	(11.6)	5/6	良	良	橙 7.5YR6/6	内外面ナデ・ハケ
1116	B 2	SP1012	土師器	甕	17.4	(7.8)	口) 1/4	良	やや軟	灰白 10YR8/2	内外面ナデ・ハケ、内面ヘラケズリ内面ヘラケズリ
1117	B 2	SP908	須恵器	杯 B	底) 5.0	(3.5)	底) 1/6	良	良	灰白 N7/0	内外面転ナデ
1118	B 2	SP1188	須恵器	杯	10.9	(4.8)	1/3	良	良	灰 N6/0	内外面ナデ、外面ヘラケズリ
1119	B 2	SP1079	弥生土器	甕	底) 2.4	(10.3)	1/12	良	やや軟	明褐 7.5YR5/8	内外面ヘラケズリ
1120	B 2	SP1204	土師器	高杯	脚柱) 3.9	(11.4)	脚) 1/2	精良	良	明黄褐 10YR7/6	内外面ハケ・ヘラミガキ、内面ナデ・ハケ
1121	B 2	包含層	石製品	砥石	6.0	幅 3.3	1/12	-	-	淡黄 2.5Y8/3	3面使用
1122	B 2	精査	土製品	ミニチュア蓋	4.4	2.9	5/12	良	やや軟	暗褐 7.5YR5/3	内面ヘラケズリ、外面手びねり・ナデ
1123	B 2	包含層	須恵器	蓋	11.9	3.8	完存	良	良	灰 N6/0	内外面ナデ、外面ヘラ切り・ヘラケズリ
1124	B 2	SH999	須恵器	杯	10.0	(3.7)	口) 1/4	良	良	にぶい赤褐 5YR5/4	内外面ナデ、外面ヘラケズリ
1125	B 2	SH1027 か	弥生土器	広口壺	18.2	(2.5)	1/6	石英・長石含む	良	明赤褐 2.5YR5/8	内面ナデ・ヘラミガキ、外面擬凹線
1126	B 3	SE1367	古瀬戸	丸皿	11.0	2.9	11/12	粗	良	釉) 薄緑灰	内外面施釉
1127	B 3	SK1489	土師器	皿	7.8	1.7	1/2	粗	軟	浅黄橙 10YR8/3	外面ヨコナデ・指オサエ
1128	B 3	SK1431	土師器	皿	7.6	1.6	1/2	粗	軟	淡黄 2.5YR8/3	内外面ヨコナデ
1129	B 3	SK1431	土師器	杯	10.8	3.6	完存	粗	軟	浅黄橙 7.5YR8/4	外面ヨコナデ・指オサエ
1130	B 3	SK1431	土製品	土錘	長 5.6	幅 3.4	完存	粗	軟	にぶい橙 7.5YR7/3	手づくね
1131	B 3	SP1483	土師器	皿	7.0	1.5	7/12	粗	軟	浅黄橙 10YR8/3	内面ナデ、外面指オサエ
1132	B 3	SP1483	土師器	皿	8.0	(2.2)	1/4	粗	軟	橙 7.5YR7/6	内外面ヨコナデ、外面掌オサエ

報告番号	トレンチ	出土地点	器種	器形	口径	器高	残存	胎土	焼成	色調	調整・備考
1133	B 3	SP1487	土師器	皿	6.2	1.7	11/12	粗	軟	浅黄橙 7.5YR8/3	内面ナデ・外面ヨコナデ・指オサエ
1134	B 3	SP1487	土師器	皿	9.3	2.3	1/3	粗	軟	浅黄橙 7.5YR8/3	
1135	B 3	SK1489	土師器	皿	7.2	1.7	完存	粗	軟	浅黄橙 10YR8/3	外面ヨコナデ・指オサエ
1136	B 3	SP1404	青磁	椀	14.4	3.4	□ 1/12	やや粗	堅緻	釉) 緑灰	内外面施釉、外面回転ヘラケズリ 中国龍泉窯
1137	B 3	SP1428	青磁	碗	15.4	(2.4)	1/12 以下	やや粗	堅緻	釉) 緑灰	中国龍泉窯
1138	B 3	SP1476	土師器	皿	11.6	2.3	1/4	粗	軟	橙 5YR7/8	内外面ヨコナデ、内面ナデ、外面指オサエ
1139	B 3	SP1483	土師器	皿	11.8	2.3	1/4	粗	軟	浅黄橙 7.5YR8/4	外面ヨコナデ
1140	B 3	SP1483	土師器	皿	11.2	3.0	7/12	粗	軟	浅黄橙 10YR8/3	内面ナデ・外面指オサエ
1141	B 3	SP1483	土師器	皿	11.8	2.6	1/4	粗	軟	灰白 10YR8/2	外面ヨコナデ
1142	B 3	SP1487	土師器	皿	11.0	3.0	11/12	粗	軟	浅黄橙 7.5YR8/3	外面ヨコナデ・指オサエ
1143	B 3	SK1489	土師器	皿	11.0	2.5	5/12	粗	軟	明褐灰 7.5YR7/2	内面ナデ、外面ヨコナデ・指オサエ
1145	B 3	SE1367	瓦器	鍋	26.8	(6.3)	1/12 以下	やや粗	やや軟	暗灰 N3/0	内面ハケ外面ナデ
1146	B 3	SP1483	瓦器	鍋	24.0	(6.4)	□ 1/6	粗	軟	灰 N5/0	内面ヨコハケ、外面ヨコナデ・指オサエ
1147	B 3	SK1508	土師器	皿	7.5	1.7	1/2	粗	軟	明褐灰 7.5YR7/2	外面指オサエ・内面ヘラオサエ圧痕
1148	B 3	SK1508	土師器	皿	9.0	1.5	1/4	粗	軟	明褐灰 7.5YR7/2	外面ナデ・指オサエ
1149	B 3	SP1766	回土師	杯	8.2	1.8	2/3	粗	軟	橙 5YR6/8	回転ナデ
1150	B 3	SP1548	土製品	土錘	長さ 4.6	幅 3.2	完存	-	-	灰黄 2.5Y6/2	手づくね
1151	B 3	SK1508	土師器	皿	12.4	2.9	□ 1/6	粗	軟	明褐灰 7.5YR7/2	外面指オサエ・掌オサエ
1152	B 3	SP1539	須恵器	器台	底) 13.6	(4.8)	1/12 以下	粗	良	灰 N5/0	内外面回転ナデ
1153	B 3	SP1582	青磁	杯	15.2	5.7	1/12 以下	やや粗	堅緻	釉) 緑灰	内外面施釉、外面ヘラケズリ
1154	B 3	SP1610	土師器	皿	7.6	(1.7)	1/6	粗	軟	淡橙 5YR8/3	外面ヨコナデ・指オサエ
1155	B 3	SP1604	土師器	皿	13.6	2.2	1/12	粗	軟	橙 7.5YR7/6	内面ナデ、外面ヨコナデ・指オサエ
1156	B 3	SK1508	須恵器	鉢	-	(6.0)	□ 1/6	粗	良	灰 N6/0	内外面回転ナデ
1158	B 3	SP1758	回土師	杯	15.2	(3.8)	1/4	粗	軟	橙 2.5YR6/8	内外面回転ナデ
1159	B 3	包含層	白磁	皿	10.8	(2.6)	1/6	やや粗	堅緻	釉) 灰白	内外面施釉
1160	B 3	南部精査	青花磁器	椀	14.2	(2.3)	1/6 以下	やや粗	堅緻	釉) 青白	内外面施釉
1161	B 3	第1面南西部	白磁	小杯	6.8	(1.8)	5/12	やや粗	堅緻	釉) 青白	内外面施釉、下半部露胎
1162	B 3	第1面南西部	白磁	皿	底) 3.4	(1.0)	1/2	やや粗	堅緻	釉) 白	内外面施釉
1163	B 3	SK1802	須恵器	杯蓋	13.8	3.8	1/4	やや密	良	灰 N5/0	内外面回転ナデ・回転ケズリ
1164	B 3	SP1836	須恵器	杯	13.4	(3.4)	1/6	粗	良	灰 N5/0	内外面回転ナデ回転ケズリ
1165	B 3	SP1836	須恵器	蓋	10.6	(3.2)	1/6	粗	良	灰 N5/0	内外面回転ナデ
1166	B 3	SK1802	須恵器	杯身	14.6	5.2	1/4	やや密	良	灰 N6/0	内外面回転ナデ・回転ケズリ
1167	B 3	SK1802	須恵器	壺	-	(5.6)	1/4	粗	良	灰 N6/0	内外面回転ナデ
1168	B 3	SH1910	土師器	甕	14.4~ 15.4	(4.6)	□ 5/6	密	良	明赤褐 5YR5/6	内外面ハケ外面ヨコナデ
1169	B 3	SH1910	土師器	甕	13.55	(8.4)	5/6	密	良	にぶい橙 7.5YR6/4	内外面ヨコナデ・ハケ、内面ケズリ・ミガキ
1170	B 3	SK1910	弥生土器	台付鉢	11.0	6.1	1/6	やや粗	良	にぶい橙 7.5YR7/4	内外面ヨコナデ・ナデ、外面ハケ
1171	B 3	SK1902	弥生土器	甕	13.6	(8.8)	□ 1/3	粗	軟	橙 2.5YR6/8	内外面ヨコナデ・ハケ、内面ケズリ

報告 番号	トレンチ	出土地点	器種	器形	口径	器高	残存	胎土	焼成	色調	調整・備考
1172	B 3	SH1929	土師器	壺	9.2	(7.7)	口) 1/2	密	良	橙 YR6/6	内外面ミガキ、内面ハケ・ナデ、外面ヨコナデ
1173	B 3	SH1929	土師器	台付杯?	11.4	(8.0)	口) 3/4	密	良	にぶい黄橙 10YR7/4	内外面ハケ・ミガキ
1174	B 3	SH1929	土師器	甕	15.8	18.9	口) 1/3	密	良	橙 7.5YR7/6	内外面ヨコナデ・ハケ 内面ケズリ
1175	B 3	SH1929	土師器	高杯	底) 15.8	(9.0)	底) 1/4	やや粗	良	橙 5YR3/4	内面回転ケズリ、外面ミガキ
1176	B 3	SH1929	土師器	甕	12.4	24.8	6/12	やや粗	良	浅黄橙 10YR8/3	内外面ヨコナデ・ケズリ、 外面ハケ
1177	B 3	SP1975	弥生土器	壺口縁部	19.0	(6.95)	口) 1/12	やや粗	良	橙 2.5YR6/8	内外面ヨコナデ、内面ミガキ、 外面ケズリ
1178	B 3	SH1980	弥生土器	蓋	5.8	2.0	1/2	やや粗	良	黒 N2/0	内外面ミガキ
1179	B 3	SH1980	石製品	磨製石鏃	長さ 3.2	幅 1.9	11/12	-	-	暗オリーブ灰 2.5GY3/1	ミガキ
1180	B 3	SH1980	弥生土器	壺	-	-	-	やや粗	良	橙 7.5YR7/6	内外面ヨコナデ
1181	B 3	SH1980	弥生土器	小壺	8.6	(5.2)	1/4	やや粗	良	橙 7.5YR6/6	内外面ヨコナデ・ナデ 外面ミガキ
1182	B 3	SH1980	弥生土器	台付鉢	14.3	(9.7)	口) 1/12	やや粗	良	橙 5YR7/4	内外面ナデ・ミガキ、 内面回転ナデ
1183	B 3	SH1980	弥生土器	台付鉢	12.2	(5.6)	1/4	やや粗	良	橙 7.5YR7/6	内外面ヨコナデ・ミガキ、 内面ナデ
1184	B 3	SH1980	弥生土器	台付鉢	底) 5.4	7.4	底部 完存	やや粗	良	にぶい橙 7.5YR7/3	内外面ヨコナデ・ナデ、 外面ハケ
1185	B 3	SH1980	弥生土器	甕	12.4	(4.4)	1/6	やや粗	良	オリーブ黒 7.5Y3/1	内外面ヨコナデ、内面ケズリ、 外面ナデ
1186	B 3	SH1980	弥生土器	甕	13.6	(3.4)	1/6	やや粗	良	にぶい褐 7.5YR5/4	内外面ヨコナデ・ナデ
1187	B 3	SH1980内 SK2018	土師器	台付鉢	15.9	(12.05)	11/12 以上	密	良	橙 2.5YR6/8	内外面ミガキ・外面ヨコナデ・ ハケ
1188	B 3	SD2000	弥生土器	甕	13.1	(3.2)	口) 1/12 強	やや粗	良	にぶい褐 7.5YR6/3	内外面ヨコナデ、内面ケズリ
1189	B 3	SD2000	弥生土器	甕	底) 7.7	(3.3)	底) 1/3	粗	良	明赤褐 2.5YR5/6	内面ハケ、外面ヨコナデ・ ナデ・ミガキ
1190	B 3	SH1901内 SK2052	土師器	高杯杯脚	脚部 径) 12.1	(7.0)	裾部) 1/12	やや粗	良	橙 5YR6/6	内面ヘラケズリ・ナデ、 外面ヘラミガキ・ヨコナデ
1191	B 3	SD2000	弥生土器	高杯杯部	22.2	(4.4)	口) 1/12 強	やや粗	良	浅黄橙 7.5YR8/4	内外面ヨコナデ・ミガキ
1192	B 3	SK2014	弥生土器	取っ手付壺	7.05	10.8	口) 7/12	密	やや軟	灰白 10YR8/2	内外面ハケ
1193	B 3	SH1901内 SP2035	土師器	鼓型器台	頸部 径) 11.0	(8.4)	1/4	やや粗	良	橙 7.5YR7/6	内面ヘラケズリ、外面 回転ナデ
1194	B 3	SH1901内 SK2052	土師器	高杯	16.7	14.45	口) 5/8	粗	良	橙 2.5YR6/8	内外面ヨコナデ・ナデ、 内面ヘラナデヘラケズリ、 外面ハケ
1195	B 3	SH1901	土師器	高杯杯部	14.8	(6.3)	口) 1/12	密	やや粗	橙 5YR6/6	内外面ヨコナデ、外面ハケ
1196	B 3	SH1901	土師器	高杯	18.0	(5.7)	1/3	やや粗	良	明赤褐 5YR5/8	内外面ヨコナデ・ハケ・ 指オサエ、外面ナデ
1197	B 3	SH1901	土師器	高杯	15.6	(6.8)	1/6	粗	粗	橙 2.5YR6/6	内外面ハケ、内面ヨコナデ・ ハケ、外面指オサエ・ナデ
1198	B 3	SH1901	土師器	高杯	17.0	12.6	口) 1/6 底) 3/8	密	やや軟	明黄褐 10YR6/6	内面ハケ・ケズリ 外面ヨコナデ
1199	B 3	SH1091	土師器	高杯	15.5 底) 10.0	12.0	口) 5/12 底) 1/4	やや粗	良	橙 5YR6/8	内外面ナデ・ハケ、内面ケズリ、 外面指オサエ
1200	B 3	SH1901	土師器	高杯	15.0	(13.7)	口) 1/12 底) 5/12	密	やや軟	橙 7.5YR7/6	マメツ



報告番号	トレンチ	出土地点	器種	器形	口径	器高	残存	胎土	焼成	色調	調整・備考
1201	B 3	SH1901	土師器	高杯杯部	15.2	(7.6)	口) 4.5/12	やや粗	良	橙	内面ハケ外面ヨコナデ・ハケ・指オサエ
1202	B 3	SH1901	土師器	高杯杯部	15.7	(5.9)	口) 1/4	やや粗	やや軟	にぶい赤橙 10YR6/4	内外面ヨコナデ・外面ハケ
1203	B 3	SH1901	土師器	高杯	9.5	(6.1)	口) 1/12 未満	密	やや軟	浅黄橙 7.5YR8/6	外面ミガキ
1204	B 3	SH1901	土師器	高杯	14.7 (脚) 12.6	11.75	1/4	やや粗	良	赤橙 10R6/8	内外面ヨコナデ・ハケ・ケズリ・ナデ
1205	B 3	SH1901	土師器	高杯	14.8 底) 11.4	12.45	口) 1/6 底) 7/12	やや粗	良	明褐 7.5YR5/6	内面ミガキ回転ナデ、外面ヨコナデ・指オサエ・ナデ・ハケ
1206	B 3	SH1901	土師器	高杯	16.2	(11.8)	口) 5/12	粗	良	橙 2.5YR6/8	内外面ヨコナデ・ハケ・ケズリ
1207	B 3	SH1901	土師器	高杯	18.5	(8.2)	5/6	粗	良	明赤褐 2.5YR5/6	内外面ナデ・ハケ、内面ハケ、外面ヨコナデ
1208	B 3	SH1901	土師器	高杯杯部	14.3	(6.8)	11/12	密	やや粗	にぶい橙 7.5YR6/4	内外面ヨコナデ・ハケ
1209	B 3	SH1901	土師器	高杯	15.6	(13.0)	5/12	密	良	橙 5YR6/6	内外面ヨコナデ・ハケ
1210	B 3	SH1901	土師器	高杯	16.6	13.0	口) 5/24	密	やや軟	にぶい橙 7.5YR7/4	内面ケズリ、外面ハケ
1211	B 3	SH1901	土師器	高杯	底) 9.0	(10.3)	底部のみ完存	密	やや軟	橙 7.5YR7/6	内外面指オサエ外面ナデ
1212	B 3	SH1901	土師器	高杯脚部	9.9	(6.5)	底) 1/6	やや粗	良	浅黄橙 10YR8/3	内外面ヘラナデ、内面回転ケズリ
1213	B 3	SH1901	土師器	高杯杯部	21.2	(8.85)	口) 1/4	密	やや軟	橙 7.5YR6/6	内外面ヨコナデ・ハケ
1214	B 3	SH1901	土師器	高杯	21.2	(9.5)	2/3	やや粗	良	赤褐 5YR4/6	内外面ハケ・ナデ、内面指オサエ、外面ヨコナデ
1215	B 3	SH1901	土師器	高杯杯部	24.5	9.8	口) 1/3	粗	良	橙 2.5YR6/8	内外面ヨコナデ・ナデ・ハケ
1216	B 3	SH1901	土師器	高杯	22.8	(7.95)	口) 5/12	密	良	にぶい黄橙 10YR7/4	内外面ヨコナデ・ハケ
1217	B 3	SH1901	土師器	高杯脚部	脚) 10.5	(7.0)	計測不可	やや粗	良	明赤褐 2.5YR	内面ケズリ、外面ミガキ・ヨコナデ
1218	B 3	SH1901	土師器	高杯脚部	11.3	(6.3)	底) 1/2	やや粗	やや軟	にぶい黄橙 10YR7/4	内面ケズリ
1219	B 3	SH1901	土師器	高杯脚部	底) 10.8	8.5	3/4	密	良	橙 7.5YR7/6	内外面ナデ、内面ケズリ、外面ハケ
1220	B 3	SH1901	土師器	高杯脚部	底) 13.4	(6.2)	1/2	密	やや軟	にぶい黄橙 10YR7/4	内面ケズリ
1221	B 3	SH1901	土師器	高杯	底) 11.6	(7.7)	底) 1/6	やや粗	やや軟	橙 5YR6/6	内外面ヨコナデ・ナデ
1222	B 3	SH1901 SP2049	土師器	高杯	-	(5.5)	頸部完存	やや粗	軟	橙 5YR6/6	内外面ナデ
1223	B 3	SH1901	土師器	高杯脚部	底) 10.8	(8.0)	底) 11/12	密	やや軟	浅黄橙 5YR8/6	内面ケズリ・ナデ
1224	B 3	SH1901	弥生土器	高杯杯部	底) 13.9	(10.6)	2/12	やや粗	良	にぶい黄橙 10YR6/4	外面ナデ・ミガキ
1225	B 3	SH1901	土師器	杯	13.1	5.2	1/12	密	やや軟	明黄褐 10YR7/6	外面ヨコナデ・ハケ
1226	B 3	SH1901	土師器	杯	13.0	4.7	2/12	やや粗	良	橙 5YR6/6	内外面ヨコナデ・内面ハケ・外面ケズリ
1227	B 3	SH1901	土師器	鉢	13.6	(5.6)	口) 3/4	密	良	明赤褐 5YR5/8	内外面ナデ、外面ヨコナデ・ハケ
1228	B 3	SH1901	土師器	杯	12.4	(5.2)	3/8	密	やや軟	浅黄橙 10YR8/4	内外面ナデ、外面ハケ
1229	B 3	SH1901	土師器	杯	12.1	5.7	1/2	やや粗	良	橙 7.5YR7/6	内外面ヨコナデ、内面ヨコナデ、外面ケズリ
1230	B 3	SH1901	土師器	鉢	12.4	6.4	7/12	粗	南	7.5YR7/6	内面ナデ・ハケ、外面ヨコナデ
1231	B 3	SH1901	弥生土器	有孔鉢	21.8	15.4	5/12 強	やや粗	良	明褐 7.5YR5/6	内外面ヨコナデ、内面ヘラケズリ、外面ハケ・指オサエ
1232	B 3	SH1901	土師器	鉢	15.6	6.3	1/6	やや粗	良	明褐 7.5YR5/6	内外面ハケ・ナデ・指オサエ

報告 番号	トレンチ	出土地点	器種	器形	口径	器高	残存	胎土	焼成	色調	調整・備考
1233	B 3	SH1901	土師器	ミニチ ユア壺	5.4	4.8	11/12	やや粗	良	にぶい黄橙 10YR6/4	内外面ヨコナデ、外面 指オサエ・指ナデ
1234	B 3	SH1901	土師器	杯	13.2	5.0	1/3	密	良	にぶい黄橙 10YR6/4	内外面ヨコナデ・ハケ、 内面ナデ、外面指頭圧 痕
1235	B 3	SH1901 内SK2052	土師器	壺	9.0	15.0	口) 11/12	密	良	橙 5YR6/6	内外面ヨコナデ・ハケ、 内面指オサエ
1236	B 3	SH1901 内SP2043	土師器	壺	3.2	(6.0)	1/3	やや粗	軟	にぶい黄濁 10YR5/4	マメツ
1237	B 3	SH1901	土師器	底部	孔の 径) 0.5 ~ 0.6	(2.55)	不明	やや粗	良	橙 5YR6/6	内外面ナデ、内面ケズ リ、外面ハケ
1238	B 3	SH1901	土師器	底部	底) 3.6	(3.65)	1/4	やや粗	良	にぶい黄橙 10YR7/3	マメツ
1239	B 3	SH1901	弥生土器	口縁部	26.0	(2.0)	口) 1/12 弱	やや粗	良	灰白 10YR8/2	内面横ヨコナデ、外面 ナデ・浮文(竹管文)
1240	B 3	SH1901	土師器	甕	23.0	4.3	1/8	密	良	にぶい橙 5YR6/4	内外面ナデ、内面ヘラ ケズリ
1241	B 3	SH1901	弥生土器	口縁部	21.4	(3.85)	1/12	密	良	オリープ黒 7.5Y3/1	内外面ミガキ・ハケ
1242	B 3	SH1901	土師器	甕(口 縁部)	17.6	(3.4)	口) 1/12 以下	密	良	明赤褐 5YR5/8	内外面ヨコナデ
1243	B 3	SH1901	土師器	壺口縁 部	15.2	(6.5)	5/24	密	良	橙 5YR6/6	内外面ヨコナデ・ハケ
1244	B 3	SH1901	土師器	甕	13.8	(14.5)	口) 1/4 全) 1/3	やや粗	やや軟	灰黄 2.5Y7/2	内外面ヨコナデ、内面 ケズリ、外面ハケ
1245	B 3	SH1902	土師器	甕	12.0	(13.4)	口) 1/12 以下	やや粗	良	明赤濁 2.5YR5/8	内外面ヨコナデ・ナデ、 内面ケズリ外面ハケ
1246	B 3	SH1901	土師器	甕	4.95	(8.5)	1/4	粗	やや軟	にぶい黄濁 10YR5/4	内面沈線
1247	B 3	SH1901	弥生土器	甕	17.4	(5.0)	1/12	やや粗	やや軟	にぶい黄橙 7.5YR7/4	内外面ハケ・ナデ、内 面ヘラケズリ
1248	B 3	SH1901	土師器	壺	21.5	(9.0)	1/12 弱	やや粗	良	橙 7.5YR6/6	内外面ヨコナデ・外面 ナデ
1249	B 3	SH1901	土師器	甕	14.8	(7.8)	口) 1/4強	密	良	赤褐 5YR2/3	内外面ヨコナデ、内面 ケズリ、外面ハケ
1250	B 3	SH1901 内SK2052	土師器	甕	17.0	(4.7)	1/6	やや粗	良	橙 5YR6/6	内外面ナデ内面・ハケ
1251	B 3	SH1901 内SP2052	土師器	甕	13.6	(5.3)	底) 1/6	粗	良	橙 7.5YR6/8	内外面ヨコナデ・外面 ナデ
1252	B 3	SH1901	土師器	甕	15.0	(4.2)	1/4	やや密	良	橙 5YR6/6	内外面ヨコナデ・ナデ
1253	B 3	SH1901	土師器	甕	16.8	(7.8)	3.5/12	やや粗	やや軟	橙 2.5YR6/8	内外面ヨコナデ、内面 ケズリ、外面ハケ
1254	B 3	SH1901 内SP2043	土師器	甕	底) 13.9	10.6	1/4	やや粗	良	にぶい黄橙 10YR6/4	内外面ナデ・ハケ、内 面ケズリ
1255	B 3	SH1901	土師器	甕	16.8	(12.2)	1/4	やや粗	良	赤褐 5YR4/6	内外面ナデ・ユビオサ エ・ハケ
1256	B 3	SH1901	土師器	甕	14.4	11.2	1/3	やや粗	良	橙 10YR2/2	内外面ヨコナデ・ナデ・ ハケ・ケズリ
1257	B 3	SH1901	土師器	甕	19.1	(6.7)	口) 1/8	粗	良	淡橙 5YR8/3	内外面ヨコナデ、内面 ケズリ・指オサエ、外 面ハケ
1258	B 3	SH1901	土師器	甕	16.4	(7.7)	口) 1 / 2強	やや粗	良	明赤褐 5YR5/6	内外面ナデ・ハケ外面 ヨコナデ
1259	B 3	SH1901	土師器	甕	18.6	(10.8)	1/6	やや粗	良	橙 5YR6/8	内外面ナデ・ハケ、内 面指オサエ
1260	B 3	SH1901	土師器	甕	21.2	(18.9)	口) 1/6	密	良	明褐 7.5YR5/6	内外面ヨコナデ・ハケ
1261	B 3	SH1901	土師器	甕	18.3	28.7	口) 3/4	密	良	にぶい黄橙 10YR7/4	内外面ハケ、内面ケズ リ
1262	B 3	SH1901	土師器	甕	17.0	30.6	9/10	やや粗	良	浅黄橙 7.5YR8/6	内面ケズリ、外面ヨコ ナデ・ハケ
1263	B 3	SH1901	須恵器	高杯 杯部	7.4	(5.55)	口) 1/12	密	堅緻	暗灰 N3/0	内外面回転ナデ、内面 ナデ・外面ヘラケズリ
1264	B 3	SH1901	須恵器	杯身	11.2	4.95	1/12	やや密	やや軟	灰 5Y6/1	内外面回転ナデ、外面 回転ケズリ

報告番号	トレンチ	出土地点	器種	器形	口径	器高	残存	胎土	焼成	色調	調整・備考
1265	B 3	SH1901	須恵器	杯身	10.5	4.1	口) 3/4 全) 11/12	精良	堅緻	灰 N6/0	内外面回転ナデ、外面 回転ヘラケズリ
1266	B 3	SH1901	須恵器	高杯	16.1	(8.3)	杯部) 11/12	精良	堅緻	灰 N4/0	内外面回転ナデ、内面 ヨコナデ、外面回転ヘ ラケズリ
1267	B 3	SH1901	須恵器	高杯 杯部	不明	(4.9)	不明	精良	堅緻	灰 N4/0	内外面回転ナデ、外面 回転ヘラケズリ
1268	B 3	SK2061	土師器	蓋取 手部	取手 径) 3.5	(4.2)	取手 完存	密	良	橙 7.5YR6/6	内外面ハケ・外面指オ サエ・ナデ
1270	B 3	SH1901	石製品	砥石	長さ 7.7	幅 2.5	8/12	-	-	灰黄 2.5YR6/2	1面使用
1271	B 3	SH1901	土製品	甗の 羽口	長さ 6.7	幅 4.8	3/12	密		にぶい黄橙 10YR7/4	手づくね
1272	B 3	SK2061	弥生土器	口縁部	18.0	(3.7)	1/12 以下	密	良	浅黄橙 10YR8/4	内外面ヨコナデ
1273	B 3	SK2061	弥生土器	壺	14.6	(6.7)	1/12 以下	やや粗	やや軟	にぶい黄橙 10YR7/3	内外面ヨコナデ、内面 ナデ、外面ハケ
1274	B 3	SK2061	石製品	磨製 石斧	長さ 6.6	幅 2.2	2/12	-	-	灰 7.5Y5/1	刃部一部残存
1275	B 3	SK2061	弥生土器	高杯	25.8	(3.2)	1/12	やや粗	良	にぶい黄橙 10YR7/4	内外面ヨコナデ・ミガ キ?
1276	B 3	SK2061	弥生土器	高杯	25.8	(4.2)	1/12	やや密	良	にぶい黄橙 10YR7/5	内外面ヨコナデ・ミガ キ
1277	B 3	SK2061	弥生土器	口縁部	26.8	(4.5)	1/12 以下	密	良	橙 7.5YR7/6	内外面ミガキ、外面ヨ コナデ
1278	B 3	SK2061	弥生土器	高杯 口縁部	26.2	(3.5)	口) 1/12	密	良	浅黄橙 10YR8/3	内外面ヨコナデ
1279	B 3	SK2061	弥生土器	高杯	28.0	(4.8)	1/12	密	良	浅黄橙 10YR5/1	内面ヨコナデ・ハケ、 外面擬凹線
1280	B 3	SK2061	弥生土器	壺	27.5	(8.6)	1/12	やや粗	良	にぶい橙 7.5YR7/4	内外面ヨコナデ・ミガ キ
1281	B 3	SK2061	弥生土器	口縁部	18.0	(5.5)	1/6	良	やや軟	灰黄 2.5Y7/2	内外面ヨコナデ、内面 ケズリ・外面ハケ
1282	B 3	SK2061	弥生土器	口縁部	15.6	(4.5)	口) 5/24	密	良	橙 5YR6/6	内外面ヨコナデ・ハケ、 内面ケズリ
1283	B 3	SK2061	土師器	高杯 脚部	11.7	(6.4)	1/2	粗	やや軟	にぶい黄橙 10YR7/3	内外面ヨコナデ・ナデ、 内面ヘラケズリ
1284	B 3	SK2061	土師器	脚部	底) 14.0	(10.8)	2/3	やや粗	良	淡黄 2.5Y8/3	内外面ミガキ、内面ハ ケ
1285	B 3	SK2061	土師器	甕	底) 19.6	(7.4)	1/6弱	やや粗	良	橙 7.5YR6/6	内外面ヨコナデ・ハケ・ 指オサエ
1286	B 3	SK2061	弥生土器	甕	20.6	(12.7)	2/12	やや粗	良	にぶい橙 7.5YR7/3	内外面ヨコナデ、内面 ケズリ、外面ハケ
1287	B 3	SK2061	弥生土器	脚裾部	脚径) 22.3	(4.3)	脚部) 1/4	やや粗	良	橙 5YR7/6	内外面ヨコナデ・ハケ、 内面ハケ、外面ミガキ
1288	B 3	SK2061	弥生土器	甕	底) 5	(6.0)	底) 1/4	やや粗	良	にぶい褐 7.5YR5/3	内外面ナデ、内面ケズ リ、外面ハケ
1289	B 3	SK2061	弥生土器	底部	底) 5.0	(2.8)	7/24	密	良	にぶい黄橙 7.5YR6/4	外面ハケ
1290	B 3	SK2061	弥生土器	底部	底) 7.6 歪みあ り	(2.4)	1/3	密	良	橙 5YR6/6	内外面ナデ
1291	B 3	SK2061	土師器	高杯	底) 9.2	(5.5)	底) 1/2	やや密	やや軟	にぶい黄橙 10YR7/2	マメツ
1292	B 3	SK2061	弥生土器	脚部	10.0	(4.3)	2.5/12	密	良	橙 5YR6/6	内外面ヨコナデ
1293	B 3	包含層	弥生土器	器台 脚部	裾部 径) 12.8	(11.9)	裾部) 7/12	やや粗	やや軟	赤橙 10YR6/8	内面ケズリ・ナデ
1294	B 3	SH1029	弥生土器	長頸 壺?	頸部 径) 6.0	8.0	5/12	密	良	にぶい黄橙 10YR7/13	内外面ナデ・ハケ外面 ミガキ
1295	B 3	包含層	土師器	壺口縁	9.7	(7.55)	口)ほ ぼ完存	やや粗	やや軟	浅黄橙 10YR8/3	内外面ヨコナデ・内面 ナデ
1296	B 3	SK2061	土師器	高杯	底) 11.0	(9.5)	底) 1/12	やや密	良	橙 7.5YR6/6	内外面ナデ、内面ケズ リ、外面ケズリ・ナデ・ 指オサエ
1297	C 1	SK02	須恵器	盤	28.4	(5.8)	1/12 弱	密	堅緻	灰 N6/0	内外面ヨコナデ、東播 系

報告番号	トレンチ	出土地点	器種	器形	口径	器高	残存	胎土	焼成	色調	調整・備考
1298	C 1	SP26	天目	椀	12.4	(3.0)	1/12弱	密	良	灰 N6/0	内外面施釉、瀬戸
1299	C 1	SP26	青磁	椀	12.6	7.6	1/12弱	密	良	釉) 明オリーブ素地) 灰白 N8/0	内外面施釉、中国
1300	C 1	包含層	青磁	椀	14.4	(4.1)	口) 1/12	精良	堅緻	オリーブ灰 10Y5/2	内外面施釉、中国
1301	C 1	包含層	青磁	椀	16.2	(5.9)	1/12強	精良	堅緻	オリーブ灰 10Y6/2	内外面施釉
1302	C 1	SP59	土師器	皿	13.0	(2.9)	1/12弱	粗	良	にぶい黄橙 7.5YR7/3	内外面ヨコナデ、外面ナデ
1303	C 1	包含層	古瀬戸	卸目皿	14.5	(3.2)	口) 1/12以下	精良	堅緻	釉) オリーブ 7.5Y6/2 素地) 灰黄 2.5Y7/2	内外面施釉・素地、外面掘り目痕
1304	C 1	包含層	青磁	鉢	高台) 6.0	(3.8)	1/8	精良	堅緻	釉) オリーブ灰 10Y6/2 象嵌) 明緑 灰 7.5GY8/1	内外面施釉・象嵌、高麗
1306	C 1	包含層	古瀬戸	卸目皿	底) 7.1	(1.6)	1/6	精良	堅緻	釉) オリーブ灰 10Y6/2	内外面施釉、外面卸目痕
1312	C 1	SK19	瓦器	羽釜	22.0	(3.3)	1/12弱	密	良	灰 N6/0	内面ヨコナデ・指オサエ、外面ナデ・貼り付け
1313	C 1	SK16	土師器	皿	7.2	1.5	1/6	密	良	にぶい黄橙 10YR7/2	内外面ナデ、内面ハケ
1314	C 1	SP42	土師器	皿	8.0	1.5	1/8	密	良	にぶい黄橙 10YR7/4	内外面ヨコナデ・ナデ
1315	C 1	包含層	青白磁	合子身	底) 5.45	2.2	高台) 1/6	精良	堅緻	釉明緑灰 7.5GY7/1 素地) 浅黄橙 10YR8/3	内外面施釉、蓮弁文、中国
1316	C 1	包含層	青磁	皿	高台) 5.6	(2.0)	1/3	精良	堅緻	釉) オリーブ灰 10Y6/2 素地) にぶい褐 7.5YR5/3	内外面施釉、外面口クロケズリ、中国
1317	C 1	包含層	青磁	椀	13.0	(5.3)	1/12強	密	良	釉) 灰オリーブ 7.5Y6/2 素地) にぶい橙 7.5YR7/4	内外面施釉、中国
1318	C 1	SK19	瓦器	鍋	23.0	(1.8)	1/12弱	密	良	灰 N5/0	内外面ヨコナデ、内面ハケ、外面ナデ
1319	C 1	SP32	瓦器	鍋	15.0	(2.5)	1/24強	やや粗	良	黄灰 2.5Y4/1	内外面ナデ
1320	C 1	SP31	瓦器	鉢	20.0	(4.5)	1/24	やや粗	良	黄灰 2.5Y4/1	内外面ヨコナデ・内面ハケ、外面指オサエ
1321	C 1	包含層	青磁	椀	15.0	(3.0)	1/12以下	密	良	釉) オリーブ灰 10YR6/2	内外面施釉、内面模様
1322	C 1	包含層	青磁	椀	15.0	(4.3)	1/24	密	良	釉)	内外面施釉
1323	C 1	包含層	白磁	皿	高台) 3.75	(1.7)	底) 3/4	密	堅緻	釉) 灰白 2.5Y8/1 素地) 灰白 2.58/1	内外面施釉、外面ヨコナデ
1324	C 1	包含層	常滑	甕	-	(6.5)	1/12以下	密	堅緻	にぶい赤褐 5YR4/3	内外面回転ナデ・ヨコナデ
1325	C 1	包含層	瓦器	鉢	29.4	(5.4)	口) 1/12	密	良	灰 N6/0	内外面ナデ、内面ハケ、外面ヨコナデ
1326	C 1	包含層	須恵器	鉢	28.6	(5.6)	口) 1/12	やや粗	良	灰 N6/0	内外面回転ナデ、東播系
1327	C 1	包含層	須恵器	鉢	26.4	(5.0)	口) 1/6	やや粗	良	青灰 5PB6/1	内外面回転ナデ、東播系
1328	C 1	包含層	瓦器	鍋	25.7	(6.5)	口) 1/12以下	密	良	灰褐 7.5YR5/2	内外面ヨコナデ・ナデ、内面ケズリ、外面指頭圧痕
1329	C 1	包含層	須恵器	鉢	28.8	4.5	口) 1/3	やや粗	堅緻	灰 N5/0	内外面ヨコナデ、東播系
1330	C 1	包含層	瓦器	鍋	30.3	(5.4)	口) 1/6	密	良	灰 N4/0	内外面ハケ、内面ヨコナデ、外面ナデ
1331	C 1	SP74	瓦器	鍋	29.0	(3.2)	1/8	密	良	灰 N6/0	内外面ヨコナデ、外面指オサエ
1332	C 1	SP62	土師器	皿	8.0	1.9	完存	密	良	浅黄橙 10YR8/4	内外面ヨコナデ・ナデ、外面指オサエ
1333	C 1	SP76	須恵器	鉢	-	(3.7)	1/12	密	堅緻	灰 N6/0	内外面ヨコナデ
1334	C 1	SP64	土師器	皿	11.6	2.2	1/12	密	良	橙 5YR7/6	内外面ヨコナデ・ナデ
1335	C 1	SP70	土師器	皿	12.0	(2.9)	1/12	密	良	浅黄橙 10YR8/4	内外面ナデ
1336	C 1	SP65	土師器	皿	15.0	(2.2)	1/8	密	良	にぶい黄橙 10YR6/3	内外面ヨコナデ・ナデ
1337	C 1	SP74	土師器	皿	12.0	1.6	1/12弱	密	良	にぶい橙 7.5YR7/3	内外面ナデ・外面指オサエ

報告番号	トレンチ	出土地点	器種	器形	口径	器高	残存	胎土	焼成	色調	調整・備考
1338	C 1	SP72	土師器	皿	15.0	(2.3)	1/12弱	密	良	橙 7.5YR7/6	内外面ヨコナデ、外面ナデ
1339	C 1	SP66	土師器	皿	8.0	1.7	1/12弱	密	良	灰オリーブ 5Y6/2	内外面ナデ、内面ハケ、外面指オサエ
1340	C 1	SP73	土師器	皿	7.4	2.0	1/4	密	良	浅黄橙 7.5YR8/6	内外面ナデ
1341	C 1	SP66	瓦器	鍋	30.0	(2.5)	1/24	密	良	灰 N6/0	内外面ヨコナデ
1342	C 1	SP98	回土師	皿	9.0	(2.1)	5/6	密	良	橙 5YR6/6	内外面回転ナデ
1343	C 1	SP76	瓦器	鍋	26.2	(2.5)	1/12	密	良	灰 N4/0	内外面ヨコナデ、外面指オサエ
1344	C 1	SP80	土師器	皿	12.0	1.9	1/12弱	密	良	浅黄橙 7.5YR8/4	内外面ナデ
1345	C 1	SP80	土師器	皿	16.0	2.3	1/12	密	良	にぶい黄橙 10YR7/4	内外面ナデ
1346	C 1	SP94	土師器	皿	7.8	1.0	1/12強	密	良	橙 7.5YR7/6	内外面ナデ
1347	C 1	SP80	土師器	皿	13.0	(2.6)	2/12	密	良	にぶい橙 7.5YR7/4	内外面ヨコナデ
1348	C 1	SP92	回土師	皿	7.0	1.9	6/12	密	良	にぶい橙 5YR7/4	内外面回転ナデ
1349	C 1	SP76	古瀬戸	端反皿	12.4	(1.7)	1/8	密	良	釉) 透洗茶緑 素地) 灰 N8/0	内外面施釉
1350	C 1	SP80	土師器	皿	8.4	15.0	1/4	密	良	浅黄橙 10YR8/4	内外面ナデ
1351	C 1	SP82	土師器	皿	15.2	2.0	1/12	密	良	にぶい黄橙 10YR7/4	外面ヨコナデ
1352	C 1	SP93	土師器	鍋	28.2	(3.0)	1/12	やや密	良	浅黄橙 10YR8/3	内面ヨコナデ
1353	C 1	SP76	土師器	皿	8.4	1.8	3/8	密	良	にぶい黄橙 7.5YR7/3	内外面ヨコナデ
1354	C 1	包含層	青白磁	合子蓋	7.4	(1.6)	口) 1/6	精良	堅緻	灰白 5GY8/1	内外面施釉、中国
1355	C 1	包含層	青磁	椀	高台) 5.6	(3.8)	1/3	密	堅緻	明オリーブ(灰素地) 灰 N8/0	内外面施釉、中国
1356	C 1	包含層	土師器	台付皿	6.9	4.5	1/4	やや密	良	浅黄橙 10YR8/4	内外面ヨコナデ
1357	C 1	包含層	陶器	播鉢	14.8	(7.1)	底) 1/3	密	良	橙 5YR6/6	内面ナデ・播り目痕、外面回転ナデ
1358	C 1	包含層	青磁	皿	11.0	(5.4)	1/4弱	精良	堅緻	釉) 灰緑色	内外面施釉、内面櫛目文、外面削り出し
1359	C 1	包含層	回土師	皿	7.7~8.4	1.8	ほぼ完存	やや密	良	にぶい橙 5YR7/4	内外面回転ナデ
1360	C 1	包含層	土製品	土錘	5.8	3.6	11/12強	密	良	明黄褐 10YR7/6	手づくね
1361	C 1	包含層	土師器	鍋	25.0	(10.3)	1/12以下	やや粗	良	橙 7.5YR7/6	内外面ヨコナデ・指オサエ、外面
1363	C 1	SP146	土師器	皿	8.2	(1.6)	1/6強	密	良	浅黄橙 7.5YR8/4	内外面ナデ
1364	C 1	SP133	土師器	皿	17.6	2.7	1/12強	密	良	にぶい黄橙 10YR7/3	内外面ナデ、外面ヨコナデ
1365	C 1	SK102	土師器	皿	15.6	2.9	7/12	密	良	浅黄橙 7.5YR8/3	内外面ヨコナデ・ナデ、外面指オサエ
1366	C 1	SK115	瓦器	椀	14.4	(2.2)	1/12弱	密	良	褐灰 10YR5/1	内外面ヨコナデ
1367	C 1	SP127	回土師	皿	8.8	1.7	1/8	密	良	橙 5YR7/6	内外面回転ナデ
1368	C 1	SP138	土師器	皿	8.2	1.7	完存	密	良	橙 7.5YR7/6	内外面ヨコナデ、外面ナデ
1369	C 1	SP108	土師器	皿	8.0	1.7	1/12弱	密	良	にぶい黄橙 10YR7/3	内外面ヨコナデ、外面ナデ
1370	C 1	SP126	回土師	皿	8.9	1.7	5/8	密	良	橙 5YR6/6	内外面回転ナデ
1371	C 1	SP126	回土師	皿	8.4	1.6	1/8	密	良	橙 7.5YR7/6	内外面回転ナデ
1372	C 1	SP126	回土師	皿	7.5	1.2	1/8	密	良	にぶい黄橙 10YR7/3	内外面回転ナデ
1373	C 1	SP126	陶器	鉢	-	(2.2)	1/24	やや密	良	にぶい赤褐 5YR5/3	内外面施釉
1374	C 1	SP126	回土師	皿	9.4	1.6	底) 1/4 口) 1/24	密	良	浅黄橙 10YR8/4	内外面ヨコナデ・ナデ
1375	C 1	SP126	回土師	皿	8.8	2.0	5/24	密	良	橙 7.5YR7/6	内外面ヨコナデ・ナデ
1376	C 1	SP126	土師器	皿	15.8	(2.9)	1/12弱	密	良	橙 5YR7/6	内外面ヨコナデ
1377	C 1	SP126	瓦器	鍋	23.0	(8.8)	1/12	密	良	暗灰 N3/0	内外面ヨコナデ・ナデ、内面ハケ、外面指オサエ
1378	C 2	SK02	須恵器	鉢	20.0	(4.3)	1/12	粗	良	青灰 5B5/1	ロクロナデ・東播系
1379	C 2	SK06	瓦器	羽釜	29.0	(7.9)	1/12	粗	軟	灰 N6/0	ハケ

報告番号	トレンチ	出土地点	器種	器形	口径	器高	残存	胎土	焼成	色調	調整・備考
1380	C 2	SK08	唐津	皿	(底) 4.2	(1.8)	(底) 1/1	粗	良	にぶい橙 7.5YR6/4・ 釉調灰緑色	ロクロケズリ
1381	C 2	SP39	瓦器	羽釜	6.2	(2.5)	1/4	粗	軟	灰 N5/0	ミニチュア
1382	C 2	SP148	青磁	椀	13.8	(3.7)	1/12 以下	良	堅緻	釉：緑灰、断面：灰	中国龍泉窯
1383	C 2	SP30	備前	播鉢	不明	不明	1/12	粗	良	明赤褐 2.5YR5/8	スリ目
1384	C 2	SP58	陶器	椀	13.4	(2.2)	1/12 以下	良	堅	釉：黒ところどころ 青、断面：黒	黒釉
1385	C 2	SK185	土師器	鍋	22.8	(5.4)	1/6	粗	軟	にぶい橙 5YR6/3	ヨコナデ・タタキ
1386	C 2	SP58	陶器	平椀	18.8	(5.7)	1/12 以下	良	良	釉) 緑灰、灰白	古瀬戸
1387	C 2	SP178	青磁	椀	15.8	(4.7)	1/12 以下	良	堅緻	緑灰、灰白	中国龍泉窯
1389	C 2	SP403	土製品	鞆羽口	(5.6)	(5.5)	1/12	粗	良	橙 5YR7/6、内面橙 5YR7/8	-
1390	C 2	SP325	土師器	皿	8.6	1.8	11/12	粗	軟	にぶい橙 7.5YR7/4	ヨコナデ
1391	C 2	SK392	土師器	皿	9.0	1.7	1/12	粗	軟	明褐灰 7.5YR7/1	ヨコナデ
1392	C 2	SK392	土師器	皿	9.0	1.8	1/1	良	軟	淡黄 2.5Y8/4	ヨコナデ
1393	C 2	SP397	土師器	皿	9.2	1.7	1/4	良	軟	灰白 5Y7/1	ヨコナデ
1394	C 2	SD421	土師器	皿	8.2	2.0	1/1	粗	軟	明赤褐 5YR5/8、灰 5Y6/1	ヨコナデ
1395	C 2	SP491	土師器	皿	7.8	1.8	11/12	粗	軟	にぶい橙 7.5YR7/3	ヨコナデ
1396	C 2	SP416	土師器	皿	12.6	2.8	1/4	粗	軟	浅黄橙 7.5YR8/4	ヨコナデ
1397	C 2	SP532	土師器	皿	11.2	2.9	5/6	粗	軟	にぶい黄橙 10YR7/3	ヨコナデ
1398	C 2	SP597	土師器	皿	12.0	2.8	1/4	粗	軟	橙 5YR6/6	ヨコナデ
1399	C 2	SP628	土師器	皿	7.8	1.7	1/4	粗	軟	にぶい黄橙 10YR8/4	ヨコナデ
1400	C 2	SP661	土師器	皿	12.6	2.7	1/2	粗	軟	淡黄 2.5Y8/3	ヨコナデ
1402	C 2	SK392	青磁	椀	(底) 5.4	1.7	底部 5/6	良	堅緻	釉：緑灰、断面：灰	中国龍泉窯
1403	C 2	SP510	白磁	皿	11.6	2.6	1/4	良	堅緻	釉：白、断面：白	中国製
1404	C 2	SK515	古瀬戸	皿	12.2	(1.7)	1/12	良	良		ロクロナデ
1405	C 2	SK581	土師器	皿	12.4	3.0	5/6	粗	軟	橙 5YR7/8	ヨコナデ
1406	C 2	SK581	土師器	皿	12.4	2.8	1/2	粗	軟	黄橙 7.5YR7/8	ヨコナデ
1407	C 2	SP593	瓦器	火鉢	不明	不明	1/12 以下	粗	軟	外面：にぶい橙 7.5YR7/3、内面：灰 N5/0	ナデ・刻み目
1408	C 2	SK581	土師器	皿	8.2	1.8	1/1	粗	軟	橙 5YR7/6	ヨコナデ
1409	C 2	SK581	土師器	皿	7.8	1.5	11/12	粗	軟	にぶい橙 7.5YR7/4	ヨコナデ
1410	C 2	SK581	土師器	皿	7.6	1.8	1/1	良	軟	淡黄 2.5Y8/4	ヨコナデ
1411	C 2	SK581	陶器	壺	不明	不明	1/12	良	堅緻	灰褐 7.5YR6/2	黒釉
1412	C 2	SK581	土師器	皿	7.8	1.7	11/12	良	軟	にぶい黄橙 10YR7/3	ヨコナデ
1413	C 2	SP597	土師器	皿	8.8	1.2	1/4	粗	軟	橙 5YR6/8	ヨコナデ
1414	C 2	SK581	土師器	皿	13.4	2.9	5/12	粗	軟	にぶい橙 7.5YR7/4	ヨコナデ
1415	C 2	SK581	土師器	皿	13.2	2.7	1/2	粗	軟	浅黄橙 7.5YR8/3	ヨコナデ・二段ナデ
1416	C 2	SP664	土師器	鍋	30.0	5.9	1/12 以下	粗	軟	褐灰 7.5YR6/1	ヨコナデ・平行タタキ、 播丹型
1417	C 2	SK701	土師器	皿	8.0	1.6	完形	粗	軟	橙 2.5YR6/8	ヨコナデ
1418	C 2	SP856	瓦器	皿	9.6	1.3	1/4	良	良	灰 N5/0	ヨコナデ・灯明痕
1419	C 2	包含層	青白磁	合子	5.2	2.0	7/12	良	堅緻	釉) 淡青白	型押し
1420	C 2	包含層	古瀬戸	瓶子	17.2	(4.4)	1/12	良	良	釉) 黒褐、黄白	印刻
1421	C 2	包含層	丹波	甕	不明	不明	1/12	粗	良	にぶい赤褐 2.5YR4/4	口縁内側に段
1423	C 2	包含層	丹波	播鉢	30.6	(6.8)	1/12	粗	良	茶褐、明褐	一条ごとへら沈線
1424	C 2	包含層	須恵器	鉢	26.6	(5.0)	1/12	粗	良	灰 N6/0	東播系
1425	C 2	包含層	丹波	鉢	34.0	15.6	1/4	粗	良	橙 5YR7/8、灰白 10YR8/2	一条ごとへら沈線
1426	C 2	包含層	青磁	壺	28.2	(6.1)	1/12	良	堅緻	釉) 緑灰、灰	中国製 四耳壺か
1428	C 2	第2面	青花	皿	14.0	(1.8)	1/12	良	堅緻	釉) 灰白	染付け青花
1429	C 2	第2面	回土師	杯	(底) 6.6	(2.2)	1/2	粗	軟	浅黄橙 7.5YR8/6	回転ナデ
1430	C 2	第2面	白磁	皿	(底) 8.2	(1.5)	1/4	良	堅緻	釉) 灰白	中国製・くちはげ皿
1431	C 2	第2面	青磁	椀	(底) 4.0	(1.6)	1/2	良	堅緻	釉) 灰	中国製

報告番号	トレンチ	出土地点	器種	器形	口径	器高	残存	胎土	焼成	色調	調整・備考
1432	C 2	第2面	白磁	椀	17.2	(3.4)	1/12	良	堅緻	釉) 灰白	中国製Ⅲ類
1433	C 2	第2面	白磁	椀	(底) 3.0	(4.3)	1/12	良	堅緻	釉) 灰白	中国製Ⅴ類
1434	C 2	第1面	陶器	壺	(底) 6.0	(1.9)	5/12	良	良	灰～黄白	渦巻スタンプ文
1435	C 2	第2面	古瀬戸	蓋	3.8	1.3	完形	良	良	釉) 黄緑、黄灰	ロクロナデ
1436	C 2	第1面	常滑	甕	不明	不明	1/12	粗	良	茶褐	口縁端部上下肥厚
1437	C 2	第2面	回土師	皿	8.0	1.8	11/12	粗	軟	橙 2.5YR7/8	回転ナデ
1438	C 2	第2面	瓦器	皿	8.8	1.7	11/12	良	やや軟	灰 N4/0、灰白 N8/	ヨコナデ
1439	C 2	第2面	土製品	鞆羽口	(7.8)	(5.3)	1/12	粗	軟	暗灰 N3/0、橙 2.5YR7/8	手づくね
1440	C 2	第2面	越前	播鉢	(底) 12.0	(2.4)	1/2	粗	良	赤灰 2.5YR4/1	高台あり
1441	C 2	第2面	越前	播鉢	(底) 10.0	(2.4)	1/4	良	良	暗赤 10R3/6	内面スリ目
1442	C 2	第2面	土師器	羽釜	29.4	(5.9)	1/6	粗	軟	灰白 2.5Y8/1	ナデ・ハケ
1443	C 2	第2面	須恵器	鉢	26.0	(5.0)	1/6	粗	良	灰 N5/0	東播系
1444	C 2	第2面	瓦器	鍋	33.0	(11.5)	1/4	粗	軟	暗灰 N3/0	ハケ
1445	C 2	第2面	瓦器	鉢	43.6	(7.0)	1/12	良	やや軟	黒 N2/0、灰白 N8/0	奈良火鉢
1446	C 2	第2面	陶器	甕	43.4	(8.7)	1/12	粗	良	茶褐 2.5YR4/6	常滑
1447	C 2	第2面	回土師	杯	13.8	4.2	完形	粗	軟	黄橙 7.5YR7/8	回転ナデ
1448	C 2	第2面	越前	播鉢	不明	不明	1/12	粗	良	橙 5YR6/8	片口
1449	C 2	SX1199	土製品	鞆羽口	(5.0)	(6.2)	1/12	粗	軟	黒 N2/0、橙 5YR7/8	
1450	C 2	SP700	回土師	杯	16.8	4.7	完形	粗	軟	黄橙 7.5YR7/8	回転ナデ
1451	C 2	SK701	須恵器	鉢	30.0	(3.7)	1/12	粗	良	灰 N5/0	ヨコナデ・東播系
1452	C 2	SK701	土師器	皿	7.8	1.7	2/3	粗	軟	明褐灰 7.5YR7/2	ヨコナデ
1453	C 2	SK701	回土師	皿	8.2	1.5	5/12	粗	軟	にぶい橙 7.5YR7/4	ヨコナデ
1454	C 2	SP730	土師器	皿	9.8	2.1	1/4	粗	軟	にぶい橙 5YR7/4	ヨコナデ・二段ナデ
1455	C 2	SK701	土師器	皿	12.6	3.2	完形	粗	軟	にぶい黄橙 10YR7/4	ヨコナデ
1456	C 2	SK701	土師器	皿	13.0	3.0	1/4	粗	軟	橙 5YR6/8	ヨコナデ
1457	C 2	SK701	土師器	皿	12.6	3.0	完形	粗	軟	橙 2.5YR6/6	ヨコナデ
1458	C 2	SK701	瓦器	鍋	不明	不明	1/12	粗	軟	灰 N5/0	ヨコナデ
1459	C 2	SK702	回土師	皿	8.0	1.9	完形	粗	軟	橙 2.5YR6/8	回転ナデ
1460	C 2	SK702	回土師	杯	13.1	4.6	1/3	粗	軟	橙 5YR6/6	回転ナデ
1461	C 2	SK710	土師器	台付皿	10.4	3.2	2/3	粗	軟	浅黄 2.5Y7/4	回転ナデ・中空
1462	C 2	SK710	土師器	皿	12.4	2.4	5/12	粗	軟	浅黄 2.5Y7/4	ヨコナデ
1463	C 2	SP704	土師器	台付皿	8.1	3.3	11/12	粗	軟	橙 2.5YR6/6	回転ナデ・中空
1464	C 2	SP807	回土師	台付杯	(8.6)	(3.7)	1/12	粗	軟	橙 5YR6/8	回転ナデ・柱状高台
1465	C 2	SP807	青磁	皿	16.8	(2.5)	1/6	良	堅緻	緑灰	中国製
1466	C 2	SP807	回土師	杯	13.8	4.5	1/4	粗	軟	橙 5YR7/6	回転ナデ
1467	C 2	SP807	回土師	杯	13.4	4.9	2/3	粗	軟	橙 5YR7/8	回転ナデ
1468	C 2	SP814	土師器	皿	11.3	2.9	1/4	粗	軟	橙 7.5YR7/6	ヨコナデ・二段ナデ
1469	C 2	SK844	瓦器	皿	9.3	(1.5)	1/12	良	やや軟	灰 N6/0	ヨコナデ
1470	C 2	SK844	回土師	皿	8.6	1.6	5/6	粗	軟	橙 7.5YR7/4	回転ナデ
1471	C 2	SP890	土師器	皿	7.6	2.0	5/6	粗	軟	浅黄橙 7.5YR8/3	ヨコナデ
1472	C 2	SP890	土師器	皿	7.8	1.8	1/1	粗	軟	にぶい橙 5YR7/4	ヨコナデ・二段ナデ
1473	C 2	SP822	土師器	鍋	24.8	(11.6)	1/4	粗	軟	灰黄 2.5Y7/2	ハケ
1474	C 2	SP923	瓦器	羽釜	21.8	(9.8)	1/12	粗	軟	灰 N5/0	ハケ
1475	C 2	SP833	須恵器	播鉢	(底) 11.4	(6.5)	1/4	粗	軟	灰白 10YR7/1	5～8条のスリ目
1476	C 2	SP1012	陶器	播鉢	30.0	(6.0)	1/4	粗	良	灰赤 2.5YR5/2、橙 2.5YR7/8	11条のスリ目・越前か
1477	C 2	SP1200	土師器	鍋	29.8	(8.0)	1/12	粗	軟	にぶい黄橙 10YR7/4	ハケ
1478	C 2	SP1312	土師器	皿	14.0	2.8	1/2	粗	軟	橙 2.5YR7/8	ヨコナデ
1479	C 2	SP1333	弥生土器	脚部	(底) 12.6	(3.7)	1/4	粗	軟	浅黄 2.5Y7/4	円孔
1480	C 2	SP1331	土師器	甕	21.8	(5.3)	1/12	密	良	橙 7.5YR6/6、5YR6/8	ヨコナデ・ハケ
1481	C 2	SH1401	土師器	高杯	14.8	(5.65)	1/12	密	やや軟	橙 7.5YR7/6	ヨコナデ・ハケ・接合面
1482	C 2	SH1401	土師器	壺	7.1	8.3	2/3	密	やや軟	灰白 10YR8/1、灰黄褐 10YR6/2	小型丸底

報告番号	トレンチ	出土地点	器種	器形	口径	器高	残存	胎土	焼成	色調	調整・備考
1483	C 2	SH1401	土師器	壺	7.2	8.55	7/12	密	良	橙 7.5YR6/6、にぶい黄橙 10YR7/2	小型丸底
1484	C 2	SH1401	土師器	甕	15.3	(6.7)	2.5/12	やや粗	良	にぶい橙 5YR7/4、淡褐 5YR8/4	ハケ・ケズリ
1485	C 2	SH1401	土師器	高杯	(底) 11.0	(8.0)	7/12	やや粗	良	橙 7.5YR6/6	ナデ
1486	C 2	SH1401	土師器	高杯	(底) 10.8	(7.5)	1/4	やや粗	良	黄橙 7.5YR7/8	ナデ
1487	C 2	SH1400	須恵器	杯	10.0	(4.4)	1/4	密	良	灰 N5/0	回転ヘラケズリ
1488	C 2	SH1401	土師器	高杯	17.9	14.7	3/4	やや粗	良	にぶい橙 7.5YR6/4	ヨコナデ・ナデ
1489	C 2	SH1401	土師器	甕	20.6	(5.8)	1/4	密	良	橙 5YR6/6	ヨコナデ・ハケ
1490	C 2	SH1401	土師器	甕	17.1	(17.1)	完径	やや粗	良	橙 7.5YR6/6、灰黄褐 10YR6/2	ハケ・ケズリ
1491	C 2	SH1401	土師器	甕	(19.0)	26.4		粗	良	灰白 10YR8/1	ハケ・ケズリ
1492	C 2	SH1402	須恵器	杯蓋	(12.4)	(3.0)	1/6	密	良	灰黄 2.5Y65/2、灰白 2.5Y7/1	回転ヘラケズリ
1493	C 2	SP1418	弥生土器	壺	8.0	(3.7)	1/6	密	やや軟	にぶい黄橙 10YR6/4	円孔2ヶ所
1494	C 2	SP1418	土師器	甕	不明	(4.8)	1/6	密	良	橙 7.5YR6/6、褐 7.5YR4/3	ハケ
1495	C 2	SP1431	弥生土器	甕	19.0	(6.1)	1/4	やや粗	良	橙 7.5YR7/6	擬凹線
1496	C 2	SD1455	弥生土器	鉢	20.9	(5.2)	1/3	やや粗	良	橙 2.5YR6/6	擬凹線・ミガキ
1497	C 2	SH1402	弥生土器	甕	(底) 5.7	(7.7)	完径	粗	良	赤褐 10YR4/4	ミガキ・ハケ
1498	C 2	SP1431	弥生土器	甕	(底) 4.0	(5.8)	1/2	粗	良	にぶい橙 7.5YR6/4	ハケ
1499	C 2	SP1564	弥生土器	甕	(底) 3.5	(2.9)	1/3	やや粗	良	暗青灰 5PB3/1	ハケ
1500	C 2	SK1456	土師器	甕	30.0	(13.0)	1/4	密	やや軟	暗赤褐 5YR5/6、赤褐 5YR4/6	ハケ・ケズリ
1501	C 2	SD1573	弥生土器	壺	13.7	(8.0)	3/4	粗	やや軟	橙 5YR7/8	擬凹線
1502	C 3	SK28	土師器	皿	7.8	1.5	3/12	粗	軟	浅黄橙 10YR8/4	外面二段ナデ
1503	C 3	SP65	土師器	皿	9.8	2.3	7/12	粗	軟	浅黄橙 7.5YR8/4	ユビオサエ
1504	C 3	SK28	土師器	皿	12.8	2.7	3/12	粗	軟	浅黄橙 10YR8/4	内外面ヨコナデ
1505	C 3	SP62	陶器	天目茶碗	11.6	(2.8)	1/12以下	良	良	釉黒褐色断面灰色	全面鉄釉
1506	C 3	SP32	陶器	香炉	11.4	6.9	3/12	良	良	釉黄緑断面灰白色	古瀬戸・脚
1507	C 3	SP48	回土師	杯	底) 6.2	(1.8)	底部 6/12	粗	軟	浅黄橙 10YR8/4	外面回転ナデ
1508	C 3	包含層	青磁	椀	-	(3.9)	1/12	良	堅緻	釉緑灰色断面灰色	中国龍泉窯、外面ロケケズリ
1509	C 3	SP110	瓦器	羽釜	-	-	1/12以下	粗	やや軟	灰 N5/0	外面ナデ
1510	C 3	SP135	陶器	甕	-	-	1/12以下	粗	良	赤褐 2.5YR4/6	外面ナデ・常滑
1511	C 3	SP186	土師器	皿	11.4	2.5	1/12	粗	軟	浅黄橙 10YR8/4	外面ヨコナデ
1512	C 3	SP201	陶器	甕	不明	不明	1/12以下	粗	良	橙 2.5YR6/6	内外面ヨコナデ
1513	C 3	SK211	陶器	鉢	19.8	(5.0)	1/12	粗	良	赤褐 2.5YR4/6	内外面ヨコナデ
1514	C 3	SP201	瓦器	羽釜	27.0	(5.4)	1/12以下	粗	軟	灰 N6/0	内外面ヨコナデ
1515	C 3	SK218	陶器	甕	底) 32.4	(6.1)	1/12以下	粗	良	にぶい赤褐 5YR5/4	内外面ナデ
1516	C 3	SD220	瓦器	すり鉢	20.6	(8.9)	1/12	粗	やや軟	灰 N6/1	内面一条の沈線
1517	C 3	SD220	陶器	鉢	18.2	(5.1)	1/12以下	良	良	赤褐 2.5YR4/6	外面回転ナデ
1518	C 3	SP285	瓦器	すり鉢	30.5	(4.1)	1/12以下	粗	やや軟	灰 N4/0	内外面ヨコナデ
1519	C 3	SD220	土師器	皿	14.0	(2.8)	1/12	粗	軟	浅黄橙 10YR8/4	外面ヨコナデ
1520	C 3	SP225	土師器	皿	15.0	1.5	1/12	粗	軟	灰白 2.5Y8/2	ヨコナデ
1521	C 3	SD220	土師器	皿	10.8	(2.4)	1/12	粗	軟	橙 7.5YR7/6	内外面ヨコナデ
1522	C 3	SD220	土師器	皿	11.4	(2.9)	2/12	粗	軟	浅黄橙 10YR8/4	外面ヨコナデ
1523	C 3	SD220	土師器	皿	10.8	2.8	3/12	粗	軟	浅黄橙 10YR8/4	内外面ヨコナデ
1524	C 3	SD237	土師器	皿	11.2	3.4	3/12	粗	軟	橙 7.5YR7/6	内外面ヨコナデ
1525	C 3	SD299	瓦器	すり鉢	22.6	7.6	1/12	粗	やや軟	灰 NN5	外面ナデ



報告番号	トレンチ	出土地点	器種	器形	口径	器高	残存	胎土	焼成	色調	調整・備考
1526	C 3	SP304	瓦器	すり鉢	14.0	(3.4)	底部3/12	粗	軟	黒 N2/0 断面灰 N8/0	1単位5条のすり目
1527	C 3	包含層	青磁	壺	底) 11.0	(5.4)	底部3/12	粗	堅緻	釉調灰色断高灰白色	外面ロクロナデ・縦方向に溝・高麗象嵌
1530	C 3	SE401	回土師	杯	15.0	(3.4)	1/12以下	粗	軟	橙 5YR7/8	回転ナデ
1531	C 3	SE401	土師器	杯	15.0	(4.3)	1/12	粗	軟	にぶい橙 7.5YR7/3	ヨコナデ
1532	C 3	SE401	回土師	杯	11.6	(3.5)	1/12	粗	軟	にぶい黄橙 10YR7/3	回転ナデ
1533	C 3	SE401	回土師	杯	14.0	(3.5)	1/12	粗	軟	にぶい黄橙 10YR7/3	回転ナデ
1534	C 3	SE401	陶器	鉢	底径 11.2	(6.5)	底部5/12	粗	良	橙 5YR6/6	ケズリ
1535	C 3	SE401	土製品	土錘	幅 3.3	長 4.8	完存	粗	軟	灰白 2.5Y8/2	ユビオサエ
1536	C 3	SE401	青磁	椀	-	-	1/12以下	良	堅緻	釉明緑灰色断面灰白色	中国龍泉窯・鎬蓮弁文
1537	C 3	SE401	須恵器	杯	底径 9.7	(1.5)	1/12以下	良	良	灰白 N8/0	回転ナデ
1538	C 3	SE401	陶器	すり鉢	底径 12.6	(2.0)	3/12	良	良	赤褐 10R6/8	底部見込み格子目状
1539	C 3	SE401	瓦器	羽釜	23.8	(6.0)	1/12以下	良	やや軟	(外) 黒 N2/0 (内) 灰白 N8/0	ヨコナデ
1540	C 3	SE401	瓦器	鉢	27.6	(4.9)	1/12以下	粗	軟	暗灰 N3/0	ナデ
1541	C 3	SE402	瓦器	羽釜	19.0	(3.8)	1/12	密	良	灰 N4/0	ハケ
1542	C 3	SE402	瓦器	鍋	25.6	(3.1)	1/12以下	密	良	暗灰 N3/0	ヨコナデ
1543	C 3	SE402	瓦器	鍋	27.0	(5.0)	1/12以下	密	良	暗灰～灰 N3/0～4/0 灰白 N8/0	ハケ
1544	C 3	SE402	瓦器	鍋	28.0	(9.5)	1/12以下	粗	軟	(外) 黒 N2/0 (内) 灰 N4/	ハケ
1545	C 3	SE402	陶器	甕	-	-	-	粗	良	赤褐 2.5YR4/6	常滑、1557と接合
1546	C 3	SE402	青磁	椀	18.4	(2.0)	1/12以下	良	堅緻	釉緑灰色	中国龍泉窯鎬蓮弁
1547	C 3	SE402	瓦器	羽釜	20.6	(7.5)	1/12以下	粗	やや良	(外) 黒 N2/0 (内) 灰 N4/0	ハケ
1548	C 3	SE402	瓦器	羽釜	18.0	(5.6)	1/12以下	密	良	灰 N4/0～5/0	ユビオサエ
1549	C 3	SE402	瓦器	羽釜	26.5	(6.3)	1.5/12	やや密	良	灰 N4/0	ハケ
1550	C 3	SE402	瓦器	鍋	34.2	6.5	1/12以下	粗	軟	暗灰 N3/0	ハケ目
1551	C 3	SE402	土師器	皿	11.4	2.3	8/12	粗	軟	浅黄橙 7.5YR8/3	ヨコナデ
1552	C 3	SE402	土師器	皿	7.5	1.6	2/12	やや粗	良	にぶい黄橙 10YR7/2	ヨコナデ
1553	C 3	SE402	土師器	皿	7.8	1.9	8/12	粗	軟	黄灰 2.5Y6/1	ヨコナデ
1554	C 3	SE402	須恵器	杯身	8.5	3.0	3/12	堅緻	良	青灰 5PB5/1	ロクロナデ
1555	C 3	SE402	回土師	杯	底径 6.8	3.0	底部 10/12	粗	軟	浅黄橙 7.5YR8/3	回転ナデ
1556	C 3	SE402	陶器	甕	45.8	(11.0)	1/12以下	粗	良	(外) オリーブ灰 2.5GY5/1 (内) にぶい赤褐 2.5YR4/4	常滑
1557	C 3	SE402	陶器	甕	62.0	(18.0)	1/12	粗	良	にぶい赤褐 2.5YR4/4	常滑
1558	C 3	SP17	回土師	杯	9.0	(1.2)	3/12	粗	軟	橙 5YR7/6	回転ナデ
1559	C 3	包含層	回土師	杯	7.8	3.3	8/12	粗	軟	橙 2.5YR6/8	回転ナデ
1560	C 3	SP431	回土師	杯	底径 5.6	1.1	5/12	粗	軟	橙 7.5YR7/6	回転ナデ
1561	C 3	SK410	陶器	鉢	15.0	(5.5)	3/12	やや粗	良	灰赤 2.5YR4/2	ヘラケズリ
1562	C 3	SP419	土師器	皿	7.6	1.4	5/12	粗	軟	橙 7.5YR7/6	ヨコナデ
1563	C 3	SK458	土師器	皿	7.6	1.8	2/12	粗	軟	にぶい黄橙 10YR7/3	ヨコナデ
1564	C 3	SP454	瓦器	鍋	-	-	1/12以下	良	軟	黒 N2/0	ヨコナデ
1565	C 3	SP470	土師器	皿	7.0	1.8	12/12	粗	軟	浅黄橙 7.5YR8/6	ヨコナデ
1566	C 3	SP464	土師器	皿	9.8	2.6	3/12	粗	軟	橙 2.5YR6/6	
1567	C 3	SP464	土師器	皿	9.8	(2.1)	1/12	粗	軟	灰白 10Y8/2	ユビオサエ
1568	C 3	包含層	回土師	杯	底径 6.0	(2.5)	底径 3/12	やや粗	良	(外) にぶい黄橙 10YR6/3 (内) にぶい橙 7.5YR7/4	回転ナデ
1569	C 3	SP491	回土師	皿	8.0	1.8	8/12	粗	軟	浅黄橙 10YR8/3	回転ナデ

報告 番号	トレンチ	出土地点	器種	器形	口径	器高	残存	胎土	焼成	色調	調整・備考
1570	C 3	SP448	瓦器	鍋	24.0	(6.0)	1/12	粗	軟	黒 N2/0	ハケ
1571	C 3	SP480	回土師	杯	13.4	(3.85)	1/12	密	軟	にぶい橙 7.5YR7/4	回転ナデ
1572	C 3	SP491	土師器	皿	13.8	(2.5)	2/12	粗	軟	橙 7.5YR7/6	ヨコナデ
1573	C 3	SP491	土師器	皿	13.8	2.6	3/12	粗	軟	浅黄橙 10YR8/4	ヨコナデ・ユビオサエ
1574	C 3	SP491	土師器	皿	15.0	2.7	6/12	粗	軟	浅黄橙 10YR8/3	ヨコナデ
1575	C 3	SP611	瓦器	椀	14.4	(3.9)	1/12 強	密	良	灰 N5/0	内外綿暗文
1576	C 3	SE801	回土師	杯	13.8	4.1	5/12	粗	軟	橙 5YR7/6	回転ナデ
1577	C 3	SP491	回土師	杯	12.8	4.0	7/12	粗	軟	橙 2.5YR6/8	回転ナデ
1578	C 3	SP491	回土師	杯	底径 7.0	(1.7)	4/12	粗	軟	橙 7.5YR7/6	回転ナデ
1579	C 3	SP656	土師器	皿	12.4	2.5	3/12	粗	軟	黄灰 2.5Y4/1	マメツ
1580	C 3	SP656	土師器	皿	13.0	(2.7)	1/12	粗	軟	橙 7.5YR7/6	ヨコナデ
1581	C 3	SE801	土師器	皿	13.4	3.0	11/12	粗	軟	灰白 10YR8/2	ヨコナデ・ユビオサエ
1582	C 3	SP513	土師器	皿	8.0	1.2	3/12	粗	軟	橙 5YR6/8	ヨコナデ
1583	C 3	SP550	土師器	皿	9.2	2.4	3/12	粗	軟	にぶい橙 7.5YR7/4	マメツ
1584	C 3	SP698	土師器	皿	7.9	1.3	2/12	粗	軟	にぶい黄橙 10YR7/3	ヨコナデ
1585	C 3	SP623	土師器	皿	11.2	2.7	2/12	粗	軟	浅黄橙 10YR8/4	ヨコナデ
1586	C 3	SP710	土師器	皿	10.0	1.5	1/12	粗	軟	にぶい橙 7.5YR7/4	ヨコナデ
1587	C 3	SK712	土師器	皿	7.8	1.8	6/12	粗	軟	にぶい黄橙 10YR7/3	ヨコナデ
1588	C 3	SE801	土師器	皿	8.4	1.5	12/12	良	軟	浅黄橙 10YR8/4	ヨコナデ
1589	C 3	SE801	回土師	皿	7.8	1.9	8/12	粗	軟	灰黄 2.5Y7/2	回転ナデ
1590	C 3	SP567	回土師	杯	底径 6.2	(2.4)	1/12	粗	軟	橙 5YR7/6	回転ナデ
1591	C 3	SP570	陶器	椀	15.5	(3.9)	1/12 以下	良	良	釉明緑灰色断面灰色	古瀬戸
1592	C 3	SP668	土師器	皿	14.0	(2.3)	1/12 以下	粗	軟	浅黄橙 10YR8/3	ヨコナデ
1593	C 3	SP668	土師器	皿	13.8	(3.1)	1/12 以下	粗	軟	橙 5YR7/6	ヨコナデ
1594	C 3	SP668	土師器	皿	13.4	(2.6)	1/12 以下	粗	軟	にぶい黄橙 10YR7/2	ヨコナデ
1595	C 3	SE801	須恵器	杯	底径 11.0	(1.2)	1/12	粗	軟	灰 N6/0	回転ナデ
1596	C 3	SE801	土師器	台付皿	5.0	(2.9)	1/12	粗	軟	橙 5YR7/6	ヨコナデ
1598	C 3	包含層	陶器	鉢	12.0	(7.7)	2/12	密	堅緻	灰褐 7.5YR4/2	5条1単位の溝
1599	C 3	包含層	土師器	甕	14.9	(4.3)	2/12 弱	やや粗	良	にぶい橙 7.5YR6/4	ヨコナデ
1600	C 3	SP802	須恵器	杯	14.0	10.0	完存	やや密	堅緻	灰 5Y5/1	回転ナデ
1601	C 3	SK803	土師器	高杯	3.0	-	3/12	やや密	やや軟	にぶい黄橙 10YR7/3	ユビオサエ・ナデ
1602	C 3	SK803	須恵器	蓋	9.0	2.2	3/12	やや粗	堅緻	灰 N5/0	回転ヘラケズリ・回転 ナデ
1603	C 3	SK803	土師器	鍋	32.0	(4.5)	1/12	密	良	(外) 橙 5YR6/6 (内) にぶい橙 5YR7/4	ヨコナデ
1604	C 3	SK803	須恵器	杯	13.2	2.95	1/12 以下	密	堅緻	灰 5Y6/1	回転ナデ
1605	C 3	SK803	須恵器	蓋	18.1	(1.75)	2/12	やや粗	堅緻	灰白 7.5Y7/1	回転ナデ・回転ヘラケ ズリ
1606	C 3	SK803	土師器	甕	18.7	(4.0)	1/12 強	やや粗	良	(外) にぶい橙 2.5YR6/4 (内) 褐灰 5YR4/1	ヨコナデ・ハケ目
1607	C 3	SK803	土師器	甕	18.0	(4.1)	1/12	やや粗	良	(外) にぶい橙 7.5YR7/6 (内) 褐灰 10YR4/1	ヨコナデ
1608	C 3	SK803	土師器	甕	20.7	(3.2)	1/12 以下	やや粗	良	明赤褐 5YR5/8	ヨコナデ
1610	C 3	SK803	須恵器	杯身	12.0	(3.5)	1/12	やや密	堅緻	灰 N4/0	回転ナデ
1611	C 3	SK803	土師器	鍋	7.0	6.95	-	やや粗	良	橙 5YR6/6	ユビオサエ
1612	C 3	SK804 畔	土師器	甕	25.0	(4.7)	1/12	やや粗	良	にぶい橙 5YR7/4	ヨコナデ
1613	C 3	SK804 畔	土師器	杯	13.0	3.85	7/12	粗	良	にぶい橙 5YR6/4	ヨコナデ・ヘラケズリ
1614	C 3	SK804 畔	土師器	杯	13.6	(2.7)	□ 2/12	やや粗	良	橙 2.5YR6/8	ヨコナデ・ヘラケズリ
1615	C 3	SK804	須恵器	杯	12.8	2.7	3/12	やや密	堅緻	灰 N5/0	回転ナデ
1616	C 3	SK804	須恵器	杯	11.8	3.1	□ 1/12	密	堅緻	灰 N5/0	回転ナデ

報告番号	トレンチ	出土地点	器種	器形	口径	器高	残存	胎土	焼成	色調	調整・備考
1617	C 3	SK804 畔	須恵器	杯	底径 10.2	(2.2)	6/12	やや粗	やや軟	(外) 灰白 2.5Y8/1 (内) 淡橙 5YR8/3	回転ナデ
1618	C 3	SK804 畔	須恵器	杯蓋	18.8	(1.8)	3/12 弱	やや粗	やや軟	にぶい橙 7.5YR7/4	回転ナデ / 墨書
1619	C 3	SK804 畔	土師器	高杯	-	(6.3)	不明	やや密	良	にぶい橙 5YR7/4	指頭圧痕
1620	C 3	SK804 畔	土師器	高杯	-	(5.65)	不明	やや密	良	にぶい橙 5YR7/4	ヘラケズリ
1621	C 3	SK804 畔	須恵器	杯蓋	13.8	2.55	6/12	やや粗	良	灰白 N7/0	回転ナデ
1622	C 3	SK804	須恵器	杯	12.7	3.9	5.5/12	やや密	やや軟	灰白 7.5Y7/1	回転ナデ
1623	C 3	SK804	須恵器	杯	14.6	3.4	2/12	やや粗	堅緻	灰 N6/0	回転ナデ
1624	C 3	SK804	須恵器	杯	13.3	3.3	2.5/12	密	堅緻	灰 N5/0	回転ナデ
1625	C 3	SK804	須恵器	杯	13.8	3.9	2/12	堅緻	堅緻	灰 N4/0	回転ナデ
1626	C 3	SK804	須恵器	杯	13.2	3.95	2.5/12	密	堅緻	灰 N5/0	回転ナデ
1627	C 3	SK804	須恵器	蓋	17.6	3.7	1/12 強	密	堅緻	灰 N6/0	回転ナデ
1628	C 3	SK804	須恵器	杯	17.7	(5.4)	1/12	やや密	やや軟	灰白 7.5Y7/1	回転ナデ
1629	C 3	SK804	須恵器	杯	16.5	5.2	3/12	やや密	堅緻	灰 N4/0	回転ナデ・稜あり
1630	C 3	SK804	須恵器	杯	10.8	4.5	2/12 強	やや粗	良	灰 N4/0	回転ナデ
1631	C 3	SK804	須恵器	蓋	-	(1.7)	-	密	堅緻	灰 N7/0	回転ナデ
1632	C 3	SK804	須恵器	蓋	20.8	(0.8)	3/12	やや密	堅緻	灰 N5/0	回転ナデ
1633	C 3	SK804	土師器	甕	42.6	(3.5)	2/12	やや粗	良	にぶい橙 7.5YR6/4	ハケ
1635	C 3	SK805	土師質	土錘	幅 3.2	長 6.1	完存	密	良	にぶい黄橙 10YR7/4 ~明黄褐 7/6	ユビオサエ
1636	C 3	SK805	須恵器	杯	11.0	(3.3)	3/12	良	良	灰色 N5/0	回転ナデ
1637	C 3	SK805	須恵器	杯	14.0	4.0	3/12	良	良	灰色 N4/0	回転ナデ
1638	C 3	SK805	土師器	甕	15.8	(2.5)	3/12	やや粗	良	にぶい橙 2.5YR6/4	
1639	C 3	SK805	土師器	甕	15.3	(5.0)	2/12	やや粗	良	橙 5YR6/6	ハケ
1640	C 3	SK805	土師器	甕	14.6	(4.5)	2/12	やや密	良	橙 7.5YR6/6	ヨコナデ
1641	C 3	SK805	須恵器	蓋	15.0	(0.9)	2.5/12	やや粗	堅緻	灰 N4/0	回転ナデ
1642	C 3	SK805	須恵器	蓋	17.1	2.3	2/12 強	密	堅緻	灰白 5Y7/1	回転ナデ
1643	C 3	SK805	須恵器	杯	15.8	4.0	完存	やや粗	やや軟	灰 N4/0	回転ナデ
1644	C 3	SK805	須恵器	杯	底径 15.5	3.2	底径 2/12	やや粗	堅緻	灰 N5/0	回転ナデ
1645	C 3	SK805	須恵器	皿	20.6	3.0	3/12	良	良	灰白色 5Y7/1	外面回転ナデ・内面ケズリ
1646	C 3	SK804 畔	土師器	鍋	38.3	(5.6)	1/12 以下	やや粗	良	にぶい褐 7.5YR5/4	ハケ
1647	C 3	SK805	須恵器	蓋	22.4	(2.9)	2/12	良	良	灰白色 2.5Y7/1	回転ナデ
1648	C 3	SP823	須恵器	杯	12.8	2.9	完存	やや粗	堅緻	灰 10Y6/1	回転ナデ
1649	C 3	SP863	土師器	甕	17.7	(4.4)	1/12	やや密	良	(外) 橙 5YR6/6 (内) 褐灰 5YR4/1	ハケ
1650	C 3	SP851	須恵器	杯	14.2	2.8	完存	やや粗	良	灰 N6/0	回転ナデ
1651	C 3	SK842	土師器	高杯	24.8	(4.7)	2/12	やや粗	良	にぶい橙 7.5YR6/4	外面ヨコナデ・ハケ
1652	C 3	SH980	弥生土器	甕	22.0	(2.25)	1/12 以下	密	良	にぶい橙 5YR7/4	ヨコナデ
1653	C 3	SH980	土師器	高杯脚	3.5	(6.0)	1/12	粗	良	灰黄 2.5Y7/2	外面ナデ・ハケ
1654	C 3	SH980	土師器	底部	底部 3.4	(4.3)	-	密	良	(外) 淡黄 2.5Y8/3 (内) 浅黄橙 7.5YR8/4	ナデ
1655	C 3	SK809	土師器	把手	5.3	-	-	やや粗	良	橙 5YR6/6	ユビオサエ
1656	C 3	SH980	土師器	高杯	頸部径 3.2	(6.5)	1/12	粗	良	にぶい黄橙 10YR7/4	-
1657	C 3	SH980	土師器	脚	底) 13.0	(8.7)	底) 1/12	粗	良	橙 7.5YR7/6 ~ 灰黄 褐 10YR6/2	外面ヨコナデ・ナデ・ 内面ケズリ
1658	C 3	SP865	須恵器	蓋	12.6	3.8	2/12	やや密	軟	灰白 2.5Y7/1	回転ナデ
1659	C 3	SH980	土師器	鉢	21.6	(9.25)	3/12	やや粗	良	(外) 5YR6/6 (内) 5YR7/8	ケズリ
1660	C 3	SH980	土師器	小型丸 底壺	10.4	(6.4)	ほぼ 完存	密	良	橙 5YR7/6	外面ヨコナデ・ナデ・ ハケ
1661	C 3	SH980	土師器	小型丸 底壺	8.0	(6.5)	3.5/12	やや粗	良	灰黄褐 10YR6/2	ユビオサエ

報告 番号	トレンチ	出土地点	器種	器形	口径	器高	残存	胎土	焼成	色調	調整・備考
1662	C 3	SH980	土師器	ミニチュア土器	4.8	(4.3)	1/12強	やや粗	良	にぶい黄褐 10YR5/3	外面ヨコナデ・ユビオサエ・ハケ
1663	C 3	SP983	須恵器	杯身	12.6	(4.8)	1.5/12	密	堅緻	灰 N5/0	外面回転ナデ
1664	C 3	SH980	弥生土器	甕	底部 3.5~ 3.7	(2.25)	底 11/12	密	良	(外) にぶい橙 2.5YR6/4 (内) にぶ い褐 7.5YR6/3	ハケ目
1665	C 3	SH980	土師器	高杯身	14.0	(5.3)	杯部 4/12	密	良	にぶい黄橙 10YR7/4	外面ナデ・ハケ
1666	C 3	SH980	土師器	甕	11.6	(6.8)	口 5/12	粗	良	にぶい橙 5YR7/4, 10YR7/3	外面ヨコナデ・ハケ・ ナデ・指オサエ・内面 ケズリ
1667	C 3	SH980	土師器	鉢	9.6	4.8	10/12	やや粗	良	(外) 橙 5YR7/6 黒 N2/0 (内) にぶい黄 橙 10YR7/3	内面ミガキ
1668	C 3	包含層	須恵器	蓋	16.0	(1.0)	1/12	密	やや軟	にぶい褐 7.5YR5/4	回転ナデ
1669	C 3	4F16 e	須恵器	杯	16.7	3.7	3/12	堅緻	良	青灰 5PB6/1	回転ナデ
1670	C 3	包含層	須恵器	杯	高台径 9.4	(2.65)	12/12	堅緻	良	(外) 灰 N5/0 (内) 褐 7.5YR6/1	回転ナデ
1671	C 3	包含層	須恵器	高杯	11.5	(7.1)	6/12	堅緻	良	褐灰 7.5YR4/1	回転ナデ
1672	C 3	包含層	須恵器	蓋	11.8	(2.4)	-	堅緻	良	暗灰 N3/0	回転ナデ
1673	C 3	4F16 e	須恵器	壺	11.4	(7.3)	11/12	堅緻	良	紫灰 5P6/1	回転ケズリ
1674	C 3	包含層	弥生土器	甕	13.5	(4.15)	1/12	粗	良	灰褐 7.5YR5/2	ユコナデ
1675	C 3	包含層	弥生土器	鉢	18.0	(5.8)	1/12				
1676	C 3	包含層	弥生土器	裝飾器 台	19.4	(4.0)	2/12	やや粗	良	橙 5YR7/6	擬凹線
1677	C 3	包含層	弥生土器	高杯	4.7	(7.3)	不明	やや粗	良	にぶい橙 5YR6/4	ナデ
1678	C 3	4F16D	須恵器	杯身	11.2	(3.25)	1/12	密	やや軟	灰白 5Y8/1	外面回転ナデ
1679	C 3	包含層	弥生土器	器台	27.8	(2.8)	1/12 以下	やや粗	良	橙 5YR7/6	擬凹線
1680	C 3	包含層	弥生土器	裝飾器	11.2	(10.5)	不明	やや粗	良	橙 5YR7/6	透かし4ヶ所
1681	C 3	包含層	土師器	鍋	37.8	(7.7)	口 1/12	密	良	にぶい橙 7.5YR7/4	ハケ
1682	C 3	SK805	土師器	甕	18.7	(10.5)	11/12	やや粗	良	にぶい黄橙 10YR6/3	外面ヨコナデ・ハケ・ 内面ケズリ
1684	C 3	SP1002	土師器	杯	13.1	2.9	5/12	密	良	明赤褐色 2.5YR5/6	内面暗文
1685	C 3	SH1018	須恵器	杯身	12.0	(3.8)	2/12	やや粗	良	灰色 N 5/0	外面回転ナデ・内面ケ ズリ
1686	C 3	SH1018	弥生土器	甕口縁	20.0	(3.5)	3/12	密	良	橙 7.5Y6/5	外面回転ナデ・ナデ・ ハケ
1687	C 3	SP1012	須恵器	蓋	底径 14.0	(2.7)	1/12 強	密	堅緻	灰 N6/0	外面回転ナデ
1688	C 3	SH930	土師器	壺	8.6	(8.6)	11/12	やや粗	良	橙 9YR6/6	外面ヨコナデ・ハケ
1689	C 3	SH930	弥生土器	甕口縁	20.8	(4.5)	6/12	やや粗	良	浅黄橙 7.5YR8/3	外面6条の擬凹線
1690	C 3	SH1018	弥生土器	杯	15.0	(4.5)	2/12	密	良	橙 7.5YR6/4	外面ヨコナデ・ナデ・ ハケ
1691	C 3	SH930	土師器	甕	12.2	(4.7)	2/12 弱	やや粗	良	にぶい黄 2.5Y6/3	回転ナデ
1692	C 3	SH930	弥生土器	壺	19.8	11.65	2/12	粗	やや軟	淡橙 5YR8/4	外面ハケ
1693	C 3	SH930	弥生土器	蓋	14.0	6.8	7/12	粗	良	橙 5YR7/6	外面ハケ目
1694	C 3	SH930	弥生土器	甕口縁	13.4	(2.75)	5/12	やや粗	良	にぶい黄橙 10YR7/2	外面ヨコナデ
1695	C 3	SH930	弥生土器	甕	18.0	(5.35)	2/12	粗	良	橙 2.5YR6/6	外面ヨコナデ
1696	C 3	SH930	弥生土器	甕	17.1	(7.4)	口 2.5/12	粗	良	にぶい橙 5YR6/4	内外面ハケ
1697	C 3	SH930	弥生土器	高杯	24.2	(2.45)	1/12	密	良	橙 5YR7/8	外面ナデ・ケズリ
1698	C 3	SH930	土師器	高杯	25.3	(4.7)	1/12 強	やや密	良	橙 2.5YR6/6	外面擬凹線・ナデ
1699	C 3	SH930	土師器	甕	28.6	(3.9)	1.5/12	密	良	浅黄橙 7.5YR8/3	外面ヨコナデ
1700	C 3	SH930	弥生土器	甕口縁	29.0	(6.2)	1/12 以下	やや粗	良	橙 5YR7/6	外面擬凹線・ハケ
1701	C 3	SH930	土師器	高杯	14.0	(4.3)	3/12	粗	良	浅黄橙 7.5YR8/3	外面ケズリ
1702	C 3	SH930	土師器	高杯	17.6	4.8	2/12	やや密	良	にぶい橙 5YR7/4	回転ナデ
1703	C 3	SH930	弥生土器	甕	11.9	(10.35)	6/12	粗	良	明褐灰色 7.5YR7/2	外面ヨコナデ・ハケ
1704	C 3	SH930	弥生土器	台付鉢	底) 7.6	(7.5)	直径の 6/12	粗	良	にぶい橙 7.5YR7/3	外面ハケ・ナデ

報告番号	トレンチ	出土地点	器種	器形	口径	器高	残存	胎土	焼成	色調	調整・備考
1705	C 3	SH930	弥生土器	鉢	4.4	(8.0)	6/12	密	良	橙 2.5YR6/6	外面ミガキ
1706	C 3	SH930	土師器	甕	16.7	23.8	11/12	粗	良	橙 5YR7/8	外面タタキ・内面ケズリ
1707	C 3	SK942	土師器	壺	12.8	(4.5)	2/12	粗	やや軟	灰黄 2.5Y7/2	外面ヨコナデ
1708	C 3	SK942	土師器	高杯	底) 10.8	(7.3)	4/12	やや密	良	にぶい黄橙 10YR6/4	外面ケズリ・ナデ・ヨコナデ
1709	C 3	SP968	土師器	甕	13.7	(3.6)	2/12	やや粗	良	橙 5YR6/6	外面ナデ
1710	C 3	SP954	土師器	底部	底) 4.3	(2.8)	底) 12/12	やや粗	良	にぶい橙 7.5YR6/4	外面ハケ目
1711	C 3	SK970	須恵器	高杯	13.4	(5.6)	1/12以下	密	堅緻	にぶい橙 7.5YR5/3	外面回転ナデ
1712	C 3	SP945	土師器	甕	17.3	(6.2)	1/12以下	やや粗	良	にぶい黄橙 10YR7/3	外面擬凹線・ナデ
1713	C 3	SP955	須恵器	蓋	16.6	(3.2)	1/12以下	密	堅緻	褐 7.5YR4/3	外面回転ナデ
1743	A 1	包含層	土製品	鞆の羽口	残存長 9.0	直径 (7.6)		良	良	外) 灰白 10Y7/1・内) 橙 5YR7/8	外面指オサエ・ナデ

付表7 大川遺跡 木製品一覧

報告番号	トレンチ	出土地点	器種	器形	幅	長さ	残存
991	B 2	SE231	木製品	下駄	5.5	20.7	5/6
1848	C 3	SE402	木製品	箸	5.0	19.4	完存
1853	C 3	SE402	木製品	漆器椀	7.4	7.3	-
1808	C 3	SE402	木製品	箸	0.7	20.1	完存
1809	C 3	SE402	木製品	箸	0.6	20.2	完存
1810	C 3	SE402	木製品	箸	0.7	21.3	完存
1811	C 3	SE402	木製品	箸	0.6	20	完存
1812	C 3	SE402	木製品	箸	0.7	20	完存
1813	C 3	SE402	木製品	箸	0.5	20.1	完存
1814	C 3	SE402	木製品	箸	0.6	19.1	完存
1815	C 3	SE402	木製品	箸	0.6	19.1	完存
1816	C 3	SE402	木製品	箸	0.8	19.4	完存
1818	C 3	SE402	木製品	箸	0.6	(18.9)	完存
1823	C 3	SE402	木製品	箸	0.6	(14.1)	10/12
1819	C 3	SE402	木製品	箸	0.7	(18.1)	11/12
1821	C 3	SE402	木製品	箸	0.6	(15.0)	10/12
1822	C 3	SE402	木製品	箸	幅 0.7	(17.9)	11/12
1820	C 3	SE402	木製品	箸	幅 1.0	(25.0)	完存
1824	C 3	SE402	木製品	箸	幅 0.6	(20.4)	完存
1825	C 3	SE402	木製品	箸	幅 0.5	(17.5)	完存
1826	C 3	SE402	木製品	箸	幅 0.75	(20.0)	11/12
1827	C 3	SE402	木製品	箸	幅 0.5	(17.9)	10/12
1828	C 3	SE402	木製品	箸	幅 0.6	(19.1)	10/12
1829	C 3	SE402	木製品	箸	幅 0.55	(19.9)	完存
1830	C 3	SE402	木製品	箸	幅 0.4	(19.0)	10/12
1831	C 3	SE402	木製品	箸	幅 5.0	(17.9)	10/12
1832	C 3	SE402	木製品	箸	幅 0.5	(15.8)	11/12
1833	C 3	SE402	木製品	箸	幅 0.4	(17.6)	11/12
1834	C 3	SE402	木製品	箸	幅 0.6	(19.6)	11/12
1835	C 3	SE402	木製品	箸	幅 0.5	(16.0)	11/12
1836	C 3	SE402	木製品	箸	幅 0.6	(15.85)	10/12
1837	C 3	SE402	木製品	箸	幅 0.6	23.45	完存
1838	C 3	SE402	木製品	箸	幅 0.65	(19.0)	10/12
1839	C 3	SE402	木製品	箸	幅 0.6	13.55	10/12
1840	C 3	SE402	木製品	箸	幅 0.5	(17.9)	10/12
1841	C 3	SE402	木製品	箸	幅 0.6	(16.5)	11/12
1842	C 3	SE402	木製品	箸	幅 0.55	20.2	完存
1843	C 3	SE402	木製品	箸	幅 0.5	19.3	完存
1844	C 3	SE402	木製品	箸	幅 0.55	(17.15)	11/12
1845	C 3	SE402	木製品	箸	幅 0.5	(16.5)	10/12

1846	C 3	SE402	木製品	箸	幅 0.75	(17.9)	11/12
1847	C 3	SE402	木製品	箸	幅 0.55	(11.7)	6/12
1855	C 3	SE402	木製品	高下駄	幅 10.4	24.1	8/12
1854	C 3	SE402	木製品	楔	幅 6.4	(12.3)	完存
1850	C 3	SE402	木製品	漆器椀	14.4	5.55	7/12
1849	C 3	SE402	木製品	漆器椀	15.2	4.5	8/12
1852	C 3	SE402	木製品	柄	2.2 ~ 2.5	(9.5)	-
1853	C 3	SE402	木製品	漆器椀	幅 7.3	7.4	3/12
1851	C 3	SE402	木製品	漆器鉢	18.3	5.5	4/12

付表8 大川遺跡 石器・石製品一覧

報告番号	トレンチ	出土地点	器種	器形	長さ	幅	厚さ	残存	色調	備考
87	A 1	SP61	石製品	砥石	(9.4)	4.4	2.2	不明	浅黄 2.5Y8/4	
132	A 1	包含層	石製品	砥石	7.3	3.7	1.7	5/6	灰白 N7.5Y7/1	3面使用
133	A 1	包含層	石製品	砥石	7.5	(3.6)	4.6	6/12	灰白	1面使用
239	A 1	SP345	石製品	砥石	4.75	4.8	4.4	3/12	灰黄褐 2.5Y6/2	1面使用
430	A 2	SP526	石器	石斧	12.5	6.7	3.4	11/12	灰白	大型蛤刃
449	A 2	SP543	石製品	砥石	8.5	7.6	5.5	4/12	淡黄 2.5Y8/3	1面使用
479	A 2	SP601	石製品	砥石	7.6	4.5	2.8	11/12	淡黄 2.5Y8/3	4面使用
504	A 2	SP664	石製品	砥石	8.2	7.0	1.9	8/12	にぶい黄橙 10YR7/4	2面使用、2孔
505	A 2	包含層	石製品	石帯	3.1	4.1	0.6	完形	黒灰	粘板岩素
728	A 3	SP232	石製品	砥石	12.1	3.8	3.0	11/12	明黄褐 10YR7/6 灰白 2.5Y8/1 少しまざる	泥岩か頁岩
729	A 3	第2面	石製品	滑石	9.9	3.25	2.2	11/12	灰白 2.5Y7/1 にぶい黄橙 10YR6/3 少なめにまざる	滑石、石塙の再加工
922	B 2	SP241	石製品	砥石	7.2	5.0	2.7 ~ 4.2	8/12	灰白	3面使用
1002	B 2	SE352	石製品	砥石	3.8	3.7	0.6	11/12	灰白	2面使用
1003	B 2	SE352	石製品	碁石	1.3	1.25	0.4	完形	黒 N2/0	粘板岩素
1006	B 2	SE352	石製品	不明	5.3	5.0	3.1	完形	灰白	-
1007	B 2	SE352	石製品	敲き石	6.9	9.6	2.7	11/12	灰白	窪みあり
1008	B 2	SE352	石製品	砥石	6.8	5.2	2.7	6/12	灰白	2面使用
1305	C 1	包含層	石製品	碗	7.5	6.2	1.3	6/12	灰	陸部分遺存
1307	C 1	包含層	石製品	石皿	15.5	7.4	4.9	8/12	灰	1面使用
1308	C 1	包含層	石製品	鍋	(2.9)	16.8	1.0	1/8	灰赤 10R6/2	内外面ケズリ、内面ミガキ
1309	C 1	側溝下げ中	石製品	石鍋	4.4	19.8	1.0	□) 1/4	灰 N5/0	内外面ケズリ・ミガキ
1310	C 1	中世包含層	石製品	碁石	1.8	1.7	0.3	完形	黒灰	-
1362	C 1	包含層	石製品	砥石	16.4	6.4	3.6	11/12	淡黄 2.5Y8/4	4面使用
1388	C 2	SP271	石製品	砥石	5.0	13.3	4.3	10/12	明オリーブ灰 2.5GY7/1	4面使用
1401	C 2	SP371	滑石	石鍋	(5.2)	33.4	1.5	1/12	灰白 N7/0	ツバ欠損
1422	C 2	SP642	石製品	石臼	27.7	(12.5)	9.5	5/12	灰白、花崗岩	8条の溝
1427	C 2	包含層	滑石	石鍋	(8.5)	28.0	1.7	1/4	灰白 N8/0	下部スス付着
1528	C 3	SP226	石製品	石臼	15.2	4.15	9.0	6/12	灰白	下臼、区画溝8条
1529	C 3	SP90	石製品	石臼	(18.0)	13.6	10.5	3/12	灰色	1区画溝8条・花崗岩
1597	C 3	包含層	石製品	砥石	8.2	3.2	0.5	10/12	灰白 7.5Y7/2	2面使用
1745	B 3	SH1901	ガラス製品	小玉	0.6	0.6	0.4	完形	コバルトブルー	-
1746	B 3	SH1901	石製品	白玉	0.6	0.6	0.2	完形	オリーブ黒 5Y3/1	-
1747	B 3	SH1901	石製品	白玉	0.5	0.5	0.3	完形	オリーブ黒 5Y3/1	-
1748	B 3	SH1901	石製品	白玉	0.7	0.3	0.3	完形	明緑灰 10GY4/1	-
1749	B 3	SH1901	石製品	白玉	0.6	0.6	0.2	完形	オリーブ黒 10Y3/2	-
1750	B 3	SH1901	石製品	白玉	0.5	0.5	0.2	完形	明緑灰 10GY3/1	-
1751	B 3	SH1901	石製品	白玉	0.5	0.2	0.4	完形	オリーブ黒 10Y3/1	-
1752	B 3	SH1901	石製品	白玉	0.4	0.4	0.2	完形	明オリーブ灰 2.5GY4/1	-

1753	B 3	SH11901	石製品	白玉	0.5	0.5	0.4	完形	オリーブ灰 10Y5/2	-
1754	B 3	SH11901	石製品	白玉	0.4	0.4	0.2	完形	暗緑灰 10GY3/1	-
1755	B 3	SH11901	石製品	白玉	0.5	0.5	0.3	完形	暗緑灰 10GY4/1	-
1756	B 3	SH11901	石製品	白玉	0.5	0.5	0.2	完形	暗緑灰 7.5GY4/1	-
1757	B 3	SH11901	石製品	白玉	0.4	0.4	0.1	完形	暗緑灰 10GY4/1	-
1758	B 3	SH1901	石製品	白玉	0.4	0.4	0.2	完形	暗オリーブ灰 2.5GY4/1	-
1759	B 3	SH1901	石製品	白玉	0.5	0.5	0.2	完形	オリーブ灰 10Y6/2	-
1760	B 3	SH1901	石製品	白玉	0.4	0.4	0.2	完形	オリーブ灰 5GY5/1	-
1761	B 3	SH1901	石製品	白玉	0.4	0.4	0.2	完形	緑灰 7.5GY5/1	-
1762	B 3	SH1901	石製品	白玉	0.4	0.4	0.2	完形	オリーブ灰 5GY5/1	-
1763	B 3	SH1901	石製品	白玉	0.6	0.6	0.2	完形	緑灰 10GY5/1	-
1764	B 3	SH1901	石製品	白玉	0.4	0.4	0.2	完形	オリーブ灰 5GY5/1	-
1765	B 3	SH1901	石製品	白玉	0.4	0.4	0.3	完形	オリーブ灰 5GY5/1	-
1766	B 3	SH1901	石製品	白玉	0.4	0.4	0.3	完形	緑灰 7.5GY5/1	-
1767	B 3	SH1901	石製品	白玉	0.4	0.4	0.2	完形	緑灰 10GY5/1	-
1768	B 3	SH1901	石製品	白玉	0.5	0.5	0.2	完形	オリーブ灰 2.5GY2/1	-
1769	B 3	SH1901	石製品	白玉	0.4	0.4	0.1	完形	緑灰 10GY5/1	-
1770	B 3	SH1901	石製品	白玉	0.5	0.5	0.1	完形	暗緑灰 7.5GY4/1	-
1771	B 3	SH1901	石製品	白玉	0.4	0.4	0.3	完形	暗緑灰 7.5GY4/1	-
1772	B 3	SH1901	石製品	白玉	0.4	0.4	0.2	完形	緑灰 7.5GY6/1	-
1773	B 3	SH1901	石製品	白玉	0.6	0.6	0.2	完形	オリーブ灰 2.5GY6/1	-
1774	B 3	SH1901	石製品	白玉	0.4	0.4	0.2	完形	オリーブ灰 2.5GY5/1	-
1775	B 3	SH1901	石製品	白玉	0.4	0.4	0.2	完形	暗緑灰 7.5GY4/1	-
1776	B 3	SH1901	石製品	白玉	0.4	0.4	0.2	完形	緑灰 7.5GY5/1	-
1777	B 3	SH1901	石製品	白玉	0.4	0.4	0.3	完形	オリーブ黒 10Y3/1	-
1778	B 3	SH1901	石製品	白玉	0.4	0.4	0.3	完形	オリーブ黒 5GY2/1	-
1779	B 3	SH1901	石製品	白玉	0.4	0.4	0.2	完形	暗オリーブ灰 5GY4/1	-
1780	B 3	SH1901	石製品	白玉	0.5	0.5	0.1	完形	暗オリーブ灰 5GY4/1	-
1781	B 3	SH1901	石製品	白玉	0.5	0.5	0.2	完形	オリーブ灰 10Y6/2	-
1782	C 2	第3面	石製品	白玉	0.27	0.44	0.27	完形	暗オリーブ灰 2.5GY4/1	-
1783	C 2	第3面	石製品	白玉	0.36	0.45	0.36	完形	暗オリーブ灰 5GY4/1	-
1784	C 2	第3面	石製品	白玉	0.29	0.45	0.29	完形	緑灰 10GY5/1	-
1785	C 2	第3面	石製品	白玉	0.35	0.45	0.35	完形	暗緑灰 10GY4/1	-
1786	C 2	第3面	石製品	白玉	0.22	0.52	0.22	完形	暗緑灰 7.5GY4/1	-
1787	C 2	第3面	石製品	白玉	0.13	0.31	0.13	完形	暗緑灰 10GY3/1	-
1788	C 2	第3面	石製品	白玉	0.23	0.45	0.23	完形	浅黄 5Y7/3	-
1789	C 2	第3面	石製品	白玉	0.25	0.4	0.25	完形	暗オリーブ灰 5GY3/1	-
1790	C 2	第3面	石製品	白玉	0.25	0.37	0.25	完形	オリーブ灰 10Y5/2	-
1791	C 2	第3面	石製品	白玉	0.18	0.5	0.18	完形	緑灰 10GY5/1	-
1792	C 2	第4面	石製品	白玉	0.16	0.5	0.16	完形	オリーブ灰 2.5GY6/1	-
1793	C 2	第4面	石製品	白玉	0.31	0.5	0.31	完形	緑灰 10GY6/1	-
1794	C 2	第4面	石製品	白玉	0.12	(0.2)	0.12	1/2	暗緑灰 10GY4/1	-
1795	C 2	第4面	石製品	白玉	0.2	0.4	0.2	完形	暗緑灰 7.5GY4/1	-
1796	C 2	第4面	石製品	白玉	0.23	0.58	0.23	完形	灰黄 2.5Y6/2	-
1797	C 2	第4面	石製品	白玉	0.23	0.56	0.23	完形	灰オリーブ 7.5Y4/2	-
1798	C 2	第4面	石製品	白玉	0.3	0.45	0.3	完形	暗オリーブ灰 2.5GY4/1	-
1799	C 2	第4面	石製品	管玉	0.17	0.7	0.17	完形	暗緑灰 10GY4/1	-
1800	C 3	SH971	石製品	管玉	1.5	0.5	0.5	完形	明緑灰 7.5GY5/1	-
1801	C 3	4F16 d	石製品	白玉	0.6	0.6	0.4	完形	青灰 10BG5/1	-
1802	C 3	4F16 d	石製品	白玉	0.5	0.5	0.3	完形	青灰 5BG5/1	-
1803	C 3	包含層	石製品	白玉	0.4	0.4	0.2	完形	黄灰 2.5Y6/1	-

付表9 大川遺跡 金属製品一覧

報告番号	トレンチ	出土地点	器種	器形	長さ	厚さ	残存	色調	内外面
131	A 1	包含層	-	炉壁片	長 9.0	幅 3.0	不明	灰白 N7/0・橙 5YR7/6	-
835	B 1	包含層	鉄鏃	鉄刀	19.5	2.6	6/12	茶褐色	漆付着
1269	B 3	SH1901	鉄器	鉄鏃	7.0	0.3	1/3	-	-
1311	C 1	SP26	鉄製品	環状	4.2	4.4	完形	茶褐色	折り曲げ
1634	C 3	SK804	鉄製品	鉄釘	(17.9)	6.0	11/12	茶褐色	頭部欠損
1609	C 3	SK803	鉄製品	鉄滓	7.1	5.4	5.4	茶褐色	-
1683	C 3	SP1002	鉄滓	椀形滓	7.5	6.8	-	茶褐色	口縁部刻み目
1634	C 3	SK804	鉄製品	鉄釘	(17.9)	6.0	11/12	茶褐色	頭部欠損
1714	A 2	SK520	鉄製品	鉄刀	13.5	2.0	4/12	茶褐色	刃部
1715	A 2	SP626	鉄製品	刀子	6.4	2.3	2/12	茶褐色	把部
1716	A 1	包含層	鉄製品	刀子	6.4	1.3	2/12	茶褐色	刃部
1717	A 2	SK520	鉄製品	鉄釘	3.5	0.4	3/12	茶褐色	頭部欠損
1718	A 2	SP555	鉄製品	鉄釘	9.1	0.8	9/12	茶褐色	頭部欠損
1719	A 1	第2面包含層	鉄製品	釘	14.2	0.5	9/12	茶褐色	頭部欠損
1720	A 1	SP201	鉄製品	釘	10.7	0.8	5/6	茶褐色	-
1721	A 1	包含層	鉄製品	ノミ状鉄器	15.6	1.1	10/12	茶褐色	-
1722	A 2	包含層	鉄製品	袋状鉄斧	13.9	6.9	8/12	茶褐色	-
1723	A 2	包含層	鉄製品	馬具	18.2	0.5	10/12	茶褐色	-
1724	A 2	包含層	鉄製品	棒状	24.1	1.0	10/12	茶褐色	-
1725	A 1	包含層	鉄製品	釘	5.3	0.4	6/12	茶褐色	両端欠損
1726	A 1	第2面包含層	鉄製品	釘	5.2	0.5	10/12	茶褐色	先端欠損
1727	A 1	包含層	鉄製品	釘	4.0	0.4	10/12	茶褐色	-
1728	A 1	SP310	鉄製品	釘	7.4	1.3	ほぼ完存	茶褐色	-
1729	A 1	SP64	鉄製品	釘	5.5	1.2	完存	茶褐色	-
1730	A 1	包含層	鉄製品	刀子	12.8	0.9	10/12	茶褐色	先端欠損
1731	A 3	SX125	鉄製品	釘	(3.2)	0.3 ~ 0.5	6/12	茶褐色	先端欠損
1732	A 3	SP201	鉄製品	刀子	(4.4)	0.6	2/12	茶褐色	柄部
1733	A 3	SP148	鉄製品	刀	(26.0)	2.7	7/12	茶褐色	刀身
1734	A 3	第3面精査	鉄製品	炉底滓	8.0	6.5	-	茶褐色	-
1735	A 1	包含層	鉄鐸	炉底滓	6.5	6.8	-	赤 10R4/8	-
1736	A 3	第3面精査	鉄製品	炉底滓	6.2	4.8	-	茶褐色	-
1737	A 1	包含層	鉄製品	片	4.5	3.9	5/6	明赤褐 2.5YR5/8	-
1738	A 1	SP343	鉄製品	鉄滓			-	茶褐色	重さ 141.7 g
1739	A 3	包含層	鉄滓	-	6.0	3.9	-	茶褐色	-
1740	A 3	第3面精査	鉄製品	炉底滓	9.0	8.4	-	茶褐色	-
1741	A 1	SP309	鉄製品	鉄滓			-	茶褐色	-
1742	A 1	SX03	鉄製品	鋏滓	3.2	4.4	-	黒 N2/0	-
1744	A 1	包含層	鉄製品	鉄錘	2.75	1.95	ほぼ完存	褐灰 5YR5/1	重さ 40.6 g
1739	A 3	第3面精査	鉄製品	炉底滓	8.2	6.2	-	茶褐色	-



附表10 大川遺跡 錢貨一覽

報告番号	錢貨名	国名	初铸年	地区名	遺構	備考	重量	直径
1856	元豊通寶	北宋	1078	B 3	遺構面上	行書	2.7	2.3
1857	元豊通寶	北宋	1078	B 3	精査中	行書	2.9	2.4
1858	元豊通寶	北宋	1078	C 1	中世包含層	行書	2.2	2.4
1859	元祐通寶	北宋	1086	C 1	中世包含層	行書	3.3	2.4
1860	天聖元寶	北宋	1023	C 1	中世包含層	真書	2.4	2.5
1861	元豊通寶	北宋	1078	C 1	中世包含層	行書	2.6	2.3
1862	至道元寶	北宋	995	C 1	中世包含層	真書	2.9	2.4
1863	熙寧元寶	北宋	1068	C 1	鎌倉包含層	篆書	2.7	2.3
1864	咸平元寶	北宋	998	C 1	鎌倉包含層	-	2.3	2.5
1865	天禧通寶	北宋	1017	C 1	鎌倉包含層	-	3.4	2.4
1866	元豊通寶	北宋	1078	C 1	鎌倉包含層	篆書	3.2	2.3
1867	大觀通寶	北宋	1107	C 1	鎌倉包含層	-	2.6	2.4
1868	大觀通寶	北宋	1107	C 1	鎌倉包含層	-	3	2.4
1869	皇宋通寶	北宋	1037	C 1	鎌倉包含層	真書	3.3	2.4
1870	景祐元寶	北宋	1034	C 1	鎌倉包含層	真書	3.4	2.4
1871	開元通寶	唐	845	C 1	鎌倉包含層	唐 背潤	2.8	2.3
1872	祥符元寶	北宋	1009	C 1	鎌倉包含層	-	3.1	2.5
1873	聖宋元寶	北宋	1101	C 1	鎌倉包含層	篆書	3.8	2.3
1874	皇宋通寶	北宋	1037	C 1	鎌倉包含層	篆書	3	2.4
1875	皇宋通寶	北宋	1037	C 1	鎌倉包含層	真書	3.8	2.4
1876	天聖元寶	北宋	1023	C 1	鎌倉包含層	真書	2.8	2.4
1877	元符通寶	北宋	1098	C 1	鎌倉包含層	篆書	3.2	2.2
1878	元豊通寶	北宋	1078	C 1	鎌倉包含層	篆書	3	2.5
1879	□□元寶	-	-	C 1	鎌倉包含層	-	3	2.4
1880	聖宋元寶	北宋	1101	C 1	鎌倉包含層	篆書	3.6	2.4
1881	皇宋通寶	北宋	1037	C 1	鎌倉包含層	篆書	3.2	2.4
1882	皇宋通寶	北宋	1037	C 1	鎌倉包含層	篆書	3.7	2.4
1883	軋元重寶	唐	758	C 1	鎌倉包含層	背下月	2.8	2.3
1884	聖宋元寶	北宋	1101	C 1	鎌倉包含層	行書	3.9	2.4
1885	治平元寶	北宋	1064	C 1	鎌倉包含層	篆書	4.1	2.4
1886	元豊通寶	北宋	1078	C 1	鎌倉包含層	篆書	3.8	2.4
1887	紹聖元寶	北宋	1094	C 1	SP64	行書	2.1	2.3
1888	天禧通寶	北宋	1017	C 2	室町～江戸包含層	真書	2	2.4
1889	聖宋元寶	北宋	1101	C 2	室町～江戸包含層	篆書	2.8	2.3
1890	元豊通寶	北宋	1078	C 2	室町包含層	行書	2.9	2.3
1891	熙寧元寶	北宋	1068	C 2	SK581	真書	2.7	2.3
1892	熙寧元寶	北宋	1068	C 2	壁面精査	篆書	2.5	2.4
1893	聖宋元寶	北宋	1101	C 2	表採	篆書	2.3	2.4
1894	至和元寶	北宋	1054	C 2	壁面	篆書	3	2.4
1895	嘉祐通寶	北宋	1056	C 2	東側側溝	真書	2.8	2.4
1896	元豊通寶	北宋	1078	C 2	室町包含層	篆書	2.2	2.3
1897	嘉祐元寶	北宋	1056	C 2	室町包含層	真書	3.6	2.3
1898	祥符元寶	北宋	1009	C 2	室町包含層	真書	3.3	2.4
1899	祥符元寶	北宋	1009	C 2	室町包含層	真書	2.3	2.4
1900	元祐通寶	北宋	1086	C 2	室町包含層	篆書	2.7	2.4
1901	紹聖元寶	北宋	1094	C 2	室町包含層	篆書	3	2.3
1902	元豊通寶	北宋	1078	C 2	室町包含層	篆書	3.7	2.4
1903	政和通寶	北宋	1111	C 2	室町～江戸包含層	篆書	3.2	2.4
1904	元豊通寶	北宋	1078	C 2	室町～江戸包含層	行書	2.2	2.4
1905	政和通寶	北宋	1111	C 2	室町包含層	隸書	2.9	2.4
1906	嘉祐元寶	北宋	1056	C 2	南部包含層	真書	2	2.3
1907	天禧通寶	北宋	1017	C 2	室町～江戸包含層	真書	2.5	2.5
1908	景定元寶	南宋	1260	C 2	室町～江戸包含層	背三?	2.6	2.3
1909	元祐通寶	北宋	1086	C 2	室町包含層	行書	2.7	2.3
1910	元豊通寶	北宋	1078	C 2	室町包含層	篆書	2.8	2.4
1911	皇宋通寶	北宋	1037	C 2	室町～江戸包含層	真書	2.3	2.3
1912	景祐元寶	北宋	1034	C 2	室町～江戸包含層	真書	2.2	2.5
1913	皇宋通寶	北宋	1039	C 2	室町～江戸包含層	真書	2.3	2.4
1914	開元通寶	唐	621	C 2	室町包含層	真書	2.1	2.3
1915	聖宋通寶	北宋	1101	C 2	室町包含層	行書	3	2.5

1916	唐国通寶	南唐	959	C 2	室町包含層	篆書	2.6	2.4
1917	天禧通寶	北宋	1017	C 2	室町包含層	真書	3.6	2.5
1918	洪武通寶	明	1368	C 2	室町包含層	背一錢	2	2.1
1919	元豊通寶	北宋	1078	C 2	室町包含層	行書	2.3	2.4
1920	嘉祐通寶	北宋	1056	C 2	室町包含層	篆書	2.9	2.3
1921	咸平元寶	北宋	998	C 2	室町包含層	真書	3	2.4
1922	開元通寶	唐	845	C 2	室町包含層	背不明	2.5	2.4
1923	元祐通寶	北宋	1086	C 2	室町包含層	篆書	3.1	2.4
1924	嘉祐通寶	北宋	1056	C 2	室町包含層	真書	3.1	2.4
1925	元祐通寶	北宋	1086	C 2	室町包含層	篆書	3.9	2.4
1926	熙寧元寶	北宋	1068	C 2	室町包含層	真書	3.8	2.3
1927	皇宋通寶	北宋	1037	C 2	室町包含層	真書	3.3	2.3
1928	天聖元寶	北宋	1023	C 2	室町包含層	篆書	2.7	2.4
1929	天聖元寶	北宋	1023	C 2	室町包含層	篆書	3.1	2.4
1930	開元通寶	唐	621	C 2	室町包含層	背不明	2.3	2.3
1931	至和通寶	北宋	1054	C 2	室町包含層	篆書	[1.7]	2.2
1932	元祐通寶	北宋	1086	C 2	室町包含層	行書	2.7	2.4
1933	紹熙元寶	南宋	1190	C 2	室町包含層	背元	3.1	2.4
1934	皇宋通寶	北宋	1037	C 2	室町包含層	真書	1.5	2.4
1935	聖宋元寶	北宋	1101	C 2	室町包含層	篆書	3.3	2.3
1936	淳熙元寶	南宋	1174	C 2	室町包含層	真書 背十	2.7	2.3
1937	皇宋通寶	北宋	1039	C 2	室町包含層	真書	2.5	2.4
1938	祥符元寶	北宋	1009	C 2	室町包含層	真書	2.2	2.4
1939	開元通寶	唐	621	C 2	SK259	真書	2.3	2.5
1940	開元通寶	唐	621	C 2	室町包含層	背上月	2.1	2.4
1941	元豊通寶	北宋	1078	C 2	廢土	篆書	2.8	2.4
1942	熙寧元寶	北宋	1068	C 3	第3面南面精査	真書	2.4	2.4
1943	明道元寶	北宋	1023	C 3	第1面平面精査	真書	2.5	2.4
1944	皇宋通寶	北宋	1038	C 3	第1面平面精査	真書	2.4	2.4
1945	元豊通寶	北宋	1078	C 3	SP218	篆書	1.9	2.3
1946	元祐通寶	北宋	1086	B 1	1面 室町包含層	行書	2.3	2.3
1947	皇宋通寶	北宋	1039	B 1 周辺	表採	真書	1.5	2.4
1948	元□通寶	-	-	C 2	第1面室町包含層	行書	1.3	2.3
1949	聖宋元寶	北宋	1101	B 1	SK2	篆書	2.1	2.4
1950	大觀通寶	北宋	1107	B 2	2面、SP79	真書	2.2	2.3
1951	至道元寶	北宋	995	B 2	精査中	真書	2.5	2.5
1952	□□通寶	-	-	C 1	中世包含層	欠損	0.7	-
1953	嘉祐通寶	北宋	1056	C 1	中世包含層	真書	2	2.5
1954	□□元寶	-	-	C 1	中世包含層	1954・1955・1977 錯着	7	2.3
1955	不明	-	-	C 1	中世包含層	裏面「十二」	-	2.4
1956	祥符□寶	-	-	C 1	中世包含層	欠損	1.1	-
1957	□宋元寶	北宋	-	C 1	鎌倉包含層	真書、欠損	1.3	2.4
1958	開元通寶	唐	621	C 1	鎌倉包含層	背□	2.9	2.3
1959	皇□□寶	-	-	C 1	鎌倉包含層	篆書、欠損	0.8	-
1960	皇宋通寶	北宋	1037	C 1	表採	真書	2.6	2.4
1961	祥符元寶	北宋	1009	C 1	鎌倉包含層	真書	2.6	2.4
1962	皇宋通寶	北宋	1037	C 1	鎌倉包含層	真書	3	2.4
1963	皇宋通寶	北宋	1037	C 1	鎌倉包含層	篆書	3.2	2.4
1964	寛永通寶	日本	1636	C 1	近代遺物包含層	-	3.5	2.8
1965	文久永寶	日本	1862	C 1	近代遺物包含層	-	2.6	2.7
1966	寛永通寶	日本	1636	C 1	近代遺物包含層	-	3.9	2.4
1967	□□通寶	-	-	C 2	SP259	-	1.9	2.4
1968	咸平元寶	北宋	998	C 2	室町～江戸包含層	真書	2.1	2.4
1969	皇宋通寶	北宋	1039	C 2	室町～江戸包含層	篆書	[2.0]	2.4
1970	□□通寶	-	-	C 2	室町包含層	-	1.9	-
1971	開元通寶	唐	621	C 2	SP291	真書	2	2.4
1972	政和通寶	北宋	1111	C 3	第1面 SK223	篆書	2.8	2.3
1973	熙寧元寶	北宋	1068	C 3	第1面 SK223	篆書	2.9	2.3
1974	聖宋元寶	北宋	1101	B 3	SK1371	篆書	3.1	2.4

1975	元豊通寶	北宋	1078	B 3	SK1371	篆書	2.9	2.3
1976	元豊通寶	北宋	1078	B 3	SK1371	行書	3	2.3
1977	不明	-	-	C 1	中世包含層	-	-	-
1978	不明	-	-	C 1	中世包含層	欠損	0.9	-
1979	不明	-	-	C 1	中世包含層	欠損	1.7	-
1980	不明	-	-	C 2	西側側溝	1980～1982 錆着	-	-
1981	不明	-	-	C 2	西側側溝	-	-	-
1982	不明	-	-	C 2	西側側溝	-	-	-
1983	開口通寶	唐	621	C 2	室町包含層	-	-	-
1984	不明	-	-	C 2	室町包含層	-	-	-
1985	不明	-	-	C 2	SP138	-	-	-
1986	□□□寶	-	-	C 2	SP522	-	-	-
1987	□祐通寶	-	-	C 2	SP762	-	-	-
1988	不明	-	-	C 2	壁面精査	-	-	-
1989	不明	-	-	C 2	表採	-	2.7	2.4
1990	不明	-	-	C 2	表採	-	2.7	2.4
1991	不明	-	-	C 2	室町～江戸包含層	-	-	-
1992	不明	-	-	C 2	室町包含層	-	-	-
1993	不明	-	-	C 2	室町包含層	-	-	-
1994	□□元寶	-	-	C 2	室町包含層	-	[2]	-
1995	大□□寶	-	-	C 2	室町包含層	-	-	-
1996	祥符元寶	北宋	1009	C 2	室町包含層	-	2.8	-
1997	祥符通寶	北宋	1009	C 2	室町包含層	-	1.5	-
1998	紹聖元寶	北宋	1094	C 2	室町包含層	篆書	-	-
1999	祥符通寶	北宋	1009	C 2	室町包含層	-	-	-
2000	□宋通寶	-	-	C 2	室町包含層	-	-	-
2001	不明	-	-	C 2	室町包含層	-	-	-
2002	不明	-	-	C 2	室町包含層	-	-	-
2003	□□寧?元□	-	-	C 2	室町包含層	-	-	-
2004	元祐通寶	北宋	1086	C 2	室町包含層	行書	-	-
2005	祥符元寶	北宋	1009	C 2	室町包含層	-	-	-
2006	□聖元寶	-	-	C 2	室町包含層	-	-	-
2007	□□□元?寶	-	-	C 2	室町包含層	-	-	-
2008	不明	-	-	C 2	室町包含層	-	-	-
2009	□符元寶	-	-	C 2	室町包含層	-	-	-
2010	熙□元寶	-	-	C 3	SD286	-	-	-
2011	□豊通寶	-	-	C 3	平面精査	-	-	-
2012	嘉祐元寶	北宋	1056	C 3	第1面平面精査	-	-	-
2013	熙寧□□	-	-	C 3	第1面平面精査	篆書	-	-
2014	治□元寶	-	-	C 3	第1面平面精査	篆書	-	-
2015	天□元寶	-	-	C 3	第1面平面精査	篆書	-	-
2016	□□元寶	-	-	C 3	第1面平面精査	-	-	-
2017	不明	-	-	C 3	第1面平面精査	-	-	-
2018	不明	-	-	C 1	中世包含層	-	-	-
2019	元豊通寶	北宋	1078	B 3	第1面南東部	篆書	-	-
2020	□永□寶	-	-	B 3	第1面南西部	-	-	-
2021	不明	-	-	B 3	第1面重機後清掃	-	-	-
2022	大觀通寶	北宋	1107	C 3	SP11	真書	-	-
2023	熙□元寶	-	-	C 2	第1面室町包含層	真書	-	-
2024	寛永通寶	江戸	-	C 2	第1面西壁精査中	-	-	-
2025	□宋通□	-	-	C 2	室町～近世包含層	篆書	-	-
2026	□□通□	-	-	C 2	側溝	篆書	-	-
2027	不明	-	-	C 2	室町～江戸包含層	-	-	-

# 圖 版



(1) A 1 地区第 1 面全景(北東から)



(2) A 1 地区第 1 面集石遺構 S X 01  
検出状況(南東から)



(3) A 1 地区第 2 面土器溜り S X 02  
検出状況(北西から)



(1) A1地区第2面全景(北東から)



(2) A1地区第2面南部遺構群全景(北東から)



(1) A 1 地区第 2 面北部遺構群全景(北西から)



(2) A 1 地区第 2 面土坑 S K 105 遺物出土状況(東から)



(1) A 1 地区第 2 面柱穴 S P 42  
半截状況 (北西から)



(2) A 1 地区第 2 面柱穴 S P 42  
遺物出土状況 (北西から)



(3) A 1 地区第 2 面柱穴 S P 252  
遺物出土状況 (北東から)



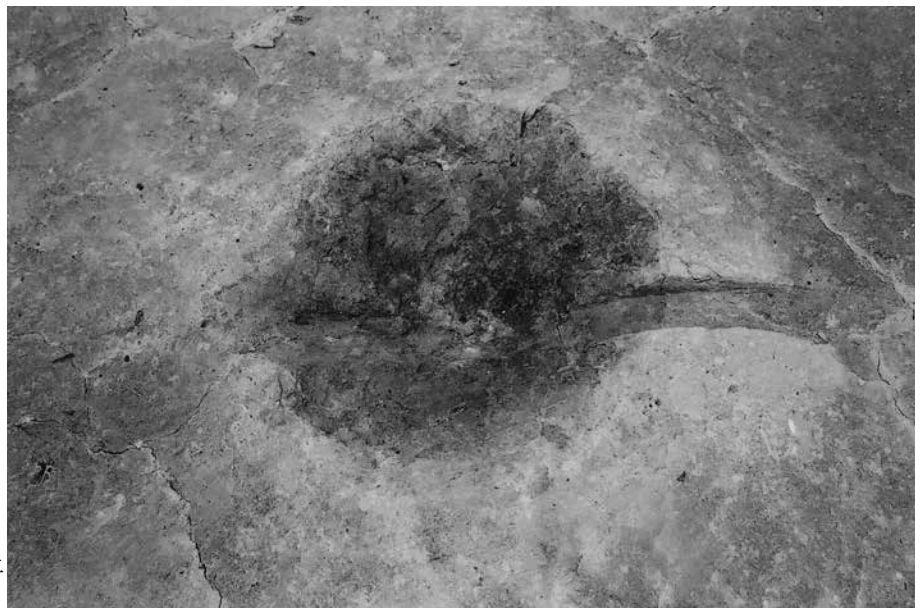
(1) A 1 地区第 2 面 S X03 検出状況  
(南東から)



(2) A 1 地区第 2 面 S X03 断ち割り  
状況 (南東から)



(3) A 1 地区第 2 面 S X03 下面焼土  
検出状況 (南東から)





(1) A 1 地区第 2 面井戸 S E 412  
遺物出土状況(南西から)



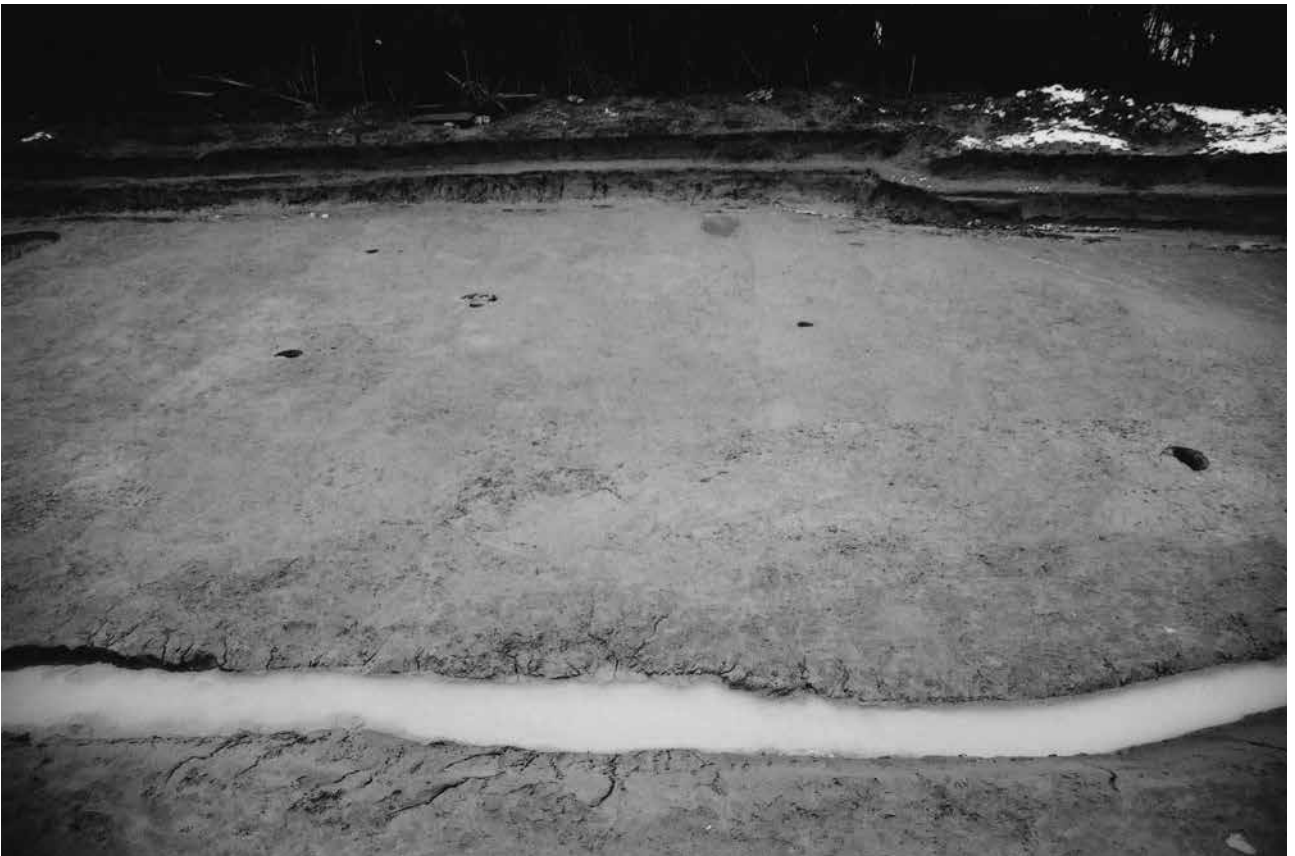
(2) A 1 地区第 2 面井戸 S E 412  
半截状況 1 (南東から)



(3) A 1 地区第 2 面井戸 S E 412  
半截状況 2 (南東から)



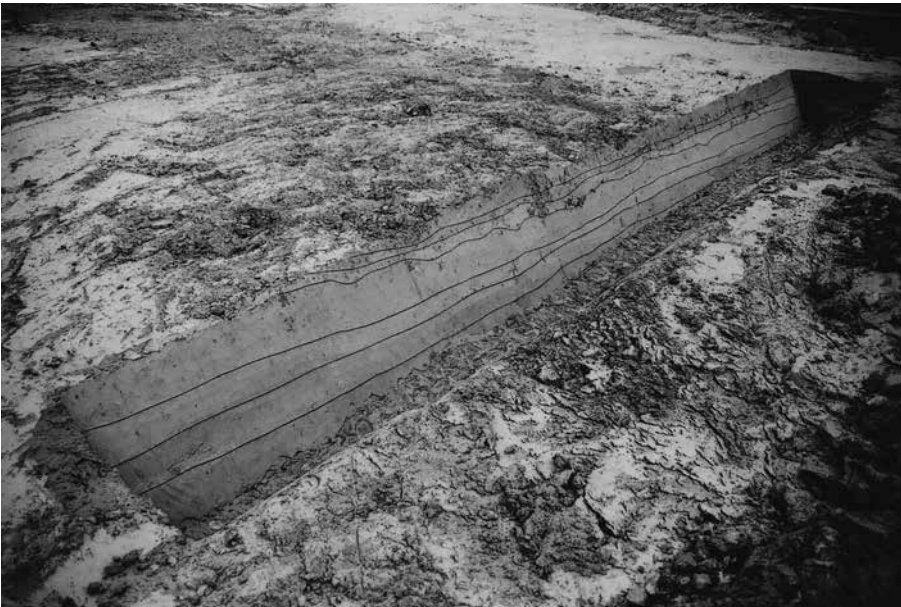
(1) A 1 地区第 3 面サブトレンチ設置状況全景(北東から)



(2) A 1 地区第 3 面南部全景(北西から)



(1) A1地区第3面第2トレンチ  
断面(北から)



(2) A1地区第3面第3トレンチ  
(西から)



(3) A1地区第3面第4トレンチ  
(西から)



(1) A 2・3 地区第1面全景 (北東から)



(2) A 3 地区第1面掘立柱建物 S B01 検出状況 (北東から)



(1) A 2 地区第 2 面全景(南西から)



(2) A 2 地区第 2 面全景(北西から)

(1) A 2 地区第 2 面掘立柱建物  
S B01 検出状況 (北東から)



(2) A 2 地区第 2 面掘立柱建物  
S B02・03 検出状況 (南西から)



(3) A 2 地区第 2 面方形土坑  
S X597 完掘状況 (北西から)





(1) A 2 地区第 2 面土坑 S K 505 · 520 検出状況 (北西から)



(2) A 2 地区第 2 面土坑 S K 505 · 520 完掘状況 (北西から)





(1) A 2 地区第 2 面土坑 S K 572・  
574・575 検出状況 (東から)



(2) A 2 地区第 2 面土坑 S K 544  
遺物出土状況 (東から)



(3) A 2 地区第 2 面掘立柱建物  
S B 03 柱穴 S P 565、炉跡  
S X 566 検出状況 (南東から)



(1) A 3 地区第 2 面全景 (南西から)



(2) A 3 地区第 2 面掘立柱建物 S B02 ~ 04 検出状況 (北西から)

(1) A 3 地区第 2 面柱穴 S P 19  
遺物出土状況(北から)



(2) A 3 地区第 2 面掘立柱建物  
S B 02 柱穴 S P 148 遺物出土状  
況(東から)



(3) A 3 地区第 2 面掘立柱建物  
S B 02 柱穴 S P 238 遺物出土  
状況(北西から)





(1) A 3 地区第 2 面柱穴 S P 149  
遺物出土状況(南から)



(2) A 3 地区第 2 面柱穴 S P 144  
遺物出土状況(北から)



(3) A 3 地区第 2 面柱穴 S P 232  
遺物出土状況(西から)

(1) A 3 地区第 2 面柱穴 S P 202  
遺物出土状況(北東から)



(2) A 3 地区第 2 面柱穴 S P 120  
検出状況(西から)



(3) A 3 地区第 2 面柱穴 S P 114  
検出状況(西から)





(1) A 2・3 地区第 3 面全景(南西から)



(2) A 3 地区第 3 面遺物集中か所 S X 677 遺物出土状況(北西から)

(1) A 3 地区第 3 面遺物集中か所  
S X 677 北部遺物出土状況  
(西から)



(2) A 3 地区第 3 面遺物集中か所  
S X 677 中央遺物出土状況  
(南西から)



(3) A 3 地区第 3 面遺物集中か所  
S X 677 南部遺物出土状況  
(南西から)





(1) A 3 地区第 3 面提瓶出土状況  
(北西から)



(2) A 3 地区第 3 面第 1 トレンチ  
全景(北西から)



(3) A 3 地区第 3 面第 2 トレンチ  
全景(北西から)





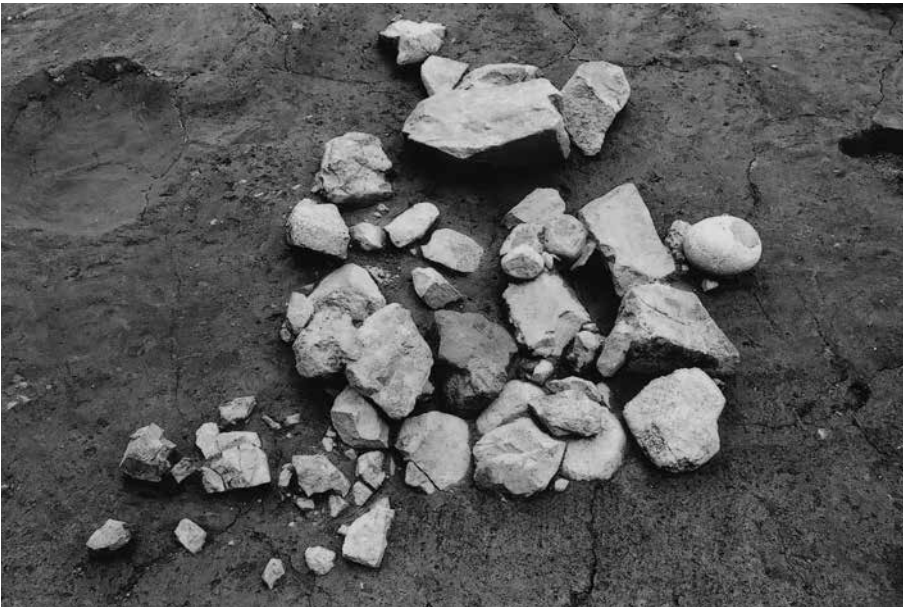
(1) B 1 地区第 1 面全景(南西から)



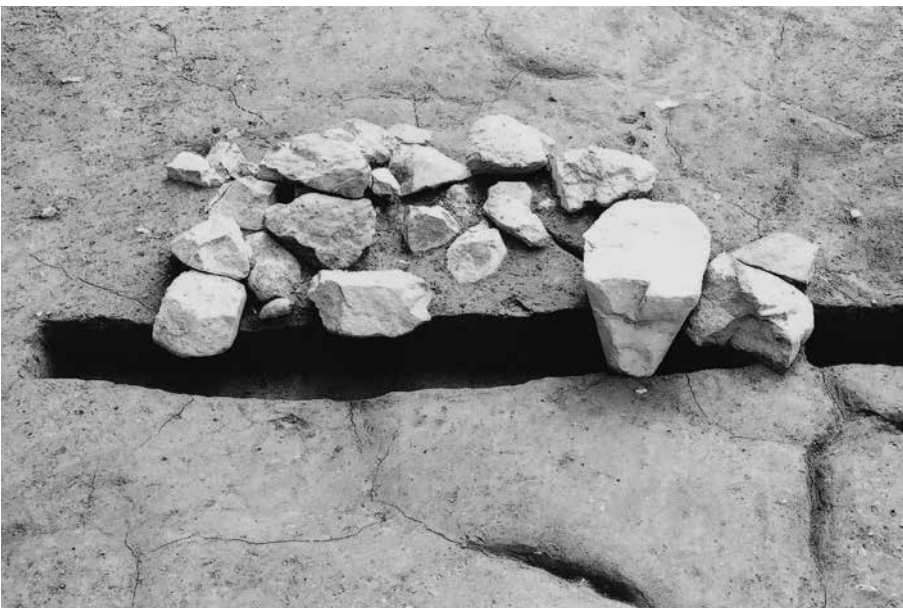
(2) B 1 地区第 1 面北部遺構群(北から)



(1) B 1 地区第 1 面中央部土坑  
S K03・04・06(北東から)



(2) B 1 地区第 1 面集石遺構  
S X59検出状況(南東から)



(3) B 1 地区第 1 面集石遺構  
S X59断ち割り状況(北東から)



(1) B 1 地区第 2 面全景 (南西から)



(2) B 1 地区第 2 面掘立柱建物 S B01、柵列 S A01 検出状況 (西から)



(1) B 1 地区第 2 面南半遺構群(南東から)



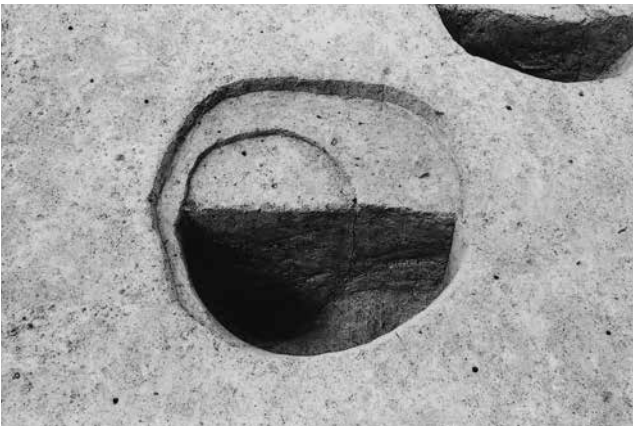
(2) B 1 地区第 2 面南半遺構群(南西から)



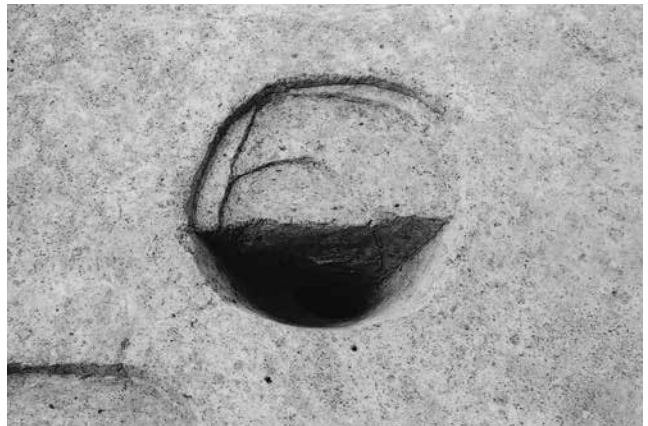
(1) B 1 地区第 2 面柱穴 S P 129 半截状況 (南東から)



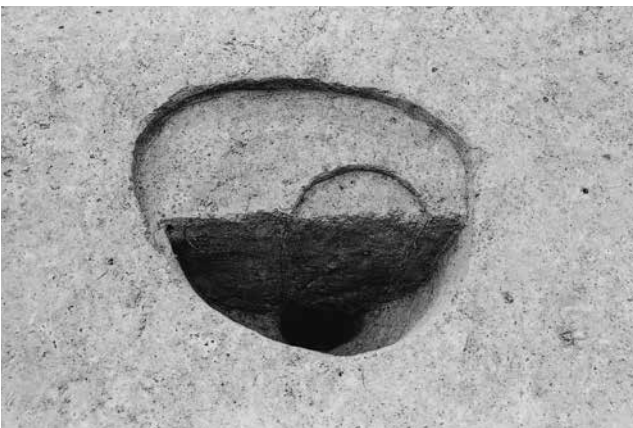
(2) B 1 地区第 2 面柱穴 S P 141 半截状況 (北西から)



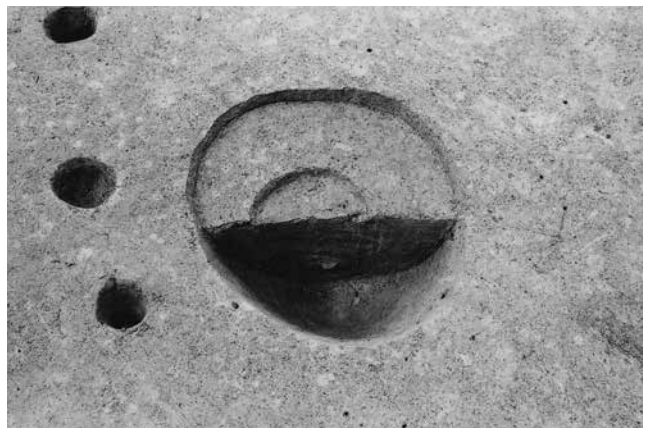
(3) B 1 地区第 2 面柱穴 S P 150 半截状況 (東から)



(4) B 1 地区第 2 面柱穴 S P 134 半截状況 (南東から)



(5) B 1 地区第 2 面柱穴 S P 130 半截状況 (南東から)



(6) B 1 地区第 2 面柱穴 S P 135 半截状況 (南東から)



(7) B 1 地区第 2 面柱穴 S P 151 半截状況 (南東から)



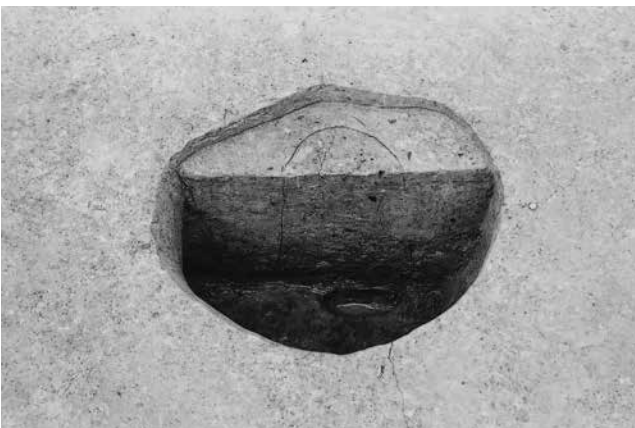
(8) B 1 地区第 2 面柱穴 S P 139 半截状況 (南東から)



(1) B 1 地区第 2 面柱穴 S P 142 半截状況 (東から)



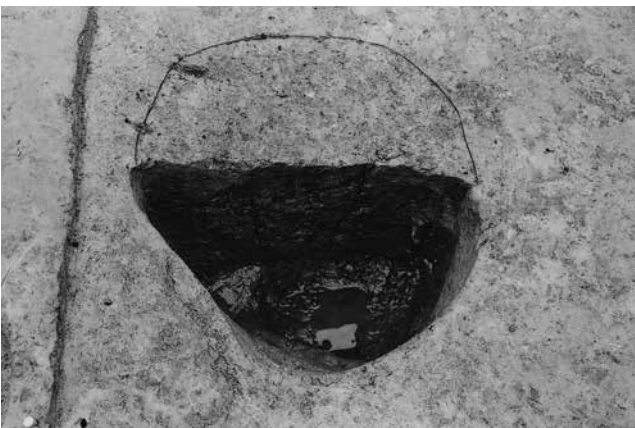
(2) B 1 地区第 2 面柱穴 S P 136 半截状況 (南東から)



(3) B 1 地区第 2 面柱穴 S P 103 半截状況 (南東から)



(4) B 1 地区第 2 面柱穴 S P 61 半截状況 (南東から)



(5) B 1 地区第 2 面柱穴 S P 225 半截状況 (東から)



(6) B 1 地区第 2 面柱穴 S P 170 半截状況 (南東から)



(7) B 1 地区第 2 面柱穴 S P 169 半截状況 (南西から)



(8) B 1 地区第 2 面柱穴 S P 169 遺物出土状況 (南西から)



(1) B 2 地区第 3 面全景 (北東から)



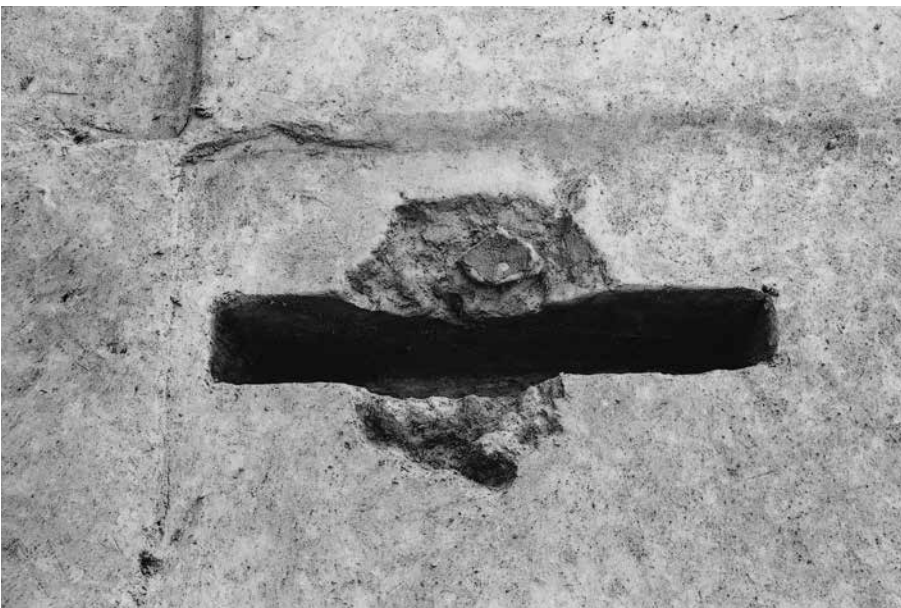
(2) B 1 地区第 3 面南半部全景 (南西から)



(1) B 1 地区第 3 面竪穴建物  
S H300完掘状況(南東から)



(2) B 1 地区第 3 面竪穴建物  
S H300内竈完掘状況  
(南東から)



(3) B 1 地区第 3 面竪穴建物  
S H300内炉 S X394(南から)





(1) B 1 地区第 3 面竪穴建物  
S H302完掘状況(南東から)



(2) B 1 地区第 3 面溝 S D304・305  
遺物出土状況(南東から)



(3) B 1 地区第 3 面溝 S D304・305  
断面(東から)



(1) B 1 地区第 3 面溝 S D304・305  
遺物出土状況(北東から)



(2) B 1 地区サブトレンチ土層断面  
(南から)



(3) B 1 地区東壁土層断面  
(南西から)



(1) B 2 地区第 1 面南半部全景(北東から)



(2) B 2 地区第 1 面柵列 S A04完掘状況(北西から)



(1) B 2 地区第 2 面北半部全景(北東から)



(2) B 2 地区第 2 面南部掘立柱建物 S B01 検出状況(北から)



(1) B 2 地区第 2 面井戸 S E 231  
遺物出土状況(北東から)



(2) B 2 地区第 2 面井戸 S E 231  
下駄出土状況(北東から)



(3) B 2 地区第 2 面井戸 S E 231  
井戸枠内部(南西から)



(1) B 2 地区第 2 面井戸 S E 230  
半截状況(南西から)



(2) B 2 地区第 2 面井戸 S E 230  
井戸枠検出状況(南西から)



(3) B 2 地区第 2 面井戸 S E 230  
横棧・隅柱接合状況(北西から)



(1) B 2 地区第 2 面井戸 S E 280  
検出状況(南東から)



(2) B 2 地区第 2 面井戸 S E 280  
井戸枠内部(南東から)



(3) B 2 地区第 2 面井戸 S E 352内  
敷石検出状況(南東から)



(1) B 1・2 地区第 3 面全景 (北東から)



(2) B 1・2 地区第 3 面全景 (南西から)





(1) B 2 地区第 3 面土坑 S K 938  
遺物出土状況 1 (北西から)



(2) B 2 地区第 3 面土坑 S K 938  
遺物出土状況 2 (南東から)



(3) B 2 地区第 3 面土坑 S K 938  
勾玉出土状況 (北東から)



(1) B 2 地区第 3 面竪穴建物  
S H841完掘状況(北東から)



(2) B 2 地区第 3 面竪穴建物  
S H891完掘状況(北西から)



(3) B 2 地区第 3 面竪穴建物  
S H891内中央土坑 S X836  
完掘状況(北西から)



(1) B 2 地区第 3 面竪穴建物 S H  
840・841完掘状況(北西から)



(2) B 2 地区第 3 面竪穴建物  
S H842完掘状況(北西から)



(3) B 2 地区第 3 面竪穴建物  
S H889、方形周溝墓 1  
検出状況(南西から)



(1) B 2 地区第 3 面竪穴建物 S H  
889 遺物出土状況(南西から)



(2) B 2 地区第 3 面竪穴建物 S H  
1027 完掘状況(南東から)



(3) B 2 地区第 3 面竪穴建物 S H  
1211 完掘状況(南東から)



(1) B 2 地区第 3 面竪穴建物 S H  
844 完掘状況 (北西から)



(2) B 2 地区第 3 面竪穴建物 S H  
840 完掘状況 (南東から)



(3) B 2 地区第 3 面竪穴建物 S H  
840 内支柱穴 S P 792 半截状況  
(南西から)



(1) B 2 地区第 3 面竪穴建物  
S H898完掘状況(北西から)



(2) B 2 地区第 3 面竪穴建物  
S H999完掘状況(北西から)



(3) B 2 地区第 3 面竪穴建物  
S H787・793完掘状況  
(北西から)

(1) B 2 地区第 3 面方形周溝墓 1  
周溝 S D1033、溝 S D1030 検  
出状況(南西から)



(2) B 2 地区第 3 面方形周溝墓 1  
全景(南西から)

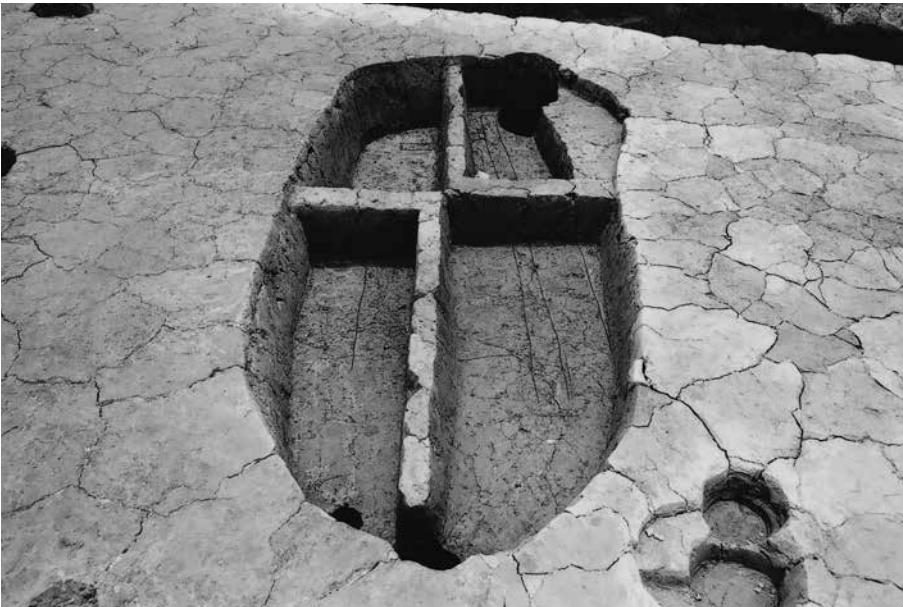


(3) B 2 地区第 3 面溝 S D1033  
土層断面(西から)





(1) B 2 地区第 3 面方形周溝墓 1  
全景(南東から)



(2) B 2 地区第 3 面方形周溝墓 1、  
土壙 S X1123 検出状況  
(北西から)



(3) B 2 地区第 3 面土壙 S X1123  
完掘状況(南東から)





(1) B 2 地区第 3 面柱穴 S P 1079  
遺物出土状況(南から)



(2) B 2 地区第 3 面土坑 S K 504  
遺物出土状況(北西から)



(3) B 2 地区第 3 面土坑 S K 504  
遺物出土状況近景(東から)



(1) B 3 地区第 1 面全景 (南西から)



(2) B 3 地区第 1 面掘立柱建物 S B1641 検出状況 (南西から)



(1) B 3 地区第 2 面全景(南西から)



(2) B 3 地区第 2 面土坑 S K 1701  
完掘状況(南東から)



(3) B 3 地区第 2 面掘立柱建物  
S B 1786検出状況(北西から)



(1) B 3 地区第 3 面全景 (北東から)



(2) B 3 地区第 4 面全景 (北東から)



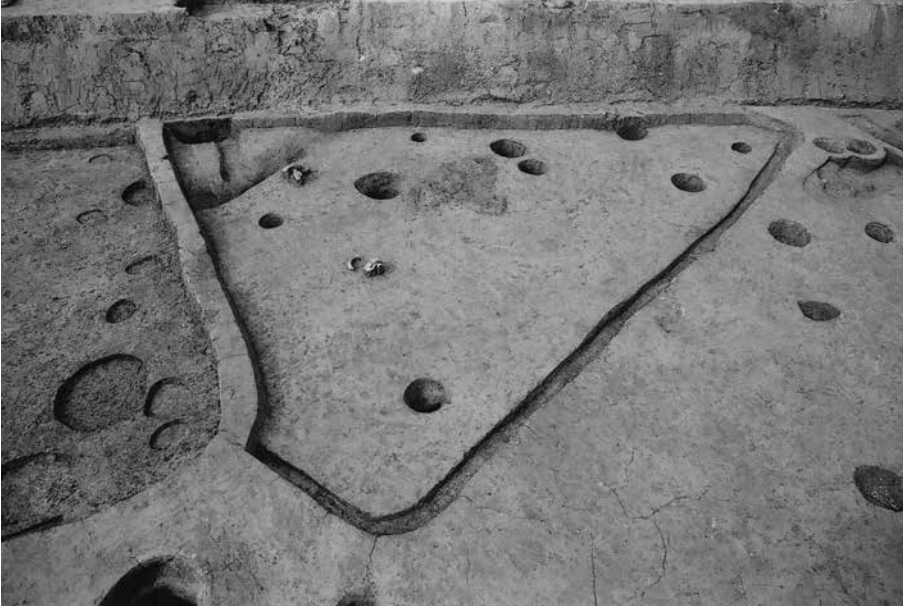
(1) B 3 地区第 4 面竪穴建物  
S H1901完掘状況(南東から)



(2) B 3 地区第 4 面竪穴建物 S H  
1901遺物出土状況(南から)



(3) B 3 地区第 4 面竪穴建物  
S H1901内土坑 S K2052  
遺物出土状況(南東から)



(1) B 3 地区第 4 面竪穴建物 S H  
1910完掘状況(南東から)



(2) B 3 地区第 4 面竪穴建物 S H  
1910・1901完掘状況(南東から)



(3) B 3 地区第 4 面竪穴建物 S H  
2005完掘状況(南東から)



(1) B 3 地区第 4 面竪穴建物 S H  
1980 完掘状況 (南西から)



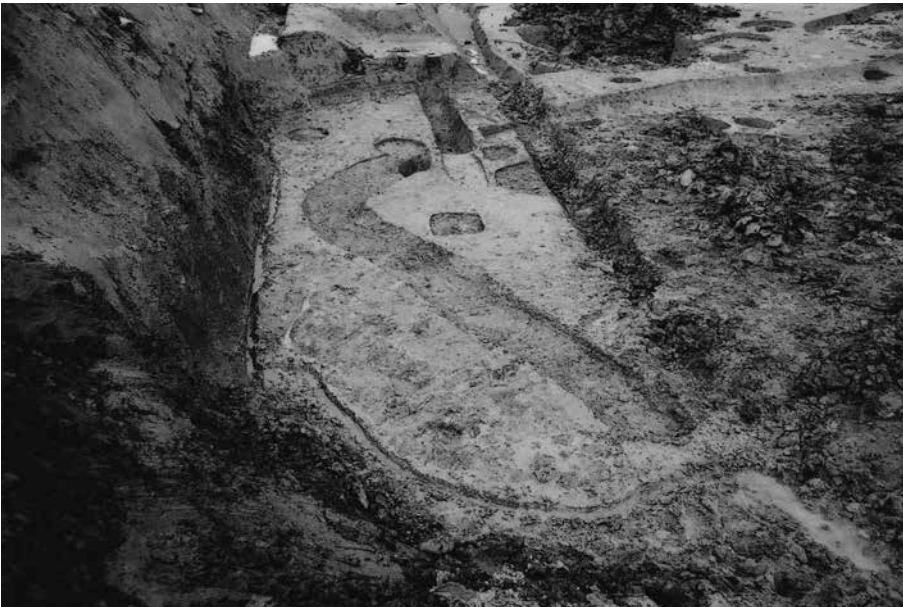
(2) B 3 地区第 4 面竪穴建物 S H  
1929 完掘状況 (南東から)



(3) B 3 地区第 4 面土壙 S X 1902  
検出状況 (南東から)



(1) B 3 地区第 4 面方形周溝墓 2  
全景(南西から)



(2) B 3 地区第 4 面方形周溝墓 2  
周溝 S D2000 検出状況  
(南西から)



(3) B 3 地区第 4 面方形周溝墓 2  
土壙 S X1902 完掘状況  
(南東から)





(1) C 1 地区第 2-1面全景(南西から)



(2) C 1 地区第 2-1面全景(北東から)



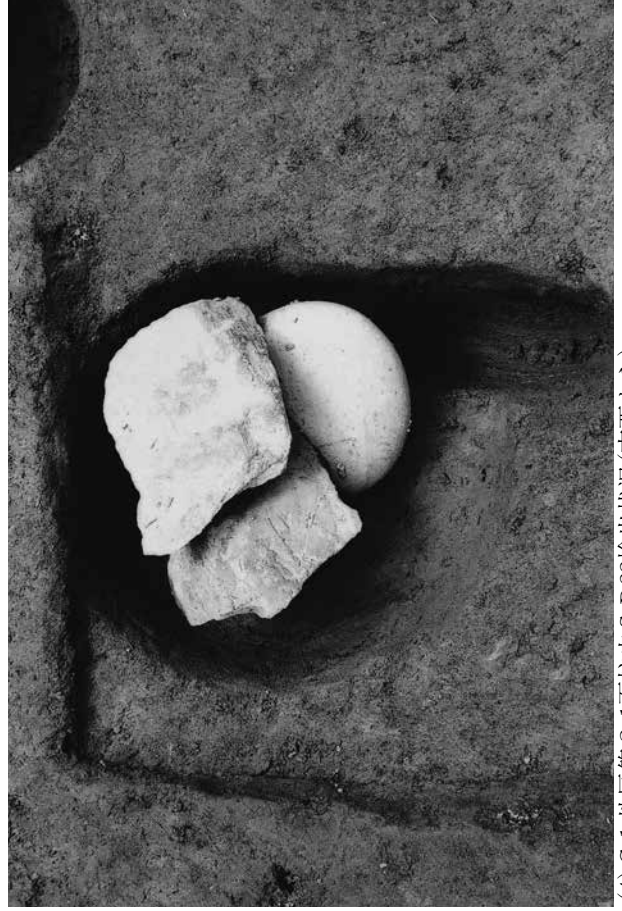
(1) C 1 地区第 2-2面全景(南西から)



(2) C 1 地区第 3 面全景(北東から)



(3) C 1 地区第 2-1 面柱穴 S P 20 検出状況 (南西から)



(4) C 1 地区第 2-1 面柱穴 S P 22 検出状況 (南西から)



(1) C 1 地区第 2-1 面焼土 S X 60 検出状況 (北東から)



(2) C 1 地区第 2-1 面銭貨出土状況 (南から)



(1) C 1 地区第 2-1 面柵列検出状況  
(北西から)



(2) C 1 地区第 3 面柱穴 S P 115  
柱出土状況(南から)



(3) C 1 地区第 3 面土坑 S P 138  
遺物出土状況(北東から)



(1) C 1 地区第 3 面土坑 S K 102  
遺物出土状況(南西から)



(2) C 1 地区第 3 面柱穴 S P 131  
半截状況(南西から)



(3) C 1 地区北壁土層断面  
(南西から)



(1) C 2 地区第 1 面全景 (北東から)



(2) C 2 地区第 1 面南部遺構群 (北西から)



(1) C 2 地区南部遺構群(北東から)



(2) C 2 地区第 1 面土坑 S K 581  
遺物出土状況(西から)



(3) C 2 地区第 1 面土坑 S K 392  
遺物出土状況(北東から)



(1) C 2 地区第 2 面全景 (北東から)



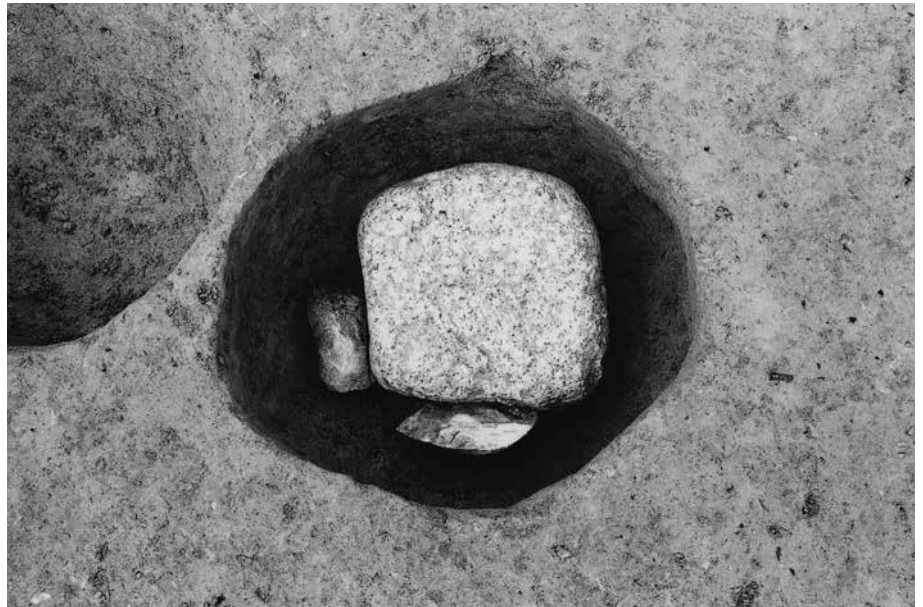
(2) C 2 地区第 2 面南部全景 (南西から)



(1) C 2 地区第 2 面柱穴 S P 642  
検出状況(西から)

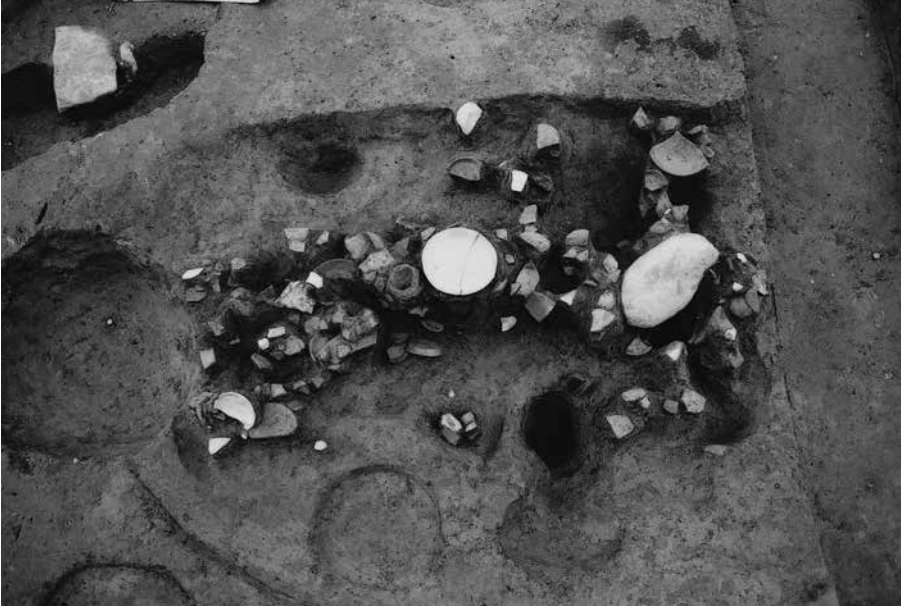


(2) C 2 地区第 2 面柱穴 S P 588  
検出状況(西から)



(3) C 2 地区第 2 面土坑 S K 701  
遺物出土状況(南東から)





(1) C 2 地区第 2 面土坑 S K 701  
遺物出土状況(南東から)



(2) C 2 地区第 2 面炉跡 S X 1199  
検出状況(南東から)



(3) C 2 地区第 2 面炉跡 S X 1199  
補検出状況(南東から)



(1) C 2 地区第 3 面全景(南西から)



(2) C 2 地区第 3 面柵列 S A01 ~ 03 検出状況(南から)



(1) C 2 地区第 4 面全景 (南西から)



(2) C 2 地区第 4 面竪穴建物 S H1401 検出状況 (北西から)

(1) C 2 地区第 4 面竪穴建物  
S H1401遺物・炭化材出土状況  
(南西から)



(2) C 2 地区第 4 面竪穴建物  
S H1401遺物・炭化材出土状況  
(西から)



(3) C 2 地区第 4 面竪穴建物  
S H1401完掘状況(東から)





(1) C 2 地区第 4 面竪穴建物  
S H1460検出状況(南から)



(2) C 2 地区第 4 面竪穴建物  
S H1460土層断面(南から)



(3) C 2 地区第 4 面竪穴建物  
S H1400完掘状況(南東から)



(1) C 3 地区第 1 面全景 (北東から)



(2) C 3 地区第 1 面中央部遺構群 (東から)



(1) C 3 地区第 2 面全景 (北東から)



(2) C 3 地区第 2 面全景 (南西から)



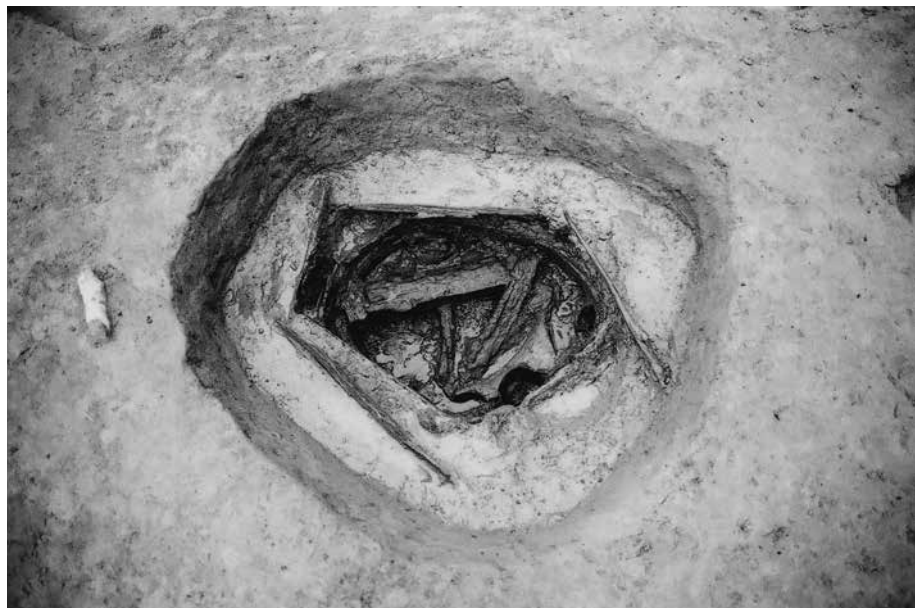
(1) C 3 地区第 2 面井戸 S E 401  
検出状況(西から)



(2) C 3 地区第 2 面井戸 S E 402  
検出状況(南から)



(3) C 3 地区第 2 面井戸 S E 402  
下部井戸枠検出状況(南から)





(1) C 3 地区第 3 面全景(北東から)



(2) C 3 地区第 3 面掘立柱建物 S B873 検出状況(北西から)



(1) C 3 地区第 4 面全景 (南西から)



(2) C 3 地区第 4 面掘立柱建物 S B1020・1021、柵列 S A1022 検出状況 (東から)



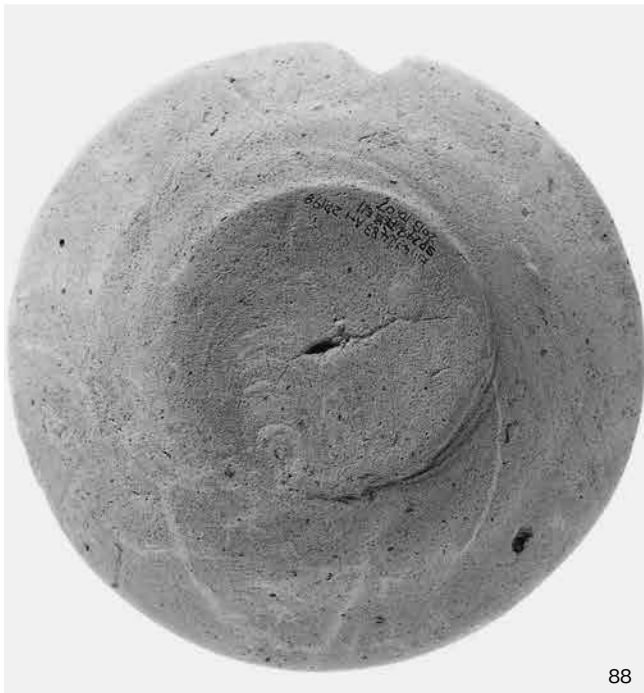
(1) C 3 地区第 4 面竪穴建物 S H  
920・930 検出状況 (東から)



(2) C 3 地区第 4 面土坑 S K 905  
検出状況 (南東から)

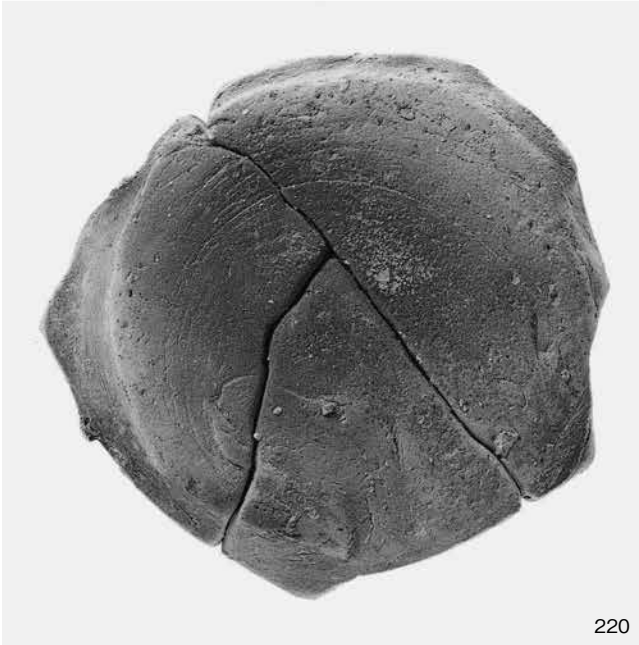


(3) C 3 地区第 4 面土坑 S K 942  
遺物出土状況 (南東から)



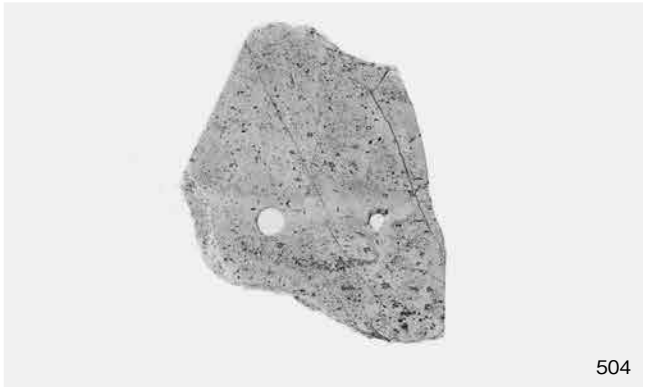
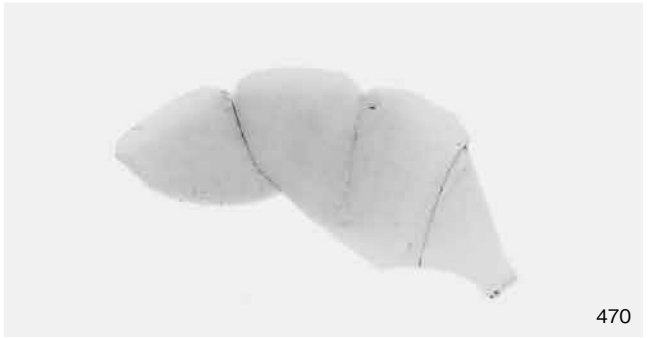
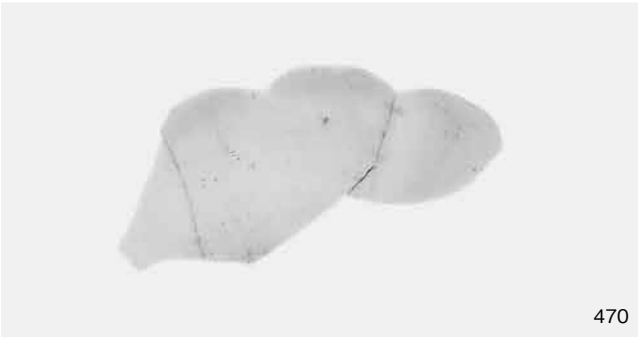
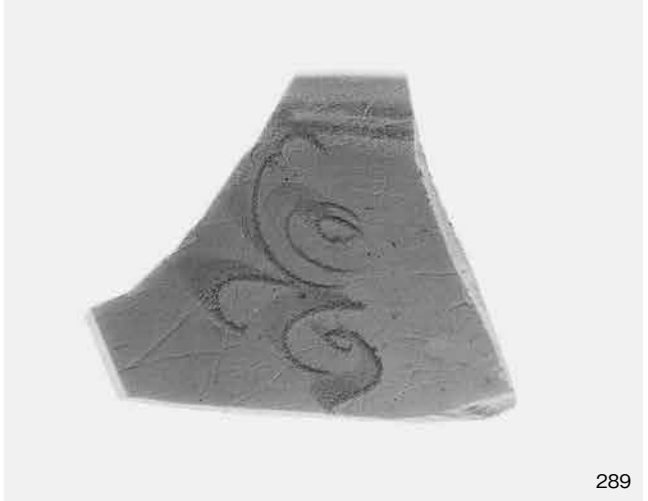
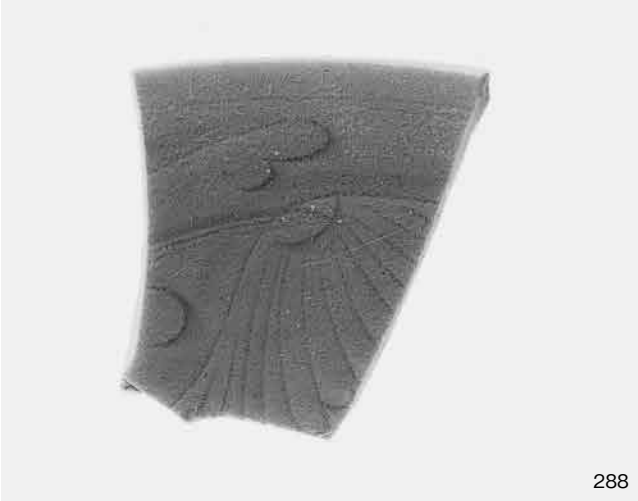






出土遺物 4













出土遺物 9



760



760



760



760

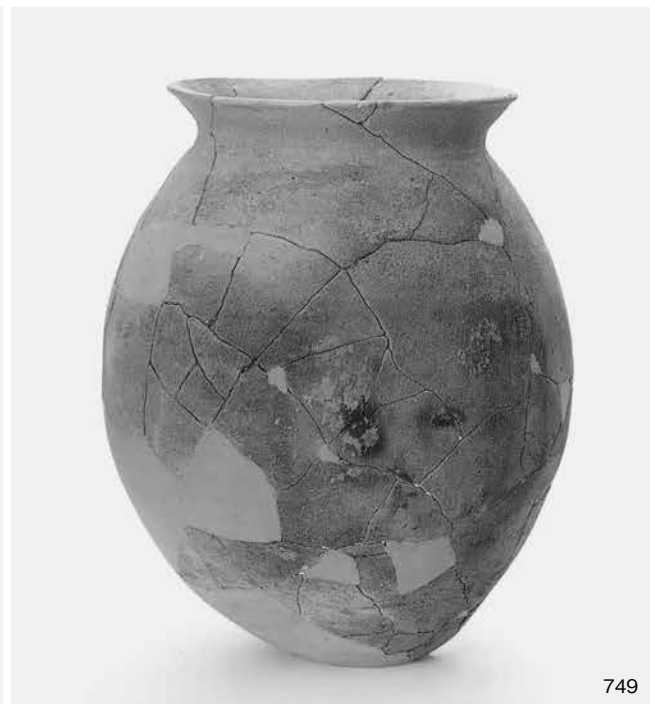
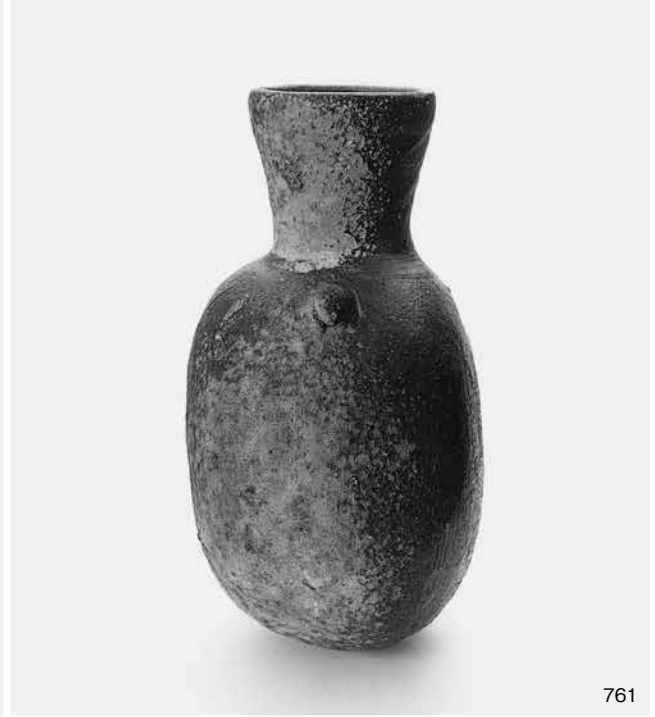


760



760

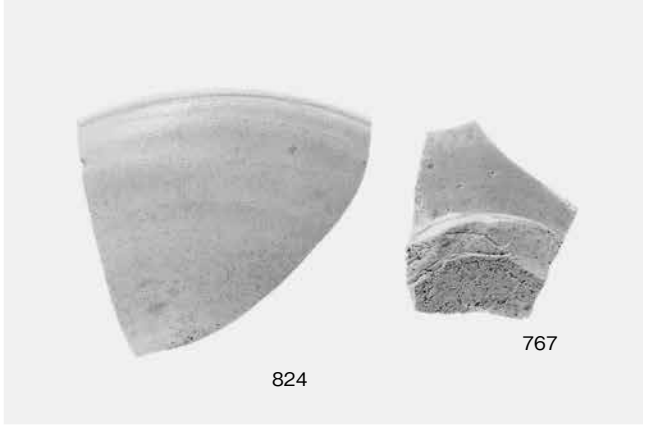
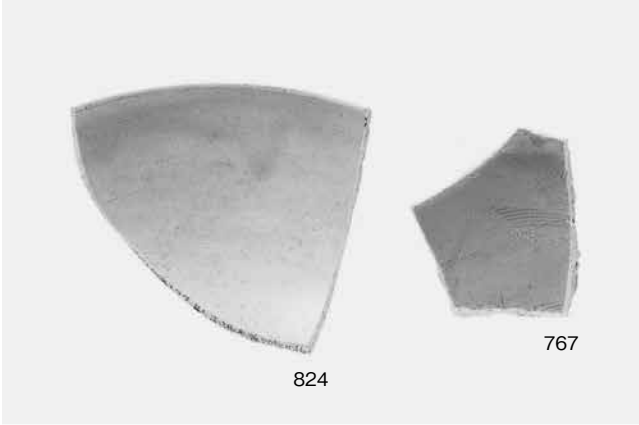
出土遺物10

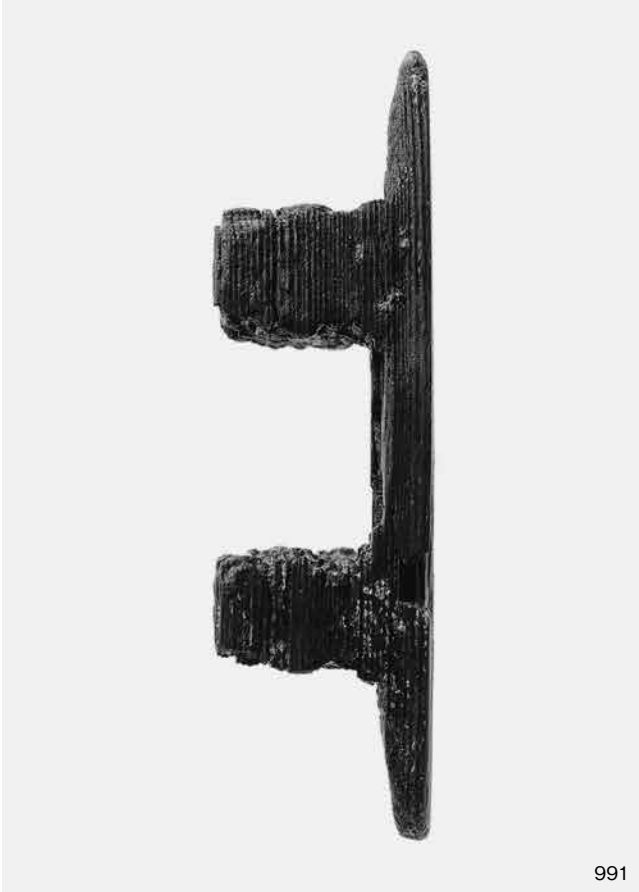


出土遺物11



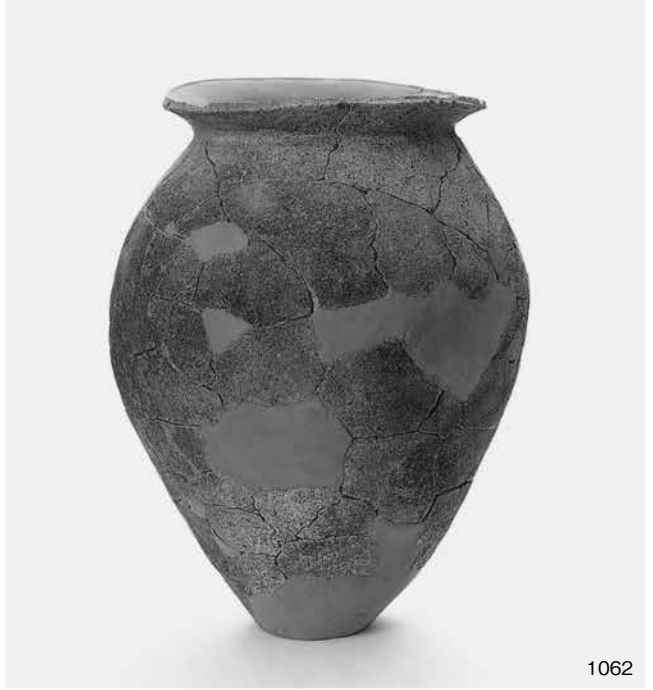








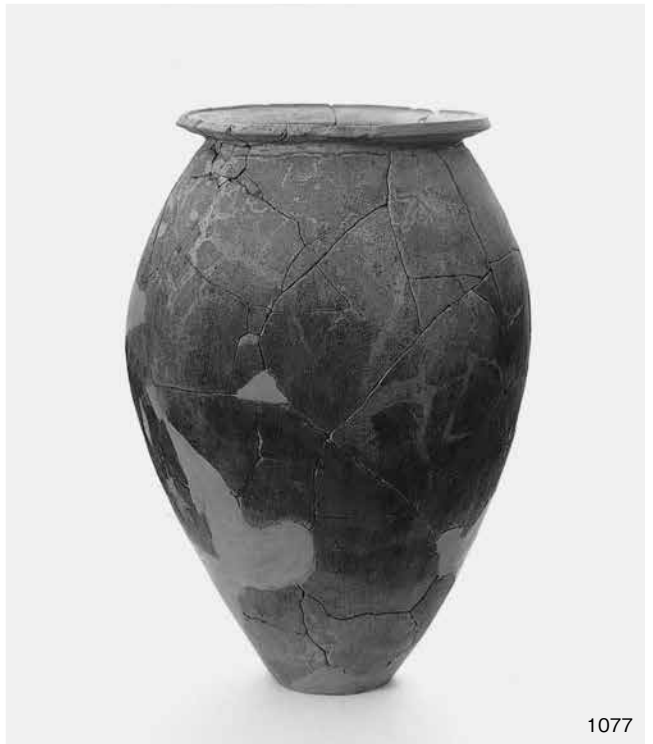
1059



1062

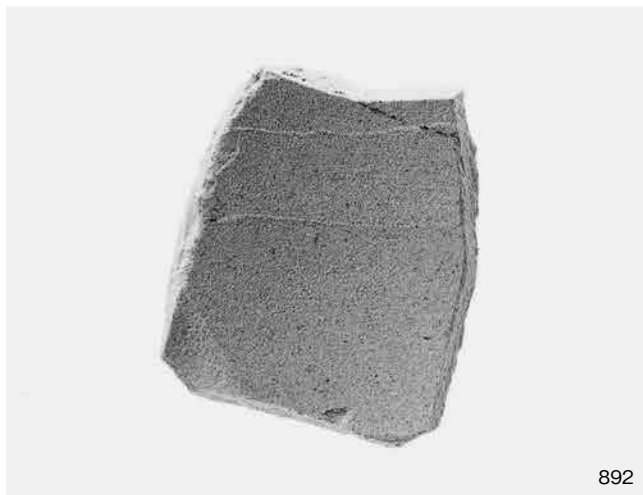


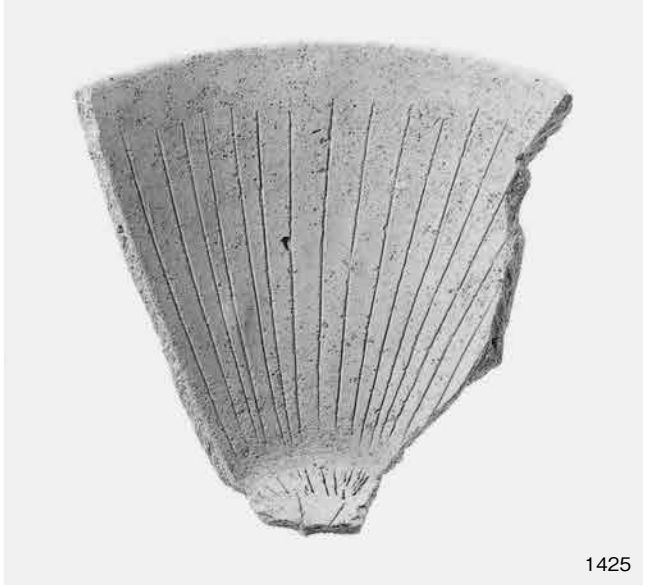
1066

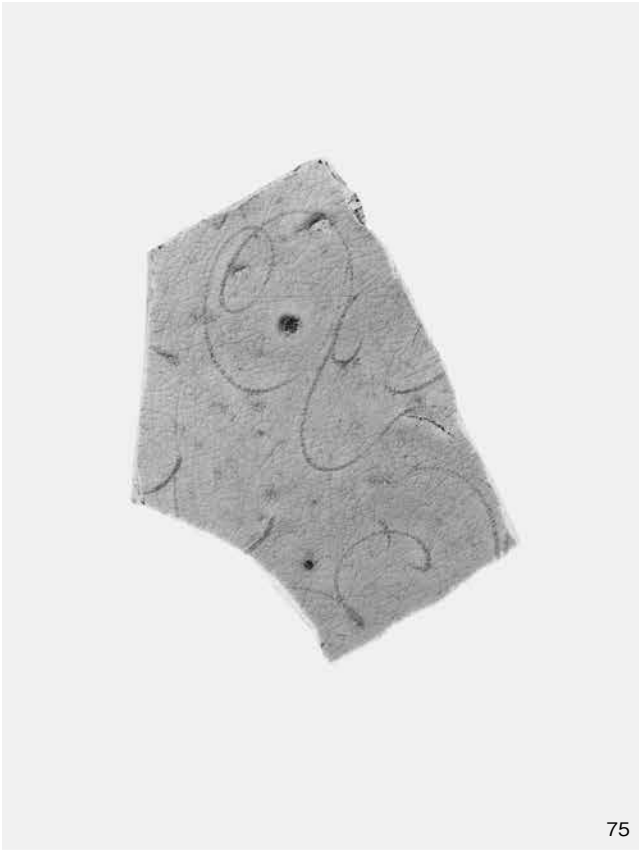


1077

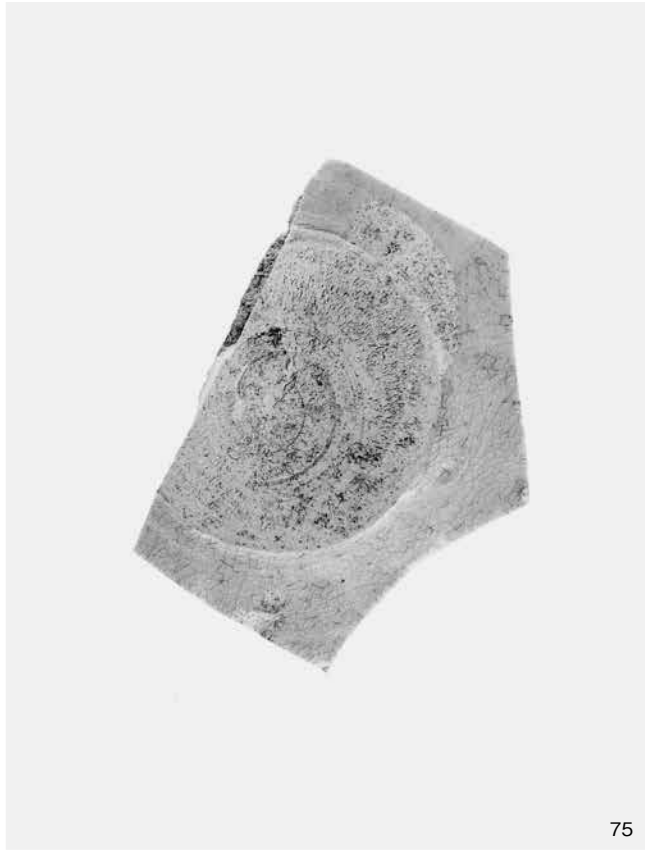
出土遺物15



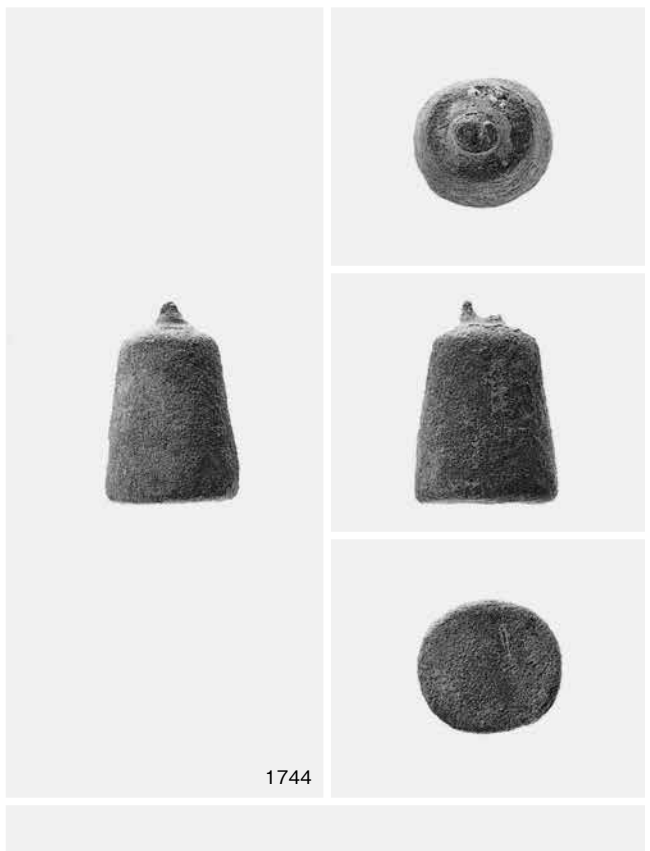
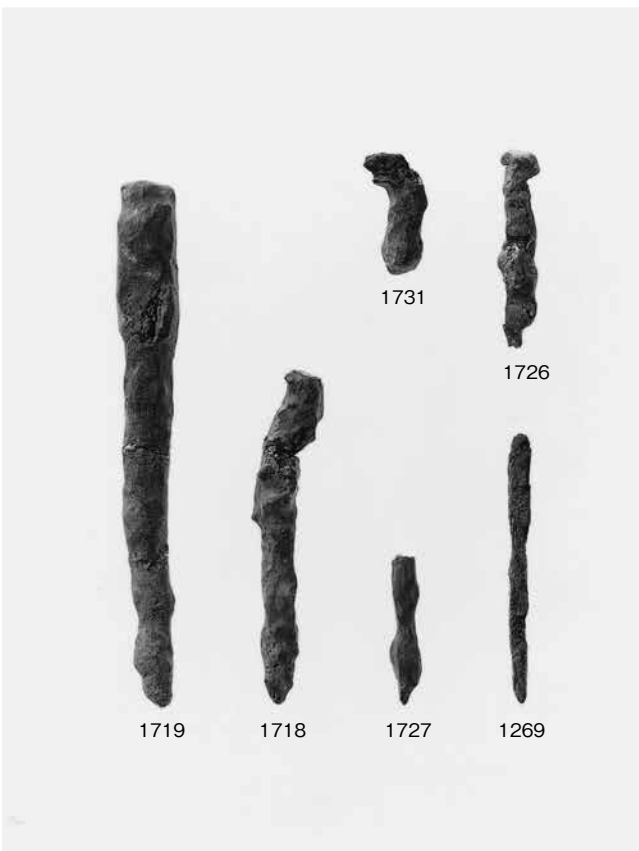




75



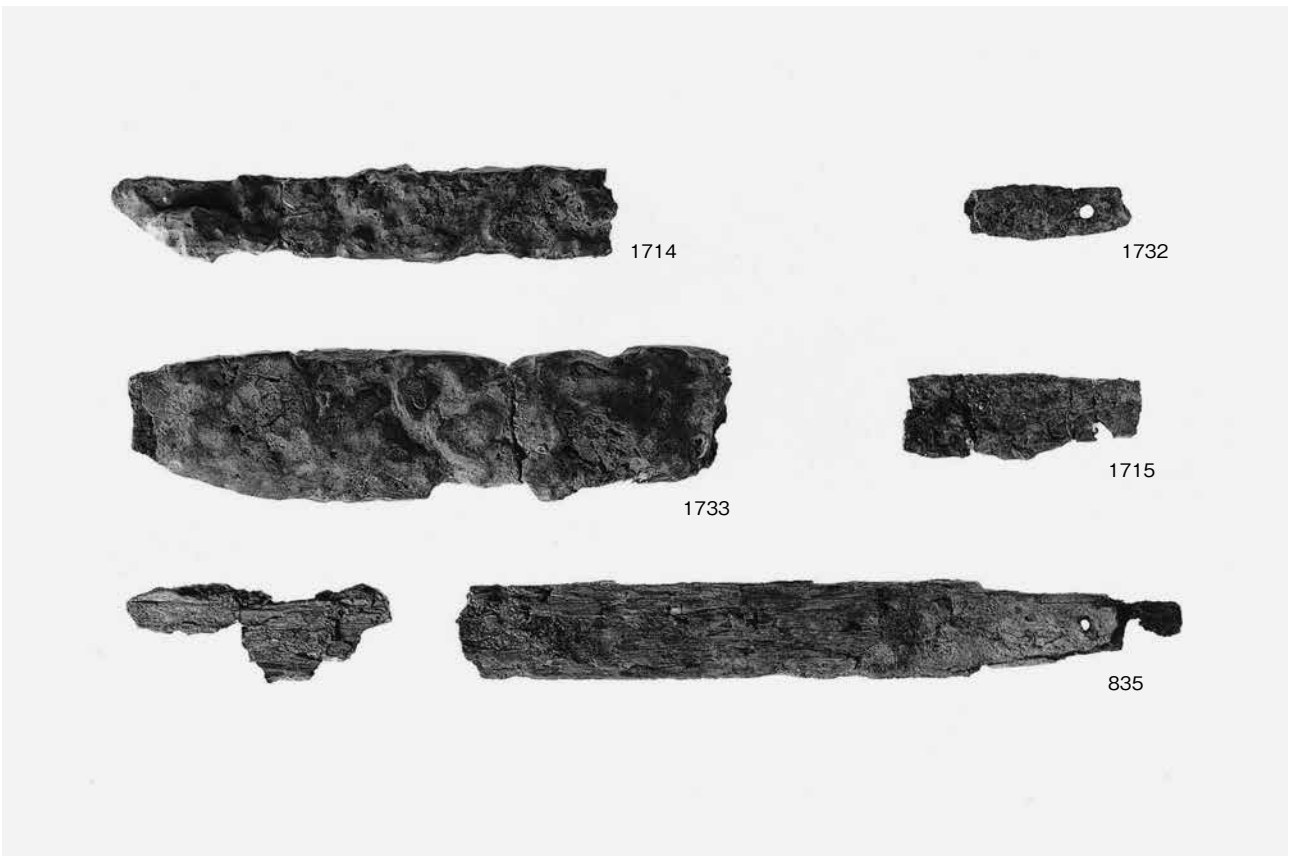
75



出土遺物18



(1) 出土遺物19



(2) 出土遺物20



1804



1806

1807



1805



1805

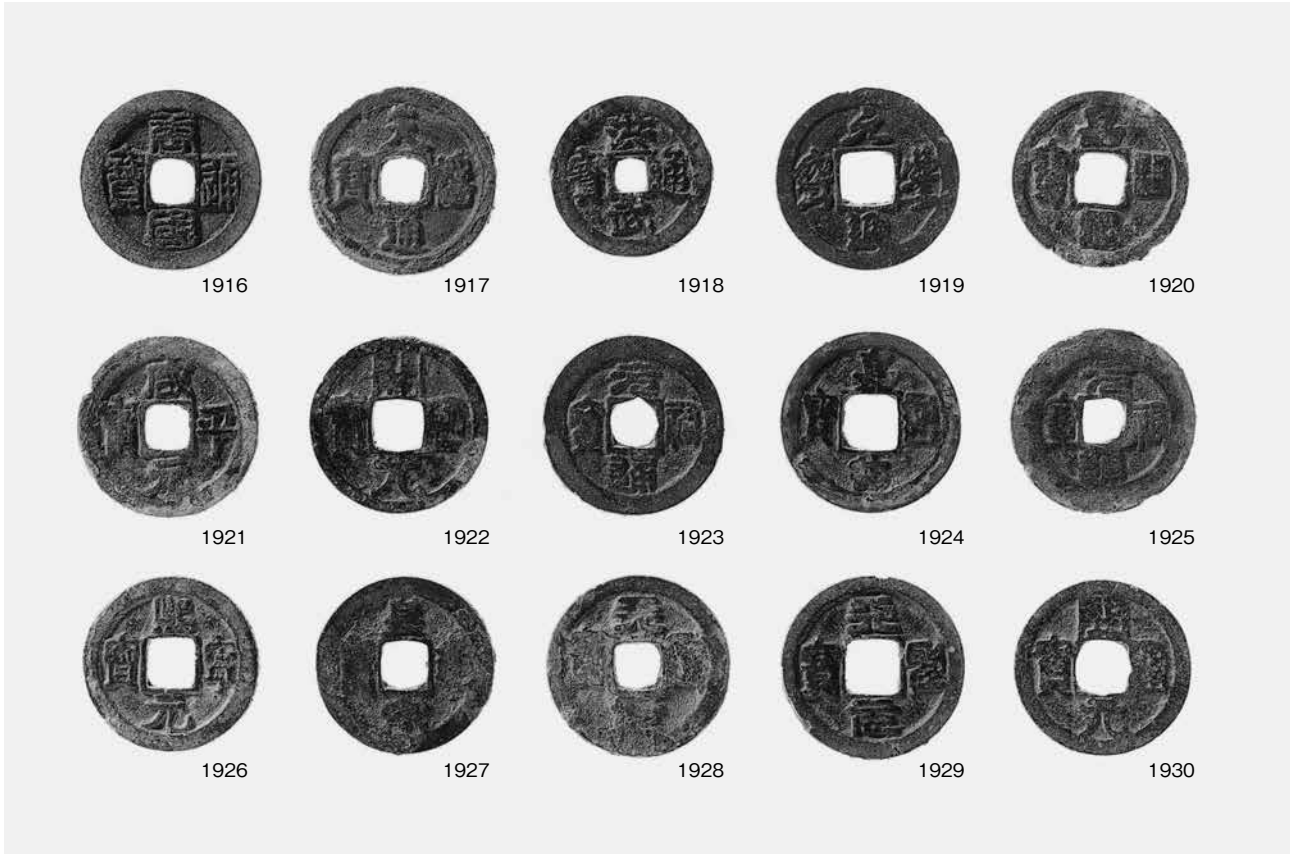
出土遺物21



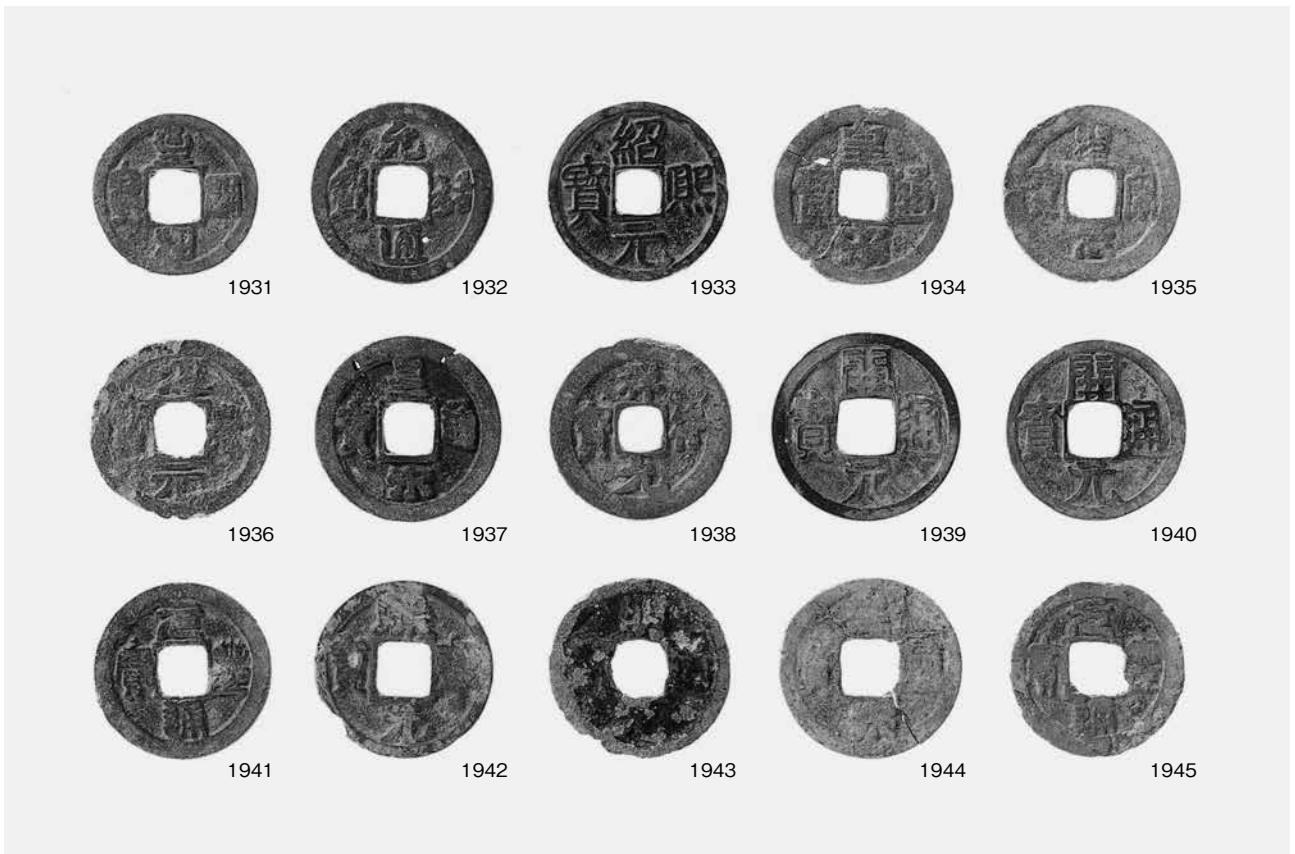








(1) 出土遺物27



(2) 出土遺物28

報告書抄録

ふりがな	きょうとふいせきちようさほうこくしゅう		
書名	京都府遺跡調査報告集		
副書名			
巻次	第164冊		
シリーズ名	京都府遺跡調査報告集		
シリーズ番号	第164冊		
編著者名	伊野近富・竹原一彦・綾部侑真・竹村亮仁・岩松保		
編集機関	(公財) 京都府埋蔵文化財調査研究センター		
所在地	〒617-0002 京都府向日市寺戸町南垣内40-3 Tel.075(933)3877		
発行年月日	西暦2016年3月31日		

ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	° ' "	° ' "		m <sup>2</sup>	
おおかわいせきだいさんからごじちようさ 大川遺跡第3～5次調査	きょうとふまいづるしおおかわ・はとち・はった 京都府舞鶴市大川・八戸地・八田	26202	103	35° 26' 56"	135° 15' 50"	20121030 ～ 20150202	10,460	堤防建設

備考：北緯・東経の値は世界測地系に基づく。

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
大川遺跡第3～5次調査	集落跡 集落跡	弥生 古墳	竪穴建物・方形周溝墓 竪穴建物・土坑	弥生土器 土師器・須恵器・勾玉・白玉	
	集落跡 集落跡	奈良 平安～鎌倉	掘立柱建物・土坑 掘立柱建物・井戸・鍛冶炉	土師器・須恵器 土師器・須恵器・中国製陶磁器	
	集落跡	室町	掘立柱建物	土師器・須恵器・中国製陶磁器	

所収遺跡名	要約
大川遺跡第3～5次調査	今回の調査では、弥生時代～奈良時代、平安時代後期～鎌倉時代前期、室町時代の遺構・遺物を検出した。弥生時代中期は、方形周溝墓が2基検出しただけで、竪穴建物は検出されなかった。弥生時代後期は、円形の竪穴建物を検出した。古墳時代前期～後期は、平面方形を主とする竪穴建物を検出した。また、白玉が多数出土しており、集落内での祭祀に用いられたものと推測される。集落のはずれでは、土師器甕、須恵器特殊扁壺や須恵器提瓶が出土した。飛鳥時代～奈良時代では、掘立柱建物5棟、柵列を検出したが、計画的な配置や企画性は認められない。平安時代後期～鎌倉時代前期では、調査地の全域で、掘立柱建物、井戸を検出した。集落が大きく拡大した時期である。特に集落のはずれでは、鍛冶炉が検出された。室町時代、石壇状の集石遺構・柵列を検出した。掘立柱建物を数棟検出したものの、まともではなく集落域から外れるとみられる。

京都府遺跡調査報告集 第 164 冊

平成28年 3月31日

発行 (公財)京都府埋蔵文化財調査研究  
センター

〒617-0002 向日市寺戸町南垣内40番の3  
Tel (075)933-3877(代) Fax (075)922-1189  
<http://www.kyotofu-maibun.or.jp>

印刷 三星商事印刷株式会社

〒604-0093 京都市中京区新町通竹屋町下ル  
Tel (075)256-0961 Fax (075)231-7141